

uCosminexus Portal Framework システム管理者ガイド

解説・手引・文法・操作書

3020-3-H71-50

対象製品

P-2443-7394 uCosminexus Portal Framework 09-00 (適用 OS : Windows Server 2008 x86 , Windows Server 2008 x64 , Windows Server 2008 R2 , Windows Server 2012 , Windows Vista , Windows XP , Windows 7 , Windows 8)

P-2943-7394 uCosminexus Portal Framework 09-00 (適用 OS : Windows Server 2008 x64 , Windows Server 2008 R2 , Windows Server 2012)

輸出時の注意

本製品を輸出される場合には、外国為替及び外国貿易法の規制並びに米国輸出管理規則など外国の輸出関連法規をご確認の上、必要な手続きをお取りください。

なお、不明な場合は、弊社担当営業にお問い合わせください。

商標類

au は、KDDI 株式会社の登録商標です。

eTrust および SiteMinder は、CA, Inc. の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

EZweb は、KDDI 株式会社の登録商標です。

Firefox は Mozilla Foundation の登録商標です。

Internet Explorer は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

i モードは、株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモの商標です。

Lotus Domino は、IBM Corporation の登録商標です。

Lotus Notes は、IBM Corporation の登録商標です。

Macromedia および Dreamweaver は、Macromedia, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Microsoft は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Microsoft および Excel は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Microsoft および SQL Server は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Netscape は、AOL Inc. の登録商標です。

Oracle と Java は、Oracle Corporation 及びその子会社、関連会社の米国及びその他の国における登録商標です。

UNIX は、The Open Group の米国ならびに他の国における登録商標です。

Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Windows Server は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Windows Vista は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。その他記載の会社名、製品名は、それぞれの会社の商標もしくは登録商標です。

This product includes software developed by the Apache Software Foundation (<http://www.apache.org/>).

This product includes software developed by the Java Apache Project <<http://java.apache.org/>>.

マイクロソフト製品の表記について

このマニュアルでは、マイクロソフト製品の名称を次のように表記しています。

製品名称	略称
Microsoft(R) Windows(R) 7 Enterprise	Windows 7
Microsoft(R) Windows(R) 7 Professional	
Microsoft(R) Windows(R) 7 Ultimate	
Microsoft(R) Windows(R) 8 (Core Edition)	Windows 8
Microsoft(R) Windows(R) 8 Pro	
Microsoft(R) Windows(R) 8 Enterprise	
Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Enterprise 32-bit 日本語版	Windows Server 2008 x86
Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Standard 32-bit 日本語版	
Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Enterprise 日本語版	Windows Server 2008 x64
Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Standard 日本語版	
Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Enterprise 日本語版	Windows Server 2008 R2
Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Standard 日本語版	
Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 Standard	Windows Server 2012
Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 Datacenter	
Microsoft(R) Windows Vista(R) Business	Windows Vista
Microsoft(R) Windows Vista(R) Enterprise	
Microsoft(R) Windows Vista(R) Ultimate	
Microsoft(R) Windows(R) XP Professional Operating System	Windows XP
Microsoft(R) SQL Server(TM) 2005	SQL Server

このマニュアルでは、Windows Server 2008 を前提として操作方法を説明しています。使用している環境が異なる場合は、操作方法を読み替えてください。なお、特に断りのない場合は、Windows 7、Windows 8、Windows Server 2008 x86、Windows Server 2008 x64、Windows Server 2008 R2、Windows Server 2012、Windows Vista および Windows XP を総称して Windows と表記しています。

発行

2013年6月 3020-3-H71-50

著作権

All Rights Reserved. Copyright (C) 2009, 2013, Hitachi, Ltd.

All Rights Reserved. Copyright (C) 2009, 2013, Hitachi INS Software, Ltd.

変更内容

変更内容 (3020-3-H71-50) uCosminexus Portal Framework 09-00

追加・変更内容	変更箇所
Portal Manager のセットアップを変更しました。	2.3
Portal Manager の起動と終了を変更しました。	2.4
リポジトリ項目のグループ情報に上位グループを表すキーを追加しました。	3.2 , 4.6
リポジトリに Active Directory を使用する場合の設定を変更しました。	3.5.2
uCosminexus Portal Framework のセットアップを J2EE サーバだけとしました。	4.2 , 4.10 , 7.2 , 7.3 , 7.7 , 8.
ユーザ管理情報の接続設定 (ディレクトリサーバ) にディレクトリサーバ種別の項目を追加しました。	4.4
PortalSetup.properties のプロパティを追加しました。	10.1
Repository.xml にディレクトリサーバ種別の属性および上位グループを表すキーを追加しました。	10.1
クライアントサイドデータ通信で使用するプロパティを追加しました。	10.1

単なる誤字・脱字などはお断りなく訂正しました。

はじめに

このマニュアルは、次のプログラムプロダクトの機能概要、およびポータル構築方法について説明したものです。

- uCosminexus Portal Framework

uCosminexus Portal Framework は、企業ポータルを構築および運用するソフトウェアです。

対象読者

このマニュアルは、uCosminexus Portal Framework を利用して企業ポータルを構築される方を対象としています。また、次の知識を持っていることを前提としています。

- Cosminexus 上でサーブレットや JSP を運用できる知識
- ディレクトリサーバまたは DB を運用・管理できる知識
- HTML および XML の知識

マニュアルの構成

このマニュアルは、次に示す編、章と付録から構成されています。

第 1 編 概要編

第 1 章 ポータルの概要

uCosminexus Portal Framework の処理概要、特長、構成、ポータルとポートレットの概要など、uCosminexus Portal Framework をご使用になる前に知っておいていただきたいことについて説明しています。

第 2 編 構築編

第 2 章 uCosminexus Portal Framework のインストール

uCosminexus Portal Framework のインストール方法、環境変数の設定、Portal Manager のセットアップ方法、および起動・終了方法について説明しています。

第 3 章 リポジトリサーバの構築

リポジトリサーバの構築方法について説明しています。

第 4 章 ポータルサーバの構築

ポータルサーバの構築方法について説明しています。

第 3 編 カスタマイズ編

第 5 章 ポータル画面のカスタマイズ

画面テンプレートのカスタマイズ、およびレイアウト形式のカスタマイズについて説明していません。

はじめに

第 6 章 ポータル機能のカスタマイズ

uCosminexus Portal Framework の機能のカスタマイズ、および認証方法のカスタマイズについて説明しています。

第 7 章 ポートレットの登録

ポートレットの登録手順、およびポートレット登録時の注意事項について説明しています。

第 4 編 運用編

第 8 章 ポータルの運用

ポータルの起動方法と終了方法、およびログの設定について説明しています。

第 5 編 リファレンス編

第 9 章 カスタマイズに使用するライブラリ

ポータルをカスタマイズするときに使用するライブラリについて説明しています。

第 10 章 設定ファイルとコマンド

uCosminexus Portal Framework の設定ファイル、およびコマンドについて説明しています。

付録 A 自動デプロイされたポートレットのセキュリティ向上方法

自動デプロイされたポートレットのセキュリティ向上をさせる際に必要となる設定について説明しています。

付録 B uCosminexus Portal Framework のアンインストール

uCosminexus Portal Framework のアンインストール手順について説明しています。

付録 C バージョンアップ手順

uCosminexus Portal Framework のバージョンアップ手順について説明しています。

付録 D Collaboration - Online Community Management を使用する場合の設定

Collaboration - Online Community Management を使用する場合の設定について説明していません。

付録 E メッセージ

uCosminexus Portal Framework が出力するメッセージおよび対処について説明しています。

付録 F 監査ログメッセージ

uCosminexus Portal Framework が出力する監査ログのメッセージについて説明しています。

付録 G 各バージョンの変更内容

各バージョンでの変更内容について説明しています。

付録 H このマニュアルの参考情報

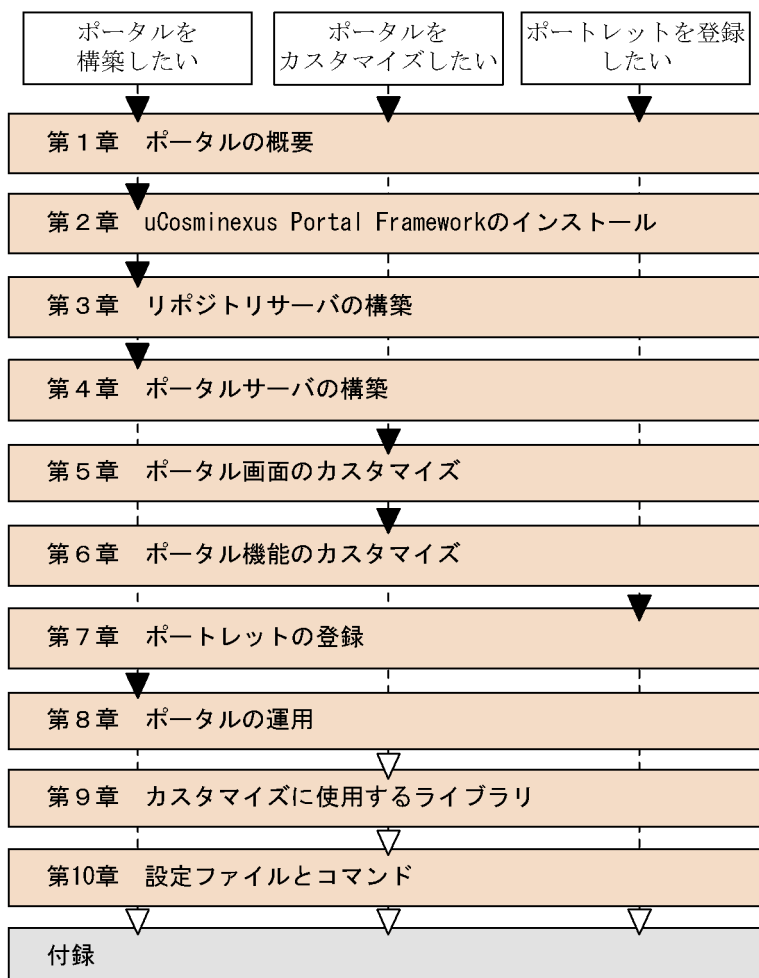
関連マニュアル、このマニュアルで使用している略語の意味などを説明しています。

付録 I 用語解説

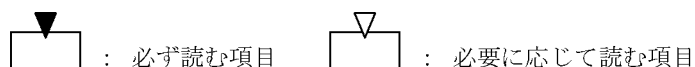
このマニュアルで使用する用語について説明しています。

読書手順

このマニュアルは、利用目的に合わせて章を選択して読むことができます。利用目的別に次の流れに従ってお読みいただくことをお勧めします。



(凡例)



操作方法の説明で使用する記号

このマニュアルでは、次に示す記号を使用して操作方法を説明しています。

記号	意味
{ }	ユーザが指定する内容を示します。

記号	意味
[]	メニュー名、ウィンドウ名、ボタン、またはキーボードのキーを示します。

構文の説明で使用する記号

このマニュアルでは、次に示す記号を使用して構文の要素を説明しています。

記号	意味
	横に並べられた複数の項目に対する項目間の区切りを示し、「または」の意味を表します。 (例) A B A または B を指定することを示します。
—	括弧で囲まれた複数項目のうち 1 項目に対して使用され、括弧内のすべてを省略した場合にシステムが取る標準値を示します。 (例) {A B} 何も指定しない場合は A が指定されます。
{ }	この記号で囲まれている複数の項目のうちから一つを選択することを意味します。項目が横に並べられ、記号 で区切られている場合は、そのうちの一つを選択します。 (例) {A B C} A, B, または C のどれかを指定することを示します。
[]	この記号で囲まれている項目は省略してもよいことを意味します。複数の項目が横に並べて記述されている場合は、すべてを省略するか、記号 {} と同じくどれか一つを選択します。 (例 1) [A] 「何も指定しない」か「A を指定する」ことを示します。 (例 2) [B C] 「何も指定しない」か「B または C を指定する」ことを示します。
...	この記号の直前の項目を繰り返し、複数個指定できることを示します。 (例) A... A を複数個指定できることを示します。

図中で使用する記号

このマニュアルの図中で使用する記号を、次のように定義します。

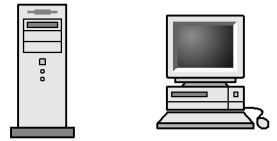
●ユーザ



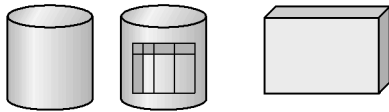
●サーバ



●P C



●ディレクトリサーバ ●プログラム
またはDB



●ファイル



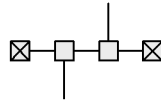
●ネットワーク



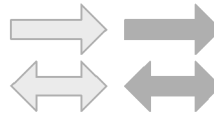
●工程、作業項目の
流れ



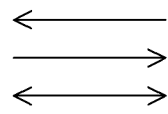
●バス形のLAN



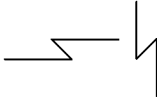
●データの流れ



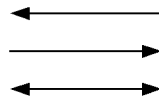
●制御の流れ



●通信回線



●その他の流れ



●画面



●携帯電話



目次

第 1 編 概要編

1	ポータル概要	1
1.1	uCosminexus Portal Framework とは	2
1.2	uCosminexus Portal Framework の特長	5
1.2.1	情報の統合	6
1.2.2	パーソナライズ	7
1.2.3	分散ポータル	8
1.2.4	運用管理機能	9
1.2.5	シングルサインオン	12
1.2.6	コンテンツへのアクセス制御	14
1.2.7	スマートナビゲーション	15
1.2.8	ポートレット間通信	15
1.2.9	クライアントサイドデータ通信	16
1.2.10	モバイルでの利用	17
1.2.11	ナビゲーションメニュー	17
1.2.12	言語およびタイムゾーンの切り替え	18
1.2.13	アクセサリポートレット	18
1.3	uCosminexus Portal Framework で使用できるポートレット	20
1.4	uCosminexus Portal Framework のユーザ種別	24
1.5	uCosminexus Portal Framework の構成	26
1.5.1	uCosminexus Portal Framework の動作環境	26
1.5.2	分散ポートレット使用時の構成	28
1.5.3	負荷分散機使用時の構成	29
1.6	uCosminexus Portal Framework の画面構成と遷移	31
1.6.1	ポータル画面の構成と遷移	31
1.6.2	ポートレットの画面構成と遷移 (標準 API ポートレット)	35
1.6.3	ポートレットの画面構成と遷移 (標準 API ポートレット以外のポートレット)	38
1.7	uCosminexus Portal Framework の構築	42
1.7.1	構築から運用までの作業の流れ	42
1.7.2	Portal Manager	44
1.7.3	運用管理ポートレット	49

第 2 編 構築編

2	uCosminexus Portal Framework のインストール	53
2.1	インストール	54
2.1.1	前提プログラムのインストール	54
2.1.2	uCosminexus Portal Framework のインストール	55
2.1.3	uCosminexus Portal Framework のディレクトリ構成	55
2.2	環境変数の設定	57
2.3	Portal Manager のセットアップ	59
2.4	Portal Manager の起動と終了	62
2.4.1	Portal Manager の起動方法	62
2.4.2	Portal Manager の終了方法	63
2.5	Windows Server 2012 , Windows Server 2008 , Windows 8 , Windows 7 または Windows Vista 使用時の注意事項	64
2.5.1	管理者特権で実行する必要がある操作	64
3	リポジトリサーバの構築	67
3.1	リポジトリサーバの構築手順	68
3.2	ユーザ管理情報の検討	70
3.2.1	アクセス制御やパーソナライズに使用する情報の検討	70
3.2.2	リポジトリ項目の検討	72
3.3	共通情報の検討	78
3.4	リポジトリの検討	80
3.5	ユーザ管理情報用リポジトリにディレクトリサーバを使用する場合の設定	82
3.5.1	ディレクトリサーバでの設定	82
3.5.2	リポジトリに Active Directory を使用する場合の設定	91
3.6	ユーザ管理情報用リポジトリに DB を使用する場合の設定	93
3.6.1	DB の容量計算	93
3.6.2	グローバルバッファ面数の計算方法	97
3.6.3	DB のセットアップ	98
3.7	共通情報用 DB の設定	101
3.7.1	共通情報の容量計算	101
3.7.2	共通情報のグローバルバッファ面数の計算方法	106
3.7.3	DB のセットアップ (HIRDB の場合)	107
3.7.4	DB のセットアップ (Oracle の場合)	115

3.7.5	DB のセットアップ (SQL Server の場合)	121
-------	-----------------------------	-----

4

	ポータルサーバの構築	129
4.1	ポータルサーバの構築手順	130
4.2	uCosminexus Portal Framework のセットアップ	132
4.2.1	ポータルプロジェクトの作成	132
4.2.2	Web サーバとの連携の設定	136
4.2.3	ポータルプロジェクトの選択	136
4.2.4	複数のポータルプロジェクトを作成する場合の注意事項	138
4.3	ログインするための設定	142
4.3.1	統合ユーザ管理フレームワークの実行環境の設定	142
4.3.2	ログイン情報の設定	147
4.4	ユーザ管理情報の接続設定 (ディレクトリサーバ)	149
4.4.1	リポジトリの設定 (ディレクトリサーバ)	149
4.4.2	リポジトリの変更 (ディレクトリサーバ)	153
4.5	ユーザ管理情報の接続設定 (DB)	158
4.5.1	ユーザ情報を設定する前に	158
4.5.2	リポジトリの設定 (DB)	160
4.5.3	リポジトリの変更 (DB)	165
4.5.4	DB からの情報の取得方法	170
4.6	ユーザ管理情報の設定 (マッピング情報)	171
4.6.1	マッピング情報の設定手順	172
4.6.2	マッピング情報の一括削除	183
4.7	共通情報の設定	185
4.7.1	共通情報を設定する前に	185
4.7.2	リポジトリの設定 (共通情報)	185
4.7.3	ポートレット配置情報ファイルの削除	194
4.8	運用管理者の登録	196
4.8.1	運用管理者の設定	196
4.8.2	運用管理者の変更	197
4.9	デプロイ (J2EE サーバ)	198
4.10	ポータルの起動	200
4.11	ログイン	202

第3編 カスタマイズ編

5	ポータル画面のカスタマイズ	203
5.1	カスタマイズできる項目	204
5.2	画面表示のカスタマイズ	205
5.2.1	ポータル画面のHTML	205
5.2.2	スタイルシートの設定	206
5.2.3	画面テンプレートの種類と設定	207
5.2.4	レイアウトテンプレート	217
5.2.5	ナビゲーションテンプレート	221
5.2.6	ポートレットテンプレート	223
5.2.7	ページテンプレート	235
5.2.8	拡張レイアウト形式使用時のタイトルコントロール設定	236
5.3	レイアウト形式のカスタマイズ	238
5.3.1	レイアウト形式の種類	238
5.3.2	最大行・列数および横幅サイズの設定	241
5.3.3	ユーザ登録形式の設定	243
5.4	画面遷移の変更	247
5.4.1	ウェルカム画面の表示設定	247
5.4.2	ログアウト後画面の表示設定	248
5.5	ナビゲーションメニューの設定	249
5.6	スマートナビゲーションの設定	250
5.6.1	データの埋め込み	250
5.6.2	スマートナビゲーションメニューおよびシナリオの定義	253
5.6.3	スマートナビゲーションを設定する前に	256
5.6.4	スマートナビゲーションの設定方法	259
5.6.5	ユーザ編集クラスの作成方法	272
6	ポータル機能のカスタマイズ	275
6.1	カスタマイズできる項目	276
6.2	デフォルトエンコーディングの設定	277
6.2.1	デフォルトエンコーディングの設定方法	278
6.3	ストリングリソースのカスタマイズ	280
6.3.1	ストリングリソースの作成	280
6.3.2	サポート言語の追加	282

6.3.3	言語の優先順位	282
6.4	クライアント種別判定の設定	284
6.4.1	クライアントの判定方法の流れ	284
6.4.2	クライアント情報定義ファイルの設定	285
6.5	カスタムログインモジュールの設定	287
6.6	uCosminexus Secure Unify - SSO 連携の設定	289
6.6.1	uCosminexus Secure Unify - SSO 連携時の処理概要	289
6.6.2	uCosminexus Secure Unify - SSO 連携時の機能差異	292
6.6.3	ポータルで取得するリクエスト属性	293
6.6.4	uCosminexus Secure Unify - SSO 連携のために提供するファイル	294
6.6.5	uCosminexus Secure Unify - SSO 連携のための設定	294
6.7	SiteMinder 連携の設定	302
6.7.1	SiteMinder 連携時の処理概要	302
6.7.2	SiteMinder 連携時の機能差異	305
6.7.3	ポータルで取得する HTTP ヘッダー情報	306
6.7.4	SiteMinder 連携のために提供するファイル	308
6.7.5	SiteMinder 連携のための設定	309
6.8	SSL アクセラレーターまたはリバースプロキシ使用時の設定	314
6.8.1	URL の変換規則	314
6.8.2	変換規則が適用される URL	314
6.8.3	プロトコルとサーバ名称を含む URL を生成する変換規則の設定	315
6.8.4	プロトコルとサーバ名称を含まない URL を生成する変換規則の設定	317
6.9	性能チューニングと障害監視	319
6.9.1	性能チューニング	319
6.9.2	障害の監視	322
6.9.3	性能チューニングと障害監視の設定方法	324
6.10	DB を使用するポートレットのための DB チューニング	326
6.11	設定ファイル格納ディレクトリの指定方法の変更	329

7

	ポートレットの登録	331
7.1	ポートレット登録の概要	332
7.2	標準 API ポートレットのデプロイ	334
7.2.1	ユーザ属性の設定方法	334
7.2.2	デプロイ方法	337
7.3	標準 API ポートレットのアンデプロイ	339
7.3.1	アンデプロイ方法	339

7.4	日立 API ポートレット (PAR 形式) のデプロイ	340
7.4.1	Portal Manager でデプロイする方法	340
7.4.2	コマンドでデプロイする方法	341
7.5	日立 API ポートレット (PAR 形式) のアンデプロイ	342
7.5.1	Portal Manager でアンデプロイする方法	342
7.5.2	コマンドでアンデプロイする方法	343
7.6	日立 API ポートレット (PAR 形式以外) および File ポートレットの設定	344
7.6.1	登録 (日立 API ポートレット・File ポートレット)	344
7.6.2	登録内容の変更 (日立 API ポートレット・File ポートレット)	348
7.6.3	[その他の項目] に設定できる内容	351
7.7	Web コンテンツポートレットの設定	353
7.7.1	HTTPS 通信時に使用する証明書の登録	353
7.7.2	HTTPS 通信時のプロキシの設定	353
7.8	Web ポートレットの設定	355
7.8.1	共通定義 (Web ポートレット)	355
7.8.2	登録 (Web ポートレット)	356
7.8.3	登録内容の変更 (Web ポートレット)	362
7.8.4	キャッシュクリアの実行	364
7.9	分散ポートレットの設定	366
7.9.1	共通定義 (分散ポートレット)	366
7.9.2	登録 (分散ポートレット)	366
7.9.3	登録内容の変更 (分散ポートレット)	370
7.10	ポートレットの削除	373
7.11	ナビゲーションメニュー対応ポートレットの登録	375

第 4 編 運用編

8

ポータル	の運用	377
8.1	ポータルの起動と終了	378
8.2	障害対策	380
8.2.1	デバッグおよび運用の流れ	380
8.2.2	ログの種類	382
8.2.3	ポートレットアクセスログの出力項目の検討	384
8.2.4	ログ出力の設定方法	385

8.2.5	ポートレットログの形式と出力内容	391
8.2.6	ポートレットアクセスログの形式と出力内容	392
8.2.7	コンテナ保守ログの形式と出力内容	395
8.2.8	監査ログの収集と調査	396
8.3	稼動状態の監視	401
8.3.1	ヘルスチェック URL	401
8.4	運用後の不要データの削除	403
8.4.1	共通情報の削除	403
8.5	ホスト名または IP アドレスの変更	408

第 5 編 リファレンス編

9	カスタマイズに使用するライブラリ	411
9.1	カスタマイズに使用するライブラリの種類	412
9.2	ユーザ管理メッセージ表示タグライブラリ	413
9.3	カスタマイズ Bean	415
9.4	ポートレットテンプレート Bean	486
9.5	ログインログアウト Bean	503
9.6	ストリングリソース取得 API	510
10	設定ファイルとコマンド	513
10.1	プロパティファイル	514
10.1.1	PortalResources.properties の詳細	514
10.1.2	PortalSetup.properties の詳細	559
10.1.3	PortalTools.properties の詳細	561
10.1.4	PortletApp.properties の詳細	563
10.1.5	dataload_tool.properties の詳細	566
10.2	設定ファイル	571
10.2.1	ポートレット定義ファイル (jetspeed-config.jcfg)	572
10.2.2	リポジトリファイル (Repository.xml)	585
10.2.3	クライアント情報定義ファイル (UserAgentType.xml)	594
10.2.4	フォーム認証定義ファイル (formbase-auth.cfg)	596
10.2.5	コントローラ定義ファイル (controllers.xml)	597

付録	609
付録 A 自動デプロイされたポートレットのセキュリティ向上方法	610
付録 B uCosminexus Portal Framework のアンインストール	612
付録 C バージョンアップ手順	613
付録 C.1 現在のディレクトリのバックアップ	615
付録 C.2 ポータルプロジェクトディレクトリの更新	615
付録 C.3 設定ファイルなどの移行	616
付録 C.4 環境設定の見直し	620
付録 C.5 DB の移行	629
付録 C.6 表示属性を使用するための設定	634
付録 C.7 ポートレットグループを使用するための設定	636
付録 C.8 Web コンテンツポートレットを使用するための設定	639
付録 C.9 アクセス権の移行	641
付録 C.10 設定ファイルのエンコーディングの変更	647
付録 C.11 ポートレットグループの移行	647
付録 C.12 設定ファイル格納ディレクトリの見直し	653
付録 C.13 管理者用レイアウトカスタマイズポートレットの削除	657
付録 C.14 製品名称の変更	658
付録 D Collaboration - Online Community Management を使用する場合の設定	659
付録 E メッセージ	660
付録 E.1 メッセージの形式	660
付録 E.2 Windows イベントログ	660
付録 E.3 メッセージテキスト	664
付録 F 監査ログメッセージ	784
付録 F.1 監査ログメッセージの記述形式	784
付録 F.2 監査ログメッセージテキスト	784
付録 G 各バージョンの変更内容	791
付録 H このマニュアルの参考情報	793
付録 H.1 関連マニュアル	793
付録 H.2 このマニュアルでの表記	795
付録 H.3 このマニュアルで使用する英略語	796
付録 H.4 KB (キロバイト) などの単位表記について	798
付録 I 用語解説	799

索引

1

ポータル概要

この章では，uCosminexus Portal Framework の処理概要や特長，構成，画面構成など，uCosminexus Portal Framework をご使用になる前に知っておいていただきたいことについて説明します。

-
- 1.1 uCosminexus Portal Framework とは
 - 1.2 uCosminexus Portal Framework の特長
 - 1.3 uCosminexus Portal Framework で使用できるポートレット
 - 1.4 uCosminexus Portal Framework のユーザ種別
 - 1.5 uCosminexus Portal Framework の構成
 - 1.6 uCosminexus Portal Framework の画面構成と遷移
 - 1.7 uCosminexus Portal Framework の構築
-

1.1 uCosminexus Portal Framework とは

uCosminexus Portal Framework は、企業ポータルを構築および運用するフレームワークです。

情報システムが複雑になり、情報量も増加してくるにつれて、ユーザが情報へアクセスする時間や手間も増加しています。そこで、必要な情報がどこにあるかをユーザが判断するのではなく、散在する情報を 1 か所に集めて、情報へ効率良くアクセスする仕組みが考え出されました。これをポータルと呼びます。

ポータルのうち、企業が保有する業務システムや社外 Web サービスなどの情報への入り口となり、個人に必要な情報を 1 か所で取得できるポータルが、企業ポータルです。

企業ポータルには、次の利点があります。

情報を 1 か所に集約できる

ユーザに必要な情報はポータル 1 か所に集まっているので、情報にアクセスする時間や手間を省けます。また、ユーザは情報によってアクセス先を変える必要がないので、情報の見落としも防げます。

必要な情報を迅速に取得できる

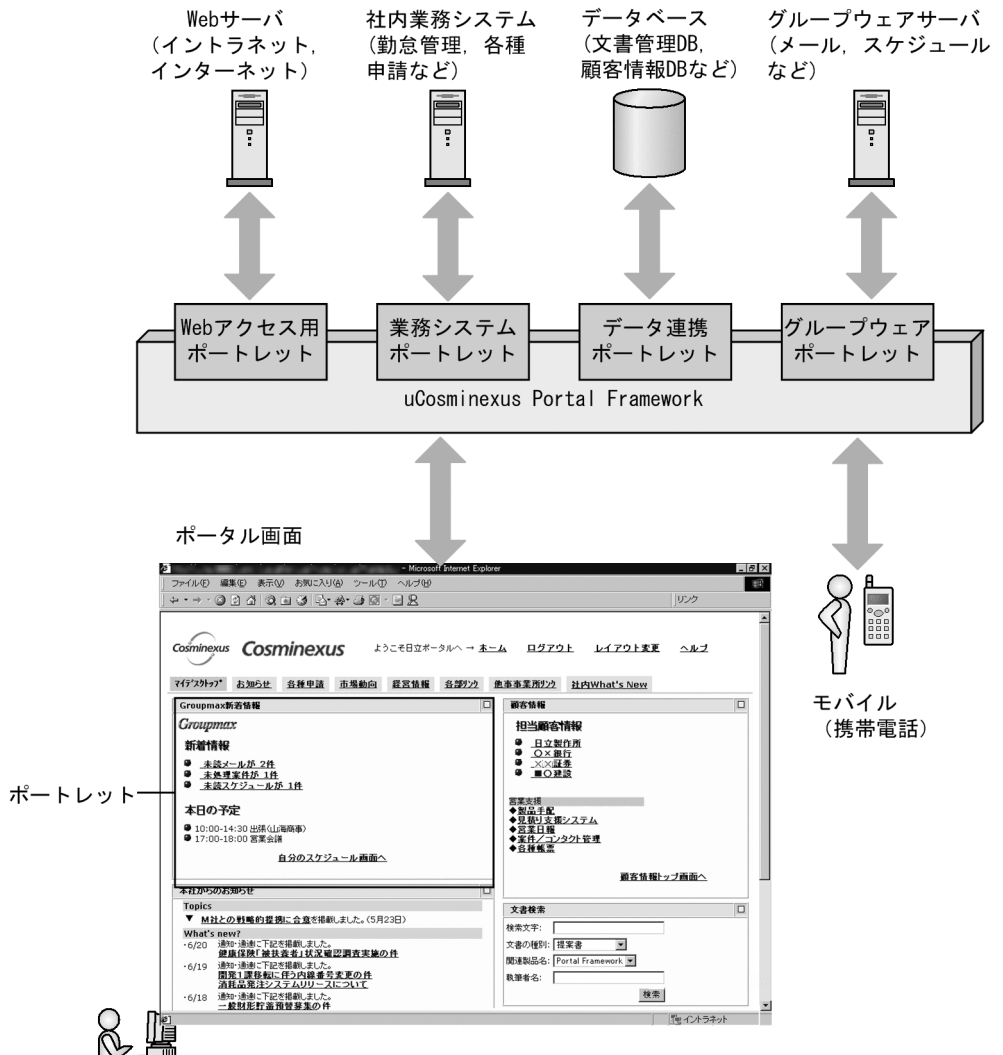
企業では、業務や役職が異なると、必要な情報も異なります。ユーザー一人一人がどこにアクセスすれば必要な情報が得られるかを判断しては、情報を取得するために時間を費やしてしまい、効率良く業務を進められません。企業ポータルでは、ユーザが的確な情報を迅速に取得できる枠組みを構築できます。

uCosminexus Portal Framework は、企業の内外にある多種多様なコンテンツ・業務システムの情報を集約する機能や、集約した情報をユーザー一人一人に対して最適な情報になるように組み合わせ提供する機能などを備えています。これらの機能によって、上記の利点を生かした効果的な企業ポータルを構築できます。

uCosminexus Portal Framework の機能詳細は、「1.2 uCosminexus Portal Framework の特長」を参照してください。

uCosminexus Portal Framework を利用して企業ポータルを実現する際の処理概要を次の図に示します。

図 1-1 uCosminexus Portal Framework の処理概要



ユーザは、インターネットにアクセスするときも、メールを読むときも、uCosminexus Portal Framework で構築したポータルにアクセスします。uCosminexus Portal Framework は、Web サーバやグループウェアサーバなどから情報を取り込み、アクセスしたユーザに必要な情報をポータル画面に表示します。モバイル（携帯電話）からアクセスした場合はモバイルに合わせた表示形式で情報を表示します。

ポータルとは

散在する情報を 1 か所に集めて、情報へ効率よくアクセスする仕組みをポータルと呼びます。また、そのような目的で構築され、幾つかのポートレットで構築された Web サイト自身もポータルと呼びます。

ポートレットとは

1. ポータルの概要

ポートレットとは、ポータル上で動作するアプリケーションコンポーネントです。uCosminexus Portal Framework は、情報（コンテンツ）を Web サーバやグループウェアサーバからポートレットに取り込みます。ポートレットは、取り込んだコンテンツをポータル画面に表示します。また、取り込むコンテンツに応じた、異なる種類のポートレットが必要となります。そのため、ポータル画面に表示したいコンテンツに対応する種類のポートレットを作成して、ポータルに登録します。

ポートレットには次の意味も含まれます。

- ポータル上で動作するアプリケーションコンポーネント
- ポータル画面内に表示される領域名

ポートレットの種類については、「1.3 uCosminexus Portal Framework で使用できるポートレット」を参照してください。

また、ポータルおよびポートレットの画面構成と画面遷移については、「1.6 uCosminexus Portal Framework の画面構成と遷移」を参照してください。

1.2 uCosminexus Portal Framework の特長

uCosminexus Portal Framework は、次のような特長を持っています。

情報を一画面に統合できる

ポートレットを介して、社内外の情報やアプリケーションを一画面に統合して表示できます。一画面に統合することで、ユーザが情報へアクセスする時間を短縮できます。詳細は、「1.2.1 情報の統合」を参照してください。

ポータルをパーソナライズできる

ユーザは、組織や役職に応じて、表示するコンテンツの構成を選択できます。一人一人に最適になるように、ポータルをカスタマイズできます。詳細は、「1.2.2 パーソナライズ」を参照してください。

ほかのポータルに配置されたポートレットを表示できる

ほかのポータルに配置されているポートレットを呼び出して、ポートレットとして表示できます。

詳細は、「1.2.3 分散ポータル」を参照してください。

ポータルの運用管理の権限と作業を切り分けられる

コンテンツが表示される画面のレイアウトを「運用管理者」が管理し、コンテンツの内容を「経営者」が参照するというように、ポータルを管理するユーザと利用するユーザの権限を明確に切り分けられます。また、ポータルの構築作業と運用管理作業を異なるユーザが実施したり、運用管理権限の一部を別のユーザに委譲したりして、運用管理に伴う作業の切り分けや分散ができます。

詳細は、「1.2.4 運用管理機能」を参照してください。

シングルサインオンできる

ユーザ ID が異なるアプリケーションに、そのつどログインする必要なく使用できます。アプリケーションごとにユーザ ID とパスワードを使い分ける必要がなく、ユーザのログインの煩わしさを解消します。

詳細は、「1.2.5 シングルサインオン」を参照してください。

コンテンツへのアクセス制御ができる

管理者は、組織や役職に応じて、表示するコンテンツへのアクセスを制御できます。一部の部署や役職だけに必要な情報を、特定のユーザだけに表示できます。

詳細は、「1.2.6 コンテンツへのアクセス制御」を参照してください。

外部 Web サイトへのデータ連携ができる

ポートレットのコンテンツから抽出したデータを送信した、外部 Web サイトと連携することができます。これにより、ポータルシステムと Web サービスを連携することができます。

詳細は、「1.2.7 スマートナビゲーション」を参照してください。

複数のポートレット間で業務連携ができる

一つのイベントで複数のポートレットを動作させることができます。複数のポート

1. ポータルの概要

レットで業務連携が可能になるため、業務効率を向上させるポータルサイトを構築できます。

詳細は、「1.2.8 ポートレット間通信」を参照してください。

ドラッグ & ドロップなどの操作によって入力ミスを削減できる

ポートレットにデータを入力する場合、別のポートレットからデータをドラッグ & ドロップしたり、コピーしたりして入力できます。このため、データを直接入力することによる入力ミスを削減できます。

詳細は、「1.2.9 クライアントサイドデータ通信」を参照してください。

いつでもどこでも情報にアクセスできる

携帯電話からもポータルを使用できるので、ユーザは外出先からいつでも情報を取り出せます。詳細は、「1.2.10 モバイルでの利用」を参照してください。

ポートレットをメニューから簡単に表示できる

メニューバーにポートレットを登録すると、メニューをクリックするだけでポートレットを表示できます。また、ポートレットの中で特に頻繁に利用する画面へのショートカットリンクを登録したり、ポートレットを新規ウィンドウに表示したりできます。詳細は、「1.2.11 ナビゲーションメニュー」を参照してください。

使用する言語およびタイムゾーンを切り替えられる

海外などでポータルを使用したい場合など、個人ごとに使用する言語やタイムゾーンを切り替えられます。詳細は、「1.2.12 言語およびタイムゾーンの切り替え」を参照してください。

サンプルのポートレットをすぐに使える

環境を設定すれば、すぐに使えるアクセサリポートレットを、サンプルとして提供しています。サンプルには、ポータルサーバ上にある各種ポートレットの新着情報を一望できる Information View ポートレットや、Web ページへのリンクを登録するリンクポートレットなどがあります。

詳細は、「1.2.13 アクセサリポートレット」を参照してください。

1.2.1 情報の統合

企業内外に散在する情報やアプリケーションを一画面に集約できます。また、タブを使用して表示する情報を目的別に切り替えることができます。これにより、ユーザが情報にアクセスする時間や手間を省くことができます。

ポータル画面を次の図に示します。

図 1-2 ポータル画面



1.2.2 パーソナライズ

所属組織や業務、役職などによって、ユーザー一人一人に必要な情報は異なります。ユーザー一人一人に必要な情報を表示するポータル画面を作成することで、ユーザにとって使いやすいポータル画面にすることができます。これをパーソナライズと呼びます。

uCosminexus Portal Framework のパーソナライズには、次の 2 種類があります。

- 管理者によるポータルの標準画面の作成
- ユーザによるポータルの標準画面の表示内容変更

パーソナライズ情報とは

ポータルの標準画面の内容や、各ユーザがカスタマイズしたレイアウトやポータルレットの設定などの情報を、パーソナライズ情報といいます。

(1) 管理者によるポータルの標準画面の作成

管理者は、ユーザがポータルに最初にアクセスしたときに表示されるウェルカム画面のレイアウト、およびユーザがログインしたあとに表示される標準のホーム画面のレイアウトを作成できます。

管理者によって、あらかじめポータルの標準画面を設定しておくことで、ユーザが所属する組織単位や役職ごとに、ポータル画面に表示されるポータルレットやレイアウトを設定す

1. ポータルの概要

ることもできます。

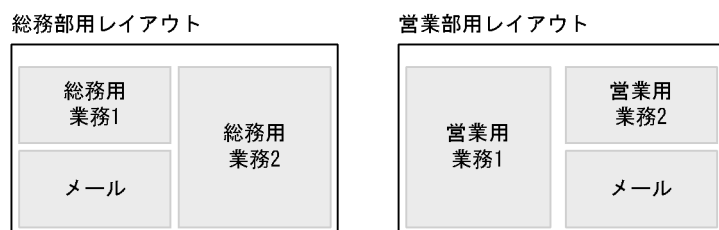
ウェルカム画面

ウェルカム画面は、すべてのユーザがログインする前に表示されます。例えば、ウェルカム画面には、ポータルユーザ全員に知らせたい情報や検索ポートレット、電話帳などを表示します。

標準のホーム画面

ユーザがログインしたあとは、ユーザのホーム画面が表示されます。システム管理者は、各ユーザの情報に基づいて、所属組織や役職ごとに標準のホーム画面のレイアウトを選択できます。システム管理者は、所属組織ごとにレイアウトを選択して、各部の業務に関するポートレットをあらかじめ標準のホーム画面に表示できます。総務部用と営業部用のレイアウト選択例を次の図に示します。

図 1-3 レイアウト選択例



総務部用のホーム画面には、総務部で使用する業務システムのポートレットを選択して、営業部用のホーム画面には、営業部で使用する業務システムのポートレットを選択します。

ウェルカム画面およびホーム画面の標準レイアウトの作成については、マニュアル「uCosminexus Portal Framework 運用管理者ガイド」を参照してください。

(2) ユーザによるポータルの標準画面の表示内容変更

ログインしたあとに表示されるホーム画面を、ユーザごとに表示内容を変更できます。ホーム画面の表示内容を変更することをカスタマイズと呼びます。また、システム管理者が標準のホーム画面を作成している場合も、ホーム画面のカスタマイズができます。

ユーザは、ポートレットの種類、レイアウト、および画面の色を変更できます。また、カスタマイズした内容をカスタマイズ前の内容に戻すこともできます。

各ユーザによる標準画面のカスタマイズ方法については、マニュアル「uCosminexus Portal Framework ユーザーズガイド」を参照してください。

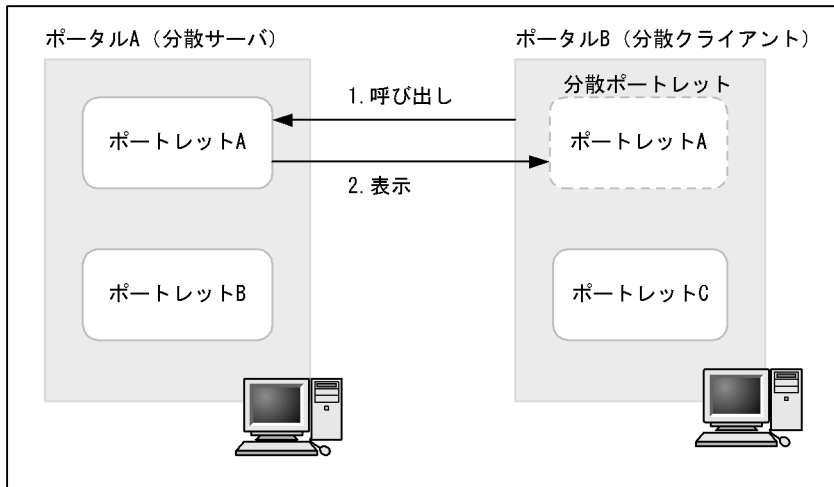
1.2.3 分散ポータル

uCosminexus Portal Framework を使用してポータルを複数配置している場合、各ポータルに配置されているポートレットは、ほかのポータル上でも表示できます。このよう

に、一つのポートレットを複数のポータルで共有する環境を分散ポータルといいます。
分散ポータルの例を次の図に示します。

図 1-4 分散ポータルの例

分散ポータル



1. ポータルBは、ポータルAのポートレットAを呼び出す。
2. ポータルB内で、ポートレットAが表示される。

ポートレット A は、ポータル A に配置されていますが、ポータル B からポートレット A を呼び出すことで、ポータル B 上でもポートレット A を表示できます。このように、ほかのポータル上にあるポートレットを呼び出して表示されるポートレットを、分散ポートレットといいます。この例では、ポータル B 上に表示されるポートレット A が分散ポートレットとなります。

また、このマニュアルでは、分散ポータルの環境でポートレットを呼び出すポータルを分散クライアント、呼び出されるポートレットを配置しているポータルを分散サーバと呼びます。この例の場合、ポータル A が分散サーバ、ポータル B が分散クライアントとなります。

1.2.4 運用管理機能

uCosminexus Portal Framework の運用管理機能では、次のことができます。

- 管理者と利用者の切り分け
- 管理者の作業の切り分け
- 運用管理作業の分散化

運用管理機能でできることの詳細を、次に説明します。

1. ポータルの概要

(1) 管理者と利用者の切り分け

ポータルの運用管理に必要な情報は、運用管理者が運用管理ポートレットで設定します。このため、次の図に示すように、管理者と利用者の権限を明確に切り分けられます。なお、uCosminexus Portal Framework のユーザ種別の詳細については、「1.4 uCosminexus Portal Framework のユーザ種別」を参照してください。

図 1-5 管理者と利用者の切り分け



運用管理者は、運用管理ポートレットにだけアクセスし、実際のコンテンツはアクセス

できなくするような運用方法もできます。例えば情報システム専門の他部署や運用保守専門の他企業などにポータルの運用管理作業を依頼できます。

(2) 管理者の作業の切り分け

大規模な組織の場合、システム管理者がすべての情報を管理するのは困難です。運用管理ポートレットによって管理単位ごとに管理者を設定すれば、各管理単位でポータルの運用を管理できます。この管理者を部門管理者と呼びます。運用管理者の作業負担を軽減できるので、大規模なポータルの管理が容易になります。uCosminexus Portal Framework では、これらの管理単位をポータル管理グループと呼びます。

(3) 運用管理作業の分散化

運用管理者は、部門管理者に次の権限を委譲できます。

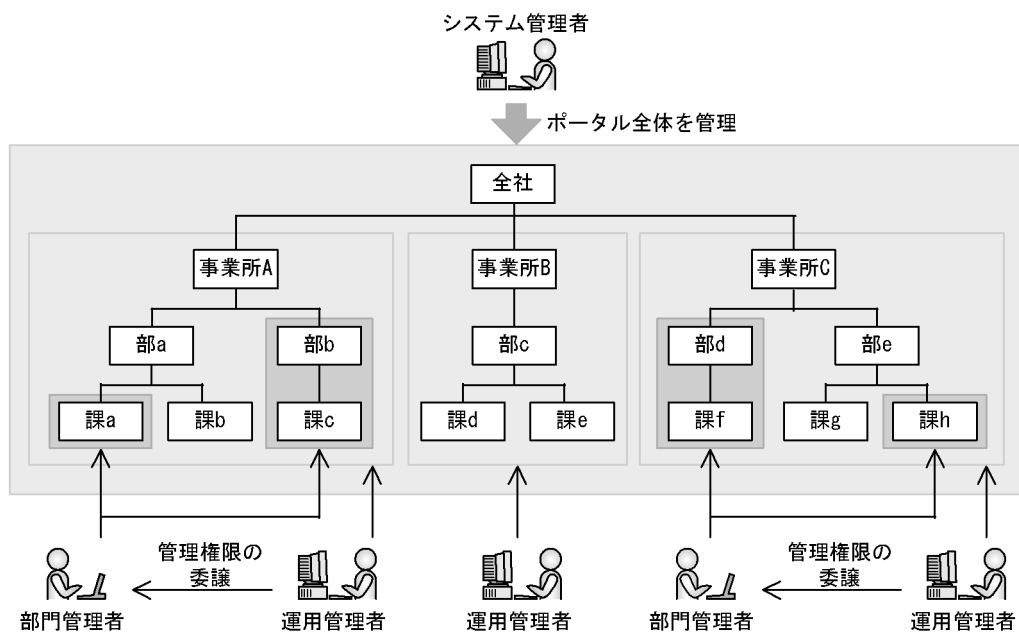
- リソース（ポートレットおよび標準画面レイアウト）の利用権限の設定
- レイアウトの管理（レイアウトの編集・表示 / 非表示 / 強制表示設定）
- ポートレットの選択
- ポートレットの生成
- ポートレットパラメタの変更

大規模な組織の場合、運用管理者がポータル管理グループ全体を管理するのではなく、部門管理者を設定して運用管理作業を分散化できます。運用管理作業を分散化することで、運用管理者の作業負担を軽減して効率的に運用を管理できます。また、ほかのポータル管理グループに影響を与えないで、ポータル管理グループごとに独自の設定ができるようになります。

部門管理者を設定して運用管理作業を分散化した例を次の図に示します。

1. ポータルの概要

図 1-6 部門管理者の設定例



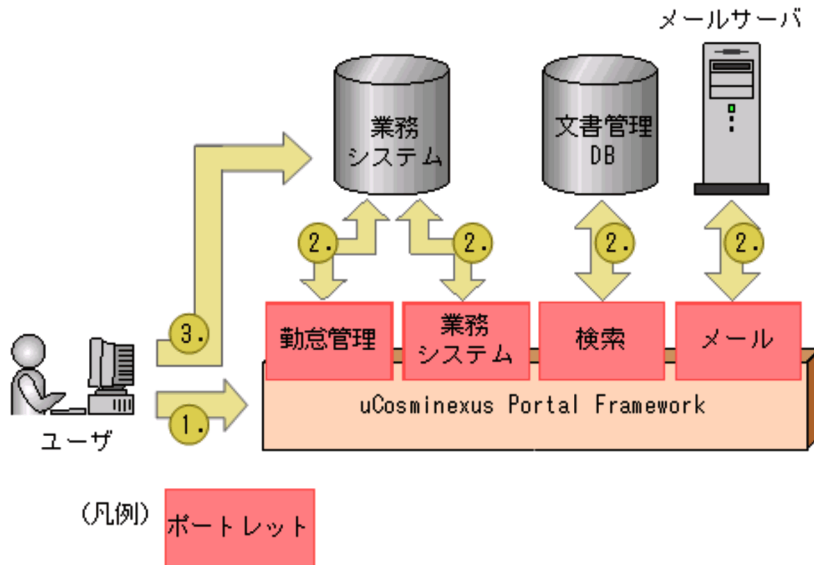
運用管理機能の詳細は、マニュアル「uCosminexus Portal Framework 運用管理者ガイド」を参照してください。

1.2.5 シングルサインオン

uCosminexus Portal Framework は、一度のログインで複数のシステムとシームレスに連携するためのシングルサインオン機能を提供しています。ユーザは、システムごとにログインしたり、作業ごとにシステムを使い分けたりする必要がありません。

シングルサインオンの概要を次の図に示します。

図 1-7 シングルサインオンの概要



シングルサインオンには次の3種類の処理があります。次の番号は、図中の番号に対応しています。

1. uCosminexus Portal Framework へのログイン
2. ポートレットから業務システムへのログイン
3. 業務システムへの直接アクセス

次にそれぞれの処理の概要について説明します。

(1) uCosminexus Portal Framework へのログイン

uCosminexus Secure Unify・SSO や SiteMinder などのシングルサインオン製品やクライアント証明書などから取得した認証情報を用いて、uCosminexus Portal Framework にログインすることができます。また、カスタムログインモジュールを作成し、uCosminexus Portal Framework へのログイン方法をカスタマイズすることができます。

(2) ポートレットから業務システムへのログイン

ポートレットから業務システムにログインする方法には、次の3種類の方法があります。

uCosminexus Portal Framework にログインしたときの情報やユーザから送信された情報を用いて業務システムにログインします。

初回の認証時など、認証情報がないときに、画面上から認証情報を入力して、次回アクセス時からは入力された情報を用いて業務システムに自動的にログインします。

uCosminexus Portal Framework にログインしたユーザが業務システムにログインするときの情報（ユーザ ID およびパスワード）を、Cosminexus 統合ユーザ管理フレー

1. ポータルの概要

ムワークのシングルサインオンマッピングテーブルに登録しておき、業務システムを表示するときにシングルサインオンマッピングテーブルから取得したユーザ ID およびパスワードを用いて業務システムにログインします。

(3) 業務システムへの直接アクセス

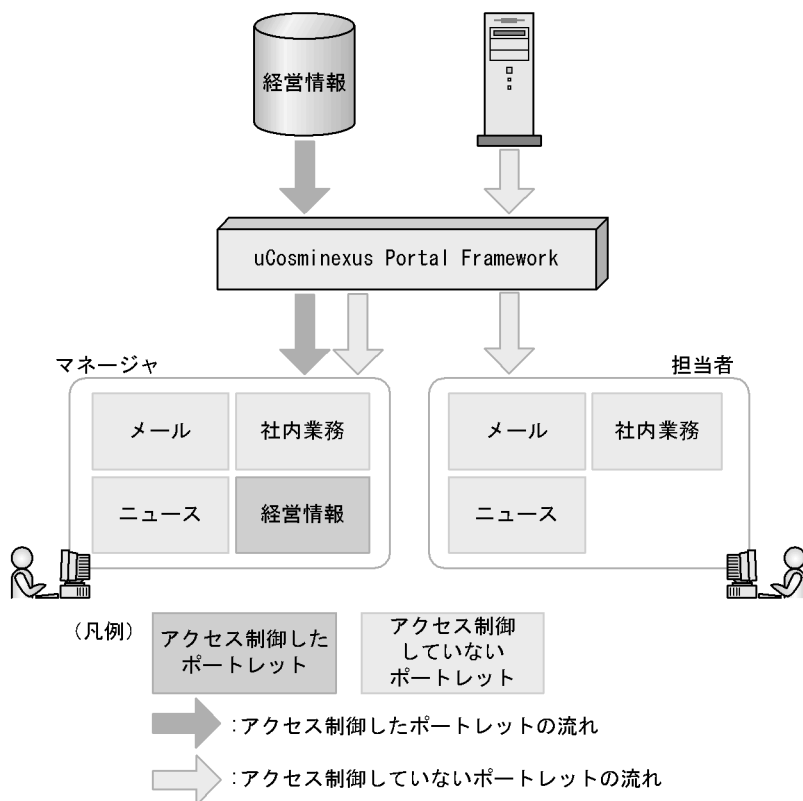
ポートレットから業務システムにログインしたときの情報を引き継いで、業務システムに直接アクセスします。

1.2.6 コンテンツへのアクセス制御

ユーザの条件に応じて、ポータル管理グループごとにポートレットをアクセス制御できます。アクセス制御をすれば、特定のユーザだけで情報を共有できます。

アクセス制御したポートレットの例を次の図に示します。

図 1-8 アクセス制御したポートレットの例



マネージャの所属するポータル管理グループにだけ経営情報のポートレットを設定してアクセス権を与えると、マネージャだけが経営情報のポートレットにアクセスできます。担当者はアクセス制御されているため、経営情報のポートレットがあることさえ知ることができません。

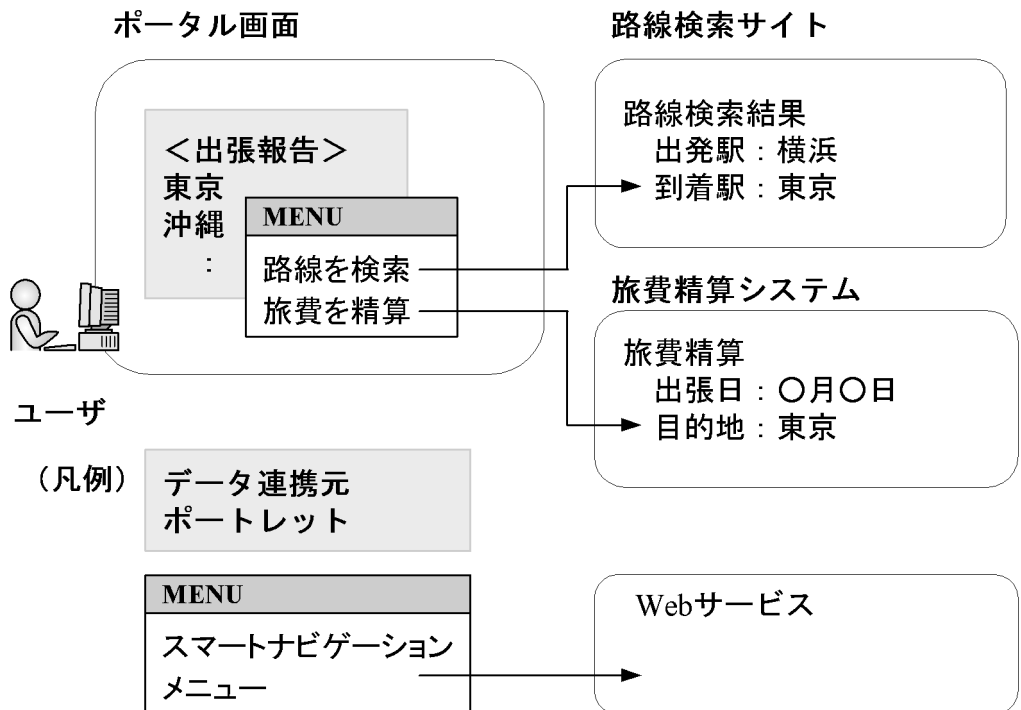
ポータル管理グループにアクセス権を与える方法については、マニュアル「uCosminexus Portal Framework 運用管理者ガイド」を参照してください。

1.2.7 スマートナビゲーション

ポートレットのコンテンツから抽出したデータを送信して、外部 Web サイトと連携することができます。この機能を、スマートナビゲーションといいます。

スマートナビゲーションの例を次の図に示します。

図 1-9 スマートナビゲーションによって Web サービスを連携させた例



ユーザがポートレット上のデータを右クリックすると、連携する Web サービスのメニューが表示されます。連携する Web サービスのメニューをクリックすると、右クリックしたデータが送信されて、Web サービスを利用できるようになります。

スマートナビゲーションを利用するための設定方法については、「5.6 スマートナビゲーションの設定」を参照してください。

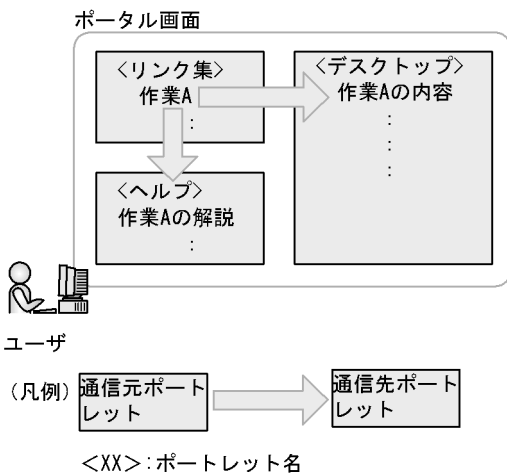
1.2.8 ポートレット間通信

ポートレットのコンテンツを表示するだけでなく、ポートレット間で情報を通信できます。このため、各ポートレットで行っている業務情報の共有化を図り、業務を連携できます。この機能をポートレット間通信といいます。

1. ポータルの概要

ポータル間通信の例を次の図に示します。

図 1-10 ポータル間通信によってポータルレットを連携させた例



ユーザが<リンク集>ポータルレットから作業 A を選択すると、<デスクトップ>ポータルレットおよび<ヘルプ>ポータルレットにイベントが通知されます。この通知によって、作業 A の内容が<デスクトップ>ポータルレットに、作業 A の解説が<ヘルプ>ポータルレットに表示されます。

なお、ポータルレット間通信によってポータルレットを連携する場合の、ポータルレットの開発方法については、マニュアル「uCosminexus Portal Framework ポータルレット開発ガイド」を参照してください。

1.2.9 クライアントサイドデータ通信

データを入力する項目が多くある場合、直接入力では入力ミスが発生するおそれが高くなります。このような入力ミスを削減するため、ポータルレットでデータを入力する場合に、別のポータルレットから該当するデータをドラッグ & ドロップしたり、コピーボタンを利用してコピーしたりして入力できます。この機能をクライアントサイドデータ通信といいます。

クライアントサイドデータ通信には、次の機能があります。

ドラッグ & ドロップ機能

ポータルレットにデータを入力するときに、別のポータルレットからデータをドラッグ & ドロップして入力する機能です。例えば、メールのポータルレットでメールを作成する場合に、電子アドレス帳のポータルレットから宛先をドラッグ & ドロップしてメールに貼り付けることができます。

データフォーム転送機能

ポータルレットにデータを入力するときに、データを選択して入力する機能です。

クライアントサイドデータ通信ができるポートレットの開発方法については、マニュアル「uCosminexus Portal Framework ポートレット開発ガイド」を参照してください。

1.2.10 モバイルでの利用

ユーザは PC だけでなく、携帯電話でポータルにアクセスできます。

ポータルにアクセスできるデバイスを次に示します。

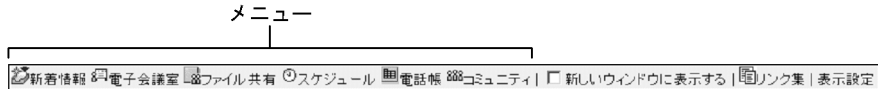
- HTML4.01 対応の Web ブラウザのある PC
- i モード対応 HTML2.0 に対応した i モードの携帯電話
- Version 3.3 for HDML に対応した EZweb の携帯電話

1.2.11 ナビゲーションメニュー

ポートレットをメニューバーに登録すると、ポートレットを簡単に表示できるようになります。このメニューバーを、ナビゲーションメニューといいます。ナビゲーションメニューを使用すると、よく利用するポートレットをすべてポータル画面に表示しておかなくても、必要なときにだけ簡単に表示できるようになります。

ナビゲーションメニューを次の図に示します。

図 1-11 ナビゲーションメニュー



ナビゲーションメニューにポートレットを登録すると、そのポートレットのメニューが表示されます。このメニューをクリックすると、ポートレットが最大化表示されます。また、新しいウィンドウを起動して、ポートレットを表示することもできます。リンク集に、よく参照する Web ページへのリンクを登録したり、ポートレットの中でも特によく利用する特定の画面へのショートカットリンクを登録したりもできます。

ナビゲーションメニューの詳細は、次の個所を参照してください。

- ナビゲーションメニューを使用するための環境設定方法：
「5.5 ナビゲーションメニューの設定」
- ナビゲーションメニューの操作方法：
マニュアル「uCosminexus Portal Framework ユーザーズガイド」
- ナビゲーションメニューに登録できるポートレットの開発方法：
マニュアル「uCosminexus Portal Framework ポートレット開発ガイド」
- ナビゲーションメニューに登録できるポートレットの、ポータルへの登録方法：
「7.11 ナビゲーションメニュー対応ポートレットの登録」

1.2.12 言語およびタイムゾーンの切り替え

海外などでポータルを使用したい場合など、個人ごとに使用する言語およびタイムゾーンを切り替えられます。

使用する言語の切り替え

ポータル画面に表示される文字列の言語は、日本語、英語、またはシステム管理者が登録した言語の中から選択できます。また、ポータルでの言語の選択を解除し、Webブラウザの設定に従うこともできます。

日本語、英語以外の言語を表示させるためには、ストリングリソースを追加する必要があります。また、ストリングリソースの文字列を変更することで画面に表示するメッセージを変更することもできます。ストリングリソースをカスタマイズするために必要な情報については、「6.3 ストリングリソースのカスタマイズ」を参照してください。

タイムゾーンの切り替え

J2SE1.4 で定めるカスタムタイムゾーン ID を利用して、タイムゾーンを切り替えられます。

なお、使用する言語およびタイムゾーンは、次の方法によって切り替えられます。

- ユーザが使用している Web ブラウザの言語設定を切り替える
- ポータル画面の利用者用レイアウトカスタマイズ機能で切り替える

ポータル画面の利用者用レイアウトカスタマイズ機能で切り替える方法については、マニュアル「uCosminexus Portal Framework ユーザーズガイド」を参照してください。

また、言語およびタイムゾーンの切り替えに対応するポートレットの開発方法については、マニュアル「uCosminexus Portal Framework ポートレット開発ガイド」を参照してください。

1.2.13 アクセサリポートレット

uCosminexus Portal Framework では、独自でポートレットを開発する必要がなく、環境設定するだけでそのまま使用できるサンプルとして、アクセサリポートレットを提供しています。

アクセサリポートレットは、次のディレクトリに格納されています。

格納ディレクトリ

```
{uCosminexus Portal Framework インストールディレクトリ}¥accessaries
```

アクセサリポートレットの種類を次に示します。

- Information View ポートレット
ポータルサーバ上にある各種ポートレットの最新情報を一望するためのポートレットです。このポートレットを使用すると、各種ポートレットをポータル画面に表示しなくても、最新情報の件数・一覧・内容を参照したり、最新情報の内容に応じて操作し

たりできます。例えば、新着情報がメールである場合は、メールのポートレットを開かなくても、Information View ポートレット上から直接返信したり、転送したりできます。

Information View ポートレットを使用するための環境設定や Information View ポートレットに新着情報を表示できるポートレットを開発したい場合は、製品に同梱されている「uCosminexus Portal Framework - Information View システム管理者ガイド」を参照してください。また、Information View ポートレットの操作方法については、Information View ポートレットから表示されるヘルプを参照してください。

- **リンクポートレット**
各ユーザが Web ページへのリンクを登録するポートレットです。リンクポートレットを使用する場合は、製品付属のドキュメントを参照してください。
- **メールポートレット**
メールサーバと連携してポータル画面で受信メールが表示できるポートレットです。メールポートレットを使用する場合は、製品付属のドキュメントを参照してください。
- **iframe ポートレット**
Web コンテンツをインラインフレーム内に表示するポートレットです。各ユーザが、表示するコンテンツを選択できます。iframe ポートレットを使用する場合は、製品付属のドキュメントを参照してください。

1.3 uCosminexus Portal Framework で使用できるポートレット

ここでは、uCosminexus Portal Framework で使用できるポートレットの種類、および各種ポートレットを取り込んで表示する処理について説明します。

uCosminexus Portal Framework では、次のポートレットを使用できます。

- カスタムポートレット
- File ポートレット
- Web ポートレット
- 分散ポートレット
- Web コンテンツポートレット

注 正式名称は Multi File Portlet ですが、このマニュアルでは File ポートレットと表記します。

それぞれのポートレットの特長を示します。

カスタムポートレット

カスタムポートレットは、JSP やサーブレットの技術を用いて独自のポートレットを作成するポートレットです。動的なページを作成したり、企業独自の業務システムをポータルに統合したり、既存のアプリケーションと連携したりできます。例えば、既存のメールシステムをポータルに統合することで、ユーザはポータルから未読メールを読めます。また、携帯電話（i モードおよび EZweb）からアクセスできるポートレットも作成できます。

カスタムポートレットには、使用する API によって、標準 API ポートレット、および日立 API ポートレットがあります。

標準 API ポートレット

標準 API ポートレットは、Java Portlet Specification 1.0 に従って作成するポートレットです。

このポートレットの開発方法については、マニュアル「uCosminexus Portal Framework ポートレット開発ガイド」を参照してください。また、標準 API ポートレットをポータルに登録する方法については、「7.2 標準 API ポートレットのデプロイ」を参照してください。

日立 API ポートレット

日立 API ポートレットは、uCosminexus Portal Framework の API を用いて作成するポートレットです。このポートレットの開発方法については、マニュアル「uCosminexus Portal Framework ポートレット開発ガイド」を参照してください。また、日立 API ポートレットをポータルに登録する方法については、「7.4 日立 API ポートレット（PAR 形式）のデプロイ」、または「7.6 日立 API ポートレット（PAR 形式以外）および File ポートレットの設定」を参

照してください。

File ポートレット

File ポートレットは、HTML、CHTML、または HDML の各言語で記述されたファイルをポートレットとして表示します。例えば、イントラネット上の各部署のお知らせを、一つの File ポートレットに統合できます。また、携帯電話からアクセスできるポートレットも作成できます。

このポートレットの開発方法については、マニュアル「uCosminexus Portal Framework ポートレット開発ガイド」を参照してください。また、File ポートレットをポータルに登録する方法については、「7.6 日立 API ポートレット (PAR 形式以外) および File ポートレットの設定」を参照してください。

Web コンテンツポートレット

Web コンテンツポートレットは、外部の Web サーバからコンテンツを取得し、取得したデータを加工してポータルに表示するポートレットです。取得できるコンテンツは、HTML、RSS、または XML で記述されたページです。

Web コンテンツポートレットは、運用管理ポートレットでコンテンツの取得先や加工の方法などを設定することで、ポートレットが作成されます。このポートレットを使用するための設定については、「7.7 Web コンテンツポートレットの設定」を参照してください。また、このポートレットを作成する方法については、マニュアル「uCosminexus Portal Framework 運用管理者ガイド」を参照してください。

Web ポートレット

Web ポートレットは、HTML で記述された Web ページをポータルに取り込むポートレットです。ポータルサーバ内のローカルコンテンツ、および外部の Web サーバのコンテンツをポータルに統合できます。Web ページをポートレットとしてポータルに統合することで、ベーシック認証、プロキシ認証、およびフォーム認証に対するシングルサインオンができるようになります。また、コンテンツをフィルタリングして Web ページの一部をポータルに取り込めます。例えば、顧客情報などのインターネットの情報をポータルに取り込めます。また、携帯電話 (i モード、および EZweb) からアクセスできるポートレットも作成できます。

Web ポートレットには、Multi Web Portlet、Web App Portlet、および Web Page Portlet の種類があります。Web ポートレットの種類については、マニュアル「uCosminexus Portal Framework ポートレット開発ガイド」を参照してください。

このポートレットの開発方法については、マニュアル「uCosminexus Portal Framework ポートレット開発ガイド」を参照してください。また、Web ポートレットをポータルに登録する方法については、「7.8 Web ポートレットの設定」を参照してください。

分散ポートレット

分散ポートレットは、ほかのポータル上に配置されたポートレットを取り込むポートレットです。例えば、他事業所で構築しているポータル上のポートレットを表示

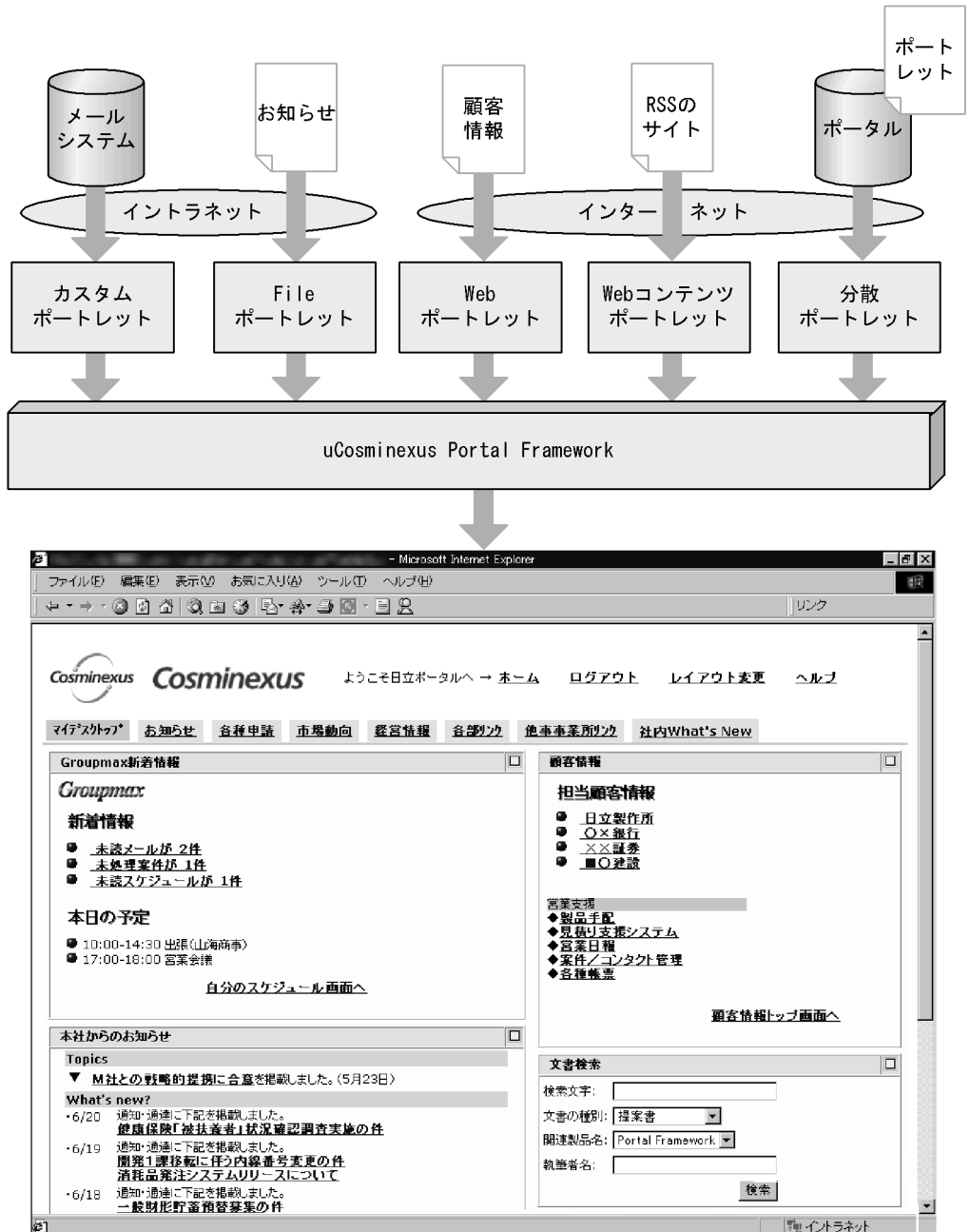
1. ポータルの概要

することができます。

このポートレットを作成する方法については、マニュアル「uCosminexus Portal Framework ポートレット開発ガイド」を参照してください。また、分散ポートレットをポータルに登録する方法については、「7.9 分散ポートレットの設定」を参照してください。

uCosminexus Portal Framework が各種ポートレットを取り込んで表示する処理を次の図に示します。

図 1-12 ポートレットの取り込み



1.4 uCosminexus Portal Framework のユーザ種別

uCosminexus Portal Framework は、ユーザによって作業できる内容が異なります。

uCosminexus Portal Framework のユーザ種別を次に示します。

表 1-1 uCosminexus Portal Framework のユーザ種別

ユーザ種別	作業できる内容
システム管理者	<p>ポータルを構築したり、ポータル全体を管理したりするユーザです。次の作業ができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • uCosminexus Portal Framework のインストール uCosminexus Portal Framework のインストール、環境変数の設定およびポータルを構築するためのツールである Portal Manager をセットアップします。なお、Portal Manager の概要については、「1.7.2 Portal Manager」を参照してください。 • ポータルの構築 Portal Manager を使用してポータルを構築できます。なお、構築時にはポータルの運用を管理する運用管理者を設定します。 • ポータルのカスタマイズ ポータル画面やログ出力の設定などをカスタマイズできます。 • ポートレットの登録 ポートレットを新規にポータルに登録したり、登録されているポートレットの設定を変更したり、ポータルから削除したりできます。 • ポータルの起動および終了 ポータルを起動および終了できます。
運用管理者 (システム管理者によって設定される)	<p>ポータルの運用を管理するユーザです。運用管理ポートレットを使用して、運用管理情報の設定変更ができます。運用管理ポートレットの概要については、「1.7.3 運用管理ポートレット」を参照してください。</p>
部門管理者 (運用管理者によって設定される)	<p>特定のポータル管理グループだけの運用を管理するユーザです。運用管理ポートレットを使用して、管理権限を持つポータル管理グループに対して、運用管理情報の設定変更ができます。運用管理ポートレットの概要については、「1.7.3 運用管理ポートレット」を参照してください。</p>
ポートレット開発者	<p>ポートレットを開発するユーザです。</p>

ユーザ種別	作業できる内容
ポータル利用者	<p>ポータルを利用する一般ユーザです。次の作業ができます。</p> <ul style="list-style-type: none">ポータルへのログイン ポータルにログインして、情報を参照できます。各自のポータル画面のカスタマイズ 利用権限がある標準画面レイアウトの表示を選択したり、ポートレットをポータル画面に表示するかどうか選択するなど、各自のポータル画面をカスタマイズできます。

1.5 uCosminexus Portal Framework の構成

ここでは、前提となるプログラムプロダクトや OS、および uCosminexus Portal Framework の構成例について説明します。

1.5.1 uCosminexus Portal Framework の動作環境

uCosminexus Portal Framework に必要なプログラムプロダクトを次の表に示します。

表 1-2 前提となるプログラムプロダクト一覧

Web アプリケーションサーバ	次のどれかを使用します。 <ul style="list-style-type: none"> • uCosminexus Developer Standard 08-00 以降 • uCosminexus Developer Professional 08-00 以降 • uCosminexus Service Architect 08-00 以降 • uCosminexus Application Server Standard 08-00 以降 • uCosminexus Application Server Enterprise 08-00 以降 • uCosminexus Service Platform 08-00 以降 • uCosminexus Developer 09-00 以降 • uCosminexus Application Server 09-00 以降
ディレクトリサーバ (リポジトリにディレクトリサーバを使用する場合に必要)	次のどれかを使用します。 <ul style="list-style-type: none"> • Sun Java(TM) System Directory Server Enterprise Edition 6.3 以降 • Oracle Directory Server Enterprise Edition 11g • Active Directory
DB および JDBC ドライバ (リポジトリに DB を使用する場合に必要)	使用できる DB <p>次のどれかを使用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • HiRDB (Version8, または Version9) • Oracle (Oracle9i, Oracle10g, または Oracle DataBase 11g) • SQL Server 2005 <p>使用できる JDBC ドライバ</p> <ul style="list-style-type: none"> • JDBC1.2 または JDBC2.0

注 Active Directory をご使用になる場合は、「3.5.2 リポジトリに Active Directory を使用する場合の設定」を参照してください。

前提 OS

P-2443-7394 uCosminexus Portal Framework の前提 OS は、Windows Server 2008 x86, Windows Server2008 x64, Windows Server 2008 R2, Windows Server 2012, Windows Vista, Windows XP, Windows 7, または Windows 8 です。

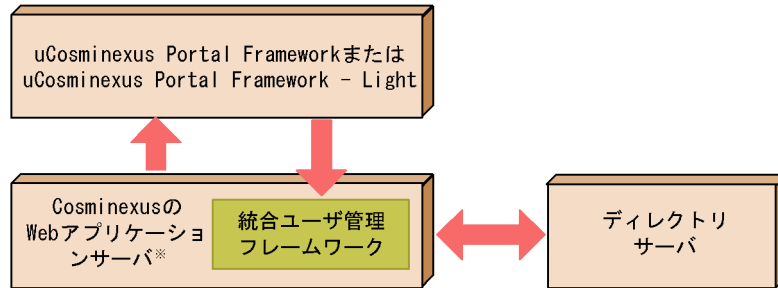
P-2943-7394 uCosminexus Portal Framework の前提 OS は、Windows Server2008 x64, Windows Server 2008 R2, または Windows Server 2012 です。

uCosminexus Portal Framework のソフトウェア構成例

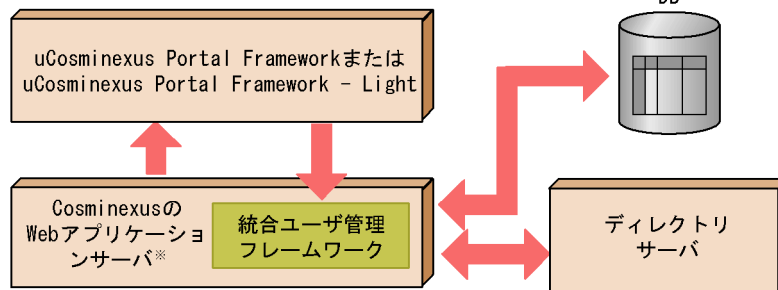
uCosminexus Portal Framework のソフトウェア構成例を次の図に示します。

図 1-13 uCosminexus Portal Framework のソフトウェア構成例

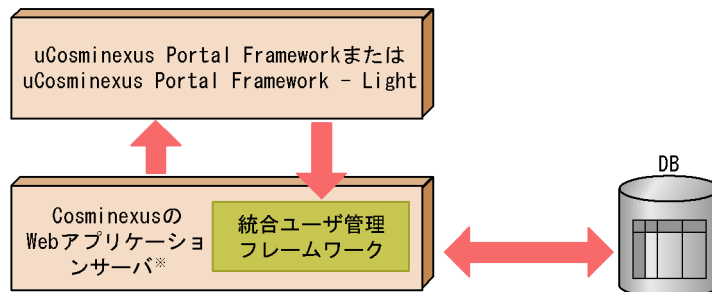
●リポジトリにディレクトリサーバだけを使用する場合



●リポジトリにディレクトリサーバとDBを使用する場合



●リポジトリにDBだけを使用する場合



注※ uCosminexus Portal Frameworkの場合は次のどれかになります。

- ・uCosminexus Developer Standard 07-00以降
- ・uCosminexus Developer Professional 07-00以降
- ・uCosminexus Service Architect 07-00以降
- ・uCosminexus Application Server Standard 07-00以降
- ・uCosminexus Application Server Enterprise 07-00以降
- ・uCosminexus Service Platform 07-00以降
- ・uCosminexus Application Server Smart Edition 07-00以降

uCosminexus Portal Framework - Lightの場合は次のどれかになります。

- ・uCosminexus Application Server Standard 07-00以降
- ・uCosminexus Application Server Smart Edition 07-00以降

uCosminexus Portal Framework は Cosminexus の Web アプリケーションサーバ上で動作します。また、Cosminexus の Web アプリケーションサーバの一部である統

1. ポータルの概要

合ユーザ管理フレームワークを使用し、ディレクトリサーバやDBと連携してユーザ管理ができます。

なお、分散ポートレットを使用する場合のソフトウェア構成については、「1.5.2 分散ポートレット使用時の構成」を参照してください。

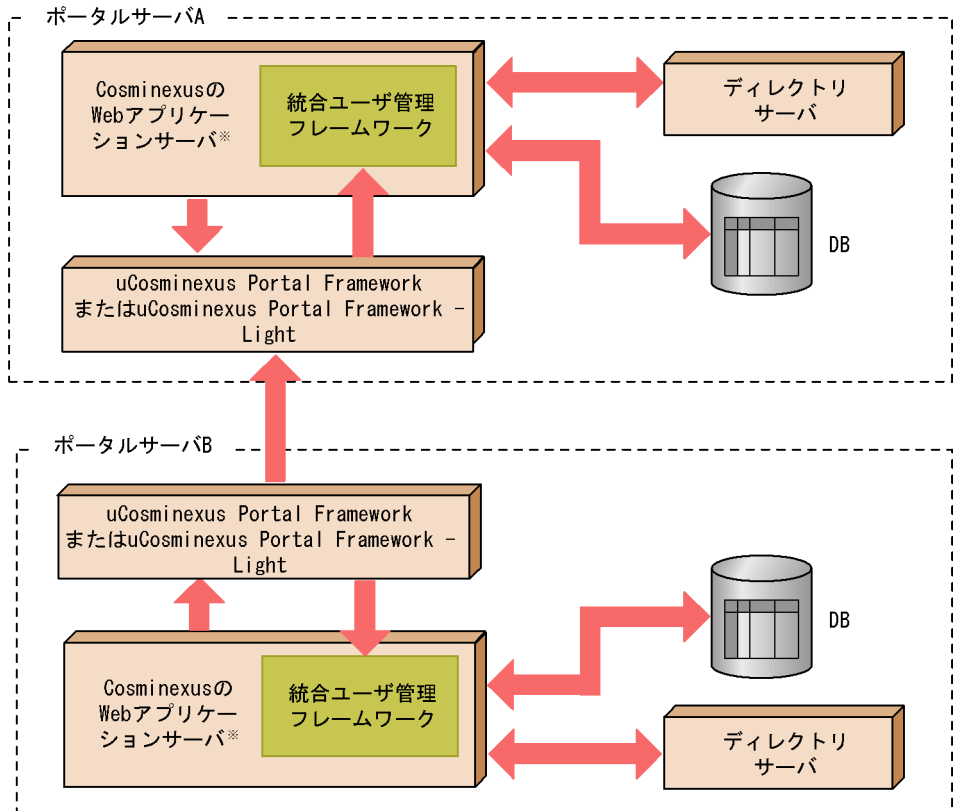
また、負荷分散機を使用する場合のソフトウェア構成については、「1.5.3 負荷分散機使用時の構成」を参照してください。

1.5.2 分散ポートレット使用時の構成

分散ポートレットを使用する場合に必要なプログラムプロダクトは、uCosminexus Portal Frameworkに必要なプログラムプロダクトだけです。分散ポートレットを使用する場合にだけ、必要なプログラムプロダクトはありません。

分散ポートレットを使用する場合のソフトウェア構成例を次の図に示します。

図 1-14 分散ポートレットを使用する場合のソフトウェア構成例（リポジトリにディレクトリサーバとDBを使用する場合）



注※ uCosminexus Portal Frameworkの場合は次のどれかになります。

- ・uCosminexus Developer Standard 07-00以降
- ・uCosminexus Developer Professional 07-00以降
- ・uCosminexus Service Architect 07-00以降
- ・uCosminexus Application Server Standard 07-00以降
- ・uCosminexus Application Server Enterprise 07-00以降
- ・uCosminexus Service Platform 07-00以降
- ・uCosminexus Application Server Smart Edition 07-00以降

uCosminexus Portal Framework - Lightの場合は次のどれかになります。

- ・uCosminexus Application Server Standard 07-00以降
- ・uCosminexus Application Server Smart Edition 07-00以降

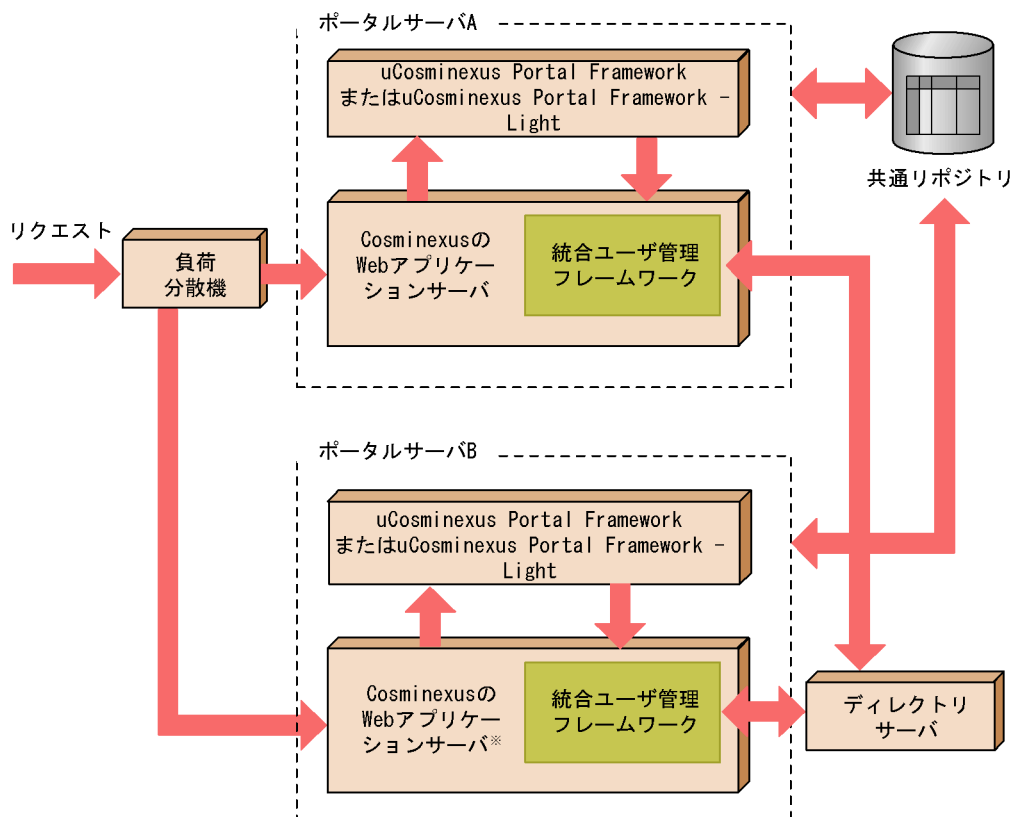
1.5.3 負荷分散機使用時の構成

負荷分散機によってリクエストを振り分ける場合に必要なプログラムプロダクトは、uCosminexus Portal Framework に必要なプログラムプロダクトだけです。

負荷分散機を使用する場合、共通リポジトリの設定が必要です。負荷分散機を使用する場合のソフトウェア構成例を次の図に示します。

1. ポータルの概要

図 1-15 負荷分散機を使用する場合のソフトウェア構成例（リポジトリにディレクトリサーバと DB を使用する場合）



注※ uCosminexus Portal Frameworkの場合は次のどれかになります。

- ・ uCosminexus Developer Standard 07-00以降
- ・ uCosminexus Developer Professional 07-00以降
- ・ uCosminexus Service Architect 07-00以降
- ・ uCosminexus Application Server Standard 07-00以降
- ・ uCosminexus Application Server Enterprise 07-00以降
- ・ uCosminexus Service Platform 07-00以降
- ・ uCosminexus Application Server Smart Edition 07-00以降

uCosminexus Portal Framework - Lightの場合は次のどれかになります。

- ・ uCosminexus Application Server Standard 07-00以降
- ・ uCosminexus Application Server Smart Edition 07-00以降

! 注意事項

生成される URL にはサーバ名が含まれるため、この構成で特定のポータルサーバに直接アクセスしている場合の URL を、別のポータルサーバでは使用できません。URL を保存して使用する場合は、必ず負荷分散機を経由してアクセスするか、または URL を取得したサーバを使用してください。

1.6 uCosminexus Portal Framework の画面構成と遷移

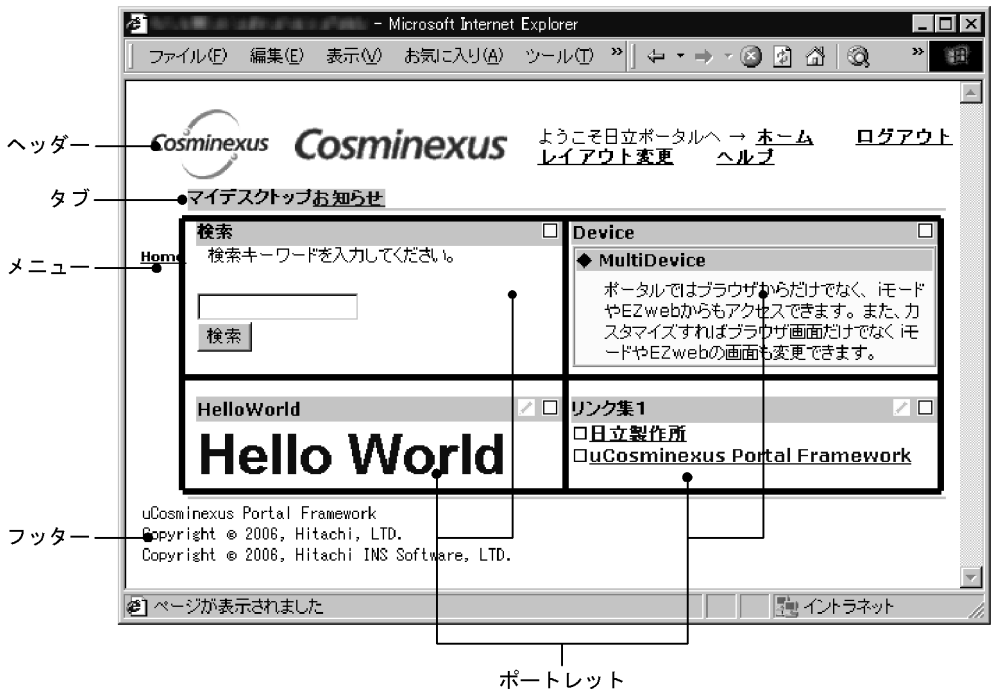
ここでは、uCosminexus Portal Framework で構築したポータルおよびポートレットの画面構成と遷移について説明します。なお、ポートレットの画面構成および遷移は、ポートレットの種類によって異なります。

1.6.1 ポータル画面の構成と遷移

(1) ポータル画面の構成

ポータル画面の構成を次の図に示します。

図 1-16 ポータル画面の構成



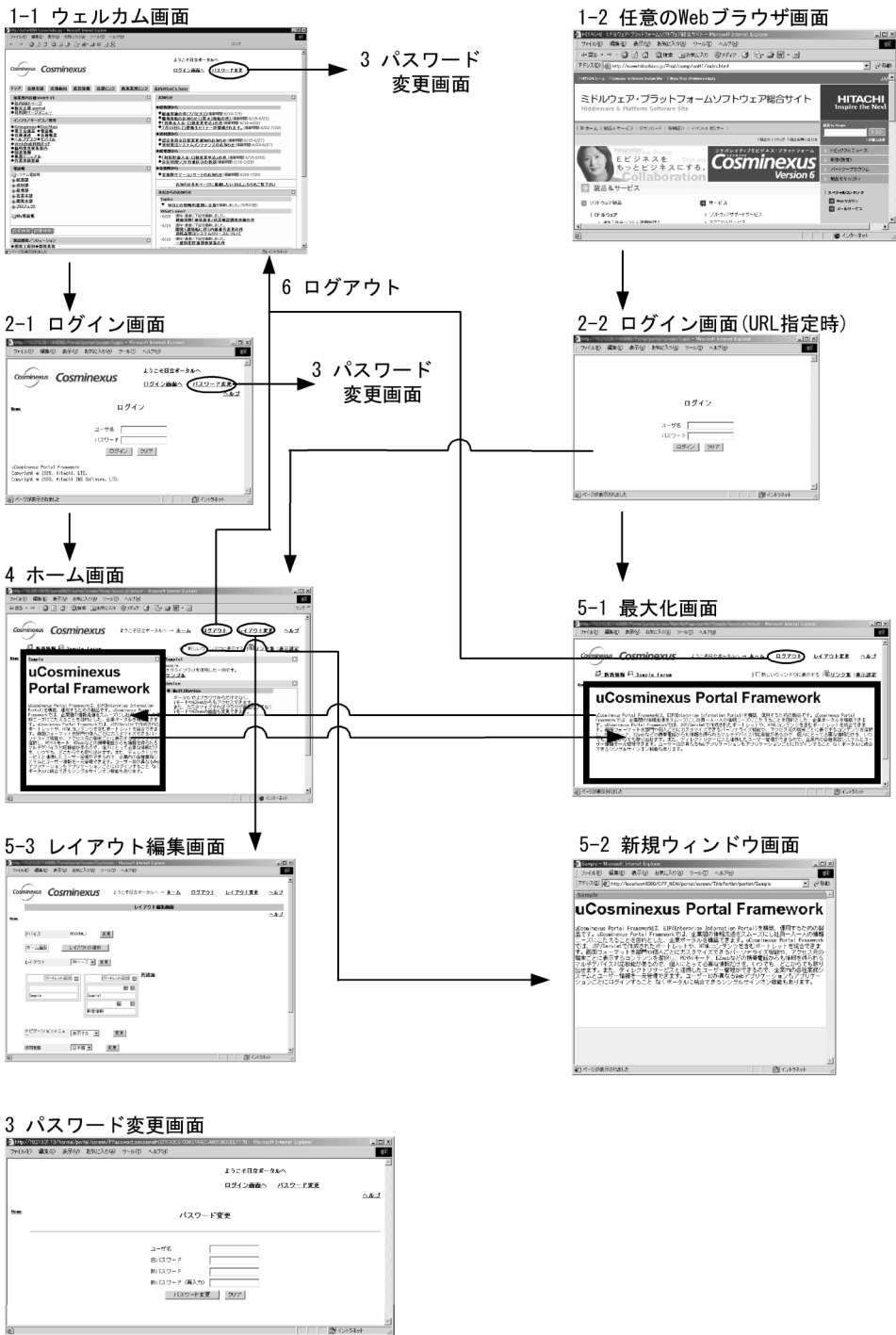
ポータル画面は、複数のポートレットとヘッダー、タブ、フッター、およびメニューの各領域から構成されます。ヘッダー、タブ、フッター、およびメニューの4つの領域はナビゲーションバーと呼び、ナビゲーションバーからログイン画面やホーム画面へのリンクなどのナビゲーションをします。また、タブを使用すると、ポートレットを分類して表示できます。

1. ポータルの概要

(2) ポータル画面の遷移

ポータル画面の遷移を次の図に示します。

図 1-17 ポータル画面の遷移の例



1. ポータルの概要

ポータル画面の遷移

1-1 ウェルカム画面

ポータルにアクセスすると、最初にポータルのウェルカム画面が表示されます。ウェルカム画面にはお知らせなどが表示されます。

1-2 任意の Web ブラウザ画面

任意の Web ブラウザ画面から、使用したいポートレットの URL を直接指定してポータル画面を表示することもできます。

2-1 [ログイン] 画面

ウェルカム画面の [ログイン画面へ] アンカーをクリックすると [ログイン] 画面が表示されます。

2-2 [ログイン] 画面 (URL 指定時)

Web ブラウザで URL を指定して呼び出した [ログイン] 画面が表示されます。URL 指定して呼び出した [ログイン] 画面からユーザ名およびパスワードを入力してログインすると、ユーザのホーム画面または URL で指定したポートレットの最大化表示画面が表示されます。なお、ログイン後にポートレットの最大化表示画面を表示するには、ポートレットの設定が必要です。設定方法については、「10.2.1 ポートレット定義ファイル (jetspeed-config.jcfg)」または「7.6.3 [その他の項目] に設定できる内容」を参照してください。

3 [パスワード変更] 画面

ウェルカム画面、または [ログイン] 画面の [パスワード変更] アンカーをクリックすると [パスワード変更] 画面が表示されます。ここで、uCosminexus Portal Framework にログインするパスワードを変更します。なお、パスワードを変更できるのはログインする前だけです。パスワードの変更方法については、マニュアル「uCosminexus Portal Framework ユーザーズガイド」を参照してください。

4 ホーム画面

[ログイン] 画面からユーザ名およびパスワードを入力してログインすると、ユーザのホーム画面が表示されます。

5-1 最大化画面

任意の画面から直接ポートレットの URL を指定したり、ホーム画面で最大化ボタンをクリックしたりすると、ポートレットの最大化画面が表示されます。最大化画面の復元ボタンで、ホーム画面に戻れます。

5-2 新規ウィンドウ画面

ホーム画面のナビゲーションメニューで [新しいウィンドウに表示する] チェックボックスをチェックした状態でメニューをクリックすると、その選択したメニューのポートレットが新規ウィンドウ画面に表示されます。

5-3 [レイアウト編集画面]

ホーム画面の [レイアウト変更] アンカーをクリックすると、[レイアウト編集画面] が表示されます。この画面から、表示するポートレットを選択したり、レイアウトを

変更したり、さらに使用言語やタイムゾーンを設定したりしてホーム画面をカスタマイズできます。カスタマイズ方法については、マニュアル「uCosminexus Portal Framework ユーザーズガイド」を参照してください。

6 ログアウト

ポータルを終了する場合は、[ログアウト] アンカーをクリックします。ログアウト後はログイン前と同様にウェルカム画面が表示されます。

ホーム画面のナビゲーションメニューは、デフォルトで表示されるように設定されています。ナビゲーションメニューを使用しない場合は、プロパティファイルの設定を変更してください。設定の変更方法については、「10.1.1(25) ナビゲーションメニューの設定」を参照してください。

画面遷移をカスタマイズして、ウェルカム画面を表示しないで [ログイン] 画面を表示したり、ログアウト後にログアウト画面を表示したりもできます。画面遷移のカスタマイズの詳細は、「5.4 画面遷移の変更」を参照してください。

! 注意事項

ポータル画面の操作では、次の点に注意してください。

- Web ブラウザの標準ツールバーにある [戻る] ボタンを使用しないでください。使用すると、Web ブラウザに表示されている情報とポータルサーバで管理している情報が異なってしまいます。
- Web ブラウザを閉じるボタンで終了した場合、カスタマイズ情報が登録されていない場合があります。

1.6.2 ポートレットの画面構成と遷移（標準 API ポートレット）

ポータルのホーム画面には、複数のポートレットを表示できます。ここでは、標準 API ポートレットの画面構成および画面遷移について説明します。

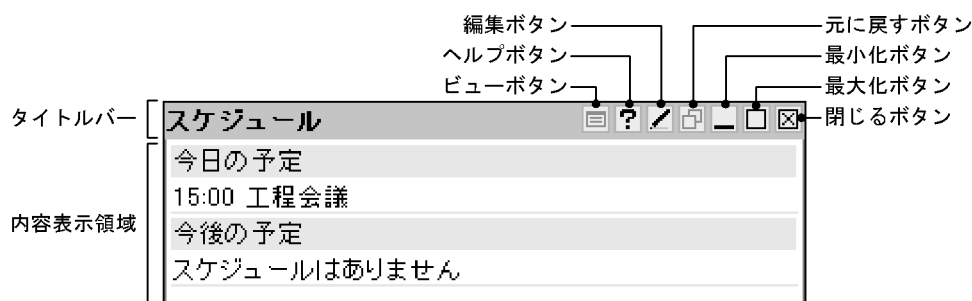
(1) ポートレットの画面構成（標準 API ポートレット）

標準 API ポートレットの画面構成を次の図に示します。

なお、次の画面は標準の画面構成です。ポートレットのタイトルバーは、画面のテンプレートを使用してカスタマイズできます。カスタマイズ方法は、「5.2.3(3) メニューベースタイトルバーテンプレート」を参照してください。

1. ポータルの概要

図 1-18 ポートレットの画面構成（標準 API ポートレット）



ポートレットは、uCosminexus Portal Framework が生成するタイトルバーと内容表示領域から構成されます。詳細を次に説明します。

タイトルバー

タイトルバーの右端には、次に示すボタンが表示されます。ただし、ポートレットを新規ウィンドウに表示している場合はボタンは表示されません。

(ビューボタン)

クリックすると、ポートレットのコンテンツが内容表示領域に表示されます。

(ヘルプボタン)

ポートレットにヘルプが設定されている場合に表示されます。クリックすると、内容表示領域にヘルプが表示されます。

(編集ボタン)

ポートレットに編集画面が設定されている場合に表示されます。クリックすると、内容表示領域にポートレットの編集画面が表示され、URL やパラメタなどを設定できます。設定できる内容はポートレットによって異なります。

(元に戻すボタン)

ポートレットが最大化表示または最小化表示されている場合に使用できます。クリックすると、最大化表示または最小化表示したポートレットを元のサイズに戻します。

(最小化ボタン)

クリックすると、ポートレットを最小化表示（タイトルバーだけを表示）します。ただし、対象のポートレットが強制表示ポートレットの場合には、このボタンは表示されません。

(最大化ボタン)

クリックすると、ポートレットを最大化表示（ポータル画面全体にこのポートレットだけを表示）します。

(閉じるボタン)

クリックすると、ポートレットを閉じます。ただし、次の場合には表示されま

せん。

- ポータル画面にポートレットが一つだけ表示されている場合
- 対象のポートレットが強制表示ポートレットの場合

内容表示領域

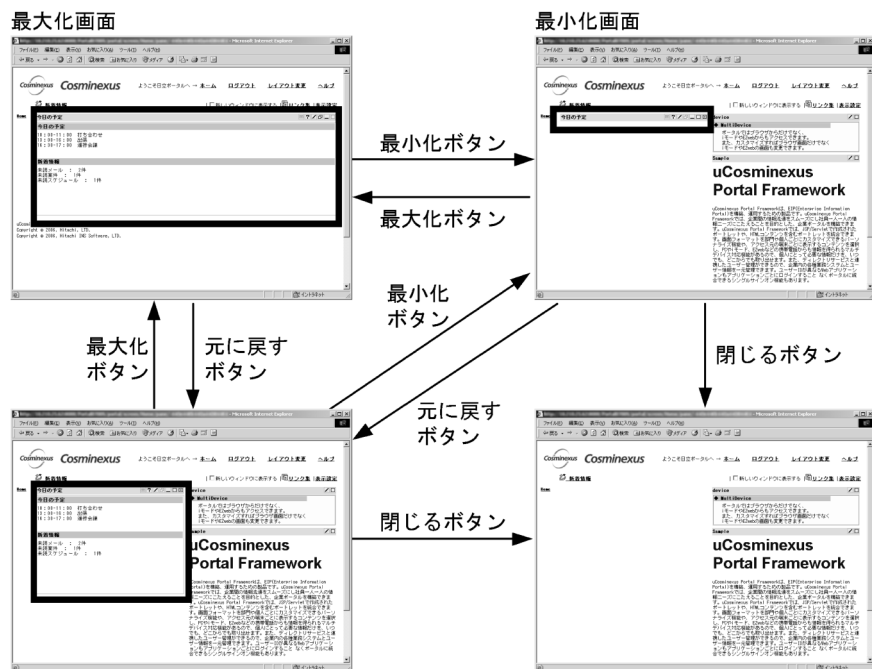
ポートレットの内容が表示されます。

なお、ポートレットの表示状態と各状態で表示されるボタンの関係の詳細は、「5.2.6(3)(a) ポートレットに表示されるボタン（標準 API ポートレットの場合）」を参照してください。

(2) ポートレットの画面遷移（標準 API ポートレット）

標準 API ポートレットの画面遷移を次の図に示します。

図 1-19 ポートレットの画面遷移（標準 API ポートレット）

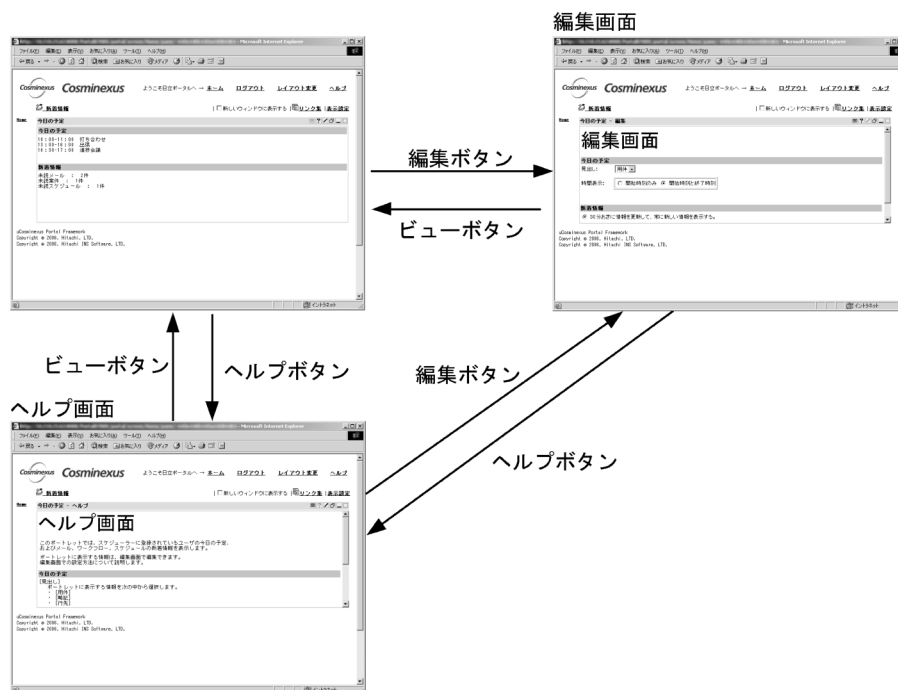


ポートレットの内容表示領域に表示される画面は3種類あります。ビューボタン、ヘルプボタン、および編集ボタンをクリックした場合は、ポートレットの大きさはそのまま、内容表示領域に表示される画面が切り替わります。

ポートレットの内容表示領域に表示される画面の遷移を次の図に示します。

1. ポータルの概要

図 1-20 ポートレットの内容表示領域に表示される画面の遷移（標準 API ポートレット）



1.6.3 ポートレットの画面構成と遷移（標準 API ポートレット以外のポートレット）

ポータルのホーム画面には、複数のポートレットを表示できます。ここでは、次に示す標準 API ポートレット以外のポートレットの、画面構成および画面遷移について説明します。

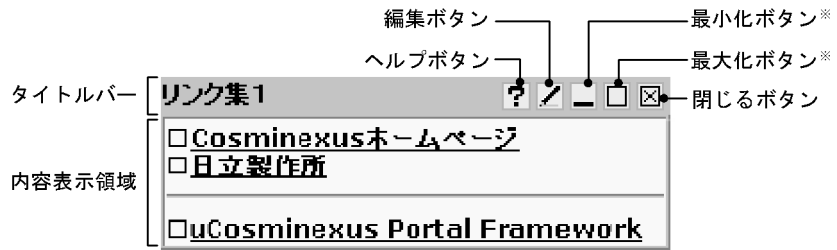
- 日立 API ポートレット
- File ポートレット
- Web ポートレット
- 分散ポートレット
- Web コンテンツポートレット


(1) ポートレットの画面構成（標準 API ポートレット以外のポートレット）

標準 API ポートレット以外のポートレットの画面構成を次の図に示します。

なお、次の画面は標準の画面構成です。ポートレットのタイトルバーは、画面のテンプレートを使用してカスタマイズできます。カスタマイズ方法は、「5.2.3(3) メニューベースタイトルバーテンプレート」を参照してください。

図 1-21 ポートレットの画面構成（標準 API ポートレット以外のポートレット）



注※ 最小化表示している場合の最小化ボタン、および最大化表示している場合の最大化ボタンは、元に戻すボタン（) に代わります。

ポートレットは、uCosminexus Portal Framework が生成するタイトルバーと内容表示領域から構成されます。詳細を次に説明します。

タイトルバー

タイトルバーの右端には、次に示すボタンが表示されます。

(ヘルプボタン)

ポートレットにヘルプが設定されている場合に表示されます。クリックすると、別のウィンドウにそのポートレットに対応するヘルプ画面が表示されます。

(編集ボタン)

ログインしたあとに表示されるホーム画面で、パーソナライズできる各ポートレットに表示されます。クリックすると、ポートレットの編集画面が最大化状態で表示され、URL やパラメタなどを設定できます。設定できる内容はポートレットによって異なります。

ただし、ポートレットを新規ウィンドウに表示している場合には、このボタンは表示されません。

(最小化ボタン)

ポートレットを最小化表示（タイトルバーだけを表示）します。

なお、このボタンはシステム管理者によって設定されている場合だけ表示されます。

ただし、次の場合には表示されません。

- ポートレットを最大化表示している場合
- ポートレットの編集画面を表示している場合
- ポートレットを新規ウィンドウに表示している場合

(最大化ボタン)

ポートレットを最大化表示（ポータル画面全体にこのポートレットだけを表示）します。

ただし、次の場合には表示されません。

- ポートレットの編集画面を表示している場合

1. ポータルの概要

- ポートレットを新規ウィンドウに表示している場合

(閉じるボタン)

クリックすると、ポートレットを閉じることができます。
ただし、次の場合には表示されません。

- ポータル画面にポートレットが一つだけ表示されている場合
- 対象のポートレットが強制表示ポートレットの場合
- システム管理者が閉じるボタンを表示しない設定にしている場合

(元に戻すボタン)

ポートレットが最大化もしくは最小化表示されたとき、または編集画面が表示されたときに表示されます。

クリックすると、最大化表示または最小化表示したポートレットを元の状態に戻します。または、編集した内容を反映しないで、編集画面を閉じます。

ただし、ポートレットを新規ウィンドウに表示している場合には、このボタンは表示されません。

内容表示領域

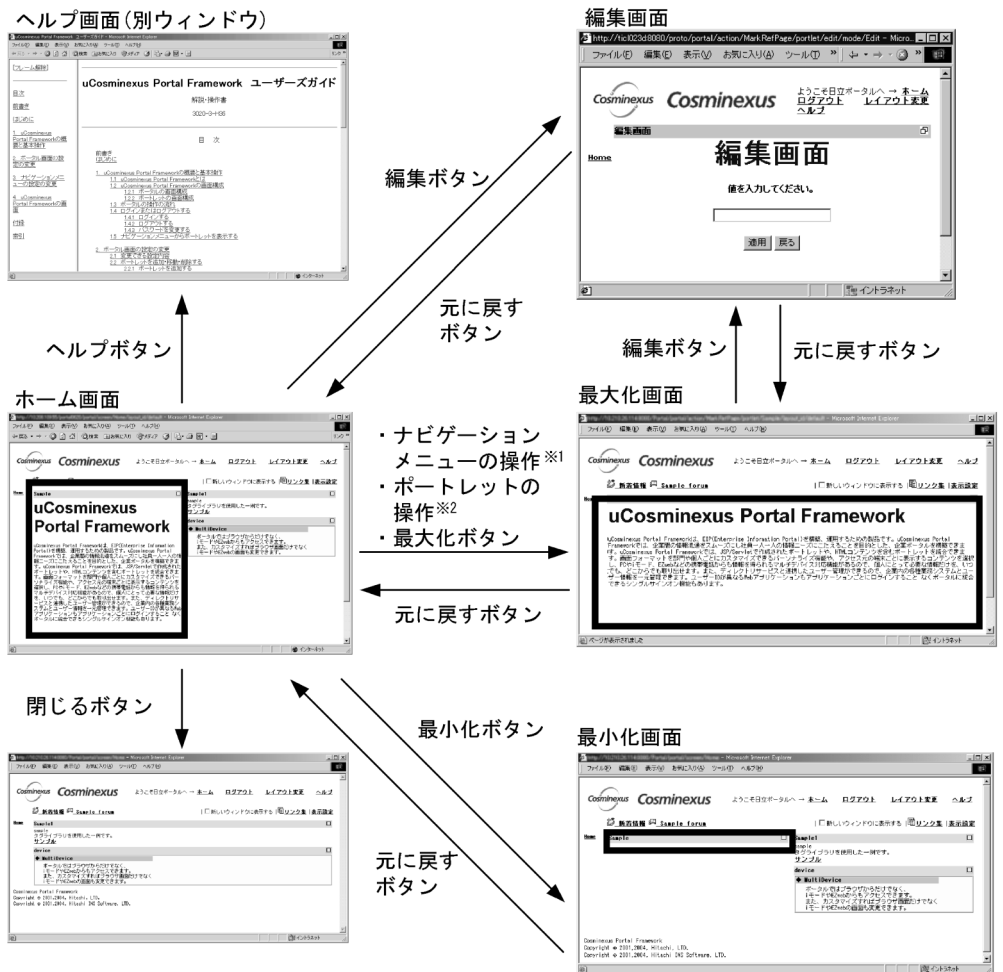
ポートレットの内容が表示されます。

なお、ポートレットの表示状態と各状態で表示されるボタンの関係の詳細は、「5.2.6(3)(b) ポートレットに表示されるボタン (標準 API ポートレット以外のポートレットの場合)」を参照してください。

(2) ポートレットの画面遷移 (標準 API ポートレット以外のポートレット)

標準 API ポートレット以外のポートレットの画面遷移を次の図に示します。

図 1-22 ポートレットの画面遷移 (標準 API ポートレット以外のポートレット)



注※1 ナビゲーションメニューでメニューをクリックしたときに、ポートレットが最大化画面で表示されることを示します。

注※2 アンカーをクリックしたときに、最大化画面に遷移する場合があります。

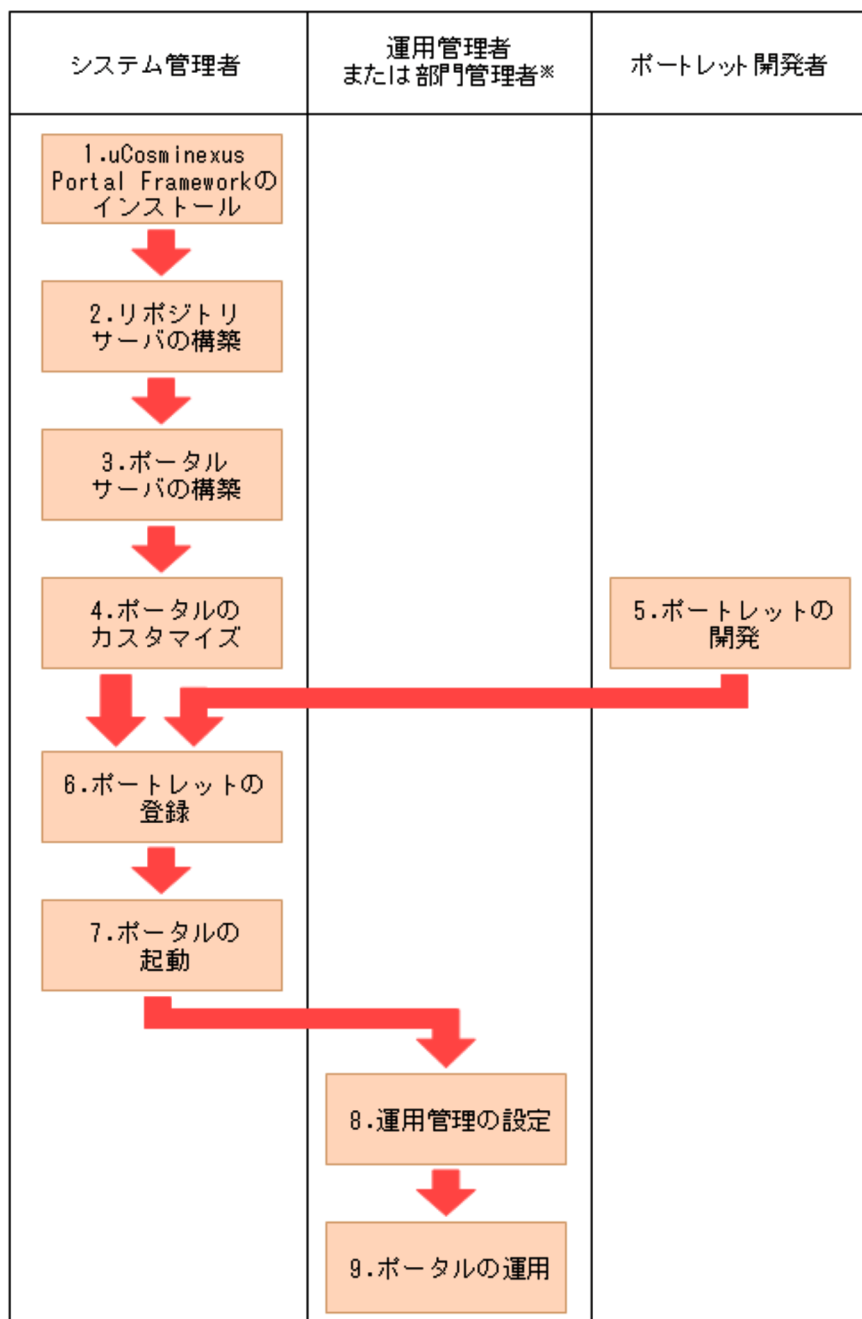
1.7 uCosminexus Portal Framework の構築

ここでは、ポータルの構築から運用までの作業の流れ、ポータルの構築に使用する Portal Manager および運用に使用する運用管理ポートレットについて説明します。

1.7.1 構築から運用までの作業の流れ

uCosminexus Portal Framework のユーザ種別ごとに、構築から運用までの作業の流れを次の図に示します。

図 1-23 uCosminexus Portal Framework の構築から運用までの流れ



注※ 部門管理者は、運用管理の一部の作業を実施します。

各作業の内容を次に説明します。

1. ポータルの概要

1. uCosminexus Portal Framework のインストール

ポータルサーバに uCosminexus Portal Framework をインストールし、uCosminexus Portal Framework の基本設定および Portal Manager のセットアップを行います。uCosminexus Portal Framework のインストールの詳細は、「2. uCosminexus Portal Framework のインストール」を参照してください。

2. リポジトリサーバの構築

アクセス制御とパーソナライズで使用するユーザ情報や設定した情報を格納するためのリポジトリサーバを構築します。uCosminexus Portal Framework では、リポジトリとしてディレクトリサーバや DB が使用できます。リポジトリサーバの構築の詳細は、「3. リポジトリサーバの構築」を参照してください。

3. ポータルサーバの構築

ポータルサイトを稼働させるためのポータルサーバを構築します。ポータルサイトを管理する単位であるポータルプロジェクトを作成して構築します。ポータルサーバの構築の詳細は、「4. ポータルサーバの構築」を参照してください。

4. ポータルのカスタマイズ

システム管理者が、ポータルをカスタマイズします。ポータル画面の編集や、レイアウト形式の設定、ログの出力形式の変更などができます。これは任意の作業です。デフォルトのポータルの設定を変更したい場合だけ作業してください。

この作業の詳細は、「5. ポータル画面のカスタマイズ」および「6. ポータル機能のカスタマイズ」を参照してください。

5. ポートレットの開発

ポートレット開発者がポータルに表示したいポートレットを開発します。この作業の詳細は、マニュアル「uCosminexus Portal Framework ポートレット開発ガイド」を参照してください。

6. ポートレットの登録

システム管理者が、Portal Manager を使用してポートレットをポータルに登録します。この作業の詳細は、「7. ポートレットの登録」を参照してください。

7. ポータルの起動

システム管理者が、構築したポータルを起動します。この作業の詳細は、「8.1 ポータルの起動と終了」を参照してください。

8. 運用管理の設定

7. で起動したポータルに、運用管理者または部門管理者がログインして、運用管理ポートレットで運用管理に必要な情報を設定します。この作業の詳細は、マニュアル「uCosminexus Portal Framework 運用管理者ガイド」を参照してください。

9. ポータルの運用

ポータル運用時に、運用管理者または部門管理者が運用管理ポートレットで運用管理の設定を変更します。この作業の詳細は、マニュアル「uCosminexus Portal Framework 運用管理者ガイド」を参照してください。

1.7.2 Portal Manager

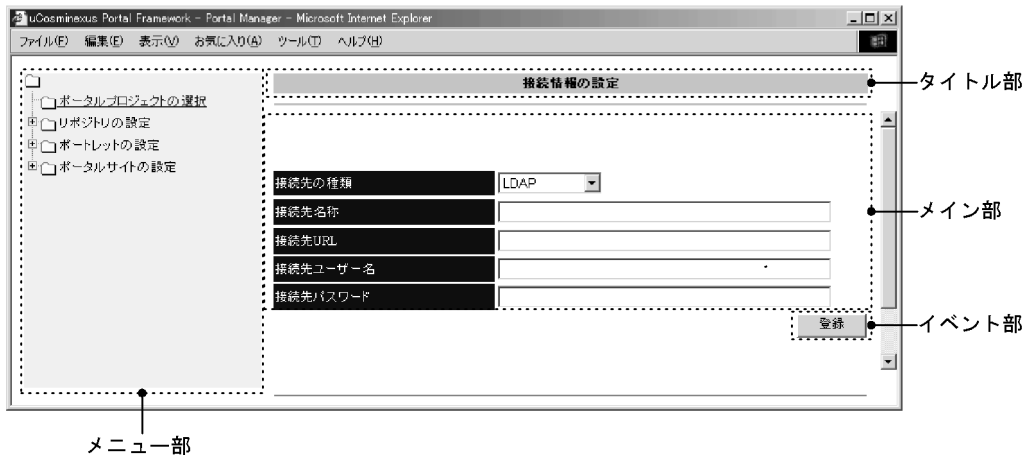
uCosminexus Portal Framework では、uCosminexus Portal Framework の構築を支援

するツールである Portal Manager を提供しています。Portal Manager を使用すればシステム管理者は Web ベースの画面で各種設定を行うことができます。

(1) Portal Manager の画面構成

Portal Manager の画面構成を次の図に示します。

図 1-24 Portal Manager の画面構成



メニュー部

Portal Manager のメニューが表示されます。メニュー構成および各メニューで設定できる内容については、「(2) Portal Manager で設定できる内容」を参照してください。

タイトル部

選択したメニューのタイトルが表示されます。

メイン部

選択したメニューの設定項目が表示されます。ここで各メニューを設定します。なお、メッセージもメイン部に表示されます。

イベント部

登録や削除などのイベントを実行するボタンが表示されます。

(2) Portal Manager で設定できる内容

Portal Manager のメニュー構成、および各メニューで設定できる内容について次の表に示します。

1. ポータルの概要

表 1-3 Portal Manager のメニュー構成および設定できる内容

メニュー構成			設定できる内容
第 1 階層	第 2 階層	第 3 階層	
ポータルプロジェクトの選択	-	-	ポータルを構築するときにポータルプロジェクトを新規に作成したり、ポータルの設定を変更するときにポータルプロジェクトを選択したりします。 詳細は、「4.2 uCosminexus Portal Framework のセットアップ」を参照してください。
リポジトリの設定	ログインモジュールの登録	-	uCosminexus Portal Framework にログインするときに使用する、認証モジュールを登録します。 詳細は、「4.3 ログインするための設定」を参照してください。
	接続情報	新規作成	接続情報（リポジトリにアクセスするために必要な、リポジトリの種類や URL などの情報）を新規に作成します。 詳細は、「4.4.1 リポジトリの設定（ディレクトリサーバ）」または「4.5.2 リポジトリの設定（DB）」を参照してください。
		修正	接続情報を修正します。 詳細は、「4.4.2 リポジトリの変更（ディレクトリサーバ）」または「4.5.3 リポジトリの変更（DB）」を参照してください。
	構成情報	新規作成	構成情報（ポータルで利用する情報を特定するためのベース DN やテーブル名などの情報）を新規に作成します。 詳細は、「4.4.1 リポジトリの設定（ディレクトリサーバ）」または「4.5.2 リポジトリの設定（DB）」を参照してください。
		修正	構成情報を修正します。 詳細は、「4.4.2 リポジトリの変更（ディレクトリサーバ）」または「4.5.3 リポジトリの変更（DB）」を参照してください。

メニュー構成			設定できる内容
第1階層	第2階層	第3階層	
	マッピング情報	ユーザ情報	リポジトリのディレクトリサーバまたはDBで使用している各情報の属性を、uCosminexus Portal Framework で使用するための設定をします。 詳細は、「4.6.1 マッピング情報の設定手順」を参照してください。
		グループ情報	
		組織単位情報	
		一括削除	設定されているマッピング情報を一括で削除します。 詳細は、「4.6.2 マッピング情報の一括削除」を参照してください。
ポートレットの設定	ポートレット定義	Multi Web Portlet	ポータルに登録するWebポートレットの種類ごとに、共通する項目（プロキシサーバのホスト、コンテンツキャッシュの有効期間など）を設定します。 詳細は、「7.8.1 共通定義（Webポートレット）」を参照してください。
		Web Page Portlet	
		Web App Portlet	
		Distributed Web App Portlet	ポータルに登録する分散ポートレットに共通する項目（プロキシサーバのホストおよびポート番号）を設定します。 詳細は、「7.9.1 共通定義（分散ポートレット）」を参照してください。
	ポートレットの追加・変更・削除	-	ポートレットを新規に登録したり、登録されているポートレットの設定を変更したりします。 詳細は、「7.6 日立APIポートレット（PAR形式以外）およびFileポートレットの設定」、 「7.8 Webポートレットの設定」、または「7.9 分散ポートレットの設定」を参照してください。

1. ポータルの概要

メニュー構成			設定できる内容
第 1 階層	第 2 階層	第 3 階層	
	PAR 形式のポートレットの追加	-	PAR ファイルをポートレットとしてポータルにデプロイします。 詳細は、「7.4 日立 API ポートレット (PAR 形式) のデプロイ」を参照してください。
	PAR 形式のポートレットの削除	-	ポータルにデプロイしたポートレットを削除します。 詳細は、「7.5 日立 API ポートレット (PAR 形式) のアンデプロイ」を参照してください。
ポータルサイトの設定	レイアウトの設定	レイアウトの基本設定	ポータル画面に表示するポートレットの最大行数や列数、横幅のサイズを設定します。 詳細は、「5.3.2 最大行・列数および横幅サイズの設定」を参照してください。
		レイアウトパターンの設定	ユーザ登録形式 (ユーザが任意に設定するレイアウトの形式) について、表示するポートレットの列数や横幅のサイズを設定します。 詳細は、「5.3.3 ユーザ登録形式の設定」を参照してください。
	エンコーディングの設定	-	デフォルトのエンコーディングを設定します。 詳細は、「6.2 デフォルトエンコーディングの設定」を参照してください。
	ポートレット並列実行の設定	-	ポータルの性能チューニングとして、ポートレットに表示されるコンテンツの並列表示と、並列表示で使用するスレッド数を設定します。また、ポートレットにコンテンツが正しく表示されるかを監視するポートレットの障害監視についても設定します。 詳細は、「6.9 性能チューニングと障害監視」を参照してください。
	ログ・トレースの設定	-	uCosminexus Portal Framework のログおよびトレースの出力について設定します。 詳細は、「8.2 障害対策」を参照してください。

メニュー構成			設定できる内容
第1階層	第2階層	第3階層	
	キャッシュのクリア	-	Web ポートレットのキャッシュを強制的にクリアします。 詳細は、「7.8.4 キャッシュクリアの実行」を参照してください。
	サーバの設定	-	運用管理者を設定します。 詳細は、「4.8 運用管理者の登録」を参照してください。

(凡例) - : 該当するメニューがありません。

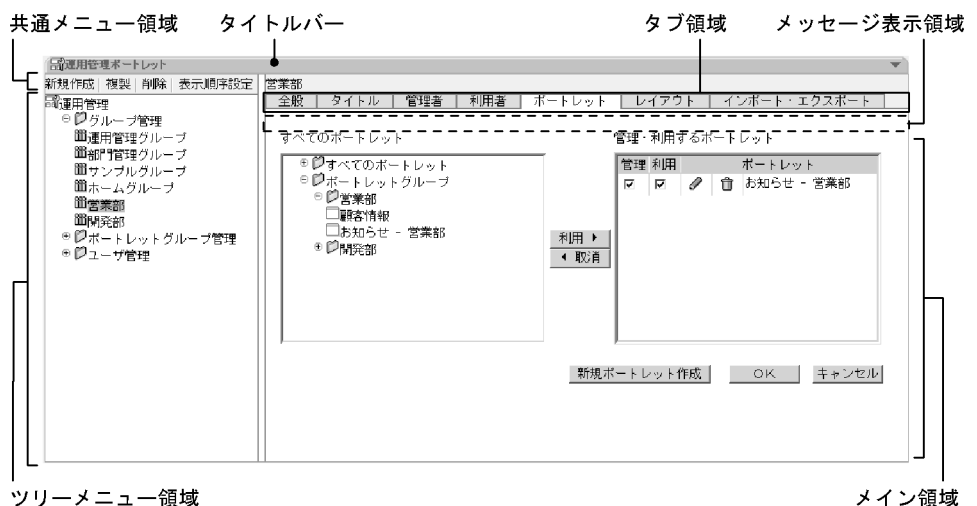
1.7.3 運用管理ポートレット

uCosminexus Portal Framework では、uCosminexus Portal Framework の運用管理の情報を設定する、運用管理ポートレットを提供しています。運用管理者および部門管理者は、運用管理ポートレットを使用して、ポータルの運用管理情報を設定することができます。なお、運用管理の詳細は、マニュアル「uCosminexus Portal Framework 運用管理者ガイド」を参照してください。

(1) 運用管理ポートレットの画面構成

運用管理ポートレットの画面構成を次の図に示します。

図 1-25 運用管理ポートレットの画面構成



タイトルバー

ポートレットのタイトルとボタンが表示されます。

1. ポータルの概要

共通メニュー領域

すべての管理項目で共通して使うメニューが表示されます。ツリーメニュー領域で選択する項目に応じて、表示されるメニュー項目も変わります。

ツリーメニュー領域

ポータル管理グループ、ポートレットグループ、組織をツリー形式で表示します。

タブ領域

ツリーメニュー領域で選択する項目に応じて、操作項目がタブ形式で表示されます。

メッセージ表示領域

運用管理者によって運用管理環境が更新されるときに、メッセージが表示されます。異常が発生して更新できない場合は、エラーメッセージが表示されます。正常に更新された場合は、「運用管理情報が保存されました」というメッセージが表示されません。

メイン領域

共通メニュー領域、ツリーメニュー領域またはタブ領域で選択した操作をするための内容が表示されます。

(2) 運用管理ポートレットで設定できる内容

運用管理ポートレットのメニュー構成、および各メニューで設定できる内容について次の表に示します。運用管理者と部門管理者で設定できる内容が異なります。

表 1-4 運用管理ポートレットのメニュー構成および設定できる内容（運用管理者）

メニュー構成		設定できる内容
ツリーメニュー領域	タブ領域	
グループ管理	全般	ポータル管理グループの設定内容を確認できます。
	タイトル	ポータル管理グループのタイトルや説明文を設定できます。
	管理者	ポータル管理グループの管理者を設定できます。
	利用者	ポータル管理グループの利用者を設定できます。
	ポートレット	ポータル管理グループで使用するポートレットを設定できます。次の設定ができます。 <ul style="list-style-type: none">ポートレットのアクセス権（管理権限および利用権限）の設定ポートレットの生成
	レイアウト	ポータル管理グループで使用する標準画面レイアウトを設定できます。次の設定ができます。 <ul style="list-style-type: none">標準画面レイアウトのアクセス権（管理権限および利用権限）の設定標準画面レイアウトの作成標準画面レイアウトの表示の設定
	インポート・エクスポート	ポータル管理グループで使用するポートレットまたはレイアウトをインポートまたはエクスポートすることができます。

メニュー構成		設定できる内容
ツリーメニュー領域	タブ領域	
ポートレットグループ管理	全般	ポートレットグループの設定内容を確認できます。
	タイトル	ポートレットグループのタイトルを設定できます。
	ポートレット	ポートレットグループに所属するポートレットを設定できます。
ユーザ管理	全般	組織情報を確認することができます。
	組織	組織情報を設定することができます。
	ユーザ	組織に所属するユーザを設定できます。

表 1-5 運用管理ポートレットのメニュー構成および設定できる内容（部門管理者）

メニュー構成		設定できる内容
ツリーメニュー領域	タブ領域	
グループ管理	全般	ポータル管理グループの設定内容を確認できます。
	ポートレット	ポータル管理グループで使用するポートレットを設定できます。次の設定ができます。 <ul style="list-style-type: none"> • ポートレットのアクセス権（管理権限および利用権限）の設定 • ポートレットの生成
	レイアウト	ポータル管理グループで使用する標準画面レイアウトを設定できます。次の設定ができます。 <ul style="list-style-type: none"> • 標準画面レイアウトのアクセス権（管理権限および利用権限）の設定 • 標準画面レイアウトの作成 • 標準画面レイアウトの表示の設定
	インポート・エクスポート	ポータル管理グループで使用するポートレットまたはレイアウトをインポートまたはエクスポートすることができます。

2

uCosminexus Portal Framework のインストール

この章では、uCosminexus Portal Framework のインストール方法、環境変数の設定、Portal Manager のセットアップ方法、および起動と終了方法について説明します。

2.1 インストール

2.2 環境変数の設定

2.3 Portal Manager のセットアップ

2.4 Portal Manager の起動と終了

2.5 Windows Server 2012 , Windows Server 2008 , Windows 8 , Windows 7
または Windows Vista 使用時の注意事項

2.1 インストール

この節では、uCosminexus Portal Framework のインストール方法について説明します。

2.1.1 前提プログラムのインストール

uCosminexus Portal Framework を構築するときにインストールが必要なプログラムについて説明します。インストール方法については、各プログラムのマニュアルを参照してください。

(1) アプリケーションサーバ

uCosminexus Portal Framework を構築するときにアプリケーションサーバに必要な前提プロダクトを次の表に示します。

表 2-1 前提となるプログラムプロダクト一覧 (アプリケーションサーバ)

Web アプリケーションサーバ	次のどれかを使用します。 <ul style="list-style-type: none"> • uCosminexus Developer Standard 08-00 以降 • uCosminexus Developer Professional 08-00 以降 • uCosminexus Service Architect 08-00 以降 • uCosminexus Application Server Standard 08-00 以降 • uCosminexus Application Server Enterprise 08-00 以降 • uCosminexus Service Platform 08-00 以降 • uCosminexus Developer 09-00 以降 • uCosminexus Application Server 09-00 以降
-----------------	---

(2) リポジトリサーバ

uCosminexus Portal Framework を構築するときにリポジトリサーバに必要な前提プロダクトを次の表に示します。使用するリポジトリサーバについては、「3.4 リポジトリの検討」を参照してください。

表 2-2 前提となるプログラムプロダクト一覧 (リポジトリサーバ)

プログラムプロダクトの種類別	プログラム
ディレクトリサーバ (リポジトリにディレクトリサーバを使用する場合に必要)	次のどれかを使用します。 <ul style="list-style-type: none"> • Sun Java(TM) System Directory Server Enterprise Edition 6.3 以降 • Oracle Directory Server Enterprise Edition 11g • Active Directory
DB および JDBC ドライバ (リポジトリに DB を使用する場合に必要)	使用できる DB 次のどれかを使用します。 HiRDB (Version8, または Version9) Oracle (Oracle9i, Oracle10g, または Oracle Database 11g) SQL Server 2005 使用できる JDBC ドライバ JDBC1.2 または JDBC2.0

注 Active Directory をご使用になる場合は、「3.5.2 リポジトリに Active Directory を使用する
場合の設定」を参照してください。

2.1.2 uCosminexus Portal Framework のインストール

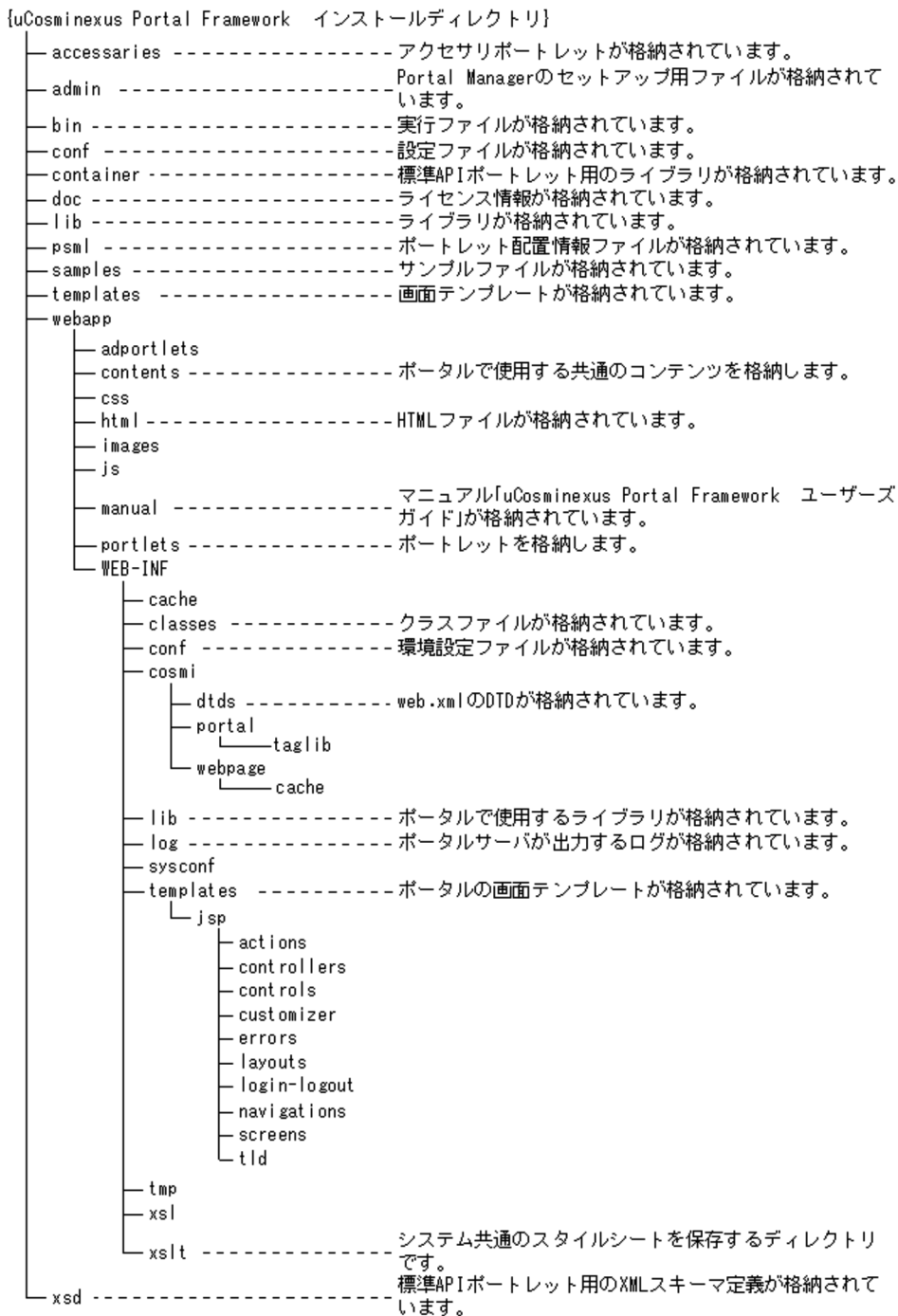
uCosminexus Portal Framework をインストールする方法を示します。uCosminexus Portal Framework は前提プログラムをインストールしたアプリケーションサーバにインストールします。

1. Administrators グループのユーザでログインします。
2. Setup.exe を起動します。
3. [次へ] ボタンをクリックします。
ユーザ名、会社名を入力するダイアログが表示されます。
4. ユーザ名、会社名を入力します。
5. [次へ] ボタンをクリックします。
インストールディレクトリを指定するダイアログが表示されます。
6. インストールディレクトリを入力します。
指定したフォルダの下にインストールされます。デフォルトのインストールディレクトリを次に示します。
<OS (Windows) のインストールドライブ>: ¥Program
Files¥Hitachi¥CosmiPortal
7. [次へ] ボタンをクリックします。
プログラムフォルダを指定するダイアログが表示されます。
8. プログラムフォルダを指定します。
デフォルトでは、「uCosminexus Portal Framework」です。
9. [次へ] ボタンをクリックします。
指定した内容を確認するダイアログが表示されます。指定した内容を確認してください。
10. [次へ] ボタンをクリックします。
インストールが始まります。インストールが終了すると、インストールが終了したことを通知するダイアログが表示されます。
11. [完了] ボタンをクリックします。
インストールが終了します。

2.1.3 uCosminexus Portal Framework のディレクトリ構成

ディレクトリ構成を次の図に示します。

図 2-1 ディレクトリ構成



2.2 環境変数の設定

uCosminexus Portal Framework をインストールしたサーバマシンで設定する環境変数について説明します。

(1) 環境変数

Portal Manager のセットアップ, uCosminexus Portal Framework が提供するコマンドを実行するときに次の環境変数を設定する必要があります。

- JAVA_HOME
- COSMINEXUS_HOME
- PORTAL_INSTALLDIR
- COSMINEXUS_PORTAL_CLASSPATH

また, uCosminexus Portal Framework を実行するときに Web アプリケーションサーバの環境変数を設定する必要があります。Web アプリケーションサーバの環境変数については, マニュアル「Cosminexus アプリケーションサーバ V8 システム構築・運用ガイド」, またはマニュアル「Cosminexus V9 アプリケーションサーバ システム構築・運用ガイド」を参照してください。

(2) 環境変数の設定方法

[スタート] - [設定] - [コントロールパネル] - [システム]の, [詳細] タブの [環境変数] ボタンをクリックすると表示される [環境変数] ダイアログで, 次の環境変数を定義します。

表 2-3 設定する環境変数 (P-2443-7394 uCosminexus Portal Framework の場合)

変数名	値
JAVA_HOME	{Cosminexusインストールディレクトリ}¥jdk
COSMINEXUS_HOME ¹	{Cosminexusインストールディレクトリ}
PORTAL_INSTALLDIR ¹	{uCosminexus Portal Frameworkインストールディレクトリ}

2. uCosminexus Portal Framework のインストール

変数名	値
COSMINEXUS_PORTAL_C LASSPATH ¹	{uCosminexus Portal Frameworkインストールディレクトリ }¥lib¥castor.jar; {uCosminexus Portal Frameworkインストールディレクトリ }¥lib¥ecs.jar; {uCosminexus Portal Frameworkインストールディレクトリ }¥lib¥hitachiportal.jar; {uCosminexus Portal Frameworkインストールディレクトリ }¥lib¥jakarta-oro.jar; {uCosminexus Portal Frameworkインストールディレクトリ }¥lib¥portletwebsso.jar; {uCosminexus Portal Frameworkインストールディレクトリ }¥lib¥portletwebssolib.jar; {uCosminexus Portal Frameworkインストールディレクトリ }¥lib¥velocity.jar; {uCosminexus Portal Frameworkインストールディレクトリ }¥lib¥village.jar; {system_drive}:¥Program Files¥Hitachi¥HNTRLib2¥classes¥hntrlib2j.jar

注 1 インストーラによって設定されます。

表 2-4 設定する環境変数 (P-2943-7394 uCosminexus Portal Framework の場合)

変数名	値
JAVA_HOME	{Cosminexusインストールディレクトリ}¥jdk
COSMINEXUS_HOME ¹	{Cosminexusインストールディレクトリ}
PORTAL_INSTALLDIR ¹	{uCosminexus Portal Frameworkインストールディレクトリ}
COSMINEXUS_PORTAL_C LASSPATH ¹	{uCosminexus Portal Frameworkインストールディレクトリ }¥lib¥castor.jar; {uCosminexus Portal Frameworkインストールディレクトリ }¥lib¥ecs.jar; {uCosminexus Portal Frameworkインストールディレクトリ }¥lib¥hitachiportal.jar; {uCosminexus Portal Frameworkインストールディレクトリ }¥lib¥jakarta-oro.jar; {uCosminexus Portal Frameworkインストールディレクトリ }¥lib¥portletwebsso.jar; {uCosminexus Portal Frameworkインストールディレクトリ }¥lib¥portletwebssolib.jar; {uCosminexus Portal Frameworkインストールディレクトリ }¥lib¥velocity.jar; {uCosminexus Portal Frameworkインストールディレクトリ }¥lib¥village.jar; {system_drive}:¥Program Files¥Hitachi¥HNTRLib2¥classes¥hntrlib2j64.jar

注 1 インストーラによって設定されます。

2.3 Portal Manager のセットアップ

uCosminexus Portal Framework のインストール後に、次の設定をすることで Portal Manager をセットアップできます。

1. [スタート] - [プログラム] - [uCosminexus Portal Framework] - [Portal Manager セットアップ] をクリックします。

Portal Manager の J2EE サーバが作成されます。

2. SecurityManager 定義ファイル (server.policy) を設定します。

次に示すディレクトリに格納されている SecurityManager 定義ファイル (server.policy) を編集します。

格納ディレクトリ

```
{Cosminexus インストールディレクトリ}
%CC%server%usrconf%ejb%portaladmin
```

SecurityManager 定義ファイル (server.policy) に次の設定を追加します。

```
grant codeBase
"file:{uCosminexus Portal Frameworkインストールディレクトリ}/admin/
appid/PortalSetup/-" {
    permission java.lang.RuntimePermission "loadLibrary.*";
    permission java.lang.RuntimePermission "queuePrintJob";
    permission java.lang.RuntimePermission "setFactory";
    permission java.lang.RuntimePermission "getClassLoader";
    permission java.lang.RuntimePermission "createClassLoader";
    permission java.lang.RuntimePermission "accessDeclaredMembers";
    permission java.lang.RuntimePermission
"accessClassInPackage.sun.misc";
    permission java.lang.RuntimePermission "readFileDescriptor";
    permission java.lang.RuntimePermission "modifyThread";
    permission java.lang.RuntimePermission "modifyThreadGroup";
    permission java.lang.RuntimePermission "stopThread";
    permission java.net.SocketPermission "*", "connect,resolve";
    permission java.io.FilePermission "<<ALL FILES>>",
"read,write,delete,execute";
    permission java.util.PropertyPermission "*", "read, write";
};
```

3. J2EE サーバをカスタマイズします。

次に示すディレクトリに格納されているユーザプロパティファイル (usrconf.properties) にポート番号を設定します。

格納ディレクトリ

```
{Cosminexus インストールディレクトリ}
%CC%server%usrconf%ejb%portaladmin
```

同一マシンで複数の J2EE サーバを同時に起動する場合、使用するポート番号が重ならないように、usrconf.properties ファイルのユーザ定義を正しく設定する必要があります。

2. uCosminexus Portal Framework のインストール

ります。ポート番号の設定については、次の説明を参照してください。

- 「4.2.4(2) ポート番号の変更」
- マニュアル「Cosminexus アプリケーションサーバ V8 リファレンス 定義編 (サーバ定義)」, または「Cosminexus V9 アプリケーションサーバ リファレンス 定義編 (サーバ定義)」

ユーザプロパティファイル (usrconf.properties) の設定例を以下に示します。

```
ejbserver.http.port=8080
```

なお、コマンド (pmsetup.bat) を使用して Portal Manager をセットアップする方法もあります。pmsetup.bat コマンドの詳細は、「10.3 uCosminexus Portal Framework のコマンド」を参照してください。

別の PC から Portal Manager を使用したい場合

uCosminexus Portal Framework をインストールしたアプリケーションサーバとは別の PC から Portal Manager を使用したい場合は、PortalSetup.properties ファイルとユーザプロパティファイル (usrconf.properties) を編集する必要があります。PortalSetup.properties ファイルへは、AD_IP に、Portal Manager を起動できるユーザ (システム管理者) の IP アドレスを設定します。なお、複数の IP アドレスを指定する場合は、コンマで区切って指定してください。PortalSetup.properties ファイルは、次のディレクトリ下に格納されています。

格納ディレクトリ

```
{uCosminexus Portal Framework インストールディレクトリ  
}¥admin¥conf
```

PortalSetup.properties ファイルの内容を次に示します。

```
AD_WKDIR=wk_adportlets  
AD_TRSDIR=trs_adportlets  
ADPORTLETS_HOME=adportlets  
AD_IP=IPaddress  
AD_SEP=/  

```

ユーザプロパティファイル (usrconf.properties) へは、webserver.connector.http.permitted.hosts の値に、Portal Manager へのアクセスを許可するホスト名または IP アドレスを設定します。なお、複数のホスト名または IP アドレスを指定する場合は、コンマで区切って指定してください。ユーザプロパティファイル (usrconf.properties) は次のディレクトリ下に格納されています。

格納ディレクトリ

```
{Cosminexus インストールディレクトリ  
}¥CC¥server¥usrconf¥ejb¥portaladmin
```

ユーザプロパティファイル (usrconf.properties) の設定例を以下に示します。

```
webserver.connector.http.permitted.hosts=IPaddress, IPaddress
```

! 注意事項

- 09-00 より前のバージョンからバージョンアップする場合、PortalSetup.properties ファイルは製品出荷時の状態に戻ります。別の PC から Portal Manager を使用する設定を行っている場合は、再セットアップ後に再度別の PC から Portal Manager を使用する設定を行ってください。
- J2EE サーバで使用するポート番号を変更して、Portal Manager のセットアップを行う場合は、次の手順で J2EE サーバを設定後に PortalManager のセットアップを行ってください。

1. J2EE サーバのセットアップ

Cosminexus の cjsetup コマンドで J2EE サーバをセットアップしてください。J2EE サーバ名は「portaladmin」としてください。なお、cjsetup コマンドについては Cosminexus のマニュアルを参照してください。

2. J2EE サーバをカスタマイズします

次に示すディレクトリに格納されているユーザプロパティファイル (usrconf.properties) にポート番号を設定します。

格納ディレクトリ

```
{Cosminexus インストールディレクトリ}
¥CC¥server¥usrconf¥ejb¥portaladmin
```

なお、ネーミングサービスのポート番号の設定を変更した場合、PortalSetup.properties ファイルにネーミングサービスの指定を設定する必要があります。

PortalSetup.properties ファイルの設定例を次に示します。

```
jp.co.hitachi.soft.portal.tools.commandarguments=-nameserver
corbaname::localhost:901
```

- PortalManager は Cosminexus のパフォーマンストレーサは使用しません。このため、パフォーマンストレーサのログに、KFCT75500-E および KDJE30300-W が出力されません。監視対象から除外してください。

2.4 Portal Manager の起動と終了

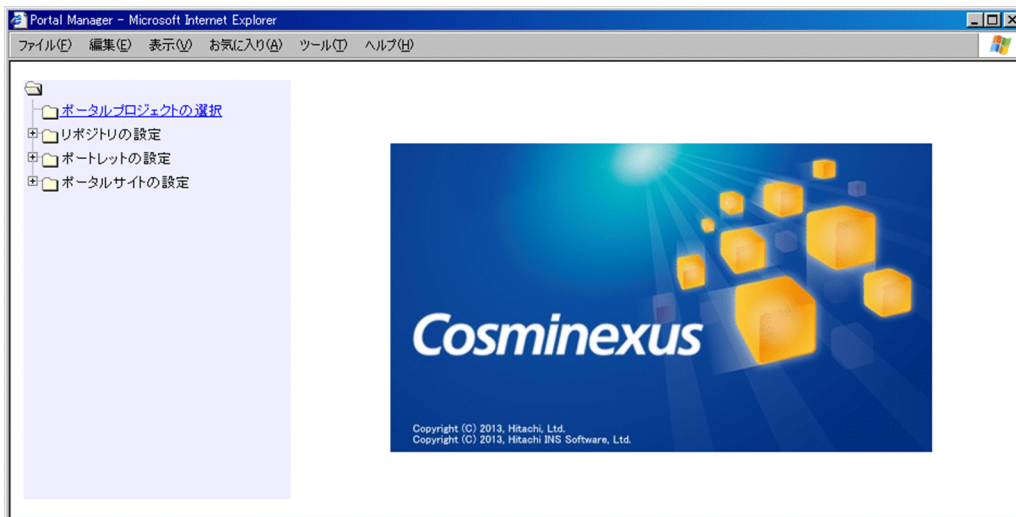
ここでは、Portal Manager の起動方法および終了方法について説明します。

2.4.1 Portal Manager の起動方法

Portal Manager の起動方法について説明します。

1. [スタート] - [プログラム] - [uCosminexus Portal Framework] - [Portal Manager 起動] を選択します。
Portal Manager の J2EE サーバが起動されます。
2. [スタート] - [プログラム] - [uCosminexus Portal Framework] - [Portal Manager] を選択します。
Portal Manager の画面が表示されます。表示される画面を次の図に示します。

図 2-2 Portal Manager 起動時の画面



! 注意事項

上記の手順で Portal Manager を起動できない場合は、J2EE サーバで使用するポート番号がほかで使用されている可能性があります。

usrconf.properties ファイルに設定されている次のポート番号が他と重複しないよう設定してください。

- ejbserver.http.port (内蔵 HTTP サーバのポート)
- webserver.connector.ajp13.port (Web コンテナとの通信用ポート)
- ejbserver.naming.port (ネーミングサービスのポート番号)
- ejbserver.rmi.naming.port (RMI レジストリのポート番号)

なお、ネーミングサービスのポート番号の設定を変更した場合、PortalSetup.properties ファイルにネーミングサービスの指定を設定する必要があります。PortalSetup.properties ファイルの設定例を次に示します。

```
jp.co.hitachi.soft.portal.tools.commandarguments=-nameserver
corbaname::localhost:901
```

また、内蔵 HTTP サーバのポート番号の設定を変更した場合、[スタート]メニューから Portal Manager を起動できません。次の手順でコマンドから Portal Manager を起動してください。

1. [スタート] - [プログラム] - [uCosminexus Portal Framework] - [Portal Manager 起動]

Portal Manager の J2EE サーバが起動されます。

2. Portal Manager を起動します。

Web ブラウザ上で次の URL を指定します。

```
http://{Portal Manager のサーバ名称}:{ポート番号}/PortalSetup/admin/portalsetup/index.jsp
```

ポート番号の設定の詳細は、マニュアル「Cosminexus アプリケーションサーバ V8 リファレンス 定義編 (サーバ定義)」, または「Cosminexus V9 アプリケーションサーバ リファレンス 定義編 (サーバ定義)」を参照してください。

2.4.2 Portal Manager の終了方法

Portal Manager の終了方法について説明します。

1. Portal Manager の画面で Web ブラウザの閉じるボタンをクリックします。

Portal Manager の画面が閉じます。

2. [スタート] - [プログラム] - [uCosminexus Portal Framework] - [Portal Manager 停止] を選択します。

Portal Manager の J2EE サーバが終了します。

2.5 Windows Server 2012 , Windows Server 2008 , Windows 8 , Windows 7 または Windows Vista 使用時の注意事項

ここでは、Windows Server 2012、Windows Server 2008、Windows 8、Windows 7 または Windows Vista で、uCosminexus Portal Framework を使用してポータルを構築、運用する場合の注意事項について説明します。

2.5.1 管理者特権で実行する必要がある操作

ここでは、Windows Server 2012、Windows Server 2008、Windows 8、Windows 7 または Windows Vista を使用している場合で、管理者特権で実行する必要がある操作について説明します。なお、システムドライブを C ドライブとして説明します。

(1) uCosminexus Portal Framework が提供するコマンドの使用

uCosminexus Portal Framework が提供するコマンドは、管理者特権で実行する必要があります。uCosminexus Portal Framework が提供するコマンドは、「管理者：コマンドプロンプト」で実行してください。

「管理者：コマンドプロンプト」は、Windows Server 2008 または Windows Vista で提供されている機能を使用して起動してください。起動方法の例を次に示します

1. [スタート] ボタンをクリックします。
2. [プログラム] - [アクセサリ] を選択します。
3. [コマンド プロンプト] を右クリックして、[管理者として実行] をクリックします。

管理者のパスワードまたは確認を求められた場合は、画面の指示に従って、パスワードを入力するか、または確認情報を提供してください。

(2) uCosminexus Portal Framework が提供する定義ファイルの更新

<OS (Windows) のインストールドライブ >:\Program Files 以下のディレクトリにある定義ファイルをメモ帳などのテキストエディタで更新する場合は、テキストエディタを右クリックして、[管理者として実行] をクリックして管理者特権で起動し、更新してください。

(3) Portal Manager の使用

Portal Manager のセットアップ、起動および停止は管理者特権で実行する必要があります。

Portal Manager のセットアップを管理者特権で実行する方法の例を次に示します。

1. [スタート] ボタンをクリックします。
2. [プログラム] - [uCosminexus Portal Framework] を選択します。
3. [Portal Manager セットアップ] を右クリックして, [管理者として実行] をクリックします。

管理者のパスワードまたは確認を求められた場合は, 画面の指示に従って, パスワードを入力するか, または確認情報を提供してください。

3

リポジトリサーバの構築

この章では、リポジトリサーバの構築方法について説明します。

3.1 リポジトリサーバの構築手順

3.2 ユーザ管理情報の検討

3.3 共通情報の検討

3.4 リポジトリの検討

3.5 ユーザ管理情報用リポジトリにディレクトリサーバを使用する場合の設定

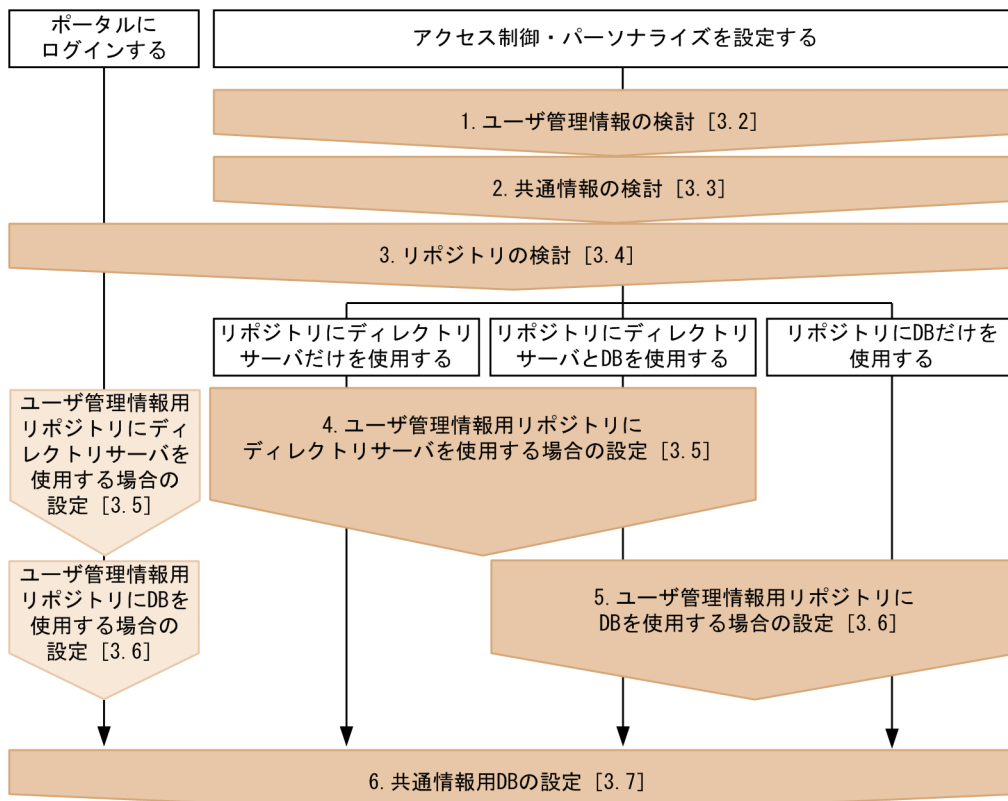
3.6 ユーザ管理情報用リポジトリに DB を使用する場合の設定


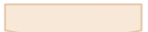
3.7 共通情報用 DB の設定

3.1 リポジトリサーバの構築手順

リポジトリサーバの構築手順を次に示します。なお、図中の [] で囲まれた数字は、参照先を表します。

図 3-1 リポジトリサーバの構築手順



(凡例)  : 必須  : 任意

ポータルの使用目的は大きく分けて次の 2 種類があります。

- ポータルでユーザ認証だけする
- ユーザごとにアクセス制御をしたり、ポータル画面をカスタマイズしたりする

ここでは、それぞれの場合の構築手順について説明します。

(1) ポータルでユーザ認証だけする場合

ポータルでユーザ認証だけする場合は、図 3-1 の「ポータルにログインする」の手順に沿って構築します。

(2) ユーザごとにアクセス制御をしたり、ポータル画面をカスタマイズしたりする場合

uCosminexus Portal Framework では、アクセスできるユーザをポータル管理グループ（ポータルサイトを管理する単位）ごとに設定するアクセス制御や、ユーザごとにポータル画面のレイアウトを変更したり、特定のユーザに共通のポータル画面のレイアウト（標準画面レイアウト）を作成したりするパーソナライズを利用できます。

ポータルでユーザごとにアクセス制御やパーソナライズをする場合は、図 3-1 の「アクセス制御・パーソナライズを設定する」の手順に沿って構築します。

各手順について説明します。

1. ユーザ管理情報の検討

アクセス制御とパーソナライズで使用するユーザ管理情報を決定します。詳細は「3.2 ユーザ管理情報の検討」を参照してください。

2. 共通情報の検討

全ユーザで共通の情報（共通情報）を設定するかどうかを検討します。詳細は「3.3 共通情報の検討」を参照してください。

3. リポジトリの検討

手順 1. および手順 2. で検討した情報はリポジトリに格納されます。それぞれの情報を格納するリポジトリを検討します。詳細は「3.4 リポジトリの検討」を参照してください。

4. ユーザ管理情報用リポジトリにディレクトリサーバを使用する場合の設定

ユーザ管理情報用のリポジトリとして使用するディレクトリサーバを設置し、uCosminexus Portal Framework 用の設定をします。詳細は、「3.5 ユーザ管理情報用リポジトリにディレクトリサーバを使用する場合の設定」を参照してください。

5. ユーザ管理情報用リポジトリに DB を使用する場合の設定

ユーザ管理情報用のリポジトリとして使用する DB を設置し、uCosminexus Portal Framework 用の設定をします。詳細は、「3.6 ユーザ管理情報用リポジトリに DB を使用する場合の設定」を参照してください。

6. 共通情報用 DB の設定

共通情報用 DB を設置し、uCosminexus Portal Framework 用の設定をします。詳細は、「3.7 共通情報用 DB の設定」を参照してください。

3.2 ユーザ管理情報の検討

ユーザ管理情報とは、uCosminexus Portal Framework にログインして使用するユーザの属性や組織情報などの情報で、ユーザ認証に使用する情報やパーソナライズ情報などの格納およびアクセス制御やパーソナライズをするために使用します。ユーザ管理情報には次の情報があります。

- ユーザ情報
ログインするユーザのユーザ識別子、役職、所属組織などの属性を定義した情報です。ユーザ認証に使用する情報やパーソナライズ情報もユーザ情報に格納します。
- グループ情報
複数のユーザの集まりを定義した情報です。グループ情報にはグループに所属するユーザを定義します。
- 組織単位情報
X.501 ディレクトリモデルで定義されている組織単位 (organizationalUnit) に上位組織単位を一意に示す情報を加えた情報です。

この節では次の検討を行ってください。

- どの識別子でアクセス制御やパーソナライズするかを検討します。
- ユーザ管理情報に対応させるディレクトリサーバのエントリ属性や DB のテーブルのカラムを決定します。

この節で検討した識別子を用いて、運用管理ポートレットでアクセス制御やパーソナライズの設定をします。運用管理ポートレットの詳細については、マニュアル「uCosminexus Portal Framework 運用管理者ガイド」を参照してください。

3.2.1 アクセス制御やパーソナライズに使用する情報の検討

ここでは、アクセス制御やパーソナライズに使用する識別子について説明します。

(1) ユーザ識別子

ユーザを一意に識別する情報です。ユーザ識別子を使用すると、ユーザごとにアクセス制御やパーソナライズができます。ユーザ識別子はログイン時にも使用するため、ユーザ識別子に対応する属性やカラムを用意する必要があります。

リポジトリにディレクトリサーバを使用する場合、ユーザ識別子はディレクトリサーバのユーザエントリの属性を使用します。uid 属性などが対応します。

リポジトリに DB を使用する場合、ユーザ識別子はユーザ管理のための情報が格納されているテーブルのユーザ ID が格納されるカラムを使用します。

(2) グループ識別子

ユーザが所属するグループを表す情報です。グループ識別子を使用すると、任意のユー

ザを一つのグループにまとめて、グループごとにアクセス制御やパーソナライズができます。

リポジトリにディレクトリサーバを使用する場合、グループ識別子はディレクトリサーバのグループエントリの属性を使用します。オブジェクトクラス `groupOfUniqueNames` の `cn` 属性などが対応します。

リポジトリに DB を使用する場合、グループ識別子はグループ情報が格納されているテーブルのグループ識別子を表すカラムを使用します。

(3) 役職識別子

ユーザの役職を表す情報です。役職識別子を使用すると、役職ごとにアクセス制御やパーソナライズができます。

リポジトリにディレクトリサーバを使用する場合、役職識別子はディレクトリサーバのユーザエントリの属性を使用します。 `title` 属性などが対応します。

リポジトリに DB を使用する場合、役職識別子はユーザ管理のための情報が格納されているテーブルのユーザの役職を表すカラムを使用します。

(4) 組織単位識別子

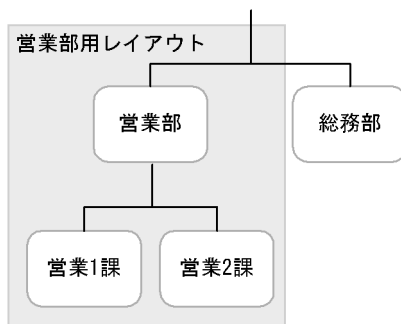
ユーザが所属する組織（組織単位）を表す情報です。組織単位識別子を利用すると、組織単位ごとにアクセス制御やパーソナライズができます。また、ある組織に設定したアクセス権や標準画面レイアウトをその配下にある組織にも適用できます。

リポジトリにディレクトリサーバを使用する場合、組織単位識別子はディレクトリサーバの組織単位情報を示すエントリの属性を使用します。 `ou` 属性が対応します。

リポジトリに DB を使用する場合、組織単位識別子は組織単位情報が格納されているテーブルの組織単位識別子を表すカラムを使用します。

組織単位識別子の使用例を次の図に示します。

図 3-2 組織単位識別子の使用例



上記の図の営業部に設定したアクセス権や標準画面レイアウトは、営業1課および営業

3. リポジトリサーバの構築

2 課にも引き継がれます。

3.2.2 リポジトリ項目の検討

ここでは、アクセス制御やパーソナライズに使用する識別子に対応させるリポジトリの項目（ディレクトリサーバのエントリ属性や DB のテーブルのカラム）について説明します。

(1) ユーザ情報

ユーザ情報はログインするユーザ単位にユーザエントリを作成します。ユーザ情報で使用する項目を次に示します。

表 3-1 ユーザ情報で使用する情報

ユーザ情報で使用する項目	説明	必須
ユーザ ID	ログインするユーザの ID です。ユーザ識別子として使用します。	
ユーザ表示名	ログインするユーザの表示名です。運用管理ポータルでユーザ管理を行う場合に必要な項目です。	×
パスワード	ログインするユーザのパスワードです。ユーザ ID とパスワードでログインする場合に必要な項目です。	×
パーソナライズ情報を表すキー	ユーザのパーソナライズ情報を格納する項目です。ユーザごとにパーソナライズをする場合に必要な項目です。	×
役職情報	ユーザの役職情報です。役職識別子として使用します。役職識別子を使用する場合に必要な項目です。	×
所属情報	ユーザの所属組織を示します。組織単位識別子を使用する場合に、ユーザが所属する組織の組織単位識別子を格納します。複数の組織に所属することはできません。	×

(凡例) : 必須 × : 任意

ユーザ情報には、上記のほかに任意の項目を追加することができます。任意に追加した項目をユーザ定義項目と呼びます。ユーザ定義項目は、アクセス制御やパーソナライズに使用することができます。

(2) グループ情報

uCosminexus Portal Framework がサポートしているグループ情報の仕様を次に示します。

- グループにはメンバを配置する
- 各グループには複数のメンバを配置できる

- 各メンバは複数のグループに所属できる

グループ情報で使用する項目を次に示します。

表 3-2 グループ情報で使用する項目

グループ情報で使用する項目	説明	必須
グループ名	グループの名称です。グループ識別子として使用します。	
所属メンバー	グループに所属するメンバの情報です。	
上位グループを表すキー	上位グループの情報です。ディレクトリサーバの場合に指定できます。	×

(凡例) : 必須 × : 任意

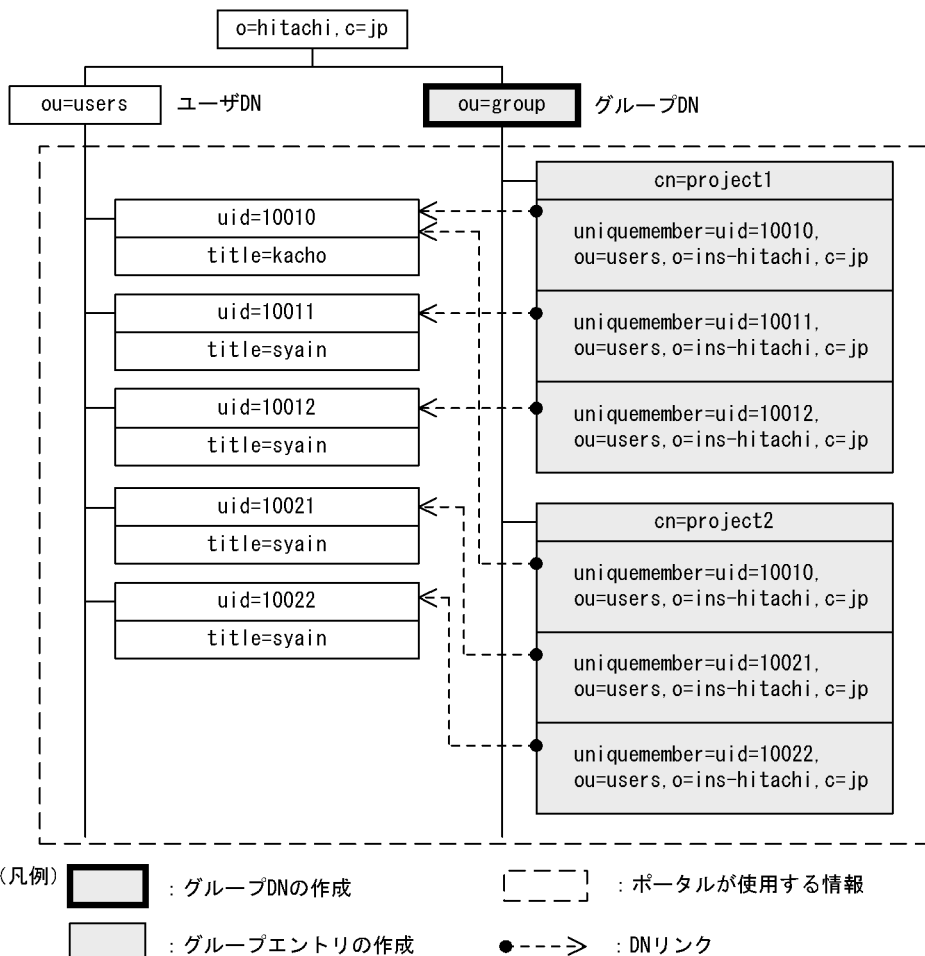
グループ情報はディレクトリサーバとDBで作成方法が異なります。ディレクトリサーバとDBでグループ情報を作成する例を次に説明します。

(a) リポジトリにディレクトリサーバを使用する場合

リポジトリにディレクトリサーバを使用する場合、グループ単位にグループエントリを作成します。グループエントリの作成例を次の図に示します。

3. リポジトリサーバの構築

図 3-3 ディレクトリサーバ構成



各グループエントリには、オブジェクトクラス `groupOfUniqueNames` の属性である `uniquemember` に、ユーザエントリの DN を設定します。複数のメンバを配置する場合は、複数のユーザエントリの DN を設定します。

(b) リポジトリに DB を使用する場合

リポジトリに DB を使用する場合、グループ識別子はグループ情報が格納されているテーブルのグループ名を表すカラムを使用します。

グループ情報が格納されているテーブルの例を次の図に示します。

図 3-4 グループ情報が格納されているテーブル例

グループ名	所属メンバー
project1	taro
project1	hanako
project2	hitachi
project2	taro
⋮	⋮

グループエントリに所属するメンバを表すカラムに、ユーザ識別子を格納します。例えば、上の図の例では、所属するメンバを表すカラム（所属メンバー）でユーザ（taro）を検索すると、project1 および project2 がグループ識別子として作成されます。

（3）組織単位情報

uCosminexus Portal Framework がサポートしている組織階層の仕様を次に示します。

- 上位組織が複数の下位組織を持てる
- 各組織には複数のメンバを配置できる
- 各メンバは複数の組織に所属できない（兼務できない）

組織単位情報で使用する項目を次に示します。

表 3-3 組織単位情報で使用する項目

組織単位情報で使用する項目	説明	必須
組織単位 ID	組織情報の ID です。組織単位識別子として使用します。	
組織表示名	組織の表示名として使用します。運用管理ポータルで組織ツリーを表示する場合に必要な項目です。	×
上位組織を表すキー	この組織が所属する上位の組織情報の組織単位識別子の情報です。	

（凡例） : 必須 × : 任意

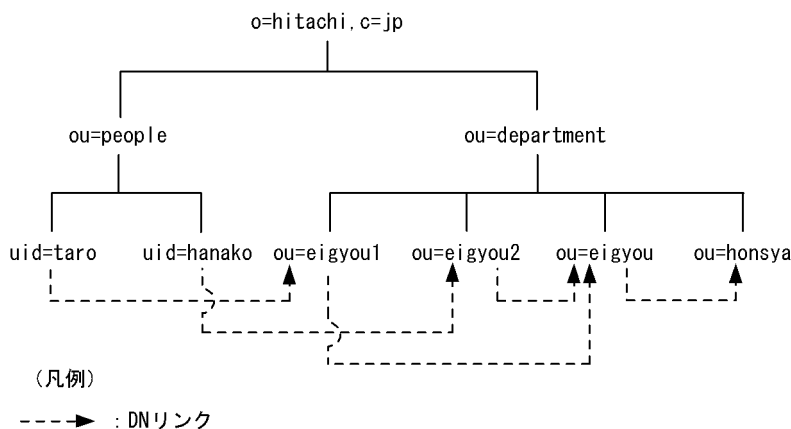
ディレクトリサーバと DB で組織単位情報を作成する場合の例を次に説明します。

（a）リポジトリにディレクトリサーバを使用する場合

ディレクトリサーバでの組織単位の例を次の図に示します。

3. リポジトリサーバの構築

図 3-5 ディレクトリサーバでの組織単位の例



組織単位エントリには、組織階層を表現するために、上位組織を表すキーに上位組織を示す DN を格納します。最上位の組織には、上位組織を示す DN を格納しません。例えば、eigyoun1 と eigyoun2 は、図 3-4 の営業部に所属するので、eigyoun1 と eigyoun2 の組織単位エントリには eigyoun の組織単位エントリの DN を格納します。また、honsya は最上位組織なので、ほかの組織単位エントリの DN を格納しません。

ユーザエントリには、ユーザが所属する組織単位の組織単位エントリの DN を格納します。これによって、ユーザとそのユーザが所属する組織単位を結び付けます。例えば、図 3-5 の uid=taro のユーザは eigyoun1 に所属するので、eigyoun1 の組織単位エントリの DN を格納します。eigyoun1 は、組織階層で eigyoun および honsya に所属するので、eigyoun1 に所属する uid=taro のユーザは、eigyoun1、eigyoun、および honsya の三つの組織に所属していると考えます。そのため、uid=taro のユーザエントリに格納した eigyoun1 の組織単位エントリの DN を基に、eigyoun1、eigyoun、および honsya の三つの組織単位識別子が生成されます。同様に uid=hanako のユーザは eigyoun2 に所属するので、eigyoun2、eigyoun および honsya の三つの組織単位識別子が生成されます。

組織単位識別子はユーザが所属するすべての組織に対して生成されるため、上位組織の honsya や eigyoun に設定したアクセス制御やパーソナライズを、下位組織の eigyoun1 や eigyoun2 に所属するユーザに適用できます。

(b) リポジトリに DB を使用する場合

組織単位情報を格納するテーブルと、ユーザ管理のための情報が格納されているテーブルの関係の例を次の図に示します。

図 3-6 組織単位情報を格納するテーブルとユーザ管理のための情報が格納されているテーブルの関係の例



(凡例)

- ▶ : 上位の組織
- > : ユーザが所属する組織

組織単位エントリには、組織階層を表現するために、上位組織を表すキーに上位組織を表すカラムを格納します。最上位の組織の場合、上位組織を表すカラムには何も格納しません。例えば、図 3-6 の「組織単位情報を格納するテーブル」で、営業 1 課 (eigyau1) と営業 2 課 (eigyau2) は営業部に所属するので、上位組織を表すカラムに営業部の組織単位 (eigyau) を格納します。また、本社 (honsya) は最上位組織なので、上位組織には何も格納しません。

ユーザエントリには、ユーザが所属する組織単位の組織単位エントリの値を格納します。これによって、ユーザとそのユーザが所属する組織単位を結び付けます。例えば、図 3-6 の「ユーザ管理のための情報が格納されているテーブル」で、ユーザ (taro) は eigyau1 に所属するので、eigyau1 の組織単位エントリのキー値を格納します。eigyau1 は、組織階層で eigyau および honsya に所属するので、eigyau1 に所属するユーザ (taro) は、eigyau1、eigyau、および honsya の三つの組織に所属していると考えます。このため、ユーザ (taro) のユーザエントリに格納した eigyau1 の組織単位エントリのキー値を基に、eigyau1、eigyau、および honsya の三つの組織単位識別子が生成されます。同様に、ユーザ (hanako) は eigyau2 に所属するので、eigyau2、eigyau、および honsya の三つの組織単位識別子が生成されます。

組織単位識別子はユーザが所属するすべての組織に対して生成されるため、上位組織の honsya や eigyau に設定したアクセス制御やパーソナライズを、下位組織の eigyau1 や eigyau2 に所属するユーザに適用できます。

3.3 共通情報の検討

共通情報とは、運用中の全ポータルサーバで共通の情報のことです。複数のポータルサーバが存在する場合に共通情報を定義すると、全ポータルサーバでその情報を共通で利用できるようになります。共通情報として定義できるのは、運用管理者が編集する次の情報です。

- 標準画面レイアウト
ウェルカム画面やホーム画面のレイアウトの情報です。共通情報として定義しない場合は、各ポータルサーバのポートレット配置情報ファイル（PSML ファイル）で管理します。
- ポータル管理グループ
ポータルに登録された標準画面レイアウトやポートレットを利用したり変更したりする権限をどのユーザに与えるか管理するための情報です。共通情報として定義しない場合は、各ポータルサーバのポータル管理グループ定義ファイル（EmPowerment.xml ファイル）で管理します。
- ポートレットグループ
ポートレットグループの名称や階層関係の定義情報、およびポートレットの名称や所属しているポートレットグループなどの登録情報です。共通情報として定義しない場合は、各ポータルサーバのポータル管理グループ定義ファイル（EmPowerment.xml ファイル）で管理します。
- Web コンテンツポートレットのパラメタ値
Web コンテンツポートレットの名称やパラメタ設定値の定義情報です。共通情報として定義しない場合は、各ポータルサーバのパラメタ値保存ファイル（ComponentParameters.xml ファイル）で管理します。

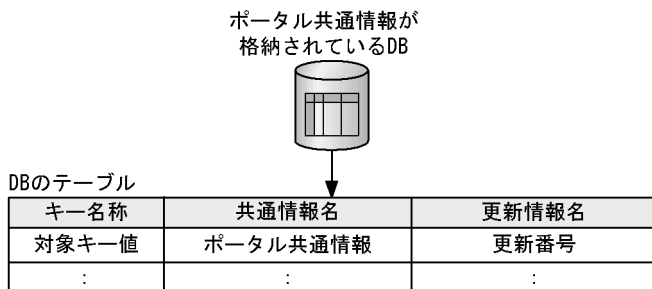
複数のポータルサーバが存在する場合にこれらの情報を共有する場合は、共通情報を定義してください。なお、ポータルサーバを複数台で構成する場合、共通情報を設定することを推奨します。また、標準画面レイアウト情報、ポータル管理グループ情報、ポートレットグループ情報、および Web コンテンツポートレットのパラメタ値情報は、どれか一つだけを共通情報とすることはできません。共通情報を定義する場合は、四つとも共通情報として設定されますのでご注意ください。

共通情報を使用する場合の前提条件

共通情報のリポジトリには DB を使用します。ディレクトリサーバは使用できません。

リポジトリの DB と、共通情報の関係を次の図に示します。

図 3-7 DB と共通情報の関係

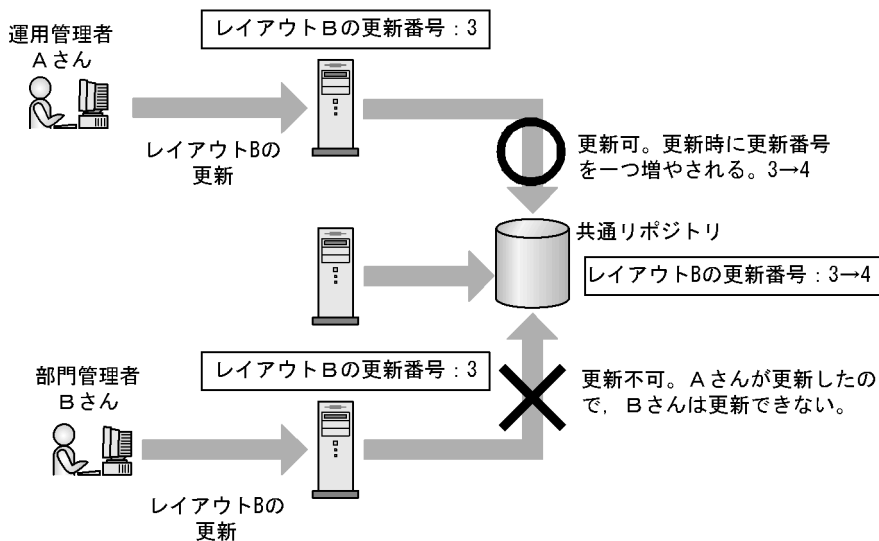


共通情報の更新時の処理

共通情報が格納されるリポジトリ（共通リポジトリ）は、別サーバから同時に更新を要求されるおそれがあります。このとき単純に上書きすると、別のサーバで設定した内容が消えてしまう場合があります。

これを回避するため、共通情報を利用する場合は更新時に排他制御が行われます。排他制御の処理を次の図に示します。

図 3-8 共通リポジトリの更新時の排他制御



共通情報を更新した内容は、即時に各サーバに反映されるのではなく、使用するポータルサーバに利用者がログインしたタイミング、または更新処理をしようとしたタイミングに、それぞれのサーバに反映されます。

共通情報で使用するリポジトリの設定については、「3.7 共通情報用 DB の設定」を参照してください。

3.4 リポジトリの検討

ユーザ管理情報や共通情報はリポジトリに格納されます。格納されたリポジトリ情報は、ポータル利用時にリポジトリから取得されます。リポジトリには、ディレクトリサーバまたは DB が使用できます。リポジトリに格納できる情報を次の表に示します。

表 3-4 リポジトリに格納する情報と格納できるリポジトリの種類

格納する情報	リポジトリの種類	
	ディレクトリサーバ	DB
ユーザ管理情報		
共通情報	-	

(凡例) : 格納できます。 - : 格納できません。

リポジトリの使用例を次に示します。

リポジトリとしてディレクトリサーバだけを使用する
すべての設定情報をディレクトリサーバに格納します。
ポータルの運用環境が次のような場合に、この使用方法を採用してください。

- ディレクトリ情報をほかのシステムでも活用する場合
- パーソナライズや標準画面レイアウトの追加・変更を頻繁に行わない場合
- 共通情報を使用しない場合

リポジトリとしてディレクトリサーバと DB を使用する
ユーザ情報の一部の属性（パーソナライズ情報や役職情報など）をディレクトリサーバから切り離して、DB に格納します。また、所属組織情報やグループ情報を DB に格納できます。

ポータルの運用環境が次のような場合に、この使用方法を採用してください。

- 構築済みのディレクトリ情報をユーザ認証に使用できる場合
- パーソナライズや標準画面レイアウトの追加・変更を頻繁に行う場合
- ポータルサーバを複数台で構成し、共通情報を使用する場合

リポジトリとして DB だけを使用する

すべての情報を DB に格納します。

ポータルの運用環境が次のような場合に、この使用方法を採用してください。

- ポータルシステム専用のリポジトリを構築する場合
- ポータルサーバを複数台で構成し、共通情報を使用する場合

ポータルの運用環境に応じて、どの方法を採用するか決定してください。

リポジトリを使用するための作業の詳細は、次の個所を参照してください。

- リポジトリとしてディレクトリサーバを使用するためのディレクトリサーバ側の設定
「3.5 ユーザ管理情報用リポジトリにディレクトリサーバを使用する場合の設定」

- リポジトリとして DB を使用するための DB 側の設定
「3.6 ユーザ管理情報用リポジトリに DB を使用する場合の設定」、および「3.7 共通情報用 DB の設定」

3.5 ユーザ管理情報用リポジトリにディレクトリサーバを使用する場合の設定

ユーザ管理情報用リポジトリとしてディレクトリサーバを使用するには、次の作業を行います。

1. ディレクトリサーバの設置

uCosminexus Portal Framework を使用する環境でディレクトリサーバを使用していない場合は、ディレクトリサーバを設置します。ディレクトリサーバを設置済みの場合、この作業は不要です。

2. ディレクトリサーバでの設定

ディレクトリサーバにリポジトリ情報を格納するため、次の設定をします。

- uCosminexus Portal Framework 専用の属性およびオブジェクトクラスの追加
- ユーザ情報の作成
- グループ情報の作成
- 組織単位情報の作成

ディレクトリサーバでの設定作業の詳細は、「3.5.1 ディレクトリサーバでの設定」を参照してください。なお、Active Directory を使用する場合は、「3.5.2 リポジトリに Active Directory を使用する場合の設定」を参照してください。

3.5.1 ディレクトリサーバでの設定

ディレクトリサーバにリポジトリ情報を格納する場合は、次の設定が必要になります。

- uCosminexus Portal Framework 専用の属性およびオブジェクトクラスの追加
- ユーザ情報の作成
- グループ情報の作成
- 組織単位情報の作成

ここでは、Sun Java System Directory Server を使用した場合の設定方法について説明します。Active Directory を使用する場合は、「3.5.2 リポジトリに Active Directory を使用する場合の設定」を参照してください。

(1) uCosminexus Portal Framework 専用の属性およびオブジェクトクラスの追加

uCosminexus Portal Framework は、ユーザが使用している標準画面レイアウト情報などのパーソナライズ情報や所属組織情報をディレクトリサーバのユーザエントリに保存します。また、uCosminexus Portal Framework 固有の組織単位識別子を参照してアクセス制御を行います。そのため、アクセス制御やパーソナライズをする場合は、パーソナライズ情報や組織単位識別子を格納するため、ディレクトリサーバに uCosminexus Portal Framework 専用の属性およびオブジェクトクラスを追加する必要があります。ただし、パーソナライズを行わない場合および組織単位識別子をアクセス制御に使用しな

い場合、追加する必要はありません。

ディレクトリサーバでの設定手順を次に示します。

1. スキーマの拡張
ディレクトリサーバに uCosminexus Portal Framework 専用の属性およびオブジェクトクラスを追加します。
2. オブジェクトクラスの追加
スキーマの拡張によって生成された属性を使用するために、ユーザエントリにオブジェクトクラスを追加します。

(a) スキーマの拡張

スキーマの拡張は、LDIF ファイル (hptlschema.ldif) を使用して設定します。

hptlschema.ldif ファイルの格納ディレクトリを次に示します。

格納ディレクトリ

```
{uCosminexus Portal Framework インストールディレクトリ
}¥samples¥config¥ldap
```

スキーマの拡張には、ldapmodify コマンドを使用します。ディレクトリサーバが起動していることを確認し、hptlschema.ldif ファイルを ldapmodify コマンドでディレクトリサーバに登録してください。

ldapmodify コマンドの構文例を以下に示します。

```
ldapmodify -h {ホスト名} -p {ポート番号} -D {管理用のバインドDN} -w {パスワード} -c -f hptlschema.ldif
```

LDIF ファイルを使用してスキーマを拡張すると、次の属性およびオブジェクトクラスが追加されます。

ディレクトリサーバに追加される属性を次の表に示します。

表 3-5 追加される属性

属性タグ名	OID	構文	説明
hptlPersonalizeInfo	1.2.392.200010.7.4.76	CIS	uCosminexus Portal Framework のパーソナライズ情報を格納します。
hptlDepartmentDN	1.2.392.200010.7.4.77	DN	所属する組織単位エントリの DN を格納します。
hptlTitleOrder	1.2.392.200010.7.4.87	CIS	予約項目です。
hptlDepartmentName	1.2.392.200010.7.4.88	CIS	予約項目です。
hptlDisplayOrder	1.2.392.200010.7.4.89	CIS	予約項目です。

3. リポジトリサーバの構築

属性タグ名	OID	構文	説明
hptlNickName	1.2.392.200010.7.4.90	CIS	予約項目です。
hptlActualUid	1.2.392.200010.7.4.91	CES	予約項目です。

注 Groupmax Collaboration と連携する場合、Groupmax Collaboration が使用します。
Groupmax Collaboration と連携しない場合でも追加は必要です。

ディレクトリサーバに追加されるオブジェクトクラスを次の表に示します。

表 3-6 追加されるオブジェクトクラス

オブジェクトクラス名 (親オブジェクトクラス)	OID	必須属性	任意属性	説明
hptlUser (Top)	1.2.392.200010.7.6.22	なし	<ul style="list-style-type: none"> • hptlPersonalizeInfo • hptlDepartmentDN • hptlTitleOrder • hptlDisplayOrder • hptlNickName • hptlActualUid 	uCosminexus Portal Framework を利用するユーザを表現するクラス (補助クラス)。
hptlOrganizationalUnit (Top)	1.2.392.200010.7.6.23	なし	<ul style="list-style-type: none"> • hptlDepartmentDN • hptlDepartmentName • hptlDisplayOrder 	uCosminexus Portal Framework を利用する組織を表現するクラス (補助クラス)。

(b) オブジェクトクラスの追加

ポータルにログインするすべてのユーザエントリにオブジェクトクラス hptluser を追加します。なお、この手順は、すでに構築済みのディレクトリサーバに uCosminexus Portal Framework 専用の属性を追加して、追加した属性を使用する場合に必要な手順です。

hptluser をユーザエントリに追加するには、LDIF 更新文を作成して ldapmodify コマンドで追加します。

LDIF 更新文の例を次に示します。

```
dn: uid=taro, ou=PEOPLE, o=HITACHI, c=JP
changetype: modify
add: objectclass
objectclass: hptluser
```

```
dn: uid=hanako, ou=PEOPLE, o=HITACHI, c=JP
changetype: modify
add: objectclass
objectclass: hptluser
```

(2) ユーザ情報の作成

ユーザ情報で使用するユーザエントリを作成します。ユーザエントリには、ユーザ ID などのユーザを一意に識別する属性が必要です。一意に識別できる属性であれば、属性名は任意に指定できます。なお、パスワードの属性を追加する場合に、パスワードを暗号化したい場合は、「(5) パスワードの暗号化」を参照してください。

ユーザエントリは次のどちらかの方法で作成します。

LDIF ファイルをインポートする

LDIF ファイルを作成してディレクトリサーバにインポートします。

サンプルの LDIF ファイルが次のディレクトリに格納されています。サンプルの

LDIF ファイルの詳細については、「(6) サンプル LDIF ファイル」を参照してください。

格納ディレクトリ

```
{uCosminexus Portal Framework インストールディレクトリ
}¥samples¥config¥ldap
```

ディレクトリサーバへのインポート方法は、各ディレクトリサーバの操作方法に従ってください。

ディレクトリサーバの管理画面から追加する

ディレクトリサーバが用意している管理画面からユーザエントリを追加できます。

ユーザ ID などの必須属性およびパスワードを設定してください。また、パーソナライズする場合は、オブジェクトクラスに `hptUser` を追加してください。

(3) グループ情報の作成

アクセス制御やパーソナライズでグループ識別子を使用する場合は、グループ情報を作成します。

グループ識別子を使用するには、グループエントリの `uniqueMember` 属性に、そのグループに所属するユーザの DN を格納します。ディレクトリサーバにグループエントリがない場合は、`cn` 属性などを使用してグループエントリを作成してください。

サンプルの LDIF ファイルを使用してグループ識別子を使用するための設定ができます。サンプル LDIF ファイルについては、「(6) サンプル LDIF ファイル」を参照してください。

(4) 組織単位情報の作成

アクセス制御やパーソナライズで組織単位識別子を使用する場合は、組織単位情報を作成します。

組織単位識別子を使用するためには、次の設定をします。組織単位エントリがない場合は、`ou` 属性などを使用して組織単位エントリを作成してください。

- 組織単位エントリにオブジェクトクラス `hptorganizationalunit` を追加する。

3. リポジトリサーバの構築

- 組織単位エントリの属性 `hptlDepartmentDN` に上位の組織単位エントリの DN を格納する。
- ユーザエントリの属性 `hptlDepartmentDN` にユーザが所属する組織単位の DN を格納する。

サンプルの LDIF ファイルを使用して組織単位識別子を使用するための設定ができます。サンプル LDIF ファイルについては、「(6) サンプル LDIF ファイル」を参照してください。

(5) パスワードの暗号化

ldif ファイルを使用してパスワードを暗号化する場合は、統合ユーザ管理フレームワークの `convpw` コマンドを使用します。

`convpw` コマンドの詳細は、マニュアル「Cosminexus アプリケーションサーバ V8 リファレンス コマンド編」、またはマニュアル「Cosminexus V9 アプリケーションサーバ リファレンス コマンド編」を参照してください。

なお、パスワードの暗号化方式は、uCosminexus Portal Framework とご使用のディレクトリサーバで一致している必要があります。

uCosminexus Portal Framework でサポートしている暗号化方式は、次の 3 種類です。

- SHA-1
- MD5
- 平文

uCosminexus Portal Framework で使用する暗号化方式と、ご使用のディレクトリサーバの暗号化方式が一致するように設定してください。特に、Sun Java System Directory Server では標準暗号方式に SSHA を採用していますが、uCosminexus Portal Framework では SSHA はサポートしていません。Sun Java System Directory Server をご使用になる場合は、Sun Java System Directory Server 側の暗号化方式を SHA-1 などに変更するようにしてください。

暗号化方式の設定については、次のマニュアルを参照してください。

- 「Cosminexus システム運用ガイド」
- 「Cosminexus 運用管理操作ガイド」

(6) サンプル LDIF ファイル

サンプルの LDIF ファイルを使用してユーザ情報や組織単位情報の作成ができます。uCosminexus Portal Framework では、次の三つのサンプル LDIF ファイルを提供しています。

- `hptlsample01.ldif`
- `hptlsample02.ldif`

- hptlsample03.ldif

作成する情報ごとにサンプル LDIF ファイルの設定例を使用して、LDIF ファイルを作成してください。

サンプル LDIF ファイル、および hptlschema.ldif ファイルの格納ディレクトリを次に示します。

格納ディレクトリ

```
{uCosminexus Portal Framework インストールディレクトリ
}¥samples¥config¥ldap
```

作成する情報ごとに LDIF ファイルの設定例を次に示します。

(a) ユーザ情報の作成

使用する LDIF ファイル

```
hptlsample01.ldif
```

hptlsample01.ldif で追加する情報

- ユーザ情報
DN: ou=PEOPLE, o=HITACHI, c=JP
追加するユーザ情報 : taro, hanako

hptlsample01.ldif の設定例

```
dn: o=HITACHI, c=JP
objectclass: top
objectclass: organization
o: HITACHI

dn: ou=PEOPLE, o=HITACHI, c=JP
objectclass: top
objectclass: organizationalunit
ou: PEOPLE

dn: uid=taro, ou=PEOPLE, o=HITACHI, c=JP
objectclass: top
objectclass: person
objectclass: organizationalPerson
objectclass: inetOrgPerson
objectclass: hptluser
uid: taro
cn;lang-ja-jp:: 5pel56uL5aSq6Y00
cn: Taro Hitachi
sn: Hitachi
givenname: Taro
title: Manager
ou: eigyou1
telephonenumber: 8-65-XXXX
telephonenumber: +81 45 862-XXXX
userpassword: taro

dn: uid=hanako, ou=PEOPLE, o=HITACHI, c=JP
objectclass: top
objectclass: person
objectclass: organizationalPerson
```

3. リポジトリサーバの構築

```
objectclass: inetOrgPerson
objectclass: hptluser
title: Chief Manager
uid: hanako
cn: Hanako Hitachi
cn;lang-ja-jp:: 5pel56uL6Iqx5a2Q
sn: Hitachi
givenname: Hanako
ou: eigyou
telephonenumber: 8-65-XXXX
telephonenumber: +81 45 866-XXXX
userpassword: hanako
```

(b) 組織単位情報の作成

使用する LDIF ファイル

```
hptlsample02.ldif
```

hptlsample02.ldif で追加する情報

- ユーザ情報
DN: ou=PEOPLE, o=HITACHI, c=JP
追加するユーザ情報 : taro, hanako
- 組織単位情報
DN: ou=department, o=HITACHI, c=JP
追加する組織単位情報 : honsya, eigyou1, eigyou2

hptlsample02.ldif の設定例

```
dn: o=HITACHI, c=JP
objectclass: top
objectclass: organization
o: HITACHI

dn: ou=PEOPLE, o=HITACHI, c=JP
objectclass: top
objectclass: organizationalunit
ou: PEOPLE

dn: uid=taro, ou=PEOPLE, o=HITACHI, c=JP
objectclass: top
objectclass: person
objectclass: organizationalPerson
objectclass: inetOrgPerson
objectclass: hptluser
uid: taro
cn;lang-ja-jp:: 5pel56uL5aSq6Y00
cn: Taro Hitachi
sn: Hitachi
givenname: Taro
title: Manager
ou: eigyou1
telephonenumber: 8-65-XXXX
telephonenumber: +81 45 862-XXXX
userpassword: taro
hptlDepartmentDN: ou=eigyou1, ou=department, o=HITACHI, c=JP

dn: uid=hanako, ou=PEOPLE, o=HITACHI, c=JP
objectclass: top
objectclass: person
```



```

objectclass: organizationalPerson
objectclass: inetOrgPerson
objectclass: hptluser
title: Chief Manager
uid: hanako
cn: Hanako Hitachi
cn;lang-ja-jp:: 5pel56uL6Iqx5a2Q
sn: Hitachi
givenname: Hanako
ou: eigyou
telephonenumber: 8-65-XXXX
telephonenumber: +81 45 866-XXXX
userpassword: hanako
hptlDepartmentDN: ou=eigyou, ou=department, o=HITACHI, c=JP

dn: ou=department, o=HITACHI, c=JP
objectclass: top
objectclass: organizationalunit
ou: department

dn: ou=honsya, ou=department, o=HITACHI, c=JP
objectclass: top
objectclass: organizationalunit
objectclass: hptlorganizationalunit
ou: honsya

dn: ou=eigyou, ou=department, o=HITACHI, c=JP
objectclass: top
objectclass: organizationalunit
objectclass: hptlorganizationalunit
ou: eigyou
hptlDepartmentDN: ou=honsya, ou=department, o=HITACHI, c=JP

dn: ou=eigyou1, ou=department, o=HITACHI, c=JP
objectclass: top
objectclass: organizationalunit
objectclass: hptlorganizationalunit
ou: eigyou1
hptlDepartmentDN: ou=eigyou, ou=department, o=HITACHI, c=JP

dn: ou=eigyou2, ou=department, o=HITACHI, c=JP
objectclass: top
objectclass: organizationalunit
objectclass: hptlorganizationalunit
ou: eigyou2
hptlDepartmentDN: ou=eigyou, ou=department, o=HITACHI, c=JP

```

(c) グループ情報の作成

使用する LDIF ファイル

```
hptlsample03.ldif
```

hptlsample03.ldif で追加する情報

- ユーザ情報
DN: ou=PEOPLE, o=HITACHI, c=JP
追加するユーザ情報 : taro,hanako
- グループ情報
DN: ou=group, o=HITACHI, c=JP
追加するグループ情報 : chief, manager

3. リポジトリサーバの構築

hptlsample03.ldif の設定例

```
dn: o=HITACHI, c=JP
objectclass: top
objectclass: organization
o: HITACHI

dn: ou=PEOPLE, o=HITACHI, c=JP
objectclass: top
objectclass: organizationalunit
ou: PEOPLE

dn: uid=taro, ou=PEOPLE, o=HITACHI, c=JP
objectclass: top
objectclass: person
objectclass: organizationalPerson
objectclass: inetOrgPerson
objectclass: hptluser
uid: taro
cn;lang-ja-jp:: 5pel56uL5aSq6Y00
cn: Taro Hitachi
sn: Hitachi
givenname: Taro
title: Manager
ou: eigyou1
telephonenumber: 8-65-XXXX
telephonenumber: +81 45 862-XXXX
userpassword: taro

dn: uid=hanako, ou=PEOPLE, o=HITACHI, c=JP
objectclass: top
objectclass: person
objectclass: organizationalPerson
objectclass: inetOrgPerson
objectclass: hptluser
title: Chief Manager
uid: hanako
cn: Hanako Hitachi
cn;lang-ja-jp:: 5pel56uL6Iqx5a2Q
sn: Hitachi
givenname: Hanako
ou: eigyou
telephonenumber: 8-65-XXXX
telephonenumber: +81 45 866-XXXX
userpassword: hanako

dn: ou=group, o=HITACHI, c=JP
objectclass: top
objectclass: organizationalunit
ou: group

dn: cn=chief, ou=group, o=HITACHI, c=JP
objectclass: top
objectclass: groupOfUniqueNames
cn: chief
uniquemember: uid=hanako, ou=PEOPLE, o=HITACHI, c=JP

dn: cn=manager, ou=group, o=HITACHI, c=JP
objectclass: top
objectclass: groupOfUniqueNames
cn: manager
uniquemember: uid=taro, ou=PEOPLE, o=HITACHI, c=JP
```

3.5.2 リポジトリに Active Directory を使用する場合の設定

リポジトリに Active Directory を使用する場合の設定について説明します。

リポジトリに Active Directory を使用する場合は、Microsoft 管理コンソール (mmc.exe) を使用し、uCosminexus Portal Framework 専用属性を追加します。

uCosminexus Portal Framework 専用属性の追加は、次の手順で行います。

1. スキーマの設定
2. uCosminexus Portal Framework 専用属性の追加

(1) スキーマの設定

Active Directory でスキーマ修正ができるように設定を変更します。

1. Microsoft 管理コンソールを起動し、[スナップインの追加と削除] で Active Directory スキーマを追加します。
2. [Active Directory スキーマ] を右クリックして [操作マスタ] を選択します。
3. [このドメインコントローラでスキーマの修正が可能] をチェックして [OK] ボタンをクリックします。

(2) uCosminexus Portal Framework 専用属性の追加

Microsoft 管理コンソールの [Active Directory スキーマ] で、次に示す属性を追加します。

表 3-7 追加する属性

属性名	OID	構文	複数值	説明
hptlPersonalizeInfo	1.2.392.200010.7.4.76	CIS	チェックする	uCosminexus Portal Framework のパーソナライズ情報を格納します。
hptlDepartment DN	1.2.392.200010.7.4.77	CIS	チェックしない	所属する組織単位エントリの DN を格納します。

注 大文字と小文字を区別しない文字列です。

ただし、表 3-7 の情報を DB に格納する場合、またはアクセス制御やパーソナライズに使用しない場合は、追加する必要はありません。

! 注意事項

Active Directory を設定する場合は、次の点に注意してください。

- スキーマ拡張時の注意
スキーマ拡張時には uCosminexus Portal Framework 添付の hptlschema.ldif を使用することはできません。Microsoft 管理ツールを使用し、「(1) スキーマの設定」でスキーマの拡張を行ってください。
 - グループを利用する際の注意
グループを利用してアクセス制御やパーソナライズをする場合、グループ名を表す属性は「Unicode 文字列」の属性を使用してください。
所属するグループを使用する場合、ユーザ情報に「distinguishedName」属性、および、グループ情報に「上位グループを表すキー」項目を定義してください。
「distinguishedName」属性は、ユーザ定義項目の追加で次の値を設定してください。
項目名：distinguishedName
属性名：distinguishedName
格納時の型：DN 型
 - 統合ユーザ管理フレームワークの実行環境設定時の注意
JAAS コンフィグレーションファイルの設定では、WebPasswordLDAPLoginModule を使用し、ユーザ属性には cn または sAMAccountName を指定してください。ログイン ID の属性名についても cn または sAMAccountName を指定してください。この場合、cn には日本語を使用することはできません。また、sAMAccountName を指定する場合、構成情報のオブジェクトクラスを表すキー属性名を sAMAccountName に指定してください。なお、WebPasswordLDAPLoginModule 以外を使用した場合はログインすることができません。
 - ou 属性の値
ou 属性の値には日本語を使用することはできません。
-

3.6 ユーザ管理情報用リポジトリに DB を使用する場合の設定

ユーザ管理情報用リポジトリとして DB を使用するには、次の作業を行います。

1. DB の設置

uCosminexus Portal Framework を使用する環境で DB を使用していない場合は、DB を設置します。DB を設置済みの場合、この作業は不要です。

2. DB の容量およびグローバルバッファ面数の計算

必要な DB の容量およびグローバルバッファ面数を計算します。DB の容量計算については、「3.6.1 DB の容量計算」を参照してください。また、グローバルバッファ面数の計算方法については、「3.6.2 グローバルバッファ面数の計算方法」を参照してください。

3. DB のセットアップ

DB にリポジトリ情報を格納するため、次の設定をします。

- ユーザ管理情報の設定（任意）
- パーソナライズ情報の設定（任意）

DB での設定作業の詳細は、「3.6.3 DB のセットアップ」を参照してください。

3.6.1 DB の容量計算

ユーザ管理情報を格納する DB には、「3.2 ユーザ管理情報の検討」で決定した識別子を含む任意のテーブルを作成します。ユーザ情報用のテーブルには識別子以外に任意の列を追加することができます。

ユーザ情報のパーソナライズ情報については、uCosminexus Portal Framework で定められたテーブルを作成して必要な情報を格納します。ただし、ユーザ情報用のテーブルにパーソナライズ情報用の列を追加し格納することもできます。

ここでは、DB を構築する際にパーソナライズ情報の容量を見積もるための、計算方法について説明します。パーソナライズ情報以外の情報については、作成するテーブルのレコード長から容量を算出してください。

(1) 容量計算をするための前提知識

容量計算をするときは、次の点に注意してください。

見積もり容量は DB 初期構築時および 50 件のデータ登録時容量から算出しています。計算方法の詳細は、HiRDB の場合は、マニュアル「スケーラブルデータベースサーバ HiRDB Version 8 システム導入・設計ガイド (Windows(R) 用)」またはマニュアル「HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R) 用)」、Oracle の場合は、Oracle のマニュアル、SQL Server の場合は、SQL Server のマニュアルを参

3. リポジトリサーバの構築

照してください。

HiRDB の場合、RD エリアはセグメント単位で確保されます。このため、容量計算で 1 セグメントに満たない場合でも、1 セグメント分は確保してください。

(2) パーソナライズ情報の容量計算

パーソナライズ情報の容量計算について説明します。容量計算に必要なパーソナライズ情報のテーブル定義は、「3.6.3(2) パーソナライズ情報の設定」を参照してください。

(a) テーブル容量

パーソナライズ情報用テーブルの容量を算出するために必要なデータを次の表に示します。

表 3-8 パーソナライズ情報用テーブル容量

項番	テーブル名称	容量 (データ件数)
1	HPTLUSER	システムに登録するユーザの最大数

(b) インデクス容量

ユーザ情報のインデクス容量の計算に必要なデータを次の表に示します。

表 3-9 パーソナライズ情報用インデクス容量計算に必要なデータ

項番	テーブル名称	インデクス名称	キー重複件数	ユニークインデクス
1	HPTLUSER	(USERNAME) ¹	システムに登録するユーザ最大数	

注 1 主キーに対するインデクスです。

(c) LOB 容量

パーソナライズ情報の LOB 容量の計算について説明します。LOB 列に格納するデータの 1 件当たりの容量の目安を次の表に示します。

表 3-10 共通知報用 LOB 容量計算

項番	テーブル名称	LOB 列	容量の目安 (バイト / 件)
1	HPTLUSER	HPTLPERSONALIZEINF 0	「(d)1 利用者当たりのパーソナライズ情報領域の算出」を参照

(d) 1 利用者当たりのパーソナライズ情報領域の算出

パーソナライズ情報領域の算出方法について説明します。

パーソナライズ情報領域の算出式

表 3-11 の項番 1 ~ 11 から必要とする機能を選択して、1 利用者当たりのパーソナライズ情報の平均サイズを算出します。

算出式を次に示します。

1 利用者当たりのパーソナライズ情報の平均サイズを求める式

$$1 \text{ 利用者当たりのパーソナライズ情報の平均サイズ}^1 = \{ (\text{必要な領域} \times \text{発生個数}) + 50 \} \times \text{パーソナライズ情報利用率}^2 \times \text{安全係数}^3$$

注 は、表 3-11 の項番 1 ~ 11 で必要な機能の総和です。

注 1 DB 格納時には zip 形式で圧縮されたサイズになります。

注 2 パーソナライズ情報の利用率は、パーソナライズ情報を利用する確率です（例：ポータルを 1,000 人利用し 150 人パーソナライズする場合、0.15 を指定します）。

注 3 1 利用者当たりのパーソナライズ情報の平均サイズには、安全係数（例：算出値の 1.2 倍）を掛けておくことを推奨します。

パーソナライズ情報領域の算出に必要な、機能ごとの領域の算出表を次に示します。平均的な利用方法を考慮して、各機能の領域を算出してください。

表 3-11 機能ごとの領域の算出表

項番	機能分類	機能名称	必要な領域 (バイト)
1	パーソナライズ	レイアウトカスタマイズ機能 ¹	画面に表示するポートレット数 × 1,100 (最大値)
2	ポートレット (Web ポートレット)	-	クッキーの平均登録個数 × クッキーの平均サイズ ²
3		プロキシまたはベーシック認証	最大ユーザ名称長 + 最大パスワード長 + 100
4		フォーム認証 ³	URL 長 ⁴ × 5 + 平均フィールドサイズ × 登録フィールド数 + 200
5	ポートレット (分散ポートレット)	-	最大ユーザ名称長 + 最大パスワード長 + 100
6	ポートレット (アクセサリポートレット)	ナビゲーションメニュー ポートレット	210,000 + 3,600 × ユーザが利用できるレイアウト数 (Collaboration・Online Community Management 連携 時はワークスペース数)
7		Information View ポートレット	640,000
8		メールポートレット	最大ユーザ名称長 + 最大パスワード長 + 50
9		iframe ポートレット	URL 長 ⁴ + 50

3. リポジットリサーバの構築

項番	機能分類	機能名称	必要な領域 (バイト)
10		リンクポートレット	(URL 長 ⁴ + リンクの説明文 ⁵ + 10) × 最大リンク数 + リンクポートレットの最大タイトル長 ⁵
11	開発した日立 API ポートレット		パーソナライズ情報を使用した場合 ⁶

注 1 レイアウトをカスタマイズした画面を利用する場合です。

注 2 期限が有効なものを対象とします。クッキーの登録個数の最大は 20、クッキーの最大サイズは 4,000 です。

注 3 フォーム認証については、Multi Web Portlet の場合は「7.8.2 登録 (Web ポートレット)」を、Multi Web Portlet 以外の場合は「10.2.4 フォーム認証定義ファイル (formbase-auth.cfg)」を参照してください。

注 4 URL 長は、URL に指定する最大サイズを指定してください (例: 400 バイトなど)

注 5 最大値は 60 文字 (120 バイト) に設定されています。標準提供のものを利用する場合は、120 として数えてください。

注 6 「setCustomizeInfo メソッド」を使用しパーソナライズ情報の書き込みをした場合です。日立 API ポートレット開発者に、パーソナライズ情報を利用できるかどうかおよび必要な領域サイズを確認してください。「setCustomizeInfo メソッド」については、マニュアル「uCosminexus Portal Framework ポートレット開発ガイド」を参照してください。

パーソナライズ情報領域の算出例

パーソナライズ情報の 1 利用者当たりの平均サイズ算出例を示します。次の機能を利用する場合の算出例について説明します。

表 3-12 パーソナライズ情報領域の算出例

項番	機能分類	機能名称	算出例
1	パーソナライズ	レイアウトカスタマイズ機能	<ul style="list-style-type: none"> 画面に表示する、平均的なポートレット数: 20 個 (最大 50 個) 画面に表示できる最大数: 1,100 $1,100 \times 20 = 22,000$ バイト
2	ポートレット (アクセサリポートレット)	リンクポートレット	リンクポートレットは 1 利用者につき、2 個利用するものとします。 <ul style="list-style-type: none"> 平均 URL 長: 100 バイト (最大 120 バイト) 平均的なリンクの説明文: 100 バイト (最大 120 バイト) 平均的なリンクポートレットの最大タイトル長: 50 バイト (最大 120 バイト) 平均的な最大リンク数: 10 個 $(100 + 100 + 10) \times 10 + 50) \times 2 = 4,300$ バイト

注 レイアウトをカスタマイズした画面を利用する場合です。

パーソナライズ情報利用率

0.15 (1,000人中150人が利用する場合)

安全係数

1.2

パーソナライズ情報の1利用者当たりの平均サイズ

$$\{(22,000\text{バイト} + 4,300\text{バイト} + 50\text{バイト}) \times 0.15\} \times 1.2$$

$$= 4,743\text{バイト}$$

(e) DB に格納される全パーソナライズ情報の容量計算

パーソナライズ情報を格納するテーブル、RD エリア、および HiRDB ファイルシステム領域の容量計算について説明します。

テーブルの行数

パーソナライズ情報用テーブルの容量を算出する計算式を次の表に示します。

表 3-13 パーソナライズ情報用テーブルの容量

項番	テーブル (LOB 列) 名称	行数
1	HPTLUSER	システムを利用するユーザの最大数
2	LOB 列 (HPTLPERSONALIZEINFO)	システムを利用するユーザの最大数

3.6.2 グローバルバッファ面数の計算方法

グローバルバッファとは、HiRDB のディスク上の RD エリアに格納されているデータを入出力するためのバッファのことで、共用メモリ上に確保されます。RD エリアまたはインデクスには、必ずグローバルバッファを割り当てます。グローバルバッファを割り当てることで、検索などの処理時間を短縮できます。

ここでは、ユーザ管理情報で使用する RD エリアに割り当てるグローバルバッファ面数の計算方法について説明します。

グローバルバッファ面数の計算方法は、DB の構成状況やオプションの内容などの条件によって異なります。RD エリアごとに用意しているパラメタを使用し、該当する条件の計算方法を用いて算出してください。なお、グローバルバッファおよびグローバルバッファのオプションについては、マニュアル「スケーラブルデータベースサーバ HiRDB Version 8 システム導入・設計ガイド (Windows(R) 用)」またはマニュアル「HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R) 用)」を参照してください。

RD エリアごとに用意しているパラメタの目安を次の表に示します。

3. リポジトリサーバの構築

表 3-14 RD エリアごとの計算用パラメタ

RD エリア名	同時に発生する SQL の 処理要求数	1 SQL で使用する ページ数 (目 安)	1 トランザクション内 の平均同時アクセス表 数
RDPINFO	1 × 同時実行ユーザ数 3	3	1
LOBPINFO	1 × 同時実行ユーザ数 3	6	1

注 1 RDPINFO はユーザ管理情報のテーブルを格納する RD エリアです。

注 2 LOBPINFO はユーザ情報のパーソナライズ情報を格納する LOB 列の RD エリアです。

注 3 同時実行ユーザ数は、「AP サーバ台数 × DB Connector で設定するコネクションプールの最大数」で算出された値を指定してください。

3.6.3 DB のセットアップ

リポジトリに DB を使用する場合は、次の設定が必要です。

- ユーザ管理情報の設定 (任意)
「3.2 ユーザ管理情報の検討」で検討した情報を DB に登録します。ユーザ情報には、ユーザ ID などのユーザを一意に識別する属性が必要です。一意に識別できる属性であれば、属性名は任意に指定できます。
- パーソナライズ情報の設定 (任意)
「3.6.1(2) パーソナライズ情報の容量計算」で算出した容量を基に、パーソナライズ情報を格納するテーブルなどを作成します。設定方法の詳細は、「(2) パーソナライズ情報の設定」を参照してください。

リポジトリに DB を使用する場合の前提事項、およびパーソナライズ情報の設定方法の詳細を、次に説明します。

(1) リポジトリに DB を使用する場合の前提事項

uCosminexus Portal Framework でリポジトリに DB を使用する場合に、前提として知っておいていただきたい事項を次に示します。

検索キーになる項目

- ユーザ情報の場合
ログインするユーザのユーザ ID (文字列型) となります。ユーザ識別子です。
- グループ情報の場合
グループ名 (文字列型) となります。グループ識別子です。
- 組織単位情報の場合
所属組織 (文字列型) となります。組織単位識別子です。

データ型

文字列型およびバイナリ型を使用できます。バイナリ型とは、Java での byte 型配列

で格納されているデータのことです。

NULL の扱い

NULL 値は、該当する項目が値を持たないものとみなされます。

データベース名 (SQL Server の場合)

SQL Server の場合、作成する DB のデータベース名は、PORTAL_DATABASE としてください。

(2) パーソナライズ情報の設定

パーソナライズ情報の格納領域は、次の図に示すように、HiRDB または Oracle の場合は BLOB 型、SQL Server の場合は VARBINARY 型で作成します。

図 3-9 BLOB 型および VARBINARY 型のパーソナライズ情報の格納領域

BLOB型のパーソナライズ情報の格納

USERNAME	HPTLPERSONALIZEINFO
taro	xxx
hanako	xxx
:	:
:	:

注 HPTLPERSONALIZEINFOをBLOB型で定義しています。

DB のテーブルには、ユーザ ID、およびパーソナライズ情報のカラムの指定が必要です。パーソナライズ情報を格納するカラムサイズの算出方法については、「3.6.1(2) パーソナライズ情報の容量計算」を参照してください。

表 3-15 最低限必要な DB のテーブル定義情報

情報名称	カラム名
ユーザ ID	USERNAME
パーソナライズ情報	HPTLPERSONALIZEINFO

また、BLOB 型または VARBINARY 型のパーソナライズ情報を構築するために、次の内容を定義します。

- ユーザ LOB 用 RD エリアの定義
- インデクスの作成 (インデクスを作成する場合)

それぞれの詳細、および各イベントで発行する SQL 情報について説明します。

(a) ユーザ LOB 用 RD エリアの定義

HiRDB の場合、パーソナライズ情報を格納するためのユーザ LOB 用 RD エリアを作成します。ポータル の全利用者が 100 人の場合のパーソナライズ情報の定義例を次に示し

3. リポジトリサーバの構築

ます。

RD エリア定義形式の詳細は、マニュアル「スケーラブルデータベースサーバ HiRDB Version 8 システム導入・設計ガイド (Windows(R) 用)」またはマニュアル「HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R) 用)」を参照してください。

```
create rdarea RDAREA01
  for LOB used by BLOB
  page 8192 characters
  storage control segment 1 pages
  file name "D:¥hirdb¥rdarea¥area01¥rdarea01"
  initial 40 segments;
```

(b) インデクスの作成

DB にインデクスを作成する場合、ユーザ ID をキーに指定してください。インデクスの作成方法については、HiRDB の場合は、マニュアル「スケーラブルデータベースサーバ HiRDB Version 8 システム導入・設計ガイド (Windows(R) 用)」またはマニュアル「HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R) 用)」, Oracle の場合は、Oracle のマニュアル, SQL Server の場合は、SQL Server のマニュアルを参照してください。

3.7 共通情報用 DB の設定

共通情報用 DB を使用するには、次の作業を行います。

1. DB の設置

uCosminexus Portal Framework を使用する環境で DB を使用していない場合は、DB を設置します。DB を設置済みの場合、この作業は不要です。

2. DB の容量およびグローバルバッファ面数の計算

共通情報を設定するために、必要な DB の容量およびグローバルバッファ面数を計算します。DB の容量計算については、「3.7.1 共通情報の容量計算」を参照してください。また、グローバルバッファ面数の計算方法については、「3.7.2 共通情報のグローバルバッファ面数の計算方法」を参照してください。

3. DB での設定

DB に共通情報の設定を行います。DB での設定作業の詳細は、HiRDB の場合は、「3.7.3 DB のセットアップ (HiRDB の場合)」, Oracle の場合は「3.7.4 DB のセットアップ (Oracle の場合)」, SQL Server の場合は「3.7.5 DB のセットアップ (SQL Server の場合)」を参照してください。

3.7.1 共通情報の容量計算

共通情報は、uCosminexus Portal Framework で定められたテーブルを作成して必要な情報を格納します。

ここでは、DB を構築する際に共通情報の容量を見積もるための、計算方法について説明します。

(1) 容量計算をするための前提知識

容量計算をするときは、次の点に注意してください。

見積もり容量は DB 初期構築時および 50 件のデータ登録時容量から算出しています。計算方法の詳細は、HiRDB の場合は、マニュアル「スケーラブルデータベースサーバ HiRDB Version 8 システム導入・設計ガイド (Windows(R) 用)」またはマニュアル「HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R) 用)」, Oracle の場合は、Oracle のマニュアル, SQL Server の場合は、SQL Server のマニュアルを参照してください。

LOB 列は、テーブルとは別の領域に格納されます。このため、テーブルの容量には LOB 列を含まないものとして容量を計算しています。

HiRDB の場合は、RD エリアはセグメント単位で確保されます。このため、容量計算で 1 セグメントに満たない場合でも、1 セグメント分は確保してください。

3. リポジトリサーバの構築

(2) 共通情報の容量計算

ここでは、共通情報のデータ件数の算出方法を記述しています。各 DB のテーブル定義に記述しているレコード長を使用して、共通情報の容量を計算してください。共通情報のテーブル定義は、HiRDB の場合は「3.7.3 DB のセットアップ (HiRDB の場合)」を、Oracle の場合は「3.7.4 DB のセットアップ (Oracle の場合)」を、SQL Server を使用する場合は「3.7.5 DB のセットアップ (SQL Server の場合)」を参照してください。

なお、Collaboration - Online Community Management を使用する場合は、マニュアル「Collaboration 導入ガイド」を参照してください。

(a) テーブル容量

共通情報用テーブルの容量を算出するために必要なデータを次の表に示します。

表 3-16 共通情報用テーブル容量

項番	テーブル名称	容量 (データ件数)
1	FILECONTENT	システムに登録するレイアウトの最大数 × (デバイス数 ¹ + 強制表示の設定有無 ²)
2	PORTLET_ARRANGE	システムに登録する拡張レイアウトの最大数 × 拡張レイアウト内のエリア数の平均 × エリアに配置するポートレット数の平均
3	PORTAL_GROUP	システムに登録するポータル管理グループの最大数
4	PORTAL_LAYOUT	ポータル管理グループで使用されるレイアウトの最大数の合計値
5	PORTAL_PORTLET	ポータル管理グループで使用されるポートレットの最大数の合計値
6	PORTAL_CREATEID	1
7	PORTAL_UPDATEID	1
8	PORTLET_GROUP	システムに登録するポートレットグループの最大数
9	PORTLET_ENTRY	各ポートレットグループに登録するポートレットの数の合計値
10	COMPONENT_PORTLET	システムに登録する Web コンテンツポートレットの最大数 × (20 + アクセスサイトの平均数 × 100 + インポートするテンプレートの数の平均)

注 1 HTML, CHTML, HDML の最大 3 種類です。

注 2 強制表示の設定 (jp.co.hitachi.soft.portal.portlets.forceportlet.supports) を行っている場合は 1, 行わない場合は 0 としてください。

(b) インデクス容量

共通情報のインデクス容量の計算に必要なデータを次の表に示します。

表 3-17 共通情報用インデクス容量計算に必要なデータ

項番	テーブル名称	インデクス名称	キー重複件数	ユニークインデクス
1	FILECONTENT	(FILENAME) ³	システムに登録するレイアウトの最大数 × (デバイス数 ¹ + 強制表示の設定有無 ²)	
		FILECONTENT_INDX1	システムに登録するレイアウトの最大数	×
		FILECONTENT_INDX2	2	×
2	PORTLET_ARRANGE	PORTLET_ARRANGE_INDX1	システムに登録する拡張レイアウトの最大数	×
		PORTLET_ARRANGE_INDX2	システムに登録する全ての拡張レイアウトのエリア数の最大数	×
		PORTLET_ARRANGE_INDX3	システムに登録する全ての拡張レイアウトに配置するポートレットの最大数	×
		PORTLET_ARRANGE_INDX4	システムに登録する拡張レイアウトの最大数	×
		PORTLET_ARRANGE_INDX5	2	×
3	PORTAL_GROUP	(PORTALGROUPNAME) ³	システムに登録するポータル管理グループの最大数	
		PORTAL_GROUP_INDX1	システムに登録するコミュニティの最大数	×
		PORTAL_GROUP_INDX2	システムに登録するポータル管理グループの最大数	×
		PORTAL_GROUP_INDX3	2	×
4	PORTAL_LAYOUT	(ENTRYID) ³	ポータル管理グループで使用されるレイアウトの最大数の合計値	
		PORTAL_LAYOUT_INDX1	システムに登録するポータル管理グループの最大数	×

3. リポジットリサーバの構築

項番	テーブル名称	インデクス名称	キー重複件数	ユニークインデクス
		PORTAL_LAYOUT_INDX3	ポータル管理グループで使用されるレイアウトの最大数の合計値	×
		PORTAL_LAYOUT_INDX4	3	×
		PORTAL_LAYOUT_INDX5	2	×
5	PORTAL_PORTLET	(ENTRYID) ³	ポータル管理グループで使用されるポートレットの最大数の合計値	
		PORTAL_PORTLET_INDX1	システムに登録するポータル管理グループの最大数	×
		PORTAL_PORTLET_INDX3	ポータル管理グループで使用されるレイアウトの最大数の合計値	×
		PORTAL_PORTLET_INDX4	3	×
		PORTAL_PORTLET_INDX5	2	×
6	PORTLET_GROUP	(PORTLETGROUPNAME) ³	システムに登録するポートレットグループの最大数	
		PORTLET_GROUP_INDX1	システムに登録するポートレットグループの最大数	×
		PORTLET_GROUP_INDX2	システムに登録するポートレットグループの最大数	×
		PORTLET_GROUP_INDX3	システムに登録するポートレットグループの最大数	×
		PORTLET_GROUP_INDX4	2	×
7	PORTLET_ENTRY	(ENTRYID) ³	各ポートレットグループに登録するポートレットの数の合計値	
		PORTLET_ENTRY_INDX1	システムに登録するポートレットグループの最大数	×
		PORTLET_ENTRY_INDX2	システムに登録するポートレットグループの最大数	×
		PORTLET_ENTRY_INDX3	2	×

項番	テーブル名称	インデクス名称	キー重複件数	ユニークインデクス
8	COMPONENT_PORTLET	COMPONENT_PORTLET_INDX1	システムに登録する Web コンテンツポートレットの最大数	×
		COMPONENT_PORTLET_INDX2	システムに登録する Web コンテンツポートレットの最大数 × (20 + アクセスサイトの平均数 × 100 + インポートするテンプレートの数の平均)	×
		COMPONENT_PORTLET_INDX3	2	×

注 1 HTML, CHTML, HDML の最大 3 種類です。

注 2 強制表示の設定 (jp.co.hitachi.soft.portal.portlets.forceportlet.supports) を行っている場合は 1, 行わない場合は 0 としてください。

注 3 主キーに対するインデクスです。

(c) LOB 容量

共通情報の LOB 容量の計算について説明します。LOB 列に格納するデータの 1 件当たりの容量の目安を次の表に示します。

表 3-18 共通情報用 LOB 容量計算

項番	テーブル名称	LOB 列	容量の目安 (バイト / 件)
1	FILECONTENT	FILECONTENT	ポートレット配置情報ファイルのサイズ ¹
2	PORTAL_GROUP	PORTALGROUP TITLES	ポータル管理グループの日本語以外のタイトル × 450 + 120
		ALLOWLISTCONTROL	1 つのポータル管理グループに設定する管理者条件の数 × 400 + 256
		ALLOWLISTUSER	1 つのポータル管理グループに設定する利用者条件の数 × 400 + 256
3	PORTAL_LAYOUT	ENTRYPARAMETER	400
		ENTRYTITLES	レイアウトの日本語以外のタイトル × 450 + 120
4	PORTAL_PORTLET	ENTRYPARAMETER	(ポートレットパラメタのサイズ + 20) × パラメタの数 + 160

3. リポジトリサーバの構築

項番	テーブル名称	LOB 列	容量の目安 (バイト / 件)
		ENTRYTITLES	ポートレットの日本語以外のタイトル × 450 + 120
5	PORTLET_GROUP	PORTLETGROUPTITLES	ポートレットグループのタイトル数 × 260 + 80
		PORTLETGROUPDESCS	ポートレットグループの説明文数 × 260 + 80

注 1 標準的なポートレット配置情報ファイルのサイズは 1KB です。

3.7.2 共通情報のグローバルバッファ面数の計算方法

ここでは、共通情報で使用する RD エリアに割り当てるグローバルバッファ面数の計算方法について説明します。

グローバルバッファ面数の計算方法は、DB の構成状況やオプションの内容などの条件によって異なります。RD エリアごとに用意しているパラメタを使用し、該当する条件の計算方法を用いて算出してください。なお、グローバルバッファおよびグローバルバッファのオプションについては、マニュアル「スケーラブルデータベースサーバ HiRDB Version 8 システム導入・設計ガイド (Windows(R) 用)」またはマニュアル「HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R) 用)」を参照してください。

RD エリアごとに用意しているパラメタの目安を次の表に示します。

表 3-19 RD エリアごとの計算用パラメタ

RD エリア名	同時に発生する SQL の処理要求数	1 SQL で使用するページ数 (目安)	1 トランザクション内の平均同時アクセス表数
RDPFC	1 × 同時実行ユーザ数	6	1
LOBPFC	1 × 同時実行ユーザ数	6	1
RDARRANGE	1 × 同時実行ユーザ数	3	1
RDPORTAL	1 × 同時実行ユーザ数	6	5
LOBPORTAL1	1 × 同時実行ユーザ数	6	1
LOBPORTAL2	1 × 同時実行ユーザ数	6	1
LOBPORTAL3	1 × 同時実行ユーザ数	6	1
LOBPORTAL4	1 × 同時実行ユーザ数	6	1
LOBPORTAL5	1 × 同時実行ユーザ数	6	1
LOBPORTAL6	1 × 同時実行ユーザ数	6	1
LOBPORTAL7	1 × 同時実行ユーザ数	6	1

RD エリア名	同時に発生する SQL の 処理要求数	1 SQL で使用する ページ数 (目安)	1 トランザクション内の 平均同時アクセス表 数
RDPORTLETGROUP	1 × 同時実行ユーザ数	3	1
RDLOBPG1	1 × 同時実行ユーザ数	3	1
RDLOBPG2	1 × 同時実行ユーザ数	3	1
RDCOMPONENTPORTLET	1 × 同時実行ユーザ数	6	1

注 同時実行ユーザ数は、「AP サーバ数 × DB Connector で設定するコネクションプールの最大数」で算出された値を指定してください。

3.7.3 DB のセットアップ (HiRDB の場合)

DB にテーブル、インデクス、および RD エリアを作成します。

(1) 作成するテーブル、インデクスおよび RD エリア

次のテーブル、インデクスおよび RD エリアを作成します。

(a) テーブル

テーブル名：FILECONTENT

標準画面レイアウト情報を格納するテーブルです。FILECONTENT テーブルの内容を次の表に示します。

表 3-20 FILECONTENT テーブルの内容

項番	列名	データ型	長さ (バイト)	NULL	備考
1	FILENAME	VARCHAR	256	-	主キー
2	FILECONTENT	BLOB	64,000	-	-
3	FILEUPDATECD	VARCHAR	20	-	-
4	DELETEDFLG	VARCHAR	1	-	-

(凡例) - : 該当しません。

テーブル名：PORTLET_ARRANGE

DB にポートレット表示属性を保存する場合、レイアウトのエリアごとポートレット単位にポートレット表示属性を管理するテーブルです。レイアウト形式で拡張レイアウト形式を選択するときだけに必要です。

PORTLET_ARRANGE テーブルの内容を次の表に示します。

3. リポジトリサーバの構築

表 3-21 PORTLET_ARRANGE テーブルの内容

項番	列名	データ型	長さ (バイト)	NULL	備考
1	LAYOUTID	MVARCHAR	64	NN	-
2	AREAID	MVARCHAR	64	NN	-
3	PORTLETNAME	MVARCHAR	64	NN	-
4	PARAMNAME	MVARCHAR	255	NN	-
5	PARAMVALUE	MVARCHAR	255	NN	-
6	UPDATECD	MVARCHAR	20	-	-
7	DELETEFLG	MVARCHAR	1	-	-

(凡例) - : 該当しません。 NN : NotNull

テーブル名 : PORTAL_GROUP

ポータル管理グループの情報を格納するテーブルです。PORTAL_GROUP テーブルの内容を次の表に示します。

表 3-22 PORTAL_GROUP テーブルの内容

項番	列名	データ型	長さ (バイト)	NULL	備考
1	PORTALGROUPNAME	VARCHAR	20	NN	主キー
2	LOCATION	VARCHAR	20	-	-
3	COMMUNITYID	VARCHAR	40	-	-
4	PORTALGROUPTITLE	MVARCHAR	256	NN	-
5	PORTALGROUPDESC	MVARCHAR	600	-	-
6	PORTALGROUPTITLES	BLOB	12,000	-	-
7	ALLOWLISTCONTROL	BLOB	64,000	-	-
8	ALLOWLISTUSE	BLOB	64,000	-	-
9	GROUPUPDATECD	VARCHAR	20	-	-
10	DELETEFLG	VARCHAR	1	-	-

(凡例) - : 該当しません。 NN : NotNull

テーブル名 : PORTAL_LAYOUT

ポータル管理グループで管理する標準画面レイアウトの情報を格納するテーブルです。PORTAL_LAYOUT テーブルの内容を次の表に示します。

表 3-23 PORTAL_LAYOUT テーブルの内容

項番	列名	データ型	長さ (バイト)	NULL	備考
1	PORTALGROUPNAME	VARCHAR	20	NN	-
2	ENTRYID	VARCHAR	20	NN	主キー

項番	列名	データ型	長さ(バイト)	NULL	備考
3	LOCATION	VARCHAR	20	NN	-
4	ENTRYTYPE	VARCHAR	20	-	-
5	ENTRYNAME	VARCHAR	80	NN	-
6	ENTRYTITLE	MVARCHAR	256	-	-
7	ENTRYPARENT	VARCHAR	80	-	-
8	ENTRYDESC	MVARCHAR	600	-	-
9	ENTRYPARAMETER	BLOB	64,000	-	-
10	ENTRYTITLES	BLOB	12,000	-	-
11	ENTRYUPDATECD	VARCHAR	20	-	-
12	INSTANCETYPE	VARCHAR	20	-	-
13	DELETEDFLG	VARCHAR	1	-	-

(凡例) - : 該当しません。 NN : NotNull

テーブル名 : PORTAL_PORTLET

ポータル管理グループで管理するポートレットの情報を格納するテーブルです。
PORTAL_PORTLET テーブルの内容を次の表に示します。

表 3-24 PORTAL_PORTLET テーブルの内容

項番	列名	データ型	長さ(バイト)	NULL	備考
1	PORTALGROUPNAME	VARCHAR	20	NN	-
2	ENTRYID	VARCHAR	20	NN	主キー
3	LOCATION	VARCHAR	20	NN	-
4	ENTRYTYPE	VARCHAR	20	-	-
5	ENTRYNAME	VARCHAR	80	NN	-
6	ENTRYTITLE	MVARCHAR	256	-	-
7	ENTRYPARENT	VARCHAR	80	-	-
8	ENTRYDESC	MVARCHAR	600	-	-
9	ENTRYPARAMETER	BLOB	64,000	-	-
10	ENTRYTITLES	BLOB	12,000	-	-
11	ENTRYUPDATECD	VARCHAR	20	-	-
12	INSTANCETYPE	VARCHAR	20	-	-
13	DELETEDFLG	VARCHAR	1	-	-

(凡例) - : 該当しません。 NN : NotNull

テーブル名 : PORTAL_CREATEID

各テーブルの主キーを一意に採番するテーブルです。PORTAL_CREATEID テーブル

3. リポジトリサーバの構築

の内容を次の表に示します。

表 3-25 PORTAL_CREATEID テーブルの内容

項番	列名	データ型	長さ (バイト)	NULL	備考
1	CREATEID	VARCHAR	20	NN	-

(凡例) - : 該当しません。 NN : NotNull

テーブル名 : PORTAL_UPDATED

データの更新コードを一意に採番するテーブルです。PORTAL_UPDATED テーブルの内容を次の表に示します。

表 3-26 PORTAL_UPDATED テーブルの内容

項番	列名	データ型	長さ (バイト)	NULL	備考
1	UPDATEID	VARCHAR	20	NN	-

(凡例) - : 該当しません。 NN : NotNull

テーブル名 : PORTLET_GROUP

DB にポートレットグループ情報を格納する場合、ポートレットグループ情報を管理するテーブルです。

PORTLET_GROUP テーブルは、1 グループを 1 レコードで管理します。1 グループのレコードは、上位ポートレットグループのポートレットグループ ID を保持することで、階層構造になっています。

PORTLET_GROUP テーブルの内容を次の表に示します。

表 3-27 PORTLET_GROUP テーブルの内容

項番	列名	データ型	長さ (バイト)	NULL	備考
1	PORTLETGROUPNAME	VARCHAR	20	NN	主キー
2	LOCATION	VARCHAR	20	-	-
3	PORTLETGROUPTITLES	BLOB	12000	-	-
4	PORTLETGROUPDESCS	BLOB	12000	-	-
5	PARENTPORTLETGROUP	VARCHAR	20	-	-
6	GROUPUPDATECD	VARCHAR	20	-	-
7	DELETEDFLG	VARCHAR	1	-	-

(凡例) - : 該当しません。 NN : NotNull

テーブル名 : PORTLET_ENTRY

DB にポートレットグループ情報を格納する場合、ポートレット情報を管理するテーブルです。

PORTLET_ENTRY テーブルの内容を次の表に示します。

表 3-28 PORTLET_ENTRY テーブルの内容

項番	列名	データ型	長さ (バイト)	NULL	備考
1	ENTRYID	VARCHAR	20	NN	主キー
2	ENTRYNAME	VARCHAR	80	NN	-
3	PORTLETGROUPNAME	VARCHAR	20	NN	-
4	ENTRYUPDATECD	VARCHAR	20	-	-
5	DELETEFLG	VARCHAR	1	-	-

(凡例) - : 該当しません。 NN : NotNull

テーブル名 : COMPONENT_PORTLET

Web コンテンツポートレットのパラメタ値を保存するテーブルです。

COMPONENT_PORTLET テーブルの内容を次の表に示します。

表 3-29 COMPONENT_PORTLET テーブルの内容

項番	列名	データ型	長さ (バイト)	NULL	備考
1	PORTLETNAME	VARCHAR	32	NN	-
2	ID	VARCHAR	128	NN	-
3	PARAMVALUE	VARCHAR	4000	-	-
4	UPDATECD	VARCHAR	32	NN	-

(凡例) - : 該当しません。 NN : NotNull

(b) インデクス

作成するインデクスを次の表に示します。

表 3-30 作成するインデクス

インデクス名称	テーブル名称	列	備考
FILECONTENT_INDX1	FILECONTENT	FILEUPDATECD	-
FILECONTENT_INDX2		DELETEFLG	-
PORTLET_ARRANGE_INDX1	PORTLET_ARRANGE	LAYOUTID	-
PORTLET_ARRANGE_INDX2		AREAID	-
PORTLET_ARRANGE_INDX3		PORTLETNAME	-
PORTLET_ARRANGE_INDX4		UPDATECD	-
PORTLET_ARRANGE_INDX5		DELETEFLG	-

3. リポジトリサーバの構築

インデクス名称	テーブル名称	列	備考
PORTAL_GROUP_INDX1	PORTAL_GROUP	COMMUNITYID	-
PORTAL_GROUP_INDX2		GROUPUPDATECD	-
PORTAL_GROUP_INDX3		DELETEFLG	-
PORTAL_LAYOUT_INDX1	PORTAL_LAYOUT	PORTALGROUPNAME	-
PORTAL_LAYOUT_INDX3		ENTRYUPDATECD	-
PORTAL_LAYOUT_INDX4		INSTANCETYPE	-
PORTAL_LAYOUT_INDX5		DELETEFLG	-
PORTAL_PORTLET_INDX1	PORTAL_PORTLET	PORTALGROUPNAME	-
PORTAL_PORTLET_INDX3		ENTRYUPDATECD	-
PORTAL_PORTLET_INDX4		INSTANCETYPE	-
PORTAL_PORTLET_INDX5		DELETEFLG	-
PORTLET_GROUP_INDX1	PORTLET_GROUP	LOCATION	-
PORTLET_GROUP_INDX2		PARENTPORTLETGROUP	-
PORTLET_GROUP_INDX3		GROUPUPDATECD	-
PORTLET_GROUP_INDX4		DELETEFLG	-
PORTLET_ENTRY_INDX1	PORTLET_ENTRY	PORTLETGROUPNAME	-
PORTLET_ENTRY_INDX2		ENTRYUPDATECD	-
PORTLET_ENTRY_INDX3		DELETEFLG	-
COMPONENT_PORTLET_INDX1	COMPONENT_PORTLET	PORTLETNAME	-
COMPONENT_PORTLET_INDX2		ID	-
COMPONENT_PORTLET_INDX3		UPDATECD	-

(凡例) - : 該当しません。

(c) RD エリア

作成する RD エリアを次の表に示します。

! 注意事項

ここで示している RD エリアの定義は最低限の動作を保証するものです。RD エリアの配置は性能を考慮して設計してください。

表 3-31 作成する RD エリア

種別	名称	用途
ユーザ用 RD エリア	RDPFC	テーブル「FILECONTENT」およびテーブルに設定するすべてのインデクスを格納するための領域です。ただし、テーブルの BLOB のデータはユーザ LOB 用 RD エリアに格納します。
	RDARRANGE	テーブル「PORTLET_ARRANGE」およびテーブルに設定するすべてのインデクスを格納するための領域です。
	RDPORTAL	テーブル「PORTAL_GROUP」、「PORTAL_LAYOUT」、「PORTAL_PORTLET」、「PORTAL_CREATEID」、およびこれらのテーブルに設定するすべてのインデクスを格納するための領域です。ただし、各テーブルの BLOB のデータはユーザ LOB 用 RD エリアに格納します。
	RDPORTLETGROUP	テーブル「PORTLET_GROUP」、「PORTLET_ENTRY」およびこれらのテーブルに設定するすべてのインデクスを格納するための領域です。
ユーザ LOB 用 RD エリ ア	LOBPFC	テーブル「FILECONTENT」のカラム「FILECONTENT」を格納するための BLOB 領域です。
	LOBPORTAL1	テーブル「PORTAL_GROUP」のカラム「PORTALGROUPTITLES」を格納するための BLOB 領域です。
	LOBPORTAL2	テーブル「PORTAL_GROUP」のカラム「ALLOWLISTCONTROL」を格納するための BLOB 領域です。
	LOBPORTAL3	テーブル「PORTAL_GROUP」のカラム「ALLOWLISTUSE」を格納するための BLOB 領域です。
	LOBPORTAL4	テーブル「PORTAL_LAYOUT」のカラム「ENTRYPARAMETER」を格納するための BLOB 領域です。
	LOBPORTAL5	テーブル「PORTAL_LAYOUT」のカラム「ENTRYTITLES」を格納するための BLOB 領域です。
	LOBPORTAL6	テーブル「PORTAL_PORTLET」のカラム「ENTRYPARAMETER」を格納するための BLOB 領域です。
	LOBPORTAL7	テーブル「PORTAL_PORTLET」のカラム「ENTRYTITLES」を格納するための BLOB 領域です。
	RDLOBPG1	テーブル「PORTLET_GROUP」のカラム「PORTLETGROUPTITLES」を格納するための BLOB 領域です。
	RDLOBPG2	テーブル「PORTLET_GROUP」のカラム「PORTLETGROUPDESCS」を格納するための BLOB 領域です。

注 RD エリアの名称は、表のとおりである必要はありません。表とは別の名称を使用する場合

3. リポジトリサーバの構築

は、create.sql ファイルを編集して作成先 RD エリア名を変更してから RD エリアを作成してください。

create.sql ファイルの格納ディレクトリを次に示します。

格納ディレクトリ

```
{uCosminexus Portal Framework インストールディレクトリ  
}¥samples¥config¥empowermentdb
```

(2) テーブルの作成

コマンドプロンプトでサンプルの SQL ファイル (create.sql および dataload_id.sql) を実行して、テーブル、インデクス、および初期データ ID を作成します。

- HiRDB SQL Executer を使用した場合の実行例

```
set pduser={DBユーザ名}/{パスワード}  
pdsq1 < create.sql  
pdsq1 < dataload_id.sql
```

- データベース定義ユティリティ (pddef) を使用した場合の実行例

```
set pduser={DBユーザ名}/{パスワード}  
pddef < create.sql  
pdload PORTAL_CREATEID c:¥temp¥dataload  
pdload PORTAL_UPDATEID c:¥temp¥dataload
```

dataloadの内容
source c:¥temp¥dataload id

dataload idの内容
'100'

(3) データの登録

作成したテーブルに、データを登録します。データの登録手順を次に示します。

1. dataload_tool.properties ファイルを編集します。
dataload_tool.properties ファイルの詳細は、「10.1.5 dataload_tool.properties の詳細」を参照してください。
2. テーブルにデータを格納します。
コマンドプロンプトで dataload_tool.bat ファイルを実行してテーブルへのデータ登録をしてください。
dataload_tool.bat ファイルの格納ディレクトリは次のとおりです。

格納ディレクトリ

```
{uCosminexus Portal Framework インストールディレクトリ  
}¥samples¥config¥empowermentdb
```

コマンドの実行例を次に示します。

```
dataload_tool.bat {DBユーザ名} {パスワード}
```

DB ユーザ名

移行処理を行う DB のユーザ名を指定します。「"」や「'」がある場合は「¥"」や「¥'」に置き換えてください。

パスワード

DB ユーザ名に指定したユーザ名に対応するパスワードを指定します。「"」や「'」がある場合は「¥"」や「¥'」に置き換えてください。

3.7.4 DB のセットアップ (Oracle の場合)

DB にテーブル, およびインデクスを作成します。

(1) 作成するテーブル, およびインデクス

次のテーブル, およびインデクスを作成します。

(a) テーブル

テーブル名: FILECONTENT

標準画面レイアウト情報を格納するテーブルです。FILECONTENT テーブルの内容を次の表に示します。

表 3-32 FILECONTENT テーブルの内容

項番	列名	データ型	長さ (バイト)	NULL	備考
1	FILENAME	VARCHAR2	256	-	主キー
2	FILECONTENT	BLOB	64,000	-	-
3	FILEUPDATECD	VARCHAR2	20	-	-
4	DELETEFLG	VARCHAR2	1	-	-

(凡例) - : 該当しません。

テーブル名: PORTLET_ARRANGE

DB にポートレット表示属性を保存する場合, レイアウトのエリアごとポートレット単位にポートレット表示属性を管理するテーブルです。レイアウト形式で拡張レイアウト形式を選択するときだけに必要です。

PORTLET_ARRANGE テーブルの内容を次の表に示します。

表 3-33 PORTLET_ARRANGE テーブルの内容

項番	列名	データ型	長さ (バイト)	NULL	備考
1	LAYOUTID	VARCHAR2	64	NN	-

3. リポジトリサーバの構築

項番	列名	データ型	長さ (バイト)	NULL	備考
2	AREAID	VARCHAR2	64	NN	-
3	PORTLETNAME	VARCHAR2	64	NN	-
4	PARAMNAME	VARCHAR2	255	NN	-
5	PARAMVALUE	VARCHAR2	255	NN	-
6	UPDATECD	VARCHAR2	20	-	-
7	DELETEDFLG	VARCHAR2	1	-	-

(凡例) - : 該当しません。 NN : NotNull

テーブル名 : PORTAL_GROUP

ポータル管理グループの情報を格納するテーブルです。PORTAL_GROUP テーブルの内容を次の表に示します。

表 3-34 PORTAL_GROUP テーブルの内容

項番	列名	データ型	長さ (バイト)	NULL	備考
1	PORTALGROUPNAME	VARCHAR2	20	NN	主キー
2	LOCATION	VARCHAR2	20	-	-
3	COMMUNITYID	VARCHAR2	40	-	-
4	PORTALGROUPTITLE	VARCHAR2	256	NN	-
5	PORTALGROUPDESC	VARCHAR2	600	-	-
6	PORTALGROUPTITLES	BLOB	12,000	-	-
7	ALLOWLISTCONTROL	BLOB	64,000	-	-
8	ALLOWLISTUSE	BLOB	64,000	-	-
9	GROUPUPDATECD	VARCHAR2	20	-	-
10	DELETEDFLG	VARCHAR2	1	-	-

(凡例) - : 該当しません。 NN : NotNull

テーブル名 : PORTAL_LAYOUT

ポータル管理グループで管理する標準画面レイアウトの情報を格納するテーブルです。PORTAL_LAYOUT テーブルの内容を次の表に示します。

表 3-35 PORTAL_LAYOUT テーブルの内容

項番	列名	データ型	長さ (バイト)	NULL	備考
1	PORTALGROUPNAME	VARCHAR2	20	NN	-
2	ENTRYID	VARCHAR2	20	NN	主キー
3	LOCATION	VARCHAR2	20	NN	-
4	ENTRYTYPE	VARCHAR2	20	-	-

項番	列名	データ型	長さ(バイト)	NULL	備考
5	ENTRYNAME	VARCHAR2	80	NN	-
6	ENTRYTITLE	VARCHAR2	256	-	-
7	ENTRYPARENT	VARCHAR2	80	-	-
8	ENTRYDESC	VARCHAR2	600	-	-
9	ENTRYPARAMETER	BLOB	64,000	-	-
10	ENTRYTITLES	BLOB	12,000	-	-
11	ENTRYUPDATECD	VARCHAR2	20	-	-
12	INSTANCETYPE	VARCHAR2	20	-	-
13	DELETEFLG	VARCHAR2	1	-	-

(凡例) - : 該当しません。 NN : NotNull

テーブル名 : PORTAL_PORTLET

ポータル管理グループで管理するポートレットの情報を格納するテーブルです。
PORTAL_PORTLET テーブルの内容を次の表に示します。

表 3-36 PORTAL_PORTLET テーブルの内容

項番	列名	データ型	長さ(バイト)	NULL	備考
1	PORTALGROUPNAME	VARCHAR2	20	NN	-
2	ENTRYID	VARCHAR2	20	NN	主キー
3	LOCATION	VARCHAR2	20	NN	-
4	ENTRYTYPE	VARCHAR2	20	-	-
5	ENTRYNAME	VARCHAR2	80	NN	-
6	ENTRYTITLE	VARCHAR2	256	-	-
7	ENTRYPARENT	VARCHAR2	80	-	-
8	ENTRYDESC	VARCHAR2	600	-	-
9	ENTRYPARAMETER	BLOB	64,000	-	-
10	ENTRYTITLES	BLOB	12,000	-	-
11	ENTRYUPDATECD	VARCHAR2	20	-	-
12	INSTANCETYPE	VARCHAR2	20	-	-
13	DELETEFLG	VARCHAR2	1	-	-

(凡例) - : 該当しません。 NN : NotNull

テーブル名 : PORTAL_CREATEID

各テーブルの主キーを一意に採番するテーブルです。PORTAL_CREATEID テーブルの内容を次の表に示します。

3. リポジトリサーバの構築

表 3-37 PORTAL_CREATEID テーブルの内容

項番	列名	データ型	長さ (バイト)	NULL	備考
1	CREATEID	VARCHAR2	20	NN	-

(凡例) - : 該当しません。 NN : NotNull

テーブル名 : PORTAL_UPDATED

データの更新コードを一意に採番するテーブルです。PORTAL_UPDATED テーブルの内容を次の表に示します。

表 3-38 PORTAL_UPDATED テーブルの内容

項番	列名	データ型	長さ (バイト)	NULL	備考
1	UPDATEID	VARCHAR2	20	NN	-

(凡例) - : 該当しません。 NN : NotNull

テーブル名 : PORTLET_GROUP

DB にポートレットグループ情報を格納する場合、ポートレットグループ情報を管理するテーブルです。

PORTLET_GROUP テーブルは、1 グループを 1 レコードで管理します。1 グループのレコードは、上位ポートレットグループのポートレットグループ ID を保持することで、階層構造になっています。

PORTLET_GROUP テーブルの内容を次の表に示します。

表 3-39 PORTLET_GROUP テーブルの内容

項番	列名	データ型	長さ (バイト)	NULL	備考
1	PORTLETGROUPNAME	VARCHAR2	20	NN	主キー
2	LOCATION	VARCHAR2	20	-	-
3	PORTLETGROUPTITLES	BLOB	-	-	-
4	PORTLETGROUPDESCS	BLOB	-	-	-
5	PARENTPORTLETGROUP	VARCHAR2	20	-	-
6	GROUPUPDATECD	VARCHAR2	20	-	-
7	DELETEFLG	VARCHAR2	1	-	-

(凡例) - : 該当しません。 NN : NotNull

テーブル名 : PORTLET_ENTRY

DB にポートレットグループ情報を格納する場合、ポートレット情報を管理するテーブルです。

PORTLET_ENTRY テーブルの内容を次の表に示します。

表 3-40 PORTLET_ENTRY テーブルの内容

項番	列名	データ型	長さ(バイト)	NULL	備考
1	ENTRYID	VARCHAR2	20	NN	主キー
2	ENTRYNAME	VARCHAR2	80	NN	-
3	PORTLETGROUPNAME	VARCHAR2	20	NN	-
4	ENTRYUPDATECD	VARCHAR2	20	-	-
5	DELETEFLG	VARCHAR2	1	-	-

(凡例) - : 該当しません。 NN : NotNull

テーブル名 : COMPONENT_PORTLET

Web コンテンツポートレットのパラメタ値を保存するテーブルです。

COMPONENT_PORTLET テーブルの内容を次の表に示します。

表 3-41 COMPONENT_PORTLET テーブルの内容

項番	列名	データ型	長さ(バイト)	NULL	備考
1	PORTLETNAME	VARCHAR2	32	NN	-
2	ID	VARCHAR2	128	NN	-
3	PARAMVALUE	VARCHAR2	4000	-	-
4	UPDATECD	VARCHAR2	32	NN	-

(凡例) - : 該当しません。 NN : NotNull

(b) インデクス

作成するインデクスを次の表に示します。

表 3-42 作成するインデクス

インデクス名称	テーブル名称	列	備考
FILECONTENT_INDX1	FILECONTENT	FILEUPDATECD	-
FILECONTENT_INDX2		DELETEFLG	-
PORTLET_ARRANGE_INDX1	PORTLET_ARRANG E	LAYOUTID	-
PORTLET_ARRANGE_INDX2		AREAID	-
PORTLET_ARRANGE_INDX3		PORTLETNAME	-
PORTLET_ARRANGE_INDX4		UPDATECD	-
PORTLET_ARRANGE_INDX5		DELETEFLG	-
PORTAL_GROUP_INDX1	PORTAL_GROUP	COMMUNITYID	-
PORTAL_GROUP_INDX2		GROUPUPDATECD	-
PORTAL_GROUP_INDX3		DELETEFLG	-

3. リポジトリサーバの構築

インデクス名称	テーブル名称	列	備考
PORTAL_LAYOUT_INDX1	PORTAL_LAYOUT	PORTALGROUPNAME	-
PORTAL_LAYOUT_INDX3		ENTRYUPDATECD	-
PORTAL_LAYOUT_INDX4		INSTANCETYPE	-
PORTAL_LAYOUT_INDX5		DELETEFLG	-
PORTAL_PORTLET_INDX1		PORTAL_PORTLET	PORTALGROUPNAME
PORTAL_PORTLET_INDX3	ENTRYUPDATECD		-
PORTAL_PORTLET_INDX4	INSTANCETYPE		-
PORTAL_PORTLET_INDX5	DELETEFLG		-
PORTLET_GROUP_INDX1	PORTLET_GROUP		LOCATION
PORTLET_GROUP_INDX2		PARENTPORTLETGROUP	-
PORTLET_GROUP_INDX3		GROUPUPDATECD	-
PORTLET_GROUP_INDX4		DELETEFLG	-
PORTLET_ENTRY_INDX1		PORTLET_ENTRY	PORTLETGROUPNAME
PORTLET_ENTRY_INDX2	ENTRYUPDATECD		-
PORTLET_ENTRY_INDX3	DELETEFLG		-
COMPONENT_PORTLET_INDX1	COMPONENT_PORTLET		PORTLETNAME
COMPONENT_PORTLET_INDX2		ID	-
COMPONENT_PORTLET_INDX3		UPDATECD	-

(凡例) - : 該当しません。

(2) テーブルの作成

コマンドプロンプトでサンプルの SQL ファイル (create2.sql および dataload_id.sql) を実行して、テーブル、インデクス、および初期データ ID を作成します。

コマンドの実行例を次に示します。

```
sqlplus {DBユーザ名}/{パスワード}@{ホスト文字列} < create2.sql
sqlplus {DBユーザ名}/{パスワード}@{ホスト文字列} < dataload_id.sql
```

(3) データの登録

作成したテーブルに、データを登録します。データの登録手順を次に示します。

1. dataload_tool.properties ファイルを編集します。

dataload_tool.properties ファイルの詳細は、「10.1.5 dataload_tool.properties の詳細」を参照してください。

2. テーブルにデータを格納します。

コマンドプロンプトで dataload_tool.bat ファイルを実行してテーブルへのデータ登録をしてください。

dataload_tool.bat ファイルの格納ディレクトリは次のとおりです。

格納ディレクトリ

```
{uCosminexus Portal Framework インストールディレクトリ
}¥samples¥config¥empowermentdb
```

コマンドの実行例を次に示します。

```
dataload_tool.bat {DBユーザ名} {パスワード}
```

DB ユーザ名

移行処理を行う DB のユーザ名。「"」や「'」がある場合は「¥"」や「¥'」に置き換えてください。

パスワード

DB ユーザ名に指定したユーザ名に対応するパスワード。「"」や「'」がある場合は「¥"」や「¥'」に置き換えてください。

3.7.5 DB のセットアップ (SQL Server の場合)

DB にテーブル、およびインデクスを作成します。テーブルを作成するデータベース名は、PORTAL_DATABASE としてください。

(1) 作成するテーブル、およびインデクス

次のテーブル、およびインデクスを作成します。

(a) テーブル

テーブル名：FILECONTENT

標準画面レイアウト情報を格納するテーブルです。FILECONTENT テーブルの内容を次の表に示します。

表 3-43 FILECONTENT テーブルの内容

項番	列名	データ型	長さ (バイト)	NULL	備考
1	FILENAME	VARCHAR	256	-	主キー
2	FILECONTENT	VARBINARY	max	-	-
3	FILEUPDATECD	VARCHAR	20	-	-
4	DELETEFLG	VARCHAR	1	-	-

3. リポジットサーバの構築

(凡例) - : 該当しません。

テーブル名 : PORTLET_ARRANGE

DB にポートレット表示属性を保存する場合、レイアウトのエリアごとポートレット単位にポートレット表示属性を管理するテーブルです。レイアウト形式で拡張レイアウト形式を選択するときだけに必要です。

PORTLET_ARRANGE テーブルの内容を次の表に示します。

表 3-44 PORTLET_ARRANGE テーブルの内容

項番	列名	データ型	長さ (バイト)	NULL	備考
1	LAYOUTID	NVARCHAR	64	NN	-
2	AREAID	NVARCHAR	64	NN	-
3	PORTLETNAME	NVARCHAR	64	NN	-
4	PARAMNAME	NVARCHAR	255	NN	-
5	PARAMVALUE	NVARCHAR	255	NN	-
6	UPDATECD	NVARCHAR	20	-	-
7	DELETEFLG	NVARCHAR	1	-	-

(凡例) - : 該当しません。 NN : NotNull

テーブル名 : PORTAL_GROUP

ポータル管理グループの情報を格納するテーブルです。PORTAL_GROUP テーブルの内容を次の表に示します。

表 3-45 PORTAL_GROUP テーブルの内容

項番	列名	データ型	長さ (バイト)	NULL	備考
1	PORTALGROUPNAME	VARCHAR	20	NN	主キー
2	LOCATION	VARCHAR	20	-	-
3	COMMUNITYID	VARCHAR	40	-	-
4	PORTALGROUPTITLE	NVARCHAR	256	NN	-
5	PORTALGROUPDESC	NVARCHAR	600	-	-
6	PORTALGROUPTITLES	VARBINARY	max	-	-
7	ALLOWLISTCONTROL	VARBINARY	max	-	-
8	ALLOWLISTUSE	VARBINARY	max	-	-
9	GROUPUPDATECD	VARCHAR	20	-	-
10	DELETEFLG	VARCHAR	1	-	-

(凡例) - : 該当しません。 NN : NotNull

テーブル名 : PORTAL_LAYOUT

ポータル管理グループで管理する標準画面レイアウトの情報を格納するテーブルです。

PORTAL_LAYOUT テーブルの内容を次の表に示します。

表 3-46 PORTAL_LAYOUT テーブルの内容

項番	列名	データ型	長さ (バイト)	NULL	備考
1	PORTALGROUPNAME	VARCHAR	20	NN	-
2	ENTRYID	VARCHAR	20	NN	主キー
3	LOCATION	VARCHAR	20	NN	-
4	ENTRYTYPE	VARCHAR	20	-	-
5	ENTRYNAME	VARCHAR	80	NN	-
6	ENTRYTITLE	NVARCHAR	256	-	-
7	ENTRYPARENT	VARCHAR	80	-	-
8	ENTRYDESC	NVARCHAR	600	-	-
9	ENTRYPARAMETER	VARBINARY	max	-	-
10	ENTRYTITLES	VARBINARY	max	-	-
11	ENTRYUPDATECD	VARCHAR	20	-	-
12	INSTANCETYPE	VARCHAR	20	-	-
13	DELETEFLG	VARCHAR	1	-	-

(凡例) - : 該当しません。 NN : NotNull

テーブル名 : PORTAL_PORTLET

ポータル管理グループで管理するポータルレットの情報を格納するテーブルです。

PORTAL_PORTLET テーブルの内容を次の表に示します。

表 3-47 PORTAL_PORTLET テーブルの内容

項番	列名	データ型	長さ (バイト)	NULL	備考
1	PORTALGROUPNAME	VARCHAR	20	NN	-
2	ENTRYID	VARCHAR	20	NN	主キー
3	LOCATION	VARCHAR	20	NN	-
4	ENTRYTYPE	VARCHAR	20	-	-
5	ENTRYNAME	VARCHAR	80	NN	-
6	ENTRYTITLE	NVARCHAR	256	-	-
7	ENTRYPARENT	VARCHAR	80	-	-
8	ENTRYDESC	NVARCHAR	600	-	-
9	ENTRYPARAMETER	VARBINARY	max	-	-
10	ENTRYTITLES	VARBINARY	max	-	-
11	ENTRYUPDATECD	VARCHAR	20	-	-
12	INSTANCETYPE	VARCHAR	20	-	-

3. リポジトリサーバの構築

項番	列名	データ型	長さ (バイト)	NULL	備考
13	DELETEFLG	VARCHAR	1	-	-

(凡例) - : 該当しません。 NN : NotNull

テーブル名 : PORTAL_CREATEID

各テーブルの主キーを一意に採番するテーブルです。PORTAL_CREATEID テーブルの内容を次の表に示します。

表 3-48 PORTAL_CREATEID テーブルの内容

項番	列名	データ型	長さ (バイト)	NULL	備考
1	CREATEID	VARCHAR	20	NN	-

(凡例) - : 該当しません。 NN : NotNull

テーブル名 : PORTAL_UPDATED

データの更新コードを一意に採番するテーブルです。PORTAL_UPDATED テーブルの内容を次の表に示します。

表 3-49 PORTAL_UPDATED テーブルの内容

項番	列名	データ型	長さ (バイト)	NULL	備考
1	UPDATEID	VARCHAR	20	NN	-

(凡例) - : 該当しません。 NN : NotNull

テーブル名 : PORTLET_GROUP

DB にポートレットグループ情報を格納する場合、ポートレットグループ情報を管理するテーブルです。

PORTLET_GROUP テーブルは、1 グループを 1 レコードで管理します。1 グループのレコードは、上位ポートレットグループのポートレットグループ ID を保持することで、階層構造になっています。

PORTLET_GROUP テーブルの内容を次の表に示します。

表 3-50 PORTLET_GROUP テーブルの内容

項番	列名	データ型	長さ (バイト)	NULL	備考
1	PORTLETGROUPNAME	VARCHAR	20	NN	主キー
2	LOCATION	VARCHAR	20	-	-
3	PORTLETGROUPTITLES	VARBINARY	max	-	-
4	PORTLETGROUPDESCS	VARBINARY	max	-	-
5	PARENTPORTLETGROUP	VARCHAR2	20	-	-
6	GROUPUPDATECD	VARCHAR2	20	-	-

項番	列名	データ型	長さ(バイト)	NULL	備考
7	DELETEDFLG	VARCHAR2	1	-	-

(凡例) - : 該当しません。 NN : NotNull

テーブル名 : PORTLET_ENTRY

DB にポートレットグループ情報を格納する場合、ポートレット情報を管理するテーブルです。

PORTLET_ENTRY テーブルの内容を次の表に示します。

表 3-51 PORTLET_ENTRY テーブルの内容

項番	列名	データ型	長さ(バイト)	NULL	備考
1	ENTRYID	VARCHAR2	20	NN	主キー
2	ENTRYNAME	VARCHAR2	80	NN	-
3	PORTLETGROUPNAME	VARCHAR2	20	NN	-
4	ENTRYUPDATECD	VARCHAR2	20	-	-
5	DELETEDFLG	VARCHAR2	1	-	-

(凡例) - : 該当しません。 NN : NotNull

テーブル名 : COMPONENT_PORTLET

Web コンテンツポートレットのパラメタ値を保存するテーブルです。

COMPONENT_PORTLET テーブルの内容を次の表に示します。

表 3-52 COMPONENT_PORTLET テーブルの内容

項番	列名	データ型	長さ(バイト)	NULL	備考
1	PORTLETNAME	VARCHAR	32	NN	-
2	ID	VARCHAR	128	NN	-
3	PARAMVALUE	VARCHAR	4000	-	-
4	UPDATECD	VARCHAR	32	NN	-

(凡例) - : 該当しません。 NN : NotNull

(b) インデクス

作成するインデクスを次の表に示します。

表 3-53 作成するインデクス

インデクス名称	テーブル名称	列	備考
FILECONTENT_INDX1	FILECONTENT	FILEUPDATECD	-
FILECONTENT_INDX2		DELETEDFLG	-

3. リポジトリサーバの構築

インデクス名称	テーブル名称	列	備考
PORTLET_ARRANGE_INDX1	PORTLET_ARRANGE	LAYOUTID	-
PORTLET_ARRANGE_INDX2		AREAID	-
PORTLET_ARRANGE_INDX3		PORTLETNAME	-
PORTLET_ARRANGE_INDX4		UPDATECD	-
PORTLET_ARRANGE_INDX5		DELETEFLG	-
PORTAL_GROUP_INDX1	PORTAL_GROUP	COMMUNITYID	-
PORTAL_GROUP_INDX2		GROUPUPDATECD	-
PORTAL_GROUP_INDX3		DELETEFLG	-
PORTAL_LAYOUT_INDX1	PORTAL_LAYOUT	PORTALGROUPNAME	-
PORTAL_LAYOUT_INDX3		ENTRYUPDATECD	-
PORTAL_LAYOUT_INDX4		INSTANCETYPE	-
PORTAL_LAYOUT_INDX5		DELETEFLG	-
PORTAL_PORTLET_INDX1	PORTAL_PORTLET	PORTALGROUPNAME	-
PORTAL_PORTLET_INDX3		ENTRYUPDATECD	-
PORTAL_PORTLET_INDX4		INSTANCETYPE	-
PORTAL_PORTLET_INDX5		DELETEFLG	-
PORTLET_GROUP_INDX1	PORTLET_GROUP	LOCATION	-
PORTLET_GROUP_INDX2		PARENTPORTLETGROUP	-
PORTLET_GROUP_INDX3		GROUPUPDATECD	-
PORTLET_GROUP_INDX4		DELETEFLG	-
PORTLET_ENTRY_INDX1	PORTLET_ENTRY	PORTLETGROUPNAME	-
PORTLET_ENTRY_INDX2		ENTRYUPDATECD	-
PORTLET_ENTRY_INDX3		DELETEFLG	-
COMPONENT_PORTLET_INDX1	COMPONENT_PORTLET	PORTLETNAME	-
COMPONENT_PORTLET_INDX2		ID	-
COMPONENT_PORTLET_INDX3		UPDATECD	-

(凡例) - : 該当しません。

(2) テーブルの作成

コマンドプロンプトでサンプルの SQL ファイル (create3.sql および dataload_id3.sql)

を実行して、テーブル、インデクス、および初期データ ID を作成します。

コマンドの実行例を次に示します。

```
sqlcmd -U {DBユーザ名} -P {パスワード} -i create3.sql
sqlcmd -U {DBユーザ名} -P {パスワード} -i dataload_id3.sql
```

(3) データの登録

作成したテーブルに、データを登録します。データの登録手順を次に示します。

1. dataload_tool.properties ファイルを編集します。
dataload_tool.properties ファイルの詳細は、「10.1.5 dataload_tool.properties の詳細」を参照してください。

2. テーブルにデータを格納します。
コマンドプロンプトで dataload_tool.bat ファイルを実行してテーブルへのデータ登録をしてください。

dataload_tool.bat ファイルの格納ディレクトリは次のとおりです。

格納ディレクトリ

```
{uCosminexus Portal Framework インストールディレクトリ}
¥samples¥config¥empowermentdb
```

コマンドの実行例を次に示します。

```
dataload_tool.bat {DBユーザ名} {パスワード}
```

DB ユーザ名

移行処理を行う DB のユーザ名。「"」や「'」がある場合は「¥"」や「¥'」に置き換えてください。

パスワード

DB ユーザ名に指定したユーザ名に対応するパスワード。「"」や「'」がある場合は「¥"」や「¥'」に置き換えてください。

4

ポータルサーバの構築

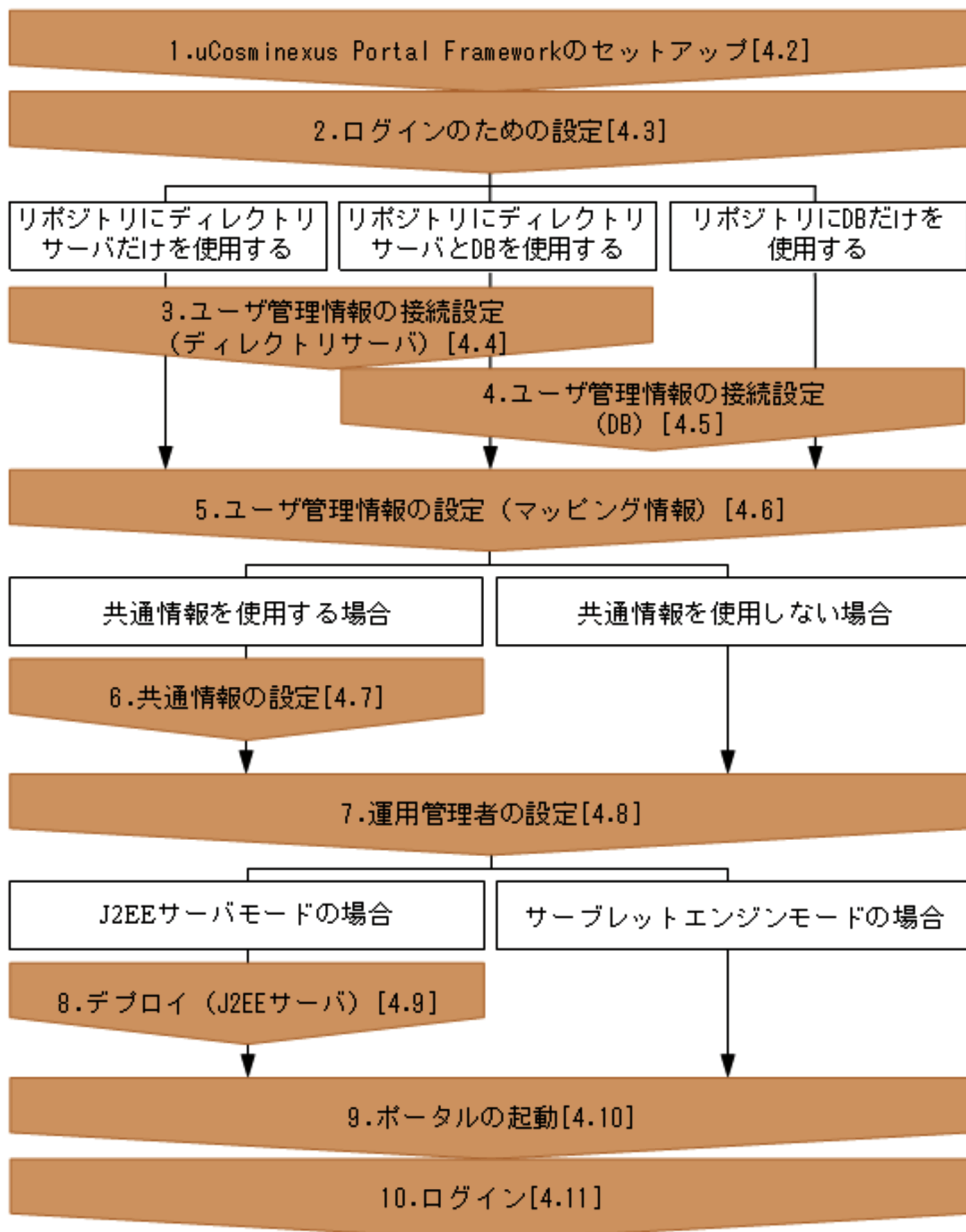
この章では、ポータルサーバの構築方法について説明します。

-
- 4.1 ポータルサーバの構築手順
 - 4.2 uCosminexus Portal Framework のセットアップ
 - 4.3 ログインするための設定
 - 4.4 ユーザ管理情報の接続設定（ディレクトリサーバ）
 - 4.5 ユーザ管理情報の接続設定（DB）
 - 4.6 ユーザ管理情報の設定（マッピング情報）
 - 4.7 共通情報の設定
 - 4.8 運用管理者の登録
 - 4.9 デプロイ（J2EE サーバ）
 - 4.10 ポータルの起動
 - 4.11 ログイン
-

4.1 ポータルサーバの構築手順

ポータルサーバの構築手順を次に示します。なお、図中の [] で囲まれた数字は、参照先を表します。

図 4-1 ポータルサーバの構築手順



1. uCosminexus Portal Framework のセットアップ
ポータルサイトを管理する単位である、ポータルプロジェクトを作成します。詳細は「4.2 uCosminexus Portal Framework のセットアップ」を参照してください。
2. ログインするための設定
Cosminexus の統合ユーザ管理フレームワークがディレクトリサーバまたは DB にアクセスしてユーザ認証するための設定、およびログインモジュールの登録をします。詳細は「4.3 ログインするための設定」を参照してください。
3. ユーザ管理情報の接続設定 (ディレクトリサーバ)
uCosminexus Portal Framework がディレクトリサーバにアクセスするための設定をします。詳細は、「4.4 ユーザ管理情報の接続設定 (ディレクトリサーバ)」を参照してください。
4. ユーザ管理情報の接続設定 (DB)
uCosminexus Portal Framework が DB にアクセスするための設定をします。詳細は、「4.5 ユーザ管理情報の接続設定 (DB)」を参照してください。
5. マッピング情報の設定
uCosminexus Portal Framework でディレクトリサーバや DB の属性を使用するための設定をします。詳細は「4.6 ユーザ管理情報の設定 (マッピング情報)」を参照してください。
6. 共通情報の設定
共通情報を使用する場合は、uCosminexus Portal Framework で共通情報を使用するための設定をします。詳細は「4.7 共通情報の設定」を参照してください。
7. 運用管理者の登録
ポータルの運用を管理する管理者を登録します。詳細は「4.8 運用管理者の登録」を参照してください。
8. デプロイ (J2EE サーバ)
ポータルを J2EE サーバにデプロイします。ポータルを J2EE サーバモードで動作させる場合に必要手順です。詳細は「4.9 デプロイ (J2EE サーバ)」を参照してください。
9. ポータルの起動
ポータルの構築が完了したら、ポータルを起動します。詳細は、「4.10 ポータルの起動」を参照してください。
10. ログイン
ポータルにログインします。詳細は、「4.11 ログイン」を参照してください。

4.2 uCosminexus Portal Framework のセットアップ

uCosminexus Portal Framework のセットアップでは、ポータルプロジェクトを作成します。ポータルプロジェクトとは、ポータルサイトを管理する単位です。ポータルプロジェクトは、Cosminexus の Web アプリケーションサーバ上で Web アプリケーションとして動作します。

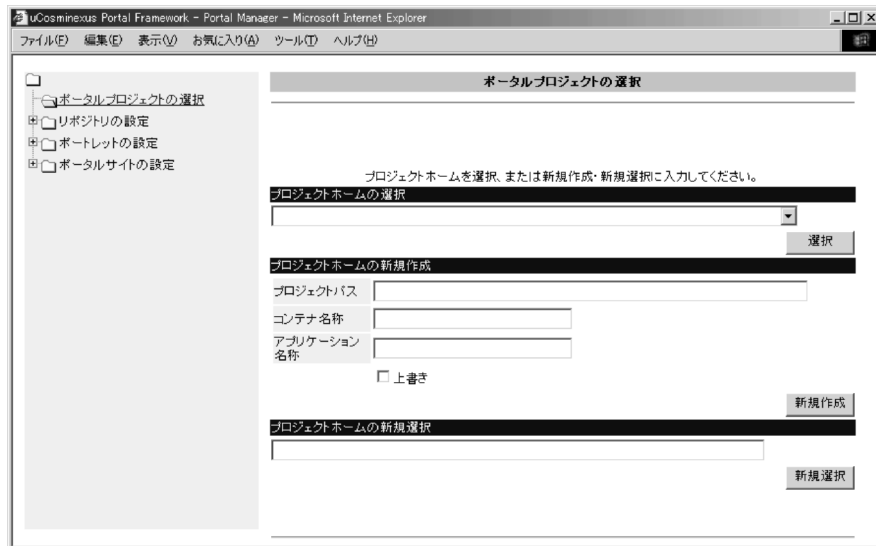
4.2.1 ポータルプロジェクトの作成

ここでは、ポータルプロジェクト作成手順を説明します。

(1) ポータルプロジェクトの作成

ポータルプロジェクトを作成するには、Portal Manager を使用方法とコマンド (makepj.bat) を使用方法があります。ここでは、Portal Manager を使用方法を説明します。コマンドを使用する場合は、makepj.bat コマンドでポータルプロジェクトのディレクトリを作成したあと、手順 5. だけを実施してください。makepj.bat コマンドの詳細は、「10.3 uCosminexus Portal Framework のコマンド」を参照してください。

1. Portal Manager を起動します。
Portal Manager の起動方法は、「2.4.1 Portal Manager の起動方法」を参照してください。
2. Portal Manager のメニュー部から [ポータルプロジェクトの選択] を選択します。
次の画面が表示されます。



3. 作成するポータルプロジェクトのディレクトリを指定します。
ポータルプロジェクトの全ファイルの格納先となるディレクトリを新規に作成します。ポータルプロジェクトのディレクトリが C:\work\Portal の場合の例を次に示します。なお、[コンテナ名称] および [アプリケーション名称] は使用しません。
 - [プロジェクトパス] にディレクトリをフルパスで指定する
指定例：
C:\work\Portal
4. [新規作成] ボタンをクリックします。
ポータルプロジェクトのディレクトリとファイルが作成されます。
以降、作成したディレクトリのフルパスを {PROJECT_HOME} と略します。

既存のプロジェクトディレクトリに上書きするには
新規に指定したプロジェクトパスに、ファイルあるいはディレクトリが存在しても上書きしたい場合は、[上書き] チェックボックスにチェックを入れてください。

既存のプロジェクトディレクトリを削除するには
誤って作成してしまった場合など、ポータルプロジェクトを削除したい場合は、プロジェクトディレクトリとして指定したディレクトリ自体を、サーバから削除してください。

なお、以上でポータルプロジェクトを作成するために Portal Manager を使用する操作は完了しました。別の作業で Portal Manager を使用する必要がない場合は、Portal Manager を終了してください。終了方法は、「2.4.2 Portal Manager の終了方法」を参照してください。
5. Web アプリケーション DD (web.xml) の jetspeed サブレットの定義を変更します。

4. ポータルサーバの構築

web.xml ファイルを直接編集して、jetspeed サブプレットの <load-on-startup> タグの定義を「-1」に設定します。

web.xml ファイルは次の場所に格納されています。

格納ディレクトリ

```
{PROJECT_HOME}¥WEB-INF
```

変更する記述例を次に示します。

```
<servlet>
  <servlet-name>
    jetspeed
  </servlet-name>
  <servlet-class>
    org.apache.turbine.Turbine
  </servlet-class>

  ~ ~ (中略) ~ ~

  <load-on-startup>-1</load-on-startup>
</servlet>
```

(2) Web コンテナのセットアップ

ポータルを J2EE サーバモードで構築する場合は、Cosminexus の cjsetup コマンドで J2EE サーバの Web コンテナをセットアップする必要があります。

なお、cjsetup コマンドについては、マニュアル「Cosminexus アプリケーションサーバ V8 リファレンス コマンド編」、またはマニュアル「Cosminexus V9 アプリケーションサーバ リファレンス コマンド編」を参照してください。

1. usrconf.cfg ファイルを設定します。

usrconf.cfg ファイルの格納ディレクトリは、次のとおりです。

格納ディレクトリ

```
{Cosminexus インストールディレクトリ }¥CC¥server¥usrconf¥ejb¥{
  サーバ名称 }
```

usrconf.cfg ファイルに次の記述を追加します。

usrconf.cfg ファイルに追加する記述

```
add.class.path={uCosminexus Portal Frameworkインストールディレクトリ
}/lib/castor.jar
add.class.path={uCosminexus Portal Frameworkインストールディレクトリ
}/lib/ecs.jar
add.class.path={uCosminexus Portal Frameworkインストールディレクトリ
}/lib/hitachiportal.jar
add.class.path={uCosminexus Portal Frameworkインストールディレクトリ
}/lib/jakarta-oro.jar
add.class.path={uCosminexus Portal Frameworkインストールディレクトリ
}/lib/portletwebssolib.jar
add.class.path={uCosminexus Portal Frameworkインストールディレクトリ
}/lib/velocity.jar
add.class.path={uCosminexus Portal Frameworkインストールディレクトリ
}/lib/village.jar
add.class.path={uCosminexus Portal Frameworkインストールディレクトリ
```

```

}/lib/portlet.jar
add.class.path={uCosminexus Portal Frameworkインストールディレクトリ
}/conf
add.class.path={uCosminexus Portal Frameworkインストールディレクトリ
}/xsd

```

2. セキュリティポリシーファイル (server.policy) を設定します。

セキュリティポリシーファイル (server.policy) の格納ディレクトリは、次のとおりです。

格納ディレクトリ

```
{Cosminexus インストールディレクトリ }¥CC¥server¥usrconf¥ejb¥{
  サーバ名称 }
```

セキュリティポリシーファイル (server.policy) に、必要な記述を追加します。

追加する記述は環境によって異なります。ここでは次の場合の記述例を示します。

- コンテキストルートに使用する文字列：Portal
- uCosminexus Portal Framework で使用するログインモジュール名：Portal
- uCosminexus Portal Framework のインストールディレクトリ：C:/Program Files/Hitachi/CosmiPortal

セキュリティポリシーファイル (server.policy) に追加する記述の例

```

grant codeBase
"file:${ejbserver.http.root}/web/${ejbserver.serverName}/Portal/
-"{
  permission java.lang.RuntimePermission "accessDeclaredMembers";
  permission java.lang.RuntimePermission "modifyThread";
  permission java.lang.RuntimePermission "modifyThreadGroup";
  permission java.lang.RuntimePermission "stopThread";
  permission java.net.SocketPermission "*", "connect,resolve";
  permission java.io.FilePermission "<<ALL FILES>>",
"read,write,delete";
  permission java.util.PropertyPermission "*", "read, write";
  permission javax.security.auth.AuthPermission
"createLoginContext.Portal";
};

```

```

grant codeBase
"file:C:/Program Files/Hitachi/CosmiPortal/lib/*"{
  permission java.lang.RuntimePermission "setFactory";
  permission java.lang.RuntimePermission
"accessClassInPackage.sun.misc";
  permission java.lang.RuntimePermission "loadLibrary.*";
  permission java.lang.RuntimePermission "queuePrintJob";
  permission java.lang.RuntimePermission "accessDeclaredMembers";
  permission java.lang.RuntimePermission "modifyThread";
  permission java.lang.RuntimePermission "modifyThreadGroup";
  permission java.lang.RuntimePermission "stopThread";
  permission java.net.SocketPermission "*", "connect";
  permission java.io.FilePermission "<<ALL FILES>>",
"read,write,delete";
  permission java.lang.reflect.ReflectPermission
"suppressAccessChecks";
  permission java.util.PropertyPermission "*", "read, write";
  permission javax.security.auth.AuthPermission
"createLoginContext.Portal";
};

```

4. ポータルサーバの構築

環境によって変更が必要なのは、記述例中の次の箇所です。

```
file:${ejbserver.http.root}/web/${ejbserver.serverName}/Portal-
```

「Portal」部分には、コンテキストルートに使用する文字列を指定します。コンテキストルートにスラント (/) が含まれている場合は、Web アプリケーションのデプロイ時に文字列が置き換わります。Web アプリケーションの作業ディレクトリ内で、コンテキストルートに対応するディレクトリを参照し、そのディレクトリ名を設定してください。

なお、コンテキストルートについては、マニュアル「Cosminexus アプリケーションサーバ V8 機能解説 基本・開発編 (コンテナ共通機能)」, またはマニュアル「Cosminexus V9 アプリケーションサーバ 機能解説 基本・開発編 (コンテナ共通機能)」を参照してください。

```
permission javax.security.auth.AuthPermission "createLoginContext.Portal"; (2 箇所)
```

「Portal」部分には、uCosminexus Portal Framework で使用するログインモジュールの登録モジュール名を指定します。

なお、ログインモジュールについては「4.3.2 ログイン情報の設定」を参照してください。

```
file:C:/Program Files/Hitachi/CosmiPortal/lib/*
```

「C:/Program Files/Hitachi/CosmiPortal」部分には、uCosminexus Portal Framework のインストールディレクトリを指定します。

4.2.2 Web サーバとの連携の設定

ポータルプロジェクトは、Web サーバと連携する Web アプリケーションとして実行されます。このため、Web サーバと連携するための設定が必要です。設定方法の詳細は、マニュアル「Cosminexus アプリケーションサーバ V8 機能解説 基本・開発編 (コンテナ共通機能)」, またはマニュアル「Cosminexus V9 アプリケーションサーバ 機能解説 基本・開発編 (コンテナ共通機能)」を参照してください。

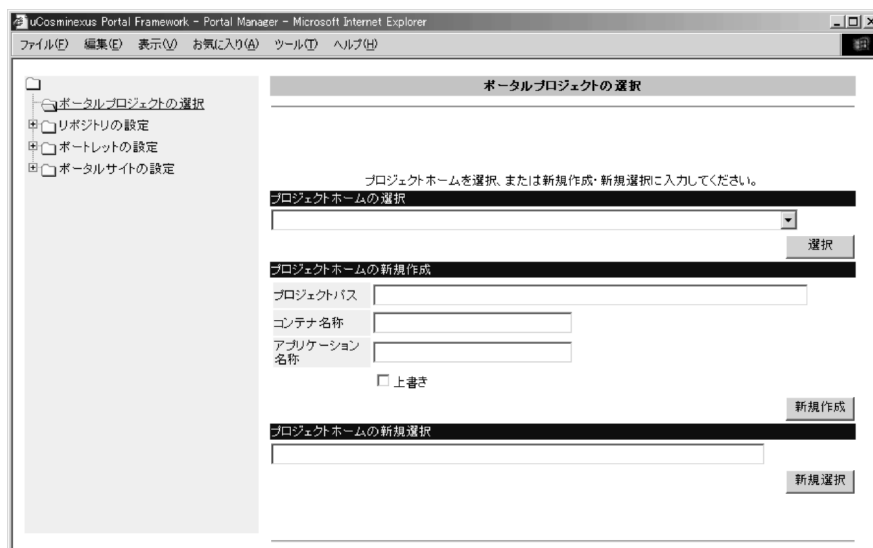
4.2.3 ポータルプロジェクトの選択

ポータルプロジェクトを作成した場合、またはファイルをコピーしてポータルプロジェクトを作成した場合、以降 Portal Manager からポータルに関する設定などを行うときは、最初にポータルプロジェクトを選択します。ここでは、Portal Manager を起動して、作成済みのポータルプロジェクトの選択方法について説明します。

1. Portal Manager を起動します。

Portal Manager の起動方法は、「2.4.1 Portal Manager の起動方法」を参照してください。

2. Portal Manager のメニュー部から [ポータルプロジェクトの選択] を選択します。次の画面が表示されます。



3. 編集するポータルプロジェクトを選択します。
ポータルプロジェクトの選択方法には次の方法があります。

Portal Manager 画面で作成したポータルプロジェクトを選択するとき

Portal Manager 画面で作成したポータルプロジェクトのディレクトリパスは [プロジェクトホームの選択] に格納されています。Portal Manager 画面で作成したポータルプロジェクトを選択する場合は, [プロジェクトホームの選択] からディレクトリパスを選択します。ディレクトリパスを選択したら, [選択] ボタンをクリックします。

ファイルをコピーして作成したポータルプロジェクトを選択するとき

Portal Manager 画面からではなく, ファイルをコピーして作成したポータルプロジェクトを選択する場合は, [プロジェクトホームの新規選択] へコピーしたポータルプロジェクトのディレクトリパスを入力します。ディレクトリパスを入力したら, [新規選択] ボタンをクリックします。

4. Portal Manager 画面上で, 続けて作業を行います。
これで設定を行うポータルプロジェクトが選択できたので, Portal Manager での設定を引き続き行ってください。

! 注意事項

J2EE サーバ上で運用している場合に, Portal Manager でプロジェクトを編集したときは, WAR ファイルを作成して再度 J2EE サーバへデプロイしてください。デプロイ方法については, マニュアル「Cosminexus アプリケーションサーバ V8 機能解説 基本・開発編 (コンテナ共通機能)」, またはマニュアル「Cosminexus V9 アプリケーションサーバ 機能解説 基本・開発編 (コンテナ共通機能)」を参照してください。

4.2.4 複数のポータルプロジェクトを作成する場合の注意事項

複数のポータルプロジェクトを構築する場合は、設定ファイルおよびポートレット配置情報ファイルを任意のディレクトリに配置し、ポータルプロジェクトごとに異なる定義ファイルを設定します。また、複数のポータルを構築する場合は、複数の Web コンテナをセットアップしてください。各 Web コンテナで作成できるポータルプロジェクトは一つです。

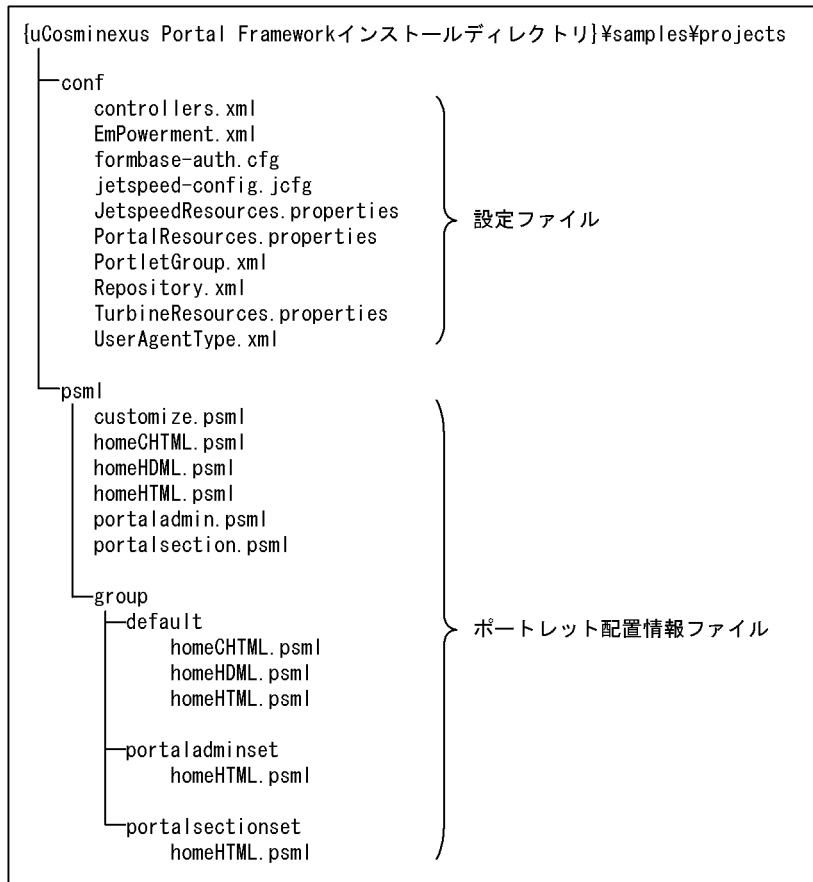
(1) 設定ファイルの変更

設定ファイルおよびポートレット配置情報ファイルを任意のディレクトリに配置する手順を次に示します。

1. 設定ファイルおよびポートレット配置情報ファイルを任意のディレクトリに移動します。

対象となるファイルは、`{uCosminexus Portal Framework インストールディレクトリ}¥samples¥projects` 配下の `conf` ディレクトリおよび `psml` ディレクトリに格納されています。`conf` ディレクトリ内のファイルが設定ファイル、`psml` ディレクトリ下のファイルがポートレット配置情報ファイルです。以降、設定ファイルの移動先ディレクトリを「`{設定ファイル格納ディレクトリ}`」、ポートレット配置情報ファイルの移動先ディレクトリを「`{ポートレット配置情報ファイル格納ディレクトリ}`」と表します。

`{uCosminexus Portal Framework インストールディレクトリ}¥samples¥projects` 配下のファイル構成を次に示します。



- ポータルプロジェクトの作成後に Web アプリケーションの DD (web.xml) を編集します。

web.xml は次に示すディレクトリに格納されています。

格納ディレクトリ

```
{PROJECT_HOME}¥WEB-INF
```

web.xml で定義している jetspeed サブレットのプロパティ値の

TurbineResources.properties ファイルを指定しているパスを、「{設定ファイル格納ディレクトリ}/TurbineResources.properties」に変更します。パス区切り文字は「/」を使用してください。

「{設定ファイル格納ディレクトリ}」が「C:¥Program

Files¥Hitachi¥CosmiPortal¥projects¥portal1¥conf」の場合の設定例を次に示します。太字部分を変更してください。

```

<servlet>
  <servlet-name>
    jetspeed
  </servlet-name>
  <servlet-class>
  
```

4. ポータルサーバの構築

```
    org.apache.turbine.Turbine
  </servlet-class>

  <init-param>
    <param-name>properties</param-name>
    <param-value>
      C:/Program Files/Hitachi/CosmiPortal/projects/portall/
      conf/TurbineResources.properties
    </param-value>
  </init-param>
  <init-param>
    <param-name>classname</param-name>
    <param-value>

org.apache.jetspeed.services.resources.VariableResourcesService
  </param-value>
  </init-param>
  <load-on-startup>1</load-on-startup>
</servlet>
```

3. プロパティファイル (PortalResources.properties) を編集します。

プロパティファイル (PortalResources.properties) は次に示すディレクトリに格納されています。

格納ディレクトリ

```
{ 設定ファイル格納ディレクトリ }¥conf
```

jp.co.hitachi.soft.portal.access.psml.dir プロパティに、「{ ポートレット配置情報ファイル格納ディレクトリ}」を設定します。

「{ ポートレット配置情報ファイル格納ディレクトリ}」が「C:¥Program Files¥Hitachi¥CosmiPortal¥projects¥portall¥psml」の場合の設定例を次に示します。

```
jp.co.hitachi.soft.portal.access.psml.dir=C:/Program Files/
Hitachi/CosmiPortal/projects/portall/psml
```

(2) ポート番号の変更

複数の Web コンテナを同時に起動する場合、Web コンテナのポート番号の設定が必要です。

ポート番号の設定手順を次に示します。

1. 設定するマシンで使用されていないポート番号を確認します。
起動する各 Web コンテナに対してポート番号が必要になります。ひとつの Web コンテナごとに簡易 Web サーバ のポート番号 (webserver.connector.http.port), Web コンテナ終了用ポート番号 (webserver.shutdown.port), および Web コンテナとの通信用ポート番号 (webserver.connector.ajp13.port) の三つのポート番号を使用しますので、設定するマシンで使われていないポート番号を確認してください。
2. usrconf.properties ファイルに設定するポート番号を追加します。
ポート番号は、usrconf.properties ファイルへ追加します。

usrconf.properties ファイル

格納ディレクトリ

```
{Cosminexus インストールディレクトリ }¥CC¥server¥usrconf¥ejb¥{  
サーバ名称 }
```

以下に設定例を示します。

あらかじめデフォルト値が設定されているので、すでに使用しているポート番号と競合する場合は、手順 1 . で確保したポート番号を設定してください。

```
#webserver.connector.http.port=8080  
webserver.connector.http.port=8085  
#webserver.shutdown.port=8005  
webserver.shutdown.port=8015  
#webserver.connector.ajp13.port=8007  
webserver.connector.ajp13.port=8017
```

注

Web サーバ連携をする場合は簡易 Web サーバのポート番号の設定は必要ありません。また、簡易 Web サーバを使用する場合は、以下の設定が必要です。

```
webserver.connector.http.enabled=true
```

4.3 ログインするための設定

uCosminexus Portal Framework はディレクトリサーバまたは DB，および統合ユーザ管理フレームワークと連携してユーザ管理をします。ユーザ管理に関する情報はリポジトリに格納されます。

ログインするための設定手順を次に示します。

1. 統合ユーザ管理フレームワークの実行環境の設定
2. ログイン情報の設定

4.3.1 統合ユーザ管理フレームワークの実行環境の設定

統合ユーザ管理フレームワークがディレクトリサーバまたは DB にアクセスしてユーザ認証するための設定をします。手順を次に示します。

1. JAAS コンフィグレーションファイルの設定
2. 統合ユーザ管理フレームワークのコンフィグレーションファイルの設定
3. VM 起動のプロパティの設定
4. uastartup ファイルのデプロイ

(1) JAAS コンフィグレーションファイルの設定

JAAS を使用したユーザ管理に必要な，JAAS のコンフィグレーションファイル (jaas.conf) を設定します。

jaas.conf ファイルは，次に示すディレクトリに格納されています。

格納ディレクトリ

```
{Cosminexus インストールディレクトリ }¥manager¥config
```

JAAS のコンフィグレーションファイルでは，アプリケーション名に uCosminexus Portal Framework のログインモジュール名を指定します。

ログインモジュール名に「Portal」を使用した例を次に示します。

ユーザ認証にディレクトリサーバを使用する場合

```
Portal{
  com.cosminexus.admin.auth.login.WebPasswordLoginModule required
  com.cosminexus.admin.auth.realm="RealmA"
  com.cosminexus.admin.auth.ldap.r="0"
  com.cosminexus.admin.auth.ldap.w="1"
  ;
};
```

ユーザ認証に DB を使用する場合

```
Portal{
```

```

com.cosminexus.admin.auth.login.WebPasswordJDBCLoginModule
required
  com.cosminexus.admin.auth.realm="Portal"
  com.cosminexus.admin.auth.jdbc.r="0"
  ;
};

```

ユーザ認証に DB を使用する場合は、プロパティファイル (PortalResources.properties) の以下のプロパティを削除するか loginid に設定してください。なお、プロパティファイル (PortalResources.properties) は次に示すディレクトリに格納されています。

格納ディレクトリ

```
{ 設定ファイル格納ディレクトリ }¥conf
```

設定プロパティ

```
jp.co.hitachi.soft.portal.services.repository.uservalue=loginid
```

! 注意事項

ユーザ認証で使用するディレクトリサーバに Active Directory を使用する場合は、ログインモジュールに WebPasswordLDAPLoginModule を使用します。詳細は、マニュアル「Cosminexus アプリケーションサーバ V8 機能解説 拡張編」、またはマニュアル「Cosminexus V9 アプリケーションサーバ 機能解説 拡張編」を参照してください。

(2) 統合ユーザ管理フレームワークのコンフィグレーションファイルの設定

JAAS を使用したユーザ管理に必要な、統合ユーザ管理フレームワークのコンフィグレーションファイル (ua.conf) を設定します。

ua.conf ファイルは、次に示すディレクトリに格納されています。

格納ディレクトリ

```
{Cosminexus インストールディレクトリ }¥manager¥config
```

統合ユーザ管理フレームワークのコンフィグレーションファイルは、幾つかの項目に分かれています。ディレクトリサーバまたは DB の設定とユーザ管理情報リポジトリへのアクセス情報の定義の設定をしてください。また、統合ユーザ管理フレームワークが提供しているシングルサインオンを使用しない場合は、シングルサインオン用の定義項目の設定をすべて無効にします。ディレクトリサーバまたは DB について設定する内容とユーザ情報リポジトリへのアクセス情報の定義について設定する内容を次に説明します。

(a) ディレクトリサーバを使用する場合

LDAP0 参照用および LDAP1 ~ 3 更新用の項目に次の設定をします。なお、ここでは、LDAP0 参照用の項目と記載例を示します。LDAP1 ~ 3 更新用の項目を設定する際には、項目名末尾の 0 を 1 ~ 3 に置き換えてお読みください。

4. ポータルサーバの構築

また、ディレクトリサーバとして Active Directory を使用する場合は注意事項については、マニュアル「Cosminexus アプリケーションサーバ V8 機能解説 拡張編」、またはマニュアル「Cosminexus V9 アプリケーションサーバ 機能解説 拡張編」を参照してください。

java.naming.provider.url.0=

使用しているディレクトリサーバの URL を指定します。必ず指定してください。

例：java.naming.provider.url.0=ldap://localhost:389

java.naming.security.principal.0=

ディレクトリサーバにアクセスできるバインド DN を指定します。必ず指定してください。バインド DN には、ベース DN 下のユーザエントリおよびその属性にすべての権限を持つユーザを指定します。バインド DN は、ディレクトリサーバのユーザエントリを登録・参照・変更・削除する際に使用します。

例：java.naming.security.principal.0=cn=Directory Manager

java.naming.security.credentials.0=

バインド DN に対応するパスワードを指定します。必ず指定してください。

例：java.naming.security.credentials.0=password

com.cosminexus.admin.auth.ldap.basedn.0=

ユーザエントリのベース DN を指定します。必ず指定してください。

例：com.cosminexus.admin.auth.ldap.basedn.0=ou=users, o=company

com.cosminexus.admin.auth.ldap.attr.userid.0=

ユーザのログイン ID を表す属性名を文字列で指定します。必ず指定してください。

例：com.cosminexus.admin.auth.ldap.attr.userid.0=uid

com.cosminexus.admin.auth.ldap.search.userrdn.0=

ディレクトリサーバのユーザエントリ (RDN) を検索する必要があるかどうかを true または false で指定します。ユーザのログイン ID を表す属性名とユーザエントリ (RDN) が異なる場合は、true を指定します。

例：com.cosminexus.admin.auth.ldap.search.userrdn.0=false

com.cosminexus.admin.auth.ldap.search.scope.0=

ディレクトリサーバのユーザエントリ (RDN) を検索する必要がある場合は設定します。ログイン時にベース DN から 1 階層下のエントリだけを検索する場合は、onelevel を指定します。すべての下層のエントリを検索する場合は、subtree を指定します。

例：com.cosminexus.admin.auth.ldap.search.scope.0=onelevel

com.cosminexus.admin.auth.ldap.attr.password.0=

ユーザのパスワードを表す属性名を指定します。

例：com.cosminexus.admin.auth.ldap.attr.password.0=userPassword

`com.cosminexus.admin.auth.ldap.password.encrypt.0=`

パスワードの形式を指定します。指定できる形式は、次のとおりです。

- sha1 : SHA-1 形式
- none : 平文
- md5 : MD5 形式

ここで指定する形式とご利用のディレクトリサーバの暗号化方式は必ず一致させてください。特に、Sun Java System Directory Server は標準の暗号化方式として SSHA 形式を採用していますが、uCosminexus Portal Framework では SSHA 形式をサポートしていません。このため、Sun Java System Directory Server をご利用になる場合は、Sun Java System Directory Server 側の暗号化方式を SHA-1 形式などに変更してください。

例：`com.cosminexus.admin.auth.ldap.password.encrypt.0=sha1`

(b) DB を使用する場合

JDBC0 参照用の項目に次の設定をします。

`com.cosminexus.admin.auth.jdbc.driver.0=`

DB に接続する JDBC ドライバを指定します。なお、この項目を指定する場合は、VM 起動のオプション定義ファイル (`usrconf.cfg`) に JDBC ドライバのクラスパスを追加してください。

例：

`com.cosminexus.admin.auth.jdbc.driver.0=com.microsoft.sqlserver.jdbc.SQLServerDriver`

! 注意事項

この設定は、uCosminexus Portal Framework から接続する場合にのみ有効な設定です。

`com.cosminexus.admin.auth.jdbc.conn.url.0=`

使用している DB の URL を指定します。必ず指定してください。

例：

`com.cosminexus.admin.auth.jdbc.conn.url.0=jdbc:hitachi:dbplib:/DB=HiRDB,DBID=22200,DBHOST=localhost`

`com.cosminexus.admin.auth.jdbc.conn.user.0=`

代理で接続するデータベースユーザを指定します。必ず指定してください。

例：`com.cosminexus.admin.auth.jdbc.conn.user.0="root"`

`com.cosminexus.admin.auth.jdbc.conn.password.0=`

代理で接続するデータベースユーザのパスワードを指定します。必ず指定してください。

例：`com.cosminexus.admin.auth.jdbc.conn.password.0="root"`

4. ポータルサーバの構築

```
com.cosminexus.admin.auth.jdbc.sql.0=SELECT PASSWORD FROM USER_TBL
WHERE USERID=?
```

パスワードを検索するための SQL の SELECT 文を指定します。斜体部分に、それぞれ次の値を指定します。必ず指定してください。

- *PASSWORD* : パスワードが格納されている列のカラム名
- *USER_TBL* : ユーザ管理のための情報が格納されているテーブル名
- *USERID* : ログイン ID が格納されている列のカラム名

例 : com.cosminexus.admin.auth.jdbc.sql.0=SELECT *PASSWORD* FROM *HPTLUSER* WHERE *USERID* = ?

```
com.cosminexus.admin.auth.jdbc.password.encrypt.0=
```

パスワードの形式を指定します。指定できる形式は、次のとおりです。

- sha1 : SHA-1 形式
- none : 平文
- md5 : MD5 形式

ここで指定する形式とご利用の DB の暗号化方式は必ず一致させてください。

例 : com.cosminexus.admin.auth.jdbc.password.encrypt.0=sha1

(c) ユーザ情報リポジトリへのアクセス情報の定義

運用管理者が運用管理ポートレットでユーザ情報の管理を行う場合に必要な設定です。次の定義を追記してください。なお、ユーザ情報リポジトリとして DB を使用する場合はこの設定は不要です。

```
com.cosminexus.admin.auth.api.repository.ldap.config.<jp.co.hitachi.soft.portal.services.repository.spi.CosminexusRepositoryModule.write>=1
```

また、この設定を行う場合は PortalResources.properties ファイルの jp.co.hitachi.soft.portal.services.repository.spi.CosminexusRepositoryModule.write プロパティを設定する必要があります。プロパティファイル (PortalResources.properties) については「10.1.1(12) ユーザ情報リポジトリへのアクセス情報の定義」を参照してください。

(3) VM 起動のプロパティの設定

usrconf.properties ファイルにプロパティを追加します。

usrconf.properties ファイルの格納ディレクトリは次のディレクトリに格納されていません。

```
{Cosminexusインストールディレクトリ}¥CC¥server¥usrconf¥ejb¥{サーバ名称}
```

usrconf.properties ファイルに次に示すプロパティを追加します。

追加するプロパティ

```
java.security.auth.login.config={Cosminexusインストールディレクトリ}/manager/config/jaas.conf
com.cosminexus.admin.auth.config={Cosminexusインストールディレクトリ}/manager/config/ua.conf
```

(4) uastartup ファイルのデプロイ

uastartup ファイルとは、Cosminexus の統合ユーザ管理機能を使用するために必要なファイルです。

uastartup ファイルを Web コンテナにデプロイします。uastartup.ear をデプロイしてください。

- デプロイ方法については、マニュアル「Cosminexus アプリケーションサーバ V8 機能解説 基本・開発編 (コンテナ共通機能)」, またはマニュアル「Cosminexus V9 アプリケーションサーバ 機能解説 基本・開発編 (コンテナ共通機能)」のファイルのデプロイについての説明を参照してください。

uastartup.ear の格納ディレクトリを次に示します。

格納ディレクトリ

```
{Cosminexus インストールディレクトリ }¥manager¥config
```

4.3.2 ログイン情報の設定

uCosminexus Portal Framework での認証に使用する、ログインモジュールを登録します。ログインモジュールとは、ログインするための認証処理を記述したものです。ログインモジュールでは認証方法の変更ができます。

uCosminexus Portal Framework では、次のログインモジュールが使用できます。

- Cosminexus 標準ログインモジュール
- カスタムログインモジュール

ログイン時に、ユーザ ID とパスワードを使用してユーザ認証する場合は、統合ユーザ管理フレームワークの Cosminexus 標準ログインモジュールを登録します。ユーザ ID またはパスワード以外の属性を使用してユーザ認証する場合は、カスタムログインモジュールも必要となります。

ここでは、Cosminexus 標準ログインモジュールの登録について説明します。カスタムログインモジュールを使用した場合の設定方法については、「6.5 カスタムログインモジュールの設定」を参照してください。

Cosminexus 標準ログインモジュールの登録には、Portal Manager を使用します。

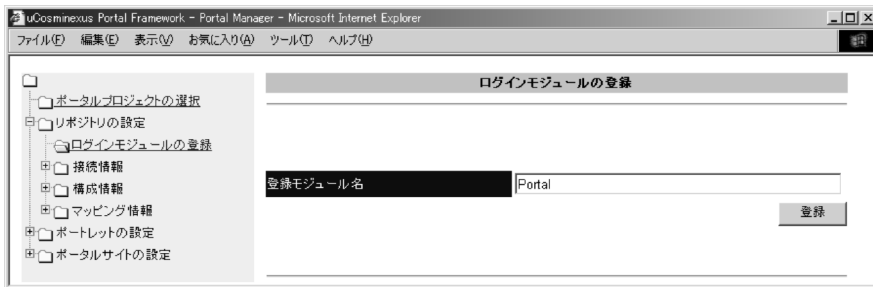
Portal Manager の起動方法については、「2.4.1 Portal Manager の起動方法」を参照してください。ログインモジュールの登録方法を説明します。

1. Portal Manager のメニュー部から [リポジトリの設定] - [ログインモジュールの登

4. ポータルサーバの構築

録]を選択します。
次の画面が表示されます。

図 4-2 [ログインモジュールの登録] 画面



2. [ログインモジュールの登録] 画面で [登録モジュール名] にログインモジュール名を指定します。
ログインモジュール名には、JAAS コンフィグレーションファイル (jaas.conf) で設定したアプリケーション名を指定します。JAAS コンフィグレーションファイルの設定については、「4.3.1(1) JAAS コンフィグレーションファイルの設定」を参照してください。
3. [登録] ボタンをクリックします。
ログインモジュールが登録されます。

4.4 ユーザ管理情報の接続設定（ディレクトリサーバ）

uCosminexus Portal Framework がユーザ管理情報を格納したディレクトリサーバにアクセスするための設定方法について説明します。

4.4.1 リポジトリの設定（ディレクトリサーバ）

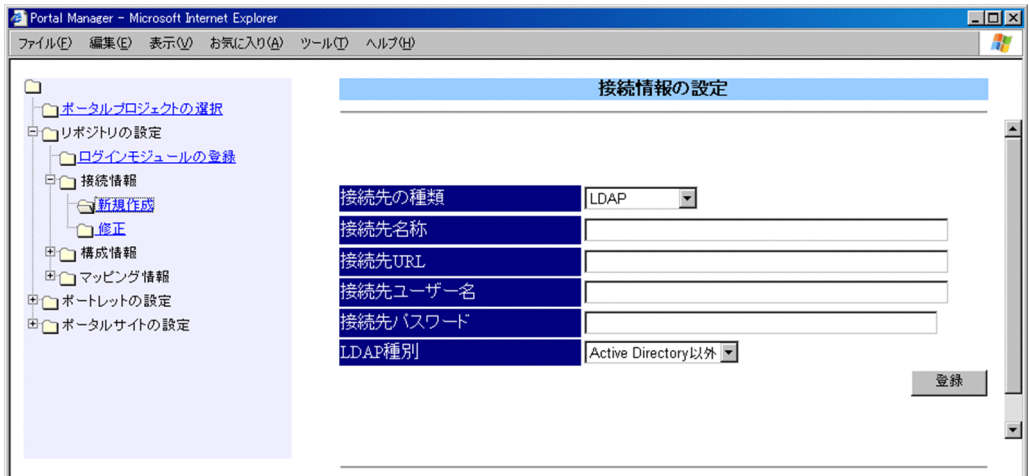
Portal Manager を使用して、uCosminexus Portal Framework がディレクトリサーバにアクセスするために、接続情報および構成情報の定義を設定します。Portal Manager の起動方法については、「2.4.1 Portal Manager の起動方法」を参照してください。

（1）接続情報の新規登録（ディレクトリサーバ）

接続情報を定義します。接続情報は、uCosminexus Portal Framework からリポジトリに接続するときに使用する情報です。接続情報の定義手順を次に示します。

1. Portal Manager のメニュー部から [リポジトリの設定] - [接続情報] - [新規作成] を選択します。
次の画面が表示されます。

図 4-3 [接続情報の設定] 画面（初期画面・ディレクトリサーバ）



2. [接続情報の設定] 画面で次の項目を設定します。
画面で設定する項目と内容を次の表に示します。

表 4-1 接続情報の設定項目（ディレクトリサーバ）

項目名	設定内容	必須
接続先の種類	接続先のリポジトリの種類を指定します。[LDAP] を指定します。	

4. ポータルサーバの構築

項目名	設定内容	必須
接続先名称	リポジトリ情報を格納するディレクトリサーバの接続先名称を入力します。名称は任意ですが、ポータルプロジェクト内で一意となるようにしてください。	
接続先 URL	接続先ディレクトリサーバの URL を入力します。入力できる文字は、半角英数字および記号で 1024 文字までです。 指定例：ldap://localhost:389	
接続先ユーザー名	ディレクトリサーバに接続するユーザの DN (バインド DN) を指定します。 ベース DN 下のユーザエントリおよびその属性にすべての権限を持つユーザを指定します。バインド DN は、ディレクトリサーバのユーザエントリを登録・参照・変更・削除する際に使用します。入力できる文字は、半角英数字、記号および半角スペースで 256 文字までです。 指定例：cn=Directory Manager	× ¹
接続先パスワード	バインド DN に対するパスワードを指定します。入力できる文字は、半角英数字および記号で 1024 文字までです。 指定例：password	× ¹
LDAP 種別	ディレクトリサーバの種類を指定します。Sun Java Directory Server または Oracle Directory Server の場合は、「Active Directory 以外」を、Active Directory の場合は、「Active Directory」を選択してください。	×

(凡例) : 必須 × : 任意

注 1 省略した場合は Anonymous で接続します。この場合、接続先に書き込みはできません。

3. [登録] ボタンをクリックします。
接続情報が登録されます。

(2) 構成情報の新規登録 (ディレクトリサーバ)

構成情報を定義します。構成情報は、ユーザ管理情報のユーザ情報、グループ情報、および組織単位情報に対応するディレクトリサーバ上のユーザエントリ、グループエントリ、および組織単位エントリの構成の定義です。ユーザエントリ、グループエントリ、および組織単位エントリごとに設定します。

グループエントリおよび組織単位エントリの設定は、グループ識別子および組織単位識別子を使用してアクセス制御やパーソナライズをするときに使用します。このため、グループエントリおよび組織単位エントリは、グループ識別子および組織単位識別子を使用する場合だけ設定してください。

構成情報を定義する手順を次に示します。

1. Portal Manager のメニュー部から [リポジトリの設定] - [構成情報] - [新規作成] を選択します。
次の画面が表示されます。

図 4-4 [構成情報の設定] 画面 (初期画面・ディレクトリサーバ)



2. [構成情報の設定] 画面で次の項目を設定します。
画面で設定する項目と内容を次の表に示します。

表 4-2 構成情報の設定項目 (ディレクトリサーバ)

項目名	設定内容	必須
接続先の種類	「(1) 接続情報の新規登録 (ディレクトリサーバ)」で定義した接続先の種類を選択します。ディレクトリサーバの場合、[LDAP] となります。	
接続先名称	「(1) 接続情報の新規登録 (ディレクトリサーバ)」で定義した接続先の名称を選択します。	
構成の名称	構成の名称をポータルプロジェクト内で一意になるように入力します。	
ベース DN 1	接続先ディレクトリサーバのベース DN を指定します。入力できる文字は、半角英数字、記号および半角スペースで 1024 文字までです。 <ul style="list-style-type: none"> ユーザエントリを設定する場合 ユーザエントリのベース DN を指定します。 グループエントリを設定する場合 グループエントリのベース DN を指定します。 組織単位エントリを設定する場合 組織単位エントリのベース DN を指定します。 	

4. ポータルサーバの構築

項目名	設定内容	必須
オブジェクトクラス 1	<p>ディレクトリエントリのオブジェクトクラスを指定します。入力できる文字は、半角英数字および記号で 1024 文字までです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ユーザエントリを設定する場合 「hptlUser」を指定します。hptlUser と異なるオブジェクトクラスを使用している場合は、使用しているオブジェクトクラスを指定します。また、運用管理者が運用管理ポートレットからユーザ情報を管理する場合は、ユーザエントリを構成する全てのオブジェクトクラスをコンマ(,)区切りで指定します。 <p>指定例： hptlUser,top,person,organizationalPerson,inetOrgPerson</p> <p>Active Directory の場合の指定例： user,top,person,organizationalPerson</p> <ul style="list-style-type: none"> グループエントリを設定する場合 「groupOfUniqueNames」を指定します。 組織単位エントリを設定する場合 「hptlOrganizationalUnit」を指定します。hptlOrganizationalUnit と異なるオブジェクトクラスを使用している場合は、使用しているオブジェクトクラスを指定します。また、運用管理者が運用管理ポートレットから組織情報を管理する場合は、組織単位エントリを構成する全てのオブジェクトクラスをコンマ(,)区切りで指定します。 <p>指定例： hptlOrganizationalUnit,top,organizationalUnit</p> <p>Active Directory の場合の指定例： top,organizationalUnit</p>	×
ディレクトリ検索範囲	<p>[サブツリー検索]または[1レベル検索]が選択できます。</p> <p>ベース DN 下のすべての階層を検索する場合には,[サブツリー検索]を指定します。uCosminexus Portal Framework を使用するユーザが、ベース DN 下の 1 階層下のエントリに属している場合は,[1レベル検索]を指定します。</p> <p>新規作成時のデフォルトは[1レベル検索]となっています。</p>	×
オブジェクトクラスを表すキー属性名	<p>オブジェクトクラスでキーとなる属性名を入力します。入力できる文字は、半角英数字および記号で 64 文字までです。</p> <p>指定例</p> <p>ユーザエントリ：ユーザ ID (uid) グループエントリ：グループ名 (cn) 組織単位エントリ：組織単位 ID (ou)</p>	

(凡例) : 必須 × : 任意

注 1 追加するエントリによって設定内容が異なります。

3. [登録] ボタンをクリックします。

エントリが登録されます。

4. グループエントリを設定します (グループ識別子を使用する場合)。

引き続き、グループエントリを設定する場合は、手順 1. ~ 3. を実施してください。

5. 組織単位エントリを設定します (組織単位識別子を使用する場合)。

引き続き、組織単位エントリを設定する場合は、手順 1. ~ 3. を実施してください。

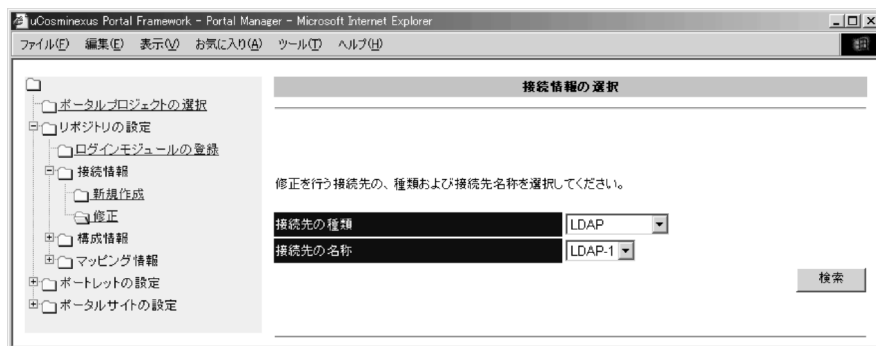
4.4.2 リポジトリの変更（ディレクトリサーバ）

リポジトリ情報を更新したり、削除したりするときの手順を次に示します。なお、リポジトリ情報を削除する場合は、マッピング情報、構成情報、接続情報の順に削除してください。

（1）接続情報の更新

1. Portal Manager のメニュー部から [リポジトリの設定] - [接続情報] - [修正] を選択します。
次の画面が表示されます。

図 4-5 [接続情報の選択] 画面（ディレクトリサーバ・接続情報の更新）



2. 変更したい接続情報を格納している、接続先リポジトリの種類および接続先の名称を選択します。
[接続先の種類] で接続先リポジトリの種類を、[接続先名称] で接続先の名称を選択します。
3. [検索] ボタンをクリックします。
次の画面が表示されます。

図 4-6 [接続情報の設定] 画面・更新用（ディレクトリサーバ・接続情報の更新）

4. ポータルサーバの構築

4. 情報を変更します。

情報を変更します。変更できる項目は次のとおりです。

- [接続先 URL]
- [接続先ユーザー名]
- [接続先パスワード]

[接続先の種類] と [接続先名称] は変更できません。変更する場合は、接続情報を削除して再作成してください。

なお、項目の設定内容の詳細は「4.4.1(1) 接続情報の新規登録（ディレクトリサーバ）」を参照してください。

5. [登録] ボタンをクリックします。

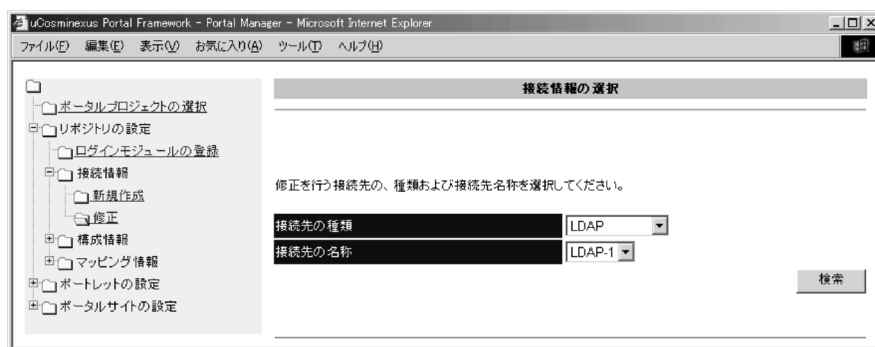
接続情報が変更されます。

(2) 接続情報の削除

1. Portal Manager のメニュー部から [リポジトリの設定] - [接続情報] - [修正] を選択します。

次の画面が表示されます。

図 4-7 [接続情報の選択] 画面（ディレクトリサーバ・接続情報の削除）



2. 削除したい接続情報を格納している、接続先リポジトリの種類および接続先の名称を選択します。

[接続先の種類] で接続先リポジトリの種類を、[接続先の名称] で接続先の名称を選択します。

3. [検索] ボタンをクリックします。

次の画面が表示されます。

図 4-8 [接続情報の設定] 画面・更新用 (ディレクトリサーバ・接続情報の削除)

接続情報の設定	
接続先の種類	LDAP
接続先名称	LDAP-1
接続先URL	<input type="text" value="ldap://localhost=389"/>
接続先ユーザー名	<input type="text" value="cn=Directory Manager"/>
接続先パスワード	<input type="password" value="*****"/>
<input type="button" value="登録"/> <input type="button" value="削除"/>	

4. [削除] ボタンをクリックします。
接続情報を削除するかどうかを確認する画面が表示されます。
5. [OK] ボタンをクリックします。
接続情報が削除されます。

(3) 構成情報の更新

1. Portal Manager のメニュー部から [リポジトリの設定] - [構成情報] - [修正] を選択します。
次の画面が表示されます。

図 4-9 [構成情報の選択] 画面 (ディレクトリサーバ・構成情報の更新)

2. 変更したい構成情報を格納している、接続先リポジトリの種類および構成の名称を選択します。
[接続先の種類] で接続先リポジトリの種類を、[構成の名称] で構成の名称を選択します。
3. [検索] ボタンをクリックします。
次の画面が表示されます。

4. ポータルサーバの構築

図 4-10 [構成情報の設定] 画面・更新用 (ディレクトリサーバ・構成情報の更新)

構成情報の設定	
接続先の種類	ldap
接続先名称	LDAP-1
構成の名称	KOUSEI-1
ベースDN	<input type="text" value="ou=people,o=Hitachi,c=jp"/>
オブジェクトクラス	<input type="text" value="hp1User"/>
ディレクトリ検索範囲	<input type="text" value="サブツリー検索"/>
オブジェクトクラスを表すキー属性名	<input type="text" value="uid"/>
<input type="button" value="登録"/> <input type="button" value="削除"/>	

4. 情報を変更します。

情報を変更します。変更できる項目は次のとおりです。

- [ベース DN]
- [オブジェクトクラス]
- [ディレクトリ検索範囲]
- [オブジェクトクラスを表すキー属性名]

[接続先の種類], [接続先名称], および [構成の名称] は変更できません。変更する場合は、構成情報を削除して再作成してください。

なお、項目の設定内容の詳細は「4.4.1(2) 構成情報の新規登録 (ディレクトリサーバ)」を参照してください。

5. [登録] ボタンをクリックします。

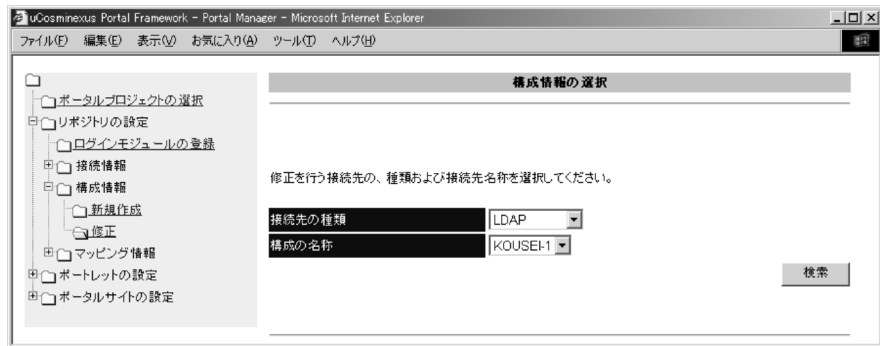
構成情報が変更されます。

(4) 構成情報の削除

1. Portal Manager のメニュー部から [リポジトリの設定] - [構成情報] - [修正] を選択します。

次の画面が表示されます。

図 4-11 [構成情報の選択] 画面 (ディレクトリサーバ・構成情報の削除)



2. 変更したい構成情報を格納している、接続先リポジトリの種類および構成の名称を選択します。
[接続先の種類] で接続先リポジトリの種類を、[構成の名称] で構成の名称を選択します。
3. [検索] ボタンをクリックします。
次の画面が表示されます。

図 4-12 [構成情報の設定] 画面・更新用 (ディレクトリサーバ・構成情報の削除)

構成情報の設定	
接続先の種類	ldap
接続先名称	LDAP-1
構成の名称	KOUSEI-1
ベースDN	<input type="text" value="ou=people,o=Hitachi,c=jp"/>
オブジェクトクラス	<input type="text" value="hp1User"/>
ディレクトリ検索範囲	<input type="text" value="サブツリー検索"/>
オブジェクトクラスを表すキー属性名	<input type="text" value="uid"/>

4. [削除] ボタンをクリックします。
構成情報を削除するかどうかを確認する画面が表示されます。
5. [OK] ボタンをクリックします。
構成情報が削除されます。

4.5 ユーザ管理情報の接続設定 (DB)

uCosminexus Portal Framework がユーザ情報を格納した DB にアクセスするための設定方法、および DB からの情報の取得方法について説明します。

4.5.1 ユーザ情報を設定する前に

ユーザ情報を設定する前に知っておいていただきたい DB の接続方法について説明します。

(1) DB への接続方法

DB への接続方法には、次の 2 種類あります。

- 接続プール機能を利用する
- 接続プール機能を利用しない

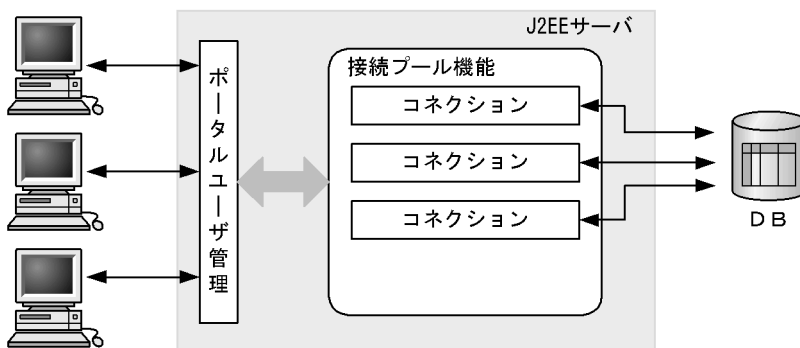
接続プール機能の概要および設定方法について、次に説明します。

(a) 接続プール機能の概要

接続プール機能とは、ポータルサーバ起動時に DB とのコネクションを保持し、クライアントから要求があったときに、保持しているコネクションをクライアントに渡す機能です。この機能を利用すると、DB との接続および解放によるオーバーヘッドが縮小できるので、サーバアプリケーションの性能を向上できます。J2EE サーバモードの場合に使用できます。

接続プール機能の概要を次の図に示します。

図 4-13 接続プール機能の概要



(b) 接続プール機能の設定方法

接続プール機能を使用するための設定方法を次に説明します。

1. リソースアダプタを設定します。

J2EE のサーバ管理コマンドでリソースアダプタ (DB Connector) を設定し、DB への接続方法を設定します。なお、サーバ管理コマンドについては、次のマニュアルを参照してください。

- 「Cosminexus アプリケーションサーバ V8 機能解説 基本・開発編 (コンテナ共通機能)」, または 「Cosminexus V9 アプリケーションサーバ 機能解説 基本・開発編 (コンテナ共通機能)」
- 「Cosminexus アプリケーションサーバ V8 アプリケーション設定操作ガイド」, または 「Cosminexus V9 アプリケーションサーバ アプリケーション設定操作ガイド」

2. Web アプリケーション DD (web.xml) に接続先名称を設定します。

web.xml ファイルを直接編集して、接続先名称 (JNDI 名) を web.xml ファイルの <web-app> タグ内の最後に追加します。設定した JNDI 名を Portal Manager の [接続情報の設定] 画面で指定します。

web.xml ファイルは次の場所に格納されています。

格納ディレクトリ

```
{PROJECT_HOME}¥WEB-INF
```

追加する記述例を次に示します。

- HiRDB の場合

```
<resource-ref>
  <res-ref-name>jdbc/myHiRDB</res-ref-name>
  <res-type>javax.sql.DataSource</res-type>
  <res-auth>Container</res-auth>
  <res-sharing-scope>Shareable</res-sharing-scope>
</resource-ref>
```

- Oracle の場合

```
<resource-ref>
  <res-ref-name>jdbc/myOracle</res-ref-name>
  <res-type>javax.sql.DataSource</res-type>
  <res-auth>Container</res-auth>
  <res-sharing-scope>Shareable</res-sharing-scope>
</resource-ref>
```

- SQL Server の場合

```
<resource-ref>
  <res-ref-name>jdbc/mySQLServer</res-ref-name>
  <res-type>javax.sql.DataSource</res-type>
  <res-auth>Container</res-auth>
  <res-sharing-scope>Shareable</res-sharing-scope>
</resource-ref>
```

3. 接続先名称 (JNDI 名) とリソースアダプタの関連付けを設定します。

JNDI 名とリソースアダプタの関連付けを設定し、DB に接続します。JNDI 名が解決

4. ポータルサーバの構築

できなかった場合、DB に接続できません。JNDI 名とリソースアダプタの関連付けは、ポータルを J2EE サーバに組み込む時に設定します。詳細は、「4.9 デプロイ (J2EE サーバ)」を参照してください。

4.5.2 リポジトリの設定 (DB)

DB にアクセスするための設定をします。Portal Manager の [リポジトリの設定] メニューで設定します。Portal Manager の起動方法については、「2.4.1 Portal Manager の起動方法」を参照してください。

Portal Manager を使用して、接続情報と構成情報を定義します。

(1) 接続情報の新規登録 (DB)

接続情報を新規に登録します。接続情報は、uCosminexus Portal Framework からリポジトリに接続するときに使用する情報です。リポジトリに DB を使用する場合、接続情報の設定には次の 2 種類があります。

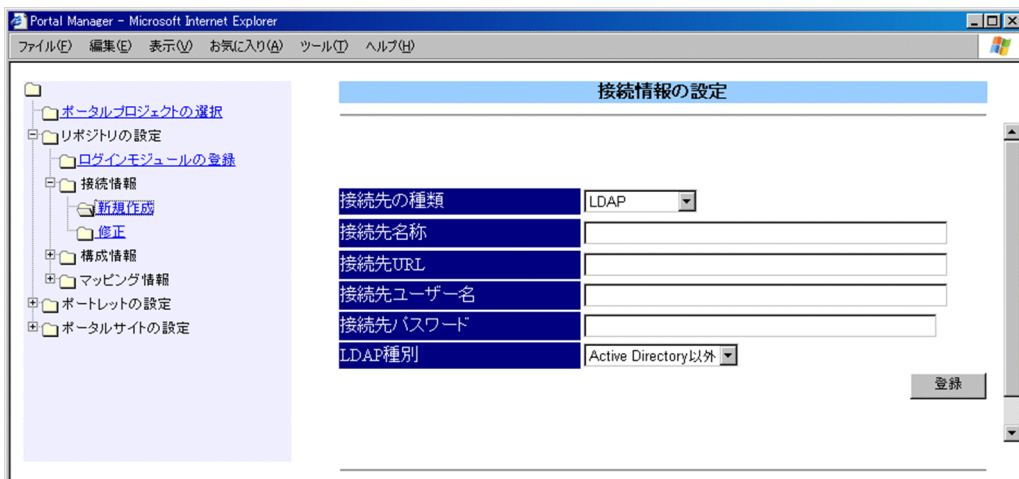
- JNDI を使用する場合
- JNDI を使用しない場合

Cosminexus のリソースアダプタ (DB Connector) を使用する場合は JNDI を使用してください。それぞれの接続情報の登録手順を次に示します。

(a) JNDI を使用する場合

1. Portal Manager のメニュー部から [リポジトリの設定] - [接続情報] - [新規作成] を選択します。
次の画面が表示されます。

図 4-14 [接続情報の設定] 画面 (初期画面・DB・JNDI あり)



2. [接続先の種類] で [DB (JNDI 使用)] を選択します。
次の画面が表示されます。

図 4-15 [接続情報の設定] 画面 (DB ・ JNDI あり)

3. [接続情報の設定] 画面で次の項目を設定します。
設定する項目と内容を次の表に示します。

表 4-3 接続情報の設定項目 (DB ・ JNDI あり)

項目名	設定内容	必須
接続先の種類	接続先のリポジトリの種類を指定します。[DB (JNDI 使用)] を指定します。	
接続先名称	リポジトリ情報を格納する DB の接続先名称を入力します。名称は任意ですが、ポータルプロジェクト内で一意となるようにしてください。	
JNDI 名	接続に使用する JNDI 名を入力します。入力できる文字は、半角英数字および記号で 256 文字までです。 「java:comp/env/」以降に web.xml ファイルの「res-ref-name」タグで指定したものを入力します。 web.xml に <res-ref-name>jdbc/myHiRDB<res-ref-name> と設定した場合 java:comp/env/jdbc/myHiRDB	
データベース種別	HiRDB の場合 [HiRDB] Oracle の場合 [Oracle] SQL Server の場合 [SQLServer]	×

(凡例) : 必須 × : 任意

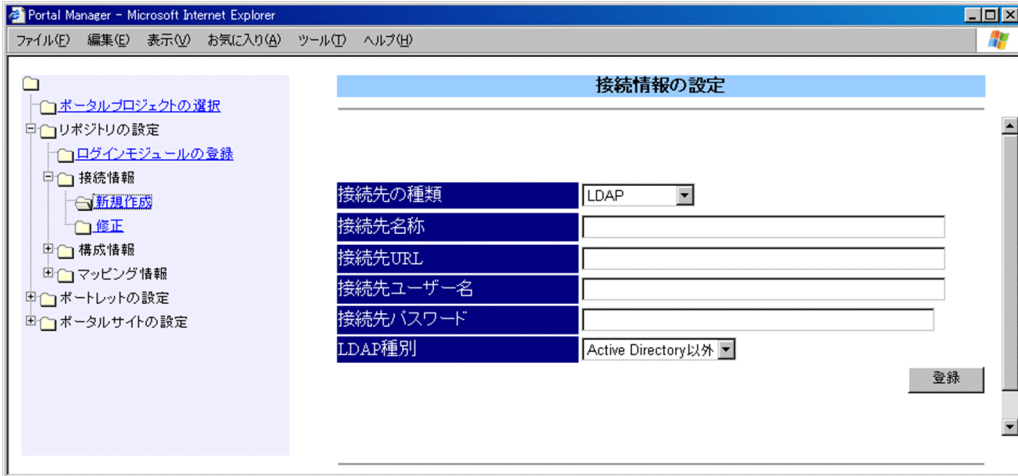
4. [登録] ボタンをクリックします。
接続情報が登録されます。

4. ポータルサーバの構築

(b) JNDI を使用しない場合

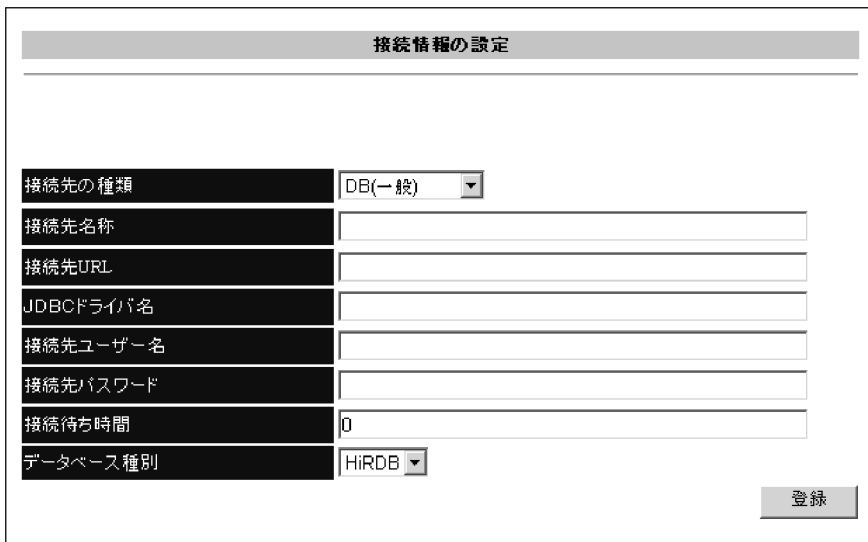
1. Portal Manager のメニュー部から [リポジトリの設定] - [接続情報] - [新規作成] を選択します。
次の画面が表示されます。

図 4-16 [接続情報の設定] 画面 (初期画面・DB・JNDI なし)



2. [接続先の種類] で [DB (一般)] を選択します。
次の画面が表示されます。

図 4-17 [接続情報の設定] 画面 (DB・JNDI なし)



3. [接続情報の設定] 画面で次の項目を設定します。
設定する項目と内容を次の表に示します。

表 4-4 接続情報の設定項目 (DB・JNDI なし)

項目名	設定内容	必須
接続先の種類	接続先のリポジトリの種類を指定します。[DB (一般)] を指定します。	
接続先名称	リポジトリ情報を格納する DB の接続先名称を入力します。名称は任意ですが、ポータルプロジェクト内で一意となるようにしてください。	
接続先 URL	接続先 DB の URL を入力します。入力できる文字は、半角英数字および記号で 1024 文字までです。 指定例 : jdbc:hitachi:dbplib:// DB=HiRDB,DBID=22200,DBHOST=localhost	
JDBC ドライバ名	接続に使用する JDBC ドライバ名を入力します。半角英数字および記号で 256 文字まで指定できます。JDBC ドライバには、HiRDB Type4 JDBC Driver , Cosminexus DABroker Library , Oracle JDBC Thin Driver , または SQL Server の JDBC ドライバが使用できます。	
接続先ユーザー名	接続先 DB のユーザー名を入力します。入力できる文字は、半角英数字および記号で 256 文字までです。	
接続先パスワード	接続先 DB のパスワードを入力します。入力できる文字は、半角英数字および記号で 256 文字までです。	
接続待ち時間	DB との接続が成功するまで待機する時間を指定します。単位は秒です。 [接続待ち時間] には 0 ~ 2,147,483,647 の値を指定します。	
データベース種別	HiRDB の場合 [HiRDB] Oracle の場合 [Oracle] SQL Server の場合 [SQLServer]	×

(凡例) : 必須 × : 任意

- [登録] ボタンをクリックします。
接続情報が登録されます。

(2) 構成情報の新規登録 (DB)

構成情報を定義します。構成情報は、ユーザ管理情報のユーザ情報、グループ情報、および組織単位情報を格納した DB 上のテーブル構成の情報です。構成情報の定義は、ユーザエン트리、グループエン트리、および組織単位エン트리ごとに設定します。

ユーザエントリの設定は必ずしてください。グループエン트리および組織単位エントリの設定については、グループ識別子および組織単位識別子でアクセス制御やパーソナライズをする場合に設定してください。

構成情報を定義する手順を次に示します。

- Portal Manager のメニュー部から [リポジトリの設定] - [構成情報] - [新規作

4. ポータルサーバの構築

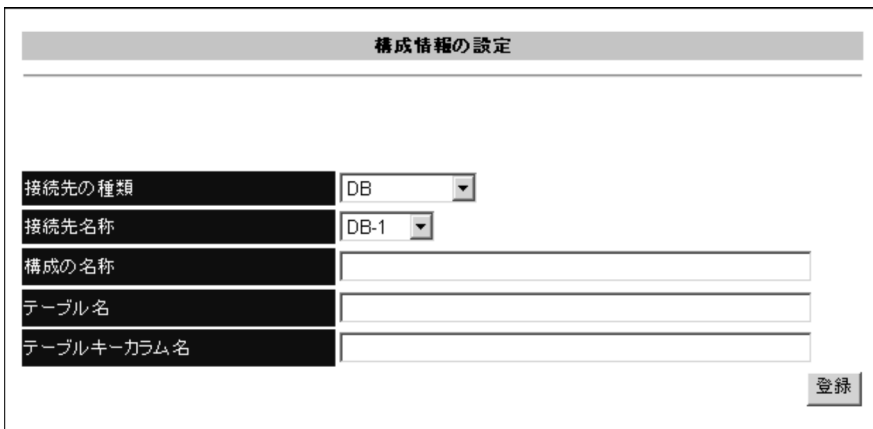
成] を選択します。
構成情報の設定画面が表示されます。

図 4-18 [構成情報の設定] 画面 (初期画面・DB・構成情報の新規登録)



2. [接続先の種類] で [DB] を選択します。
次の画面が表示されます。

図 4-19 [構成情報の設定] 画面 (DB)



3. [構成情報の設定] 画面で次の項目を設定します。
画面で設定する項目と内容を次の表に示します。

表 4-5 構成情報の設定項目 (DB)

項目名	設定内容	必須
接続先の種類	「(1) 接続情報の新規登録 (DB)」で定義した接続先の種類を選択します。DB の場合 , [DB] となります。	

項目名	設定内容	必須
接続先名称	「(1) 接続情報の新規登録 (DB)」で定義した接続先の名称を選択します。	
構成の名称	構成の名称をポータルプロジェクト内で一意になるように入力します。	
テーブル名	テーブル名を入力します。	
テーブルキーカラム名	テーブルのキーとなるカラム名を入力します。ユニークキーを指定してください。	

(凡例) : 必須

4. [登録] ボタンをクリックします。
エントリが登録されます。
5. グループエントリを設定します (グループ識別子を使用する場合)。
引き続き、グループエントリを設定する場合は、手順 1. ~ 4. を実施してください。
6. 組織単位エントリを設定します (組織単位識別子を使用する場合)。
引き続き、組織単位エントリを設定する場合は、手順 1. ~ 4. を実施してください。

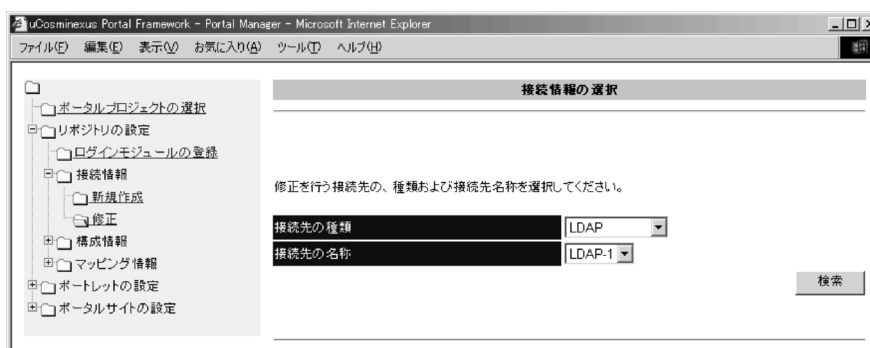
4.5.3 リポジトリの変更 (DB)

リポジトリ情報を更新したり、削除したりするときの手順を次に示します。

(1) 接続情報の更新

1. Portal Manager のメニュー部から [リポジトリの設定] - [接続情報] - [修正] を選択します。
次の画面が表示されます。

図 4-20 [接続情報の選択] 画面 (DB・接続情報の更新)



2. 変更したい接続情報を格納している、接続先リポジトリの種類および接続先の名称を選択します。
[接続先の種類] で接続先リポジトリの種類を、[接続先の名称] で接続先の名称を選択します。

4. ポータルサーバの構築

3. [検索] ボタンをクリックします。

次の画面が表示されます。ここでは、JNDI を使用している接続情報の画面を示します。

図 4-21 [接続情報の設定] 画面・更新用 (DB・JNDI あり・接続情報の更新)

接続情報の設定	
接続先の種類	DB(JNDI使用)
接続先名称	DB-1
JNDI名	java:comp/env/jdbc/myHiRDB
データベース種別	HiRDB

登録 削除

4. 情報を変更します。

情報を変更します。変更できる項目を次に示します。

- JNDI を使用している場合

[JNDI 名] および [データベース種別] を変更できます。

- JNDI を使用していない場合

[接続先 URL], [JDBC ドライバ名], [接続先ユーザー名], [接続先パスワード], [接続待ち時間], および [データベース種別] を変更できます。

JNDI の使用の有無にかかわらず、[接続先の種類] と [接続先名称] は変更できません。変更する場合は、接続情報を削除して再作成してください。

なお、項目の設定内容の詳細は「4.5.2(1) 接続情報の新規登録 (DB)」を参照してください。

5. [登録] ボタンをクリックします。

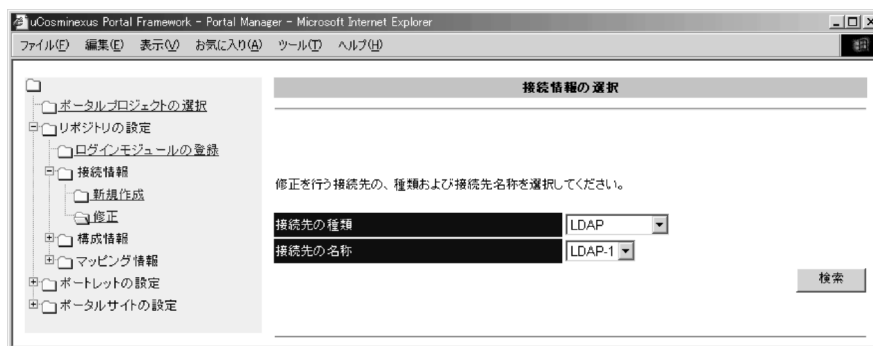
接続情報が変更されます。

(2) 接続情報の削除

1. Portal Manager のメニュー部から [リポジトリの設定] - [接続情報] - [修正] を選択します。

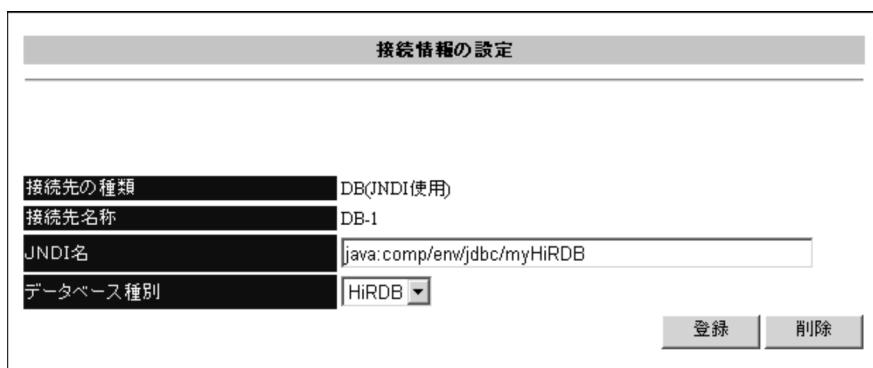
次の画面が表示されます。

図 4-22 [接続情報の選択] 画面 (DB・接続情報の削除)



2. 削除したい接続情報を格納している，接続先リポジトリの種類および接続先の名称を選択します。
[接続先の種類] で接続先リポジトリの種類を，[接続先の名称] で接続先の名称を選択します。
3. [検索] ボタンをクリックします。
次の画面が表示されます。ここでは，JNDI を使用している接続情報の画面を示します。

図 4-23 [接続情報の設定] 画面・更新用 (DB・JNDI あり・接続情報の削除)



4. [削除] ボタンをクリックします。
接続情報を削除するかどうかを確認する画面が表示されます。
5. [OK] ボタンをクリックします。
接続情報が削除されます。

(3) 構成情報の更新

1. Portal Manager のメニュー部から [リポジトリの設定] - [構成情報] - [修正] を選択します。
次の画面が表示されます。

4. ポータルサーバの構築

図 4-24 [構成情報の選択] 画面 (DB・構成情報の更新)



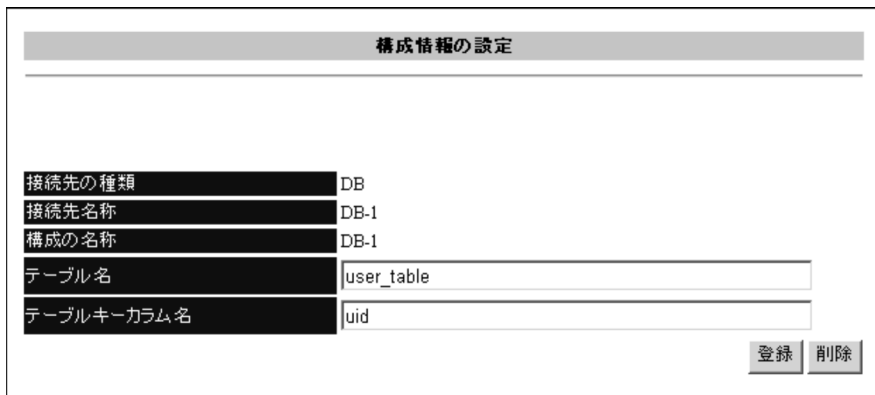
2. 変更したい構成情報を格納している、接続先リポジトリの種類および構成の名称を選択します。

[接続先の種類] で接続先リポジトリの種類を、[構成の名称] で構成の名称を選択します。

3. [検索] ボタンをクリックします。

次の画面が表示されます。

図 4-25 [構成情報の設定] 画面・更新用 (DB・構成情報の更新)



4. 情報を変更します。

情報を変更します。変更できる項目は次のとおりです。

- [テーブル名]
- [テーブルキーカラム名]

[接続先の種類], [接続先名称], および [構成の名称] は変更できません。変更する場合は、構成情報を削除して再作成してください。

なお、項目の設定内容の詳細は「4.5.2(2) 構成情報の新規登録 (DB)」を参照してください。

5. [登録] ボタンをクリックします。

接続情報が変更されます。

(4) 構成情報の削除

1. Portal Manager のメニュー部から [リポジトリの設定] - [構成情報] - [修正] を選択します。
次の画面が表示されます。

図 4-26 [構成情報の選択] 画面 (DB・構成情報の削除)



2. 変更したい構成情報を格納している、接続先リポジトリの種類および構成の名称を選択します。
[接続先の種類] で接続先リポジトリの種類を、[構成の名称] で構成の名称を選択します。
3. [検索] ボタンをクリックします。
次の画面が表示されます。

図 4-27 [構成情報の設定] 画面・更新用 (DB・構成情報の削除)

構成情報の設定	
接続先の種類	DB
接続先名称	DB-1
構成の名称	DB-1
テーブル名	<input type="text" value="user_table"/>
テーブルキーカラム名	<input type="text" value="uid"/>
<input type="button" value="登録"/> <input type="button" value="削除"/>	

4. [削除] ボタンをクリックします。
構成情報を削除するかどうかを確認する画面が表示されます。
5. [OK] ボタンをクリックします。
構成情報が削除されます。

4.5.4 DB からの情報の取得方法

リポジトリ情報を DB から取得するには、SQL 文を発行します。DB とリポジトリの設定が次のように設定されている場合に、発行される SQL 文を次に示します。

- DB の設定 (Oracle の場合)

テーブル名 : user_table

uid <VARCHAR 型 >	title <VARCHAR2 型 >	hptlPersonalizeInfo <BLOB 型 >
10001	kacho	bER6j+dnfdxMTNLv3c/
10002	bucho	
10003		TNLv3c/mUOTmxwY=

注 空欄は NULL 値です。

- リポジトリの設定内容
構成情報の設定内容

項目名	設定内容
接続先の種類	DB
接続先名称	DBConnection-1
構成の名称	DB-1
テーブル名	user_table
テーブルキーカラム名	uid

マッピング情報の設定内容

項目名	設定内容	
	属性名	接続先 (ユーザ用)
ログイン ID	uid	cosmi
パーソナライズ情報を表すキー	title	DB-1
役職情報	hptlPersonalizeInfo	DB-1

- 発行される SQL 文

ユーザがログインしたときの SQL 文

```
select * from user_table where uid = ?
```

DB 上に hptlPersonalizeInfo のデータがあり、同データが変更されたときの SQL 文

```
update user_table set hptlPersonalizeInfo = ? where uid = ?
```

4.6 ユーザ管理情報の設定（マッピング情報）

マッピング情報の設定は、アクセス制御やパーソナライズをするために必要な設定です。マッピング情報の設定で、アクセス制御やパーソナライズをするために必要な情報と、ディレクトリサーバで使用している属性またはDBで使用しているカラムを対応させます。

アクセス制御やパーソナライズに必要なユーザ識別子がある場合は、マッピング情報を必ず設定してください。各識別子を使用する場合に必要な情報とディレクトリサーバの属性またはDBのカラムを次に示します。異なる属性または異なるカラムも使用できます。

アクセス制御やパーソナライズでどの識別子を使用するかについては、「3.2 ユーザ管理情報の検討」を参照してください。

ユーザ識別子を使用する場合

必要な情報	ディレクトリサーバでのエントリ	ディレクトリサーバまたはDBでの属性またはカラム
ユーザID	ユーザエントリ	uid
パーソナライズ情報を表すキー	ユーザエントリ	hptlPersonalizeInfo

役職識別子を使用する場合

必要な情報	ディレクトリサーバでのエントリ	ディレクトリサーバまたはDBでの属性またはカラム
役職情報	ユーザエントリ	title

グループ識別子を使用する場合

必要な情報	ディレクトリサーバでのエントリ	ディレクトリサーバまたはDBでの属性またはカラム
グループ名	グループエントリ	cn
所属メンバー	グループエントリ	uniquemember
上位グループを表すキー	グループエントリ	memberof

組織単位識別子を使用する場合

必要な情報	ディレクトリサーバでのエントリ	ディレクトリサーバまたはDBでの属性またはカラム
ユーザの所属情報	ユーザエントリ	hptlDepartmentDN
組織単位ID	組織単位エントリ	ou
上位組織を表すキー	組織単位エントリ	hptlDepartmentDN

4.6.1 マッピング情報の設定手順

マッピング情報の設定には、Portal Manager を使用します。Portal Manager の起動方法については、「2.4.1 Portal Manager の起動方法」を参照してください。

(1) ユーザ情報を使用するための設定手順

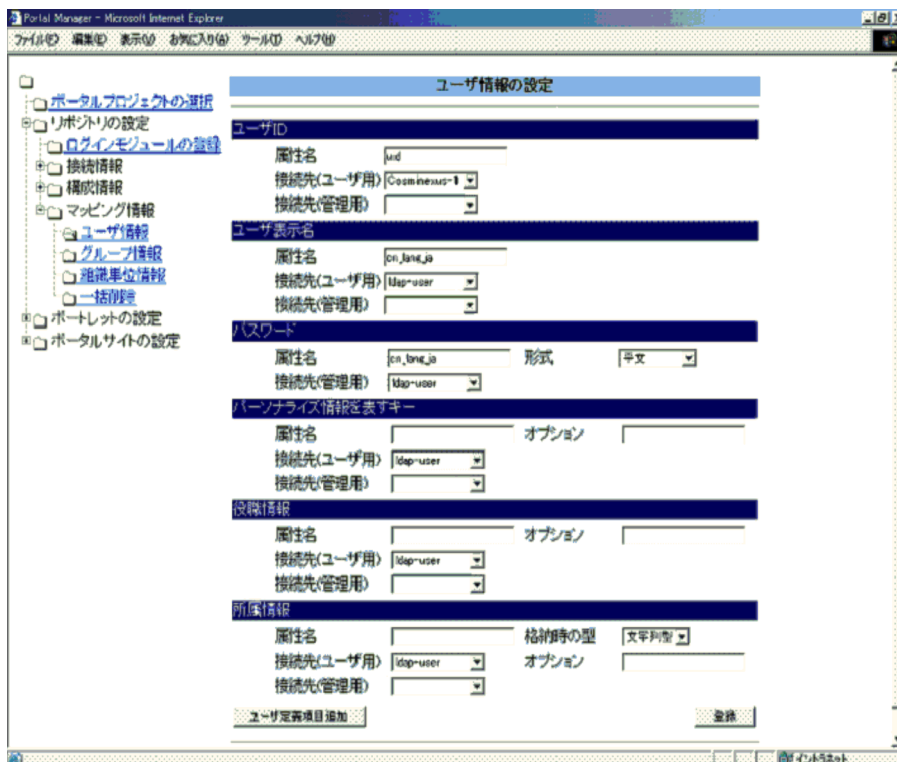
ユーザ情報を使用するためのマッピング情報の設定手順を示します。

[ユーザ ID] の [属性名] には、デフォルトで「uid」が指定されています。このため、ディレクトリサーバまたは DB に設定されている属性名が「uid」ではない場合、使用しているディレクトリサーバまたは DB の属性名に合わせて、ログイン ID の属性名を変更してください。

ここでは、ユーザ情報のパーソナライズ情報を表すキーで使用する hptlPersonalizeInfo を設定する方法を示します。なお、ここでは、[ユーザ ID], [ユーザ表示名], および [パスワード] の項目はすでに設定されているものとして説明しています。

1. Portal Manager のメニュー部から [リポジトリの設定] - [マッピング情報] - [ユーザ情報] を選択します。
次の画面が表示されます。

図 4-28 [ユーザ情報の設定] 画面 (マッピング情報の設定)



2. [ユーザ ID] の項目を変更します。

[ユーザ ID] は、ユーザ ID を示す属性名を変更する場合、またはログインで使用するリポジトリと運用管理者が運用管理ポートレットでユーザ情報を管理するリポジトリを異なるものにする場合は設定を変更してください。
指定する項目とその内容を次の表に示します。

表 4-6 [ユーザ ID] の設定内容

項目名	設定内容	必須
属性名	ユーザ ID を示す属性名を入力します。入力できる文字は、半角英数字および記号で 64 文字までです。 デフォルトでは「uid」が指定されています。このため、ログイン時に使用するディレクトリサーバまたは DB に設定されている属性名が「uid」ではない場合、使用しているディレクトリサーバまたは DB の属性名に合わせて変更してください。 ¹	
接続先（ユーザ用）	ポータル利用者がポータルにログインする場合に使用する、リポジトリの接続先名称を指定します。指定できるのは「cosmi」だけです。「cosmi」は Cosminexus の接続先名称で、あらかじめ登録されています。	
接続先（管理用）	運用管理者が運用管理ポートレットからユーザ情報を管理する場合に使用する、リポジトリの接続先名称を指定します。指定できる接続先名称は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • 接続先がディレクトリサーバの接続先名称 • 接続先が DB の接続先名称 [接続先（管理用）] で指定したリポジトリに設定されている属性名と、[接続先（ユーザ用）] で指定したリポジトリに設定されている属性名は同一のものとなります。 ¹ なお、指定を省略した場合（空文字列を選択した場合）、運用管理ポートレットからアクセスするときにも [接続先（ユーザ用）] に指定したリポジトリに接続します。 ²	×

（凡例） : 必須 × : 任意

注 1

Cosminexus に接続されているリポジトリのユーザ ID の属性名を変更した場合は、統合ユーザ管理フレームワークのコンフィグレーションファイル（ua.conf）の設定も見直してください。ua.conf ファイルの設定内容については、「4.3.1(2) 統合ユーザ管理フレームワークのコンフィグレーションファイルの設定」を参照してください。

注 2

運用管理ポートレットからアクセスする際に使用するリポジトリの接続先が Cosminexus となります。このため、ログインモジュールに「WebPasswordJDBCLoginModule」を使用している場合は、運用管理ポートレットでユーザの新規登録・変更・削除ができなくなります。この問題を回避するには、[接続先（管理用）] で、運用管理者が運用管理ポートレットからユーザ情報を管理する場合に使用する接続先を指定してください。

3. [ユーザ表示名] の項目を指定します（運用管理ポートレットでユーザ管理を行う場合）

[ユーザ表示名] は、運用管理ポートレットでユーザ管理を行う場合に設定してください。指定を省略した場合は、[ユーザ ID] の設定値をユーザ表示名として使用しま

4. ポータルサーバの構築

す。

指定する項目とその内容を次の表に示します。

表 4-7 [ユーザ表示名] の設定内容

項目名	設定内容	必須
属性名	ユーザの表示名を表す属性名を指定します。入力できる文字は、半角英数字および記号で 64 文字までです。指定できる属性の型は文字列型です。	×
接続先 (ユーザ用)	ポータル利用者がポータルにログインする場合に使用する、リポジトリの接続先名称を指定します。登録されているすべての接続先名称を指定できます。	×
接続先 (管理用)	運用管理者が運用管理ポートレットからユーザ情報を管理する場合に使用する、リポジトリの接続先名称を指定します。指定できる接続先名称は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • 接続先がディレクトリサーバの接続先名称 • 接続先が DB の接続先名称 <p>[接続先 (管理用)] で指定したリポジトリに設定されている属性名と、[接続先 (ユーザ用)] で指定したリポジトリに設定されている属性名は同一のものになります。</p> <p>なお、指定を省略した場合 (空文字列を選択した場合)、運用管理ポートレットからアクセスするときにも [接続先 (ユーザ用)] に指定したリポジトリに接続します。</p>	×

(凡例) × : 任意

4. [パスワード] の項目を指定します (パスワード変更を行う場合)

[パスワード] は、ユーザ情報用のリポジトリに DB を使用している場合で uCosminexus Portal Framework でパスワード変更を行う場合に設定してください。指定する項目とその内容を次の表に示します。

表 4-8 [パスワード] の設定内容

項目名	設定内容	必須
属性名	パスワードの格納先を表す属性名を指定します。入力できる文字は、半角英数字および記号で 64 文字までです。 <p>なお、次の場合には、この設定は無視されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [接続先 (管理用)] に接続先が Cosminexus の接続先名称を指定した場合 • [接続先 (管理用)] の指定を省略した場合 (空文字列を選択した場合) 	×

項目名	設定内容	必須
形式	<p>パスワードの形式を指定します。指定できる形式は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 平文 • SHA-1 形式 • MD5 形式 <p>パスワードの形式は、接続先の DB の暗号化形式と一致させるようにしてください。</p> <p>なお、次の場合には、この設定は無視されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [接続先 (管理用)] に接続先が Cosminexus の接続先名称を指定した場合 • [接続先 (管理用)] の指定を省略した場合 (空文字列を選択した場合) 	×
接続先 (管理用)	<p>リポジトリの接続先名称を指定します。指定できる接続先名称は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 接続先が Cosminexus の接続先名称 • 接続先が DB の接続先名称 <p>接続先が Cosminexus の接続先名称を指定した場合、および指定を省略した場合 (空文字列を選択した場合) は、Cosminexus での設定値を使用するため、[属性名] および [形式] の指定は無視されます。また、これらの場合で、「WebPasswordJDBCLoginModule」を使用しているときは、次の操作が実施できなくなります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ユーザのパスワード変更 • 運用管理ポータルでのユーザの新規登録・変更・削除 	×

(凡例) × : 任意

参考

パスワード変更ができない設定にしたい場合は、[パスワード変更] 画面が表示されないようにナビゲーションテンプレートをカスタマイズします。ナビゲーションテンプレートのカスタマイズ方法については、「5.2.5 ナビゲーションテンプレート」を参照してください。

5. [パーソナライズ情報を表すキー] の項目を指定します。

指定する項目とその内容を次の表に示します。

表 4-9 [パーソナライズ情報を表すキー] の設定内容

項目名	設定内容	必須
属性名	<p>リポジトリに LDAP を使用している場合 「hpt1PersonalizeInfo」を指定します。</p> <p>リポジトリに DB を使用している場合 BLOB 型で作成したカラム名を指定します。入力できる文字は、半角英数字および記号で 64 文字までです。</p>	
接続先 (ユーザ用)	<p>ポータル利用者がポータルにログインする場合に使用する、リポジトリの接続先名称を指定します。登録されているすべての接続先名称を指定できます。</p> <p>なお、Cosminexus のログインモジュールで取得した属性を使用する場合は "cosmi" を指定します。"cosmi" は Cosminexus の接続先名称で、あらかじめ登録されています。</p>	

4. ポータルサーバの構築

項目名	設定内容	必須
オプション	リポジトリに LDAP を使用している場合 「multivalue」を指定します。 リポジトリに DB を使用している場合 「multivalue=zip」を指定します。HiRDB で BLOB 型分割送受信を有効にする場合は「multivalue=zip, bufsize= 分割バイトサイズ (1 ~ 2,147,483,647)」を指定します。	×
接続先 (管理用)	何も設定しないでください。	×

(凡例) : 必須 × : 任意

注

パーソナライズ情報を使用しない場合は、[パーソナライズ情報を表すキー]の[オプション]に設定されている「multivalue」を削除してください。削除しないと、[登録]ボタンをクリックしたときにエラーになります。

6. [役職情報]の項目を指定します (役職識別子を使用する場合)。

[役職情報]は、役職識別子を使用する場合に設定してください。指定する項目とその内容を次の表に示します。

表 4-10 [役職情報]の設定内容

項目名	設定内容	必須
属性名	リポジトリに LDAP を使用している場合 「title」を指定します。 リポジトリに DB を使用している場合 文字列型で作成したカラム名を指定します。入力できる文字は、半角英数字および記号で 64 文字までです。	
接続先 (ユーザ用)	ポータル利用者がポータルにログインする場合に使用する、リポジトリの接続先名称を指定します。登録されているすべての接続先名称を指定できます。 なお、Cosminexus のログインモジュールで取得した属性を使用する場合は "cosmi" を指定します。"cosmi" は Cosminexus の接続先名称で、あらかじめ登録されています。	
オプション	何も設定しないでください。	×
接続先 (管理用)	運用管理者が運用管理ポートレットからユーザ情報を管理する場合に使用する、リポジトリの接続先名称を指定します。指定できる接続先名称は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> 接続先がディレクトリサーバの接続先名称 接続先が DB の接続先名称 [接続先 (管理用)] で指定したリポジトリに設定されている属性名と、[接続先 (ユーザ用)] で指定したリポジトリに設定されている属性名は同一のものとなります。 なお、指定を省略した場合 (空文字列を選択した場合)、運用管理ポートレットからアクセスするときにも [接続先 (ユーザ用)] に指定したリポジトリに接続します。	×

(凡例) : 必須 × : 任意

注

[接続先 (管理用)] の指定を省略した場合 (空文字列を選択した場合), [接続先 (ユーザ用)] で接続先が Cosminexus の接続先名称を指定しているときは, 運用管理ポートレットで役職情報をキーにした検索ができなくなります。
運用管理ポートレットのグループ管理で利用者の設定を行う場合に役職情報をキーにユーザを検索する場合は, [接続先 (管理用)] の指定を行うか [接続先 (ユーザ用)] に Cosminexus 以外の接続先を指定してください。

7. [所属情報] の項目を指定します (所属単位識別子を使用する場合)。
[所属情報] は, 組織単位識別子を使用する場合に設定してください。指定する項目とその内容を次の表に示します。

表 4-11 [所属情報] の設定内容

項目名	設定内容	必須
属性名	ユーザの所属を表す属性名を指定します。入力できる文字は, 半角英数字および記号で 64 文字までです。	
格納時の型	格納時の型を指定します。指定できる項目は次のとおりです。 [接続先 (ユーザ用)] で接続先がディレクトリサーバの接続先名称を指定する場合 [文字列型] または [DN 型] [接続先 (ユーザ用)] で接続先が DB の接続先名称を指定する場合 [文字列型]	
接続先 (ユーザ用)	ポータル利用者がポータルにログインする場合に使用する, リポジトリの接続先名称を指定します。登録されているすべての接続先名称を指定できます。 なお, Cosminexus のログインモジュールで取得した属性を使用する場合は "cosmi" を指定します。"cosmi" は Cosminexus の接続先名称で, あらかじめ登録されています。	
オプション	何も設定しないでください。	×
接続先 (管理用)	運用管理者が運用管理ポートレットからユーザ情報を管理する場合に使用する, リポジトリの接続先名称を指定します。指定できる接続先名称は次のとおりです。 • 接続先がディレクトリサーバの接続先名称 • 接続先が DB の接続先名称 [接続先 (管理用)] で指定したリポジトリに設定されている属性名と, [接続先 (ユーザ用)] で指定したリポジトリに設定されている属性名は同一のものとなります。 なお, 指定を省略した場合 (空文字列を選択した場合), 運用管理ポートレットからアクセスするときにも [接続先 (ユーザ用)] に指定したリポジトリに接続します。	×

(凡例) : 必須 × : 任意

8. [登録] ボタンをクリックします。
設定した情報が登録されます。

(a) ユーザ定義項目の設定

ユーザ情報に任意の項目を設定できます。

1. [ユーザ情報の設定] 画面で [ユーザ定義項目追加] ボタンをクリックします。

4. ポータルサーバの構築

[ユーザ定義項目の設定] 画面が表示されます。

図 4-29 [ユーザ定義項目の設定] 画面

2. [項目名] および [属性名] を設定します。
設定する内容を次の表に示します。

表 4-12 [ユーザ定義項目の設定] 画面の設定内容

項目名	設定内容	必須
項目名	追加したい項目の名称を指定します。入力できる文字は、半角英数字および記号で 64 文字までです。	
属性名	追加したい項目の属性名を指定します。入力できる文字は、半角英数字および記号で 64 文字までです。	

(凡例) : 必須

3. [設定画面へ反映] ボタンをクリックします。
[ユーザ情報の設定] 画面に戻ります。
4. ユーザ定義項目の [格納時の型], [接続先 (ユーザ用)], [オプション], および [接続先 (管理用)] を設定します。
設定する内容を次の表に示します。

表 4-13 ユーザ定義項目の設定内容

項目名	設定内容	必須
格納時の型	格納時の型を指定します。指定できる項目は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • 文字列型 • バイナリ型 • DN 型 	
接続先 (ユーザ用)	ポータル利用者がポータルにログインする場合に使用する、リポジトリの接続先名称を指定します。登録されているすべての接続先名称を指定できます。 なお、Cosminexus のログインモジュールで取得した属性を使用する場合は "cosmi" を指定します。"cosmi" は Cosminexus の接続先名称で、あらかじめ登録されています。	

項目名	設定内容	必須
オプション	この属性がマルチバリュウの場合、「multivalue」を指定できます。 リポジトリに DB を使用している場合は「multivalue=zip」で指定します。HiRDB で BLOB 型分割送受信を有効にする場合は「multivalue=zip, bufsize= 分割バイトサイズ (1 ~ 2,147,483,647)」を指定します。	×
接続先 (管理用)	運用管理者が運用管理ポートレットからユーザ情報を管理する場合に使用する、リポジトリの接続先名称を指定します。指定できる接続先名称は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> 接続先がディレクトリサーバの接続先名称 接続先が DB の接続先名称 [接続先 (管理用)] で指定したリポジトリに設定されている属性名と [接続先 (ユーザ用)] で指定したリポジトリに設定されている属性名は同一のものとなります。 なお、指定を省略した場合 (空文字列を選択した場合)、運用管理ポートレットからアクセスするときにも [接続先 (ユーザ用)] に指定したリポジトリに接続します。	×

(凡例) : 必須 × : 任意

注

[接続先 (管理用)] の指定を省略した場合 (空文字列を選択した場合)、[接続先 (ユーザ用)] で接続先が Cosminexus の接続先名称を指定しているときは、運用管理ポートレットで、設定した項目をキーにした検索ができなくなります。

この問題を回避するには、[接続先 (管理用)] で、運用管理者が運用管理ポートレットからユーザ情報を管理する場合に使用する接続先を指定してください。

5. [登録] ボタンをクリックします。

設定した情報が登録されます。

ユーザ定義項目を変更するには

[ユーザ情報の設定] 画面 (マッピング情報の設定) に項目が追加されているので、ユーザ定義項目の値を変更して [登録] ボタンをクリックしてください。

ユーザ定義項目を削除するには

ユーザ定義項目を削除したい場合は、ユーザ定義項目の左側にあるチェックボックスをチェックして、[ユーザ定義項目削除] ボタンをクリックしてください。

! 注意事項

[ユーザ定義項目追加] ボタンまたは [ユーザ定義項目削除] ボタンをクリックして設定を変更したあと、[ユーザ情報の設定] 画面で [登録] ボタンをクリックしないでほかの画面に移ったり、Web ブラウザを閉じたりすると、設定した情報は保存されません。ユーザ定義項目を編集したあとは、必ず [登録] ボタンをクリックしてください。また、ユーザ定義項目は順不同です。追加した順序と画面に表示する順序が異なる場合があります。

(2) グループ情報を使用するための設定手順

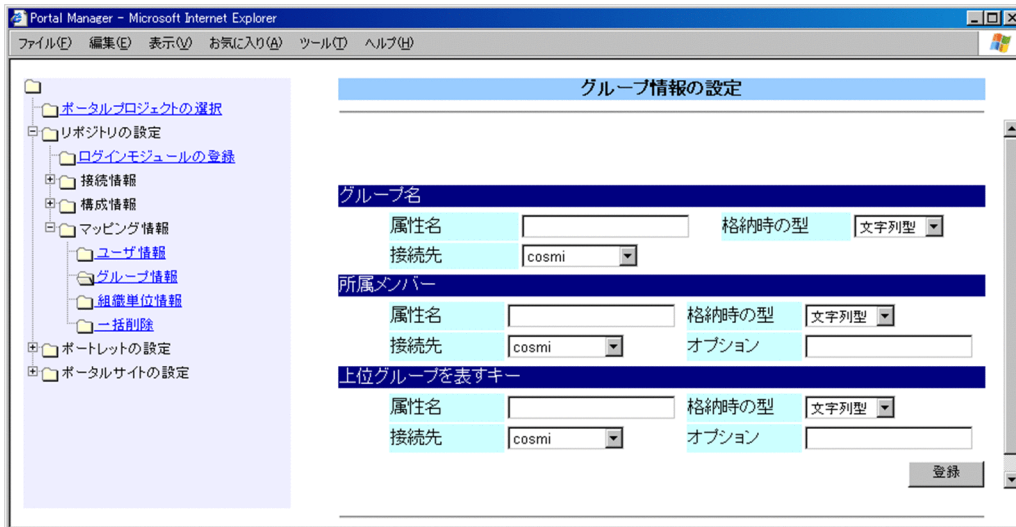
グループ情報を使用するためのマッピング情報の設定手順を示します。グループ識別子

4. ポータルサーバの構築

を使用する場合に設定してください。

1. Portal Manager のメニュー部から [リポジトリの設定] - [マッピング情報] - [グループ情報] を選択します。
次の画面が表示されます。

図 4-30 [グループ情報の設定] 画面



2. [グループ名] の項目を指定します。
指定する項目とその内容を次の表に示します。

表 4-14 [グループ名] の設定内容

項目名	設定内容	必須
属性名	グループ名を表す属性名を指定します。入力できる文字は、半角英数字および記号で 64 文字までです。	
格納時の型	格納時の型を指定します。指定できる項目は、[文字列型] です。	
接続先	登録されているリポジトリの接続先名称を指定します。指定できる接続先名称は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • 接続先がディレクトリサーバの接続先名称 • 接続先が DB の接続先名称 	

(凡例) : 必須

3. [所属メンバー] の項目を指定します。
指定する項目とその内容を次の表に示します。

表 4-15 [所属メンバー] の設定内容

項目名	設定内容	必須
属性名	所属するメンバの情報を格納した属性名を指定します。入力できる文字は、半角英数字および記号で 64 文字までです。	
格納時の型	格納時の型を指定します。指定できる項目は次のとおりです。 リポジトリにディレクトリサーバを使用している場合 [文字列型] または [DN 型] リポジトリに DB を使用している場合 [文字列型]	
接続先	登録されているリポジトリの接続先名称を指定します。指定できる接続先名称は次のとおりです。 • 接続先がディレクトリサーバの接続先名称 • 接続先が DB の接続先名称	
オプション	この属性がマルチバリュウの場合、「multivalue」を指定できます。リポジトリに DB を使用している場合は「multivalue= 値」で指定します。	×

(凡例) : 必須 × : 任意

4. [上位グループを表すキー] の項目を指定します。
指定する項目とその内容を次の表に示します。

表 4-16 [上位グループを表すキー] の設定内容

項目名	設定内容	必須
属性名	上位グループの情報を格納した属性名を指定します。入力できる文字は、半角英数字および記号で 64 文字までです。	×
格納時の型	格納時の型を指定します。指定できる項目は次のとおりです。 • [文字列型] または [DN 型]	×
接続先	登録されているリポジトリの接続先名称を指定します。指定できる接続先名称は次のとおりです。 • 接続先がディレクトリサーバの接続先名称 • 接続先が DB の接続先名称	×
オプション	この属性がマルチバリュウの場合、「multivalue」を指定できません。	×

(凡例) × : 任意

5. [登録] ボタンをクリックします。
設定した情報が登録されます。

(3) 組織単位情報を使用するための設定手順

組織単位情報を使用するためのマッピング情報の設定手順を示します。組織単位識別子を使用する場合に設定してください。

- Portal Manager のメニュー部から [リポジトリの設定] - [マッピング情報] - [組織単位情報] を選択します。

4. ポータルサーバの構築

次の画面が表示されます。

図 4-31 [組織単位情報の設定] 画面



2. [組織単位 ID] の項目を指定します。

指定する項目とその内容を次の表に示します。

表 4-17 [組織単位 ID] の設定内容

項目名	設定内容	必須
属性名	組織単位 ID を表す属性名を指定します。入力できる文字は、半角英数字および記号で 64 文字までです。	
格納時の型	格納時の型を指定します。指定できる項目は、[文字列型] です。	
接続先	登録されているリポジトリの接続先名称を指定します。指定できる接続先名称は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • 接続先がディレクトリサーバの接続先名称 • 接続先が DB の接続先名称 	

(凡例) : 必須

3. [組織表示名] の項目を指定します。

設定する項目とその内容を次の表に示します。

表 4-18 [組織表示名] の設定内容

項目名	設定内容	必須
属性名	組織表示名を表す属性名を指定します。入力できる文字は、半角英数字で 64 文字までです。指定できる属性の型は文字列型です。	
接続先	登録されているリポジトリの接続先名称を指定します。指定できる接続先名称は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • 接続先がディレクトリサーバの接続先名称 • 接続先が DB の接続先名称 	

(凡例) : 必須

4. [上位組織を表すキー] の項目を指定します。
指定する項目とその内容を次の表に示します。

表 4-19 [上位組織を表すキー] の設定内容

項目名	設定内容	必須
属性名	上位組織単位を表す属性名を指定します。入力できる文字は、半角英数字および記号で 64 文字までです。	
格納時の型	格納時の型を指定します。指定できる項目は次のとおりです。 リポジトリにディレクトリサーバを使用している場合 [文字列型] または [DN 型] リポジトリに DB を使用している場合 [文字列型]	
接続先	登録されているリポジトリの接続先名称を指定します。指定できる接続先名称は次のとおりです。 • 接続先がディレクトリサーバの接続先名称 • 接続先が DB の接続先名称	

(凡例) : 必須

5. [登録] ボタンをクリックします。
設定した情報が登録されます。

4.6.2 マッピング情報の一括削除

組織変更などに伴ってグループ情報または組織単位情報が必要なくなった場合は、Portal Manager を使用して、組織単位情報、またはグループ情報を一括削除できます。一括削除する手順を次に示します。

なお、Portal Manager の起動方法については、「2.4.1 Portal Manager の起動方法」を参照してください。

- Portal Manager のメニュー部から [リポジトリの設定] - [マッピング情報] - [一括削除] を選択します。
次の画面が表示されます。

4. ポータルサーバの構築

図 4-32 [マッピング情報の一括削除] 画面



なお、削除対象となる情報が設定されていない場合は、「削除できる情報がありません」というメッセージが表示されます。

2. 削除するマッピング情報をチェックします。

削除するマッピング情報の種別（[グループ]、または[組織単位]）のチェックボックスをチェックします。

なお、チェックボックスが表示されるのは、削除対象となる情報が設定されている情報の種別だけです。

3. [実行] ボタンをクリックします。

手順 2. でチェックしたマッピング情報が一括削除されます。

4.7 共通情報の設定

ここでは、共通情報を使用する場合の設定方法を説明します。

設定手順を次に示します。

1. リポジトリの設定
uCosminexus Portal Framework が共通情報にアクセスするために、接続情報、構成情報、およびマッピング情報を設定します。詳細は、「4.7.2 リポジトリの設定（共通情報）」を参照してください。
2. ポートレット配置情報ファイル（PSML ファイル）の削除
各ポータルサーバで保持していたポートレット配置情報ファイル（PSML ファイル）を削除します。詳細は、「4.7.3 ポートレット配置情報ファイルの削除」を参照してください。

4.7.1 共通情報を設定する前に

共通情報は DB に格納されます。共通情報を設定する前に、DB の接続方法について確認してください。DB の接続方法の詳細は、「4.5.1(1) DB への接続方法」を参照してください。

4.7.2 リポジトリの設定（共通情報）

Portal Manager を使用して、接続情報、構成情報、およびマッピング情報を設定します。

リポジトリの設定手順を次に示します。なお、手順 2. および手順 3. で追加する記述を含んだサンプルの Repository.xml ファイルを提供していますので、「4.4 ユーザ管理情報の接続設定（ディレクトリサーバ）」、「4.5 ユーザ管理情報の接続設定（DB）」、「4.6 ユーザ管理情報の設定（マッピング情報）」を行っていない場合は、{設定ファイル格納ディレクトリ} の Repository.xml ファイルに置き換えてご利用ください。

サンプルの Repository.xml ファイルは次の場所に格納されています。

格納ディレクトリ

```
{uCosminexus Portal Framework インストールディレクトリ}
¥samples¥config¥empowermentdb
```

1. Portal Manager のメニュー部から [リポジトリの設定] - [接続情報] - [新規作成] を選択し、[接続情報の設定] 画面で各項目の内容を指定します。各項目を次のとおり指定してください。
 - JNDI を使用する場合
DB 接続に関するリソースアダプタが設定されていることが前提です。各項目を次のとおり指定してください。

4. ポータルサーバの構築

表 4-20 [接続情報の設定] 画面で指定する内容 (共通情報用 ・ JNDI あり)

項目名	指定する内容
接続先の種類	[DB (JNDI 使用)]
接続先名称	DB-EM
JNDI 名	接続に使用する JNDI 名を入力します。 「java:comp/env/」以降に web.xml ファイルの 「res-ref-name」タグで指定したものを入力します。 web.xml に <res-ref-name>jdbc/ myHiRDB<res-ref-name> と設定した場合 java:comp/env/jdbc/myHiRDB
データベース種別	HiRDB の場合 [HiRDB] Oracle の場合 [Oracle] SQL Server の場合 [SQLServer]

各項目を指定した [接続情報の設定] 画面を次に示します。ここでは、HiRDB の場合の画面を示します。

図 4-33 接続情報の設定 (共通情報の設定)

接続情報の設定

接続先の種類	DB(JNDI使用) ▼
接続先名称	DB-EM
JNDI名	java:comp/env/jdbc/myHiRDB
データベース種別	HiRDB ▼

- JNDI を使用しない場合
各項目を次のとおり指定してください。

表 4-21 [接続情報の設定] 画面で指定する内容 (共通情報用 ・ JNDI なし)

項目名	指定する内容
接続先の種類	[DB (一般)]
接続先名称	DB-EM
接続先 URL	使用している環境に合わせて設定してください。
JDBC ドライバ名	

項目名	指定する内容
接続先ユーザー名	
接続先パスワード	
接続待ち時間	
データベース種別	HiRDB の場合 [HiRDB] Oracle の場合 [Oracle] SQL Server の場合 [SQLServer]

各項目を指定した [接続情報の設定] 画面を次に示します。ここでは、HiRDB の場合の画面を示します。

図 4-34 接続情報の設定 (共通情報の設定)

接続情報の設定

接続先の種類	DB(一般) ▼
接続先名称	DB-EM
接続先URL	
JDBCドライバ名	
接続先ユーザー名	
接続先パスワード	
接続待ち時間	
データベース種別	HiRDB ▼

2. Repository.xml ファイルに構成情報を設定します。

Repository.xml ファイルを直接編集して、Repository.add1.xml ファイルの内容を追加します。

各ファイルは次の場所に格納されています。

Repository.xml ファイルの格納ディレクトリ

{ 設定ファイル格納ディレクトリ }

注 デフォルトでは、次のディレクトリです。

{uCosminexus Portal Framework インストールディレクトリ }¥conf

Repository.add1.xml の格納ディレクトリ

{uCosminexus Portal Framework インストールディレクトリ

4. ポータルサーバの構築

```
}¥samples¥config¥empowermentdb
```

Repository.xml ファイルの <resource name="cosmi" type="cosminexus"/> と <portal-mapping> の間に Repository.add1.xml ファイルの内容を追加してください。Repository.add1.xml ファイルの内容を次に示します。

Repository.add1.xml ファイルの内容

```
<resource name="PORTALFILE" type="DB">
  <connection>DB-EM</connection>
  <table name="FILECONTENT" key="filename"/>
</resource>

<resource name="PORTALGROUP-R" type="DB">
  <connection>DB-EM</connection>
  <table name="PORTAL_GROUP" key="communityid"/>
</resource>
<resource name="PORTALGROUP-W" type="DB">
  <connection>DB-EM</connection>
  <table name="PORTAL_GROUP" key="portalgroupname"/>
</resource>
<resource name="PORTALLAYOUT-R" type="DB">
  <connection>DB-EM</connection>
  <table name="PORTAL_LAYOUT" key="portalgroupname"/>
</resource>
<resource name="PORTALLAYOUT-W" type="DB">
  <connection>DB-EM</connection>
  <table name="PORTAL_LAYOUT" key="entryid"/>
</resource>
<resource name="PORTALPORTLET-R" type="DB">
  <connection>DB-EM</connection>
  <table name="PORTAL_PORTLET" key="portalgroupname"/>
</resource>
<resource name="PORTALPORTLET-W" type="DB">
  <connection>DB-EM</connection>
  <table name="PORTAL_PORTLET" key="entryid"/>
</resource>
<resource name="PORTALPORTLET-V1" type="DB">
  <connection>DB-EM</connection>
  <table name="PORTAL_PORTLET_VIEW1" key="entryid"/>
</resource>
<resource name="PORTALCREATEID" type="DB">
  <connection>DB-EM</connection>
  <table name="PORTAL_CREATEID" key="createid"/>
</resource>
<resource name="PORTALUPDATEID" type="DB">
  <connection>DB-EM</connection>
  <table name="PORTAL_UPDATEID" key="updateid"/>
</resource>

<resource name="PORTLETARRANGE-R" type="DB">
  <connection>DB-EM</connection>
  <table name="PORTLET_ARRANGE" key="layoutid"/>
</resource>
<resource name="PORTLETARRANGE-W" type="DB">
  <connection>DB-EM</connection>
  <table name="PORTLET_ARRANGE" key="layoutid"/>
</resource>

<resource name="PORTLETGROUP-R" type="DB">
  <connection>DB-EM</connection>
  <table name="PORTLET_GROUP" key="portletgroupname"/>
</resource>
<resource name="PORTLETGROUP-W" type="DB">
```

```

        <connection>DB-EM</connection>
        <table name="PORTLET_GROUP" key="portletgroupname"/>
</resource>
<resource name="PORTLETENTRY-R" type="DB">
    <connection>DB-EM</connection>
    <table name="PORTLET_ENTRY" key="entryid"/>
</resource>
<resource name="PORTLETENTRY-W" type="DB">
    <connection>DB-EM</connection>
    <table name="PORTLET_ENTRY" key="entryid"/>
</resource>

<resource name="COMPONENTPORTLET-R" type="DB">
    <connection>DB-EM</connection>
    <table name="COMPONENT_PORTLET" key="portletname"/>
</resource>
<resource name="COMPONENTPORTLET-W" type="DB">
    <connection>DB-EM</connection>
    <table name="COMPONENT_PORTLET" key="portletname"/>
</resource>

```

3. Repository.xml ファイルにマッピング情報を設定します。

Repository.xml ファイルを直接編集して、Repository.add2.xml ファイルの内容を追加します。

各ファイルは次の場所に格納されています。

Repository.xml ファイルの格納ディレクトリ

```
{ 設定ファイル格納ディレクトリ }
```

注 デフォルトでは、次のディレクトリです。

```
{uCosminexus Portal Framework インストールディレクトリ }¥conf
```

Repository.add2.xml の格納ディレクトリ

```
{uCosminexus Portal Framework インストールディレクトリ
```

```
}¥samples¥config¥empowermentdb
```

<portal-mapping> タグ内の <portalOrganizationalUnit> タグのあとに、

Repository.add2.xml ファイルの内容を追加してください。ただし、

<portalCommon> タグがすでに存在する場合は、その中に <mapping> タグの記述を追加してください。

Repository.add2.xml ファイルの内容を次に示します。

Repository.add2.xml ファイルの内容

```

<portalCommon>
  <Mapping dest="FILENAME" src="filename">PORTALFILE</Mapping>
  <Mapping dest="FILECONTENT" src="filecontent"
type="bin">PORTALFILE</Mapping>
  <Mapping dest="FILEUPDATECD" src="fileupdatecd">PORTALFILE</
Mapping>
  <Mapping dest="FILEDELETEFLG" src="deleteflg">PORTALFILE</
Mapping>
  <Mapping dest="GROUPID_R" src="portalgroupname"
options="multivalued=multirecord">PORTALGROUP-R</Mapping>
  <Mapping dest="GROUPORDER_R" src="location"
options="multivalued=multirecord">PORTALGROUP-R</Mapping>
  <Mapping dest="COMMUNITYID_R" src="communityid"
options="multivalued=multirecord">PORTALGROUP-R</Mapping>

```

4. ポータルサーバの構築

```
<Mapping dest="GROUPTITLE_R" src="portalgrouputitle"
options=multivalue=multirecord">PORTALGROUP-R</Mapping>
  <Mapping dest="GROUPDESC_R" src="portalgroupdesc"
options="multivalue=multirecord">PORTALGROUP-R</Mapping>
  <Mapping dest="GROUPTITLES_R" src="portalgrouputitles"
type="bin" options="multivalue=multirecord">PORTALGROUP-R</
Mapping>
  <Mapping dest="ALLOWLISTCONTROL_R" src="allowlistcontrol"
type="bin" options="multivalue=multirecord">PORTALGROUP-R</
Mapping>
  <Mapping dest="ALLOWLISTUSE_R" src="allowlistuse" type="bin"
options="multivalue=multirecord">PORTALGROUP-R</Mapping>
  <Mapping dest="GROUPUPDATECD_R" src="groupupdatecd"
type="string" options="multivalue=multirecord">PORTALGROUP-R</
Mapping>
  <Mapping dest="GROUPDELETEFLG_R" src="deleteflg"
type="string" options="multivalue=multirecord">PORTALGROUP-R</
Mapping>

  <Mapping dest="GROUPID_W" src="portalgroupuname"
options="multivalue=multirecord">PORTALGROUP-W</Mapping>
  <Mapping dest="GROUPORDER_W" src="location"
options="multivalue=multirecord">PORTALGROUP-W</Mapping>
  <Mapping dest="COMMUNITYID_W" src="communityid"
options="multivalue=multirecord">PORTALGROUP-W</Mapping>
  <Mapping dest="GROUPTITLE_W" src="portalgrouputitle"
options="multivalue=multirecord">PORTALGROUP-W</Mapping>
  <Mapping dest="GROUPDESC_W" src="portalgroupdesc"
options="multivalue=multirecord">PORTALGROUP-W</Mapping>
  <Mapping dest="GROUPTITLES_W" src="portalgrouputitles"
type="bin" options="multivalue=multirecord">PORTALGROUP-W</
Mapping>
  <Mapping dest="ALLOWLISTCONTROL_W" src="allowlistcontrol"
type="bin" options="multivalue=multirecord">PORTALGROUP-W</
Mapping>
  <Mapping dest="ALLOWLISTUSE_W" src="allowlistuse" type="bin"
options="multivalue=multirecord">PORTALGROUP-W</Mapping>
  <Mapping dest="GROUPUPDATECD_W" src="groupupdatecd"
type="string" options="multivalue=multirecord">PORTALGROUP-W</
Mapping>
  <Mapping dest="GROUPDELETEFLG_W" src="deleteflg"
type="string" options="multivalue=multirecord">PORTALGROUP-W</
Mapping>

  <Mapping dest="GROUPIDENTRY_LAYOUT_R" src="portalgroupuname"
options="multivalue=multirecord">PORTALLAYOUT-R</Mapping>
  <Mapping dest="ENTRYID_LAYOUT_R" src="entryid"
options="multivalue=multirecord">PORTALLAYOUT-R</Mapping>
  <Mapping dest="ENTRYORDER_LAYOUT_R" src="location"
options="multivalue=multirecord">PORTALLAYOUT-R</Mapping>
  <Mapping dest="ENTRYNAME_LAYOUT_R" src="entryname"
options="multivalue=multirecord">PORTALLAYOUT-R</Mapping>
  <Mapping dest="ENTRYTYPE_LAYOUT_R" src="entrytype"
options="multivalue=multirecord">PORTALLAYOUT-R</Mapping>
  <Mapping dest="ENTRYTITLE_LAYOUT_R" src="entrytitle"
options="multivalue=multirecord">PORTALLAYOUT-R</Mapping>
  <Mapping dest="ENTRYPARENT_LAYOUT_R" src="entryparent"
options="multivalue=multirecord">PORTALLAYOUT-R</Mapping>
  <Mapping dest="ENTRYDESC_LAYOUT_R" src="entrydesc"
options="multivalue=multirecord">PORTALLAYOUT-R</Mapping>
  <Mapping dest="ENTRYPARAMETER_LAYOUT_R" src="entryparameter"
type="bin" options="multivalue=multirecord">PORTALLAYOUT-R</
Mapping>
  <Mapping dest="ENTRYTITLES_LAYOUT_R" src="entrytitles"
type="bin" options="multivalue=multirecord">PORTALLAYOUT-R</
```

```

Mapping>
  <Mapping dest="ENTRYUPDATECD_LAYOUT_R" src="entryupdatecd"
  type="string" options="multivalue=multirecord">PORTALLAYOUT-R</
  Mapping>
  <Mapping dest="ENTRYINSTANCETYPE_LAYOUT_W" src="instancetype"
  type="string" options="multivalue=multirecord">PORTALLAYOUT-R</
  Mapping>
  <Mapping dest="ENTRYDELETEFLG_LAYOUT_R" src="deleteflg"
  type="string" options="multivalue=multirecord">PORTALLAYOUT-R</
  Mapping>

  <Mapping dest="GROUPIDENTRY_LAYOUT_W" src="portalgroupname"
  options="multivalue=multirecord">PORTALLAYOUT-W</Mapping>
  <Mapping dest="ENTRYID_LAYOUT_W" src="entryid"
  options="multivalue=multirecord">PORTALLAYOUT-W</Mapping>
  <Mapping dest="ENTRYORDER_LAYOUT_W" src="location"
  options="multivalue=multirecord">PORTALLAYOUT-W</Mapping>
  <Mapping dest="ENTRYNAME_LAYOUT_W" src="entryname"
  options="multivalue=multirecord">PORTALLAYOUT-W</Mapping>
  <Mapping dest="ENTRYTYPE_LAYOUT_W" src="entrytype"
  options="multivalue=multirecord">PORTALLAYOUT-W</Mapping>
  <Mapping dest="ENTRYTITLE_LAYOUT_W" src="entrytitle"
  options="multivalue=multirecord">PORTALLAYOUT-W</Mapping>
  <Mapping dest="ENTRYPARENT_LAYOUT_W" src="entryparent"
  options="multivalue=multirecord">PORTALLAYOUT-W</Mapping>
  <Mapping dest="ENTRYDESC_LAYOUT_W" src="entrydesc"
  options="multivalue=multirecord">PORTALLAYOUT-W</Mapping>
  <Mapping dest="ENTRYPARAMETER_LAYOUT_W" src="entryparameter"
  type="bin" options="multivalue=multirecord">PORTALLAYOUT-W</
  Mapping>
  <Mapping dest="ENTRYTITLES_LAYOUT_W" src="entrytitles"
  type="bin" options="multivalue=multirecord">PORTALLAYOUT-W</
  Mapping>
  <Mapping dest="ENTRYUPDATECD_LAYOUT_W" src="entryupdatecd"
  type="string" options="multivalue=multirecord">PORTALLAYOUT-W</
  Mapping>
  <Mapping dest="ENTRYINSTANCETYPE_LAYOUT_W" src="instancetype"
  type="string" options="multivalue=multirecord">PORTALLAYOUT-W</
  Mapping>
  <Mapping dest="ENTRYDELETEFLG_LAYOUT_W" src="deleteflg"
  type="string" options="multivalue=multirecord">PORTALLAYOUT-W</
  Mapping>

  <Mapping dest="GROUPIDENTRY_PORTLET_R" src="portalgroupname"
  options="multivalue=multirecord">PORTALPORTLET-R</Mapping>
  <Mapping dest="ENTRYID_PORTLET_R" src="entryid"
  options="multivalue=multirecord">PORTALPORTLET-R</Mapping>
  <Mapping dest="ENTRYORDER_PORTLET_R" src="location"
  options="multivalue=multirecord">PORTALPORTLET-R</Mapping>
  <Mapping dest="ENTRYNAME_PORTLET_R" src="entryname"
  options="multivalue=multirecord">PORTALPORTLET-R</Mapping>
  <Mapping dest="ENTRYTYPE_PORTLET_R" src="entrytype"
  options="multivalue=multirecord">PORTALPORTLET-R</Mapping>
  <Mapping dest="ENTRYTITLE_PORTLET_R" src="entrytitle"
  options="multivalue=multirecord">PORTALPORTLET-R</Mapping>
  <Mapping dest="ENTRYPARENT_PORTLET_R" src="entryparent"
  options="multivalue=multirecord">PORTALPORTLET-R</Mapping>
  <Mapping dest="ENTRYDESC_PORTLET_R" src="entrydesc"
  options="multivalue=multirecord">PORTALPORTLET-R</Mapping>
  <Mapping dest="ENTRYPARAMETER_PORTLET_R" src="entryparameter"
  type="bin" options="multivalue=multirecord">PORTALPORTLET-R</
  Mapping>
  <Mapping dest="ENTRYTITLES_PORTLET_R" src="entrytitles"
  type="bin" options="multivalue=multirecord">PORTALPORTLET-R</
  Mapping>

```

4. ポータルサーバの構築

```
<Mapping dest="ENTRYUPDATECD_PORTLET_R" src="entryupdatecd"
type="string" options="multivalued=multirecord">PORTALPORTLET-R</
Mapping>
<Mapping dest="ENTRYINSTANCETYPE_PORTLET_R"
src="instancetype" type="string"
options="multivalued=multirecord">PORTALPORTLET-R</Mapping>
<Mapping dest="ENTRYDELETEFLG_PORTLET_R" src="deleteflg"
type="string" options="multivalued=multirecord">PORTALPORTLET-R</
Mapping>

<Mapping dest="GROUPIDENTRY_PORTLET_W" src="portalgroupname"
options="multivalued=multirecord">PORTALPORTLET-W</Mapping>
<Mapping dest="ENTRYID_PORTLET_W" src="entryid"
options="multivalued=multirecord">PORTALPORTLET-W</Mapping>
<Mapping dest="ENTRYORDER_PORTLET_W" src="location"
options="multivalued=multirecord">PORTALPORTLET-W</Mapping>
<Mapping dest="ENTRYNAME_PORTLET_W" src="entryname"
options="multivalued=multirecord">PORTALPORTLET-W</Mapping>
<Mapping dest="ENTRYTYPE_PORTLET_W" src="entrytype"
options="multivalued=multirecord">PORTALPORTLET-W</Mapping>
<Mapping dest="ENTRYTITLE_PORTLET_W" src="entrytitle"
options="multivalued=multirecord">PORTALPORTLET-W</Mapping>
<Mapping dest="ENTRYPARENT_PORTLET_W" src="entryparent"
options="multivalued=multirecord">PORTALPORTLET-W</Mapping>
<Mapping dest="ENTRYDESC_PORTLET_W" src="entrydesc"
options="encoding=base64,multivalued=multirecord">PORTALPORTLET-W
</Mapping>
<Mapping dest="ENTRYPARAMETER_PORTLET_W" src="entryparameter"
type="bin" options="multivalued=multirecord">PORTALPORTLET-W</
Mapping>
<Mapping dest="ENTRYTITLES_PORTLET_W" src="entrytitles"
type="bin" options="multivalued=multirecord">PORTALPORTLET-W</
Mapping>
<Mapping dest="ENTRYUPDATECD_PORTLET_W" src="entryupdatecd"
type="string" options="multivalued=multirecord">PORTALPORTLET-W</
Mapping>
<Mapping dest="ENTRYINSTANCETYPE_PORTLET_W"
src="instancetype" type="string"
options="multivalued=multirecord">PORTALPORTLET-W</Mapping>
<Mapping dest="ENTRYDELETEFLG_PORTLET_W" src="deleteflg"
type="string" options="multivalued=multirecord">PORTALPORTLET-W</
Mapping>

<Mapping dest="GROUPIDENTRY_PORTLET_V1" src="portalgroupname"
options="multivalued=multirecord">PORTALPORTLET-V1</Mapping>
<Mapping dest="ENTRYID_PORTLET_V1" src="entryid"
options="multivalued=multirecord">PORTALPORTLET-V1</Mapping>
<Mapping dest="ENTRYORDER_PORTLET_V1" src="location"
options="multivalued=multirecord">PORTALPORTLET-V1</Mapping>
<Mapping dest="ENTRYNAME_PORTLET_V1" src="entryname"
options="multivalued=multirecord">PORTALPORTLET-V1</Mapping>
<Mapping dest="ENTRYTYPE_PORTLET_V1" src="entrytype"
options="multivalued=multirecord">PORTALPORTLET-V1</Mapping>
<Mapping dest="ENTRYTITLE_PORTLET_V1" src="entrytitle"
options="multivalued=multirecord">PORTALPORTLET-V1</Mapping>
<Mapping dest="ENTRYPARENT_PORTLET_V1" src="entryparent"
options="multivalued=multirecord">PORTALPORTLET-V1</Mapping>
<Mapping dest="ENTRYDESC_PORTLET_V1" src="entrydesc"
options="multivalued=multirecord">PORTALPORTLET-V1</Mapping>
<Mapping dest="ENTRYPARAMETER_PORTLET_V1"
src="entryparameter" type="bin"
options="multivalued=multirecord">PORTALPORTLET-V1</Mapping>
<Mapping dest="ENTRYTITLES_PORTLET_V1" src="entrytitles"
type="bin" options="multivalued=multirecord">PORTALPORTLET-V1</
Mapping>
```



```

    <Mapping dest="ENTRYUPDATECD_PORTLET_V1" src="entryupdatecd"
type="string"
options="multivalue=multirecord">PORTALPORTLET-V1</Mapping>
    <Mapping dest="ENTRYINSTANCETYPE_PORTLET_V1"
src="instancetype" type="string"
options="multivalue=multirecord">PORTALPORTLET-V1</Mapping>
    <Mapping dest="ENTRYDELETEDFLG_PORTLET_V1" src="deleteflg"
type="string"
options="multivalue=multirecord">PORTALPORTLET-V1</Mapping>

    <Mapping dest="CREATEID" src="createid">PORTALCREATEID</
Mapping>
    <Mapping dest="UPDATEID" src="updateid">PORTALUPDATEID</
Mapping>

    <Mapping dest="ARRANGELAYOUTID_R" src="layoutid"
options="multivalue=multirecord">PORTLETARRANGE-R</Mapping>
    <Mapping dest="ARRANGEAREAID_R" src="areaid"
options="multivalue=multirecord">PORTLETARRANGE-R</Mapping>
    <Mapping dest="ARRANGEPORTLET_R" src="portletname"
options="multivalue=multirecord">PORTLETARRANGE-R</Mapping>
    <Mapping dest="ARRANGEPARAMNAME_R" src="paramname"
options="multivalue=multirecord">PORTLETARRANGE-R</Mapping>
    <Mapping dest="ARRANGEPARAMVALUE_R" src="paramvalue"
options="multivalue=multirecord">PORTLETARRANGE-R</Mapping>
    <Mapping dest="ARRANGEUPDATECD_R" src="updatecd"
options="multivalue=multirecord">PORTLETARRANGE-R</Mapping>
    <Mapping dest="ARRANGEDELETEDFLG_R" src="deleteflg"
options="multivalue=multirecord">PORTLETARRANGE-R</Mapping>

    <Mapping dest="ARRANGELAYOUTID_W" src="layoutid"
options="multivalue=multirecord">PORTLETARRANGE-W</Mapping>
    <Mapping dest="ARRANGEAREAID_W" src="areaid"
options="multivalue=multirecord">PORTLETARRANGE-W</Mapping>
    <Mapping dest="ARRANGEPORTLET_W" src="portletname"
options="multivalue=multirecord">PORTLETARRANGE-W</Mapping>
    <Mapping dest="ARRANGEPARAMNAME_W" src="paramname"
options="multivalue=multirecord">PORTLETARRANGE-W</Mapping>
    <Mapping dest="ARRANGEPARAMVALUE_W" src="paramvalue"
options="multivalue=multirecord">PORTLETARRANGE-W</Mapping>
    <Mapping dest="ARRANGEUPDATECD_W" src="updatecd"
options="multivalue=multirecord">PORTLETARRANGE-W</Mapping>
    <Mapping dest="ARRANGEDELETEDFLG_W" src="deleteflg"
options="multivalue=multirecord">PORTLETARRANGE-W</Mapping>

    <Mapping dest="PGPORTLETGROUPNAME_R" src="portletgroupname"
options="multivalue=multirecord">PORTLETGROUP-R</Mapping>
    <Mapping dest="PGLOCATION_R" src="location"
options="multivalue=multirecord">PORTLETGROUP-R</Mapping>
    <Mapping dest="PGPORTLETGROUPTITLES_R"
src="portletgrouptitles" type="bin"
options="multivalue=multirecord">PORTLETGROUP-R</Mapping>
    <Mapping dest="PGPORTLETGROUPDESCS_R" src="portletgroupdescs"
type="bin" options="multivalue=multirecord">PORTLETGROUP-R</
Mapping>
    <Mapping dest="PGPARENTPORTLETGROUP_R"
src="parentportletgroup"
options="multivalue=multirecord">PORTLETGROUP-R</Mapping>
    <Mapping dest="PGGROUPUPDATECD_R" src="groupupdatecd"
options="multivalue=multirecord">PORTLETGROUP-R</Mapping>
    <Mapping dest="PGDELETEDFLG_R" src="deleteflg"
options="multivalue=multirecord">PORTLETGROUP-R</Mapping>

    <Mapping dest="PGPORTLETGROUPNAME_W" src="portletgroupname"
options="multivalue=multirecord">PORTLETGROUP-W</Mapping>

```

4. ポータルサーバの構築

```
<Mapping dest="PGLOCATION_W" src="location"
options="multivalued=true">PORTLETGROUP-W</Mapping>
<Mapping dest="PGPORTLETGROUPTITLES_W"
src="portletgrouptitles" type="bin"
options="multivalued=true">PORTLETGROUP-W</Mapping>
<Mapping dest="PGPORTLETGROUPDESCS_W" src="portletgroupdescs"
type="bin" options="multivalued=true">PORTLETGROUP-W</
Mapping>
<Mapping dest="PGPARENTPORTLETGROUP_W"
src="parentportletgroup"
options="multivalued=true">PORTLETGROUP-W</Mapping>
<Mapping dest="PGGROUPUPDATECD W" src="groupupdatecd"
options="multivalued=true">PORTLETGROUP-W</Mapping>
<Mapping dest="PGDELETEFLG W" src="deleteflg"
options="multivalued=true">PORTLETGROUP-W</Mapping>

<Mapping dest="PEENTRYID_R" src="entryid"
options="multivalued=true">PORTLETENTRY-R</Mapping>
<Mapping dest="PEENTRYNAME_R" src="entryname"
options="multivalued=true">PORTLETENTRY-R</Mapping>
<Mapping dest="PEPORTLETGROUPNAME_R" src="portletgroupname"
options="multivalued=true">PORTLETENTRY-R</Mapping>
<Mapping dest="PEENTRYUPDATECD R" src="entryupdatecd"
options="multivalued=true">PORTLETENTRY-R</Mapping>
<Mapping dest="PEDELETEFLG R" src="deleteflg"
options="multivalued=true">PORTLETENTRY-R</Mapping>

<Mapping dest="PEENTRYID_W" src="entryid"
options="multivalued=true">PORTLETENTRY-W</Mapping>
<Mapping dest="PEENTRYNAME_W" src="entryname"
options="multivalued=true">PORTLETENTRY-W</Mapping>
<Mapping dest="PEPORTLETGROUPNAME_W" src="portletgroupname"
options="multivalued=true">PORTLETENTRY-W</Mapping>
<Mapping dest="PEENTRYUPDATECD_W" src="entryupdatecd"
options="multivalued=true">PORTLETENTRY-W</Mapping>
<Mapping dest="PEDELETEFLG_W" src="deleteflg"
options="multivalued=true">PORTLETENTRY-W</Mapping>

<Mapping dest="COMPONENTPORTLETNAME_R" src="portletname"
options="multivalued=true">COMPONENTPORTLET-R</Mapping>
<Mapping dest="COMPID_R" src="id"
options="multivalued=true">COMPONENTPORTLET-R</Mapping>
<Mapping dest="COMPVALUE_R" src="paramvalue"
options="multivalued=true">COMPONENTPORTLET-R</Mapping>
<Mapping dest="COMPUPDATECD R" src="updatecd"
options="multivalued=true">COMPONENTPORTLET-R</Mapping>

<Mapping dest="COMPONENTPORTLETNAME_W" src="portletname"
options="multivalued=true">COMPONENTPORTLET-W</Mapping>
<Mapping dest="COMPID_W" src="id"
options="multivalued=true">COMPONENTPORTLET-W</Mapping>
<Mapping dest="COMPVALUE_W" src="paramvalue"
options="multivalued=true">COMPONENTPORTLET-W</Mapping>
<Mapping dest="COMPUPDATECD_W" src="updatecd"
options="multivalued=true">COMPONENTPORTLET-W</Mapping>
</portalCommon>
```

4.7.3 ポートレット配置情報ファイルの削除

標準画面レイアウト情報がポートレット配置情報ファイル（PSML ファイル）に格納されています。共通情報を設定したことで不要になるためポートレット配置情報ファイルを削除します。

表 4-22 削除するポートレット配置情報ファイル (PSML ファイル) の一覧

ポートレット配置情報ファイル (PSML ファイル) の格納先ディレクトリ	ファイル名
{ポートレット配置情報ファイル格納ディレクトリ}	homeCHTML.psml homeHDML.psml homeHTML.psml
{ポートレット配置情報ファイル格納ディレクトリ} ¥group¥default	homeCHTML.psml homeHDML.psml homeHTML.psml
{ポートレット配置情報ファイル格納ディレクトリ} ¥group¥portaladminset	homeHTML.psml
{ポートレット配置情報ファイル格納ディレクトリ} ¥group¥portalsectionset	homeHTML.psml

注

デフォルトでは、次のディレクトリです。

{uCosminexus Portal Framework インストールディレクトリ}¥psml

4.8 運用管理者の登録

uCosminexus Portal Framework でアクセス制御やパーソナライズを設定する場合は、運用管理者を登録する必要があります。ここでは、運用管理者の設定方法および変更方法について説明します。

4.8.1 運用管理者の設定

運用管理者の登録手順を次に示します。

1. 運用管理者を決定します。
使用しているディレクトリサーバに登録されている任意のユーザを運用管理者に決定します。
2. Portal Manager を起動します。
Portal Manager を起動します。なお、Portal Manager の起動方法については、「2.4.1 Portal Manager の起動方法」を参照してください。
3. メニュー部から [ポータルサイトの設定] - [サーバの設定] を選択します。
次の画面が表示されます。

図 4-35 [サーバの設定] 画面



4. [ユーザ ID] に運用管理者のユーザの ID を指定します。
すべてのユーザを運用管理者とする場合は、* (アスタリスク) を指定してください。
5. [追加] ボタンをクリックします。
テキストボックスに運用管理者が追加されます。複数のユーザを登録する場合は、手順 4. ~ 5. を繰り返し実施してください。
6. [登録] ボタンをクリックします。
運用管理者が登録されます。

4.8.2 運用管理者の変更

運用管理者を更新したり、削除したりするときの手順を次に示します。なお、Portal Manager の起動方法については、「2.4.1 Portal Manager の起動方法」を参照してください。

(1) 運用管理者の更新

1. Portal Manager のメニュー部から [ポータルサイトの設定] - [サーバの設定] を選択します。
[サーバの設定] 画面が表示されます。
2. テキストボックスで変更したいユーザを選択して、ユーザ ID を変更します。
3. [変更] ボタンをクリックします。
運用管理者の情報が変更されます。複数のユーザを変更する場合は、手順 2. ~ 3. を繰り返し実施してください。

(2) 運用管理者の削除

1. Portal Manager のメニュー部から [ポータルサイトの設定] - [サーバの設定] を選択します。
[サーバの設定] 画面が表示されます。
2. テキストボックスで削除したいユーザを選択します。
[ユーザ ID] にユーザ ID が表示されます。
3. [削除] ボタンをクリックします。
削除するかどうかを確認する画面が表示されます。
4. [OK] をクリックします。
運用管理者が削除されます。複数のユーザを削除する場合は、手順 2. ~ 4. を繰り返し実施してください。

4.9 デプロイ (J2EE サーバ)

WAR ファイルを作成し、J2EE サーバに組み込みます。この手順が必要なのは、J2EE サーバモードの場合だけです。デプロイ手順を次に説明します。

1. WAR ファイルを作成します。

J2EE サーバを使用するために `makewar.bat` ファイルを使用して、WAR ファイルを作成します。

`makewar.bat` ファイルは次のディレクトリに格納されています。

格納ディレクトリ

```
{uCosminexus Portal Framework インストールディレクトリ}¥bin
```

`makewar.bat` ファイルを実行して WAR ファイルを作成します。実行時に次の内容を指定します。

- 作成する WAR ファイルの格納ディレクトリとファイル名
- {PROJECT_HOME}

実行例を次に示します。

```
makewar c:¥war¥Portal.war c:¥work¥Portal
```

2. 作成した WAR ファイルを J2EE サーバへ組み込みます。

J2EE サーバを起動し、サーバ管理コマンドを使用して手順 1. で作成した WAR ファイルをインポートします。コンテキストルートは、インポートした WAR ファイル単位ごとに作成されます。そのあと、J2EE アプリケーションを作成し、カスタマイズでコンテキストルートにポータルプロジェクト名を指定します。コンテキストルートは、セキュリティポリシーファイル (`server.policy`) で設定した名称と同じになるようにしてください。

詳細は、次のマニュアルを参照してください。

- J2EE サーバの設定方法
マニュアル「Cosminexus アプリケーションサーバ V8 機能解説 基本・開発編 (コンテナ共通機能)」, または「Cosminexus V9 アプリケーションサーバ 機能解説 基本・開発編 (コンテナ共通機能)」
- サーバ管理コマンドの使用法
マニュアル「Cosminexus アプリケーションサーバ V8 アプリケーション設定操作ガイド」, または「Cosminexus V9 アプリケーションサーバ アプリケーション設定操作ガイド」

3. JNDI 名とリソースアダプタの関連付けを設定します。

DB への接続方法で接続プール機能を使用する場合、JNDI 名とリソースアダプタの関連付けを設定します。WAR 属性ファイルを編集し、Web アプリケーション DD で設定した JNDI 名に対応するリソースアダプタ表示名を設定してください。WAR 属性ファイルの詳細については、マニュアル「Cosminexus アプリケーションサーバ

V8 リファレンス 定義編 (アプリケーション/リソース定義)」、またはマニュアル「Cosminexus V9 アプリケーションサーバ リファレンス 定義編 (アプリケーション/リソース定義)」を参照してください。

4.10 ポータルの起動

ポータルを起動する手順を次に示します。

1. コマンドプロンプトを起動します。

2. 次のディレクトリに移動します。

```
{Cosminexus インストールディレクトリ}¥CC¥server¥bin
```

3. 次のコマンドを実行します。

```
cjstartsv {サーバ名称}
```

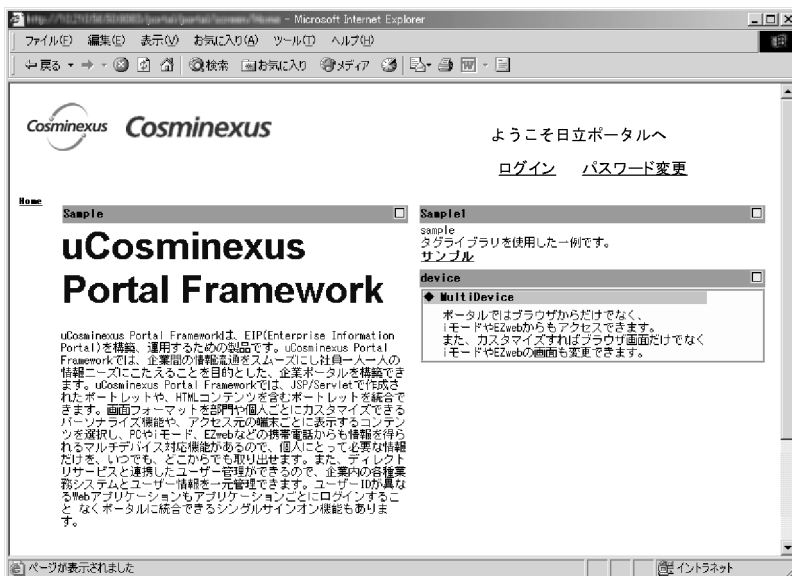
4. Web ブラウザで URL を指定します。

Web ブラウザで次の URL を指定すると、ウェルカム画面が表示されます。ただし、すでにログインしている場合は、ホーム画面が表示されます。

```
http://{ホスト名}:{ポート番号}/Portal/index.jsp
```

ポート番号には、連携している Web サーバのポート番号を指定してください。デフォルトでは「80」を使用します。デフォルトの場合は、ポート番号の指定は省略できます。

図 4-36 ウェルカム画面



! 注意事項

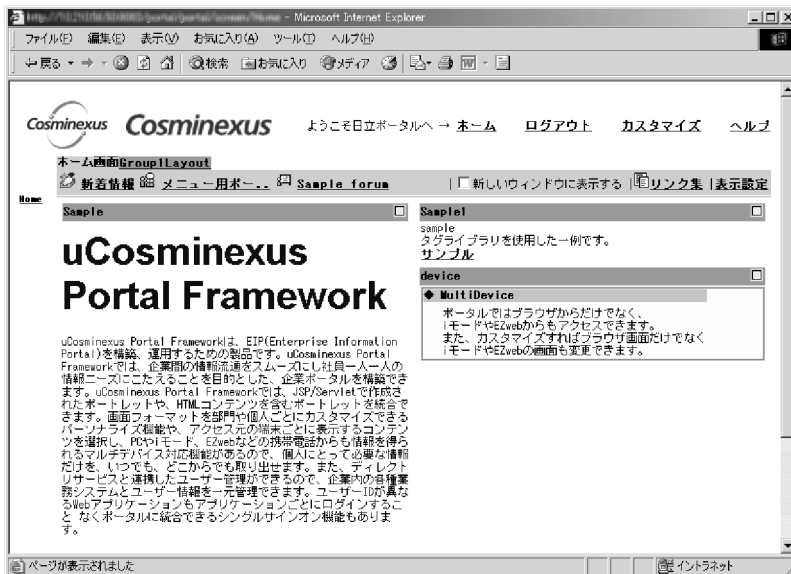
ポータルと Portal Manager は同時に起動できません。ポータルを起動する場合は、Portal Manager を停止してください。なお、Portal Manager の終了方法は「2.4.2 Portal Manager の終了方法」を参照してください。

4.11 ログイン

ウェルカム画面からログイン画面を開いてログインします。

1. [ログイン] 画面でユーザ名およびパスワードを指定します。
サンプルユーザのユーザ名およびパスワードを指定します。
2. [ログイン] ボタンをクリックします。
次の画面が表示されます。

図 4-37 ホーム画面



ポータルの構築はこれで終了です。運用管理者でログインし、運用管理の設定を行ってください。運用管理の設定については、マニュアル「uCosminexus Portal Framework 運用管理者ガイド」を参照してください。

なお、ポータル画面のカスタマイズ方法や、ナビゲーションメニューの操作方法については、マニュアル「uCosminexus Portal Framework ユーザーズガイド」を参照してください。

5

ポータル画面のカスタマイズ

この章では、ポータル画面のカスタマイズや、画面テンプレートのカスタマイズについて説明します。ポータルのデフォルトの設定を変更したい場合にお読みください。

-
- 5.1 カスタマイズできる項目

 - 5.2 画面表示のカスタマイズ

 - 5.3 レイアウト形式のカスタマイズ

 - 5.4 画面遷移の変更

 - 5.5 ナビゲーションメニューの設定

 - 5.6 スマートナビゲーションの設定
-

5.1 カスタマイズできる項目

構築したポータル画面をカスタマイズできます。カスタマイズできる項目を次の表に示します。なお、表中の「節の番号」欄は、詳細が記載されている節の番号に対応しています。

表 5-1 ポータルのカスタマイズ項目の一覧

節の番号	項目	カスタマイズできる内容
5.2	画面表示のカスタマイズ	画面テンプレートを使用して、画面表示の設定を変更できます。
5.3	レイアウト形式のカスタマイズ	標準画面レイアウトに適用するレイアウト形式（ポートレットの配置）を作成できます。
5.4	画面遷移の変更	ログイン前にウェルカム画面を表示しないようにしたり、ログアウト後に任意の画面を表示させたりするように、画面遷移を変更できます。
5.5	ナビゲーションメニューの設定	ナビゲーションメニューに表示するメニューや、リンク集について設定を変更できます。例えば、メニューやリンク集の最大登録数の設定を変更できます。
5.6	スマートナビゲーションの設定	ポートレットのコンテンツ内のデータを抽出し、外部 Web サイトにデータを送信し連携する設定ができます。

5.2 画面表示のカスタマイズ

uCosminexus Portal Framework には、ポータル画面のテンプレートとなる CSS ファイルおよび JSP ファイルが用意されています。これらを編集して画面のデザインやレイアウトを変更したり、ボタンやリンクなどの URL を追加したりできます。

CSS ファイルでは、ポータル画面のスタイルやフォントの表示方法を指定します。CSS ファイルの種類および格納先については、「5.2.2 スタイルシートの設定」を参照してください。

JSP ファイルは、ポータル画面のデザインやレイアウトを指定するファイルです。この JSP ファイルを画面テンプレートと呼びます。画面テンプレートは、画面やタイトルバーなどカスタマイズする対象ごとに用意されています。画面テンプレートは、画面やタイトルバーなどカスタマイズする対象ごとに用意されています。画面テンプレートについては、「5.2.3 画面テンプレートの種類と設定」を参照してください。

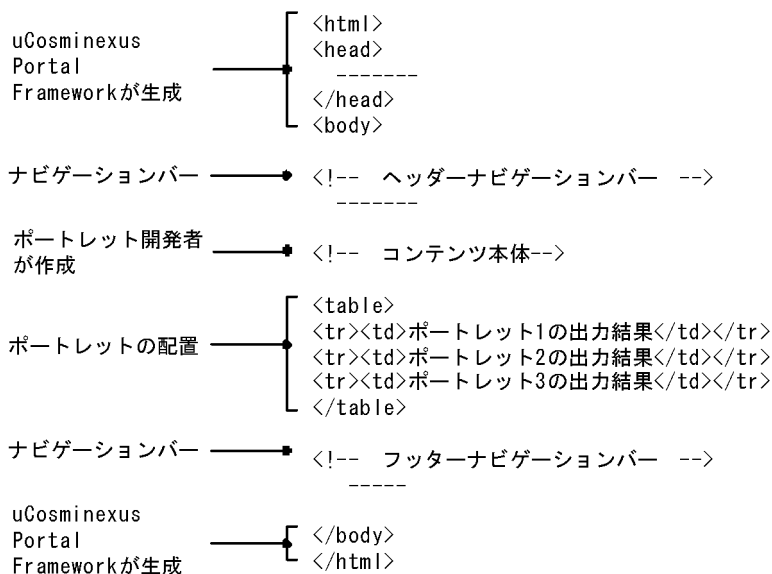
また、レイアウト形式の種類で拡張レイアウト形式を選択するときは、画面テンプレートのカスタマイズのほかにタイトルコントロールを設定できます。タイトルコントロールは、拡張レイアウト形式で配置する各ポートレットの画面のデザインです。タイトルコントロールの設定については、「5.2.8 拡張レイアウト形式使用時のタイトルコントロール設定」を参照してください。

5.2.1 ポータル画面の HTML

ポータル画面の HTML を次の図に示します。

5. ポータル画面のカスタマイズ

図 5-1 ポータル画面の HTML



ポータル画面に表示されるポートレットは、HTML のテーブル要素を使って合成、配置されます。HTML として必須な html や body 要素の部分、head 要素部分やナビゲーションバー部分は uCosminexus Portal Framework が内部的に生成します。

5.2.2 スタイルシートの設定

ここでは、スタイルシートの種類および格納先について説明します。

(1) スタイルシートの種類

uCosminexus Portal Framework では、次の 2 種類のスタイルシートを提供しています。2 種類のファイルは同時に使用することができます。

default.css

ポータル画面全体のスタイルを設定します。ポータル画面の背景色など、全体的なスタイルを設定したいときには、このスタイルシートを編集してください。

standard.css

Java Portlet Specification 1.0 で規定されているクラスのスタイルを設定します。標準 API ポートレットのスタイルを設定する場合に使用します。また、標準 API ポートレット以外のポートレットでもこのスタイルを使用することでポータル全体のポートレットのデザインを統一することができます。

(2) スタイルシートの格納先

uCosminexus Portal Framework で提供している 2 種類のスタイルシートは、次のディ

レクトリに格納されています。

日本語用のスタイルシートの格納ディレクトリ

```
{PROJECT_HOME}¥css¥ja
```

英語用のスタイルシートの格納ディレクトリ

```
{PROJECT_HOME}¥css¥en
```

なお、使用言語ごとに異なるスタイルシートを設定できます。使用言語によってスタイルシートを変更するには、{PROJECT_HOME}¥css 配下に使用言語の言語種別（{言語コード}[-{国コード}[-{バリエーション}]]）を名称とするディレクトリを作成し、その中に default.css ファイルおよび standard.css ファイルを格納します。例として、中国語（香港）用のスタイルシートの格納ディレクトリを、次に示します。

中国語（香港）用のスタイルシートの格納ディレクトリ

```
{PROJECT_HOME}¥css¥zh-HK
```

5.2.3 画面テンプレートの種類と設定

ここでは、画面テンプレートの種類と設定方法について説明します。

次の表に画面テンプレートの種類を示します。テンプレートは組み合わせて使用します。

表 5-2 画面テンプレートの種類

画面テンプレート名	対象	詳細
基本テンプレート	ポータル画面 (レイアウトカスタマイズ画面以外)	uCosminexus Portal Framework で標準実装しているテンプレートです。初期状態は、基本テンプレートが設定されています。
デザインテンプレート	ポータル画面 (レイアウトカスタマイズ画面以外)	ポータル全体の画面をグラフィカルなデザインに変更できるテンプレートです。
メニューベースタイトルバーテンプレート	タイトルバー	画面のタイトルバーをカスタマイズするために提供しているテンプレートです。このテンプレートを使用するためには、デザインテンプレートを設定しておく必要があります。
シンプルカスタマイズテンプレート	レイアウトカスタマイズ画面	レイアウト編集画面などをカスタマイズするために提供しているテンプレートです。このテンプレートを使用するためには、デザインテンプレートを設定しておく必要があります。

(1) 基本テンプレート

uCosminexus Portal Framework で標準実装しているテンプレートで、デフォルトとして設定されています。

5. ポータル画面のカスタマイズ

(a) 基本テンプレートの種類

基本テンプレートには、4種類のテンプレートが用意されています。

- レイアウトテンプレート
画面全体のレイアウトを決定するテンプレートです。ナビゲーションバーやポートレット合成部分の位置を指定します。編集方法については、「5.2.4 レイアウトテンプレート」を参照してください。
- ナビゲーションテンプレート
各ナビゲーションバーの表示内容を決定するテンプレートです。ナビゲーションバーは、ヘッダー、メニュー、およびフッターに分かれ、ポータル画面内の案内機能を提供します。ナビゲーションテンプレートの使用方法については、「5.2.5 ナビゲーションテンプレート」を参照してください。
- ポートレットテンプレート
タイトルの表示など、ポートレットの表示形式を決定するテンプレートです。ポートレットテンプレートの使用方法については、「5.2.6 ポートレットテンプレート」を参照してください。
- ページテンプレート
ログインやパスワード変更などを決定するテンプレートです。ページ内容はポータル画面のポートレット部分に表示されます。ページテンプレートの表示内容については、「5.2.7 ページテンプレート」を参照してください。

(b) 画面構成

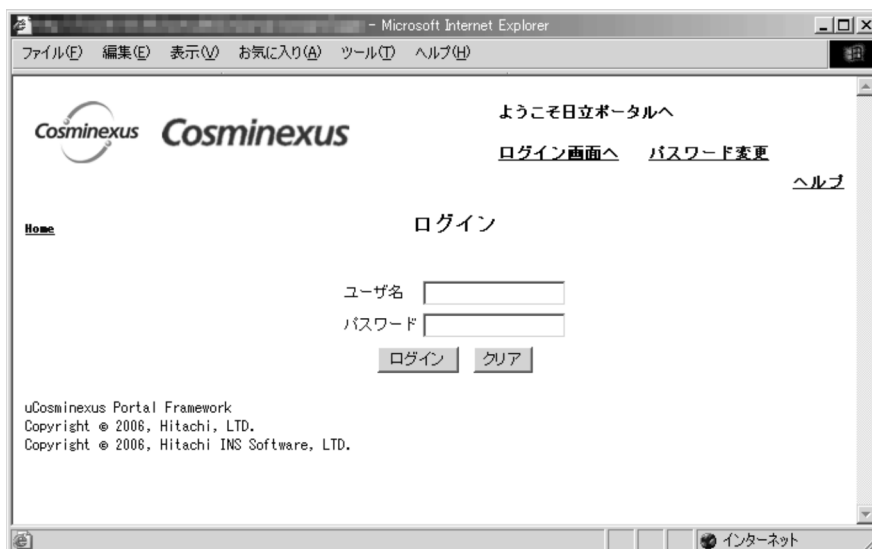
基本テンプレート（ナビゲーションテンプレート）使用時の、ポータル画面の構成を次の図に示します。

図 5-2 ポータル画面の構成 (ナビゲーションテンプレートを使用した場合)



ユーザがログインやパスワード変更をするときには、ページテンプレートを使った画面が表示されます。ログインページの画面構成を次の図に示します。

図 5-3 ログインページの画面構成



(2) デザインテンプレート

デザインテンプレートは、ポータル全体の画面をグラフィカルなデザインに変更できるテンプレートです。

(a) デザインテンプレートの種類

デザインテンプレートには、4種類のテンプレートが用意されています。

- レイアウトテンプレート
画面全体のレイアウトを決定するテンプレートです。ナビゲーションバーやポートレット合成部分の位置を指定します。編集方法については、「5.2.4 レイアウトテンプレート」を参照してください。
- ナビゲーションテンプレート
各ナビゲーションバーの表示内容を決定するテンプレートです。ナビゲーションバーは、ヘッダー、およびフッターに分かれ、ポータル画面内の案内機能を提供します。ナビゲーションテンプレートの使用方法については、「5.2.5 ナビゲーションテンプレート」を参照してください。
- ポートレットテンプレート
タイトルの表示など、ポートレットの表示形式を決定するテンプレートです。ポートレットテンプレートの使用方法については、「5.2.6 ポートレットテンプレート」を参照してください。
- ページテンプレート
ログインやパスワード変更などを決定するテンプレートです。ページ内容はポータル画面のポートレット部分に表示されます。ページテンプレートの表示内容については、「5.2.7 ページテンプレート」を参照してください。

(b) デザインテンプレートの設定方法

デザインテンプレートは、uCosminexus Portal Framework のインストールディレクトリにある JSP ファイルを、プロジェクトホームのディレクトリにコピーして設定します。

デザインテンプレートの設定は、次の手順で行います。

1. 設定のための準備をします。
デザインテンプレートを設定するポータルサーバを停止します。
2. プロジェクトディレクトリを退避します。
ポータルプロジェクト配下の情報をあらかじめ別のディレクトリに退避させます。
3. 画面テンプレートをコピーします。
次のディレクトリ配下の情報をプロジェクトディレクトリに上書きコピーします。

コピー元ディレクトリ

```
{uCosminexus Portal Framework インストールディレクトリ  
}¥templates¥designndivision
```

！ 注意事項

基本テンプレートおよびデザインテンプレートをすでに使用している環境から移行する際は、設定したテンプレートに対して同じ修正を加えてください。

4. デザインテンプレートを編集します。

次のディレクトリにあるファイルの内容を編集して色とスタイルを変更できます。変更できる内容については次のファイル内のコメントを参照してください。

- {PROJECT_HOME}/WEB-INF/templates/jsp/layouts/html/default.jsp
- {PROJECT_HOME}/WEB-INF/templates/jsp/layouts/html/SinglePortlet.jsp

(c) 画面構成

デザインテンプレート使用時の、ポータル画面の構成を次の図に示します。

図 5-4 デザインテンプレートを使用時の画面構成



(3) メニューベースタイトルバーテンプレート

ポートレットのタイトルバーの部分のカスタマイズするために提供しているテンプレートです。なお、このテンプレートを使用できる Web ブラウザは、Internet Explorer または Firefox です。

メニューベースタイトルバーテンプレートを設定すると、次の JSP ファイルが上書きコ

5. ポータル画面のカスタマイズ

ピーされます。このため、すでに次の JSP ファイルを編集して使用している場合は、メニューベースタイトルバーテンプレートに対して、同様の内容を再度編集してください。なお、メニューベースタイトルバーテンプレートを使用するには、デザインテンプレートを設定しておく必要があります。

メニューベースタイトルバーを設定するための JSP ファイル

- EditScreenControl.jsp
- FullScreenControl.jsp
- TitleControl.jsp
- TitlePortletControl.jsp
- default.jsp
- SinglePortlet.jsp

(a) 設定方法

次のディレクトリ配下の情報を、プロジェクトディレクトリに上書きコピーします。

コピー元ディレクトリ

```
{uCosminexus Portal Frameworkインストールディレクトリ  
}¥templates¥menubasetitlebar
```

(b) 画面構成

メニューベースタイトルバーテンプレート使用時の、タイトルバーの構成を次の図に示します。

図 5-5 メニューベースタイトルバーテンプレート使用時のタイトルバーの構成



アイコン

アイコンは、ポートレット定義ファイル (jetspeed-config.jcfg) で指定されている画像ファイルを表示します。画像ファイルが指定されていないポートレットでは、アイコンは表示しません。ポートレット定義ファイル (jetspeed-config.jcfg) の指定方法については、「10.2.1 ポートレット定義ファイル (jetspeed-config.jcfg)」を参照してください。

タイトル

タイトル部分には、ポートレット定義ファイル (jetspeed-config.jcfg) の <title> タグに設定されている文字列を表示します。ポートレット定義ファイル (jetspeed-config.jcfg) の指定方法については、「10.2.1 ポートレット定義ファイル (jetspeed-config.jcfg)」を参照してください。

別画面表示ボタン

別画面表示ボタンは、ポートレットを新規ウィンドウに表示するためのボタンです。なお、標準 API ポートレットの場合は、新規ウィンドウ表示機能をサポートしていないため、表示されません。

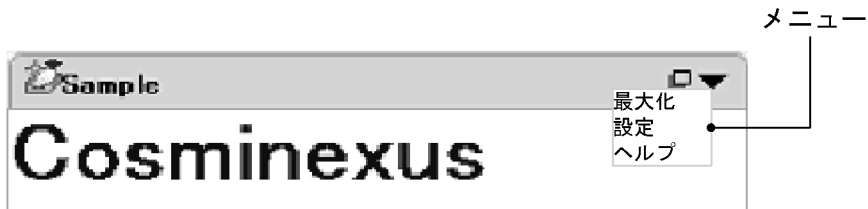
新規ウィンドウ表示機能

新規ウィンドウ表示機能とは、別画面表示ボタンまたはメニューの「新規ウィンドウ」を選択した場合に、ポートレットを新規ウィンドウとして開く機能です。新規ウィンドウ表示機能は、ポートレットごとに設定できます。設定方法については、「10.2.1 ポートレット定義ファイル (jetspeed-config.jcfg)」を参照してください。

メニューボタン

メニューボタンをクリックすると、ドロップダウンリストが表示され、ポートレットの最大化、最小化、編集画面の表示などが行えます。

図 5-6 メニューベースタイトルバーのメニューの例



表示されるメニュー項目は、ポートレットの種類およびポートレットの状態によって異なります。ポートレットの種類ごとに、ポートレットの状態と表示されるメニュー項目の関係を次に示します。

標準 API ポートレットの場合

標準 API ポートレットの場合、ポートレットの状態は表示モードと表示サイズの組み合わせで構成されます。

表 5-3 ポートレットの状態と表示されるメニュー項目の関係 (標準 API ポートレット)

ポートレットの状態		表示されるメニュー項目						
表示モード	表示サイズ	ビュー	ヘルプ	編集	元に戻す	最小化	最大化	閉じる
ビューモード (コンテンツが表示されている状態)	通常表示 (1画面上に複数のポートレットを表示している状態)	×	1	2	×	3		4
	最大化表示	×	1	2		3	×	×
	最小化表示	×	1	2		×		4

5. ポータル画面のカスタマイズ

ポートレットの状態		表示されるメニュー項目						
表示モード	表示サイズ	ビュー	ヘルプ	編集	元に戻す	最小化	最大化	閉じる
編集モード（編集画面が表示されている状態）	通常表示		1	×	×	3		4
	最大化表示		1	×		3	×	×
	最小化表示		1	×		×		4
ヘルプモード（ヘルプ画面が表示されている状態）	通常表示		×	2	×	3		4
	最大化表示		×	2		3	×	×
	最小化表示		×	2		×		4

（凡例） : 表示されます。 × : 表示されません。

注 1 ポートレットアプリケーション DD (portlet.xml) の supports タグ内で、portlet-mode に HELP が定義されている場合だけ、表示されます。

注 2 ポートレットアプリケーション DD (portlet.xml) の supports タグ内で、portlet-mode に EDIT が定義されている場合だけ、表示されます。

注 3 ポートレットが強制表示ポートレットの場合は表示されません。

注 4 次の場合には表示されません。

- ポートレットが強制表示ポートレットの場合
- ポータル画面にポートレットが一つだけ表示されている場合
- ウェルカム画面の場合

標準 API ポートレット以外のポートレットの場合

表 5-4 ポートレットの状態と表示されるメニュー項目の関係（標準 API ポートレット以外のポートレット）

ポートレットの状態	表示されるメニュー項目						
	ヘルプ	設定	最小化	元に戻す	最大化	新規ウィンドウ	閉じる
通常表示状態（1画面上に複数のポートレットを表示している状態）	1	2	3	×	4	5	6
最大化表示状態	1	2	×	7	×	5	×
編集状態	1	×	×	×	×	×	×
最小化表示状態	1	×	×		4	5	6
新規ウィンドウ表示状態	1	×	×	×	×	×	×

（凡例） : 表示されます。 × : 表示されません。

注 1 ポートレット定義ファイル (jetspeed-config.jcfg) で、使用言語のヘルプが設定されている場合だけ、表示されます。各言語のヘルプを設定するプロパティは次のとおりです。

`hptl.help.url.{言語コード}[-{国コード}[-{バリエーション}]]`

例えば、使用言語が日本語の場合は、ポートレット定義ファイル (`jetspeed-config.jcfg`) の `hptl.help.url.ja`、使用言語が英語の場合は、`hptl.help.url.en` を設定したときだけ表示されます。なお、使用言語が日本語の場合は、`hptl.help.url` を設定している場合も表示されます。

注 2 ポートレット定義ファイル (`jetspeed-config.jcfg`) の `hptl.EditMode` で表示を有効にした場合だけ表示されます。

注 3 ポートレット定義ファイル (`jetspeed-config.jcfg`) の `hptl.MinimizeMode` で表示を有効にした場合だけ表示されます。

注 4 ポートレット定義ファイル (`jetspeed-config.jcfg`) の `hptl.MaximizeMode` で表示を有効 (または指定なし) にした場合だけ表示されます。

注 5 ポートレット定義ファイル (`jetspeed-config.jcfg`) の `hptl.NewWindowMode` で表示を有効にした場合だけ表示されます。

注 6 ポートレット定義ファイル (`jetspeed-config.jcfg`) の `hptl.CloseMode` で表示を有効にした場合だけ表示されます。

注 7 ウェルカム画面の場合、遷移元の画面に戻ります。

(4) シンプルカスタマイザテンプレート

利用者レイアウトカスタマイザ画面をカスタマイズするために提供しているテンプレートです。

シンプルカスタマイザテンプレートを使用することで、画面デザインを直感的にわかりやすくし、表示をグラフィカルなデザインにできます。なお、シンプルカスタマイザテンプレートを使用するには、デザインテンプレートを設定しておく必要があります。

(a) 設定方法

前提条件

シンプルカスタマイザテンプレートを設定するには、デザインテンプレートが設定されていることが前提条件になります。

設定方法

次のディレクトリ配下の情報を、プロジェクトディレクトリに上書きコピーします。

コピー元ディレクトリ

```
{uCosminexus Portal Framework インストールディレクトリ}
¥templates¥designcustomizer
```

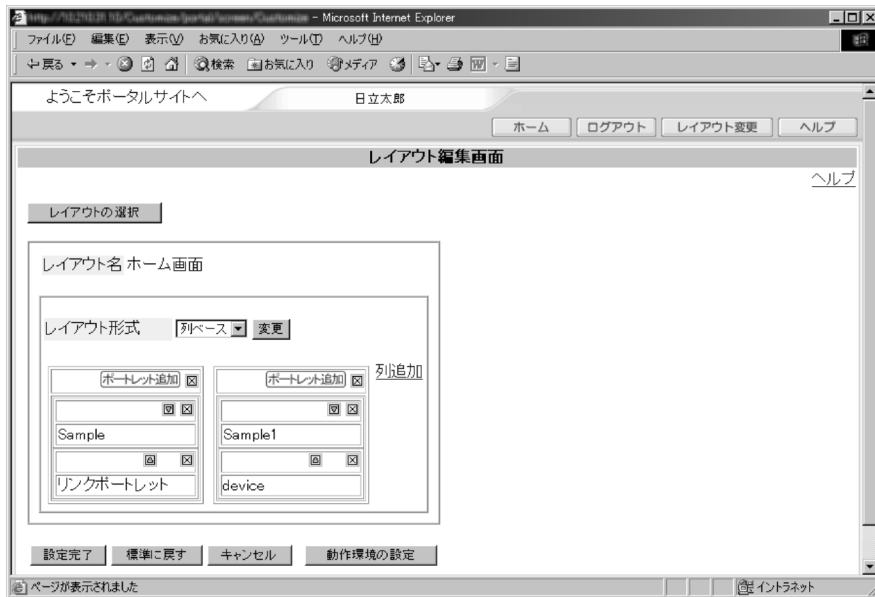
(b) 画面構成

シンプルカスタマイザテンプレートを使用時の、レイアウトカスタマイザ画面の構成を次の図に示します。

操作方法については、マニュアル「[uCosminexus Portal Framework ユーザーズガイド](#)」を参照してください。

5. ポータル画面のカスタマイズ

図 5-7 レイアウトカスタマイザ画面（シンプルカスタマイザテンプレートを使用）



標準のレイアウトカスタマイザ画面とシンプルカスタマイザ画面の機能差異を次の表に示します。

表 5-5 標準レイアウトカスタマイザ画面とシンプルカスタマイザ画面の機能差異

機能	標準レイアウトカスタマイザ画面	シンプルカスタマイザ画面
レイアウトの複製 (ユーザのタブ追加)	ユーザはタブを追加して、1レイアウト中に複数のタブを作成できる。	ユーザはタブを追加して、1レイアウト中に複数のタブを作成できない。
複製したレイアウトの削除 (ユーザ追加のタブ削除)	ユーザは複製したレイアウト（作成したタブ）を削除できる。	ユーザは複製したレイアウト（作成したタブ）を削除できない。 ¹
複製したレイアウトの移動 (ユーザ追加のタブ移動)	ユーザは複製したレイアウト（作成したタブ）を左右に移動できる。	ユーザが複製したレイアウト（作成したタブ）を左右に移動できない。
レイアウトの初期化	レイアウト単位に初期化できる（消しゴムアイコンを実装している）。	レイアウト単位に初期化できない（消しゴムアイコンを実装していない）。
[設定完了] ボタン	[設定完了] ボタンをクリックしたあと、[レイアウト編集画面] に戻る。	[設定完了] ボタンをクリックしたあと、ホーム画面へ移動する。
動作環境設定	動作環境設定が [レイアウト編集画面] 内にある。	動作環境設定が [動作環境設定画面] ² にある。
列追加，行追加	列追加や行追加の操作は、各アンカーをクリックして行う。	列追加や行追加の操作は、各ボタンをクリックして行う。
タブの表示	テキストベースで表示する。	画像を用いたグラフィカルなデザインで表示する。

機能	標準レイアウトカスタマイズ画面	シンプルカスタマイズ画面
ポートレットの追加方法	[ポートレットの選択]画面 ³ で、一覧から追加したいポートレットを選択する。	[ポートレットの選択]画面 ³ で、ポートレットグループツリー、またはポートレットの検索機能を使用して、追加したいポートレットを選択する。

注 利用者用レイアウトカスタマイズ画面の操作方法については、マニュアル「uCosminexus Portal Framework ユーザーズガイド」を参照してください。

注 1 タブの削除ボタンがないため、個々のタブを削除できません。「標準に戻す」ボタンで回避できます。

注 2 [動作環境設定画面]は、[レイアウト編集画面]にある[動作環境の設定]ボタンから表示します。

注 3 [ポートレットの選択]画面は、[レイアウト編集画面]にある[ポートレット追加]ボタン、[列追加]アンカー、または[行追加]アンカーから表示します。

5.2.4 レイアウトテンプレート

レイアウトテンプレートは、ポータル画面全体のレイアウトを決定するテンプレートです。クライアントごとにレイアウトテンプレートが異なります。

- PC用（新規ウィンドウ画面以外）
`{PROJECT_HOME}¥WEB-INF¥templates¥jsp¥layouts¥html¥default.jsp`
- PC用（新規ウィンドウ画面）
`{PROJECT_HOME}¥WEB-INF¥templates¥jsp¥layouts¥html¥SinglePortlet.jsp`
- iモード用
`{PROJECT_HOME}¥WEB-INF¥templates¥jsp¥layouts¥html¥default.jsp`
- EZweb用
`{PROJECT_HOME}¥WEB-INF¥templates¥jsp¥layouts¥html¥default.jsp`

設定内容、および各クライアントのレイアウトテンプレート例を示します。

(1) 設定内容

カスタマイズできる設定内容について説明します。レイアウトテンプレートをカスタマイズする場合は、ここで説明する設定以外は変更しないように注意してください。

文字コード

```
<%@ page contentType="text/html; charset=Shift_JIS" %>
```

page ディレクティブで、contentType と charset を指定します。

- contentType
contentType には、MIME タイプを指定します。contentType に指定する MIME タイプを次の表に示します。

表 5-6 contentType に指定する MIME タイプ

記述言語	MIME タイプ
HTML	text/html
CHTML	text/html
HDML	text/x·hdml

- charset

ポータルで日本語を使用する場合、charset に文字コードを指定する必要があります。文字コードには、デフォルトエンコーディングで指定されている文字コードと同一の文字コードを指定することを推奨します。デフォルトエンコーディングには、UTF-8 が指定されています。デフォルトエンコーディングについては、「6.2 デフォルトエンコーディングの設定」を参照してください。

ブラウザキャッシュの設定

Web ブラウザのキャッシュを無効にする設定を行います。Web ブラウザのキャッシュを有効にしている場合はこの設定を行ってください。

base 設定

```
<base href="<portal:uriLookup type="BaseURL" />" />
```

ポータルのベースとなる URL を生成します。SSL アクセラレーターまたはリバースプロキシを使用した環境で uCosminexus Portal Framework を使用する場合、URL 変換規則の設定によっては、このタグを削除する必要があります。そうでない場合には、この設定は変更しないでください。

SSL アクセラレーターまたはリバースプロキシを使用時の URL 変換規則については、「6.8 SSL アクセラレーターまたはリバースプロキシ使用時の設定」を参照してください。

ナビゲーションバー

```
<portal:jetspeedNavigation defaultTemplate="top_default.jsp"
loggedInTemplate="top_loggedIn.jsp" />
```

ナビゲーションバーを挿入するための jetspeedNavigation タグを指定します。タグを指定した位置にナビゲーションテンプレートが挿入されます。次のパラメタが指定できます。

- defaultTemplate (必須)

defaultTemplate パラメタには、ログイン前の画面に表示するナビゲーションテンプレートを指定します。

- loggedInTemplate (オプション)

loggedInTemplate パラメタには、ログイン後の画面に表示するナビゲーションテンプレートを指定します。

ポートレットの合成画面表示

```
<portal:ecsscreen />
```

ecssscreen タグを記述した位置に、ポートレット合成画面が挿入されます。

(2) PC用レイアウトテンプレート例

```
<%@ page contentType="text/html; charset=Shift_JIS" %>
<%@ page
import="jp.co.hitachi.soft.portal.api.util.StringResource" %>
<%@ page import="jp.co.hitachi.soft.portal.api.user.LocaleData" %>
<%@ page
import="jp.co.hitachi.soft.portal.api.csdc.util.CsdcResources" %>
<!--   タグライブラリ   -->
<%@ taglib uri='http://soft.hitachi.co.jp/portal/standard'
prefix='portal' %>
<%@ taglib uri='http://soft.hitachi.co.jp/portal/scriptutil'
prefix='scutil' %>
<%@ taglib uri='http://soft.hitachi.co.jp/portal/api/csdc'
prefix='csdc' %>
<%
//言語別リソースを取得する
StringResource rs =
StringResource.getStringResource(request, "hptl_common");
//ポータルに設定されている言語コードを取得する
String lang = LocaleData.getLanguage(request);
String CssPath = "css/" + lang + "/default.css";
String stdCssPath = "css/" + lang + "/standard.css";
%>

<%
//
// ブラウザキャッシュの設定
// IEの設定で以下の設定を許可する運用を行う場合、記述が必要です。
// 許可しない場合、削除することが可能です。
//
// [運用条件] ブラウザのキャッシュ有効化を許可する
// ・「ツール」メニューの「インターネットオプション」を選択
// ・「インターネット一時ファイル」の「設定…」を選択
// ・「保存しているページの新しいバージョン」を「確認しない」に設定
//
// (1)HTMLのキャッシュ無効化時期を現在時刻に設定します
response.setDateHeader("Expires", System.currentTimeMillis());

// (2)HTTP1.0対応ブラウザに対して「キャッシュしない」を指定します
response.setHeader("Pragma", "no-cache");

// (3)HTTP1.1対応ブラウザに対して「キャッシュしない」を指定します
response.setHeader("Cache-Control", "no-cache");
%>

<html>
<head> <title>uCosminexus Portal Framework</title>
<!--   base設定   -->
<base href="<portal:uriLookup type="BaseURL" />" />
<!--   スタイルシートの設定   -->
<!-- standard.cssの設定   -->
<link href="<portal:contentUri href="<%= stdCssPath %>" />"
type="text/css" rel="stylesheet">
<!-- default.cssの設定   -->
<link href="<portal:contentUri href="<%= CssPath %>" />"
type="text/css" rel="stylesheet">
<!-- Script Language setting for event handler -->
<meta http-equiv="Content-Script-Type" content="text/
```

5. ポータル画面のカスタマイズ

```

javascript">
    <!-- ここにユーザ固有のスク립トや設定を記述します。 -->

    </head>
    <body bgcolor="#ffffff" onLoad="hptl_user_LoginFocus()">
        <!-- 上部ナビゲーションの設定 -->
        <table cellspacing="0" width="100%" border="0"
cellpadding="0">
            <tr>
                <td>
                    ">
                </td>
                <td>
                    <!-- ログイン前, ログイン後のナビゲーションを表示します -->
                    <portal:jetspeedNavigation
defaultTemplate="top_default.jsp"
loggedInTemplate="top_loggedIn.jsp" />
                </td>
            </tr>
        </table>
        <!-- 左部ナビゲーションとポートレット表示領域の設定 -->
        <table cellspacing="0" width="100%" cellpadding="0"
border="0">
            <tr>
                <td valign="top" bgcolor="#ffffff" width="5%">
                    <!-- 左部のナビゲーションを表示します -->
                    <portal:jetspeedNavigation
defaultTemplate="left.jsp" />
                </td>
                <td valign="top" bgcolor="#ffffff">
                    <!-- ポートレット表示領域を表示します -->
                    <portal:ecsscreen />
                </td>
            </tr>
        </table>
        <!-- output script area. don't delete -->
        <scutil:scriptOutput type="onLogout">
            <noscript>
                <table cellspacing="0" width="100%" cellpadding="0"
border="0">
                    <tr><td bgcolor="#ffff00">
                        <%=rs.getString("LH_DE_BROWSER")%>
                    </td></tr>
                </table>
            </noscript>
        </scutil:scriptOutput>

        <table cellspacing="0" width="100%" cellpadding="0"
border="0">
            <tr>
                <td valign="bottom" bgcolor="#ffffff">
                    <!-- 下部ナビゲーションの設定 -->
                    <portal:jetspeedNavigation
defaultTemplate="bottom.jsp" />
                </td>
            </tr>
        </table>
        <!-- CSDC setting -->
        <csdc:use/>

        <scutil:layoutMaxAlert app="hptl_common"
msg="LAYOUT_MAX_ERR_MESSAGE" count="LAYOUT_MAX_ERR_COUNT"
title="LAYOUT_MAX_ERR_TITLE" />

```

```

    </body>
</html>

```

(3) iモード用レイアウトテンプレート例

```

<%@ page contentType="text/html; charset=Shift_JIS" %>
<!-- タグライブラリ -->
<%@ taglib uri=' http://soft.hitachi.co.jp/portal/standard '
prefix='portal' %>
<html><HEAD>
<Title>Cosminexus Portal Framework</Title>
</HEAD>
<BODY>
    <!-- 上部ナビゲーションの設定 -->
<portal:jetspeedNavigation defaultTemplate="top_chnml.jsp"
loggedInTemplate="top_loggedInchnml.jsp" />
    <!-- ポートレット合成部分の設定 -->
    <portal:ecsscreen />
    <!-- 下部ナビゲーションの設定 -->
    <portal:jetspeedNavigation defaultTemplate="bottom_chnml.jsp"
/>
</BODY></html>

```

(4) EZweb 用レイアウトテンプレート例

```

<%@ page contentType="text/x-hdml; charset=Shift_JIS" %>
<!-- タグライブラリ -->
<%@ taglib uri=' http://soft.hitachi.co.jp/portal/standard '
prefix='portal' %>
<HDML VERSION=3.0 MARKABLE=TRUE TTL=0>
    <!-- 上部ナビゲーションの設定 -->
    <portal:jetspeedNavigation defaultTemplate="top_hdml.jsp" />
    <!-- ポートレット合成部分の設定 -->
    < portal:ecsscreen />
    <!-- 下部ナビゲーションの設定 -->
    < portal:jetspeedNavigation defaultTemplate="bottom_hdml.jsp" />
</HDML>

```

5.2.5 ナビゲーションテンプレート

ナビゲーションテンプレートは、ナビゲーションバーの表示内容を決定するテンプレートです。

ナビゲーションテンプレートの格納ディレクトリを次に示します。

格納ディレクトリ

```
{PROJECT_HOME}¥WEB-INF¥templates¥jsp¥navigations
```

ナビゲーションテンプレートでは、uriLookup タグおよび dynamicUri タグを使用して、[ログイン] 画面やホーム画面への URL を生成できます。uriLookup タグおよび dynamicUri タグは、パラメタの値によって生成される URL が変化します。

例えば、uriLookup タグの Home パラメタを使用してホーム画面のリンクを作成したり、Logout パラメタを使用して終了画面へのリンクを作成したりできます。

5. ポータル画面のカスタマイズ

表 5-9 ポートレットテンプレートの種類と表示内容

ポートレットテンプレート名	ポートレットテンプレートの表示内容
TitlePortletControl	タイトルバーとコンテンツを表示します。
BorderPortletControl	ポートレットのコンテンツ部分を枠線で囲んで表示します。[スタイル編集画面]でポートレットのスタイルをタイトルなし・枠なしに設定した場合に使用されます。
PanedPortletControl	タブを表示します。ナビゲーションバーを表示しないときに使用されます。
NavigationPanedPortletControl	タブを表示します。ナビゲーションバーを表示するときに使用されます。
TitleControl	タイトルバーだけを表示します。ポートレットを最小化表示するときに使用されます。
FullScreenControl	タイトルバーとコンテンツを表示します。ポートレットを最大化表示するときに使用されます。
EditScreenControl	最大化した状態で編集画面を表示します。編集ボタンをクリックしたときに使用されます。

ポートレットテンプレートを編集してデザインなどを変更できます。

ポートレットテンプレートの格納ディレクトリを次に示します。ポートレットテンプレートのファイル名は、「ポートレットテンプレート名.jsp」です。

格納ディレクトリ

```
{PROJECT_HOME}¥WEB-INF¥templates¥jsp¥controls¥html
```

ポートレットテンプレートを編集する際は、BODY 要素の内側に記述する部分だけを記述してください。また、次に示すタグを使用したカスタマイズはできません。

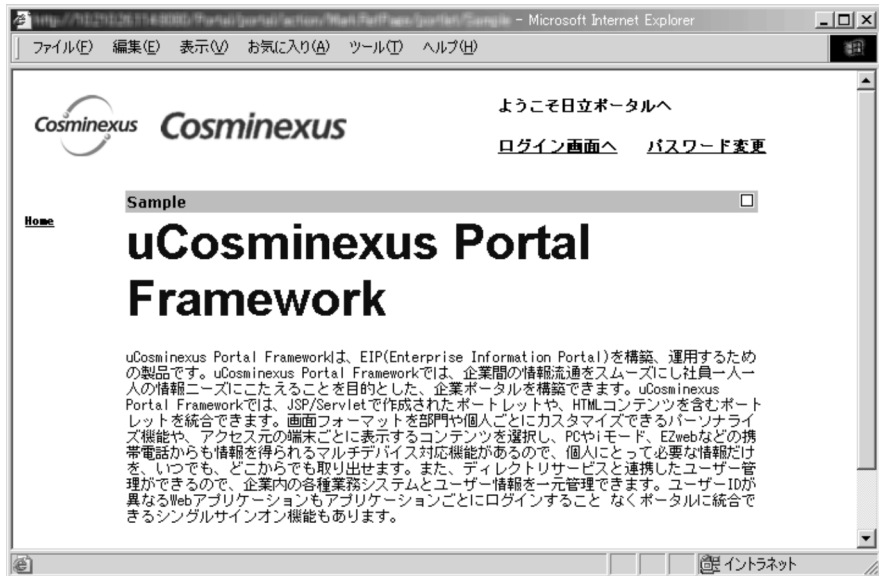
- HTML
- HEAD
- BODY
- FRAMESET
- BASE
- META
- IFRAME
- APPLET
- SCRIPT
- FORM

(a) TitlePortletControl

ポートレットのタイトルバーとコンテンツが表示されるテンプレートです。ポートレットに対してポートレットテンプレートを何も指定しなかった場合には、TitlePortletControl が自動的に適用されます。TitlePortletControl を使用したときの

ポータル画面を次に示します。

図 5-8 TitlePortletControl (基本テンプレート) を使用した場合

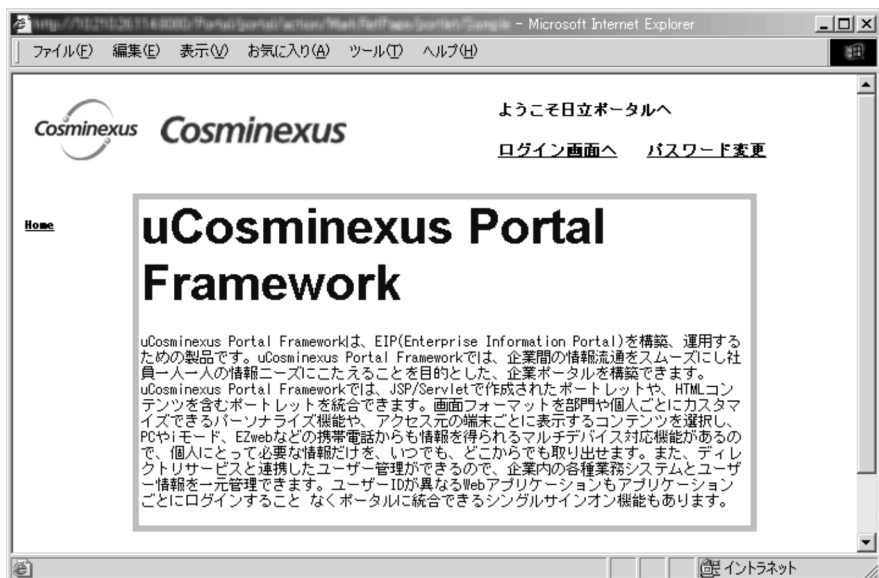


(b) BorderPortletControl

ポートレットが枠線で囲まれて表示されるテンプレートです。

BorderPortletControl を使用したときのポータル画面を次に示します。

図 5-9 BorderPortletControl (基本テンプレート) を使用した場合



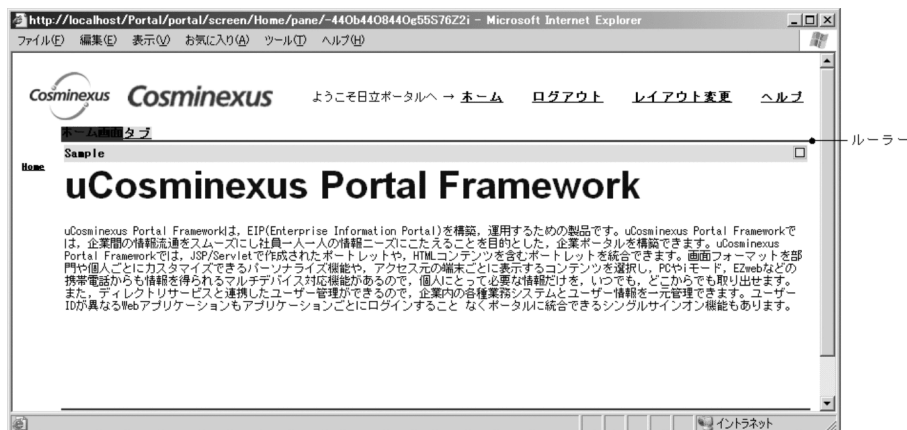
5. ポータル画面のカスタマイズ

(c) PanedPortletControl

タブ形式の画面が表示されるテンプレートです。タブ形式のレイアウトでナビゲーションメニューを表示していない場合は、このテンプレートが使用されます。ポートレット表示領域の上下に表示される線をルーラーと呼びます。

PanedPortletControl を使用したときのポータル画面を次に示します。

図 5-10 PanedPortletControl (基本テンプレート) を使用した場合

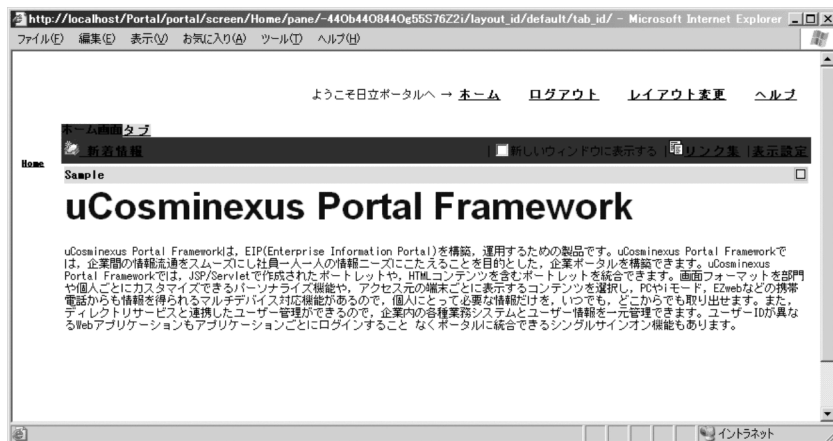


(d) NavigationPanedPortletControl

タブ形式の画面が表示されるテンプレートです。タブ形式のレイアウトでナビゲーションメニューを表示した場合は、このテンプレートが使用されます。

NavigationPanedPortletControl を使用したときのポータル画面を次に示します。

図 5-11 NavigationPanedPortletControl (基本テンプレート) を使用した場合

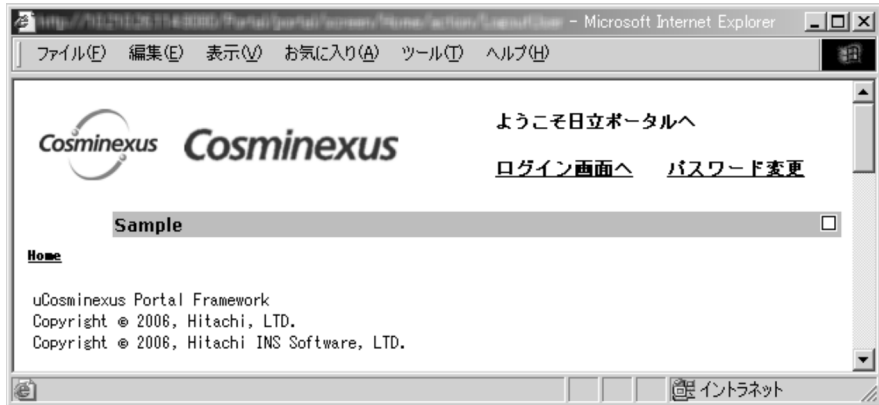


(e) TitleControl

ポートレットのタイトルバーだけが表示されるテンプレートです。ポートレットを最小化表示するときに表示されます。

TitleControl を使用したときのポータル画面を次に示します。

図 5-12 TitleControl (基本テンプレート) を使用した場合

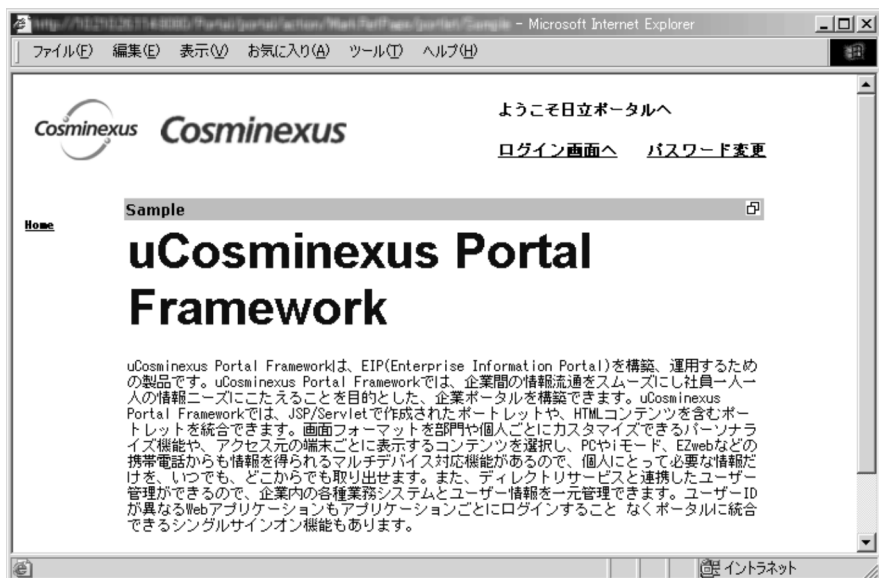


(f) FullScreenControl

ポートレットが最大化表示されるテンプレートです。ポートレットを最大化表示するときに表示されます。

FullScreenControl を使用したときのポータル画面を次に示します。

図 5-13 FullScreenControl (基本テンプレート) を使用した場合



5. ポータル画面のカスタマイズ

(g) EditScreenControl

最大化した状態で編集画面が表示されるテンプレートです。標準 API ポートレット以外のポートレットで、編集ボタンをクリックしたときに使用されます。EditScreenControlを使用したときのポータル画面を次に示します。

図 5-14 EditScreenControl (基本テンプレート) を使用した場合



(2) カスタマイズ方法

ポートレットテンプレートのカスタマイズの例を次の表に示します。

表 5-10 ポートレットテンプレートのカスタマイズの例

ポートレットテンプレート	例
TitlePortletControl	<ul style="list-style-type: none">• タイトルバーの形• タイトルバー内でのタイトルやボタンの配置• ボタンの表示・非表示• 枠線の付加
BorderPortletControl	枠線の付加
PanedPortletControl	<ul style="list-style-type: none">• タブの表示位置• タブの形
NavigationPanedPortletControl	<ul style="list-style-type: none">• タブの表示位置• タブの形
TitleControl	<ul style="list-style-type: none">• タイトルバーの形• タイトルバー内でのタイトルやボタンの配置• ボタンの表示・非表示

ポートレットテンプレート	例
FullScreenControl	<ul style="list-style-type: none"> • タイトルバーの形 • タイトルバー内でのタイトルやボタンの配置 • ボタンの表示・非表示 • 枠線の付加
EditScreenControl	<ul style="list-style-type: none"> • タイトルバーの形 • タイトルバー内でのタイトルやボタンの配置 • ボタンの表示・非表示 • 枠線の付加

カスタマイズするには、ポートレットテンプレート Bean を使用します。

ポートレットテンプレート Bean は、ポートレットテンプレートで使用する API です。ポートレット配置情報ファイル（PSML ファイル）に保存されているユーザごとのカスタマイズ情報、ポートレット定義ファイル（jetspeed-config.jcfg）に定義されているポートレットのタイトルなどの情報を取得します。

ポートレットテンプレートを編集するときは、次の表に示すポートレットテンプレート Bean を使用します。

表 5-11 ポートレットテンプレートで使用するポートレットテンプレート Bean

ポートレットテンプレート	ポートレットテンプレート Bean
TitlePortletControl	TitleLayoutBean
BorderPortletControl	NoTitleLayoutBean
PanedPortletControl	PanedLayoutBean
NavigationPanedPortletControl	NavigationPanedLayoutBean
TitleControl	TitleLayoutBean
FullScreenControl	TitleLayoutBean
EditScreenControl	TitleLayoutBean

ポートレットテンプレートで使用できる API は、ポートレットテンプレート Bean だけです。uCosminexus Portal Framework が提供するほかのタグライブラリ、クラスライブラリおよび Bean は使用できません。

ポートレットテンプレート Bean の詳細は、「9.4 ポートレットテンプレート Bean」を参照してください。

ポートレットテンプレート Bean によって、取得できるレイアウト項目が異なります。

レイアウト項目と設定内容を次の表に示します。

5. ポータル画面のカスタマイズ

表 5-12 レイアウト項目と設定内容

ポートレットテンプレート Bean	レイアウト項目	設定ファイル	パラメタ名称
共通	コンテンツの背景色	ポートレット配置情報ファイル (PSML ファイル)	background-color
NoTitleLayoutBean	枠線の太さ	ポートレット配置情報ファイル (PSML ファイル)	border-size
	枠線の色	ポートレット配置情報ファイル (PSML ファイル)	border-color
PanedLayoutBean	選択しているタブ色	ポートレット配置情報ファイル (PSML ファイル)	selected-color
	選択していないタブ色	ポートレット配置情報ファイル (PSML ファイル)	title-color
	ルーラー幅	ポートレット配置情報ファイル (PSML ファイル)	ruler-size
	ルーラー色	ポートレット配置情報ファイル (PSML ファイル)	ruler-color
	タブのタイトル	ポートレット配置情報ファイル (PSML ファイル)	<title> 要素
TitleLayoutBean	タイトルバーの背景色	ポートレット配置情報ファイル (PSML ファイル)	title-color
	ボタンに使用する画像	<p>{PROJECT_HOME}¥images に格納されています。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ビューボタン : view.gif • ヘルプボタン : help.gif • 編集ボタン : edit.gif • 元に戻すボタン : restore.gif • 最小化ボタン : min.gif • 最大化ボタン : max.gif • 閉じるボタン : close.gif • 非活性ビューボタン : view_disable.gif • 非活性ヘルプボタン : help_disable.gif • 非活性編集ボタン : edit_disable.gif • 非活性元に戻すボタン : restore_disable.gif • 非活性最小化ボタン : min_disable.gif • 非活性最大化ボタン : max_disable.gif • 新規ウィンドウボタン : j00w_newwin.gif • メニューアイコン : j00w_menu.gif 	-

(凡例) - : 該当しません。

(3) TitlePortletControl の構成

TitlePortletControl で表示したポートレットの画面構成を次に示します。なお、これは、基本テンプレートを使用した場合の構成図です。

図 5-15 TitlePortletControl で表示したポートレットの画面構成



注※ 表示されるボタンは、ポートレットの種類および表示状態によって異なります。

一つのポートレットは、一つのテーブル要素から成り立っています。図のいちばん外側の枠がテーブル要素に該当します。

1. タイトルバー

<TR> タグの背景色を指定することで、タイトルバーの背景色を表示します。

2. ポートレットのタイトル

<TD> タグでポートレットのタイトルを表示します。

3. ボタン

<TD> タグでボタンの画像とリンク先を指定します。

表示されるボタンは、ポートレットの種類によって異なります。詳細は、標準 API ポートレットの場合は「(a) ポートレットに表示されるボタン (標準 API ポートレットの場合)」を、標準 API ポートレット以外のポートレットの場合は「(b) ポートレットに表示されるボタン (標準 API ポートレット以外のポートレットの場合)」を参照してください。

4. ポートレットのコンテンツ

<TD> タグで背景色とコンテンツを表示します。

(a) ポートレットに表示されるボタン (標準 API ポートレットの場合)

ポートレットに表示されるボタンは、ポートレットの状態によって異なります。標準 API ポートレットの場合の、ポートレットの状態と表示されるボタンの関係を次に示します。

5. ポータル画面のカスタマイズ

表 5-13 ポートレットの状態と表示されるボタンの関係（標準 API ポートレット）

ポートレットの状態		表示されるボタン						
表示モード	表示サイズ	ビュー	ヘルプ	編集	元に戻す	最小化	最大化	閉じる
ビューモード (コンテンツ が表示されて いる状態)	通常表示 (1 画面上に複 数のポート レットを表 示している 状態)		1	2		3		4
	最大化表示		1	2		3		×
	最小化表示		1	2		3		4
編集モード (編集画面が 表示されてい る状態)	通常表示		1	2		3		4
	最大化表示		1	2		3		×
	最小化表示		1	2		3		4
ヘルプモード (ヘルプ画面 が表示されて いる状態)	通常表示		1	2		3		4
	最大化表示		1	2		3		×
	最小化表示		1	2		3		4

(凡例) : 表示されます。 : 非活性状態で表示されます。 × : 表示されません。

注 1 ポートレットアプリケーション DD (portlet.xml) の supports タグ内で, portlet-mode に HELP が定義されている場合だけ, 表示されます。

注 2 ポートレットアプリケーション DD (portlet.xml) の supports タグ内で, portlet-mode に EDIT が定義されている場合だけ, 表示されます。

注 3 ポートレットが強制表示ポートレットの場合は表示されません。

注 4 次の場合には表示されません。

- ポートレットが強制表示ポートレットの場合
- ポータル画面にポートレットが一つだけ表示されている場合
- ログインしていない場合

(b) ポートレットに表示されるボタン（標準 API ポートレット以外のポートレットの場合）

ポートレットに表示されるボタンは, ポートレットの状態によって異なります。標準 API ポートレット以外のポートレットの場合の, ポートレットの状態と表示されるボタンの関係を次に示します。

表 5-14 ポートレットの状態と表示されるボタンの関係（標準 API ポートレット以外のポートレット）

ポートレットの状態	表示されるボタン					
	ヘルプボタン	編集ボタン	最小化ボタン	復元ボタン	最大化ボタン	閉じるボタン
通常表示状態（1画面上に複数のポートレットを表示している状態）	1	2	3	×	4	5
最大化表示状態	1	2	×		×	×
編集状態	1	×	×	6	×	×
最小化表示状態	1	×	×		4	5
新規ウィンドウ表示状態	1	×	×	×	×	×

（凡例） 1：表示されます。 ×：表示されません。

注 1 ポートレット定義ファイル（jetspeed-config.jcfg）で、使用言語のヘルプが設定されている場合だけ、表示されます。各言語のヘルプを設定するプロパティは次のとおりです。

`hptl.help.url.{言語コード}[-{国コード}[-{バリエーション}]]`

例えば、使用言語が日本語の場合は、ポートレット定義ファイル（jetspeed-config.jcfg）の `hptl.help.url.ja`、使用言語が英語の場合は、`hptl.help.url.en` を設定したときだけ表示されます。なお、使用言語が日本語の場合は、`hptl.help.url` を設定している場合も表示されます。

注 2 ポートレット定義ファイル（jetspeed-config.jcfg）の `hptl.EditMode` で表示を有効にした場合だけ表示されます。

注 3 ポートレット定義ファイル（jetspeed-config.jcfg）の `hptl.MinimizeMode` で表示を有効にした場合だけ表示されます。

注 4 ポートレット定義ファイル（jetspeed-config.jcfg）の `hptl.MaximizeMode` で表示を有効（または指定なし）にした場合だけ表示されます。

注 5 ポートレット定義ファイル（jetspeed-config.jcfg）の `hptl.CloseMode` で表示を有効にした場合だけ表示されます。

注 6 編集内容を反映しないで、遷移元の画面に戻ります。

（4）TitleControl の構成

TitleControl は、ポートレットのタイトルバーだけが表示されるテンプレートです。

TitleControl.jsp の画面構成は、TitlePortletControl.jsp の画面構成のタイトルバー部分と同じです。TitlePortletControl.jsp の画面構成については、「(3) TitlePortletControl の構成」を参照してください。なお、ポートレットに表示されるボタンは、ポートレットを最小化表示しているときに表示されるボタンと同じです。

（5）レイアウト項目のデフォルト値

ポートレット配置情報ファイル（PSML ファイル）内に設定するタブのタイトル以外のパラメータが設定されていない場合には、プロパティファイル

5. ポータル画面のカスタマイズ

(PortalResources.properties) のプロパティ値を使用します。プロパティの設定もない場合には、システムのデフォルト値を使用します。

レイアウト項目のプロパティ値およびデフォルト値を次の表に示します。

表 5-15 レイアウト項目のプロパティ値およびデフォルト値

レイアウト項目	プロパティ	デフォルト値
コンテンツの背景色	jp.co.hitachi.soft.portal.layout.default.background.color	#FFFFFF
枠線の太さ	jp.co.hitachi.soft.portal.layout.default.border.size	1
枠線の色	jp.co.hitachi.soft.portal.layout.default.border.color	#CCCCCC
選択しているタブ色	jp.co.hitachi.soft.portal.layout.default.active.color	#990000
選択していないタブ色	jp.co.hitachi.soft.portal.layout.default.nonactive.color	#DDDDDD
ルーラー幅	jp.co.Hitachi.soft.portal.layout.default.ruler.size	2
ルーラー色	jp.co.Hitachi.soft.portal.layout.default.ruler.color	#DDDDDD
タイトルバーの背景色	jp.co.hitachi.soft.portal.layout.default.title.color	#DDDDDD
ポートレット間隔	jp.co.Hitachi.soft.portal.layout.default.padding.size	3

プロパティファイル (PortalResources.properties) は { 設定ファイル格納ディレクトリ } に格納されています。デフォルトの格納ディレクトリは次のとおりです。

格納ディレクトリ

{uCosminexus Portal Framework インストールディレクトリ}¥conf

プロパティファイル (PortalResources.properties) のプロパティ設定例を次に示します。

```
#-----
#
#   D E F A U L T   L A Y O U T   P R O P E R T I E S
#
#-----
# Padding Size
jp.co.Hitachi.soft.portal.layout.default.padding.size=3
# Border Size
jp.co.hitachi.soft.portal.layout.default.border.size=1
# Border Color
jp.co.hitachi.soft.portal.layout.default.border.color=#CCCCCC
# Active Tab Color
jp.co.hitachi.soft.portal.layout.default.active.color=#990000
# NonActive Tab Color
jp.co.hitachi.soft.portal.layout.default.nonactive.color=#DDDDDD
# Ruler Size
jp.co.hitachi.soft.portal.layout.default.ruler.size=2
# Ruler Color
jp.co.hitachi.soft.portal.layout.default.ruler.color=#990000
# Title Color
jp.co.hitachi.soft.portal.layout.default.title.color=#DDDDDD
# Background Color
```

```
jp.co.hitachi.soft.portal.layout.default.background.color=#FFFFFF
```

5.2.7 ページテンプレート

uCosminexus Portal Framework では、[ログイン] 画面や [パスワード変更] 画面などがあります。これらの画面のデザインを変更するには、次のファイルを編集してください。ページテンプレートの一覧を次の表に示します。

表 5-16 ページテンプレートの一覧

ページの内容	ファイルの格納場所
パスワード変更	{PROJECT_HOME}¥WEB-INF¥templates¥jsp¥screens¥html¥password.jsp
パスワード変更の成功	{PROJECT_HOME}¥WEB-INF¥templates¥jsp¥screens¥html¥PasswordSuccess.jsp
ベーシック認証またはプロキシ認証の発生	{PROJECT_HOME}¥WEB-INF¥templates¥jsp¥screens¥{ 記述言語 }¥authform.jsp
ログイン	{PROJECT_HOME}¥WEB-INF¥templates¥jsp¥screens¥{ 記述言語 }¥login.jsp
未ログインでのアクセス	{PROJECT_HOME}¥WEB-INF¥templates¥jsp¥errors¥html¥nologin.jsp
アクセス権のないポートレットへのアクセス	{PROJECT_HOME}¥WEB-INF¥templates¥jsp¥errors¥{ 記述言語 }¥access.jsp
ログイン失敗 (認証エラー)	{PROJECT_HOME}¥WEB-INF¥templates¥jsp¥errors¥{ 記述言語 }¥auth.jsp
そのほかのエラー	{PROJECT_HOME}¥WEB-INF¥templates¥jsp¥errors¥{ 記述言語 }¥default.jsp
パスワード変更時に入力項目が不足	{PROJECT_HOME}¥WEB-INF¥templates¥jsp¥errors¥{ 記述言語 }¥formerr.jsp
パスワード変更時に新パスワードが異なる	{PROJECT_HOME}¥WEB-INF¥templates¥jsp¥errors¥{ 記述言語 }¥newpass.jsp
ポートレット出力失敗	{PROJECT_HOME}¥WEB-INF¥templates¥jsp¥errors¥{ 記述言語 }¥nocont.jsp
パスワード変更時に旧パスワードが異なる	{PROJECT_HOME}¥WEB-INF¥templates¥jsp¥errors¥{ 記述言語 }¥oldpass.jsp
ポートレットコンテナの取得失敗	{PROJECT_HOME}¥WEB-INF¥templates¥jsp¥errors¥{ 記述言語 }¥portleterr.txt

5. ポータル画面のカスタマイズ

ページの内容	ファイルの格納場所
クライアントによって認証方法を変更する場合のログイン	HTML および CHTML の場合 {PROJECT_HOME}¥WEB-INF¥templates¥jsp¥login-logout¥login.jsp HDML の場合 {PROJECT_HOME}¥WEB-INF¥templates¥jsp¥login-logout¥entry¥login.jsp
タイムアウトが発生	{PROJECT_HOME}¥WEB-INF¥templates¥jsp¥errors¥{記述言語}¥portlettimer.jsp
ポートレットでタイムアウトが発生	{PROJECT_HOME}¥WEB-INF¥templates¥jsp¥errors¥{記述言語}¥timeout.jsp

注 {記述言語}には html, hdml, chtml のどれかが入ります。

5.2.8 拡張レイアウト形式使用時のタイトルコントロール設定

拡張レイアウト形式を使用する場合は、ポートレットを表示する時に呼び出すタイトルコントロール (JSP ファイル) を設定できます。タイトルコントロールを設定することでポートレットごとに使用するポートレットテンプレートを変更することができます。ここで設定したタイトルコントロールは、運用管理ポートレットの [レイアウト編集画面] で選択することができます。変更することができるポートレットテンプレート名を次に示します。

- TitlePortletControl
- BorderPortletControl
- TitleControl
- FullScreenControl
- EditScreenControl

タイトルコントロールの設定方法について説明します。

(1) タイトルコントロールの設定方法

以下に示すコピー元ディレクトリにあるポートレットテンプレートの JSP ファイルを、コピー先ディレクトリへ上書きコピーして設定します。

コピー元ディレクトリ

```
{PROJECT_HOME}¥WEB-INF¥templates¥jsp¥controls¥html
```

上記のディレクトリに格納されている JSP ファイルが、デフォルトのタイトルコントロールになります。

コピー先ディレクトリ

```
{PROJECT_HOME}¥WEB-INF¥templates¥jsp¥controls¥html¥{コントロール
```

名 }

コントロール名は、タイトルコントロールごとに付ける名称です。任意の名称を半角英数字 32 文字以内で指定します。

注 タイトルコントロールの格納ディレクトリには、カスタマイズしない JSP ファイルも必ず格納してください。この場合、同じ JSP 内では、上位のディレクトリにある同じ名前のファイルへの静的 include だけを行うようにします。詳細は、次のディレクトリに格納されている JSP ファイルを参照してください。

```
{PROJECT_HOME}¥WEB-INF¥templates¥jsp¥controls¥html¥default
```

5.3 レイアウト形式のカスタマイズ

標準画面レイアウト（ウェルカム画面およびホーム画面）に適用できるレイアウトの形式を設定できます。

ここでは、uCosminexus Portal Framework で提供しているレイアウト形式の種類、レイアウト形式の基本的な設定（ポートレットの最大行・列数や横幅サイズ）の方法について説明します。設定したレイアウト形式は運用管理ポートレットの準画面レイアウトのレイアウト形式の選択で選択できるようになります。

5.3.1 レイアウト形式の種類

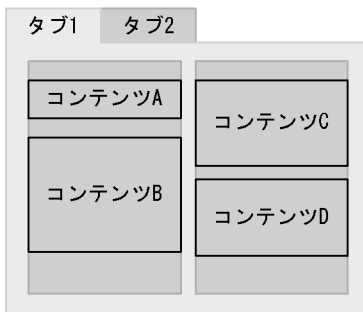
HTML の場合、および CHTML と HDML の場合の、標準画面レイアウトに適用できるレイアウト形式の種類について説明します。

(1) HTML の場合

HTML には、次に示すレイアウト形式を適用できます。ポータル利用者はレイアウト形式の種類は変更できないので、システム管理者または運用管理者はポータルの標準画面レイアウトを設定するときに、ポータル利用者に適切なレイアウト形式の種類を選択してください。

タブ形式

図 5-16 タブ形式



タブ形式の画面では、タブを使用して複数の画面を表示できます。タブをクリックすると異なる画面が表示されます。タブ内には、行列形式、ユーザ登録形式、および拡張レイアウト形式の画面を表示できます。

タブ形式の画面では、必ず表示させるポートレットやタブ（強制表示ポートレット、強制表示タブ）を設定できます。

行列形式（列ベースまたは行ベース）

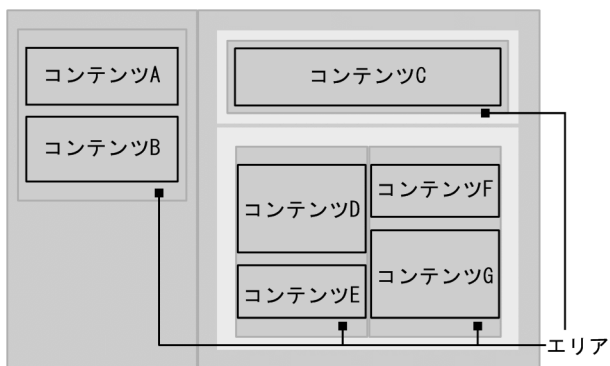
図 5-17 行列形式（行ベースの場合）



行列形式の画面では、ポートレットが縦方向（列ベース）、または横方向（行ベース）に並んで表示されます。図 5-17 は行ベースなので、ポートレットが横方向に並んで表示されています。なお、行列形式の場合、最大行・列数を設定する必要があります。最大行・列数の設定については「5.3.2 最大行・列数および横幅サイズの設定」を参照してください。また、行および列を組み合わせる場合は拡張レイアウト形式を使用してください。

拡張レイアウト形式

図 5-18 拡張レイアウト形式

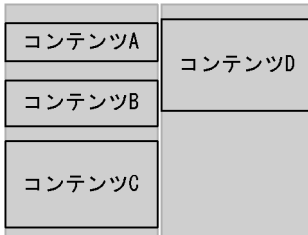


拡張レイアウトは、行列形式を組み合わせることで表示できるレイアウト形式です。拡張レイアウトの行（または列）に拡張レイアウトを定義して、入れ子にできます。また、拡張レイアウト内のポートレットを配置する行（または列）をエリアと呼び、ポータル利用者が変更できるエリア（変更可能エリア）と変更できないエリア（変更不可エリア）を設定できます。

ユーザ登録形式

5. ポータル画面のカスタマイズ

図 5-19 ユーザ登録形式



ユーザ登録形式は、行列形式（列ベース）のレイアウト形式をベースに、ポータル画面に表示するポートレットの列数、ポートレットの横幅サイズをシステム管理者が任意に設定したレイアウト形式です。ユーザ登録形式の列数や横幅サイズは、Portal Manager で設定します。ユーザ登録形式の設定については「5.3.3 ユーザ登録形式の設定」を参照してください。

グリッド形式

図 5-20 グリッド形式



グリッド形式の画面では、ポートレットが格子状に表示されます。

フロー形式

図 5-21 フロー形式



フロー形式の画面では、ポートレットが縦に1列に並んで表示されます。

(2) CHTML および HDML の場合

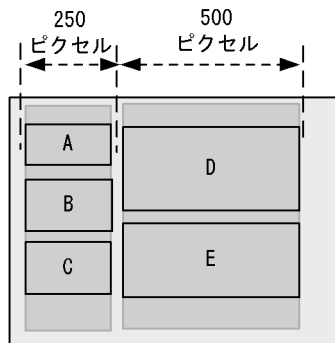
携帯電話の画面など、CHTML および HDML の場合は、カード形式で表示されます。ほかの形式は選択できません。カード形式とは、フロー形式と同様にポートレットを縦に1列に並べて表示する形式です。

5.3.2 最大行・列数および横幅サイズの設定

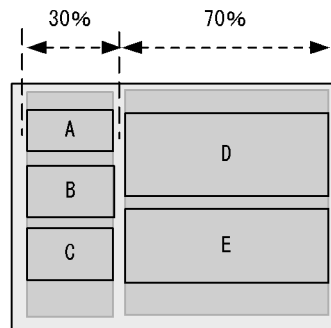
ポータル画面に表示するポートレットの最大行・列数、およびポートレットの横幅サイズの設定について説明します。最大行数は行列形式（行ベース）、最大列数は行列形式（列ベース）の設定です。ポートレットの横幅サイズはすべてのレイアウト形式に共通の設定です。

ポートレットの横幅サイズは、サイズ大、サイズ中、およびサイズ小の3種類で設定し、それぞれピクセルまたはパーセントのどちらかで設定します。ポートレットの横幅サイズをピクセルで設定した場合、Web ブラウザ画面の横幅に関係なく、設定したピクセルの数値でポートレットが表示されます。パーセントで設定した場合、Web ブラウザ画面の横幅を100%として、設定した割合の幅でポートレットが表示されます。

ピクセルの場合



パーセントの場合



最大行・列数および横幅サイズの設定には、Portal Manager を使用します。Portal Manager の起動方法については、「2.4.1 Portal Manager の起動方法」を参照してください。

最大行・列数、および横幅サイズの設定手順を次に示します。

1. Portal Manager のメニュー部から [ポータルサイトの設定] - [レイアウトの設定] - [レイアウト基本設定] を選択します。
次の画面が表示されます。

5. ポータル画面のカスタマイズ

図 5-22 [レイアウト基本設定] 画面



2. [最大行列数] を設定します。

ポータル画面に表示するポートレットの最大行・列数を設定します。設定する項目とその内容を次に示します。

表 5-17 [最大行列数] の設定内容

項目名	設定内容
行数	行列形式でポータル画面に表示するポートレットの最大行数を設定します。最大行数には 1 ~ 10 を設定します。デフォルトは 3 行です。なお、空欄の場合、設定値に制限はありません。
列数	行列形式でポータル画面に表示するポートレットの最大列数を設定します。最大列数には 1 ~ 10 を設定します。デフォルトは 3 列です。なお、空欄の場合、設定値に制限はありません。

3. [ポートレット横幅サイズ] を設定します。

ポートレットの横幅サイズを設定します。設定する項目とその内容を次の表に示します。

表 5-18 [ポートレット横幅サイズ] の設定内容

項目名	設定内容
単位	ポートレットの横幅サイズの単位を選択します。[ピクセル] または [パーセント] から選択します。
サイズ小	ポートレット横幅サイズ (小) のサイズを設定します。単位に [ピクセル] を選択した場合、値には 0 ~ 1,024 を設定します。
サイズ中	ポートレット横幅サイズ (中) のサイズを設定します。単位に [ピクセル] を選択した場合、値には 0 ~ 1,024 を設定します。
サイズ大	ポートレット横幅サイズ (大) のサイズを設定します。単位に [ピクセル] を選択した場合、値には 0 ~ 1,024 を設定します。

- [登録] ボタンをクリックします。
最大行・列数およびポートレットの横幅サイズが設定されます。

5.3.3 ユーザ登録形式の設定

ここでは、ユーザ登録形式の設定方法について説明します。

ユーザ登録形式は、Portal Manager で「レイアウトパターン」として登録することで、レイアウト形式として使用できるようになります。登録したレイアウトパターンは運用管理ポートレットの標準画面レイアウトのレイアウト形式の選択で選択できるようになります。

レイアウトパターンを新規に登録したり、登録した内容を変更したり、削除したりするときの手順について説明します。

(1) 新規登録

レイアウトパターンの新規登録には、Portal Manager を使用します。Portal Manager の起動方法については、「2.4.1 Portal Manager の起動方法」を参照してください。レイアウトパターンの新規登録手順を次に示します。

- Portal Manager のメニュー部から [ポータルサイトの設定] - [レイアウトの設定] - [レイアウトパターンの設定] を選択します。
[レイアウトパターンの選択] 画面が表示されます。
- [新規登録] ボタンをクリックします。
次の画面が表示されます。

図 5-23 [レイアウトパターンの設定] 画面 (新規登録)

- レイアウトパターンを設定します。
レイアウトパターンを設定します。設定できる項目を次の表に示します。

5. ポータル画面のカスタマイズ

表 5-19 レイアウトパターンの設定内容

項目名	設定内容
パターン名称	任意のレイアウトパターンのパターン名を入力します。なお、空白文字だけを指定することはできません。
X 列目	ポートレットの横幅サイズを設定します。各列で設定するポートレットの横幅サイズは、[サイズ小], [サイズ中], および [サイズ大] から選択します。 なお、レイアウト基本設定で、単位を [パーセント] として指定した時は、値の合計が 100% になるように選択します。

(凡例) X: 列の番号

4. [登録] ボタンをクリックします。

レイアウトパターンが登録され、[レイアウトパターンの選択] 画面に戻ります。

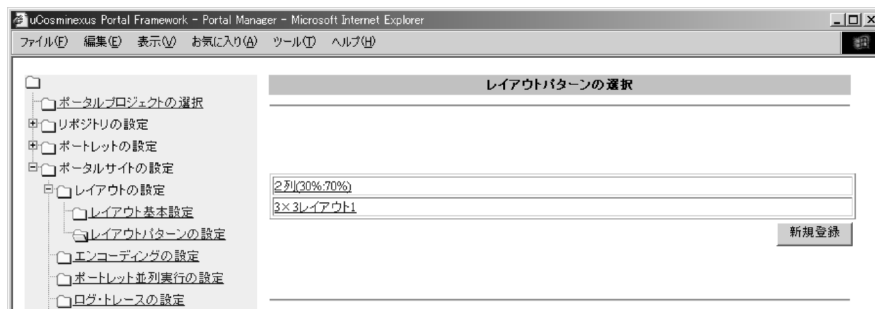
(2) 登録内容の変更

レイアウトパターンの登録内容の変更には、Portal Manager を使用します。Portal Manager の起動方法については、「2.4.1 Portal Manager の起動方法」を参照してください。レイアウトパターンの登録内容の変更手順を次に示します。

1. Portal Manager のメニュー部から [ポータルサイトの設定] - [レイアウトの設定] - [レイアウトパターンの設定] を選択します。

次の画面が表示されます。

図 5-24 [レイアウトパターンの選択] 画面 (新規登録)



2. 選択画面からパターン名を選択します。

変更したいレイアウトパターンのパターン名を選択します。

次の画面が表示されます。

図 5-25 [レイアウトパターンの設定] 画面 (変更)

- レイアウトパターンの変更をします。
レイアウトパターンの変更をします。変更できる項目を次の表に示します。

表 5-20 レイアウトパターンの設定内容

項目名	設定内容
パターン名称	レイアウトパターンのパターン表示名称を入力します。
X 列目	ポートレットの横幅サイズを設定します。各列で設定するポートレットの横幅サイズは [サイズ小], [サイズ中], および [サイズ大] から選択します。 なお、レイアウト基本設定で、単位を [パーセント] として指定した時は、値の合計が 100% になるように選択します。

(凡例) X : 列の番号

なお、レイアウトの列を追加する場合は [列追加] ボタンを、列を削除する場合には [列削除] ボタンをクリックします。[列追加] ボタンをクリックすると、最後列に列を 1 列追加します。最大で 99 列まで追加できます。[列削除] ボタンをクリックすると、最後列を 1 列削除します。ただし設定されている列が 1 列しかない場合は、削除できません。

- [登録] ボタンをクリックします。
レイアウトパターンが変更され、[レイアウトパターンの選択] 画面に戻ります。

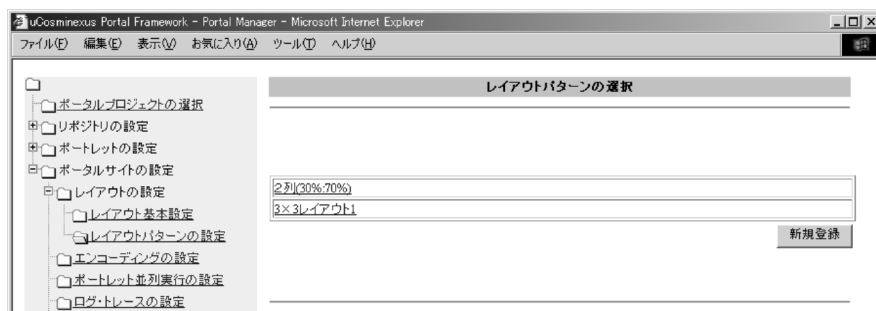
(3) 登録の削除

登録したレイアウトパターンの削除には、Portal Manager を使用します。Portal Manager の起動方法については、「2.4.1 Portal Manager の起動方法」を参照してください。レイアウトパターンの登録内容の変更手順を次に示します。

- Portal Manager のメニュー部から [ポータルサイトの設定] - [レイアウトの設定] - [レイアウトパターンの設定] を選択します。
次の画面が表示されます。

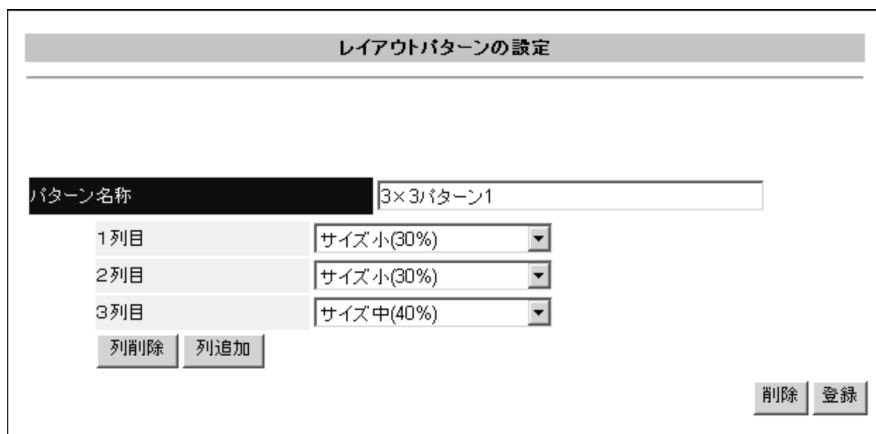
5. ポータル画面のカスタマイズ

図 5-26 [レイアウトパターンの選択] 画面 (変更)



2. 選択画面からパターン名を選択します。
削除したいレイアウトパターンのパターン名を選択します。
次の画面が表示されます。

図 5-27 [レイアウトパターンの設定] 画面 (削除)



3. [削除] ボタンをクリックします。
削除してよいかどうかを確認する画面が表示されます。
4. [削除] ボタンをクリックします。
レイアウトパターンが削除され、[レイアウトパターンの選択] 画面に戻ります。

5.4 画面遷移の変更

uCosminexus Portal Framework では、ログイン前およびログアウト後の画面表示設定をカスタマイズできます。ここでは、ログイン前およびログアウト後の画面表示設定の機能と動作の概要について説明します。

5.4.1 ウェルカム画面の表示設定

ウェルカム画面とは、ユーザがログインする前に表示する画面です。ウェルカム画面は、表示 / 非表示を切り替えられます。表示 / 非表示を切り替えることで、次のように画面遷移が変わります。

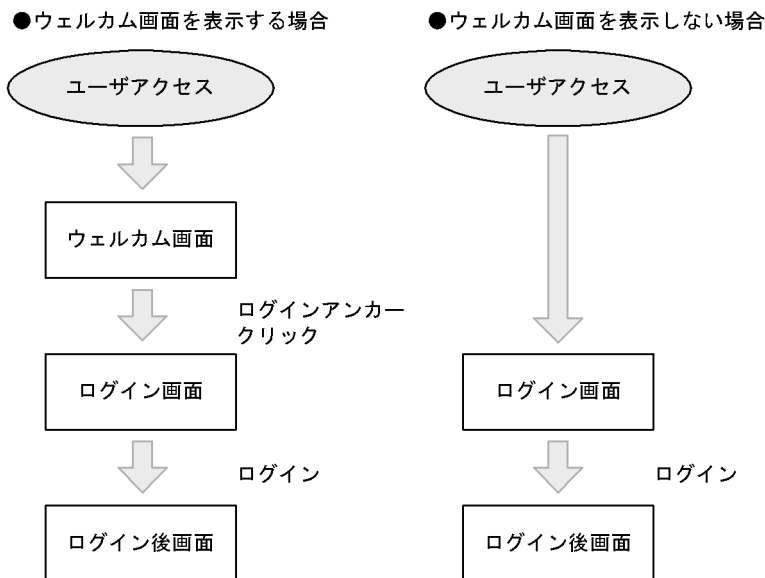
表示する場合（デフォルト）:

[ログイン] 画面の前にウェルカム画面が表示されます。

表示しない場合 :

ウェルカム画面が表示されないで、[ログイン] 画面が表示されます。

画面表示の流れを次の図に示します。



ウェルカム画面の表示 / 非表示の切り替えは、プロパティファイル (PortalResources.properties) で設定します。設定方法の詳細は、「10.1.1(1) 画面の設定」の `jp.co.hitachi.soft.portal.modules.screens.WelcomeScreen.show` プロパティの説明を参照してください。

5.4.2 ログアウト後画面の表示設定

ログアウト後画面とは、ログアウト直後に表示する画面です。ログアウト後画面は、表示 / 非表示を切り替えられます。また、ログアウト後画面に使用する画面テンプレートファイル（JSP ファイル）を指定できます。

(1) ログアウト後画面の表示 / 非表示の切り替え

使用する表示 / 非表示を切り替えることで、次のように画面遷移が変わります。

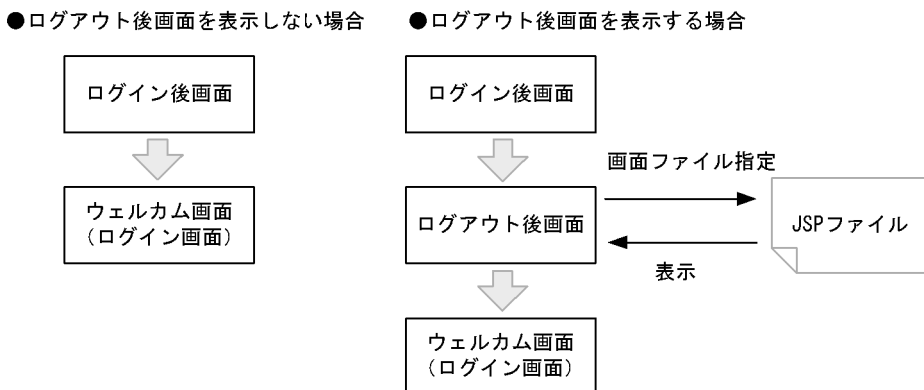
表示しない場合（デフォルト）:

ログアウト処理後にウェルカム画面が表示されます。ただし、「5.4.1 ウェルカム画面の表示設定」を「表示しない」に設定した場合は、[ログイン] 画面を表示しません。

表示する場合:

ログアウト後画面が表示されます。

画面表示の流れを次の図に示します。



ログアウト後画面の表示 / 非表示の切り替えは、プロパティファイル（PortalResources.properties）で設定します。設定方法の詳細は、「10.1.1(1) 画面の設定」の jp.co.hitachi.soft.portal.modules.screens.AfterLogoutScreen.show プロパティの説明を参照してください。

(2) ログアウト後画面の画面テンプレートファイルの指定

ログアウト後画面に使用する画面テンプレートファイル（JSP ファイル）を指定できます。

デフォルトのテンプレートファイルを次に示します。

```
{PROJECT_HOME}/WEB-INF/templates/jsp/screens/html/AfterLogout.jsp
```


5.5 ナビゲーションメニューの設定

ここでは、ナビゲーションメニューを利用するための設定方法について説明します。

ナビゲーションメニューは、日立 API ポートレットとして提供されています。ポートレット名は navigationmenu です。ナビゲーションメニューに表示するメニューやリンク集について日立 API ポートレットの [その他の項目] で設定ができます。[その他の項目] に設定できる項目について次の表に示します。なお、[その他の項目] の設定方法については、「7.6.2 登録内容の変更（日立 API ポートレット・File ポートレット）」を参照してください。

表 5-21 ナビゲーションメニューの設定項目

設定項目	[項目名] に指定する属性	設定内容	デフォルト値	最大値
メニューの最大登録数	hptl.navigationbar.navigations	メニューの最大登録数を設定できます。半角数字で指定してください。	10	20
リンク集最大登録数	hptl.navigationbar.shortcuts	リンク集の最大登録数を指定できます。半角数字で指定してください。	10	100
メニュー表示文字数	hptl.navigationbar.menustringlength	メニューに表示する文字の最大文字数を指定できます。	16	128
リンク集表示文字数	hptl.navigationbar.linkstringlength	リンク集に表示する文字の最大文字数を指定できます。	80	128

ナビゲーションメニューに表示するポートレットの設定については、「10.1.1(25) ナビゲーションメニューの設定」を参照してください。

ナビゲーションメニューに表示されるアイコンについて

ナビゲーションメニューでは、各メニューにアイコンが表示されます。表示されるアイコンの優先順位を次に示します。

1. ポートレットのデプロイ定義ファイルに記述されたアイコン
2. ナビゲーションメニューが提供するデフォルトのアイコン

なお、[リンク集] 画面に表示されるアイコンは、2. で指定したデプロイ定義ファイルに定義されたアイコンになります。

デフォルトメニューについて

デフォルトメニューは、ユーザが初めてナビゲーションメニューを表示したときに表示するメニューのことです。デフォルトメニューはナビゲーションメニューの設定としてではなく、ナビゲーションメニューに対応しているポートレットの設定として、ポートレットを登録するときに設定します。デフォルトメニューの設定については、「7.11 ナビゲーションメニュー対応ポートレットの登録」を参照してください。

5.6 スマートナビゲーションの設定

ここでは、スマートナビゲーションの設定方法について説明しています。

5.6.1 データの埋め込み

スマートナビゲーションの設定をすると、コンテンツにスマートナビゲーション用の内部データを埋め込みます。スマートナビゲーションは、この内部データを利用してコンテンツ内のデータを抽出し、連携先サイトに送信します。データの埋め込みでは、ポートレットごとに異なる形式のデータを同一形式に正規化することができます。同一形式に正規化することで、どのポートレットから抽出したデータも連携先サイトに同一形式でデータを送信することができます。

データの埋め込みでは以下の定義を行います。各範囲を指定する場合は、コンテンツ内の HTML タグの不整合が発生しないように指定してください。

データ埋め込み実施範囲

コンテンツに対しデータの埋め込み処理を実施する範囲です。コンテンツ内ではデータ埋め込み実施範囲を複数指定することができます。

トリガーイベント検知範囲

データ埋め込み実施範囲の中でスマートナビゲーションメニューを表示するイベントを検知する範囲です。データ埋め込み実施範囲内で抽出したデータを1つのデータ単位として連携先サイトに送信します。スマートナビゲーションメニューを表示するイベントをトリガーイベントといいます。

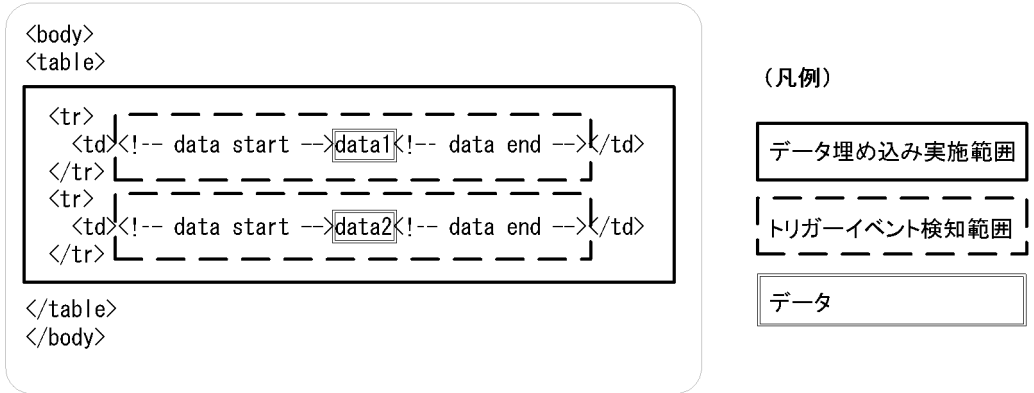
データ

トリガーイベント検知範囲で抽出し、正規化したデータです。トリガーイベント検知範囲を指定していない場合は、データを抽出した範囲をトリガーイベント検知範囲とします。

データ埋め込み実施範囲、トリガーイベント実施範囲およびデータの関連について次の図に示します。

図 5-28 データの埋め込み

ポートレット（コンテンツ）



(1) データ埋め込み実施範囲

コンテンツに対しデータ埋め込み処理を実施する範囲です。コンテンツ内ではデータ埋め込み範囲を複数指定することができます。複数のデータ埋め込み実施範囲を指定する場合、各々のデータ埋め込み実施範囲は重複することはありません。実施範囲には次の指定方法があります。

(a) URL パターンから埋め込み範囲を指定する

ポートレットの URL に特定の文字列パターンが含まれる場合に、データ埋め込みを実施することができます。URL パターンを指定することができるポートレットは次のポートレットです。

カスタムポートレット（日立 API ポートレット）

File ポートレット

また、URL パターンは次の 4 つの指定方法があります。

完全一致

URL が完全に一致しているか評価します。URL を完全な形式で指定します。

前方一致

URL の先頭が一致するか評価します。URL の終了文字として "*" を指定します。

後方一致

URL の後尾が一致するか評価します。URL の開始文字として "*" を指定します。

部分一致

URL の一部が一致するか評価します。開始文字および終了文字に "*" を指定します。

(b) 開始位置と終了位置を指定する

データ埋め込み実施範囲の開始位置と終了位置をキーワードで指定します。該当する範

5. ポータル画面のカスタマイズ

囲が複数存在する場合は、該当する範囲すべてに対しデータ埋め込みを実施します。開始位置および終了位置の指定を省略した場合はコンテンツの先頭から後尾までをデータ埋め込み実施範囲とします。

(c) URL パターンと開始・終了位置を組み合わせて指定する

特定の URL パターンのコンテンツに対して開始位置・終了位置を指定して、データ埋め込み実施範囲を指定することができます。URL パターン単位に複数のデータ埋め込み実施範囲を指定することができます。

(2) トリガーイベント検知範囲

トリガーイベント検知範囲は、データ埋め込み実施範囲の中でスマートナビゲーションメニューを表示するイベントを検知する範囲のことです。トリガーイベント検知範囲内で抽出したデータを1つのデータ単位として、連携先サイトに送信します。トリガーイベント検知範囲を複数指定する場合、各々のトリガーイベント検知範囲が重複することはありません。トリガーイベント検知範囲には次の指定方法があります。

(a) 開始位置および終了位置を指定する

トリガーイベント検知範囲の開始位置と終了位置をキーワードで指定します。該当する範囲が複数存在する場合は、該当する範囲すべてに対しトリガーイベント検知範囲とします。開始位置および終了位置の指定を省略した場合は、データ埋め込み実施範囲の先頭から後尾までをデータ埋め込み実施範囲とします。

！ 注意事項

トリガーイベント検知範囲を設定する場合、次の点に注意してください。

- トリガーイベント検知範囲の設定位置
HTML4.01 の仕様で下に 要素を記述できない位置に、トリガーイベント検知範囲を設定しないでください。正しく、動作しない場合があります。
- トリガーイベントの検知処理
トリガーイベント検知範囲より上位に右クリックを検知する処理を記述した場合、右クリックを検知した処理とスマートナビゲーションメニューの表示処理が競合し、メニューが正しく表示されない場合があります。

(3) データ

トリガーイベント検知範囲でデータを抽出します。トリガーイベント検知範囲を指定していない場合は、データを抽出した範囲をトリガーイベント検知範囲とします。

抽出したデータにはデータ型を指定します。製品出荷時には次の表に示すデータ型が定義されています。データ型は連携先 Web サイトに合わせて追加することができます。データ型の追加については、「5.6.4(1) 連携するデータの型定義」を参照してください。また、各データ型では抽出したデータを正規化することができます。正規化には、Java で提供しているクラスを使用しますが、ユーザ編集クラスを使用し正規化することができます。ユーザ編集クラスの作成方法については「5.6.5 ユーザ編集クラスの作成方法」

を参照してください。

表 5-22 データ型

データ型	内容	正規化後の形
date1	日付の型 1	YYYY-MM-DD
date2	日付の型 2	YYYYMMDD
tel	電話番号の型	抽出ルールで抽出した文字列
time	時間の型	抽出ルールで抽出した文字列
string	文字列の型	抽出ルールで抽出した文字列
place	場所の型	抽出ルールで抽出した文字列
name	人名の型	抽出ルールで抽出した文字列

データの抽出には次の指定方法があります。

(a) 開始位置および終了位置を指定する

抽出するデータの開始位置と終了位置をキーワードで指定します。トリガーイベント検知範囲に該当するデータが複数存在する場合は、最後に該当するデータを抽出します。開始位置および終了位置の指定を省略した場合はトリガーイベント検知範囲の先頭から後尾までをデータとして抽出します。トリガーイベント検知範囲を指定していない場合はデータ埋め込み実施範囲の先頭から後尾までをデータとして抽出します。

(b) 正規表現を指定する

抽出するデータを正規表現で指定します。トリガーイベント検知範囲に該当するデータが複数存在する場合は、最後に該当するデータを抽出します。

5.6.2 スマートナビゲーションメニューおよびシナリオの定義

スマートナビゲーションでは、トリガーイベントを検知したときにスマートナビゲーションメニューを表示します。また、スマートナビゲーションメニューをクリックすると連携先サイトにデータを送信します。連携先サイトにデータを送信する方法をシナリオといいます。スマートナビゲーションメニューとシナリオは WebAPI 定義で設定します。

(1) スマートナビゲーションメニュー

トリガーイベントを検知したときに、トリガーイベント検知範囲内に埋め込まれているデータのデータ型に一致したシナリオのメニューを表示します。データが埋め込まれていない場合およびデータ型が一致するシナリオが存在しない場合、スマートナビゲーションメニューは表示されません。

5. ポータル画面のカスタマイズ

(a) メニューの表示条件

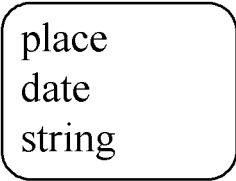
メニューはトリガーイベント検知範囲内に埋め込まれているデータのデータ型を使用するシナリオに一致した場合に表示します。シナリオで使用するデータ型が複数ある場合は、すべてのデータ型が埋め込まれている場合にメニューに表示されます。

メニューの表示条件の例を次に示します。トリガーイベント検知範囲内にあるデータのデータ型を使用するメニュー1～メニュー6は表示されますが、トリガーイベント検知範囲内にあるデータのデータ型にないデータ型を使用するメニュー7は表示されません。

図 5-29 メニューの表示条件

メニュー	使用するデータ型	表示されるメニュー
メニュー1	place	○
メニュー2	date	○
メニュー3	string	○
メニュー4	place,date	○
メニュー5	date,string	○
メニュー6	place,date,string	○
メニュー7	place,date,string,tel	×

トリガーイベント検知範囲内のデータ型



(凡例) ○ : メニューに表示される
× : メニューに表示されない

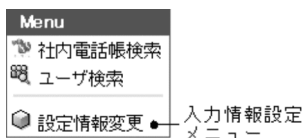
(b) 範囲選択型メニュー

トリガーイベント検知範囲内のコンテンツを選択状態にし、トリガーイベントを発生させた場合は範囲選択型メニューを表示することができます。連携先サイトにはコンテンツを選択した範囲をデータとして抽出し送信します。コンテンツを選択した範囲がトリガーイベント検知範囲を超えていた場合、選択した範囲すべてがデータとして抽出されます。範囲選択型メニューを使用するにはシナリオでデータ型 "hptlselect" を定義します。データ型 "hptlselect" は、uCosminexus Portal Framework の予約語で、範囲選択型メニューを使用する場合に使用する特殊なデータ型です。

(c) 入力情報設定メニュー

ユーザの入力を必要とするメニューを表示した場合、メニューの最後に入力情報設定メニューが表示されます。入力情報設定メニューを選択することで、パラメタ入力画面が表示されて、ユーザが入力した情報を設定変更することができます。入力情報設定メニューの表示例を次に示します。なお、入力情報設定メニューはログイン前の画面では表示されません。

図 5-30 入力情報設定メニューの表示例



(d) メニューの表示制御

ユーザ編集クラスを作成することで、メニューを特定の条件やユーザごとに表示制御を行うことができます。ユーザ編集クラスの作成方法は「5.6.5 ユーザ編集クラスの作成方法」を参照してください。

(e) メニューアイコン

スマートナビゲーションメニューにはアイコンを指定することができます。アイコンは {PROJECT_HOME} 内に格納してください。アイコンを指定しない場合は、デフォルトのアイコンが表示されます。

(2) シナリオ

シナリオは連携先サイトにデータを送信する方法の定義です。WebAPI 定義の順にスマートナビゲーションメニューが表示されます。

(a) データ型の指定と変数の定義

シナリオでは次の3種類の変数を使用することができます。変数は変数名の先頭に '\$' を付けて記述します。変数名には半角英数字および '_' (アンダーバー) を使用することができます。大文字と小文字は区別されます。

データ格納変数

コンテンツ内に埋め込まれたデータを格納するための変数です。コンテンツ内に埋め込まれたデータを使用する場合は、データ格納変数を定義する必要があります。

予約変数

uCosminexus Portal Framework が提供するデータを使用するための変数です。以下の変数を使用することができます。

hptIID uCosminexus Portal Framework にログインしたときのログイン ID

hptIPW uCosminexus Portal Framework にログインしたときのパスワード

ユーザ編集値格納変数

任意の文字列、データ格納変数および予約変数をユーザ編集クラスで加工した値を格納するための変数です。ユーザ編集クラスの作成方法については「5.6.5 ユーザ編集クラスの作成方法」を参照してください。

(b) 新ウィンドウ定義

スマートナビゲーションメニューを選択したときに新しいウィンドウを開いて表示するか、ポータル画面に上書きして表示するか指定することができます。新しいウィンドウ

5. ポータル画面のカスタマイズ

を開く場合には、ウィンドウ名とウィンドウスタイルを指定することができます。

(c) リクエスト定義

連携先サイトにデータを送信するリクエストを定義します。リクエスト定義では以下の内容を定義します。

URI

リクエストを送信する URI を定義します。

HTTP メソッド

リクエスト送信時の HTTP メソッドを定義します。GET または POST を指定することができます。

リクエストパラメタ

リクエストに設定するパラメタを定義します。リクエストパラメタの詳細は「(d) リクエストパラメタ定義」を参照してください。

レスポンスのチェック

連携先サイトにデータを送信した結果が正しいかどうかを、レスポンスのコンテンツに指定したキーワードが含まれていないかで評価することができます。指定したキーワードが含まれている場合はエラー画面を表示します。

(d) リクエストパラメタ定義

リクエストパラメタでは次の内容を定義します。

ユーザ入力パラメタ

スマートナビゲーションメニューを選択したときに、ユーザの入力を必要とするデータです。ユーザが入力したデータをパラメタ値として連携先サイトに送信します。ユーザがログインしている場合、入力したデータはパーソナライズ情報に保存されます。パーソナライズ情報にデータが保存されている場合はユーザの入力は省略され、パーソナライズ情報に保存されているデータを使用します。パーソナライズ情報に保存されているデータを変更する場合は、入力情報設定メニューより変更します。

通常パラメタ

コンテンツから抽出したデータ、固定文字列およびユーザ編集クラスにより加工したデータです。これらのデータをパラメタ値として連携先サイトに送信します。

5.6.3 スマートナビゲーションを設定する前に

ここでは、スマートナビゲーションを設定する前に知っておいていただきたい内容について説明します。

(1) 前提条件

(a) Web ブラウザの前提条件

前提とする Web ブラウザは Internet Explorer または Firefox です。

(b) セキュリティの設定

スマートナビゲーションで接続先サイトにアクセスしたときにレスポンスチェックを行う場合は、Web ブラウザのセキュリティの設定でドメイン間でのデータソースのアクセスの設定を有効にする必要があります。インターネットサイトに接続する場合は、ドメイン間でのデータソースのアクセスの設定で「ダイアログを表示する」に設定することを推奨します。

(c) 対応しているポートレット

スマートナビゲーションは次のポートレットで使用することができます。

カスタムポートレット

File ポートレット

Web コンテンツポートレット

(d) IFRAME モードのときの動作

ポートレットが IFRAME モードで動作しているときの前提条件を次に示します。

データ埋め込みは Content-Type が text/html から始まるコンテンツに対してのみ実施されます。

IFRAME 内のコンテンツで OutputStream を使用している場合、uCosminexus Portal Framework のエンコード文字の設定に従い文字列が処理されます。

OutputStream を使用する場合は、uCosminexus Portal Framework と同じエンコード文字を使用してください。

日立 API ポートレットで ServletContext オブジェクトから取得した RequestDispatcher オブジェクトでサーブレットや JSP ファイルをインクルードした場合、インクルード先では HttpServletResponse クラスの以下のメソッドが使用できません。

```
reset()
setContentLength()
setContentType()
addCookie()
addDateHeader()
addHeader()
addIntHeader()
sendError()
sendRedirect()
setDateHeader()
setHeader()
setIntHeader()
setStatus()
```

日立 API ポートレットにおいて RequestDispatcher オブジェクトでサーブレットや

5. ポータル画面のカスタマイズ

JSP ファイルにフォワードした場合、フォワード先ではデータ埋め込み処理は行われません。このため、スマートナビゲーションを使用することができません。

(2) スマートナビゲーションを使用するための設定

スマートナビゲーションを使用するために必要な設定を説明します。

(a) ポートレットフィルタを有効にする

スマートナビゲーションのデータ埋め込みを行うため、ポートレットフィルタを有効にします。ポートレットフィルタを有効にする設定はプロパティファイル (PortalResources.properties) で設定します。プロパティファイル (PortalResources.properties) は {設定ファイル格納ディレクトリ} に格納されています。デフォルトの格納ディレクトリは次のとおりです。

格納ディレクトリ

```
{uCosminexus Portal Framework インストールディレクトリ}¥conf
```

ポートレットフィルタを有効にする場合は、次のプロパティを設定します。

表 5-23 ポートレットフィルタを有効にする場合に設定するプロパティ

プロパティ名	設定値	必須
jp.co.hitachi.soft.portal.portlets.filter.enabled	true	

(凡例)

: 必須

(b) テンプレートファイルを修正する

スマートナビゲーションを使用するため、以下のテンプレートファイルの <head> タグ内に <scutil:SNMenu/> タグを記述します。

```
{PROJECT_HOME}¥WEB-INF¥templates¥jsp¥layouts¥html¥default.jsp  
{PROJECT_HOME}¥WEB-INF¥templates¥jsp¥layouts¥html¥SinglePortlet.jsp
```

(3) スマートナビゲーションのその他の設定

スマートナビゲーションを有効に利用するための設定を説明します。ここで説明する設定は必要に応じて設定してください。

(a) トリガーイベント検知範囲にスタイルを適用する

トリガーイベント検知範囲には以下のクラスが指定されます。このクラスにスタイルを設定することによりトリガーイベント検知範囲にスタイルを適用することができます。

表 5-24 トリガーイベント検知範囲のクラス

クラス名	説明
hptl_dataput	トリガーイベント検知範囲に適用するスタイルです。
hptl_mouseover	トリガーイベント検知範囲にマウスポインタをあてたときに適用するスタイルです。

(b) スマートナビゲーションメニューのスタイルを変更する

スマートナビゲーションメニューのスタイルを変更することができます。スタイルは以下のファイルに記述されているクラスを変更します。

```
{PROJECT_HOME}¥css¥{使用言語}¥SNMenu.css
```

スマートナビゲーションメニューで使用しているクラスを次に示します。

表 5-25 スマートナビゲーションメニューのクラス

クラス名	説明
snMenuHeader	メニューのヘッダに適用するスタイルです。
snMenuItem	メニューアイテムに適用するスタイルです。
snMenuSelect	メニューアイテムにマウスポインタをあてたときに適用するスタイルです。

5.6.4 スマートナビゲーションの設定方法

スマートナビゲーションの設定方法について説明します。スマートナビゲーションを使用するための設定手順を次に示します。

1. 連携するデータの型を定義する
連携先サイトに送信するデータのデータ型を定義します。製品出荷時には数種類のデータ型が定義されていますが、追加する場合は「(1) 連携するデータの型定義」を参照してください。
2. 連携するデータの埋め込み定義ファイルを作成する
連携先サイトに送信するデータをコンテンツに埋め込むための定義ファイルを作成します。作成方法は「(2) 連携するデータの埋め込み定義」を参照してください。
3. ポートレットフィルタを定義する
データ埋め込み定義をポートレットに対応付けます。定義方法は「(3) ポートレットフィルタの定義」を参照してください。
4. WebAPI の定義ファイルを作成する
連携先サイトにデータを送信する方法を定義します。定義方法は「(4) WebAPI 定義」を参照してください。

(1) 連携するデータの型定義

スマートナビゲーションでは連携するサイトに送信するデータの型を定義します。製品出荷時にはいくつかのデータ型が定義されています。このデータ型以外のデータ型を定義する場合は、データ型定義ファイルに追加します。データ型定義ファイルは以下のファイルです。

{設定ファイル格納ディレクトリ}¥data_put_definition.xml

(a) データ型定義ファイルで使用するタグ一覧

タグの一覧を次の表に示します。

表 5-26 データ型定義ファイルのタグ一覧

タグ名	タグの出現回数	属性の出現回数	説明
<definitions>	1回	-	データ型定義ファイルのルートタグです。
<data>	0回以上	1回	データ型の定義です。属性 type にデータ型名を指定します。データ型名には半角英数字で 64 文字まで使用することができます。 ¹
<formatter>	0または1回	-	抽出したデータを正規化する場合に使用するフォーマッタの定義です。フォーマッタには以下を定義することができます。 <ul style="list-style-type: none"> • java.text.SimpleDateFormat • java.text.MessageFormat • java.text.DecimalFormat • java.text.ChoiceFormat また、上記以外にもユーザ編集クラスを指定することができます。ユーザ編集クラスの作成方法については、「5.6.5 ユーザ編集クラスの作成方法」を参照してください。
<parse>	0回以上	-	抽出したデータを解析するための正規表現を指定します。指定した正規表現に一致した場合には、フォーマッタを呼び出します。複数の正規表現を記述した場合は、定義した順にデータを解析します。指定した正規表現に一致しない場合は、フォーマッタの呼び出しを行いません。データ解析を行わずにフォーマッタを呼び出す場合は定義しないでください。
<format>	0または1回	-	解析したデータを変換する文字列を指定します。指定する文字列の形式についてはフォーマッタの仕様を参照してください。
</data>	0回以上	-	終了タグです。
</definitions>	1回	-	終了タグです。

(凡例)

- : 該当しません。

注 1 hptl から始まるデータ型名は uCosminexus Portal Framework の予約語のため使用することはできません。

(b) サンプルのデータ型定義ファイル

サンプルのデータ型埋め込み定義ファイルを次に示します。サンプルでは、date1、date2、tel、time、string、place、および name の 7 種類のデータ型を定義しています。

サンプルのデータ型定義ファイル

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<definitions>
  <data type="date1">
    <formatter>java.text.SimpleDateFormat</formatter>
    <parse>yyyy/MM/dd</parse>
    <format>yyyy-MM-dd</format>
  </data>
  <data type="date2">
    <formatter>java.text.SimpleDateFormat</formatter>
    <parse>yyyy/MM/dd</parse>
    <format>yyyyMMdd</format>
  </data>
  <data type="tel">
  </data>
  <data type="time">
    <formatter>java.text.SimpleDateFormat</formatter>
    <parse>HHmmss</parse>
    <format>HH:mm:ss</format>
  </data>
  <data type="string">
  </data>
  <data type="place">
  </data>
  <data type="name">
  </data>
</definitions>
```

(2) 連携するデータの埋め込み定義

ポートレット上のコンテンツから、連携するサイトに送信するデータの抽出ルールを定義するデータ埋め込み定義ファイルを作成します。定義ファイルの格納場所およびファイル名は任意ですが、{設定ファイル格納ディレクトリ}に作成することを推奨します。また、データ埋め込み定義ファイルは「(3) ポートレットフィルタの定義」で説明するポートレットフィルタ定義ファイルの <filter> 要素ごとに作成することができ、<param-value> 要素に作成した定義ファイルのパスを指定します。

(a) データ埋め込み定義ファイルで使用するタグ一覧

タグの一覧を次の表に示します。

5. ポータル画面のカスタマイズ

表 5-27 データ埋め込み定義ファイルのタグ一覧

タグ名	タグの出現回数	属性の出現回数	説明
<dataPut>	1 回	-	データ埋め込み定義ファイルのルートタグです。
<trigger>	0 または 1 回	1 回	トリガーイベントについての定義です。 属性 event でトリガーイベントの種類を指定できます。 <ul style="list-style-type: none"> • RCLICK：右クリックをイベントのトリガーとします。 • 省略した場合は、RCLICK が適用されます。
<dataPutRange>	0 回以上	-	データ埋め込みについての定義です。
<url>	0 回以上	-	データ埋め込みを実施する URL パターンを指定します。複数定義した場合は、いずれかのパターンと一致した場合にデータ埋め込みを実施します。URL パターンが適用されるのは以下のポートレットの場合です。 <ul style="list-style-type: none"> • 日立 API ポートレット • File ポートレット
<dataRange>	0 回以上	0 または 1 回	データ埋め込みの実施範囲についての定義です。 属性 start ² にデータ埋め込み実施範囲の開始位置をキーワードで指定します。属性 start で指定したキーワード以降がデータ埋め込み実施範囲になります。省略した場合は、コンテンツの先頭がデータ埋め込み実施範囲の開始位置になります。 属性 end ² にデータ埋め込み実施範囲の終了位置をキーワードで指定します。属性 end で指定したキーワードまでがデータ埋め込み実施範囲になります。省略した場合は、コンテンツの最後がデータ埋め込み実施範囲の終了位置になります。
<triggerRange>	0 回以上	0 または 1 回	トリガーイベント検知範囲についての定義です。 ¹ 属性 start ² にトリガーイベント検知範囲の開始位置をキーワードで指定します。属性 start で指定したキーワード以降がトリガーイベント検知範囲になります。省略した場合は、データ埋め込み実施範囲の先頭がトリガーイベント検知範囲の開始位置になります。 属性 end ² にトリガーイベント検知範囲の終了位置をキーワードで指定します。属性 end で指定したキーワードまでがトリガーイベント検知範囲になります。省略した場合は、データ埋め込み実施範囲の最後がトリガーイベント検知範囲の終了位置になります。

タグ名	タグの出現回数	属性の出現回数	説明
<code><ruleWithTrigger></code>	0回以上	0または1回	トリガーイベント検知範囲を指定する場合のデータ抽出ルール定義。 属性 <code>type</code> に抽出したデータのデータ型を指定します。この属性は必ず指定してください。 属性 <code>regex</code> に抽出するデータの正規表現を指定します。 属性 <code>start</code> ² に抽出するデータの開始位置をキーワードで指定します。省略した場合は、トリガーイベント検知範囲の先頭が開始位置となります。属性 <code>regex</code> が指定されている場合は、この属性は使用されません。 属性 <code>end</code> ² に抽出するデータの終了位置をキーワードで指定します。省略した場合は、トリガーイベント検知範囲の最後が終了位置となります。属性 <code>regex</code> が指定されている場合は、この属性は使用されません。
<code><ruleNoTrigger></code>	0回以上	0または1回	トリガーイベント検知範囲を指定しない場合のデータ抽出ルール定義です。 ¹ 属性 <code>type</code> に抽出したデータのデータ型を指定します。この属性は必ず指定してください。 属性 <code>regex</code> に抽出するデータの正規表現を指定します。 属性 <code>start</code> ² に抽出するデータの開始位置をキーワードで指定します。省略した場合は、データ埋め込み実施範囲の先頭が開始位置となります。属性 <code>regex</code> が指定されている場合は、この属性は使用されません。 属性 <code>end</code> ² に抽出するデータの終了位置をキーワードで指定します。省略した場合は、データ埋め込み実施範囲の最後が終了位置となります。属性 <code>regex</code> が指定されている場合は、この属性は使用されません。
<code></dataPutRange></code>	0回以上	-	終了タグです。
<code></dataPut></code>	1回	-	終了タグです。

(凡例)

- : 該当しません。

注 1 `<triggerRange>` タグと `<ruleNoTrigger>` タグはどちらか片方のみ定義することができます。両方定義した場合は、`<triggerRange>` タグの定義が有効になります。

注 2 属性 `start` および属性 `end` を指定する場合は2文字以上設定してください。

5. ポータル画面のカスタマイズ

(b) サンプルのデータ埋め込み定義ファイル

サンプルのデータ埋め込み定義ファイルを次に示します。サンプルでは次の二つのデータ埋め込み実施範囲を定義しています。

データ埋め込み実施範囲 1

開始位置：<!--start1-->

終了位置：<!--end1-->

- トリガーイベント検知範囲

開始位置：<!--trigger-->

終了位置：<!--trigger-->

- データ

データ型：place

開始位置：<!--data-->

終了位置：<!--data-->

データ埋め込み実施範囲 2

開始位置：<!--start2-->

終了位置：<!--end2-->

- トリガーイベント検知範囲

なし（データ埋め込み実施範囲全体）

- データ

データ型：date1

正規表現：[0-9]{1,4}/[0-9]{1,4}/[0-9]{1,4}

サンプルのデータ埋め込み定義ファイル

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<dataPut>
  <trigger event="RCLICK"/>
  <dataPutRange>
    <dataRange start="&lt;!--start1--&gt;"
end="&lt;!--end1--&gt;">
      <triggerRange start="&lt;!--trigger--&gt;"
end="&lt;!--trigger--&gt;">
        <ruleWithTrigger type="place" start="&lt;!--data--&gt;"
end="&lt;!--data--&gt;">
          </ruleWithTrigger>
        </triggerRange>
      </dataRange>
    <dataRange start="&lt;!--start2--&gt;"
end="&lt;!--end2--&gt;">
      <ruleNoTrigger type="date1" regex="[0-9]{1,4}/[0-9]{1,4}/
[0-9]{1,4}">
        </ruleNoTrigger>
      </dataRange>
    </dataPutRange>
  </dataPut>
```

(3) ポートレットフィルタの定義

データ埋め込み定義を適用するポートレットを設定し、フィルタ機能を有効にします。

定義ファイルは、以下のファイルです。

{設定ファイル格納ディレクトリ}¥portlet_filter.xml

(a) ポートレットフィルタ定義ファイルで使用するタグ一覧

タグの一覧を次の表に示します。

表 5-28 ポートレットフィルタ定義ファイルのタグ一覧

タグ名	タグの出現回数	属性の出現回数	説明
<portlet-filter>	1 回	-	ポートレットフィルタ定義ファイルのルートタグです。
<filter>	0 回以上	-	ポートレットフィルタ定義情報の親タグです。
<filter-name>	1 回	-	ポートレットフィルタ名を指定します。
<filter-class>	1 回	-	ポートレットフィルタの実装クラスを指定します。スマートナビゲーション機能では以下のクラス名を指定してください。 jp.co.hitachi.soft.portal.portlet.filter.DataPutFilter
<init-param>	0 回以上	-	ポートレットフィルタのパラメタ（フィルタ固有の情報）についての定義です。
<param-name>	0 回以上	-	パラメタのプロパティ名を指定します。スマートナビゲーション機能では以下のプロパティ名を定義することができます。 <ul style="list-style-type: none"> conf_file データ埋め込み定義ファイルのパスを指定するプロパティです。 reload データ埋め込み定義ファイルを読み直すか指定するプロパティです。
<param-value>	0 回以上	-	パラメタのプロパティ値を指定します。<param-name> に指定したプロパティ名に対応する値を指定します。プロパティ値は、ポートレットフィルタ単位で決められます。ただし、「hptl」で始まる値は予約語のため指定できません。スマートナビゲーション機能では以下のプロパティ値を指定することができます。 <ul style="list-style-type: none"> conf_file データ埋め込み定義ファイルのパスを指定します。 reload データ埋め込み定義ファイルを読み直すか指定します。ポータル画面表示ごとに定義ファイルを読み直す場合は true を指定します。通常運用時は false を指定してください。

5. ポータル画面のカスタマイズ

タグ名	タグの出現回数	属性の出現回数	説明
<code></init-param></code>	0回以上	-	終了タグです。
<code></filter></code>	0回以上	-	終了タグです。
<code><filter-mapping></code>	0回以上	-	ポートレットフィルタ定義情報の親タグです。
<code><filter-name></code>	1回以上	-	フィルタ名を指定します。複数指定することで、ポートレットに対して複数のフィルタを適用することができます。
<code><portlet-name></code>	1回	-	フィルタを適用するポートレット名を指定します。標準 API ポートレットの場合は、ポートレット GUID を指定します。
<code></filter-mapping></code>	0回以上	-	終了タグです。
<code></portlet-app></code>	1回	-	終了タグです。

(凡例)

- : 該当しません。

(b) サンプルのポートレットフィルタ定義ファイル

サンプルのポートレットフィルタ定義ファイルを次に示します。サンプルでは、Sample1 ポートレットにフィルタを定義しています。

サンプルのポートレットフィルタ定義ファイル

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<portlet-filter>
  <filter>
    <filter-name>SampleFilter</filter-name>

    <filter-class>jp.co.hitachi.soft.portal.portlet.filter.DataPutFilter</filter-class>
    <init-param>
      <param-name>conf_file</param-name>
      <param-value>C:/Program Files/Hitachi/CosmiPortal/conf/data_mount.xml</param-value>
    </init-param>
    <init-param>
      <param-name>reload</param-name>
      <param-value>>false</param-value>
    </init-param>
  </filter>

  <filter-mapping>
    <filter-name>SampleFilter</filter-name>
    <portlet-name>Sample1</portlet-name>
  </filter-mapping>
</portlet-filter>
```

(4) WebAPI 定義

連携するサイトにアクセスするためのシナリオを定義します。定義ファイルは以下のファイルです。

{設定ファイル格納ディレクトリ}¥webapi.xml

(a) WebAPI 定義ファイルで使用するタグ一覧

タグの一覧を次の表に示します。

表 5-29 WebAPI 定義ファイルのタグ一覧

タグ名	タグの出現回数	属性の出現回数	説明
<webapis>	1 回	-	WebAPI 定義ファイルのルートタグです。
<setting_menu_titles>	1 回	0 または 1 回	スマートナビゲーションの入力情報設定メニューの表示名の定義です。属性 icon にメニューに表示するアイコンを指定することができます。アイコンは、{PROJECT_HOME} からのパスを記述してください。
<setting_menu_title>	1 回以上	1 回	メニューに表示する文字列を指定します。属性 lang に設定メニューの表示文字列の言語を指定します。属性 value に属性 lang で指定した言語の表示名を指定します。スマートナビゲーションメニューに表示されるため文字数の多い表示名を指定するとメニュー幅が広がるため注意してください。
</setting_menu_titles>	1 回	-	終了タグです。
<webapi>	1 回以上	1 回	WebAPI 定義のタグ。メニュー単位に作成します。属性 id に WebAPI の ID を指定します。ID は半角英数字 64 文字以内で WebAPI 定義ファイル内で一意な値を指定してください。 ¹
<titles>	1 回	0 または 1 回	メニューに表示するタイトルの定義です。属性 icon にメニューに表示するアイコンを指定することができます。アイコンは、{PROJECT_HOME} からのパスを記述してください。指定したパスにアイコンが存在しない場合は、メニューが正しく表示されなくなる場合があります。

5. ポータル画面のカスタマイズ

タグ名	タグの出現回数	属性の出現回数	説明
<title>	1回以上	1回	メニューに表示する言語別タイトルを指定します。 属性 lang にメニュータイトルの言語を指定します。 属性 value に属性 lang で指定した言語のタイトルを指定します。スマートナビゲーションメニューに表示されるため文字数の多いタイトルを指定するとメニュー幅が広がるため注意してください。
</titles>	1回	-	終了タグです。
<user_permission>	0または1回	1回	メニューの表示制御を行うクラスの定義です。 属性 className に呼び出すクラス名を指定してください。 メニューの表示制御を行うクラスの作成方法については、「5.6.5 ユーザ編集クラスの作成方法」を参照してください。
<webapi_parameters>	1回	-	シナリオ実行時に使用するデータ格納変数定義のルートタグです。
<webapi_parameter>	1回以上	1回	シナリオ実行時に使用するデータ格納変数の定義です。 属性 name に変数名を指定してください。変数名には、半角英数字および '_' (アンダーバー) を使用することができます。 ¹ 属性 data_type には変数に格納するデータ型を指定します。
</webapi_parameters>	1回	-	終了タグです。
<uoc_parameters>	0または1回	-	シナリオ実行時に呼び出すクラス定義のルートタグです。
<uoc_parameter>	1回以上	-	シナリオ実行時に呼び出すユーザ編集クラスを指定します。 属性 name に呼び出したユーザ編集クラスの返却値を格納するデータ格納変数の変数名を指定してください。変数名には、半角英数字および '_' (アンダーバー) を使用することができます。 ¹ 属性 className に呼び出すユーザ編集クラスのクラス名を指定してください。 属性 methodName に呼び出すユーザ編集クラスのメソッド名を指定してください。 属性 argDataNames にメソッドに渡す引数指定します。複数指定する場合は、コンマ(,)区切りで指定してください。データ格納変数、予約変数および文字列を指定することができます。データ格納変数は <webapi_parameter> タグで定義してください。

タグ名	タグの出現回数	属性の出現回数	説明
</uoc_parameters>	0 または 1 回	-	終了タグです。
<scenario>	1 回	-	シナリオ定義のルートタグです。
<new_window/>	0 または 1 回	0 または 1 回	メニューを選択した時に新しいウィンドウを開く場合に定義するタグです。属性 name には新しく開くウィンドウのウィンドウ名を指定します。省略した場合は, "_blank" が指定された時と同じ動作をします。属性 option には新しく開くウィンドウのスタイルを指定します。
<request>	1 回以上, 20 回以下	0 または 1 回	送信するリクエストの定義です。属性 encode に送信するリクエストを URL エンコードする際の文字コードを指定します。以下のエンコードを指定することができます。 <ul style="list-style-type: none"> • UTF-8 • Shift-JIS • EUC-JP • JIS 省略した場合および上記以外が指定された場合は UTF-8 が適用されます。
<uri>	1 回	1 回	リクエストを送信する URL の定義です。属性 base_path に URL の先頭部分またはすべての部分を指定します。子要素の path が指定されている場合は, 本属性の末尾に path で指定した文字列が付加されます。
<path>	0 回以上	1 回	リクエストを送信する URL に付加する文字列を指定します。属性 segment に URL の末尾に付加する文字列を指定します。このタグを複数定義した場合は, 定義した順に URL に付加します。
</uri>		-	終了タグです。
<method>	0 または 1 回	1 回	送信するリクエストのメソッドを指定します。属性 type にメソッドを指定します。以下のメソッドが指定できます。 <ul style="list-style-type: none"> • GET • POST タグを省略した場合および上記以外の文字列が指定された場合は GET が適用されます。
<request_parameters>	0 または 1 回	-	送信するリクエストのパラメタ定義です。
<user_input_titles>	0 または 1 回	-	パラメタ入力画面に表示するタイトルの定義です。

5. ポータル画面のカスタマイズ

タグ名	タグの出現回数	属性の出現回数	説明
<code><user_input_title></code>	1回以上	1回	パラメタ入力画面に表示する言語別タイトルを指定します。 属性 lang にタイトルの言語を指定します。 属性 value に属性 lang で指定した言語のタイトルを指定します。
<code></user_input_titles></code>	0または1回	-	終了タグです。
<code><user_input_parameters></code>	0または1回	-	ユーザが入力するリクエストパラメタの定義です。
<code><user_input_parameter></code>	1回以上	0または1回	ユーザが入力するリクエストパラメタを指定します。 属性 title に入力項目名を指定します。 属性 name にリクエストパラメタ名を指定します。 ¹ 属性 value に入力項目のデフォルト値を設定します。 属性 type に入力項目のタイプを指定します。 以下のタイプを指定することができます。 <ul style="list-style-type: none"> • text • password 省略した場合および上記以外の文字列が指定された場合は text を適用します。
<code></user_input_parameters></code>	0または1回	-	終了タグです。
<code><ordinary_parameters></code>	0または1回	-	送信するリクエストパラメタの定義です。
<code><ordinary_parameter></code>	1回以上	1回	送信するリクエストパラメタの定義です。 属性 name にリクエストパラメタ名を指定します。 ¹ 属性 value にパラメタ値を指定します。データ格納変数および文字列を指定することができます。データ格納変数は <code><webapi_parameter></code> タグで定義してください。
<code></ordinary_parameters></code>	0または1回	-	終了タグです。
<code><response_checks></code>	0または1回	-	レスポンスチェックの定義です。 送信したリクエストに対するレスポンスのチェックを行う場合に定義します。

タグ名	タグの出現回数	属性の出現回数	説明
<response_check>	1回以上	1回	レスポンスチェックの定義です。 属性 ng_key_word にレスポンスに含まれていたらエラーとするキーワードを指定します。 意図しないキーワードをエラーとしないため、2文字以上の文字列を指定してください。 属性 error_message にレスポンスにエラーとするキーワードが含まれている場合にエラー画面に表示するメッセージを指定します。
</response_checks>	0または1回	-	終了タグです。
</request>	1回以上, 20回以下	-	終了タグです。
</scenario>	1回	-	終了タグです。
</webapi>	1回以上	-	終了タグです。
<webapis>	1回	-	終了タグです。

(凡例)

- : 該当しません。

注 1 hptl から始まる ID, 変数およびリクエストパラメータ名は uCosminexus Portal Framework の予約語のため使用することはできません。

(b) サンプルの WebAPI 定義ファイル

サンプルの WebAPI 定義ファイルを次に示します。サンプルでは、旅費を清算するメニューの定義をしています。

サンプルの WebAPI 定義ファイル

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<webapis>
  <setting_menu_titles icon="images/ico_setting.gif">
    <setting_menu_title lang="ja" value="設定情報変更" />
  </setting_menu_titles>
  <webapi id="ryohiohi01">
    <titles>
      <title lang="ja" value="旅費を清算する" />
    </titles>
    <webapi_parameters>
      <webapi_parameter name="s" data_type="place" />
      <webapi_parameter name="d" data_type="date1" />
    </webapi_parameters>
    <scenario>
      <new_window />
    <request encode="UTF-8">
```

5. ポータル画面のカスタマイズ

```
<uri base_path="http://ryohi.co.jp/" >
  <path segment="ryohi" />
</uri>
<method type="POST" />
<request_parameters>
  <ordinary_parameters>
    <ordinary_parameter name="date" value="$d" />
    <ordinary_parameter name="to" value="$s" />
    <ordinary_parameter name="ln" value="ja" />
  </ordinary_parameters>
</request_parameters>
</request>
</scenario>
</webapi>
</webapis>
```

5.6.5 ユーザ編集クラスの作成方法

スマートナビゲーションで使用するユーザ編集クラスの作成方法について説明します。

(1) ユーザ編集クラスの種類

スマートナビゲーションでは以下の定義でユーザが作成したクラスを使用することができます。

データ型定義

抽出したデータを正規化するクラス

WebAPI 定義

メニューの表示制御を行うクラス

シナリオ実行時にデータを加工するクラス

(2) ユーザ編集クラスの作成方法

ユーザ編集クラスの作成方法を次に示します。

(a) 抽出したデータを正規化するクラス

抽出したデータを正規化するクラスはデータ型定義で使用します。抽出したデータ型を正規化するクラスは `java.text.Format` クラスを継承して作成してください。この場合、`String` 型を引数にとるコンストラクタを必ず作成してください。`String` 型を引数にとるコンストラクタには以下の値を渡します。

解析したデータを変換するための文字列

(b) メニューの表示制御を行うクラス

メニューの表示制御を行うクラスは WebAPI 定義で使用します。メニューの表示制御を行うクラスは `uCosminexus Portal Framework` が提供する `MenuPermission` クラスを継承して作成してください。`MenuPermission` クラスの詳細は「(4) ユーザ編集クラスで使用するライブラリ」を参照してください。

(c) シナリオ実行時にデータを加工するクラス

シナリオ実行時にデータを加工するクラスは WebAPI 定義で使します。シナリオ実行時にデータを加工するクラスは特にクラスやインタフェースを継承する必要はありませんが、作成するメソッドの引数は String 型の配列として、戻り値のデータ型は String 型としてください。

また、本クラスはシステムで一度だけインスタンス化されます。複数リクエストから同時にアクセスがあっても問題ないようにスレッドセーフな作りをしてください。

(3) ユーザ編集クラスの格納

作成したユーザ編集クラスはポータルプロジェクトが動作する Web アプリケーションから呼び出し可能な場所に格納してください。例えば、ユーザ編集クラス (user.class) は次の場所に格納します。

```
{PROJECT_HOME}¥WEB-INF¥classes¥user.class
```

(4) ユーザ編集クラスで使用するライブラリ

ユーザ編集クラスで使用するクラスライブラリの一覧を次の表に示します。

表 5-30 ユーザ編集クラスで使用するクラスライブラリ

クラス名	説明
jp.co.hitachi.soft.portal.api.smartnavigation.menu.MenuPermission	メニューの表示制御を行うクラスを作成するためのインタフェースクラスです。

(a) jp.co.hitachi.soft.portal.api.smartnavigation.menu.MenuPermission

機能

スマートナビゲーションメニューの表示制御を行うユーザ編集クラスを作成するためのインタフェースクラスです。

表 5-31 メソッドの一覧

戻り値のデータ型	メソッド	説明
Boolean	checkPermission(javax.servlet.http.HttpServletRequest request)	ユーザにメニューを表示するか判定します。

メソッドの説明

checkPermission

形式

```
boolean checkPermission(
    javax.servlet.http.HttpServletRequest request)
```

機能

5. ポータル画面のカスタマイズ

ユーザにメニューを表示するか判定します。

パラメタ

request - リクエストオブジェクト

戻り値

ユーザにメニューを表示する場合は, true を返却します。

例外

なし。

(5) ユーザ編集クラスのインスタンス生成タイミング

ユーザ編集クラスのインスタンスを生成するタイミングを次に示します。

抽出したデータを正規化するクラス

スマートナビゲーションを利用するポートレットを初めて表示したとき

メニューの表示制御を行うクラス

スマートナビゲーションを利用するポートレットを表示したとき

シナリオ実行時にデータを加工するクラス

スマートナビゲーションのメニューをクリックしたとき

6

ポータル機能のカスタマイズ

この章では、uCosminexus Portal Framework の基本機能のカスタマイズや、認証方法のカスタマイズについて説明します。ポータルのデフォルトの設定を変更したい場合にお読みください。

-
- 6.1 カスタマイズできる項目
 - 6.2 デフォルトエンコーディングの設定
 - 6.3 スtringリソースのカスタマイズ
 - 6.4 クライアント種別判定の設定
 - 6.5 カスタムログインモジュールの設定
 - 6.6 uCosminexus Secure Unify - SSO 連携の設定
 - 6.7 SiteMinder 連携の設定
 - 6.8 SSL アクセラレーターまたはリバースプロキシ使用時の設定
 - 6.9 性能チューニングと障害監視
 - 6.10 DB を使用するポートレットのための DB チューニング
 - 6.11 設定ファイル格納ディレクトリの指定方法の変更
-

6.1 カスタマイズできる項目

構築したポータル機能をカスタマイズできます。カスタマイズできる項目を次の表に示します。なお、表中の「節の番号」欄は、詳細が記載されている節の番号に対応しています。

表 6-1 ポータルのカスタマイズ項目の一覧

節の番号	項目	カスタマイズできる内容
6.2	デフォルトエンコーディングの設定	ポートレットや各種設定ファイルなどのデフォルトエンコーディングを設定できます。
6.3	ストリングリソースのカスタマイズ	ストリングリソース（ポータル画面に表示する文字列を言語別にまとめたリソース）をカスタマイズできます。
6.4	クライアント種別判定の設定	ログイン時にクライアント種別（デバイスの種別）の判定方法を設定できます。
6.5	カスタムログインモジュールの設定	ユーザ ID とパスワード以外のディレクトリサーバ上の属性を使用して認証するように設定できます。
6.6	uCosminexus Secure Unify - SSO 連携の設定	uCosminexus Secure Unify - SSO と連携してログイン時のユーザ認証を行うように設定できます。
6.7	SiteMinder 連携の設定	SiteMinder と連携してログイン時のユーザ認証を行うように設定できます。
6.8	SSL アクセラレーターまたはリバースプロキシ使用時の設定	SSL アクセラレーターやリバースプロキシを使用した環境で uCosminexus Portal Framework を使用するよう設定できます。
6.9	性能チューニングと障害監視	ポートレットに表示されるコンテンツの並列表示と、並列表示で使用するスレッド数を設定できます。また、コンテンツが正しく表示されるかを監視する障害監視について設定できます。
6.10	DB を使用するポートレットのための DB チューニング	DB に格納されている情報を使用して動作する日立 API ポートレットのために、DB を設定できます。
6.11	設定ファイル格納ディレクトリの指定方法の変更	設定ファイル格納ディレクトリを Java システムプロパティで指定することができます。

6.2 デフォルトエンコーディングの設定

デフォルトエンコーディングの設定として、次に示すファイルのデフォルトエンコーディングが指定できます。

- File ポートレット
- ポートレット配置情報ファイル (PSML ファイル)
- ポートレット定義ファイル (jetspeed-config.jcfg)
- リポジトリファイル (Repository.xml)
- マッピング定義ファイル
- クライアント情報定義ファイル (UserAgentType.xml)
- フォーム認証定義ファイル (formbase-auth.cfg)
- コントロール定義ファイル (controllers.xml)

初期設定では、Shift_JIS または UTF-8 が指定されていますが、デフォルトエンコーディングを指定しない場合は、常に UTF-8 で読み込まれます。また、エンコーディングはファイルが xml 形式の場合はファイル単位で指定できます。指定方法は、xml 宣言文の encoding 属性にエンコーディングを入力します。

```
<?xml version="1.0" encoding="Shift_JIS"?>
```

ただし、File ポートレットは、xml 形式のファイルではないためデフォルトエンコーディングで指定した文字コードしか使えないため、個別にエンコーディングを指定することはできません。デフォルトエンコーディングの設定方法については、「6.2.1 デフォルトエンコーディングの設定方法」を参照してください。

なお、日立 API ポートレットは、page ディレクティブの charset パラメタでエンコーディングを個別に指定できます。日立 API ポートレットのエンコーディングの設定方法については、マニュアル「uCosminexus Portal Framework ポートレット開発ガイド」を参照してください。

! 注意事項

使用するエンコーディングの文字セットに含まれない文字は使用できません。
ユーザの環境による文字化けを防ぐために、次に推奨するエンコーディングでコンテンツを作成してください。

- マルチデバイス環境（PC，i モード，または EZweb）の場合
Shift_JIS を推奨します。
- PC 環境でだけ使用する場合
UTF-8 を推奨します。

Shift_JIS では表現できないコンテンツ（JISX0201 ラテン，JISX0201 カナおよび JISX0208 の定義済み文字以外を使用する場合）を作成する場合には、プライベートエリアを含まない Unicode の範囲を使用して、UTF-8 での記述を推奨します。

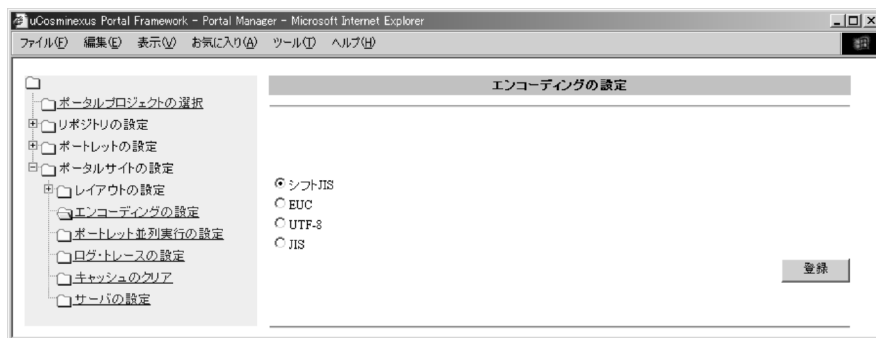
6.2.1 デフォルトエンコーディングの設定方法

ポータル全体のデフォルトエンコーディングを設定する場合は、Portal Manager を使用します。なお、Portal Manager の起動方法については、「2.4.1 Portal Manager の起動方法」を参照してください。

デフォルトエンコーディングの設定方法を次に示します。

1. Portal Manager のメニュー部から [ポータルサイトの設定] - [エンコーディングの設定] を選択します。
次の画面が表示されます。

図 6-1 [エンコーディングの設定] 画面



2. デフォルトエンコーディングを指定します。
設定したいエンコーディング名を選択します。設定できるエンコーディングは次のとおりです。
- シフト JIS
 - EUC
 - UTF-8
 - JIS

3. [登録] ボタンをクリックします。
デフォルトエンコーディングが登録されます。

6.3 スtringリソースのカスタマイズ

uCosminexus Portal Framework では、言語の切り替え機能のために日本語と英語の Stringリソース（ポータル画面に表示する文字列を言語別にまとめたリソース）を提供しています。サポートする言語を追加して、Stringリソースを追加することで、日本語と英語以外の言語の切り替えができるようになります。また、Stringリソースの文字列を変更することで画面に表示するメッセージを変更することもできます。

ここでは、Stringリソースをカスタマイズするために必要な情報について説明します。

6.3.1 Stringリソースの作成

Stringリソースファイルを追加または変更するために必要な情報について説明します。

(1) Stringリソースファイルの格納先

uCosminexus Portal Framework が提供しているStringリソースファイルは、次のディレクトリに格納されています。

格納ディレクトリ

```
{PROJECT_HOME}/WEB-INF/classes
```

標準で日本語用と英語用のStringリソースファイルが提供されています。これらのファイルを編集して、画面に表示される文字列を変更します。また、日本語および英語以外の言語のStringリソースを新しく作成した場合は、Stringリソースファイル名の規則に従った名称を付けて、このディレクトリに格納します。

Stringリソースファイル名の規則については、「(2) Stringリソースファイルの名称」を参照してください。

(2) Stringリソースファイルの名称

Stringリソースは、リソース単位および言語単位にファイルを作成します。uCosminexus Portal Framework ではリソースを識別するためにアプリケーションキーを設定しています。アプリケーションキーはStringリソースを区別するためのキーです。Stringリソースファイルの名称は次の規則に従っています。

```
{アプリケーションキー名称}_{言語コード}[_{国コード}[_{バリエーション}]]  
.properties
```

なお、アプリケーションキーは各種機能やポートレットで任意に作成できますが、hptl から始まるキーは uCosminexus Portal Framework の予約語とします。

uCosminexus Portal Framework が予約するアプリケーションキーを次の表に示します。

表 6-2 uCosminexus Portal Framework が予約するアプリケーションキー

アプリケーションキー	対応する内容
hptl_customizer	管理者用レイアウトカスタマイズ画面, 利用者用レイアウトカスタマイズ画面
hptl_common	[ログイン] 画面, [パスワード変更] 画面, 各種エラー画面, 各種テンプレート
hptl_operator	運用管理ポータル画面
hptl_resources	ウィンドウ名称など各国語共通のリソースを設定する。

ストリングリソースファイルの名称の例を次に示します。

レイアウトカスタマイズ画面（アプリケーションキー：hptl_customizer）のストリングリソースファイルの場合

- hptl_customizer_ja.properties：日本語用
- hptl_customizer_en.properties：英語用
- hptl_customizer_zh_hk.properties：中国語（香港）用

（3）ストリングリソースファイルの作成

ストリングリソースファイルは、プロパティ形式（キー＝値の形式）で記述します。各国語で対応するストリングリソースのメッセージキーは、各国語のストリングリソースファイルで同じにする必要があります。

ファイルは ISO-8859-1 文字エンコーディングで記述する必要があります。Unicode コード（¥dddd 表記）のファイルは、Cosminexus Developer's Kit for Java™ に付属の native2ascii ツールによって、Shift_JIS や EUC コードなどのネイティブコードから変換して、作成することができます。

ストリングリソースファイルの記述例を次に示します。

記述例

hptl_customizer_ja.properties（日本語用）

MESSAGE1=パスを入力してください。

MESSAGE2=パスが変更されました。

：

hptl_customizer_en.properties（英語用）

MESSAGE1= Input the path.

MESSAGE2= The path was changed.

：

（4）レイアウトカスタマイズ画面の設定

日本語、英語以外のストリングリソースを追加する場合、レイアウトカスタマイズ画面の [使用言語] ドロップダウンリストに表示される文字列を設定できます。設定しない場合は、言語種別（{言語コード}[-{国コード}[-{バリエーション}]]）がそのまま表示さ

6. ポータル機能のカスタマイズ

れます。

[使用言語] ドロップダウンリストに表示される文字列を設定するには、レイアウトカスタマイズ画面 (アプリケーションキー: hptl_customizer) の各ストリングリソースファイルに、次の記述を追加します。

```
UL_LANG_TITLE_{言語コード}[-{国コード}[-{バリエント}]]={表示したい文字列}
CE_LANG_TITLE_{言語コード}[-{国コード}[-{バリエント}]]={表示したい文字列}
```

例えば、日本語、英語に加え、中国語 (zh-CN) のストリングリソースを追加した場合は、hptl_customizer_ja.properties および hptl_customizer_en.properties に、次のように記述を追加します。

記述例

hptl_customizer_ja.properties に追加する記述

```
UL_LANG_TITLE_zh-CN=中国語
CE_LANG_TITLE_zh-CN=中国語
```

hptl_customizer_en.properties に追加する記述

```
UL_LANG_TITLE_zh-CN=Chinese
CE_LANG_TITLE_zh-CN=Chinese
```

6.3.2 サポート言語の追加

日本語、英語以外の言語のストリングリソースを uCosminexus Portal Framework で使用できるようにするには、サポート言語を追加する必要があります。サポート言語は、プロパティファイル (PortalResources.properties) の jp.co.hitachi.soft.portal.i18n.supports プロパティで設定します。詳細は、「10.1.1 PortalResources.properties の詳細」を参照してください。

6.3.3 言語の優先順位

ポータル画面に表示される文字列の言語は、ポータル利用者が、レイアウトカスタマイズ画面や Web ブラウザの言語設定で設定できます。uCosminexus Portal Framework は、ポータル利用者が設定した言語とストリングリソースのファイル名を比較し、どのストリングリソースを使用するかを決定します。使用するストリングリソースを決定する際は、次の条件を上から順に評価します。

1. 言語コード、国コード、およびバリエントが一致している。
2. 言語コードおよび国コードが一致している。
3. 言語コードが一致している。

なお、言語コード、国コード、およびバリエントがすべて一致しない場合、デフォルト言語 に対応するストリングリソースを使用します。

注 プロパティファイル (PortalResources.properties) の

jp.co.hitachi.soft.portal.i18n.default プロパティで設定されている言語です。

6.4 クライアント種別判定の設定

uCosminexus Portal Framework は、PC および携帯電話からアクセスできます。各クライアントからアクセスする場合、ログインの際にクライアント種別を判定して、クライアントごとに表示するファイルを切り替えることができ、ポータルに表示する内容を変更できます。表示するファイルの切り替えについては、マニュアル「uCosminexus Portal Framework ポータル開発ガイド」を参照してください。

6.4.1 クライアントの判定方法の流れ

uCosminexus Portal Framework は、クライアント情報定義ファイル (UserAgentType.xml) を使用して、クライアント種別を判定します。クライアント種別には次の 3 種類があります。

HTML

PC ブラウザ用のクライアント種別です。

CHTML

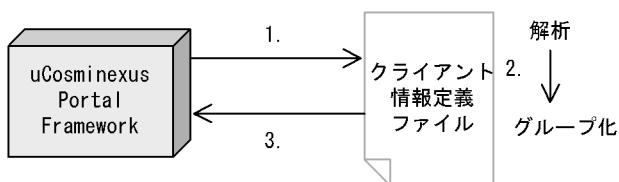
i モード用のクライアント種別です。

HDML

EZWeb 用のクライアント種別です。

クライアントの判定方法の流れを次の図に示します。

図 6-2 クライアントの判定方法の流れ



1. uCosminexus Portal Framework は、判定に HTTP リクエストヘッダー内の UserAgent パラメタを使用します。
2. UserAgent パラメタの文字列を解析してグループ化します。
3. uCosminexus Portal Framework に決定した種別を戻します。

グループ化とは

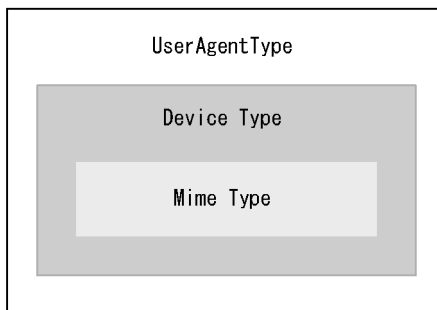
クライアント情報定義ファイル (UserAgentType.xml) では UserAgentType, DeviceType, MimeType という三つのグループの概念を使用します。これらのグループは、クライアントを一定の法則で分けたものです。グループの種類と設定する値を次の表に示します。

表 6-3 グループの種類と設定する値

グループの種類	グループ化の単位
UserAgentType	ユーザが任意に定義できます。
DeviceType	クライアント端末が識別するマークアップ言語の単位でグループ化します。
MimeType	ポータルサーバがクライアントに返却する MIME タイプでグループ化します。

三つのグループの包含関係を次の図に示します。

図 6-3 三つのグループの包含関係



6.4.2 クライアント情報定義ファイルの設定

アクセスしてくるクライアントをどのクライアント種別に割り当てるかを、クライアント情報定義ファイル (UserAgentType.xml) に設定します。

UserAgentType.xml ファイルは {設定ファイル格納ディレクトリ} に格納されています。デフォルトの格納ディレクトリは次のとおりです。

格納ディレクトリ

```
{uCosminexus Portal Framework インストールディレクトリ }¥conf
```

クライアント情報定義ファイルは XML 形式で記述します。クライアント情報定義ファイルのフォーマットについては、「10.2.3 クライアント情報定義ファイル (UserAgentType.xml)」を参照してください。

クライアント情報定義ファイル (UserAgentType.xml) の例を次に示します。次の例では HTML と CHTML に適用する条件をそれぞれ設定しています。

```
<?xml version="1.0" encoding="Shift_JIS" ?>
  <UserAgent-Definition>
    <UserAgentType-Definition>
      <default>
        <devicetype>HTML</devicetype>
        <useragenttype>default</useragenttype>
      </default>
    </UserAgentType-Definition>
  </UserAgent-Definition>
```

6. ポータル機能のカスタマイズ

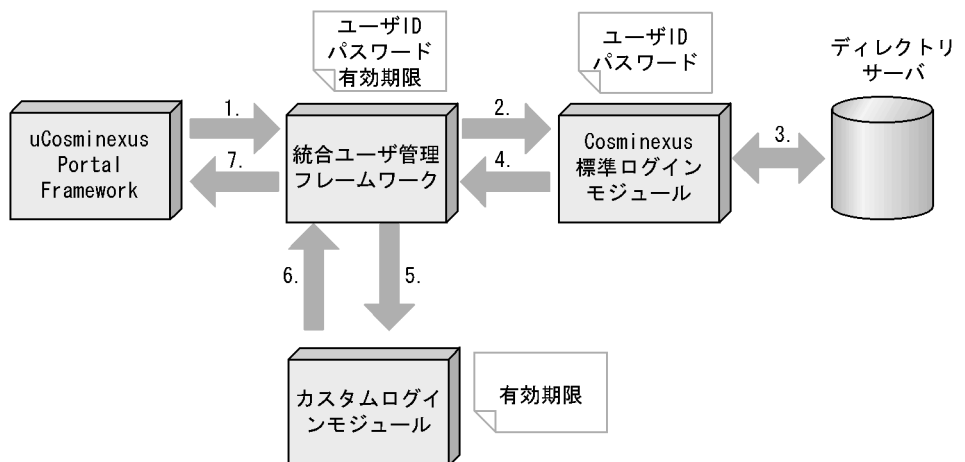
```
        <matchingpattern>.*</matchingpattern>
        <URLRewritingDisabled>true</URLRewritingDisabled>
</default>
<useragent-register>
    <devicetype>HTML</devicetype>
    <useragenttype>PCBrowser</useragenttype>
    <matchingpattern>msie.*</matchingpattern>
    <URLRewritingDisabled>true</URLRewritingDisabled>
</useragent-register>
<useragent-register>
    <devicetype>CHTML</devicetype>
    <useragenttype>generic-i-mode</useragenttype>
    <matchingpattern>DoCoMo.*</matchingpattern>
    <URLRewritingDisabled>>false</URLRewritingDisabled>
</useragent-register>
</UserAgentType-Definition >
<MimeType-Definition >
    <mimetype-register ID="HTML">
        <mimetype>text/html</mimetype>
    </mimetype-register>
    <mimetype-register ID="CHTML">
        <mimetype>text/html</mimetype>
    </mimetype-register>
</MimeType-Definition >
</UserAgent-Definition >
```

6.5 カスタムログインモジュールの設定

uCosminexus Portal Framework は、Cosminexus 標準ログインモジュールを使用してユーザ ID とパスワードで認証しています。ユーザ ID とパスワード以外の情報を使用して認証するには、カスタムログインモジュールを使用します。カスタムログインモジュールとは、ユーザが独自の認証処理を記述したログインモジュールです。カスタムログインモジュールの作成方法については、マニュアル「Cosminexus アプリケーションサーバ V8 機能解説 拡張編」、またはマニュアル「Cosminexus V9 アプリケーションサーバ 機能解説 拡張編」を参照してください。

Cosminexus 標準ログインモジュールと連携してユーザ認証する方法について、パスワードの有効期限をチェックするためのカスタムログインモジュールを使用する場合の例を次の図に示します。

図 6-4 ユーザ認証の例



ユーザの認証は 1 から 7 の順で行われます。

1. uCosminexus Portal Framework は、認証に必要な情報を統合ユーザ管理フレームワークに渡して、認証を依頼します。
2. 統合ユーザ管理フレームワークは、Cosminexus 標準ログインモジュールに、ユーザ ID、パスワード、およびパスワード有効期限の値を取得するように依頼します。
3. Cosminexus 標準ログインモジュールはディレクトリサーバから認証に必要な情報を取得して、ユーザ ID とパスワードをチェックします。
4. Cosminexus 標準ログインモジュールは、ユーザ ID とパスワードのチェックの結果、およびパスワード有効期限の情報を統合ユーザ管理フレームワークに戻します。
5. 統合ユーザ管理フレームワークは、パスワード有効期限の情報をカスタムログインモジュールに渡します。
6. カスタムログインモジュールはパスワード有効期限のチェックをして、結果を統合

6. ポータル機能のカスタマイズ

ユーザ管理フレームワークに戻します。

7. 統合ユーザ管理フレームワークは、認証結果をまとめて uCosminexus Portal Framework に戻します。

6.6 uCosminexus Secure Unify - SSO 連携の設定

uCosminexus Secure Unify - SSO は、SAML によるシングルサインオンと Web アクセス制御を実現する製品です。uCosminexus Portal Framework は、uCosminexus Secure Unify - SSO と連携してログイン時のユーザ認証を行うモジュールを提供しています。

ここでは、uCosminexus Secure Unify - SSO を利用する場合の処理概要、ユーザ認証に uCosminexus Secure Unify - SSO を使用しない場合と uCosminexus Secure Unify - SSO を利用する場合の機能差異、uCosminexus Secure Unify - SSO 利用時にポータルで取得するリクエスト属性の情報、uCosminexus Secure Unify - SSO を利用するために uCosminexus Portal Framework で提供するファイル、および uCosminexus Secure Unify - SSO 連携時の設定方法について説明します。

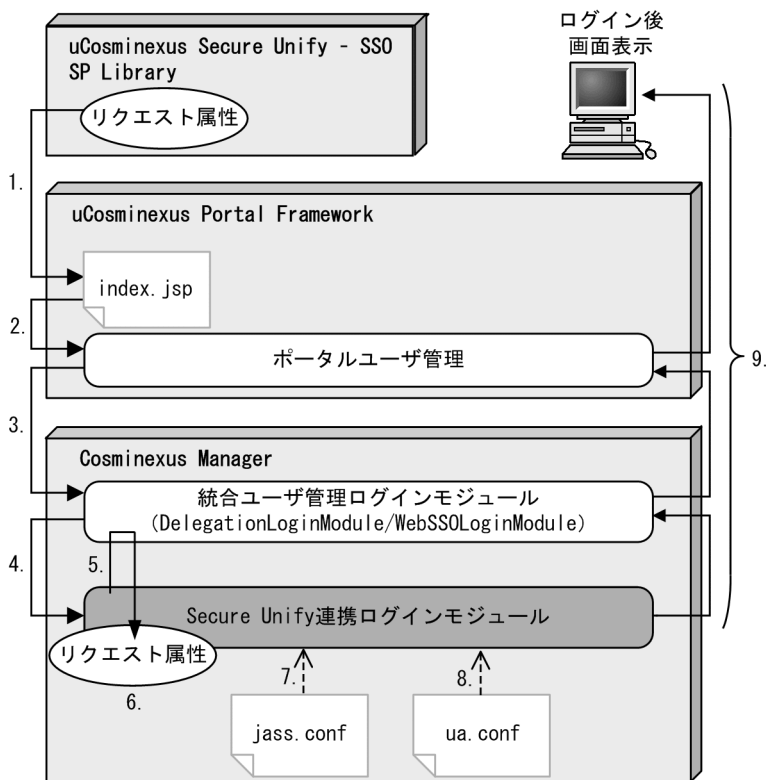
6.6.1 uCosminexus Secure Unify - SSO 連携時の処理概要

uCosminexus Secure Unify - SSO 連携時のログイン時の処理、およびログアウト時の処理について説明します。

(1) uCosminexus Secure Unify - SSO 連携時のログイン処理

uCosminexus Secure Unify - SSO 連携時は、uCosminexus Secure Unify - SSO の認証情報およびユーザ情報を使用してポータルにログインします。uCosminexus Portal Framework では、リクエスト属性からユーザ情報を取得するカスタムログインモジュール（以降、uCosminexus Secure Unify - SSO 連携モジュールと呼びます）を提供しています。処理の流れを次の図に示します。

図 6-5 uCosminexus Secure Unify - SSO 連携時のログイン時の処理



(凡例)

→ : 処理の流れ

--> : Secure Unify連携モジュールの設定

図の説明

1. uCosminexus Secure Unify - SSO でユーザ認証後、uCosminexus Portal Framework の index.jsp が指定されます。このとき、リクエスト属性が渡されます。
2. index.jsp から、ポータルユーザ管理のログイン処理のアクション (PLoginUser アクション) にフォワードします。ポータルユーザ管理とは、uCosminexus Portal Framework のユーザ管理機能のことです。ログイン情報やパーソナライズ情報を管理しています。
3. [ログイン] 画面を表示しないで、直接ログイン処理が実行されます。
4. 統合ユーザ管理の DelegationModule または WebSSOLoginModule から uCosminexus Secure Unify - SSO 連携モジュールを呼び出します。
5. 統合ユーザ管理の WebPasswordCallback からリクエストを取り出します。
6. 取り出したリクエストからリクエスト属性情報を解析します。
7. JAAS コンフィグレーションファイル (jaas.conf) のパラメタで指定されたログインユーザ ID を表すリクエスト属性が見つければログイン成功とみなし、ユー

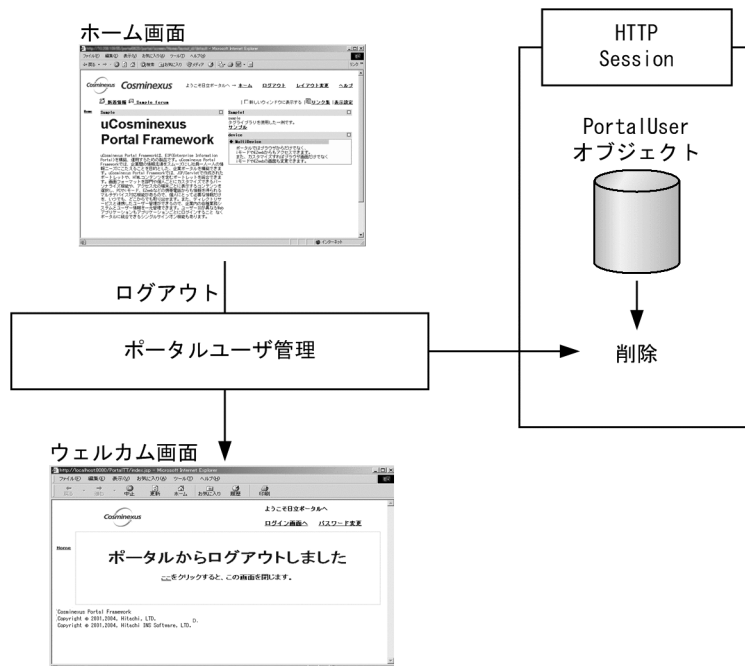
- ザ ID を Subject の Principal に設定します。
8. 統合ユーザ管理フレームワークのコンフィグレーションファイル (ua.conf) のパラメータで、ユーザ ID 以外の属性が設定されていて、対応するリクエスト属性が見つければ、設定されている属性の値を Subject の PublicCredential に設定します。
 9. ログイン後画面を表示します。

WebSSOLoginModule を使用する場合、7. で Principal にユーザ ID が設定されていれば、次回以降のログイン処理時にこの ID を sharedState に自動設定します。このため、シングルサインオン先アプリケーションでは、従来どおりシングルサインオン機能を使用できます。

(2) uCosminexus Secure Unify - SSO 連携時のログアウト処理

uCosminexus Secure Unify - SSO 連携時のログアウト処理は、通常のポータルのログアウト処理と同様に、ログアウト処理後にウェルカム画面が表示されます。ポータルのテンプレートをカスタマイズしてログアウトボタンを削除していても、セッションタイムアウト時にウェルカム画面が表示される場合があります。このため、ウェルカム画面にログアウトのメッセージを表示するポートレットを一つ配置するなどして、ログアウト確認画面として使用することをお勧めします。uCosminexus Secure Unify - SSO 連携時のログアウト処理を次の図に示します。

図 6-6 uCosminexus Secure Unify - SSO 連携時のログアウト処理



uCosminexus Secure Unify - SSO からログアウトした時に uCosminexus Portal

6. ポータル機能のカスタマイズ

Framework からログアウトする場合は、uCosminexus Secure Unify - SSO に登録する情報に次のログアウト URL を登録してください。

http:// ホスト名 : ポート番号 / { コンテキストパス } / logoutIdp

6.6.2 uCosminexus Secure Unify - SSO 連携時の機能差異

ユーザ認証に uCosminexus Secure Unify - SSO を使用しない場合と uCosminexus Secure Unify - SSO を使用する場合の機能差異、および機能差異の対処方法を次の表に示します。

表 6-4 uCosminexus Secure Unify - SSO 連携時の機能差異

項目	uCosminexus Secure Unify - SSO を使用しない時	uCosminexus Secure Unify - SSO 使用時	機能差異の対処方法
未ログイン状態でポートレットの URL 直接を指定した場合（ダイレクト呼び出しの場合）	ログイン状態に依存しないポートレットの場合、通常のログイン画面を表示します。 ログイン状態に依存するポートレットの場合、ポートレットのログイン処理に従い、処理を実行します。	ログイン処理は uCosminexus Portal Framework 使用時と同じです。 ただし、POST データの引き継ぎはできません。	ログイン操作を実行すればログイン処理が行われます。
[ログイン] 画面	[ログイン] 画面で、ユーザ名およびパスワードを入力します。	[ログイン] 画面は使用できません。 uCosminexus Secure Unify - SSO のログイン画面が使用できます。	-
[パスワード変更] 画面	[パスワード変更] 画面で、パスワードを変更できます。	[パスワード変更] 画面は使用できません。 uCosminexus Secure Unify - SSO のパスワード変更画面が使用できます。	-

項目	uCosminexus Secure Unify - SSO を使用しない時	uCosminexus Secure Unify - SSO 使用時	機能差異の対処方法
ユーザ情報取得項目	文字列型, DN 型, バイナリ型 およびマルチバリュウが指定できます。	文字列型およびマルチバリュウが指定できます。DN 型, バイナリ型は指定できません。	ユーザ管理情報用リポジトリとして LDAP または DB を用意すれば制御できます。
組織情報・グループ情報	使用できます。	uCosminexus Secure Unify - SSO のリクエスト属性から上位組織情報・グループ情報を取得できないため、使用できません。	ユーザ管理情報用リポジトリとして LDAP または DB を用意すれば、使用できます。

(凡例) - : 該当しません。

6.6.3 ポータルで取得するリクエスト属性

uCosminexus Secure Unify - SSO 連携時に uCosminexus Portal Framework で取得するリクエスト属性を次に示します。リクエスト属性の名称, およびリクエスト属性に対応するポータルのリポジトリ情報の属性値は, JAAS コンフィグレーションファイル (jaas.conf) で指定する uCosminexus Secure Unify - SSO 連携ログインモジュールのプロパティで設定してください。

表 6-5 ポータルで取得するリクエスト属性

項目	説明	必須
ユーザ ID	ユーザを表す一意の値です。	
ユーザ表示名	ユーザの表示名です。必要に応じて取得してください。	×
役職情報	ユーザの役職名です。役職識別子を使用する場合は, 必ず取得してください。	×
所属情報	ユーザの所属組織単位 ID です。組織単位識別子を使用する場合は, 必ず取得してください。なお, uCosminexus Secure Unify - SSO 連携時にアクセス制御・レイアウト選択を実施するには, 組織情報を格納するリポジトリとして LDAP または DB が必要です。	×
上記以外のユーザ定義項目	ユーザ環境に依存します。	×

6. ポータル機能のカスタマイズ

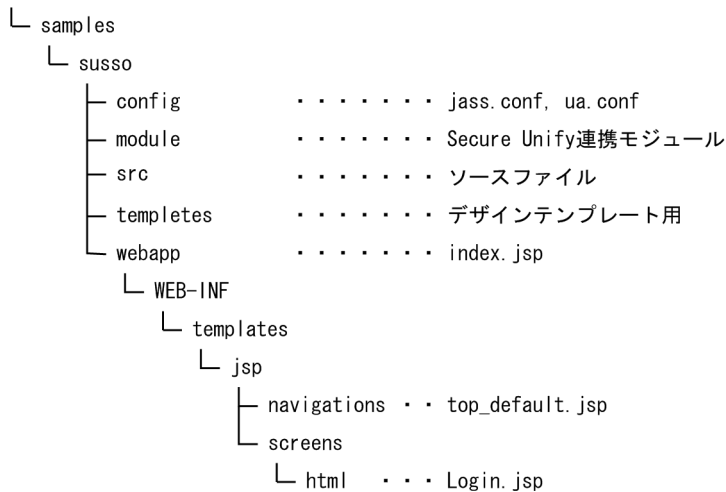
(凡例) 必須: 任意: x

6.6.4 uCosminexus Secure Unify - SSO 連携のために提供するファイル

uCosminexus Portal Framework では, uCosminexus Secure Unify - SSO と連携するための設定ファイルを提供しています。設定ファイルの格納先ディレクトリと, 各ディレクトリに格納されているファイルの内容を次の図に示します。

図 6-7 uCosminexus Secure Unify - SSO 連携用設定ファイルの格納先と内容

uCosminexus Portal Framework インストールディレクトリ



6.6.5 uCosminexus Secure Unify - SSO 連携のための設定

ここでは, uCosminexus Secure Unify - SSO に連携する場合の設定方法について説明します。uCosminexus Secure Unify - SSO の設定については, uCosminexus Secure Unify - SSO のマニュアルを参照してください。

(1) ポータルプロジェクトへの連携ファイルの追加

ポータルプロジェクトへの連携ファイルの追加は, 次の手順で行います。

1. プロジェクトディレクトリを退避します。
ポータルプロジェクト配下のディレクトリおよびファイルをあらかじめ別のディレクトリに退避させます。

! 注意事項

退避した web.xml ファイルをあとで使用するので必ず退避してください。

2. uCosminexus Secure Unify - SSO SP Library のファイルをコピーします。
次のディレクトリ配下のファイルをプロジェクトディレクトリに上書きコピーします。

コピー元ディレクトリ

```
{uCosminexus Secure Unify - SSO SP Library インストールディレクトリ }¥samlsp
```

! 注意事項

アプリケーションで変更したファイルを上書きする場合は、上書きしたファイルにアプリケーションの変更を反映させてください。

3. uCosminexus Secure Unify - SSO 連携のために提供するファイルをコピーします。
次のディレクトリ配下のファイルをプロジェクトディレクトリに上書きコピーします。

コピー元ディレクトリ

```
{uCosminexus Portal Framework インストールディレクトリ }¥samples¥susso¥webapp
```

デザインテンプレートを使用している場合は、次のディレクトリ配下のファイルをプロジェクトディレクトリに上書きコピーします。

コピー元ディレクトリ

```
{uCosminexus Portal Framework インストールディレクトリ }¥samples¥susso¥template
```

! 注意事項

アプリケーションで変更したファイルを上書きする場合は、上書きしたファイルにアプリケーションの変更を反映させてください。

4. 退避した web.xml ファイルを元に戻します。
退避したディレクトリの web.xml ファイルをプロジェクトディレクトリに上書きコピーします。

コピー元ファイル

```
{ 退避したディレクトリ }¥WEB-INF¥web.xml
```

5. web.xml ファイルを編集します。
web.xml ファイルの <web-app> タグのあと (<filter> タグの記述位置) に、次の記

6. ポータル機能のカスタマイズ

述を追記します。

```
<filter>
<filter-name>SamlAgent</filter-name>
<filter-class>jp.co.ins_hitachi.samlserver.samlsp.controller.SPF
ilter</filter-class>
</filter>

<filter-mapping>
<filter-name>SamlAgent</filter-name>
<url-pattern>*/*</url-pattern>
</filter-mapping>
```

また、最後の </servlet> タグのあとに、次の記述を追記します。

```
<servlet>
<servlet-name>LogoutServlet</servlet-name>
<servlet-class>jp.co.ins_hitachi.samlserver.samlsp.controller.Lo
goutServlet</servlet-class>
</servlet>

<servlet>
<servlet-name>LogoutFromIdpServlet</servlet-name>
<servlet-class>jp.co.ins_hitachi.samlserver.samlsp.controller.Lo
goutFromIdpServlet</servlet-class>
</servlet>

<servlet-mapping>
<servlet-name>LogoutServlet</servlet-name>
<url-pattern>/logout</url-pattern>
</servlet-mapping>

<servlet-mapping>
<servlet-name>LogoutFromIdpServlet</servlet-name>
<url-pattern>/logoutIdp</url-pattern>
</servlet-mapping>
```

! 注意事項

Web サーバ(リダイレクタ)によるリクエストの振り分けを行っている場合は、次のサーバレットの URL を振り分け対象に追加してください。

- /logout
- /logoutIdp

6. Secure Unify 連携モジュールをコピーします。

次のディレクトリ配下のファイルを Cosminexus のカスタムログインモジュールの格納先ディレクトリにコピーします。

コピー元ディレクトリ

```
{uCosminexus Portal Framework インストールディレクトリ
}¥samples¥susso¥module
```

コピー先ディレクトリ

```
{Cosminexus インストールディレクトリ }¥manager¥modules
```

7. uCosminexus Secure Unify - SSO SP Library の設定ファイルを編集します。

次のディレクトリ配下の uCosminexus Secure Unify - SSO SP Library の設定ファイルを編集し、SP の名称や IdP サーバの URL などの設定をします。編集するファイルおよび編集内容については、uCosminexus Secure Unify - SSO のマニュアルを参照してください。

```
{ プロジェクトディレクトリ
}¥WEB-INF¥classes¥hins_samlsp_conf.properties
```

8. PortalResources.properties ファイルを編集します。

PortalResources.properties ファイルに次のプロパティを設定します。なお、PortalResources.properties ファイルは設定ファイル格納ディレクトリに格納されています。

```
jp.co.hitachi.soft.portal.services.repository.uservalue=loginid
jp.co.hitachi.soft.portal.services.security.PortalUserManager.lo
gin.sessionrenewal=false
```

9. ログアウト URL を編集します。

uCosminexus Portal Framework からログアウトすると同時に、uCosminexus Secure Unify - SSO からログアウト（シングルログアウト）する場合、次のファイルを編集してログアウト URL を変更します。シングルログアウトしない場合は編集する必要はありません。

編集するファイル

```
{ プロジェクトディレクトリ
}¥WEB-INF¥templates¥jsp¥navigations¥top_loggedIn.jsp
```

編集前

```
<a href="<portal:uriLookup type="Logout" />" onclick=" ~
```

編集後

```
<a href="<portal:contentUri href="logout" />" onclick=" ~
```

(2) JAAS コンフィグレーションファイル (jaas.conf) の編集

uCosminexus Secure Unify - SSO と連携する場合の JAAS コンフィグレーションファイル (jaas.conf) の設定内容を説明します。統合ユーザ管理フレームワークの DelegationLoginModule を通して、カスタムログインモジュールを使用します。

JAAS コンフィグレーションファイル (jaas.conf) の設定パラメタを次の表に示します。

6. ポータル機能のカスタマイズ

表 6-6 jaas.conf 設定パラメータ一覧 (認証済 Subject 使用時)

PortalLoginModule のパラメータ名	説明
com.cosminexus.admin.auth.custom.lm [設定必須 (Cosminexus のシングルサインオン機能を使用しない場合)]	DelegationLoginModule が呼び出すカスタムログインモジュールクラス名です。必ず「jp.co.hitachi.soft.portal.susso.login.PortalLoginModule」を指定してください。これは、DelegationLoginModule のパラメータです。
com.cosminexus.admin.auth.sso [設定必須 (Cosminexus のシングルサインオン機能を使用する場合)]	WebSSOLoginModule が呼び出すカスタムログインモジュールクラスを表す名称です。このパラメータで指定した名称に対応させて、統合ユーザ管理フレームワークのコンフィグレーションファイル (ua.conf) でクラスを指定します。これは、WebSSOLoginModule のパラメータです。
com.cosminexus.admin.auth.realm	レルム名です。"PORTAL" を指定してください。
jp.co.hitachi.soft.portal.susso.login.param.<LOGIN_NAME の src 属性名 > [設定必須]	リポジトリファイル (Repository.xml) の <LOGIN_NAME の src 属性名 > (ユーザ ID) で取得される値が格納されている、リクエスト属性です。取得値を Principal および PublicCredential として格納します。このリクエスト属性が見つからない、または値が不正な場合は、ログインエラーとなります。
jp.co.hitachi.soft.portal.susso.param.<src 属性名 >	リポジトリファイル (Repository.xml) の <src 属性名 > で取得される値が格納されている、HTTP リクエスト属性名称です。取得値を PublicCredential として格納します。このリクエスト属性が見つからない場合は、その属性値を持たないものとして処理が続行されます。取得できる属性については「6.6.3 ポータルで取得するリクエスト属性」を参照してください。

JAAS コンフィグレーションファイル (jaas.conf) の設定例を次に示します。

表 6-7 設定例の内容

項目	Portal Manager の [ユーザ情報の設定] 画面で指定した属性名	uCosminexus Secure Unify - SSO から取得する属性名
ユーザ ID	uid	HINS_SAML_USER_ID
ユーザ表示名	sn	SN
役職情報	title	TITLE
所属情報	dept	DEPARTMENTDN

JAAS コンフィグレーションファイル (jaas.conf) の設定例

```
// ***** ポータル用ログインモジュール *****
Portal {
    com.cosminexus.admin.auth.login.DelegationLoginModule
    required

    com.cosminexus.admin.auth.custom.lm="jp.co.hitachi.soft.portal.
    susso.login.PortalLoginModule"
    com.cosminexus.admin.auth.realm="PORTAL"

    jp.co.hitachi.soft.portal.susso.login.param.uid="HINS_SAML_USER
    _ID"
    jp.co.hitachi.soft.portal.susso.param.sn="SN"
    jp.co.hitachi.soft.portal.susso.param.title="TITLE"
    jp.co.hitachi.soft.portal.susso.param.dept="DEPARTMENTDN"
    ;
};
```

注 下線部分がアプリケーション名です。

なお、WebSSOLoginModule を使用している場合は、WebSSOLoginModule を通して、カスタムログインモジュールを使用します。

JAAS コンフィグレーションファイル (jaas.conf) の設定例

```
// ***** ポータル用ログインモジュール *****
Portal {
    com.cosminexus.admin.auth.sso.login.WebSSOLoginModule
    required
    com.cosminexus.admin.auth.sso="SecureUnify"
    com.cosminexus.admin.auth.realm="PORTAL"

    jp.co.hitachi.soft.portal.susso.login.param.uid="HINS_SAML_USER
    _ID"
    jp.co.hitachi.soft.portal.susso.param.sn="SN"
    jp.co.hitachi.soft.portal.susso.param.title="TITLE"
    jp.co.hitachi.soft.portal.susso.param.dept="DEPARTMENTDN"
    ;
};
```

注 下線部分がアプリケーション名です。

(3) 統合ユーザ管理フレームワークのコンフィグレーションファイル (ua.conf) の編集

uCosminexus Secure Unify - SSO と連携する場合の統合ユーザ管理フレームワークのコンフィグレーションファイル (ua.conf) の設定内容を説明します。この設定は、WebSSOLoginModule を使用している場合に必要な設定です。

統合ユーザ管理フレームワークのコンフィグレーションファイル (ua.conf) の設定パラメタを次の表に示します。

表 6-8 ua.conf 設定パラメタ一覧 (認証済 Subject 使用時)

PortalLoginModule のパラメタ名	説明
com.cosminexus.admin.auth.sso.lm.< ログインモジュール名称 > [設定必須 (シングルサインオン機能を使用する場合)]	WebSSOLoginModule が呼び出すカスタムログインモジュールクラスを表す名称です。 jaas.conf com.cosminexus.admin.auth.sso パラメタで指定した名称を < 名称 > 部分に記述します。必ず 「jp.co.hitachi.soft.portal.susso.login.PortalLoginModule」を指定してください。

統合ユーザ管理フレームワークのコンフィグレーションファイル (ua.conf) の設定例

```
##### Custom LoginModule (uCosminexus Secure
Unify - SSO) #####
com.cosminexus.admin.auth.sso.lm.SecureUnify=jp.co.hitachi.soft
.portal.susso.login.PortalLoginModule
```

(4) マッピングの定義

uCosminexus Secure Unify - SSO 連携時のマッピング定義について説明します。「(2) JAAS コンフィグレーションファイル (jaas.conf) の編集」で設定した属性名のマッピングを定義すれば、ログイン後のポータル内で、項目名で属性値を取り出せます。項目は文字列型かつオプション指定なしで、取得先構成情報は必ず Cosminexus 指定となります。項目のうちユーザ ID 項目は必須です (ユーザ認証に uCosminexus Portal Framework を使用した場合と同様)。

Portal Manager の [リポジトリの設定] - [マッピング情報] - [ユーザ情報] で表示される [ユーザ情報の設定] 画面で、次の表に示すとおり設定してください。

表 6-9 [ユーザ情報の設定] 画面で設定する内容

項目	属性名	接続先 (ユーザ用)	格納時の型	オプション
ユーザ ID [設定必須]	JAAS コンフィグレーションファイル (jaas.conf) の 「jp.co.hitachi.soft.portal.susso.login.param.<LOGIN_NAME の src 属性名 >」で設定した属性名 指定例 : uid	cosmi	-	-
ユーザ表示名 [設定任意]	JAAS コンフィグレーションファイル (jaas.conf) の 「jp.co.hitachi.soft.portal.susso.param.<src 属性名 >」で設定した属性名 指定例 : title	cosmi	string	なし , または multi value
役職情報 [設定任意]				
所属情報 [設定任意]				
ユーザ定義項目 [設定任意]				

(凡例) - : 該当しません。

注 パーソナライズ情報を表すキーは、uCosminexus Secure Unify - SSO からは取得できません。
LDAP または DB を使用してください。

リポジトリファイルの設定内容を次に示します。

```
<?xml version="1.0" encoding="Shift_JIS"?>
  <repository version="0200" xmlns="http://
portal.soft.hitachi.co.jp/portal/Repository2">
    <resource name="cosmi" type="cosminexus"/>
    <portal-mapping>
      <portalUser>
        <Mapping dest="LOGIN_NAME" src="uid">cosmi</Mapping>
        <Mapping dest="TITLE" type="string" src="title">cosmi</
Mapping>
          <Mapping dest="DEPARTMENT" type="string"
src="dept">cosmi</Mapping>
        </portalUser>
      </portal-mapping>
    </repository>
```

6.7 SiteMinder 連携の設定

SiteMinder は、Web アクセス制御とシングルサインオンを実現する製品です。
uCosminexus Portal Framework は、SiteMinder と連携してログイン時のユーザ認証を行うサンプルを提供しています。

ここでは、SiteMinder を利用する場合の処理概要、ユーザ認証に uCosminexus Portal Framework を使用する場合と SiteMinder を使用する場合の機能差異、SiteMinder 利用時にポータルで取得する HTTP ヘッダー情報、SiteMinder を利用するために uCosminexus Portal Framework で提供するファイル、および SiteMinder 連携時の設定方法について説明します。

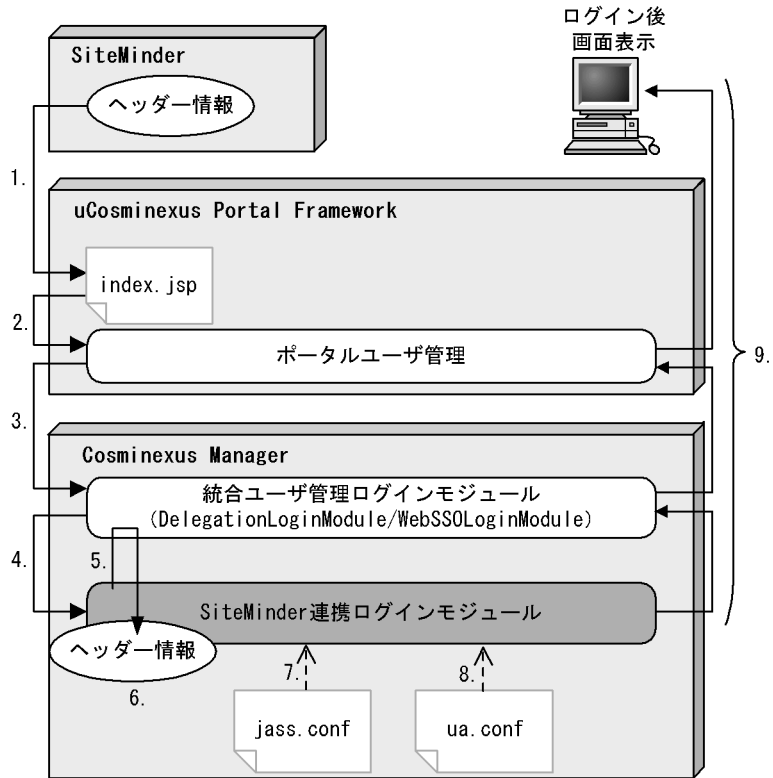
6.7.1 SiteMinder 連携時の処理概要

SiteMinder 連携時のログイン時の処理、およびログアウト時の処理について説明します。

(1) SiteMinder 連携時のログイン処理

SiteMinder 連携時は、SiteMinder の認証情報およびユーザ情報を使用してポータルにログインします。uCosminexus Portal Framework では、リクエストのヘッダー情報からユーザ情報を取得するカスタムログインモジュール（以降、SiteMinder 連携モジュールと呼びます）を提供しています。処理の流れを次の図に示します。

図 6-8 SiteMinder 連携時のログイン時の処理



(凡例)

→ : 処理の流れ

--> : SiteMinder連携モジュールの設定

図の説明

1. SiteMinder でユーザ認証後，uCosminexus Portal Framework の `index.jsp` が指定されます。このとき，ヘッダー情報が渡されます。
2. `index.jsp` から，ポータルユーザ管理のログイン処理のアクション（PLoginUser アクション）にフォワードします。ポータルユーザ管理とは，uCosminexus Portal Framework のユーザ管理機能のことです。ログイン情報やパーソナライズ情報を管理しています。
3. [ログイン] 画面を表示しないで，直接ログイン処理が実行されます。
4. 統合ユーザ管理の DelegationModule または WebSSOLoginModule から SiteMinder 連携モジュールを呼び出します。
5. 統合ユーザ管理の WebPasswordCallback からリクエストを取り出します。
6. 取り出したリクエストからヘッダー情報を解析します。
7. JAAS コンフィグレーションファイル (`jaas.conf`) のパラメタで指定されたログインユーザ ID を表すヘッダーが見つければログイン成功とみなし，ユーザ ID を Subject

6. ポータル機能のカスタマイズ

の Principal に設定します。

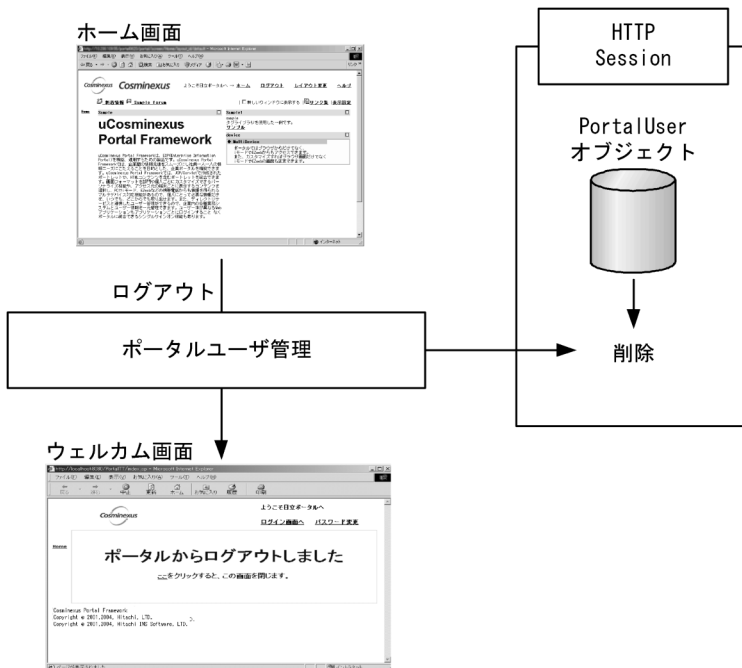
8. 統合ユーザ管理フレームワークのコンフィグレーションファイル (ua.conf) のパラメータで、ユーザ ID 以外の属性が設定されていて、対応するヘッダーが見つければ、設定されている属性の値を Subject の PublicCredential に設定します。
9. ログイン後画面を表示します。

WebSSOLoginModule を使用する場合、7. で Principal にユーザ ID が設定されていれば、次回以降のログイン処理時にこの ID を sharedState に自動設定します。このため、シングルサインオン先アプリケーションでは、従来どおりシングルサインオン機能を使用できます。

(2) SiteMinder 連携時のログアウト処理

SiteMinder 連携時のログアウト処理は、通常のポータルのログアウト処理と同様に、ログアウト処理後にウェルカム画面が表示されます。ポータルのテンプレートをカスタマイズしてログアウトボタンを削除していても、セッションタイムアウト時にウェルカム画面が表示される場合があります。このため、ウェルカム画面にログアウトのメッセージを表示するポートレットを一つ配置するなどして、ログアウト確認画面として使用することをお勧めします。SiteMinder 連携時のログアウト処理を次の図に示します。

図 6-9 SiteMinder 連携時のログアウト処理



6.7.2 SiteMinder 連携時の機能差異

ユーザ認証に uCosminexus Portal Framework を使用する場合と SiteMinder を使用する場合の機能差異，および機能差異の対処方法を次の表に示します。

表 6-10 SiteMinder 連携時の機能差異

項目	uCosminexus Portal Framework 使用時	SiteMinder 使用時	機能差異の対処方法
シングルサインオン	統合ユーザ管理上でシングルサインオンに対応しているアプリケーションに対して、シングルサインオンできます。	SiteMinder から uCosminexus Portal Framework にだけ、シングルサインオンできます。	uCosminexus Portal Framework からそのほかのアプリケーションにシングルサインオンしたい場合は、統合ユーザ管理のシングルサインオン用リポジトリを用意してください。
[ログイン] 画面	[ログイン] 画面で、ユーザ名およびパスワードを入力します。	[ログイン] 画面は使用できません。	-
[パスワード変更] 画面	[パスワード変更] 画面で、パスワードを変更できます。	[パスワード変更] 画面は使用できません。	-
ユーザ情報取得項目	文字列型、DN 型、バイナリ型およびマルチバリュースが指定できます。	文字列型だけ使用できます。マルチバリューは指定できません。	-
ユーザ情報取得項目での日本語使用	使用できます。	プロパティファイル (PortalResources.properties) の document.defaultencoding プロパティで指定したエンコーディング名でデコードすれば、使用できます。プロパティに指定できるエンコーディング名は次の三つです。 <ul style="list-style-type: none"> • Shift_JIS • utf-8 • euc-jp 	SiteMinder で指定している文字コードと同一に設定してください。
組織情報・グループ情報	使用できます。	SiteMinder の HTTP ヘッダー情報から組織情報・グループ情報を取得できないため、使用できません。	ユーザ管理情報用リポジトリとして LDAP または DB を用意すれば、使用できます。
アクセス制御・レイアウト選択	ユーザ単位、組織単位、グループ単位、役職単位、組織 + 役職単位で制御できます。	ユーザ単位、役職単位で制御できます。	ユーザ管理情報用リポジトリとして LDAP または DB を用意すれば制御できます。

6. ポータル機能のカスタマイズ

項目	uCosminexus Portal Framework 使用時	SiteMinder 使用時	機能差異の対処方法
[レイアウト選択]画面	使用できます。	使用できません。 [レイアウト選択]画面では独自にリポジトリと接続するため、SiteMinder 経由では情報を取得できません。	ユーザ管理情報用リポジトリとして LDAP または DB を用意すれば、[レイアウト選択]画面を使用できます。
ウェルカム画面	ログイン前、およびログアウト後に必ず表示されます。	ログアウト後に必ず表示されます。	SiteMinder ではポータルに遷移すると同時にログイン処理がされるので、ログイン前の状態はありません。このため、ログイン後にだけウェルカム画面が表示されます。
エラー画面	エラー内容に応じてプロパティファイル (PortalResource.properties) で設定されているエラー画面が表示されます。	uCosminexus Portal Framework 使用時と同様に、エラー内容に応じてプロパティファイルで設定されているエラー画面が表示されます。機能差異はありません。	-

(凡例) - : 該当しません。

6.7.3 ポータルで取得する HTTP ヘッダー情報

SiteMinder 連携時に uCosminexus Portal Framework で取得する HTTP ヘッダー情報を次に示します。HTTP ヘッダーの名称、およびヘッダーの名称に対応するポータルのリポジトリ情報の属性値は、JAAS コンフィグレーションファイル (jaas.conf) で指定する SiteMinder 連携ログインモジュールのプロパティで設定してください。

表 6-11 ポータルで取得する HTTP ヘッダー

項目	説明	必須
ユーザ ID	ユーザを表す一意の値です。	
ユーザ表示名	ユーザの表示名です。必要に応じて取得してください。	×
パーソナライズ情報を表すキー	パーソナライズ情報が格納されている属性名 (LDAP) またはカラム名 (DB) です。 パーソナライズ情報を使用するときは必ず取得してください。なお、SiteMinder 連携時にパーソナライズ情報を使用するには、パーソナライズ情報を格納するリポジトリとして LDAP または DB が必要です。	×
役職情報	ユーザの役職名です。 役職識別子を使用する場合は、必ず取得してください。	×

項目	説明	必須
所属情報	ユーザの所属組織単位 ID です。 組織単位識別子を使用する場合は、必ず取得してください。なお、SiteMinder 連携時にアクセス制御・レイアウト選択を実施するには、組織情報を格納するリポジトリとして LDAP または DB が必要です。	×
上記以外のユーザ定義項目	ユーザ環境に依存します。	×

(凡例) 必須: 任意: ×

(1) HTTP ヘッダーと CGI 環境変数

HTTP ヘッダーは RFC2616 で定義されており、「名前」+「:(コロン)」+「フィールド値」で構成されています。ヘッダー名には separators (「,」「;」空白など) が含まれてはなりません。

CGI 環境変数とは、CGI 対応の Web サーバがクライアントから送られてきた HTTP ヘッダーを基に生成する変数です。CGI 環境変数には、次に示す 3 種類のものがあります。

1. リクエストに関係なく、常に設定されるもの
2. リクエストに応じて設定されるもの
3. 1. および 2. のほかに、クライアントから受信されたもの

このうち 3. は次の手順で生成されます。

HTTP_ で始まる CGI 環境変数の生成規則

1. ヘッダー名の前に、HTTP_ を付ける。
2. ハイフン (-) をすべてアンダーバー (_) に変える。
3. 文字をすべて大文字にする。

CGI/1.0 中に定義された HTTP_ACCEPT 変数と User-Agent ヘッダーから作成された環境変数の例を次に示します。

表 6-12 HTTP ヘッダーと CGI 環境変数の例

HTTP ヘッダー	CGI 環境変数
Accept: */*	HTTP_ACCEPT=*/*
User-Agent: Mozilla/4.0 (compatible; MSIE 6.0; Windows NT 5.1)	HTTP_USER_AGENT=Mozilla/4.0 (compatible; MSIE 6.0; Windows NT 5.1)

SiteMinder ポリシーで設定しているのは、CGI 環境変数名とその値です。したがって、uCosminexus Portal Framework に送られてくるリクエストヘッダーは、表 6-13 の生成規則を逆にしたものになります。次の表にその例を示します。

表 6-13 SiteMinder ポリシーで設定された変数と HTTP ヘッダー

SiteMinder ポリシーで設定する変数	Cosminexus Portal Framework に送られる HTTP ヘッダー
HTTP_UID=123456 HTTP_TITLE_JP=bucho	uid: 123456 title-jp: bucho

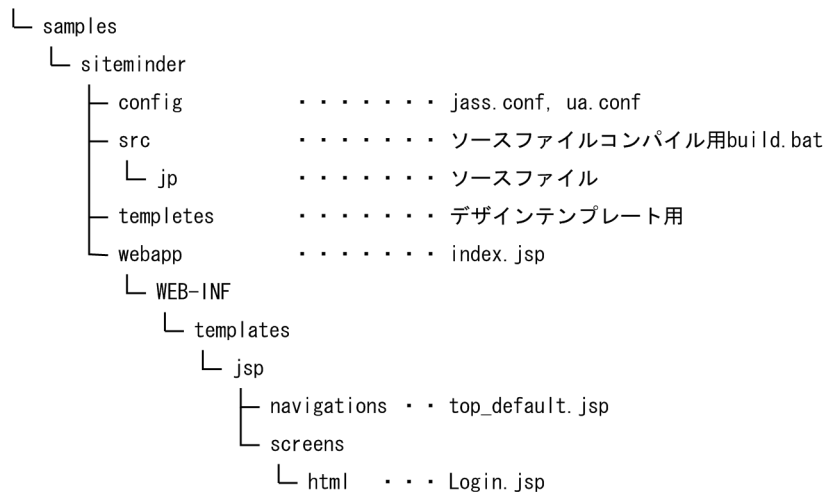
表 6-13 の場合，uCosminexus Portal Framework では HTTP ヘッダー名「uid」と「title-jp」でユーザ ID と役職の値を取得できます。

6.7.4 SiteMinder 連携のために提供するファイル

uCosminexus Portal Framework では，SiteMinder と連携するためのサンプルファイルを提供しています。サンプルファイルの格納先ディレクトリと，各ディレクトリに格納されているファイルの内容を次の図に示します。

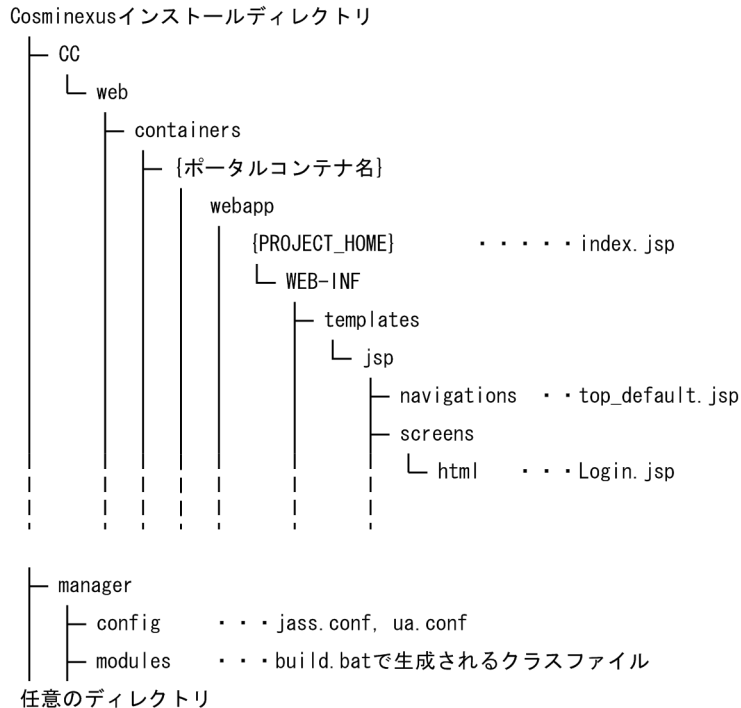
図 6-10 SiteMinder 連携用サンプルファイルの格納先と内容

uCosminexus Portal Framework インストールディレクトリ



SiteMinder 連携実行時のポータルのディレクトリ構成を次の図に示します。提供ファイルの内容に基づいて置き換えるか，または修正してください。置き換えまたは修正前のファイルは，念のためバックアップを取得しておいてください。

図 6-11 SiteMinder 連携実行時のディレクトリ構成



なお、ポータルへの URL は次のとおりです。

`http://ホスト名:ポート番号/{PROJECT_HOME名}/index.jsp`

`index.jsp` を経由しない場合は、次の URL (ログインアクション) に直接遷移してください。

`http://ホスト名:ポート番号/{PROJECT_HOME名}/portal/screen/Home/action/PLoginUser`

6.7.5 SiteMinder 連携のための設定

ここでは、SiteMinder に連携する場合の、JAAS コンフィグレーションファイル (`jaas.conf`) およびリポジトリファイル (`Repository.xml`) の設定内容について説明します。

(1) JAAS コンフィグレーションファイル (`jaas.conf`)

SiteMinder と連携する場合の JAAS コンフィグレーションファイル (`jaas.conf`) の設定内容を説明します。統合ユーザ管理フレームワークの `DelegationLoginModule` を通して、カスタムログインモジュールを使用します。

JAAS コンフィグレーションファイル (`jaas.conf`) の設定パラメタを次の表に示します。

6. ポータル機能のカスタマイズ

表 6-14 jaas.conf 設定パラメータ一覧 (認証済 Subject 使用時)

PortalHeaderLoginModule のパラメータ名	説明
com.cosminexus.admin.auth.custom.lm [設定必須 (Cosminexus のシングルサインオン機能を使用しない場合)]	DelegationLoginModule が呼び出すカスタムログインモジュールクラス名です。必ず「jp.co.hitachi.soft.portal.samples.siteminder.header.login.PortalHeaderLoginModule」を指定してください。 これは、DelegationLoginModule のパラメータです。
com.cosminexus.admin.auth.sso [設定必須 (Cosminexus のシングルサインオン機能を使用する場合)]	WebSSOLoginModule が呼び出すカスタムログインモジュールクラスを表す名称です。このパラメータで指定した名称に対応させて、統合ユーザ管理フレームワークのコンフィグレーションファイル (ua.conf) でクラスを指定します。 これは、WebSSOLoginModule のパラメータです。
com.cosminexus.admin.auth.realm	レルム名です。"PORTAL" を指定してください。
jp.co.hitachi.soft.portal.samples.siteminder.header.encode	HTTP ヘッダー情報の文字コードです。Java エンコーディング名またはエイリアス名を指定します。 省略した場合は "8859_1"(ISO8859_1) が指定されます。
jp.co.hitachi.soft.portal.samples.siteminder.header.login.param.<LOGIN_NAME の src 属性名 > [設定必須]	リポジトリファイル (Repository.xml) の <LOGIN_NAME の src 属性名 > (ユーザ ID) で取得される値が格納されている、HTTP ヘッダー名称です。取得値を Principal および PublicCredential として格納します。このヘッダーが見つからない、または値が不正な場合は、ログインエラーとなります。
jp.co.hitachi.soft.portal.samples.siteminder.header.param.<src 属性名 >	リポジトリファイル (Repository.xml) の <src 属性名 > で取得される値が格納されている、HTTP ヘッダー名称です。取得値を PublicCredential として格納します。このヘッダーが見つからない場合は、その属性値を持たないものとして処理が続行されます。

JAAS コンフィグレーションファイル (jaas.conf) の設定例を次に示します。

表 6-15 設定例の内容

項目	Portal Manager の [ユーザ情報の設定] 画面 で指定した属性名	SiteMinder から取得する リクエストヘッダ名
ユーザ ID	uid	UID

項目	Portal Manager の [ユーザ情報の設定] 画面で指定した属性名	SiteMinder から取得するリクエストヘッダ名
ユーザの姓名	sn	SN
ユーザの名前	givenname	GIVENNAME
役職情報	title	TITLE

JAAS コンフィグレーションファイル (jaas.conf) の設定内容

```
// ***** ポータル用ログインモジュール *****
Portal {
    com.cosminexus.admin.auth.login.DelegationLoginModule
    required

    com.cosminexus.admin.auth.custom.lm="jp.co.hitachi.soft.portal.
samples.siteminder.header.login.PortalHeaderLoginModule"
    com.cosminexus.admin.auth.realm="PORTAL"

    jp.co.hitachi.soft.portal.samples.siteminder.header.login.param
.uid="UID"

    jp.co.hitachi.soft.portal.samples.siteminder.header.param.sn="S
N"

    jp.co.hitachi.soft.portal.samples.siteminder.header.param.given
name="GIVENNAME"

    jp.co.hitachi.soft.portal.samples.siteminder.header.param.title
="TITLE"

    jp.co.hitachi.soft.portal.samples.siteminder.header.encode="shi
ft_jis"
    ;
};
```

注 下線部分がアプリケーション名です。

なお、WebSSOLoginModule を使用している場合は、WebSSOLoginModule を通して、カスタムログインモジュールを使用します。

JAAS コンフィグレーションファイル (jaas.conf) の設定内容

```
// ***** ポータル用ログインモジュール *****
Portal {
    com.cosminexus.admin.auth.sso.login.WebSSOLoginModule
    required
    com.cosminexus.admin.auth.sso="SiteMinder"
    com.cosminexus.admin.auth.realm="PORTAL"

    jp.co.hitachi.soft.portal.samples.siteminder.header.login.param
.uid="UID"

    jp.co.hitachi.soft.portal.samples.siteminder.header.param.sn="S
N"

    jp.co.hitachi.soft.portal.samples.siteminder.header.param.given
name="GIVENNAME"
```

6. ポータル機能のカスタマイズ

```
jp.co.hitachi.soft.portal.samples.siteminder.header.param.title
="TITLE"

jp.co.hitachi.soft.portal.samples.siteminder.header.encode="shi
ft_jis"
;
};
```

注 下線部分がアプリケーション名です。

(2) 統合ユーザ管理フレームワークのコンフィグレーションファイル (ua.conf)

SiteMinder と連携する場合の統合ユーザ管理フレームワークのコンフィグレーションファイル (ua.conf) の設定内容を説明します。この設定は、WebSSOLoginModule を使用している場合に必要な設定です。

統合ユーザ管理フレームワークのコンフィグレーションファイル (ua.conf) の設定パラメタを次の表に示します。

表 6-16 ua.conf 設定パラメター一覧 (認証済 Subject 使用時)

PortalHeaderLoginModule のパラメタ名	説明
com.cosminexus.admin.auth.sso.lm.<ログインモジュール名称> [設定必須 (シングルサインオン機能を使用する場合)]	WebSSOLoginModule が呼び出すカスタムログインモジュールクラスを表す名称です。 jaas.conf com.cosminexus.admin.auth.sso パラメタで指定した名称を <名称> 部分に記述します。必ず「jp.co.hitachi.soft.portal.samples.siteminder.header.login.PortalHeaderLoginModule」を指定してください。

統合ユーザ管理フレームワークのコンフィグレーションファイル (ua.conf) の設定例

```
##### Custom LoginModule (SiteMinder)
#####
com.cosminexus.admin.auth.sso.lm.SiteMinder=jp.co.hitachi.soft.
portal.samples.siteminder.header.login.PortalHeaderLoginModule
```

(3) マッピングの定義

SiteMinder 連携時のマッピングの定義について説明します。「(1) JAAS コンフィグレーションファイル (jaas.conf)」で設定した属性名のマッピングを定義すれば、ログイン後のポータル内で、項目名で属性値を取り出せます。項目は文字列型かつオプション指定なしで、取得先構成情報は必ず Cosminexus 指定となります。項目のうちユーザ ID 項目は必須です (ユーザ認証に uCosminexus Portal Framework を使用した場合と同様)。

SiteMinder と連携する場合は、Portal Manager の [リポジトリの設定] - [マッピング情報] - [ユーザ情報] で表示される [ユーザ情報の設定] 画面で、次の表に示すとおりリポジトリを設定してください。

表 6-17 [ユーザ情報の設定] 画面で設定する内容

項目	属性名	接続先 (ユーザ用)	格納時の型	オプション
ユーザ ID [設定必須]	JAAS コンフィグレーションファイル (jaas.conf) の 「jp.co.hitachi.soft.portal.samples.siteminder.header.login.param.<LOGIN_NAME の src 属性名>」で 設定した属性名 指定例 : uid	cosmi	-	-
ユーザ表示名 [設定任意]	JAAS コンフィグレーションファイル (jaas.conf) の 「jp.co.hitachi.soft.portal.samples.siteminder.header.param.<src 属性名>」で設定した属性名 指定例 : sn	cosmi	string	指定不可
役職情報 [設定任意]				
所属情報 [設定任意]				
ユーザ定義項目 [設定任意]				

(凡例) - : 該当しません。

注 パーソナライズ情報を表すキーは、SiteMinder からは取得できません。LDAP または DB を使用してください。

リポジトリファイルを直接編集する場合の設定例を次に示します。

```
<?xml version="1.0" encoding="Shift_JIS"?>
  <repository version="0200" xmlns="http://
portal.soft.hitachi.co.jp/portal/Repository2">
  <resource name="cosmi" type="cosminexus"/>
  <portal-mapping>
    <portalUser>
      <Mapping dest="LOGIN_NAME" src="uid">cosmi</Mapping>
      <Mapping dest="SN" type="string" src="sn">cosmi</
Mapping>
      <Mapping dest="GIVENNAME" type="string"
src="givenname">cosmi</Mapping>
      <Mapping dest="TITLE" type="string" src="title">cosmi</
Mapping>
    </portalUser>
  </portal-mapping>
</repository>
```

6.8 SSL アクセラレーターまたはリバースプロキシ使用時の設定

uCosminexus Portal Framework では、ポータル画面内に含まれる URL を動的に生成しています。SSL アクセラレーターまたはリバースプロキシを使用した環境で uCosminexus Portal Framework を使用する場合には、URL 変換規則を設定する必要があります。

6.8.1 URL の変換規則

uCosminexus Portal Framework では次の 2 種類の URL の変換規則があります。

プロトコルとサーバ名称を含む URL を生成する変換規則

プロトコルおよびサーバ名称をユーザが指定できる変換規則です。

変換後の URL の形式

{プロトコル}://{サーバ名称}:{ポート番号}/{ポータルプロジェクト名}/~

プロトコルとサーバ名称を含まない URL を生成する変換規則

プロトコルおよびサーバ名称を指定しないで、Web ブラウザに自動的に解釈させる変換規則です。

変換後の URL の形式

/{ポータルプロジェクト名}/~

SSL アクセラレーターまたはリバースプロキシを使用する場合、通常はプロトコルとサーバ名称を含まない URL を生成する変換規則にしますが、プロトコルとサーバ名称を明示的に指定しないと動作しない場合は、プロトコルとサーバ名称を含む URL を生成する変換規則にします。

6.8.2 変換規則が適用される URL

変換規則が適用される URL は次の表のとおりです。

表 6-18 変換規則が適用される URL

対象	URL
uriLookup タグライブラリ	[ログイン] 画面, ログアウト画面, およびホーム画面で生成される URL
contentUri タグライブラリ	インラインオブジェクトの URL
dynamicUri タグライブラリ	[パスワード変更] 画面の screen および action の URL
ポートレットユーティリティタグライブラリ	ポートレットユーティリティタグライブラリで生成した URL

対象	URL
ポートレットユーティリティクラスライブラリ	ポートレットユーティリティクラスライブラリで生成した URL
タブの URL	タブのリンク先の URL
ポートレットのタイトルバー内の各種ボタン	タイトルバー内の最大化、復元ボタンでの画像の src 属性値およびリンク先 URL
Web ポートレット内のリンク	ポートレット内に含まれるリンク先の URL
Web ポートレット内のインラインオブジェクト	ポートレット内にインラインオブジェクトの URL

! 注意事項

画面テンプレートやポートレットで記述した URL に変換規則を適用する場合は、上の表で示したライブラリを使用して URL を生成してください。

6.8.3 プロトコルとサーバ名称を含む URL を生成する変換規則の設定

URL の変換規則はプロパティファイル (PortalResources.properties) で設定します。プロパティファイル (PortalResources.properties) は { 設定ファイル格納ディレクトリ } に格納されています。デフォルトの格納ディレクトリは次のとおりです。

格納ディレクトリ

```
{uCosminexus Portal Framework インストールディレクトリ }¥conf
```

プロトコルとサーバ名称を含む URL を生成する変換規則を使用する場合は、次のプロパティを設定します。

表 6-19 プロトコルとサーバ名称を含む URL を生成する変換規則を使用する場合に設定するプロパティ

プロパティ名	設定値	必須
jp.co.hitachi.soft.portal.transurlflag	false	×
jp.co.hitachi.soft.portal.url.proxy	<ul style="list-style-type: none"> リバースプロキシの使用に関係なく、SSL アクセラレーターを使用する場合 SSL SSL アクセラレーターを使用せず、リバースプロキシだけ使用する場合 NONE 	

6. ポータル機能のカスタマイズ

プロパティ名	設定値	必須
jp.co.hitachi.soft.portal.url.httpdomain	<p>HTTP 通信をする際の、リバースプロキシまたは SSL アクセラレーターのホスト名称、ポート番号およびパス名を、次の形式で指定してください。 ホスト名称:ポート番号/パス名</p> <p>ポート番号およびパス名は省略できます。 また、すべてを省略した場合は、ポータルサーバのホスト名称とポート番号が使用されます。</p>	×
jp.co.hitachi.soft.portal.url.httpsdomain	<p>HTTPS 通信をする際の、リバースプロキシまたは SSL アクセラレーターのホスト名称、ポート番号およびパス名を、次の形式で指定してください。 ホスト名称:ポート番号/パス名</p> <p>ポート番号およびパス名は省略できます。 また、すべてを省略した場合は、ポータルサーバのホスト名称とポート番号が使用されます。</p>	×
jp.co.hitachi.soft.portal.transcontextflag	jp.co.hitachi.soft.portal.url.httpdomain プロパティおよび jp.co.hitachi.soft.portal.url.httpsdomain プロパティで指定したパス名でポータルプロジェクト名を置換する場合は true を設定してください。	×
transinline.compat	<p>jp.co.hitachi.soft.portal.portlet.PortletURI#transInlineURI メソッドについて、プロトコルとサーバ名称を含まない URL を生成します。プロトコルとサーバ名称を含む URL を生成する場合は false を指定してください。true に設定した場合、または未指定の場合、jp.co.hitachi.soft.portal.portlet.PortletURI#transInlineURI メソッドには、次のプロパティが適用されません。</p> <ul style="list-style-type: none"> • jp.co.hitachi.soft.portal.transurlflag • jp.co.hitachi.soft.portal.url.proxy • jp.co.hitachi.soft.portal.url.httpdomain • jp.co.hitachi.soft.portal.url.httpsdomain • jp.co.hitachi.soft.portal.transcontextflag 	×

(凡例) : 必須 × : 任意

注 SSL アクセラレーターを使用する場合だけ、必須の項目です。

設定したプロパティと変換後 URL の例を次に示します。ここでは、各サーバのアドレスを次のように仮定しています。

リバースプロキシ : www.reverse.com:8080

ポータルサーバ : www.portal-server.co.jp

ポータルプロジェクト名 : Portal

アクセス URI : index.jsp

表 6-20 プロパティの設定と変換後 URL の例

SSL アクセラレーター またはリバースプロキシ の設定	jp.co.hitachi.soft.portal. url.httpdomain または jp.co.hitachi.soft.portal. url.httpsdomain	jp.co.hitachi.soft.portal.t ranscontextflag	変換後 URL の例
ホスト名のみの変更	www.reverse.com:8080	false	http:// www.reverse.com:8080 /Portal/index.jsp
ホスト名およびパスを 追加（「/rev」を「/」に 割り当て）	www.reverse.com:8080 /rev	false	http:// www.reverse.com:8080 /rev/Portal/index.jsp
	www.reverse.com:8080 /rev/Portal	true	
ホスト名およびパスを 変更（「/rev」を「/ Portal」に割り当て）	www.reverse.com:8080 /rev	true	http:// www.reverse.com:8080 /rev/index.jsp
ホスト名およびパスを 削除（「/」を「/Portal」 に割り当て）	www.reverse.com:8080 /	true	http:// www.reverse.com:8080 /index.jsp

6.8.4 プロトコルとサーバ名称を含まない URL を生成する 変換規則の設定

URL の変換規則はプロパティファイル（PortalResources.properties）で設定します。プロパティファイル（PortalResources.properties）は { 設定ファイル格納ディレクトリ } に格納されています。デフォルトの格納ディレクトリは次のとおりです。

格納ディレクトリ

```
{uCosminexus Portal Framework インストールディレクトリ }¥conf
```

プロトコルとサーバ名称を含まない URL を生成する変換規則を使用する場合は、次のプロパティを設定します。

表 6-21 プロトコルとサーバ名称を含まない URL を生成する変換規則を使用する場合に
設定するプロパティ

プロパティ名	設定値	必須
jp.co.hitachi.soft.portal.transurlflag	true	

（凡例） : 必須

なお、標準 API ポートレットでセキュア属性を使用する場合は、jp.co.hitachi.soft.portal.transurlflag プロパティを true に設定していても、プロトコルとサーバ名称を含む URL を生成します。このため、次のプロパティも設定してください。

6. ポータル機能のカスタマイズ

また、default.jsp から <base> タグを削除します。default.jsp および <base> タグについては、「5.2.4 レイアウトテンプレート」を参照してください。

表 6-22 標準 API ポートレットでセキュア属性を使用する場合に設定するプロパティ

プロパティ名	設定値	必須
jp.co.hitachi.soft.portal.url.proxy	<ul style="list-style-type: none"> リバースプロキシの使用に関係なく、SSL アクセラレーターを使用する場合 SSL SSL アクセラレーターを使用せず、リバースプロキシだけ使用する場合 NONE 	1
jp.co.hitachi.soft.portal.url.httpdomain	<p>HTTP 通信をする際の、リバースプロキシまたは SSL アクセラレーターのホスト名称、ポート番号およびパス名を、次の形式で指定してください。 ホスト名称:ポート番号/パス名</p> <p>ポート番号およびパス名は省略できます。</p>	2
jp.co.hitachi.soft.portal.url.httpsdomain	<p>HTTPS 通信をする際の、リバースプロキシまたは SSL アクセラレーターのホスト名称、ポート番号およびパス名を、次の形式で指定してください。 ホスト名称:ポート番号</p> <p>ポート番号およびパス名は省略できます。</p>	2
jp.co.hitachi.soft.portal.transcontextflag	<p>jp.co.hitachi.soft.portal.url.httpdomain プロパティおよび jp.co.hitachi.soft.portal.url.httpsdomain プロパティで指定したパス名でポータルプロジェクト名を置換する場合は true を設定してください。</p>	x

(凡例) : 必須

注 1 SSL アクセラレーターを使用する場合は、必須の項目です。

注 2 jp.co.hitachi.soft.portal.transurlflag プロパティが true に設定されている場合は、この項目を省略できません。省略した場合、エラーメッセージが表示され、処理が中止されます。

6.9 性能チューニングと障害監視

uCosminexus Portal Framework には、ポータルの性能チューニングとして、ポートレットに表示されるコンテンツの並列表示と、並列表示で使用するスレッド数の設定、およびレスポンス向上のためのエイリアス指定ができます。また、ポートレットにコンテンツが正しく表示されるかを監視するポートレットの障害監視があります。

ここでは、性能チューニングのための設定、ポートレット並列表示と使用するスレッドの設定、および障害監視の設定について説明します。

6.9.1 性能チューニング

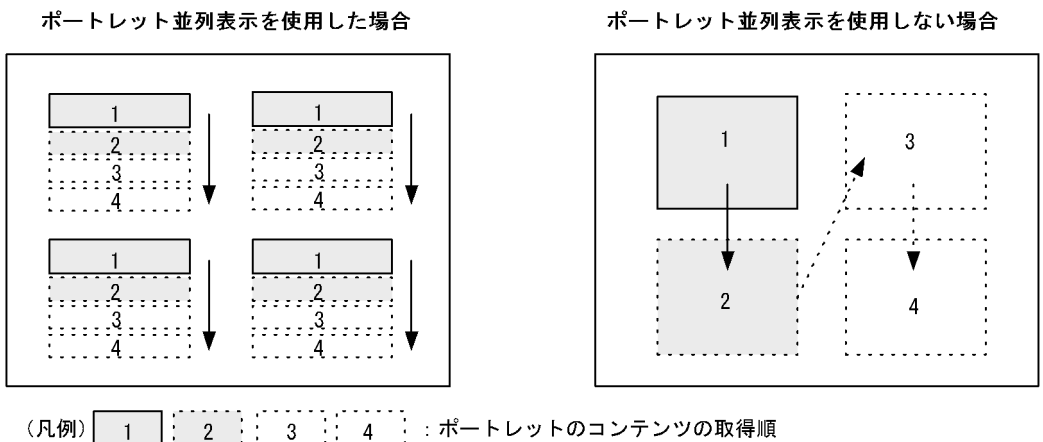
ポータルの性能チューニングとして、ポータル画面に表示するポートレットのコンテンツを並列に取得するか指定と、並列表示で使用するスレッド数を設定、コンテンツ取得時のエイリアスを設定、および Web コンテナの動作を設定できます。ポートレット並列表示と使用時のスレッド数の設定は、Portal Manager を使用します。

(1) ポートレット並列表示

ポートレット並列表示は、コンテンツ取得先のサーバ負荷のばらつきや、サーバの無応答、およびポータル画面上のポートレットの配置や種別に関係なく、ポータル画面を並列に表示する機能です。ポートレット並列表示を使用した場合、各ポートレットのコンテンツの情報を並行に取得します。並列表示を使用しない場合は、各ポートレットのコンテンツを順に取得していきます。

ポートレット並列表示使用時と未使用時のコンテンツ取得処理を次の図に示します。

図 6-12 ポートレット並列表示使用時・未使用時のコンテンツ取得処理



(2) ポートレット並列表示使用時のスレッド数

ポートレット並列表示では、コンテンツの情報を並列に取得するためにスレッドを使用します。処理に使用するスレッドは、スレッドプールで管理されます。使用するスレッド数の設定によっては、スレッドプールに空きスレッドがないため、コンテンツの情報取得に時間が掛かる場合があります。

効率的にコンテンツを取得するために必要な最大スレッド数の算出方法を次に示します。

最大スレッド数の算出方法

最大スレッド数 $\{ \{ 1 \text{画面当たりの平均表示ポートレット個数} \} \times \{ \text{ポータル} \text{の} 1 \text{画面当たりの平均ポートレットコンテンツ取得時間内に発生するポータルへの最大同時接続数} \} + 1 \} \times \text{安全係数}$

注 安全係数は 1.2 としています。ただし、性能を重視する場合、利用者数が予測できない場合、および利用者数が増加傾向にある場合は、安全係数を 1.2 より大きい値に設定してください。

最大スレッド数の算出例

次の条件の場合に必要な最大スレッド数を例として示します。

- 画面当たりのポートレット個数：平均 3 個
ただし、[ログイン] 画面、[パスワード変更] 画面、レイアウトカスタマイズ画面、ポートレットの最大化・最小化画面、および編集画面は 0 個としてカウントしてください。
- ポートレットコンテンツの取得時間：平均 2 秒
- 2 秒間当たりの利用者数：平均 100 人

$$(3 \times 100 + 1) \times 1.2 = 362 \text{スレッド}$$

なお、初期スレッド数は最大スレッド数と同じかそれ以下に設定してください。スレッドが確保できなかった場合、エラーメッセージを出力し、初期スレッド数および最大スレッド数をデフォルト値に戻します。

(3) 静的コンテンツ取得時のエイリアス設定

HTML ファイルや画像ファイルなどの静的なコンテンツは、アプリケーションサーバを経由して取得するとレスポンスタイムが低下します。これを回避するために、静的コンテンツを Web サーバから直接取得するバイパスを設定する方法があります。バイパスの設定手順を次に示します。

1. 静的コンテンツを任意のディレクトリにコピーします。

xcopy コマンドを使用して {PROJECT_HOME} から静的コンテンツだけを抜き出し、任意のディレクトリにディレクトリ階層ごとコピーします。コピーする静的コンテンツのファイルの拡張子は、「gif」「png」「html」「htm」「js」「css」です。

実行するコマンドを次に示します。なお、インストールディレクトリに合わせてコマンドを変更して実行してください。


```
xcopy {PROJECT_HOME}¥*.gif {任意のディレクトリ} /S /Q /I /K /Y /R
xcopy {PROJECT_HOME}¥*.png {任意のディレクトリ} /S /Q /I /K /Y /R
xcopy {PROJECT_HOME}¥*.html {任意のディレクトリ} /S /Q /I /K /Y /R
xcopy {PROJECT_HOME}¥*.htm {任意のディレクトリ} /S /Q /I /K /Y /R
xcopy {PROJECT_HOME}¥*.js {任意のディレクトリ} /S /Q /I /K /Y /R
xcopy {PROJECT_HOME}¥*.css {任意のディレクトリ} /S /Q /I /K /Y /R
```

コマンドの実行例を次に示します。

```
xcopy C:¥Program
Files¥Hitachi¥Cosminexus¥CC¥web¥containers¥MyServer¥webapps¥Port
al¥*.gif D:¥work¥public /S /Q /I /K /Y /R
xcopy C:¥Program
Files¥Hitachi¥Cosminexus¥CC¥web¥containers¥MyServer¥webapps¥Port
al¥*.png D:¥work¥public /S /Q /I /K /Y /R
xcopy C:¥Program
Files¥Hitachi¥Cosminexus¥CC¥web¥containers¥MyServer¥webapps¥Port
al¥*.html D:¥work¥public /S /Q /I /K /Y /R
xcopy C:¥Program
Files¥Hitachi¥Cosminexus¥CC¥web¥containers¥MyServer¥webapps¥Port
al¥*.htm D:¥work¥public /S /Q /I /K /Y /R
xcopy C:¥Program
Files¥Hitachi¥Cosminexus¥CC¥web¥containers¥MyServer¥webapps¥Port
al¥*.js D:¥work¥public /S /Q /I /K /Y /R
xcopy C:¥Program
Files¥Hitachi¥Cosminexus¥CC¥web¥containers¥MyServer¥webapps¥Port
al¥*.css D:¥work¥public /S /Q /I /K /Y /R
```

2. 静的コンテンツに対応する仮想ディレクトリを作成します。

エイリアスにコンテキストルート名、接続先のディレクトリに静的コンテンツをコピーしたディレクトリを指定した、仮想ディレクトリを作成します。

コンテキストルートが /Portal、Web サーバが Hitachi Web Server の場合、Hitachi Web Server 用コンフィグファイル (httpsd.conf) は次のように設定します。

```
Alias /Portal "D:/work/public"
```

3. リダイレクタの設定で、次の URL パターンをワーカーに振り分けるように設定します。

```
/{コンテキストルート名}/portal/*
/{コンテキストルート名}/*.jsp
/{コンテキストルート名}/js/csdc.js
/{コンテキストルート名}/WEB-INF/*
```

コンテキストルートが Portal、ワーカー名が worker1、Web サーバが Hitachi Web Server の場合、Hitachi Web Server 用リダイレクタ動作定義ファイル

(mod_jk.conf) は次のように設定します。

```
JkMount /Portal/portal/* worker1
JkMount /Portal/*.jsp worker1
JkMount /Portal/js/csdc.js worker1
JkMount /Portal/WEB-INF/* worker1
```

(4) Web コンテナの動作設定

uCosminexus Portal Framework は、Web コンテナ上で動作しています。Web コンテナの動作設定で性能チューニングを行うことができます。Web コンテナで設定可能な主な内容を次に示します。

同時実行スレッド数の制御の設定

静的コンテンツのキャッシュの設定

Web コンテナの動作設定の詳細については、「Cosminexus システム構築ガイド」、または「Cosminexus アプリケーションサーバ V8 機能解説 基本・開発編 (コンテナ共通機能)」を参照してください。

6.9.2 障害の監視

ポートレットの障害監視は、ポートレットにコンテンツが正しく表示されるかを監視する機能です。ポートレットの障害監視には、ポートレット全体の障害を監視する設定と、日立 API ポートレット単体の障害を監視する設定があります。

(1) ポートレット全体の障害監視

ポートレット全体の障害監視では、ポートレットの無応答監視時間 (タイムアウト時間) を設定し、コンテンツの取得開始から終了までを監視します。ポートレット全体の監視時間は、Portal Manager の [ポートレット並列実行の設定] 画面で設定します。なお、Multi Web Portlet と日立 API ポートレットの場合は、次の条件をすべて満たしたときにコンテンツが取得されて、ポートレット全体の障害監視対象となります。

- コンテンツをポータルサーバ経由で呼び出している、または ActionModule を利用している。
- ポートレットのタイムアウト時間を、1 ~ 86,400 秒の間で指定している。

注 ポータルサーバ経由でポートレットを呼び出す方法および ActionModule については、マニュアル「uCosminexus Portal Framework ポートレット開発ガイド」を参照してください。

設定した監視時間を過ぎた場合、ポートレットはコンテンツの取得処理を中断し、コンテンツにエラーメッセージを表示します。デフォルトでは、「接続先が大変混み合っております。しばらくお待ちいただいてから再度接続してください。」と表示されます。エラーメッセージを変更する場合は、JSP ファイル (portlettimer.jsp) の記述を変更します。JSP ファイル (portlettimer.jsp) については、「10.1.1 PortalResources.properties の詳細」および「5.2.7 ページテンプレート」を参照してください。

(2) 日立 API ポートレットの障害監視

日立 API ポートレットの障害監視では、ポートレット無応答監視時間 (タイムアウト時

間)を設定し、日立 API ポートレットのコンテンツ取得開始から終了までを監視します。ポートレット無応答監視時間は Portal Manager の [ポートレットの設定] 画面で設定します。なお、ポートレット全体の障害監視と、日立 API ポートレットのポートレット監視の両方を設定した場合、監視時間が長い設定が有効になります。例えば、ポートレット全体の監視時間を 180 秒に設定し、ポートレット A (日立 API ポートレット) を 120 秒、ポートレット B (日立 API ポートレット) を 240 秒に設定した場合、ポートレット A は 180 秒、ポートレット B は 240 秒で監視されます。

[ポートレットの設定] 画面の [ポートレット監視時間] 項目へ監視時間を入力しない場合は、無応答監視は行いません。また、監視時間に 0 未満、または 86,401 以上の値を設定した場合はエラーとします。監視時間の設定については、「6.9.3 性能チューニングと障害監視の設定方法」を参照してください。

また、iframe の呼び出し形式が 01-00 互換モードの場合、無応答監視は行いません。無応答監視を行う場合、「iFrame タグ: URL 変換方式」の項目に「通常モード」を設定してください。

日立 API ポートレットのポートレット監視時間および iFrame タグの呼び出し形式の設定方法については、「7.6 日立 API ポートレット (PAR 形式以外) および File ポートレットの設定」を参照してください。

無応答監視の interrupt 通知

無応答監視のタイムアウト発生時に、ポータルはポートレットに対して interrupt を通知します。interrupt を通知する回数は、ポートレットごとに設定できます。ポータルはポートレット実行開始から設定された監視時間が経過すると、1 回目の interrupt を通知します。その後、監視を再開し、以後監視時間の間隔を空けて、指定回数 interrupt を通知します。interrupt 通知回数の設定は、ポートレット定義ファイル (jetspeed-config.jcfg) の `hptl.portlet.nonresponse.timeout.trytimes` 属性で指定します。指定方法については、「10.2.1 ポートレット定義ファイル (jetspeed-config.jcfg)」を参照してください。

タイムアウト通知回数の指定とその動作を次の表に示します。

表 6-23 タイムアウト通知回数別動作一覧

タイムアウト通知回数	動作
記述なし	1 回通知する
0 以下	実行時エラー
1 ~ 10	指定回数通知する
11 以上	実行時エラー

注 ポートレットに [タイムアウト時間設定不正時エラー] 画面が表示されます。エラー画面に

6. ポータル機能のカスタマイズ

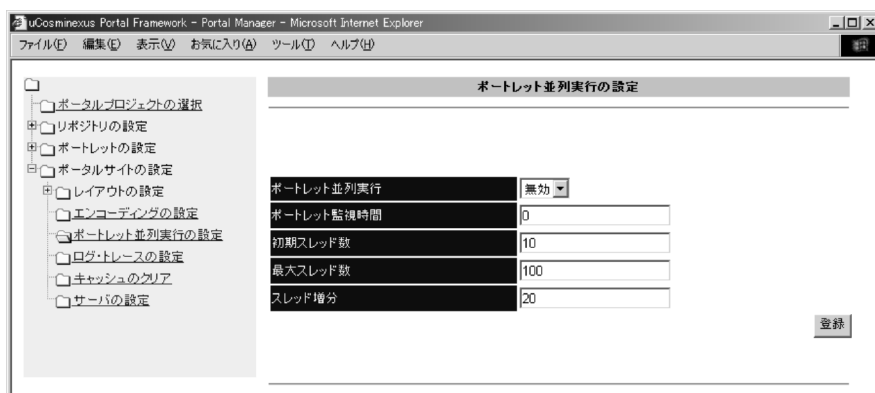
については、「5.2.7 ページテンプレート」を参照してください。

6.9.3 性能チューニングと障害監視の設定方法

ポートレット並列表示，使用するスレッド数およびポートレット監視時間は，Portal Manager で設定できます。Portal Manager の起動方法については、「2.4.1 Portal Manager の起動方法」を参照してください。ポートレット並列表示，使用するスレッド数およびポートレット監視時間の設定手順を次に示します。

1. Portal Manager のメニュー部から [ポータルサイトの設定] - [ポートレット並列実行の設定] を選択します。
次の画面が表示されます。

図 6-13 [ポートレット並列実行の設定] 画面



2. [ポートレット並列実行] を設定します。
ポートレット並列実行を設定します。設定する項目とその内容を次の表に示します。

表 6-24 [ポートレット並列実行] の設定内容

項目名	設定内容
ポートレット並列実行	ポートレット並列実行を使用するかどうかを指定します。指定する場合は [有効]，指定しない場合は [無効] を選択します。デフォルトは [無効] になります。 [有効] を指定した場合でポートレット監視時間および各スレッド数が指定されていないときは，ポートレット監視時間および各スレッド数にはそれぞれのデフォルトの値が設定されます。

3. [ポートレット監視時間] を設定します。
ポートレット監視時間を設定します。設定する項目とその内容を次の表に示します。

表 6-25 [ポートレット監視時間] の設定内容

項目名	設定内容
ポートレット監視時間	ポートレットのコンテンツ取得時の実行監視時間を設定します。監視時間には 0 ~ 86,400 秒を設定します。0 を指定した場合は監視しません。デフォルトは 0 (監視しない) になります。 なお、86,401 以上またはマイナスの数値を指定した場合はエラーになります。

4. スレッド数を設定します。

スレッド数を設定します。設定する項目とその内容を次の表に示します。

表 6-26 並列表示使用時のスレッド数の設定内容

項目名	設定内容
初期スレッド数	ポータル起動時に使用する初期スレッド数を設定します。初期スレッド数には 1 ~ 1,000 を設定します。デフォルトは 10 になります。スレッド数は利用可能なすべてのポートレット数より大きくなるように設定してください。
最大スレッド数	ポートレット並列表示使用時の最大スレッド数を設定します。最大スレッド数には 1 ~ 1,000 を設定します。デフォルトは 100 になります。
スレッド増分	ポートレット並列表示使用時にスレッドが不足した場合に使用するスレッド数を設定します。使用するスレッド数には 1 ~ 1,000 を設定します。デフォルトは 20 になります。

5. [登録] ボタンをクリックします。

設定が登録されます。

なお、特定のポートレットのコンテンツ取得に時間が掛かる場合は、取得に時間の掛かるポートレットのコンテンツ取得監視時間を短く設定してください。監視時間を短く設定することで、ほかのコンテンツが取得されるようになります。監視時間を短く設定できない場合は、スレッドプールのスレッド数を増やしてください。

6.10 DB を使用するポートレットのための DB チューニング

DB に格納されている情報を使用して動作する日立 API ポートレットのために、DB をチューニングする方法について説明します。

(1) 環境変数グループの登録

uCosminexus Portal Framework ではさまざまなポートレット（アプリケーション）が動作します。リポジトリとして HiRDB を使用する場合、アプリケーション同士の設定が干渉し合わないよう、アプリケーション毎に環境変数グループ（システムグループ）を登録する必要があります。ここでは、uCosminexus Portal Framework の環境変数グループ名は、「HPTLPORTAL」として登録するものとします。この環境変数グループを Cosminexus の Web アプリケーションサーバに引き継ぎます。なお、環境変数グループの詳細は、マニュアル「スケーラブルデータベースサーバ HiRDB Version 8 UAP 開発ガイド（Windows(R) 用）」またはマニュアル「HiRDB Version 9 UAP 開発ガイド（Windows(R) 用）」を参照してください。

必ず設定しなければならない環境変数を次の表に示します。

表 6-27 設定必須の環境変数

項目	機能	設定
PDHOST	接続するサーバのホスト名を指定します。	DB サーバのホスト名
PDUSER	ユーザ名およびパスワードを指定します。「ユーザ名 / パスワード」の形式で指定してください。	認可識別子 / パスワード
PDNAMEPORT	接続するサーバのポート番号（システム定義の pd_name_port で指定した値）を指定します。	DB ポート番号
PDSWATCHTIME	HiRDB サーバが HiRDB クライアントからの要求に対する応答を返してから、次にクライアントからの要求がくるまでのサーバの最大待ち時間（秒）を指定します。	0
PDLOCKSKIP	無排他条件判定をするかどうかを指定します。YES の場合は、無排他条件判定をします。	YES

(2) DB Connector の設定

接続情報の設定で JNDI を使用する場合は、Cosminexus の Web アプリケーションサーバの DB Connector を設定します。DB Connector を設定するため、Resource Adapters として Cosminexus Component Container の DB Connector 機能を使用します。

Resource Adapters への組み込み方法については、マニュアル「Cosminexus アプリケーションサーバ V8 機能解説 基本・開発編（Web コンテナ）」、またはマニュアル「Cosminexus V9 アプリケーションサーバ 機能解説 基本・開発編（Web コンテ

ナ)」を参照してください。

DB Connector の Connector 属性ファイルの設定内容 (HiRDB の場合) を次に示します。

<config-property> タグで設定する内容

<config-property> タグでは次の項目を設定してください。

表 6-28 <config-property> タグの指定項目

項目名	値
description	@HIRDBENVGRP=HPTLPORAL

<property> タグで設定する内容

uCosminexus Portal Framework では、取得する情報によって使用する DB コネクション数が変わります。<property> タグの MinPoolSize および MaxPoolSize に「(3) DB コネクション数の算出」で算出した最大コネクション数を設定してください。

(3) DB コネクション数の算出

接続先を DB に設定した場合、取得する情報によって使用するコネクション数が異なります。DB から取得する情報の設定内容に応じて、DB の最大接続コネクション数を設定してください。取得する情報によって使用するコネクション数を次の表に示します。

表 6-29 取得する情報によって使用するコネクション数

取得する情報	uCosminexus Portal Framework が 1 リクエスト当たり使用する最大コネクション数
ユーザ情報, グループ情報, 組織情報	1
共通情報	2

なお、各情報を同時に取得することはないので、すべての接続先を DB に設定した場合でも、1 リクエスト当たり最大 2 コネクションになります。

コネクション数の計算例 (HiRDB, Oracle, SQL Server 共通)

ユーザ情報および共通情報を DB に接続して取得する場合、1 リクエスト当たり二つのコネクションを使用します。uCosminexus Portal Framework のリクエストを処理する同時実行数を 10 とした場合、最大で 20 コネクションを同時に使用します。同時実行数は、ユーザ定義ファイル (usrconf.properties) の `webserver.connector.ajp13.max_threads` に指定した値です。計算式を次に示します。

1 リクエスト当たりのコネクション数 (2) × 同時実行数 (10) = 最大コネクション数 (20)

6. ポータル機能のカスタマイズ

なお、HiRDBを使用する場合は、上記の計算式で算出される最大接続数以上の値を `pd_max_users` に設定してください。

6.11 設定ファイル格納ディレクトリの指定方法の変更

設定ファイル格納ディレクトリを Java システムプロパティで指定できます。設定ファイル格納ディレクトリは web.xml ファイルで指定しているため、設定ファイル格納ディレクトリを変更するたびに war ファイルを再作成する必要がありますが、Java システムプロパティで指定することで再作成する必要がなくなります。

ここでは、Java システムプロパティで設定ファイル格納ディレクトリを指定する方法について説明します。

(1) Java システムプロパティの設定

Java システムプロパティに設定ファイル格納ディレクトリ内の TurbineResources.properties ファイルのパスを設定します。ポータルプロジェクトが動作する J2EE サーバの usrconf.cfg (J2EE サーバ用オプション定義ファイル) で設定する場合の設定例を次に示します。

```
add.jvm.arg=-Dhptl.turbineresources.key.project1=C:/CosmiPortal/conf/TurbineResources.properties
```

! 注意事項

Portal Manager の usrconf.cfg にも同様の設定を行ってください。Portal Manager の usrconf.cfg ファイルは次のディレクトリに格納されています。

```
{Cosminexus インストールディレクトリ}¥CC¥web¥containers¥portaladmin¥usrconf
```

(2) Web アプリケーションの DD (web.xml) の編集

ポータルプロジェクトの web.xml を編集します。web.xml は次に示すディレクトリに格納されています。

格納ディレクトリ

```
{PROJECT_HOME}¥WEB-INF
```

web.xml で定義している jetspeed サブレットのプロパティ値の

TurbineResources.properties ファイルを指定しているプロパティ「properties」を「system.properties」に変更し、TurbineResources.properties ファイルを指定している Java システムプロパティのキー名を指定します。Java システムプロパティのプレフィクスには「hptl.turbineresources.key.」を使用してください。なお、プロパティ「properties」とプロパティ「system.properties」の両方を指定した場合は、プロパティ「system.properties」の設定が有効になります。

6. ポータル機能のカスタマイズ

Java システムプロパティのキー名が「`hptl.turbineresources.key.project1`」の場合の設定例を次に示します。太字部分を変更してください。

```
<servlet>
  <servlet-name>
    jetspeed
  </servlet-name>
  <servlet-class>
    org.apache.turbine.Turbine
  </servlet-class>

  <init-param>
    <param-name>system.properties</param-name>
    <param-value>
      hptl.turbineresources.key.project1
    </param-value>
  </init-param>
  <init-param>
    <param-name>classname</param-name>
    <param-value>
      org.apache.jetspeed.services.resources.VariableResourcesService
    </param-value>
  </init-param>
  <load-on-startup>1</load-on-startup>
</servlet>
```

7

ポートレットの登録

この章では、ポートレットの登録手順、およびポートレット登録時の注意事項などについて説明します。

7.1 ポートレット登録の概要

7.2 標準API ポートレットのデプロイ

7.3 標準API ポートレットのアンデプロイ

7.4 日立API ポートレット (PAR 形式) のデプロイ

7.5 日立API ポートレット (PAR 形式) のアンデプロイ

7.6 日立API ポートレット (PAR 形式以外) および File ポートレットの設定

7.7 Web コンテンツポートレットの設定

7.8 Web ポートレットの設定

7.9 分散ポートレットの設定

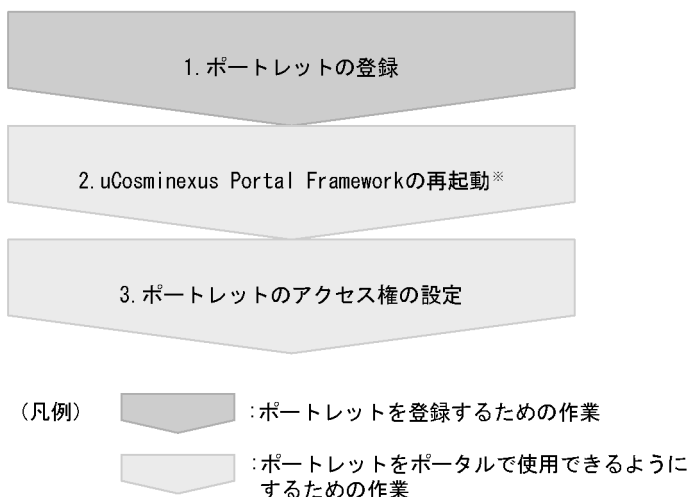
7.10 ポートレットの削除

7.11 ナビゲーションメニュー対応ポートレットの登録

7.1 ポートレット登録の概要

ポータル画面でポートレットを表示するには、ポートレットを登録し、アクセス権を設定する必要があります。ポートレットの登録からアクセス権の設定までの流れを次の図に示します。

図 7-1 ポートレットの登録からアクセス権の設定までの流れ



注※ J2EEサーバモードの場合、標準APIポートレットをデプロイするときは、uCosminexus Portal Frameworkを再起動する必要はありません。

図の説明

1. ポートレットの登録

ポータルプロジェクトにポートレットを登録します。登録方法は、ポートレットの種類によって異なります。なお、ナビゲーションメニューに対応する日立 API ポートレットを登録する場合だけ、設定する必要がある項目があります。ナビゲーションメニューに対応する日立 API ポートレットの登録方法については、「7.11 ナビゲーションメニュー対応ポートレットの登録」を参照してください。

- 標準 API ポートレットの場合
コマンドでデプロイして登録します。詳細は、「7.2 標準 API ポートレットのデプロイ」を参照してください。
- 日立 API ポートレット (PAR 形式) の場合
クラスファイルなどをパッケージングする必要がある日立 API ポートレットの場合は、Portal Manager またはコマンドでデプロイして登録します。詳細は、「7.4 日立 API ポートレット (PAR 形式) のデプロイ」を参照してください。
- 日立 API ポートレット (PAR 形式以外) および File ポートレットの場合

クラスファイルなどをパッケージングする必要がない日立 API ポートレット、および File ポートレットの場合は、Portal Manager で登録します。詳細は、「7.6 日立 API ポートレット (PAR 形式以外) および File ポートレットの設定」を参照してください。

- Web コンテンツポートレットの場合

HTTPS 通信時に使用する証明書の登録およびプロキシサーバの設定などの前提となる設定を行い、運用管理ポートレットを使用して、ポートレットを登録します。前提となる設定については、「7.7 Web コンテンツポートレットの設定」を参照してください。また、運用管理ポートレットでのポートレットの登録方法については、マニュアル「uCosminexus Portal Framework 運用管理者ガイド」を参照してください。

- Web ポートレットの場合

Portal Manager で、プロキシサーバのホストやポート番号などの前提となる項目を設定して、登録します。詳細は、「7.8 Web ポートレットの設定」を参照してください。

- 分散ポートレットの場合

Portal Manager で、プロキシサーバのホストやポート番号などの前提となる項目を設定して、登録します。詳細は、「7.9 分散ポートレットの設定」を参照してください。

2. uCosminexus Portal Framework の再起動

登録したポートレットをポータル画面で使用するには、登録後に uCosminexus Portal Framework を再起動する必要があります。uCosminexus Portal Framework の起動と終了については、「8.1 ポータルの起動と終了」を参照してください。ただし、J2EE サーバモードで標準 API ポートレットだけを登録した場合（ユーザ属性を設定しない場合）は、uCosminexus Portal Framework を再起動する必要はありません。

3. ポートレットのアクセス権の設定

登録したポートレットは、レイアウトカスタマイズ画面でユーザが任意に選択して、自分のポータル画面に表示できます。ただし、レイアウトカスタマイズ画面で選択できるのは、そのユーザが利用権限を持つポートレットだけです。登録したポートレットにアクセス権（管理権限および利用権限）を設定する方法については、マニュアル「uCosminexus Portal Framework 運用管理者ガイド」を参照してください。

7.2 標準 API ポートレットのデプロイ

標準 API ポートレットは、ポートレット開発者が作成した WAR 形式のファイルを、Web コンテナにデプロイして登録します。また、標準 API ポートレットで定義されたユーザ属性を利用するためには、デプロイする前に、使用するユーザ属性をマッピング定義情報に追加しておく必要があります。

WAR 形式ファイルの作成方法については、マニュアル「uCosminexus Portal Framework ポートレット開発ガイド」を参照してください。

ここでは、ユーザ属性の設定方法、および標準 API ポートレットのデプロイ方法について説明します。なお、標準 API ポートレットのデプロイ方法は、Web コンテナの動作モードによって異なります。

7.2.1 ユーザ属性の設定方法

標準 API ポートレットでユーザ属性を定義している場合は、その属性を uCosminexus Portal Framework のマッピング情報に追加する必要があります。マッピング情報の追加には、Portal Manager を使用します。Portal Manager の起動方法については、「2.4.1 Portal Manager の起動方法」を参照してください。

ユーザ属性の設定手順を次に示します。

1. 標準 API ポートレットのポートレットアプリケーション DD (portlet.xml) を開いて、使用するユーザ属性を抽出します。
使用するユーザ属性は、ポートレットアプリケーション DD (portlet.xml) の <user-attribute> 要素内で定義されています。<user-attribute> 要素内にある、<name> 要素に設定されている値を、すべて抽出してください。
なお、ポートレットアプリケーション DD (portlet.xml) の詳細は、マニュアル「uCosminexus Portal Framework 運用管理者ガイド」を参照してください。
2. Portal Manager のメニュー部から、[リポジトリの設定] - [マッピング情報] - [ユーザ情報] を選択します。
次の画面が表示されます。

図 7-2 [ユーザ情報の設定] 画面 (標準 API ポートレットのユーザ定義項目の設定)

3. [ユーザ定義項目追加] ボタンをクリックします。
次の画面が表示されます。

図 7-3 [ユーザ定義項目の設定] 画面 (標準 API ポートレットのユーザ定義項目の設定)

4. ユーザ定義項目を設定します。
設定する内容を次の表に示します。

7. ポートレットの登録

表 7-1 [ユーザ定義項目の設定] 画面の設定内容 (標準 API ポートレットのユーザ定義項目の設定)

項目名	設定内容	必須
項目名	手順 1. で抽出した, 標準 API ポートレットで使用するユーザ属性を指定します。	
属性名	[項目名] に入力したユーザ属性の, リポジトリ上での属性名を指定します。	

(凡例) : 必須

- [設定画面へ反映] ボタンをクリックします。
[ユーザ情報の設定] 画面に戻ります。
- ユーザ定義項目の [格納時の型], [接続先 (ユーザ用)], [オプション], および [接続先 (管理用)] を設定します。
設定する内容を次の表に示します。

表 7-2 ユーザ定義項目の設定内容 (標準 API ポートレットのデプロイ)

項目名	設定内容	必須
格納時の型	格納時の型を指定します。指定できる項目は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> 文字列型 バイナリ型 DN 型 	
接続先 (ユーザ用)	エンドユーザがポータルにログインする場合に使用する, リポジトリの接続先名称を指定します。登録されているすべての接続先名称を指定できます。	
オプション	この属性がマルチバリュの場合, 「multivalued」を指定できます。 リポジトリに DB を使用している場合は「multivalued= 値」で指定します。HiRDB で BLOB 型分割送受信を有効にする場合は「multivalued=zip, bufsize= 分割バイトサイズ (1 ~ 2,147,483,647)」を指定します。	×
接続先 (管理用)	管理者が運用管理ポートレットからユーザ情報を管理する場合に使用する, リポジトリの接続先名称を指定します。指定できる接続先名称は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> 接続先が DB の接続先名称 接続先が LDAP の接続先名称 [接続先 (管理用)] を指定する場合は, リポジトリに設定されている属性名を, [接続先 (ユーザ用)] で指定したリポジトリのものとして一致させてください。 なお, 指定を省略した場合, 運用管理ポートレットからアクセスするときにも [接続先 (ユーザ用)] に指定したリポジトリに接続します。	×

(凡例) : 必須 × : 任意

注

[接続先 (管理用)] の指定を省略した場合, [接続先 (ユーザ用)] で接続先が Cosminexus の接続先名称を指定しているときは, 運用管理ポートレットで, 設定した項目をキーにした検索

ができなくなります。

この問題を回避するには、[接続先 (管理用)] で、管理者が運用管理ポートレットからユーザ情報を管理する場合に使用する接続先を指定してください。

7. [登録] ボタンをクリックします。
設定した情報が登録されます。
8. 手順 1. で抽出したユーザ属性すべてについて、手順 3. ~ 7. を繰り返します。

! 注意事項

ユーザ定義項目を追加したあと、[ユーザ情報の設定] 画面で [登録] ボタンをクリックしないでほかの画面に移ったり、Web ブラウザを閉じたりすると、設定した情報は保存されません。ユーザ定義項目を編集したあとは、必ず [登録] ボタンをクリックしてください。

7.2.2 デプロイ方法

J2EE サーバに、次のどちらかの方法で標準 API ポートレットをデプロイします。

uCosminexus Portal Framework のコマンドでデプロイする

Cosminexus のサーバ管理コマンドでデプロイする

それぞれについて説明します。なお、J2EE サーバに標準 API ポートレットをデプロイする場合は、デプロイ後に uCosminexus Portal Framework を再起動する必要はありません。

(1) uCosminexus Portal Framework のコマンドでデプロイする

uCosminexus Portal Framework のコマンドでデプロイする場合は、adportletapp.bat コマンドを使用します。adportletapp.bat コマンドの詳細は、「10.3 uCosminexus Portal Framework のコマンド」を参照してください。

(2) Cosminexus のサーバ管理コマンドでデプロイする

Cosminexus のサーバ管理コマンドでデプロイする場合の手順を次に示します。

1. J2EE アプリケーションファイル (EAR 形式) を作成します。
ポートレット開発者が作成したポートレットアーカイブファイル (WAR 形式) から、デプロイ用の設定を追加した J2EE アプリケーションファイル (EAR 形式) を作成します。
J2EE アプリケーションファイル (EAR 形式) を作成するには、makeapp.bat コマンドを使用します。makeapp.bat コマンドの詳細は、「10.3 uCosminexus Portal Framework のコマンド」を参照してください。
2. J2EE アプリケーションファイル (EAR 形式) をデプロイします。

7. ポートレットの登録

手順 1. で作成した J2EE アプリケーションファイル (EAR 形式) を, Cosminexus のサーバ管理コマンドを使用してデプロイします。

Cosminexus のサーバ管理コマンドについては, マニュアル「Cosminexus アプリケーションサーバ V8 アプリケーション設定操作ガイド」, またはマニュアル「Cosminexus V9 アプリケーションサーバ アプリケーション設定操作ガイド」を参照してください。

7.3 標準 API ポートレットのアンデプロイ

ここでは、デプロイした標準 API ポートレットをアンデプロイする手順について説明します。

標準 API ポートレットのアンデプロイ方法は、Web コンテナの動作モードによって異なります。それぞれの方法について説明します。

7.3.1 アンデプロイ方法

次のどちらかの方法で標準 API ポートレットをアンデプロイします。

- uCosminexus Portal Framework のコマンドでアンデプロイする
rmportletapp.bat コマンドを使用します。コマンドの詳細は、「10.3 uCosminexus Portal Framework のコマンド」を参照してください。
- Cosminexus のサーバ管理コマンドでアンデプロイする
J2EE アプリケーションファイル (EAR 形式) をアンデプロイするための
Cosminexus のサーバ管理コマンドについては、マニュアル「Cosminexus アプリケーションサーバ V8 アプリケーション設定操作ガイド」、またはマニュアル「Cosminexus V9 アプリケーションサーバ アプリケーション設定操作ガイド」を参照してください。

なお、J2EE サーバに標準 API ポートレットをアンデプロイする場合は、アンデプロイ後に uCosminexus Portal Framework を再起動する必要はありません。

7.4 日立 API ポートレット (PAR 形式) のデプロイ

日立 API ポートレットでは、ポートレットのタイトルや設定するボタンなどの設定を定義したデプロイ定義ファイルやクラスファイルなどをポートレットアーカイブ (PAR ファイル) にパッケージングできます。ポートレットアーカイブ (PAR ファイル) の作成方法については、マニュアル「uCosminexus Portal Framework ポートレット開発ガイド」を参照してください。

ここでは、PAR 形式の日立 API ポートレットをデプロイする方法について説明します。

PAR 形式の日立 API ポートレットをデプロイする方法には、次の 2 種類があります。

- Portal Manager でデプロイする方法
- コマンドでデプロイする方法

Portal Manager を使用したポータル構築時にポートレットを登録する場合は Portal Manager でデプロイする、ポータルの運用時にポートレットを更新する場合はコマンドを使用して自動的にデプロイする、というように、状況に応じてどちらかの方法を選択してください。

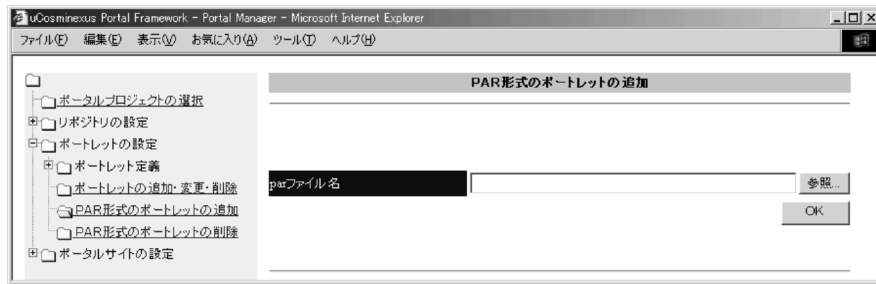
また、デプロイ時には、ポートレットアーカイブ (PAR ファイル) に格納された Web アプリケーション DD (web.xml) の内容がポータルプロジェクトの Web アプリケーション DD (web.xml) に追記されます。追記される内容については、マニュアル「uCosminexus Portal Framework ポートレット開発ガイド」を参照してください。

7.4.1 Portal Manager でデプロイする方法

Portal Manager を使用して PAR 形式の日立 API ポートレットをデプロイする手順について説明します。Portal Manager の起動方法については、「2.4.1 Portal Manager の起動方法」を参照してください。

1. Portal Manager のメニュー部から [ポートレットの設定] - [PAR 形式のポートレットの追加] を選択します。
次の画面が表示されます。

図 7-4 [PAR 形式のポートレットの追加] 画面



2. [par ファイル名] に、登録する PAR ファイル名を入力します。
ポートレットアーカイブ (PAR ファイル) をフルパスで指定します。 [参照 ...] ボタンをクリックしてファイルを指定することもできます。
3. [OK] ボタンをクリックします。
ポートレットアーカイブ (PAR ファイル) がデプロイされ、ポートレットが登録されます。

なお、すでに同じ名称のポートレットが登録されている場合、このままデプロイを実行するかどうかを確認する画面が表示されます。デプロイを続行した場合、既存のポートレットはいったんアンデプロイされ、その後、新規にポートレットが登録されます。

7.4.2 コマンドでデプロイする方法

PAR 形式の日立 API ポートレットをコマンドでデプロイするには、adportlet.bat コマンドを使用します。コマンドの詳細は、「10.3 uCosminexus Portal Framework のコマンド」を参照してください。

7.5 日立 API ポートレット (PAR 形式) のアンデプロイ

ここでは、デプロイした PAR 形式の日立 API ポートレットをアンデプロイする手順について説明します。

PAR 形式の日立 API ポートレットをアンデプロイする方法には、次の 2 種類があります。

- Portal Manager でアンデプロイする方法
- コマンドでアンデプロイする方法

なお、アンデプロイできるポートレットは、PAR 形式の日立 API ポートレットだけです。

また、アンデプロイ時には、デプロイ時にポータルプロジェクトの Web アプリケーション DD (web.xml) に追記した、ポートレットアーカイブ (PAR ファイル) に格納された Web アプリケーション DD (web.xml) の内容は削除されません。

7.5.1 Portal Manager でアンデプロイする方法

Portal Manager を使用してアンデプロイする手順について説明します。Portal Manager の起動方法については、「2.4.1 Portal Manager の起動方法」を参照してください。

1. Portal Manager のメニュー部から [ポートレットの設定] - [PAR 形式のポートレットの削除] を選択します。
次の画面が表示されます。

図 7-5 [PAR 形式のポートレットの削除] 画面



2. 削除したいポートレットのチェックボックスにチェックを入れ,[OK] ボタンをクリックします。
削除するかどうかを確認する画面が表示されます。
3. [OK] ボタンをクリックします。
PAR 形式ファイルがアンデプロイされ, ポートレットが削除されます。

7.5.2 コマンドでアンデプロイする方法

PAR 形式の日立 API ポートレットをコマンドでデプロイするには, `rmportlet.bat` コマンドを使用します。コマンドの詳細は, 「10.3 uCosminexus Portal Framework のコマンド」を参照してください。

7.6 日立 API ポートレット（PAR 形式以外） および File ポートレットの設定

ここでは、日立 API ポートレット（PAR 形式以外）および File ポートレットを新規に登録したり、登録した内容を変更したりするときの手順について説明します。

7.6.1 登録（日立 API ポートレット・File ポートレット）

ポートレットの登録には、Portal Manager を使用します。Portal Manager の起動方法については、「2.4.1 Portal Manager の起動方法」を参照してください。

日立 API ポートレットおよび File ポートレットを登録する手順を次に示します。

1. Portal Manager のメニュー部から [ポートレットの設定] - [ポートレットの追加・変更・削除] を選択します。
次の画面が表示されます。

図 7-6 [ポートレットの追加・変更・削除] 画面（日立 API ポートレット・登録）



2. [ポートレットの追加・変更・削除] 画面で [新規作成] ボタンをクリックします。
次の画面が表示されます。

図 7-7 [ポートレットの新規作成] 画面 (日立 API ポートレット)

ポートレットの新規作成		
ポートレット名	<input type="text"/>	
ポートレット種別	Multi JSP Portlet <input type="button" value="▼"/>	
ポートレットのタイトル	ja	<input type="text"/>
	en	<input type="text"/>
ポートレットの説明	ja	<input type="text"/>
	en	<input type="text"/>
ウィンドウタイトル	ja	<input type="text"/>
	en	<input type="text"/>
		<input type="button" value="次へ"/> <input type="button" value="キャンセル"/>

3. ポートレットの作成に必要な項目を設定します。
 ポートレットの新規作成で設定する項目を次の表に示します。

表 7-3 新規作成で設定する項目 (日立 API ポートレットおよび File ポートレット)

項目名	設定内容	必須
ポートレット名	ポートレットの名称を指定します。指定できるのは、32文字までの半角英数字です。	
ポートレット種別	日立 API ポートレットの場合 [Multi JSP Protlet] を、File ポートレットの場合 [Multi File Portlet] を選択します。	
ポートレットのタイトル	ポートレットのタイトルを指定します。ここで指定した文字列が、ポートレットのタイトルバーに表示されます。 [ja] には日本語, [en] には英語で指定します。 指定できる最大文字数は、半角でも全角でも 80 文字までです。 指定しない場合、ポートレット名がタイトルとして使用されます。	×
ポートレットの説明	ポートレットの説明文を入力します。 [ja] には日本語, [en] には英語で指定します。 指定できる最大文字数は、半角でも全角でも 80 文字までです。 指定しない場合、ユーザがレイアウトカスタマイズ画面 ([ポートレットの選択] 画面) でポートレットを選択したときに、説明欄が空欄のままとなります。	×

7. ポートレットの登録

項目名	設定内容	必須
ウィンドウタイトル	ウィンドウのタイトルを指定します。ここで指定した文字列が、新規ウィンドウ画面でポートレットを表示する際、Web ブラウザのタイトルバーに表示されます。 [ja] には日本語, [en] には英語で指定します。 指定できる最大文字数は、半角でも全角でも 80 文字までです。 指定しない場合、ウィンドウのタイトルはポートレットタイトルになります。なお、ポートレットタイトルも指定されていない場合は、ポートレット名になります。	×

(凡例) : 必須 × : 任意

注

プロパティファイル (PortalResources.properties) の jp.co.hitachi.soft.portal.i18n.supports 属性で、日本語および英語以外の言語を追加している場合は、その言語の設定項目が表示されます。各項目で指定できる最大文字数は、日本語および英語の場合と同じです。

4. [次へ] ボタンをクリックします。

選択したポートレットの種別に応じた [ポートレットの設定] 画面が表示されます。ここでは、日立 API ポートレットの設定画面を示します。

図 7-8 [ポートレットの設定] 画面 (日立 API ポートレット)

ポートレットの設定	
ポートレット名	Sample1
ポートレット種別	Multi JSP Portlet
ポートレットのタイトル	ja ポートレットタイトル
	en Portlet-Title
ポートレットの説明	ja ポートレットの説明
	en Description of Sample1
ウィンドウタイトル	ja ポートレットウィンドウタイトル
	en Portlet-Window Title
ポートレット横幅サイズ	<input checked="" type="radio"/> 指定なし <input type="radio"/> サイズ小 <input type="radio"/> サイズ中 <input type="radio"/> サイズ大
画面モードフラグ	<input type="checkbox"/> 最小化 <input checked="" type="checkbox"/> 最大化 <input type="checkbox"/> 閉じる
表示方法	<input type="checkbox"/> レイアウト不可
編集モード	無効
その他の項目	
項目名	<input type="text"/>
設定値	<input type="text"/>
	<input type="button" value="変更"/> <input type="button" value="追加"/> <input type="button" value="削除"/>
	<input type="text"/>
マッピング定義ファイルの場所	
	<input type="text"/>

5. ポートレットを設定します。

ポートレットを設定します。設定できる項目を次の表に示します。

表 7-4 設定できる項目 (日立 API ポートレットおよび File ポートレット)

項目名	設定内容	必須
ポートレット横幅サイズ	ポートレットの横幅サイズを設定します。[指定なし][サイズ小][サイズ中]または[サイズ大]が選択できます。	×
画面モードフラグ	ポートレットのタイトルバーに表示されるボタンを設定します。[最小化][最大化]または[閉じる]ボタンを設定できます。	×
表示方法	ポートレットを、レイアウトカスタマイズ画面([ポートレットの選択]画面)でレイアウトできるポートレットとして表示させるかどうかを設定します。[レイアウト不可]にチェックを付けると、レイアウトカスタマイズ画面([ポートレットの選択]画面)上に表示されないで、このポートレットを使用する他のポートレットからだけ呼び出せるポートレットになります。	×

7. ポートレットの登録

項目名	設定内容	必須
編集モード	ポートレットに編集画面を使用するかどうかを指定します。編集画面を使用する場合は [有効] を、使用しない場合は [無効] を選択します。	×
その他の項目	ユーザが定義した任意のパラメタなどを登録します。[項目名] にパラメタの項目名を、[設定値] にパラメタの設定値を入力してください。設定できる内容の詳細は、「7.6.3 [その他の項目] に設定できる内容」を参照してください。	×
マッピング定義ファイルの場所	マッピング定義ファイルの作成場所を指定します。マッピング定義ファイルはマルチデバイスコンテンツの項目で設定した内容を保存するためのファイルです。ここで指定された場所にマッピング定義ファイルが作成されます。ポートレットディレクトリ (「{PROJECT_HOME}/portlets/{ポートレット名称}」) 下の任意のファイルを指定します。 なお、生成されるマッピング定義ファイルの拡張子は、.xml となります。	
マルチデバイスコンテンツ	クライアント種別ごとにポートレットに表示するコンテンツの格納先を指定します。該当するクライアント種別 ([HTML] [CHTML] または [HDML]) のテキストボックスに、「{PROJECT_HOME}/portlets/」下からのパスを入力してください。クライアント種別については、「6.4 クライアント種別判定の設定」を参照してください。 指定例：/portlets/sample1/sample1.jsp	×
iframe タグ：URL 変換方式	iframe タグの src 属性に相対パスが指定されているときの動作を指定します。[通常モード] と [01-00 互換モード] から選択できます。 [通常モード] ではポータルサーバを経由してコンテンツを取得します。[01-00 互換モード] ではポータルサーバを経由しないでコンテンツを取得します。 デフォルトは [通常モード] です。	×
ポートレット監視時間	ポートレットの無応答監視時間 (タイムアウト時間) を設定します。監視時間には 0 ~ 86,400 秒を設定します。0 を指定した場合は監視しません。 なお、86,401 以上またはマイナスの数値を指定するとエラーになるので、指定しないでください。	×

(凡例) : 必須 × : 任意

注 日立 API ポートレットの場合だけ設定できます。

6. [OK] ボタンをクリックします。

ポートレットが登録され、[ポートレットの追加・変更・削除] 画面に戻ります。

7.6.2 登録内容の変更 (日立 API ポートレット・File ポートレット)

既存のポートレットの設定内容を変更する方法を次に示します。ここでは、日立 API ポートレットおよび File ポートレットの場合について説明します。

ポートレットの登録内容の変更には、Portal Manager を使用します。Portal Manager の起動方法については、「2.4.1 Portal Manager の起動方法」を参照してください。

1. Portal Manager のメニュー部から [ポートレットの設定] - [ポートレットの追加・変更・削除] を選択します。
次の画面が表示されます。

図 7-9 [ポートレットの追加・変更・削除] 画面 (日立 API ポートレット・変更)



2. 設定を変更するポートレット名をクリックします。
選択したポートレットの種別に応じた [ポートレットの設定] 画面が表示されます。
ここでは、日立 API ポートレットの設定画面を示します。

7. ポートレットの登録

図 7-10 [ポートレットの設定] 画面 (日立 API ポートレット)

The screenshot shows a dialog box titled "ポートレットの設定" (Portrait Settings). It is divided into several sections:

- Window Title:** A table with two rows: "ja" with value "ウィンドウタイトル1" and "en" with value "Window Title1".
- Portrait Width Size:** Radio buttons for "指定なし", "サイズ小", "サイズ中", and "サイズ大". "指定なし" is selected.
- Screen Mode Flag:** Checkboxes for "最小化", "最大化", and "閉じる". "最大化" is checked.
- Display Method:** A checkbox for "レイアウト不可", which is unchecked.
- Edit Mode:** A dropdown menu set to "無効".
- Other Items:** A section with input fields for "項目名" and "設定値", and buttons for "変更", "追加", and "削除".
- Mapping Definition File Location:** A section with a text input field for "マッピング定義ファイルの場所".
- Multi-device Content:** A section with input fields for "HTML", "CHTML", and "HDML".
- iFrame Tag: URL Transformation Method:** A dropdown menu set to "通常モード".
- Portrait Monitoring Time:** A text input field.

At the bottom right, there are "OK" and "キャンセル" buttons.

3. ポートレットの設定を変更します。

ポートレットの設定を変更します。

変更できる項目を次に示します。なお、設定内容については、「7.6.1 登録（日立 API ポートレット・File ポートレット）」を参照してください。

- ポートレットのタイトル
- ポートレットの説明
- ウィンドウタイトル
- ポートレット横幅サイズ
- 画面モードフラグ
- 表示方法
- 編集モード
- その他の項目
- マッピング定義ファイルの場所
- マルチデバイスコンテンツ
- iframe タグ：URL 変換方式

- ポートレット監視時間

注 日立 API ポートレットの場合だけ設定できます。

4. [OK] ボタンをクリックします。
ポートレットの情報が登録されます。

! 注意事項

ポートレット名およびポートレット種別は変更できません。ポートレット名またはポートレット種別を変更する場合は削除してから、新しいポートレットを作成してください。

7.6.3 [その他の項目] に設定できる内容

日立 API ポートレットを登録する際に、[ポートレットの設定] 画面の [その他の項目] で設定できる内容を次の表に示します。ただし、設定値に指定したい値がデフォルト値である属性については、[その他の項目] で設定する必要はありません。

表 7-5 [その他の項目] に設定できる内容の一覧

[項目名] ¹ に指定する属性	設定できる内容および [設定値] ¹ に指定する値
ユーザが定義した任意のパラメータ	ポートレットの処理にユーザが定義した任意のパラメータを使用している場合、そのパラメータを指定します。
hptl.help.url	ヘルプを設定している場合、ヘルプの URL を指定します。
hptl.help.url.ja ²	日本語ヘルプを設定している場合、日本語ヘルプの URL を指定します。
hptl.help.url.en ²	英語ヘルプを設定している場合、英語ヘルプの URL を指定します。
hptl.help.url.{言語コード} [-{国コード}[-{パリアント}]] ²	日本語と英語以外の言語のヘルプを設定している場合、その言語のヘルプの URL を指定します。
hptl.module.action	登録する日立 API ポートレットにアクションモジュールを使用している場合、ポートレットのイベント処理を記述するためのアクションモジュールのパッケージ名称を含めたクラスのフルパス名称を指定します。
hptl.navigationbar.support	ナビゲーションメニューに対応させるかどうかを指定します。 true : ナビゲーションメニューに対応します。 false : ナビゲーションメニューに対応しません (デフォルト値)。
hptl.navigationbar.version	登録する日立 API ポートレットがナビゲーションメニューに対応している場合、ナビゲーションメニューの API のバージョンを指定します。 「01-00」を指定してください。(デフォルト値は 01-00)
hptl.navigationbar.alltabflag	連携ポートレットをデフォルトメニューに設定するかどうかを指定します。 true : ユーザにメニュー情報がない場合、デフォルトメニューとしてメニュー登録されます。 false : ユーザにメニュー情報がない場合、デフォルトメニューとしてメニュー登録されません (デフォルト値)。

7. ポートレットの登録

[項目名] ¹ に 指定する属性	設定できる内容および[設定値] ¹ に指定する値
hptl.portlet.defaulticon	ポートレットのデフォルトアイコンの URL を指定します。ポートレットのエントリのディレクトリからの相対パスで指定します。アイコンの画像サイズは 16 × 16 ピクセルとします。
hptl.portlet.directreq.support	uCosminexus Portal Framework にログインしていない状態から、ポートレットのダイレクト呼び出し（Web ブラウザでポートレットの URL を直接指定して表示させる機能）ができるかどうかを指定します。 true：ダイレクト呼び出しができます。ログイン後に指定したポートレットが表示されます。 false：ダイレクト呼び出しできません。ログイン後にホーム画面が表示されます（デフォルト値）。
hptl.portlet.nonresponse.timeout.trytimes	無応答監視のタイムアウト時に通知する interrupt 回数を指定します。 記述なし：1 回通知する（デフォルト） 0 以下：エラー ³ 1 ~ 10：指定回数通知する 11 以上：エラー ³
hptl.portlets.layout.not.modified	拡張レイアウト形式の変更不可エリアでだけ選択できるポートレットにするかどうか指定します。この設定を行ったポートレットは、変更不可エリアのポートレット追加・変更時にだけ [ポートレットの選択] 画面に表示されます。 true：変更不可エリアでだけポートレットの追加・変更ができます。 false：すべてのエリア、およびすべてのレイアウトでポートレットの追加・変更ができます。
hptl.NewWindowMode	ポートレットのタイトルを表示している場合、ポートレットタイトルバーへ別画面表示ボタンを表示させて、別画面表示をできるようにするかどうかを指定します。 true：ポートレットの別画面表示をできるようにします。 false：ポートレットの別画面表示をできるようにしません（デフォルト値）

注 1 [項目名]および[設定値]に「'」、「"」、および「|」を含む文字列は入力できません。

注 2 どの言語のヘルプが表示されるかは、ポータル利用者が設定した使用言語によって異なります。uCosminexus Portal Framework は、ポータル利用者が設定した使用言語とヘルプの項目名を比較し、どの言語のヘルプを表示するか決定します。使用する言語を決定する際は、次の条件を上から順に評価します。

- 言語コード、国コード、およびバリエーションが一致している。
- 言語コードおよび国コードが一致している。
- 言語コードが一致している。

注 3 実行時エラーとしてポートレットにタイムアウト時間設定不正時エラー画面が表示されません。

7.7 Web コンテンツポートレットの設定

ここでは、Web コンテンツポートレットを使用するための前提となる設定について説明します。Web コンテンツポートレットの登録方法については、マニュアル「uCosminexus Portal Framework 運用管理者ガイド」を参照してください。

7.7.1 HTTPS 通信時に使用する証明書の登録

Web コンテンツポートレットで HTTPS 通信でアクセスサイトからコンテンツを取得する場合、HTTPS 通信のときに使用する証明書をポータルサーバに登録しておく必要があります。証明書の登録は、Cosminexus Developer's Kit for Java™ に付属する keytool を使用して実行できます。keytool の詳細については、Java 2 SDK, Standard Edition のドキュメントを参照してください。keytool の実行例を次に示します。なお、表記の都合上、複数行にわたっていますが、実際は一行で記述します。

```
keytool -import -alias cakey -file C:\temp\cacer.cer -trustcacerts
-keystore
"{Cosminexusのインストールディレクトリ}\jdk\jre\lib\security\cacerts"
```

7.7.2 HTTPS 通信時のプロキシの設定

Web コンテンツポートレットを使用する場合、HTTPS 通信のときは、ポートレット内でプロキシを指定できません。このため、HTTPS 通信でプロキシを使用する場合は、ユーザ定義ファイル (usrconf.properties) に設定を追加します。

ユーザ定義ファイル (usrconf.properties) は次に示すディレクトリに格納されています。

格納ディレクトリ

```
{Cosminexus インストールディレクトリ}\CC\server\usrconf\ejb\{サーバ
名称 }
```

追加する設定内容を次に示します。

表 7-6 Web コンテンツポートレット使用時に、ユーザ定義ファイル (usrconf.properties) に追加する設定内容

項番	項目名	設定内容
1	https.proxyHost	HTTPS プロトコルで使用するプロキシサーバのホスト名
2	https.proxyPort	HTTPS プロトコルで使用するプロキシサーバのポート番号
3	https.proxyUser	HTTPS プロトコルで使用するプロキシサーバのユーザ ID
4	https.proxyPassword	HTTPS プロトコルで使用するプロキシサーバのパスワード

7. ポートレットの登録

なお、この設定は、Web コンテナ内のシステム全体で、共通の定義として使用します。
HTTPS 通信でプロキシを使用しない場合には設定しないでください。

7.8 Web ポートレットの設定

ここでは、Web ポートレットを新規に登録したり、登録した内容を変更したりするときの、Web ポートレットの設定手順について説明します。

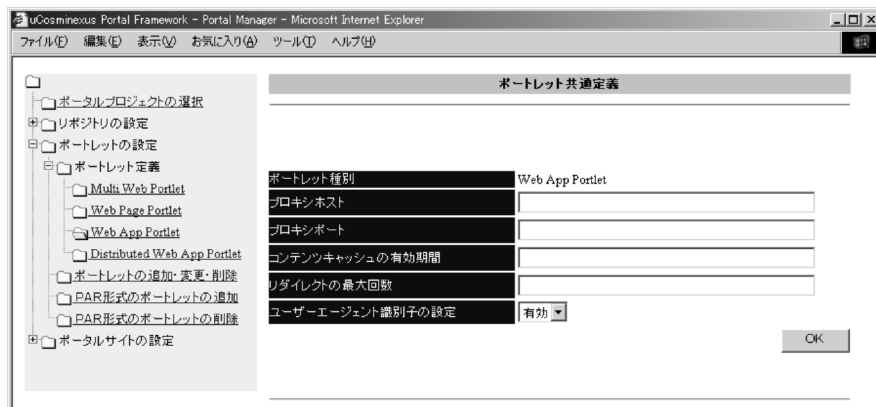
7.8.1 共通定義 (Web ポートレット)

Web ポートレットは、登録する前に、種類ごとにプロキシサーバのホストやポート番号などの前提となる項目を定義しておく必要があります。

Web ポートレットの共通定義の設定手順を次に示します。

1. Portal Manager のメニュー部から [ポートレットの設定] - [ポートレット定義] を選択し、登録するポートレットの種別をクリックします。
ここでは、Web App Portlet を選択した場合の画面を示します。

図 7-11 [ポートレットの共通定義] 画面 (Web App Portlet)



2. ポートレットの共通定義を設定します。
ポートレットの共通定義を設定します。次の項目を設定します。

表 7-7 設定できる項目 (ポートレットの共通定義・Web ポートレット)

項目名	設定内容
プロキシホスト	プロキシサーバのホストを設定します。未設定の場合、Web サーバに直接接続します。
プロキシポート	プロキシサーバのポート番号を指定します。未設定の場合、80 が設定されます。
コンテンツキャッシュの有効期間 ¹	コンテンツの有効期間のデフォルトを指定します。0 以上の値を入力してください。未設定の場合、3,600 が設定されます。なお、指定した値の単位は秒となります。

7. ポートレットの登録

項目名	設定内容
リダイレクトの最大回数 ¹	HTTP リダイレクトの最大回数を指定します。0 ~ 10 の値を指定します。未設定の場合、2 が設定されます。
ユーザーエージェント識別子の設定 ²	Web ブラウザの User-Agent 情報をポートレットに設定するかどうかを指定します。指定する場合は [有効], 指定しない場合は [無効] を選択します。デフォルトは [有効] になります。

注 1 Web App Portlet および Web Page Portlet の場合、設定できます。

注 2 Web App Portlet の場合だけ、設定できます。

3. [OK] ボタンをクリックします。

ポートレットの共通定義情報が登録されます。

7.8.2 登録 (Web ポートレット)

ポートレットの登録には、Portal Manager を使用します。Portal Manager の起動方法については、「2.4.1 Portal Manager の起動方法」を参照してください。

Web ポートレットを登録する手順を次に示します。

1. Portal Manager のメニュー部から [ポートレットの設定] - [ポートレットの追加・変更・削除] を選択します。

次の画面が表示されます。

図 7-12 [ポートレットの追加・変更・削除] 画面 (Web ポートレット・登録)



2. [ポートレットの追加・変更・削除] 画面の [新規作成] ボタンをクリックします。

次の画面が表示されます。

図 7-13 [ポートレットの新規作成] 画面 (Web ポートレット)

ポートレットの新規作成		
ポートレット名	<input type="text"/>	
ポートレット種別	Multi JSP Portlet <input type="button" value="▼"/>	
ポートレットのタイトル	ja	<input type="text"/>
	en	<input type="text"/>
ポートレットの説明	ja	<input type="text"/>
	en	<input type="text"/>
ウィンドウタイトル	ja	<input type="text"/>
	en	<input type="text"/>
		<input type="button" value="次へ"/> <input type="button" value="キャンセル"/>

3. ポートレットの作成に必要な項目を設定します。
 ポートレットの新規作成で設定する項目を次の表に示します。

表 7-8 新規作成で設定する項目 (Web ポートレット)

項目名	設定内容	必須
ポートレット名	ポートレットの名称を指定します。指定できるのは、32文字までの半角英数字です。	
ポートレット種別	[Multi Web Portlet], [Web Page Protlet] または [Web App Portlet] を選択します。	
ポートレットのタイトル	ポートレットのタイトルを指定します。ここで指定した文字列が、ポートレットのタイトルバーに表示されます。 [ja] には日本語, [en] には英語で指定します。 指定できる最大文字数は、半角でも全角でも 80 文字までです。 指定しない場合、ポートレット名がタイトルとして使用されます。	×
ポートレットの説明	ポートレットの説明文を入力します。 [ja] には日本語, [en] には英語で指定します。 指定できる最大文字数は、半角でも全角でも 80 文字までです。 指定しない場合、ユーザがレイアウトカスタマイズ画面 ([ポートレットの選択] 画面) でポートレットを選択したときに、説明欄が空欄のままとなります。	×

7. ポートレットの登録

項目名	設定内容	必須
ウィンドウタイトル	ウィンドウのタイトルを指定します。ここで指定した文字列が、新規ウィンドウ画面でポートレットを表示する際、Web ブラウザのタイトルバーに表示されます。 [ja] には日本語, [en] には英語で指定します。 指定できる最大文字数は、半角でも全角でも 80 文字までです。 指定しない場合、ウィンドウのタイトルはポートレットタイトルになります。なお、ポートレットタイトルも指定されていない場合は、ポートレット名になります。	×

(凡例) : 必須 × : 任意

注

プロパティファイル (PortalResources.properties) の jp.co.hitachi.soft.portal.i18n.supports 属性で、日本語および英語以外の言語を追加している場合は、その言語の設定項目が表示されます。各項目で指定できる最大文字数は、日本語および英語の場合と同じです。

4. [次へ] ボタンをクリックします。

選択したポートレットの種別に応じて画面が表示されます。ここでは、Multi Web Portlet の設定画面を示します。

図 7-14 [ポートレットの設定] 画面 (Multi Web Portlet ・ 登録)

ポートレットの設定	
ポートレット名	TEST2
ポートレット種別	Multi Web Portlet ポートレットの定義
ポートレットのタイトル	ja <input type="text" value="ポートレットタイトル2"/>
	en <input type="text" value="Portlet-Title2"/>
ポートレットの説明	ja <input type="text" value="TEST2の説明"/>
	en <input type="text" value="Description of TEST2"/>
ウィンドウタイトル	ja <input type="text" value="ポートレットウィンドウタイトル2"/>
	en <input type="text" value="Portlet-Window Title2"/>
ポートレット横幅サイズ	<input checked="" type="radio"/> 指定なし <input type="radio"/> サイズ小 <input type="radio"/> サイズ中 <input type="radio"/> サイズ大
画面モードフラグ	<input type="checkbox"/> 最小化 <input checked="" type="checkbox"/> 最大化 <input type="checkbox"/> 閉じる
表示方法	<input type="checkbox"/> レイアウト不可
マッピング定義ファイルの場所	
<input type="text" value="マッピング定義ファイルの場所"/>	
マルチデバイスコンテンツ	
HTML	<input type="text"/>
CHTML	<input type="text"/>
HDML	<input type="text"/>
コンテンツフィルタリング <input type="checkbox"/> 正規表現	

5. ポートレットを設定します。

ポートレットを設定します。設定できる項目を次の表に示します。

表 7-9 設定できる項目 (Web ポートレット)

項目名	設定内容	必須
ポートレット横幅サイズ	ポートレットの横幅サイズを設定します。[指定なし][サイズ小][サイズ中] または [サイズ大] が選択できます。	×
画面モードフラグ	ポートレットのタイトルバーに表示されるボタンを設定します。[最小化][最大化] または [閉じる] ボタンを設定できません。	×
表示方法	ポートレットを、レイアウトカスタマイズ画面 ([ポートレットの選択] 画面) でレイアウトできるポートレットとして表示させるかどうかを設定します。[レイアウト不可] にチェックを付けると、レイアウトカスタマイズ画面 ([ポートレットの選択] 画面) 上に表示されないので、このポートレットを使用する他のポートレットからだけ呼び出せるポートレットとなります。	×

7. ポートレットの登録

項目名	設定内容	必須
マッピング定義ファイルの場所 ¹	マッピング定義ファイルの作成場所を指定します。ここで指定された場所にマッピング定義ファイルが作成されます。ポートレットディレクトリ（「{PROJECT_HOME}/portlets/{ポートレット名称}」）下の任意のファイルを指定します。 なお、生成されるマッピング定義ファイルの拡張子は、.xml となります。	
マルチデバイスコンテンツ ¹	クライアント種別ごとにポートレットに表示するコンテンツの URL を、該当するクライアント種別（[HTML][CHTML] または [HDML]）のテキストボックスに指定します。クライアント種別については、「6.4 クライアント種別判定の設定」を参照してください。	
コンテンツ URL ²	ポートレットに表示するコンテンツの URL を入力します。	
コンテンツフィルタリング	<ul style="list-style-type: none"> • フィルタリング方式 Multi Web Portlet または Web Page Portlet の場合、[削除] になります。ただし、Web Page Portlet の場合はフィルタリング方式が画面に表示されません。 Web App Portlet の場合、ドロップダウンリストから [削除] または [抽出] を選択します。デフォルトでは [削除] です。 • ディレクティブ形式 Multi Web Portlet の場合は「正規表現」、Web Page Portlet の場合は「コメント」になります。ただし、どちらの場合もディレクティブ形式は画面に表示されません。 Web App Portlet の場合、ドロップダウンリストから [コメント] または [正規表現] を選択します。デフォルトでは [コメント] です。 • [開始] テキストボックス ディレクティブ形式に指定した形式に対応する、開始キーワードまたはパターンを指定します。 • [終了] テキストボックス ディレクティブ形式に指定した形式に対応する、終了キーワードまたはパターンを指定します。 <p>なお、ディレクティブ形式が [コメント] の場合、[追加] ボタンをクリックして内容を登録する必要があります。 コンテンツフィルタリングについては、マニュアル「uCosminexus Portal Framework ポートレット開発ガイド」を参照してください。</p>	×
FormBase 認証 ¹	<p>フォーム認証を設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 認証 URL [認証元] には認証元 URL を、[認証先] には認証先 URL を指定します。 • 要求方法 要求方法を [GET] または [POST] から選択します。 • Form クエリー フォーム認証に使用するクエリーを入力します。入力後、[追加] ボタンをクリックしてクエリーを追加します。 <p>フォーム認証の設定を変更する場合は [変更] ボタンを、削除する場合は [削除] ボタンをクリックします。</p>	×

項目名	設定内容	必須
削除する要素 ¹	削除する要素を次の項目から選択します。 [Applet 要素][Object 要素][Script 要素]	×
バイナリデータの取得 ¹	バイナリデータの取得方法を指定します。 [ポータルサーバを経由して取得] または [web サーバから直接取得] を選択できます。	×
標準表示時の縦幅 ¹	ポータル画面で表示されるポートレットの縦幅サイズをピクセル単位で指定します。指定できる値の範囲は 1 ~ 9,999 です。指定しない場合、デフォルト値の 300 になります。	×
最大表示時の縦幅 ¹	ポータル画面でポートレットを最大表示した場合の縦幅サイズをピクセル単位で指定します。指定できる値の範囲は 1 ~ 9,999 です。指定しない場合、デフォルト値の 460 になります。	×
自動最大化表示 ¹	画面遷移時に、自動的に最大化するか選択します。[有効] または [無効] を選択できます。	×
プロキシサーバ ¹	ポートレットの定義で設定したプロキシサーバを使用する場合にチェックします。なお、チェックした場合は [ホスト] と [ポート] は表示されません。 • [ホスト] 使用するプロキシホストを設定します。ポートレットごとにプロキシサーバが異なる場合に設定します。 • [ポート] 使用するプロキシのポート番号を設定します。ポートレットごとにプロキシサーバが異なる場合に設定します。	×
キャッシュ制御 ³	ポートレットに対するキャッシュ制御を指定します。[有効] または [無効] を選択できます。	×
ネームスペース自動解決 ³	ネームスペースを解決するかどうか指定します。解決する場合は [有効] , 解決しない場合は [無効] を選択します。	×
インラインオブジェクト ³	インラインオブジェクトの取得方法を指定します。[web サーバから直接取得] または [ポータルサーバを経由して取得] を選択します。	×
head 要素の削除 applet 要素の削除 object 要素の削除 script 要素の削除 event 要素の削除	Web App Portlet および Web Page Portlet の場合、各要素を削除するかどうかを指定します。 [削除する] または [削除しない] を選択できます。	×

(凡例) : 必須 × : 任意

注 1 Multi Web Portlet の場合、設定できます。

注 2 Web App Portlet および Web Page Portlet の場合、設定できます。

注 3 Web App Portlet の場合、設定できます。

なお、ポートレットの共通定義を変更したい場合は、[ポートレットの定義] ボタンをクリックしてください。[ポートレットの共通定義] 画面が表示されて、ポートレットの共通定義を変更できます。定義する項目の詳細は、「7.8.1 共通定義 (Web ポートレット)」を参照してください。

6. [OK] ボタンをクリックします。

7. ポートレットの登録

ポートレットが登録され、[ポートレットの追加・変更・削除] 画面に戻ります。

Web ポートレットの登録後、登録した Web ポートレットが正しく表示されるかどうか確認したい場合、キャッシュをクリアする必要があります。キャッシュをクリアする方法については、「7.8.4 キャッシュクリアの実行」を参照してください。

7.8.3 登録内容の変更 (Web ポートレット)

既存のポートレットの設定内容を変更する方法を次に示します。ここでは、Web ポートレットの場合について説明します。

ポートレットの登録内容の変更には、Portal Manager を使用します。Portal Manager の起動方法については、「2.4.1 Portal Manager の起動方法」を参照してください。

1. Portal Manager のメニュー部から [ポートレットの設定] - [ポートレットの追加・変更・削除] を選択します。
次の画面が表示されます。

図 7-15 [ポートレットの追加・変更・削除] 画面 (Web ポートレット・変更)



2. 設定を変更するポートレット名をクリックします。
選択したポートレットの種別に応じた [ポートレットの設定] 画面が表示されます。
ここでは、Multi Web Portlet の設定画面を示します。

図 7-16 [ポートレットの設定] 画面 (Multi Web Portlet ・ 変更)

ポートレットの設定	
ポートレット名	TEST2
ポートレット種別	Multi Web Portlet ポートレットの定義
ポートレットのタイトル	ja <input type="text" value="ポートレットタイトル2"/>
	en <input type="text" value="Portlet-Title2"/>
ポートレットの説明	ja <input type="text" value="TEST2の説明"/>
	en <input type="text" value="Description of TEST2"/>
ウィンドウタイトル	ja <input type="text" value="ポートレットウィンドウタイトル2"/>
	en <input type="text" value="Portlet-Window Title2"/>
ポートレット横幅サイズ	<input checked="" type="radio"/> 指定なし <input type="radio"/> サイズ小 <input type="radio"/> サイズ中 <input type="radio"/> サイズ大
画面モードフラグ	<input type="checkbox"/> 最小化 <input checked="" type="checkbox"/> 最大化 <input type="checkbox"/> 閉じる
表示方法	<input type="checkbox"/> レイアウト不可
マッピング定義ファイルの場所	
<input type="text" value="マッピング定義ファイルの場所"/>	
マルチデバイスコンテンツ	
HTML	<input type="text"/>
CHTML	<input type="text"/>
HDML	<input type="text"/>
コンテンツフィルタリング 正規表現	

3. ポートレットの設定を変更します。

ポートレットの設定を変更します。

変更できる項目を次に示します。なお、設定内容については、「7.8.2 登録 (Web ポートレット)」を参照してください。

- ポートレットのタイトル
- ポートレットの説明
- ウィンドウタイトル
- ポートレット横幅サイズ
- 画面モードフラグ
- 表示方法
- マッピング定義ファイルの場所 ¹
- マルチデバイスコンテンツ ¹
- コンテンツ URL ²
- コンテンツフィルタリング
- FormBase 認証 ¹
- 削除する要素 ¹

7. ポートレットの登録

- バイナリデータの取得 ¹
- 標準表示時の縦幅 ¹
- 最大表示時の縦幅 ¹
- 自動最大化表示 ¹
- プロキシサーバ ¹
- キャッシュ制御 ³
- ネームスペース自動解決 ³
- インラインオブジェクト ³
- head 要素の削除
- applet 要素の削除
- object 要素の削除
- script 要素の削除
- event 要素の削除

注 1 Multi Web Portlet の場合、設定できます。

注 2 Web App Portlet および Web Page Portlet の場合、設定できます。

注 3 Web App Portlet の場合、設定できます。

なお、ポートレットの共通定義を変更したい場合は、[ポートレットの定義] ボタンをクリックしてください。[ポートレットの共通定義] 画面が表示されて、ポートレットの共通定義を変更できます。定義する項目の詳細は、「7.8.1 共通定義 (Web ポートレット)」を参照してください。

4. [OK] ボタンをクリックします。

ポートレットの情報が登録されます。

Web ポートレットの登録後、登録した Web ポートレットが正しく表示されるかどうか確認したい場合、キャッシュをクリアする必要があります。キャッシュをクリアする方法については、「7.8.4 キャッシュクリアの実行」を参照してください。

7.8.4 キャッシュクリアの実行

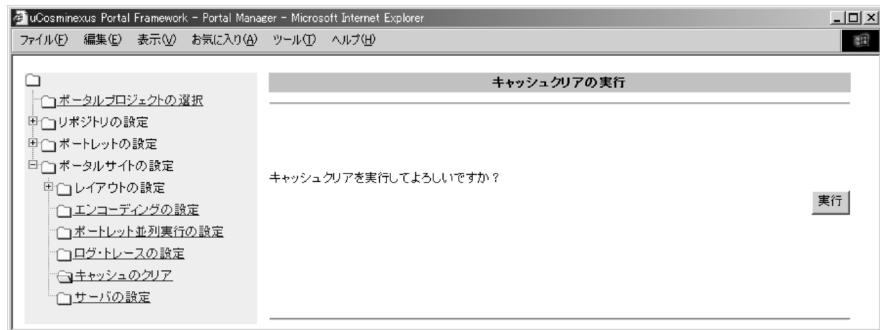
Web ポートレットは、Web サーバと通信してポートレットに HTML コンテンツを表示します。このとき、コンテンツを一定の期間 (デフォルトでは 3,600 秒) キャッシュ領域に記憶します。このため、Web ポートレットの登録後、登録した Web ポートレットが正しく表示されるかどうか確認したい場合、キャッシュをクリアする必要があります。

キャッシュをクリアするには、Portal Manager を使用します。Portal Manager の起動方法については、「2.4.1 Portal Manager の起動方法」を参照してください。

1. Portal Manager のメニュー部から [ポータルサイトの設定] - [キャッシュのクリア] を選択します。

次の画面が表示されます。

図 7-17 [キャッシュクリアの実行] 画面



2. [実行] ボタンをクリックします。
キャッシュクリアが実行されます。

7.9 分散ポートレットの設定

ここでは、分散ポートレットを新規に登録したり、登録した内容を変更したりするときの手順について説明します。

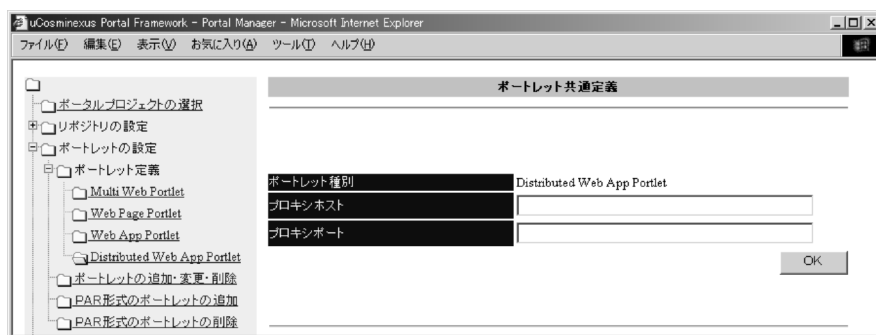
7.9.1 共通定義（分散ポートレット）

分散ポートレットは、登録する前にプロキシサーバのホストやポート番号などの前提となる項目を定義しておく必要があります。

分散ポートレットの共通定義の設定手順を次に示します。

1. Portal Manager のメニュー部から [ポートレットの設定] - [ポートレット定義] - [Distributed Web App Portlet] を選択します。
次の画面が表示されます。

図 7-18 [ポートレット共通定義] 画面 (Distributed Web App Portlet)



2. ポートレットの共通定義を設定します。
ポートレットの共通定義を設定します。次の項目を設定します。

表 7-10 設定できる項目（ポートレットの共通定義・分散ポートレット）

項目名	設定内容
プロキシホスト	プロキシサーバのホストを設定します。未設定の場合、Web サーバに直接接続します。
プロキシポート	プロキシサーバのポート番号を指定します。未設定の場合、80 が設定されます。

3. [OK] ボタンをクリックします。
ポートレットの共通定義情報が登録されます。

7.9.2 登録（分散ポートレット）

ポートレットの登録には、Portal Manager を使用します。Portal Manager の起動方法

については、「2.4.1 Portal Manager の起動方法」を参照してください。

分散ポートレットを登録する手順を次に示します。

1. Portal Manager のメニュー部から [ポートレットの設定] - [ポートレットの追加・変更・削除] を選択します。

次の画面が表示されます。

図 7-19 [ポートレットの追加・変更・削除] 画面 (分散ポートレット・登録)



2. [ポートレットの追加・変更・削除] 画面の [新規作成] ボタンをクリックします。
次の画面が表示されます。

図 7-20 [ポートレットの新規作成] 画面 (分散ポートレット)

ポートレットの新規作成

ポートレット名	<input style="width: 90%;" type="text"/>
ポートレット種別	Multi JSP Portlet <input type="button" value="▼"/>
ポートレットのタイトル	ja <input style="width: 90%;" type="text"/>
	en <input style="width: 90%;" type="text"/>
ポートレットの説明	ja <input style="width: 90%;" type="text"/>
	en <input style="width: 90%;" type="text"/>
ウィンドウタイトル	ja <input style="width: 90%;" type="text"/>
	en <input style="width: 90%;" type="text"/>

3. ポートレットの作成に必要な項目を設定します。

7. ポートレットの登録

ポートレットの新規作成で設定する項目を次の表に示します。

表 7-11 新規作成で設定する項目（分散ポートレット）

項目名	設定内容	必須
ポートレット名	ポートレットの名称を指定します。指定できるのは、32文字までの半角英数字です。	
ポートレット種別	[Distributed Web App Portlet] を選択します。	
ポートレットのタイトル	ポートレットのタイトルを指定します。ここで指定した文字列が、ポートレットのタイトルバーに表示されます。 [ja] には日本語, [en] には英語で指定します。 指定できる最大文字数は、半角でも全角でも 80 文字までです。 指定しない場合、ポートレット名がタイトルとして使用されます。	×
ポートレットの説明	ポートレットの説明文を入力します。 [ja] には日本語, [en] には英語で指定します。 指定できる最大文字数は、半角でも全角でも 80 文字までです。 指定しない場合、ユーザがレイアウトカスタマイズ画面 ([ポートレットの選択] 画面) でポートレットを選択したときに、説明欄が空欄のままとなります。	×
ウィンドウタイトル	ウィンドウのタイトルを指定します。ここで指定した文字列が、新規ウィンドウ画面でポートレットを表示する際、Web ブラウザのタイトルバーに表示されます。 [ja] には日本語, [en] には英語で指定します。 指定できる最大文字数は、半角でも全角でも 80 文字までです。 指定しない場合、ウィンドウのタイトルはポートレットタイトルになります。なお、ポートレットタイトルも指定されていない場合は、ポートレット名になります。	×

(凡例) : 必須 × : 任意

注

プロパティファイル (PortalResources.properties) の jp.co.hitachi.soft.portal.i18n.supports 属性で、日本語および英語以外の言語を追加している場合は、その言語の設定項目が表示されます。各項目で指定できる最大文字数は、日本語および英語の場合と同じです。

4. [次へ] ボタンをクリックします。
次の画面が表示されます。

図 7-21 [ポートレットの設定] 画面 (分散ポートレット・登録)

ポートレットの設定	
ポートレット名	TEST2
ポートレット種別	Distributed Web App Portlet ポートレットの定義
ポートレットのタイトル	ja ポートレットタイトル2
	en Portlet-Title2
ポートレットの説明	ja TEST2の説明
	en Description of TEST2
ウィンドウタイトル	ja ポートレットウィンドウタイトル2
	en Portlet-Window Title2
ポートレット横幅サイズ	<input checked="" type="radio"/> 指定なし <input type="radio"/> サイズ小 <input type="radio"/> サイズ中 <input type="radio"/> サイズ大
画面モードフラグ	<input type="checkbox"/> 最小化 <input checked="" type="checkbox"/> 最大化 <input type="checkbox"/> 閉じる
表示方法	<input type="checkbox"/> レイアウト不可
編集モード	無効 ▼
サーバアドレス	<input type="text"/>
サーバポート	<input type="text"/>
プロジェクトホームパス	<input type="text"/>
読み出すポートレット名	<input type="text"/>
<input type="button" value="OK"/> <input type="button" value="キャンセル"/>	

5. ポートレットを設定します。

ポートレットを設定します。設定できる項目を次の表に示します。

表 7-12 設定できる項目 (分散ポートレット)

項目名	内容	必須
ポートレット横幅サイズ	ポートレットの横幅サイズを設定します。[指定なし][サイズ小][サイズ中]または[サイズ大]が選択できます。	×
画面モードフラグ	ポートレットのタイトルバーに表示されるボタンを設定します。[最小化][最大化]または[閉じる]ボタンを設定できます。	×
表示方法	ポートレットを、レイアウトカスタマイズ画面([ポートレットの選択]画面)でレイアウトできるポートレットとして表示させるかどうかを設定します。[レイアウト不可]にチェックを付けると、レイアウトカスタマイズ画面([ポートレットの選択]画面)上に表示されないで、このポートレットを使用する他のポートレットからだけ呼び出せるポートレットになります。	×
編集モード	ポートレットに編集画面を使用するかどうかを指定します。編集画面を使用する場合は[有効]を、使用しない場合は[無効]を選択します。	×

7. ポートレットの登録

項目名	内容	必須
サーバアドレス	読み出したいポートレットを配置している分散サーバのアドレスを指定します。	
サーバポート	読み出したいポートレットを配置している分散サーバのポート番号を指定します。	
プロジェクトホームパス	読み出したいポートレットを配置している分散サーバのプロジェクトホームのパス名を指定します。	
読み出すポートレット名	読み出したいポートレットの名称を指定します。	

(凡例) : 必須 × : 任意

なお、ポートレットの共通定義を変更したい場合は、[ポートレットの定義] ボタンをクリックしてください。[ポートレットの共通定義] 画面が表示されて、ポートレットの共通定義を変更できます。定義する項目の詳細は、「7.9.1 共通定義 (分散ポートレット)」を参照してください。

6. [OK] ボタンをクリックします。

ポートレットが登録され、[ポートレットの追加・変更・削除] 画面に戻ります。

7.9.3 登録内容の変更 (分散ポートレット)

既存のポートレットの設定内容を変更する方法を次に示します。ここでは、分散ポートレットの場合について説明します。

ポートレットの登録内容の変更には、Portal Manager を使用します。Portal Manager の起動方法については、「2.4.1 Portal Manager の起動方法」を参照してください。

1. Portal Manager のメニュー部から [ポートレットの設定] - [ポートレットの追加・変更・削除] を選択します。
次の画面が表示されます。

図 7-22 [ポートレットの追加・変更・削除] 画面 (分散ポートレット・変更)



- 設定を変更するポートレット名をクリックします。
選択したポートレットの種別に応じた [ポートレットの設定] 画面が表示されます。
分散ポートレットの設定画面を示します。

図 7-23 [ポートレットの設定] 画面 (分散ポートレット・変更)

ポートレットの設定

ポートレット名	TEST2	
ポートレット種別	Distributed Web App Portlet ポートレットの定義	
ポートレットのタイトル	ja	ポートレットタイトル2
	en	Portlet-Title2
ポートレットの説明	ja	TEST2の説明
	en	Description of TEST2
ウィンドウタイトル	ja	ポートレットウィンドウタイトル2
	en	Portlet-Window Title2
ポートレット横幅サイズ	<input checked="" type="radio"/> 指定なし <input type="radio"/> サイズ小 <input type="radio"/> サイズ中 <input type="radio"/> サイズ大	
画面モードフラグ	<input type="checkbox"/> 最小化 <input checked="" type="checkbox"/> 最大化 <input type="checkbox"/> 閉じる	
表示方法	<input type="checkbox"/> レイアウト不可	
編集モード	無効 ▼	
サーバアドレス	<input type="text"/>	
サーバポート	<input type="text"/>	
プロジェクトホームパス	<input type="text"/>	
読み出すポートレット名	<input type="text"/>	

7. ポートレットの登録

3. ポートレットの設定を変更します。

ポートレットの設定を変更します。

変更できる項目を次に示します。なお、設定内容については、「7.9.2 登録（分散ポートレット）」を参照してください。

- ポートレットのタイトル
- ポートレットの説明
- ウィンドウタイトル
- ポートレット横幅サイズ
- 画面モードフラグ
- 表示方法
- 編集モード
- サーバアドレス
- サーバポート
- プロジェクトホームパス
- 読み出すポートレット名

なお、ポートレットの共通定義を変更したい場合は、[ポートレットの定義] ボタンをクリックしてください。[ポートレットの共通定義] 画面が表示されて、ポートレットの共通定義を変更できます。定義する項目の詳細は、「7.9.1 共通定義（分散ポートレット）」を参照してください。

4. [OK] ボタンをクリックします。

ポートレットの情報が登録されます。

7.10 ポートレットの削除

登録したポートレットは Portal Manager で削除できます。ここでは、登録したポートレットの削除手順について説明します。

なお、Portal Manager の起動方法については、「2.4.1 Portal Manager の起動方法」を参照してください。

1. Portal Manager のメニュー部から [ポートレットの設定] - [ポートレットの追加・変更・削除] を選択します。
次の画面が表示されます。

図 7-24 [ポートレットの追加・変更・削除] 画面 (ポートレットの削除)



2. [ポートレットの追加・変更・削除] 画面の [削除] ボタンをクリックします。
次の画面が表示されます。

7. ポートレットの登録

図 7-25 [ポートレットの削除] 画面

ポートレットの削除		
ポートレット名	タイトル	説明
<input type="checkbox"/> PortalOperator	運用管理ポートレット	運用管理を実施するためのポートレットです。
<input type="checkbox"/> navigationmenu	ナビゲーションメニュー	ナビゲーションメニュー
<input type="checkbox"/> Sample	Sample	WebPageポートレット(ローカルコンテンツ)のサンプルです。
<input type="checkbox"/> Sample1	Sample1	JSPポートレットのサンプルです。
<input type="checkbox"/> device	device	Fileポートレットのサンプルです。
<input type="checkbox"/> hptlParsedHTML	ParsedHTML	コンテンツのリンクを切り出して一覧表示を行います。
informationview	新着情報	各ポートレットから収集した新着情報をまとめて見ることができます。
sampleforum	Sample forum	This is the Sample forum portlet.

- 削除したいポートレットのチェックボックスにチェックを入れ,[OK] ボタンをクリックします。
複数のポートレットを選択して, 削除できます。
削除するかどうかを確認する画面が表示されます。
- [OK] ボタンをクリックします。
ポートレットが削除されます。

7.11 ナビゲーションメニュー対応ポートレットの登録

ナビゲーションメニューに対応する日立 API ポートレットを登録する場合、登録方法に応じて、次のとおりポートレットの設定をする必要があります。

PAR 形式のポートレットをデプロイして登録する場合

デプロイ定義ファイルで、ナビゲーションメニューに対応するための設定をしておく必要があります。設定方法の詳細は、マニュアル「uCosminexus Portal Framework ポートレット開発ガイド」を参照してください。

Portal Manager でポートレットを登録する場合

[ポートレットの設定] 画面でポートレットについて設定する際に、[その他の項目] に次の項目を設定します。

表 7-13 ナビゲーションメニュー対応ポートレットを登録するときに設定する内容

項目名	説明	設定内容	必須
hptl.navigationbar.support	ナビゲーションメニューへの対応状況を示すキー	「true」を指定します。	
hptl.navigationbar.version	対応しているナビゲーションメニューの API のバージョンを示すキー	ナビゲーションメニューの API のバージョンを指定します。「01-00」を指定してください。	
hptl.navigationbar.alltabflag	デフォルトメニューに設定するキー	登録するポートレットを、ナビゲーションメニューにデフォルトで表示させるかどうかを指定します。	×
hptl.portlet.defaulticon	ナビゲーションメニューに表示するデフォルトのアイコン	アイコンファイルの URL を、ポートレット自身のエントリのディレクトリからの相対パスで指定します。	×

(凡例) : 必須 × : 任意

8

ポータルへの運用

この章では、ポータルへの起動と終了、ログへの設定、稼働状態への監視や、稼働後の不要データの削除について説明します。

8.1 ポータルへの起動と終了

8.2 障害対策

8.3 稼働状態への監視

8.4 運用後の不要データの削除

8.5 ホスト名または IP アドレスの変更

8.1 ポータルの起動と終了

ここでは、ポータルの起動と終了方法について説明します。

(1) 起動方法

構築したポータルプロジェクトを Web アプリケーションとしてデプロイする必要があります。

1. WAR ファイルを作成します。

ポータルを構築後、最初に運用する場合には、WAR ファイルを作成します。ポータルの設定を変更した場合も、再度 WAR ファイルを作成してデプロイする必要があります。

{uCosminexus Portal Framework インストールディレクトリ }¥bin 下の makewar.bat を実行します。

実行時に次を指定します。

- 作成する WAR ファイルの格納ディレクトリとファイル名
- {PROJECT_HOME}

実行例を次に示します。

```
makewar c:¥war¥Portal.war c:¥work¥Portal
```

2. 作成した WAR ファイルをデプロイします。

最初に、J2EE サーバを起動します。サーバ管理コマンドを使用して手順 1. で作成した WAR ファイルをインポートしたあと、J2EE アプリケーションを作成し、カスタマイズでコンテキストルートにポータルプロジェクト名を指定します。そのあと、作成した J2EE アプリケーションを J2EE サーバにデプロイして、開始します。J2EE サーバの起動からサーバ管理コマンドでのデプロイまでの詳細は、次のマニュアルを参照してください。

- マニュアル「Cosminexus アプリケーションサーバ V8 機能解説 基本・開発編 (コンテナ共通機能)」, または「Cosminexus V9 アプリケーションサーバ 機能解説 基本・開発編 (コンテナ共通機能)」
- マニュアル「Cosminexus アプリケーションサーバ V8 アプリケーション設定操作ガイド」, または「Cosminexus V9 アプリケーションサーバ アプリケーション設定操作ガイド」

3. Web ブラウザで次の URL を指定します。

```
http://{ホスト名}:{ポート番号}/{ポータルプロジェクト名}/index.jsp
```

ポート番号が 80 の場合は、次の URL を実行します。

```
http://{ホスト名}/{ポータルプロジェクト名}/index.jsp
```

! 注意事項

- CRC チェックエラーが発生した場合は、WAR ファイルに問題があるので、WAR ファイルを作成し直してください。
 - uCosminexus Portal Framework を再起動する場合は、J2EE サーバをいったん停止してから再度 J2EE サーバを起動してください。
-

(2) 終了方法

uCosminexus Portal Framework を終了するには、サーバ管理コマンドを使用して、WAR ファイルをデプロイした J2EE アプリケーションを終了し、J2EE サーバを停止します。サーバ管理コマンドでの J2EE アプリケーションの終了方法については、次のマニュアルを参照してください。

- マニュアル「Cosminexus アプリケーションサーバ V8 機能解説 基本・開発編 (コンテナ共通機能)」, または「Cosminexus V9 アプリケーションサーバ 機能解説 基本・開発編 (コンテナ共通機能)」
- マニュアル「Cosminexus アプリケーションサーバ V8 アプリケーション設定操作ガイド」, または「Cosminexus V9 アプリケーションサーバ アプリケーション設定操作ガイド」

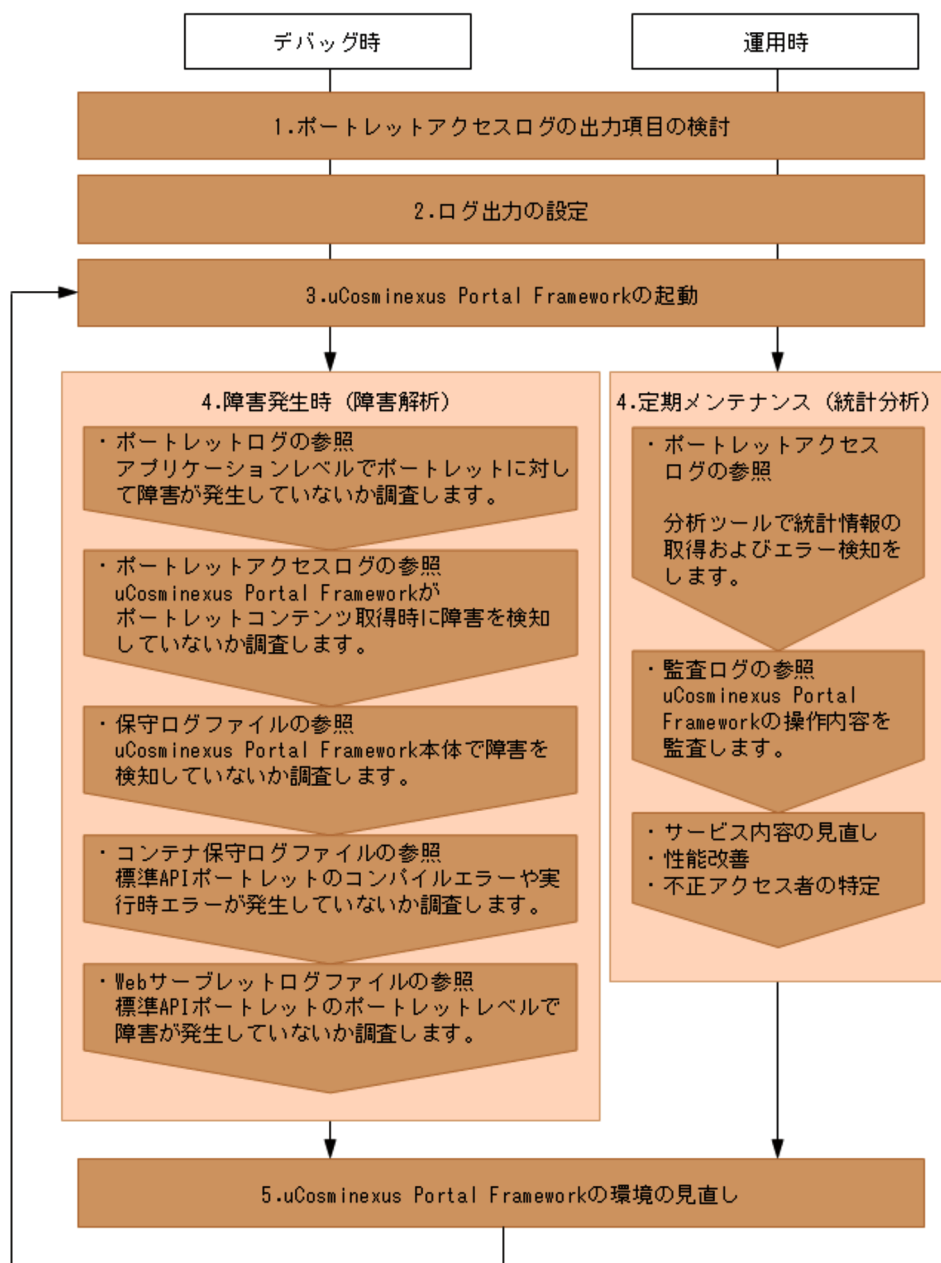
8.2 障害対策

uCosminexus Portal Framework のデバッグおよびログを利用した運用の流れ，出力できるログの種類，およびログの設定方法について説明します。

8.2.1 デバッグおよび運用の流れ

ログを利用した，デバッグおよび運用の流れを次に示します。

図 8-1 デバッグおよび運用の流れ



1. ポートレットアクセスログに出力する項目を検討します。出力項目の検討については、「8.2.3 ポートレットアクセスログの出力項目の検討」を参照してください。
2. 出力するログを設定します。保守ログ、ポートレットログ、ポートレットアクセスログ、コンテナ保守ログ、Webサーブレットログ、および監査ログを出力できます。ログ出力の設定方法については「8.2.4 ログ出力の設定方法」を参照してください。

8. ポータルの運用

3. uCosminexus Portal Framework を起動して、デバッグまたは運用を開始します。
uCosminexus Portal Framework の起動方法については「8.1 ポータルの起動と終了」を参照してください。
4. デバッグ時に障害が発生したとき、出力したログを参照して障害を解析します。
運用時は、ポートレットアクセスログを参照して、統計情報を取得します。また、監査ログを参照して、uCosminexus Portal Framework の操作履歴を監査します。
5. uCosminexus Portal Framework の環境を見直します。

8.2.2 ログの種類

uCosminexus Portal Framework の運用で使用するログには、次の 6 種類があります。

- 保守ログ
- ポートレットログ
- ポートレットアクセスログ
- コンテナ保守ログ
- Web サブレットログ
- 監査ログ

それぞれのログについて説明します。

(1) 保守ログ

JSP コンパイルエラー (ServletException)、実行時エラー (RuntimeException)、およびシステムエラーが発生していないかを検知できます。画面に表示するログを、Portal Manager の、[ログ・トレースの設定] 画面のトレースモードで設定します。

保守ログの設定方法については、「8.2.4(1) 保守ログ、ポートレットログ、およびポートレットアクセスログの設定方法」を参照してください。

(2) ポートレットログ

ポートレットログには、業務に支障があるエラーメッセージや、システムの大まかな動きが把握できるレベルのログが出力されます。アプリケーションレベルでポートレットに障害が発生していないかを調査できます。

ポートレットログは、すべてのポートレットで共通のファイルに出力されます。特定のポートレットのポートレットログは、AP 名をキーに抽出して使用します。

ポートレットログの設定方法については、「8.2.4(1) 保守ログ、ポートレットログ、およびポートレットアクセスログの設定方法」を参照してください。また、出力形式および出力内容については、「8.2.5 ポートレットログの形式と出力内容」を参照してください。

(3) ポートレットアクセスログ

ポートレットアクセスログには、ポートレットの利用者名、ポートレットの表示時刻、

障害コードなどが出力されます。ポートレットコンテンツ取得時に障害が発生していないかを検知できます。

ポートレットアクセスログの設定方法については、「8.2.4(1) 保守ログ, ポートレットログ, およびポートレットアクセスログの設定方法」を参照してください。また, 出力形式および出力内容については、「8.2.6 ポートレットアクセスログの形式と出力内容」を参照してください。

(4) コンテナ保守ログ

コンテナ保守ログには, ポートレットコンテナからのエラー情報や, 標準 API ポートレット実行時のエラー情報などが出力されます。標準 API ポートレットのコンパイルエラーや実行時エラーが発生していないかを検知できます。

コンテナ保守ログの設定方法については、「8.2.4(2) コンテナ保守ログの設定方法」を参照してください。また, 出力形式および出力内容については、「8.2.7 コンテナ保守ログの形式と出力内容」を参照してください。

(5) Web サブレットログ

Web サブレットログには, 標準 API ポートレットが標準 API を使用して出力したメッセージが出力されます。標準 API ポートレットのポートレットレベルで障害が発生していないかを検知できます。

Web サブレットログのログ出力は, Cosminexus の設定に従います。設定方法については, マニュアル「Cosminexus アプリケーションサーバ V8 機能解説 保守 / 移行 / 互換編」, またはマニュアル「Cosminexus V9 アプリケーションサーバ 機能解説 保守 / 移行編」を参照してください。

また, Web サブレットログの出力形式および出力内容については, マニュアル「Cosminexus アプリケーションサーバ V8 機能解説 保守 / 移行 / 互換編」, またはマニュアル「Cosminexus V9 アプリケーションサーバ 機能解説 保守 / 移行編」を参照してください。

なお, デフォルトの Web サブレットログの出力先は, 次のとおりです。Xは1から始まる連番を表します。

```
{Cosminexus インストールディレクトリ}¥CC¥server¥public¥ejb¥{サーバ名称}¥logs¥web_servletX.log
```

(6) 監査ログの概要

監査ログは, 利用者や運用管理者が uCosminexus Portal Framework に対して実行した操作およびその操作にともなうプログラムの動作の履歴をローカルファイルに出力したものです。監査ログを監査者が調査することで「いつ」「だれが」「何をしたか」を知ることができます。

8. ポータルの運用

監査ログの設定方法については、「8.2.8 監査ログの収集と調査」を参照してください。

8.2.3 ポートレットアクセスログの出力項目の検討

ポートレットアクセスログに出力する内容を検討します。ポートレットアクセスログを出力すると、次のようなメリットがあります。

ポートレット開発者およびシステム管理者

ポートレットコンテンツ取得時の障害発生を検出ができるので、デバッグ作業がしやすくなります。

システム管理者および運用管理者

不正な利用者の特定、ポートレットの性能改善、および提供コンテンツの妥当性の検証をして、ポートレットのセキュリティ監視やポータルのメンテナンスができます。

利用目的ごとに必要なポートレットアクセスログの出力項目を次に示します。ポートレットアクセスログに出力するかどうかを選択できる項目は、「利用者名」、「取得時間」、および「障害コード」です。出力項目を増やすとトレースの出力時間が掛かるため、必要最小限の出力を推奨します。

表 8-1 ポートレットアクセスログの出力項目

項番	管理種別	取得する情報（目的）	取得時刻（日付/時刻）	利用者要求カウンタ	ポートレット名	利用者名	取得時間	障害コード
1	構成管理	ポータルサイトの時間帯別利用者数（利用者数、およびピーク時間を分析します）			-	-	-	-
2		各ポートレットの参照回数（参照が多いポートレット、および未使用ポートレットを抽出します）				-	-	-
3		各利用者が画面上に表示しているポートレットの組み合わせ（どのような組み合わせでポートレットを表示しているかを調査します）				-	-	-
4		カスタマイザの利用状況（利用者比率や、1人当たりの操作回数などを調査します）					-	-
5	障害管理	ポートレットコンテンツ取得時に発生した障害（障害検知、および障害発生率を確認します）						

項番	管理種別	取得する情報（目的）	取得時刻（日付/時刻）	利用者要求カウンタ	ポートレット名	利用者名	取得時間	障害コード
6	性能管理	各ポートレットの時間帯別の平均コンテンツ取得時間（コンテンツのレスポンスタイムを測定します）		-		-		-
7		各ポートレットの時間帯別利用者数（コンテンツ取得のピーク時間を測定します）		-		-	-	-
8	課金管理	利用者がポートレットを参照したかの確認（参照ごとに課金する場合に使用します）		-			-	-
9	セキュリティ管理	どの利用者がどのポートレットに対してアクセスしたかの監視（不正アクセス者の特定、およびアクセス制御の妥当性を検証します）		-			-	-
10		どの利用者（運用管理者、部門管理者、または一般利用者）が画面をカスタマイズしたかの監視（不正アクセス者の特定、およびアクセス制御の妥当性を検証します）		-			-	-

（凡例）

：必要です。

-：必要ありません。

注 取得するかどうかを Portal Manager から設定します。

ポートレットアクセスログの形式および出力内容については、「8.2.6 ポートレットアクセスログの形式と出力内容」を参照してください。

8.2.4 ログ出力の設定方法

ログ出力の設定方法は、ログの種類によって異なります。ここでは、各ログ出力の設定方法について説明します。

（1）保守ログ，ポートレットログ，およびポートレットアクセスログの設定方法

保守ログ，ポートレットログ，およびポートレットアクセスログの設定には，Portal

8. ポータルの運用

Manager を使用します。Portal Manager の起動方法については、「2.4.1 Portal Manager の起動方法」を参照してください。

保守ログ、ポートレットログ、およびポートレットアクセスログの設定手順を次に示します。

1. Portal Manager のメニュー部から [ポータルサイトの設定] - [ログ・トレースの設定] を選択します。
次の画面が表示されます。

図 8-2 [ログ・トレースの設定] 画面

The screenshot shows the 'Log and Trace Settings' (ログ・トレースの設定) window. The left sidebar contains a tree view with the following items: Portal Project Selection, Report Settings, Portlet Settings, Portal Site Settings, Layout Settings, Encoding Settings, Portlet Parallel Execution Settings, Log and Trace Settings (selected), Cache Clear, and Server Settings. The main content area is titled 'ログ・トレースの設定' and contains three sections:

- 保守ログ (Maintenance Log):** Includes dropdown for 'トレースレベル' (10), dropdown for 'トレースモード' (通常), dropdown for 'メッセージレベル' (エラー), and input fields for 'ファイル名', 'ファイル数', and 'ファイルサイズ'.
- ポートレットログ (Portlet Log):** Includes dropdown for 'トレースレベル' (10) and input fields for 'ファイル名', 'ファイル数', and 'ファイルサイズ'.
- アクセスログ (Access Log):** Includes a dropdown for 'ログ出力' (出力しない), checkboxes for 'オプション' (利用者名称, 取得時間, 障害コード), and input fields for 'ファイル名', 'ファイル数', and 'ファイルサイズ'.

A '登録' (Save) button is located at the bottom right of the main content area.

2. 保守ログを設定します。
保守ログを設定します。設定できる項目を次の表に示します。なお、J2EE サーバモードの場合は、必ず [ファイル名] (ログファイルの出力先) の設定をデフォルトから変更してください。

表 8-2 設定できる項目（保守ログ）

項目名	設定内容
トレースレベル	<p>トレースレベルを設定します。次の項目から選択します。デフォルトでは、[10] が選択されています。通常運用時は 10 を設定してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [出力しない] ログを出力しません。 • [0] 通常運用でのトレースレベルです。 • [10] 障害監視を必要とするトレースレベルです。プログラムの実行性能に影響を与えない範囲で出力します。 • [20] 障害調査時に設定するトレースレベルです。プログラムの動作シーケンスを把握できる内容を出力します。 • [30] 障害調査時に障害の個所を特定するためのトレースレベルです。プログラムの動作が完全に把握できる内容を出力します。
トレースモード	<p>トレースモードを設定します。次の項目から選択します。デフォルトでは、[通常] が選択されています。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [通常] ポートレットにエラーメッセージだけを表示し、ログを出力します。 • [コンパイル] ポートレット実行時に JSP コンパイルエラーが発生した場合、ポートレットにエラーメッセージ、およびスタックトレースを表示し、ログを出力します。 • [デバッグ] ポートレット実行時にエラーが発生した場合、ポートレットにエラーメッセージ、スタックトレースを表示し、ログを出力します。
メッセージレベル	<p>出力するメッセージのレベルを設定します。次の項目から選択します。デフォルトは [エラー] になります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [エラー] 処理を続行できないエラーが発生した場合に、エラーメッセージを出力します。 • [ワーニング] 処理は続行するが、問題が発生した場合に、エラーメッセージまたは警告メッセージを出力します。 • [インフォメーション] システム管理者への通知メッセージです。すべてのメッセージを出力します。
ファイル名	<p>ログ出力先ディレクトリのフルパス、およびファイル名のプレフィックスを指定します。 ログファイル名は、ここで指定したプレフィックスの後ろに、1 から始まる連番、および拡張子（.log）を付けた名称となります。また、ほかのログのファイル名（ログ出力先のフルパス + ファイル名のプレフィックス）と同じ値は指定できません。 指定例を次に示します。</p> <p>指定例 C:/log/portal 上記のように指定した場合、ログファイル名は、「portal1.log」となります。</p>
ファイル数	<p>切り替えて使用するトレースファイルの数を設定します。1 から 16 の整数を一つ指定してください。デフォルト値は 4 です。</p>

8. ポータルの運用

項目名	設定内容
ファイルサイズ	一つのトレースファイルの最大サイズを設定します。単位はバイトで、値の範囲は 4,096 ~ 2,147,483,647 です。2,097,152 (約 2MB) 以上を推奨します。デフォルト値は、1,048,576 (約 1MB) です。

3. ポートレットログを設定します。

ポートレットログを設定します。設定できる項目を次の表に示します。なお、J2EE サーバモードの場合は、必ず [ファイル名] (ログファイルの出力先) の設定をデフォルトから変更してください。

表 8-3 設定できる項目 (ポートレットログ)

項目名	設定内容
トレースレベル	<p>トレースレベルを設定します。次の項目から選択します。デフォルトでは、[10] が選択されています。通常運用時は 10 を設定してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [出力しない] ログを出力しません。 • [0] 通常運用でのトレースレベルです。 • [10] 障害監視を必要とするトレースレベルです。プログラムの実行性能に影響を与えない範囲で出力します。 • [20] 障害調査時に設定するトレースレベルです。プログラムの動作シーケンスを把握できる内容を出力します。 • [30] 障害調査時に障害の個所を特定するためのトレースレベルです。プログラムの動作が完全に把握できる内容を出力します。
ファイル名	<p>ログ出力先ディレクトリのフルパス、およびファイル名のプレフィックスを指定します。</p> <p>ログファイル名は、ここで指定したプレフィックスの後ろに、1 から始まる連番、および拡張子 (.log) を付けた名称となります。また、ほかのログのファイル名 (ログ出力先のフルパス + ファイル名のプレフィックス) と同じ値は指定できません。</p> <p>指定例を次に示します。</p> <p>指定例</p> <pre>C:/log/application</pre> <p>上記のように指定した場合、ログファイル名は、「application1.log」となります。</p>
ファイル数	切り替えて使用するトレースファイルの数を設定します。1 から 16 の整数を一つ指定してください。デフォルト値は 4 です。
ファイルサイズ	一つのトレースファイルの最大サイズを設定します。単位はバイトで、値の範囲は 4,096 ~ 2,147,483,647 です。2,097,152 (約 2MB) 以上を推奨します。デフォルト値は、1,048,576 (約 1MB) です。

4. ポートレットアクセスログを設定します。

ポートレットアクセスログを設定します。設定できる項目を次の表に示します。なお、J2EE サーバモードの場合は、必ず [ファイル名] (ログファイルの出力先) の設

定をデフォルトから変更してください。

表 8-4 設定できる項目 (ポートレットアクセスログ)

項目名	設定内容
ログ出力	ポートレットアクセスログを出力するかどうかを設定します。次の項目から選択します。デフォルトでは、[出力しない]が選択されています。 <ul style="list-style-type: none"> • [出力しない] ログを出力しません。 • [出力する] ログを出力します。
オプション	アクセスログファイルに出力したい項目をチェックします。 <ul style="list-style-type: none"> • 利用者名称 ポートレットにアクセスした利用者の名称を出力します。 • 取得時間 ポートレットコンテンツの取得時間を出力します。 • 障害コード 障害コードを出力します。
ファイル名	ログ出力先ディレクトリのフルパス、およびファイル名のプレフィックスを指定します。 ログファイル名は、ここで指定したプレフィックスの後ろに、1 から始まる連番、および拡張子 (.log) を付けた名称となります。また、ほかのログのファイル名 (ログ出力先のフルパス + ファイル名のプレフィックス) と同じ値は指定できません。 指定例を次に示します。 指定例 C:/log/access 上記のように指定した場合、ログファイル名は、「access1.log」となります。
ファイル数	切り替えて使用するトレースファイルの数を指定します。1 から 16 の整数を一つ指定してください。デフォルト値は 4 です。
ファイルサイズ	一つのトレースファイルの最大サイズを設定します。単位はバイトで、値の範囲は 4,096 ~ 2,147,483,647 です。2,097,152 (約 2MB) 以上を推奨します。デフォルト値は、1,048,576 (約 1MB) です。

5. [登録] ボタンをクリックします。

保守ログ、ポートレットログ、およびポートレットアクセスログの設定が登録されます。

(2) コンテナ保守ログの設定方法

コンテナ保守ログは、PortletApp.properties で設定します。PortletApp.properties は { 設定ファイル格納ディレクトリ } に格納されています。デフォルトの格納ディレクトリは次のとおりです。

格納ディレクトリ

```
{uCosminexus Portal Framework インストールディレクトリ }¥conf
```

PortletApp.properties で設定を変更した場合、ポータルサーバおよびポートレットが登

8. ポータルの運用

録されている Web コンテナサーバを再起動したときに、変更が反映されます。

コンテナ保守ログで設定できる項目を、次の表に示します。なお、PortletApp.properties の詳細は、「10.1.4 PortletApp.properties の詳細」を参照してください。

表 8-5 設定できる項目（コンテナ保守ログ）

プロパティ名	設定内容
jp.co.hitachi.soft.portal.util.log.container.TraceLevel	<p>トレースレベルを設定します。デフォルト値は、10 です。各レベルの出力内容は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • -1 ログを出力しません。 • 0 エラーメッセージ、およびスタックトレースを出力します。 • 10 ポートレットが登録されている Web コンテナの起動、終了などの動作を出力します。 • 20 各種パラメタの誤設定値の情報や、ポートレットが登録されている Web コンテナの主要処理の状況を出力します。 • 30 各種パラメタの設定値や、Java ライブラリメソッドの呼び出しの状況を出力します。 • 40 内部メソッドの動作や、デバッグ情報を出力します。
jp.co.hitachi.soft.portal.util.log.container.TraceFile	<p>ログ出力先ディレクトリのフルパス、およびファイル名のプレフィックスを指定します。null 値は指定できません。また、ほかのログのファイル名（ログ出力先のフルパス+ファイル名のプレフィックス）と同じ値は指定できません。デフォルトでは、次の値が設定されています。 <code>\${portal.install.dir}/log/portletContainer</code></p>
jp.co.hitachi.soft.portal.util.log.container.TraceNum	<p>切り替えて使用するログファイルの数を、1 ~ 16 の整数で設定します。範囲外の値を設定した場合は、ログが出力されません。デフォルト値は、8 です。</p>
jp.co.hitachi.soft.portal.util.log.container.TraceSize	<p>一つのログファイルの最大サイズを設定します。単位はバイトで、値の範囲は 4,096 ~ 2,147,483,647 です。範囲外の値を設定した場合は、デフォルト値を使用します。デフォルト値は、10,485,760 (10MB) です。</p>

注

表中の数値以外の整数を設定してもエラーにはなりません。0 ~ 1,000 を設定した場合は、設定値以下のいちばん高いレベルでログを出力します。例えば、100 を設定した場合は 40 レベルでログを出力します。また、-2 以下または 1,001 以上を設定した場合は、-1 レベルとみなされます。

8.2.5 ポートレットログの形式と出力内容

ポートレットログの形式および出力内容を次に示します。

番号	日付	時刻	AP 名	pid	tid	メッセージ ID	種別	メッセージテキスト
----	----	----	------	-----	-----	----------	----	-----------

番号

メッセージの通番が出力されます。

日付

ログが出力された日付が、yyyy/mm/dd 形式で出力されます。

時刻

ログが出力された時刻が、hh:mm:ss.sss 形式で出力されます。

AP 名

ポートレット名が 16 文字まで出力されます。17 文字以上を指定した場合、先頭から 16 文字だけが出力されます。

pid

プロセス識別子が出力されます。

tid

スレッド識別子が出力されます。

メッセージ ID

メッセージ ID が出力されます。メッセージ ID はメソッドごとに異なります。ログ出力 Bean のメソッドとメッセージ ID の一覧を次の表に示します。

表 8-6 ログ出力 Bean のメソッドとメッセージ ID の一覧

メソッド	メッセージ ID
debug	KDPF99990-I
note	KDPF99991-I
warn	KDPF99992-W
error	KDPF99993-E
printStackTrace	KDPF99990-I

種別

メッセージの種別が出力されます。次のメソッドを使用した場合には、"ER" が表示されます。

- error(Object obj)
- error(Object obj, Throwable t)
- warn(Object obj, Throwable t)

8. ポータルの運用

メッセージテキスト

ポートレットログの内容が出力されます。

8.2.6 ポートレットアクセスログの形式と出力内容

ポートレットアクセスログのフォーマット、ポートレットコンテンツ取得時間の詳細、およびポートレットアクセスログの出力例について説明します。

(1) ポートレットアクセスログの形式

ポートレットアクセスログのフォーマットを次に示します。

番号	日付	時刻	id	pn	un	tm	er	lid	lnm	act	ユーザ定義項目名
----	----	----	----	----	----	----	----	-----	-----	-----	----------

id, pn, un, tm, er, lid, lnm, act, ユーザ定義項目名は可変長のため、カラム開始位置は不定です。識別文字 (id=, pn=, un=, tm=, er=, lid=, lnm=, act=) の情報の最後に空白がある場合、その次に識別文字があるかどうかで情報の位置を判断してください。

番号

メッセージの通番が出力されます。

日付

トレースを取得した日付、またはポートレットの処理が終了した日付が、yyyy/mm/dd 形式で出力されます。固定長の数字で出力されます。日付の開始位置は、6 カラム目です。

時刻

トレースを取得した時刻、またはポートレットの処理が終了した時刻が、hh:mm:ss.sss(ms) 形式で出力されます。固定長の数字で出力されます。マシンに負荷が掛かっている場合には、時刻が少し (1 分以内) 遅くなる場合があります。

利用者要求カウンタ (id)

利用者要求が発生するたびに 1 ずつカウントされます。可変長の数字で出力されます。1 ~ 999,999 までカウントされ、999,999 の次は 0 になります。利用者要求カウンタが同じログは、同じ利用者が利用していることを示します。

利用者要求カウンタの開始位置は、91 カラム目です。

次の場合は、番号がラップアラウンドすることがあります。

- 同時接続数が多い (1 利用者がアクセスしているときに、100 万回以上の別の要求が発生したとき)
- マシンに高負荷が掛かっている
- 特定のポートレットの処理時間が掛かっている

ポートレット名 (pn)

コンテンツを取得したポートレット名が出力されます。可変長の文字列で出力され

ます。

利用者名 (un)

uCosminexus Portal Framework にログインした利用者名が出力されます。0 バイト以上の可変長の文字列で出力されます。利用者がログインする前の場合は、「un=」と表示されます。

ポートレットコンテンツ取得時間 (tm)

ポートレットコンテンツを取得するまでの時間が出力されます。デバッグ情報を出力している場合は、ポートレットコンテンツ取得開始からの時間が出力されます。可変長の数字で出力されます。ポートレットコンテンツ取得時間の詳細は、「(2) ポートレットコンテンツ取得時間」を参照してください。

障害コード (er)

ポートレットコンテンツ取得時に障害が発生したかどうかを検出します。固定長 1 バイトの文字列で表示されます。なお、uCosminexus Portal Framework が提供している「ログ出力 Bean」の error, warn メソッドなどを使用してログを出力しても、障害コードは出力されません。

- N : 正常終了
- W : 警告を検出しました。ログレベル 10 以上の場合だけ出力されます。ログレベル 10 以上の場合、保守ログに詳細情報が出力されます。
- E : 異常を検出しました。ログレベル 0 以上の場合、保守ログに詳細情報が出力されます。なお、警告と異常が同時に発生した場合は、エラーレベルの高い異常の方 (er=E) が出力されます。

レイアウト名称 (lid)

ポートレットが処理したレイアウトのレイアウト名称を出力します。

- lid=xxxxx lid: 固定文字 xxxxx: レイアウト名称

レイアウトタイトル (lnm)

ポートレットが処理したレイアウトのレイアウトタイトル (日本語) を出力します。

- lnm=xxxxx lnm: 固定文字 xxxxx: レイアウトタイトル

ログイン情報 / ログアウト情報 (act)

ユーザがログインした時およびログアウトした時 / セッションを破棄した時に出力します。

- act=xxxxx act: 固定文字 xxxxx: ログイン時 :Login ログアウト時 :Logout

ユーザ定義項目 (ユーザ定義項目名)

ログインしたユーザのユーザ定義項目を出力します。

- xxxxx=yyyyy xxxxx: ユーザ定義項目名 yyyyy: リポジトリから取得した値

(2) ポートレットコンテンツ取得時間

ポートレットアクセスログに出力されるポートレットコンテンツ取得時間は、ポート

8. ポータルの運用

レットごとに異なります。ポートレット種別ごとに、ポートレットコンテンツ取得時間を使用できるかどうかを次に示します。

表 8-7 ポートレットコンテンツ取得時間の使用可否

項番	ポートレット種別	取得する時間	使用可否
1	日立 API ポートレット, または標準 API ポートレット	ポートレットコンテンツ作成時間	
2	File ポートレット (Multi File Portlet)	ポートレットコンテンツ取得時間	
3	Web コンテンツポートレット	ポートレットコンテンツ取得時間	
4	Web ポートレット (Multi Web Portlet)	IFRAME 要素を作成するまでの時間 (コンテンツは取得していません)	×
5	Web ポートレット (Web App Portlet)	ポートレットコンテンツ取得時間 (コンテンツはキャッシュされている場合があります)	
6	Web ポートレット (Web Page Portlet)	ポートレットコンテンツ取得時間 (コンテンツはキャッシュされている場合があります)	
7	分散ポートレット	分散サーバからのポートレットコンテンツ取得時間	
8	運用管理ポートレット	ポートレットコンテンツ作成時間	

(凡例) : 使用できます。 × : 使用できません。

注

すべてのポートレット種別でインラインオブジェクト (画像) の取り込み時間は含まれません。利用者に画面は表示されていますが、画像などの内容が表示されていない状態のコンテンツを取得しています。

(3) 出力例

ポートレットアクセスログファイルの出力例を次に示します。

id が同じものは、同じ利用者が要求した情報です。id, pn, un, tm, er, lid, lnm, act, ユーザ定義項目名の間には空白があります。

```
2638 2005/01/30 12:10:44.514      00000898 J8B77D52 KDPF999997-I
un=taro act=Login hptl_clb_user_name=sn;lang-ja
2639 2005/01/30 12:10:44.514      00000898 J8B77D52 KDPF999999-I id=9
pn=PortletA un=taro tm=100 er=N lid=default lnm=ホーム
2640 2005/01/30 12:10:44.514      00000898 J8B77D52 KDPF999999-I id=9
pn=PortletB un=taro tm=120 er=N lid=default lnm=ホーム
2641 2005/01/30 12:10:44.514      00000898 J8B77D52 KDPF999999-I id=9
pn=PortletC un=taro tm=16 er=N lid=default lnm=ホーム
2642 2005/01/30 12:10:44.514      00000898 J8B77D52 KDPF999999-I id=9
pn=PortletD un=taro tm=171 er=N lid=default lnm=ホーム
2643 2005/01/30 12:10:44.704      00000898 JF8B7701 KDPF999999-I id=10
```

```

pn=TEST1 un=hanako tm=1560 er=N lid=layout1 lnm=タイトル
2644 2005/01/30 12:10:44.704 00000898 JF8B7701 KDPF99999-I id=10
pn=TEST1a un=hanako tm=2001 er=N lid=layout1 lnm=タイトル
2645 2005/01/30 12:10:44.704 00000898 JF8B7701 KDPF99999-I id=10
pn=TEST1b un=hanako tm=15 er=N lid=layout1 lnm=タイトル
2646 2005/01/30 12:10:44.704 00000898 JF8B7701 KDPF99999-I id=10
pn=TEST1b un=hanako tm=15 er=N lid=layout1 lnm=タイトル
2647 2005/01/30 12:11:12.704 00000898 J8B77D52 KDPF99997-I
un=taro act=Logout

```

8.2.7 コンテナ保守ログの形式と出力内容

コンテナ保守ログの形式および出力内容を次に示します。

番号	日付	時刻	AP 名	pid	tid	メッセージ ID	種別	メッセージテキスト
----	----	----	------	-----	-----	----------	----	-----------

番号

メッセージの通番が出力されます。

日付

ログが出力された日付が、yyyy/mm/dd 形式で出力されます。

時刻

ログが出力された時刻が、hh:mm:ss.sss 形式で出力されます。

AP 名

ログ出力時に設定したクラス名が 16 文字まで出力されます。クラス名にはコンテキストパスを設定することを推奨します。17 文字以上を指定した場合、先頭から 16 文字だけが出力されます。

pid

プロセス識別子が出力されます。

tid

スレッド識別子が出力されます。

メッセージ ID

メッセージ ID が出力されます。メッセージ ID の一覧を次の表に示します。

表 8-8 コンテナ保守ログのメッセージ ID 一覧

メッセージ ID	説明
KDPF62301-I	標準 API ポートレットが登録されている Web コンテナの起動のログです。
KDPF62302-I	標準 API ポートレットが登録されている Web コンテナの停止のログです。
KDPF62311-I	標準 API ポートレットが登録されている Web コンテナのリクエスト処理開始ログです。
KDPF62312-I	標準 API ポートレットが登録されている Web コンテナのリクエスト処理終了ログです。

8. ポータルの運用

メッセージ ID	説明
KDPF62321-I	標準 API ポートレットの processAction() の処理開始ログです。
KDPF62322-I	標準 API ポートレットの processAction() の処理終了ログです。
KDPF62323-I	標準 API ポートレットの render() の処理開始ログです。
KDPF62324-I	標準 API ポートレットの render() の処理終了ログです。
KDPF99999-I	上記以外のメッセージです。

種別

メッセージの種別が出力されます。メッセージ種別の一覧を次の表に示します。

表 8-9 コンテナ保守ログのメッセージ種別一覧

メッセージ種別	説明
FB	メソッドの開始時のログに出力されます。
FE	メソッドの終了時のログに出力されます。
OC	オブジェクト生成時のログに出力されます。
OD	オブジェクト破棄時のログに出力されます。
ER	致命的なエラー情報出力時のログに出力されます。
EC	例外発生時のエラー情報や、Exception のスタックトレース情報出力時のログに出力されます。
(空白)	上記以外の場合に出力されます。

メッセージテキスト

コンテナ保守ログの内容が出力されます。

8.2.8 監査ログの収集と調査

uCosminexus Portal Framework が出力する監査ログの出力先、出力形式および出力項目の詳細について説明します。

(1) 出力先

デフォルトの場合の監査ログの出力先は、次のとおりです。なお、 X は 1 から始まる連番を表します。

出力先

```
{uCosminexus Portal Framework インストールディレクトリ  
}¥log¥auditX.log
```

監査ログの出力先は、プロパティファイル (PortalResources.properties) で設定します。設定方法の詳細は、「10.1.1(18) 監査ログの設定」を参照してください。

! 注意事項

監査ログの出力先に監査ログファイルを制御するためのコントロールファイル（拡張子が.conf）が出力されます。コントロールファイルは削除しないでください。

(2) 出力形式

監査ログは、メッセージとして出力されます。監査ログのメッセージは、次の形式で出力されます。

CALFHM 1.0,出力項目1=値1,出力項目2=値2,・・・,出力項目n=値n

先頭の「CALFHM 1.0」は、ヘッダ情報です。監査ログに、共通で出力されます。

(3) 出力項目

監査ログに出力する項目を次に示します。出力内容の詳細は、「付録 F 監査ログメッセージ」を参照してください。なお、subj:ipv4 または subj:ipv6 のどちらかの項目が出力されます。

表 8-10 監査ログ出力項目

出力項目名	出力項目の意味	説明
seqnum	通番	監査ログの通番が出力されます。 出力される値は、1 から 999999999 までの整数です。
msgid	メッセージ ID	メッセージ ID が出力されます。
date	日付・時刻	メッセージが出力された日時が、次の形式で出力されます。 YYYY-MM-DDThh:mm:ss.sssTZD <ul style="list-style-type: none"> • YYYY: 西暦 • MM: 月 • DD: 日 • T: 日付と時間の区切り • hh: 時 • mm: 分 • ss: 秒 • sss: ミリ秒 • TZD: タイムゾーン タイムゾーンは UTC からの時差で出力されます。出力形式を次に示します。 • +hh:mm: UTC から hh 時間 mm 分進んでいる • -hh:mm: UTC から hh 時間 mm 分遅れている
progid	発生プログラム名	監査事象が発生したプログラム名が出力されます。 「CosmiPortal」が出力されます。
compid	発生構成ソフトウェア名	監査事象が発生したコンポーネント名が出力されます。 「CosmiPortal」が出力されます。
pid	発生プロセス ID	監査事象が発生したプロセスのプロセス ID が出力されます。

8. ポータルの運用

出力項目名	出力項目の意味	説明
ocp:host	発生場所	監査事象が発生したホストのホスト名が FQDN で出力されます。ドメイン名が取得できない場合はドメイン部を含めない形式でホスト名が出力されます。
ctgry	監査事象の種別	監査事象の種別が出力されます。 Authentication ログイン、ログアウトなど、uCosminexus Portal Framework への認証が実行されたことを示す事象 ConfigurationAccess 設定および構成の変更を示す事象 ContentAccess 重要情報にアクセスしたことを示す事象
result	監査事象の結果	監査事象の結果が出力されます。 Success 監査事象の成功を示す Failure 監査事象の失敗を示す
subj:uid	サブジェクト識別情報（アカウント情報）	サブジェクト識別情報（アカウント情報）が出力されます。監査事象を操作したユーザのユーザ ID が出力されます。ログイン/ログアウトの場合は、ログインしたユーザ ID が出力されます。なお、未ログインの場合は、"Anonymous" が出力されます。
subj:ipv4	サブジェクト識別情報（IP アドレス情報）	サブジェクト識別情報（IP アドレス情報）が出力されます。監査事象を操作したユーザの端末の IP アドレス（IPv4 形式）が出力されます。IP アドレスの取得元はプロパティ「jp.co.hitachi.soft.portal.util.log.auditlog.clientip.source」で変更できます。設定方法の詳細は、「10.1.1(18) 監査ログの設定」を参照してください。なお、IPv4 形式と IPv6 形式が混在している場合は、subj:ipv6 項目に出力されます。
subj:ipv6	サブジェクト識別情報（IP アドレス情報）	サブジェクト識別情報（IP アドレス情報）が出力されます。監査事象を操作したユーザの端末の IP アドレス（IPv6 形式）が出力されます。IP アドレスの取得元はプロパティ「jp.co.hitachi.soft.portal.util.log.auditlog.clientip.source」で変更できます。設定方法の詳細は、「10.1.1(18) 監査ログの設定」を参照してください。
op	動作情報	監査事象となった操作の種別が出力されます。
msg	自由記述	監査事象の内容を示すメッセージが出力されます。

(4) 監査ログの出力タイミング

uCosminexus Portal Framework が出力する監査ログの出力タイミングを監査事象の種別ごとに説明します。

(a) 「Authentication」(識別・認証)

「Authentication」(識別・認証) の出力一覧を次に示します。

表 8-11 識別・認証の出力一覧

出力場所	出力タイミング	出力メッセージ ID
ログイン	ログインボタンクリック時,またはシングルサインオンによりログインした時	KDPF80201-I または KDPF80202-W
ログアウト	ログアウトボタンクリック時,またはセッションタイムアウトによりログアウトした時	KDPF80203-I または KDPF80204-W

(b) 「ConfigurationAccess」(設定情報アクセス)

「ConfigurationAccess」(設定情報アクセス) の出力一覧を次に示します。

表 8-12 設定情報アクセスの出力一覧

出力場所	出力タイミング	出力メッセージ ID
運用管理ポータル ユーザ管理	新規ユーザ作成画面で OK ボタンをクリックした時	KDPF80401-I または KDPF80402-W
運用管理ポータル ユーザ管理	ユーザ情報変更画面で OK ボタンを押した時	KDPF80403-I または KDPF80404-W
運用管理ポータル ユーザ管理	ユーザ削除画面で OK ボタンを押した時	KDPF80405-I または KDPF80406-W
運用管理ポータル グループ管理	管理者条件編集画面で OK ボタンを押した時	KDPF80407-I または KDPF80408-W
運用管理ポータル グループ管理	利用者条件編集画面で OK ボタンを押した時	KDPF80409-I または KDPF80410-W

(c) 「ContentAccess」(重要情報アクセス)

「ContentAccess」(重要情報アクセス) の出力一覧を次に示します。

表 8-13 重要情報アクセスの出力一覧

出力場所	出力タイミング	出力メッセージ ID
パスワード変更画面	パスワード変更画面で 変更ボタンをクリック した時	KDPF80801-I または KDPF80802-W

8. ポータルの運用

出力場所	出力タイミング	出力メッセージ ID
運用管理ポータル レットユーザ管理	ユーザ情報設定のパスワード変更画面で OK ボタンをクリックした時	KDPF80801-I または KDPF80802-W

8.3 稼動状態の監視

uCosminexus Portal Framework の稼動状態を監視するための方法を説明します。

8.3.1 ヘルスチェック URL

uCosminexus Portal Framework は、負荷分散機などがアプリケーション監視するためのヘルスチェック URL を提供しています。このヘルスチェック URL を使用することで、uCosminexus Portal Framework が正常に稼動しているか監視できます。

(1) URL

ヘルスチェック URL を次に示します。

```
{プロトコル}://{サーバ名称}:{ポート番号}/{ポータルプロジェクト名}/hptl_health.jsp
```

ポート番号が 80 の場合は、次の URL を実行します。

```
{プロトコル}://{サーバ名称}/{ポータルプロジェクト名}/hptl_health.jsp
```

例：http://portal-server/Portal/hptl_health.jsp

(2) レスポンス

ヘルスチェック URL にアクセスした時の、レスポンスを次に示します。

ステータスコード

レスポンスのステータスコードの一覧(例)を次に示します。ステータスコードが 200 の場合に正常に稼動していると判断してください。なお、サーバの稼動状態やネットワークの状態により、一覧に記載されているステータスコード以外が返される場合があります。

表 8-14 ステータスコード一覧(例)

ステータスコード	説明
200 (OK)	正常に稼動しています。
400 (Bad Request)	URL へのアクセス方法に誤りがある可能性があります。
404 (Not Found)	アプリケーションが停止している可能性があります。
500 (Internal Server Error)	サーバ内部エラーが発生しています。

レスポンスメッセージ例

正常に動作している時のレスポンスヘッダーを次に示します。

```
HTTP/1.1 200 OK
Content-Type: text/html; charset=UTF-8
Date: Tue, 22 Jan 2008 07:10:04 GMT
```

8. ポータルの運用

Server: CosminexusComponentContainer

レスポンスメッセージボディ

正常に動作している時のレスポンスメッセージボディを次に示します。

```
<html><body></body></html>
```

8.4 運用後の不要データの削除

共通情報用 DB を使用している場合に、運用後の不要データを削除する必要があります。ここでは、運用後の不要データの削除方法について説明します。

8.4.1 共通情報の削除

共通情報を設定してポータルの運用を開始したあとで、データの削除オペレーションが発生した場合、該当レコードは削除されないで「削除フラグ」(deleteflg) カラムの値が変更されます。このため、データの削除オペレーションを繰り返すと、不要レコードが蓄積されてしまいます。

ここでは、不要レコードを削除する手順について説明します。なお、この作業はポータルサーバの停止中に行ってください。また、クラスタ構成の場合は全サーバを停止してから行ってください。ポータルサーバの停止方法については、「8.1 ポータルの起動と終了」を参照してください。

(1) 削除の手順 (HiRDB の場合)

HiRDB を使用している場合の削除手順を次に示します。

1. DB をバックアップします。

削除作業の対象となる HiRDB の RD エリアに対して、バックアップを取得してください。バックアップ対象となる RD エリアは、「3.7.3(1) 作成するテーブル、インデクスおよび RD エリア」で定義した全 RD エリアです。

2. 削除を実行します。

PDSQL を起動して、テーブル削除実行用 SQL (deletedata.sql) を実行します。deletedata.sql の格納ディレクトリを次に示します。

格納ディレクトリ

```
{uCosminexus Portal Framework インストールディレクトリ
}¥samples¥config¥empowermentdb
```

なお、「3.7.3(1) 作成するテーブル、インデクスおよび RD エリア」で、テーブル名やカラム名を異なる名称で作成した場合は、deletedata.sql 中の該当する名称を変更してから、SQL を実行してください。

deletedata.sql の内容を次に示します。

```
LOCK TABLE PORTAL_GROUP IN EXCLUSIVE MODE;
DELETE FROM PORTAL_GROUP WHERE DELETEDFLG = '1';
COMMIT;
LOCK TABLE PORTAL_LAYOUT IN EXCLUSIVE MODE;
DELETE FROM PORTAL_LAYOUT WHERE DELETEDFLG = '1';
COMMIT;
LOCK TABLE PORTAL_PORTLET IN EXCLUSIVE MODE;
DELETE FROM PORTAL_PORTLET WHERE DELETEDFLG = '1';
COMMIT;
LOCK TABLE FILECONTENT IN EXCLUSIVE MODE;
```

8. ポータルの運用

```
DELETE FROM FILECONTENT WHERE DELETEFLG = '1';
COMMIT;
LOCK TABLE PORTLET_GROUP IN EXCLUSIVE MODE;
DELETE FROM PORTLET_GROUP WHERE DELETEFLG = '1';
COMMIT;
LOCK TABLE PORTLET_ENTRY IN EXCLUSIVE MODE;
DELETE FROM PORTLET_ENTRY WHERE DELETEFLG = '1';
COMMIT;
LOCK TABLE PORTLET_ARRANGE IN EXCLUSIVE MODE;
DELETE FROM PORTLET_ARRANGE WHERE DELETEFLG = '1';
COMMIT;
```

deletedata.sql の実行例を次に示します。

```
set pduser={HiRDBユーザ名}/{パスワード}
pdsql < deletedata.sql
```

3. 削除結果を確認します。

PDSQL を起動して、テーブル削除確認用 SQL (deletecheck.sql) を実行します。

deletecheck.sql の格納ディレクトリを次に示します。

格納ディレクトリ

```
{uCosminexus Portal Framework インストールディレクトリ
}¥samples¥config¥empowermentdb
```

なお、「3.7.3(1) 作成するテーブル、インデクスおよび RD エリア」で、テーブル名やカラム名を異なる名称で作成した場合は、deletecheck.sql 中の該当する名称を変更してから、SQL を実行してください。

deletecheck.sql の内容を次に示します。

```
SELECT PORTALGROUPNAME FROM PORTAL_GROUP WHERE DELETEFLG = '1'
WITHOUT LOCK NOWAIT;
SELECT ENTRYID FROM PORTAL_LAYOUT WHERE DELETEFLG = '1' WITHOUT
LOCK NOWAIT;
SELECT ENTRYID FROM PORTAL_PORTLET WHERE DELETEFLG = '1' WITHOUT
LOCK NOWAIT;
SELECT FILENAME FROM FILECONTENT WHERE DELETEFLG = '1' WITHOUT
LOCK NOWAIT;
SELECT PORTLETGROUPNAME FROM PORTLET_GROUP WHERE DELETEFLG = '1'
WITHOUT LOCK NOWAIT;
SELECT ENTRYID FROM PORTLET_ENTRY WHERE DELETEFLG = '1' WITHOUT
LOCK NOWAIT;
SELECT LAYOUTID FROM PORTLET_ARRANGE WHERE DELETEFLG = '1' WITHOUT
LOCK NOWAIT;
```

deletecheck.sql の実行例を次に示します。

```
set pduser={HiRDBユーザ名}/{パスワード}
pdsql < deletecheck.sql
```

SQL を実行した結果、1 件も該当しなければ、削除は成功しています。

4. ポータルサーバを起動して確認します。

手順 1. ~ 3. の終了後、ポータルサーバを起動して、次の点で問題がないことを確認します。

- ログイン後の画面表示内容が削除作業をする前と同じであること。

- 運用管理ポートレットを使用した場合、削除作業をする前と画面表示内容が同じであること。

(2) 削除の手順 (Oracle の場合)

Oracle を使用している場合の削除手順を次に示します。

1. DB をバックアップします。

削除作業の対象となるテーブル、表領域に対して、バックアップを取得してください。バックアップ対象は、「3.7.4(1) 作成するテーブル、およびインデクス」で作成したすべてのテーブルとテーブルが格納される表領域です。

2. 削除を実行します。

SQL*Plus を起動して、テーブル削除実行用 SQL (deletedata2.sql) を実行します。deletedata2.sql の格納ディレクトリを次に示します。

格納ディレクトリ

```
{uCosminexus Portal Framework インストールディレクトリ}
¥samples¥config¥empowermentdb
```

なお、「3.7.4(1) 作成するテーブル、およびインデクス」で、テーブル名やカラム名を異なる名称で作成した場合は、deletedata2.sql 中の該当する名称を変更してから、SQL を実行してください。

deletedata2.sql の内容を次に示します。

```
DELETE FROM PORTAL_GROUP WHERE DELETEDFLG = '1';
COMMIT;
DELETE FROM PORTAL_LAYOUT WHERE DELETEDFLG = '1';
COMMIT;
DELETE FROM PORTAL_PORTLET WHERE DELETEDFLG = '1';
COMMIT;
DELETE FROM FILECONTENT WHERE DELETEDFLG = '1';
COMMIT;
DELETE FROM PORTLET_GROUP WHERE DELETEDFLG = '1';
COMMIT;
DELETE FROM PORTLET_ENTRY WHERE DELETEDFLG = '1';
COMMIT;
DELETE FROM PORTLET_ARRANGE WHERE DELETEDFLG = '1';
COMMIT;
```

deletedata2.sql の実行例を次に示します。

```
sqlplus {DBユーザ名}/{パスワード}@{DBホスト文字列} < deletedata2.sql
```

3. 削除結果を確認します。

SQL*Plus を起動して、テーブル削除確認用 SQL (deletecheck2.sql) を実行します。

deletecheck2.sql の格納先を次に示します。

```
{uCosminexus Portal Frameworkインストールディレクトリ}
¥samples¥config¥empowermentdb
```

なお、「3.7.4(1) 作成するテーブル、およびインデクス」で、テーブル名やカラム名

8. ポータルの運用

を異なる名称で作成した場合は、deletecheck2.sql 中の該当する名称を変更してから、SQL を実行してください。

deletecheck2.sql の内容を次に示します。

```
SELECT PORTALGROUPNAME FROM PORTAL_GROUP WHERE DELETEDFLG = '1';
SELECT ENTRYID FROM PORTAL_LAYOUT WHERE DELETEDFLG = '1';
SELECT ENTRYID FROM PORTAL_PORTLET WHERE DELETEDFLG = '1';
SELECT FILENAME FROM FILECONTENT WHERE DELETEDFLG = '1';
SELECT PORTLETGROUPNAME FROM PORTLET_GROUP WHERE DELETEDFLG = '1';
SELECT ENTRYID FROM PORTLET_ENTRY WHERE DELETEDFLG = '1';
SELECT LAYOUTID FROM PORTLET_ARRANGE WHERE DELETEDFLG = '1';
```

deletecheck2.sql の実行例を次に示します。

```
sqlplus {DBユーザ名}/{パスワード}@{DBホスト文字列} < deletecheck2.sql
```

SQL を実行した結果、1 件も該当しなければ、削除は成功しています。

4. ポータルサーバを起動して確認します。

手順 1. ~ 3. の終了後、ポータルサーバを起動して、次の点で問題がないことを確認します。

- ログイン後の画面表示内容が削除作業をする前と同じであること。
- 運用管理ポートレットを使用した場合、削除作業をする前と画面表示内容が同じであること。

(3) 削除の手順 (SQL Server の場合)

SQL Server を使用している場合の削除手順を次に示します。

1. DB をバックアップします。

削除作業の対象となるテーブル、表領域に対して、バックアップを取得してください。バックアップ対象は、「3.7.5(1) 作成するテーブル、およびインデクス」で作成したすべてのテーブルとテーブルが格納される表領域です。

2. 削除を実行します。

SQLCMD を起動して、テーブル削除実行用 SQL (deletedata3.sql) を実行します。

deletedata3.sql の格納ディレクトリを次に示します。

格納ディレクトリ

```
{uCosminexus Portal Framework インストールディレクトリ}
¥samples¥config¥empowermentdb
```

なお、「3.7.5(1) 作成するテーブル、およびインデクス」で、テーブル名やカラム名を異なる名称で作成した場合は、deletedata3.sql 中の該当する名称を変更してから、SQL を実行してください。

deletedata3.sql の内容を次に示します。

```
USE PORTAL_DATABASE;
go
```

```

DELETE FROM PORTAL_GROUP WHERE DELETEFLG = '1';
go
DELETE FROM PORTAL_LAYOUT WHERE DELETEFLG = '1';
go
DELETE FROM PORTAL_PORTLET WHERE DELETEFLG = '1';
go
DELETE FROM FILECONTENT WHERE DELETEFLG = '1';
go
DELETE FROM PORTLET_GROUP WHERE DELETEFLG = '1';
go
DELETE FROM PORTLET_ENTRY WHERE DELETEFLG = '1';
go
DELETE FROM PORTLET_ARRANGE WHERE DELETEFLG = '1';
go

```

deletedata3.sql の実行例を次に示します。

```
sqlcmd -U {DBユーザ名} -P {パスワード} -i deletedata3.sql
```

3. 削除結果を確認します。

SQLCMD を起動して、テーブル削除確認用 SQL (deletecheck3.sql) を実行します。

deletecheck3.sql の格納先を次に示します。

```
{uCosminexus Portal Frameworkインストールディレクトリ}
¥samples¥config¥empowermentdb
```

なお、「3.7.5(1) 作成するテーブル、およびインデクス」で、テーブル名やカラム名を異なる名称で作成した場合は、deletecheck3.sql 中の該当する名称を変更してから、SQL を実行してください。

deletecheck3.sql の内容を次に示します。

```

USE PORTAL_DATABASE;
go

SELECT PORTALGROUPNAME FROM PORTAL_GROUP WHERE DELETEFLG = '1';
SELECT ENTRYID FROM PORTAL_LAYOUT WHERE DELETEFLG = '1';
SELECT ENTRYID FROM PORTAL_PORTLET WHERE DELETEFLG = '1';
SELECT FILENAME FROM FILECONTENT WHERE DELETEFLG = '1';
SELECT PORTLETGROUPNAME FROM PORTLET_GROUP WHERE DELETEFLG = '1';
SELECT ENTRYID FROM PORTLET_ENTRY WHERE DELETEFLG = '1';
SELECT LAYOUTID FROM PORTLET_ARRANGE WHERE DELETEFLG = '1';
go

```

deletecheck3.sql の実行例を次に示します。

```
sqlcmd -U {DBユーザ名} -P {パスワード} -i deletecheck3.sql
```

SQL を実行した結果、1 件も該当しなければ、削除は成功しています。

4. ポータルサーバを起動して確認します。

手順 1. ~ 3. の終了後、ポータルサーバを起動して、次の点で問題がないことを確認します。

- ログイン後の画面表示内容が削除作業をする前と同じであること。
- 運用管理ポートレットを使用した場合、削除作業をする前と画面表示内容が同じであること。

8.5 ホスト名または IP アドレスの変更

ここでは、運用後にホスト名または IP アドレスを変更する場合の影響範囲について説明します。

(1) ポータルサーバのホスト名または IP アドレスを変更する場合

特に影響はありません。

(2) リポジトリサーバのホスト名または IP アドレスを変更する場合

リポジトリの設定の接続先 URL に変更するホスト名または IP アドレスを記述している場合は変更してください。リポジトリの変更について、ディレクトリサーバの場合は「4.4.2 リポジトリの変更 (ディレクトリサーバ)」を、DB の場合は「4.5.3 リポジトリの変更 (DB)」を参照してください。

また、統合ユーザ管理フレームワークのコンフィグレーションファイルで指定しているディレクトリサーバまたは DB の URL を変更してください。統合ユーザ管理フレームワークのコンフィグレーションファイルについては「4.3.1 統合ユーザ管理フレームワークの実行環境の設定」を参照してください。

(3) Web ポートレットの接続先ホストを変更する場合

ポートレットの種類ごとの影響範囲を次の表に示します。変更するホスト名または IP アドレスを記述している場合は変更してください。

ポートレットの種類	影響範囲
Web Page Portlet	コンテンツ URL
Web App Portlet	コンテンツ URL
	フォーム認証定義ファイルに定義した認証 URL
Multi Web Portlet	マルチデバイスコンテンツ (HTML, CHTML, HDML)
	FormBase 認証 (認証 URL)
Distributed Web Portlet	サーバアドレス
Web コンテンツポートレット	Form 認証用 URL
	コンテンツ取得用 URL
	ログアウト用 URL

(4) Web ポートレットが接続するプロキシサーバを変更する場合

ポートレットの種類ごとの影響範囲を次の表に示します。変更するホスト名または IP アドレスを記述している場合は変更してください。

ポータルレットの種類	影響範囲
Web Page Portlet	プロキシホスト
Web App Portlet	プロキシホスト
Multi Web Portlet	プロキシホスト
Distributed Web Portlet	プロキシホスト
Web コンテンツポータルレット	Proxy ホスト

(5) Notes サマリポータルレットで使用している Notes サーバを変更する場合

変更するホスト名または IP アドレスを記述していた場合に変更が必要な設定を次に示します。なお、運用環境 1 および運用環境 2 については Notes サマリポータルレットに付属の Readme ファイルを参照してください。

- 運用環境 1 の場合、ポータルサーバのサブドメインとなるように変更してください。
- 運用環境 2 の場合、Web サーバのリダイレクト先を変更してください。
- シングルサインオン用の認証情報 (PUBLICDATA) を変更してください。
- NotesWebSSO jaas.conf の `htpl.websso.domain.machinename` および `htpl.websso.proxyhost` を変更してください。

9

カスタマイズに使用するライブラリ

この章では、ポータルをカスタマイズするときに使用するライブラリの詳細を説明します。

9.1 カスタマイズに使用するライブラリの種類

9.2 ユーザ管理メッセージ表示タグライブラリ

9.3 カスタマイズ Bean

9.4 ポートレットテンプレート Bean

9.5 ログインログアウト Bean

9.6 スtringリソース取得 API

9.1 カスタマイズに使用するライブラリの種類

uCosminexus Portal Framework では次のライブラリを使用します。

ナビゲーション API

ナビゲーションテンプレートのカスタマイズするときに使用するライブラリです。

- ユーザ管理メッセージ表示タグライブラリ

カスタマイズ API

レイアウトカスタマイズ画面 ([レイアウト編集画面] および [レイアウト編集画面] から遷移するほかの画面の総称) を編集するときに使用するライブラリです。

- カスタマイズ Bean

テンプレート API

ポートレット表示領域やポートレットの表示方法をカスタマイズするときに使用するライブラリです。

- ポートレットテンプレート Bean

ログイン API

ログイン処理をカスタマイズするときに使用するライブラリです。

- ログインログアウト Bean

ストリングリソース取得 API

ストリングリソースを取得するときに使用するライブラリです。

- ストリングリソース取得 API

9.2 ユーザ管理メッセージ表示タグライブラリ

ユーザ管理メッセージ表示タグライブラリは、ナビゲーションテンプレートをカスタマイズするためのものです。

ユーザ管理で使用するタグライブラリの一覧を次の表に示します。

表 9-1 ユーザ管理タグライブラリの一覧

タグ名	説明	JSP スクリプトレット式で評価される属性
PortalAC:AccessDeniedList	アクセス制御の設定で表示が拒否されたポートレットのリストを表示します。	separator
PortalAC:isAccessDenied	アクセス制御の設定で表示が拒否されたポートレットが一つでもある場合だけボディを表示します。	-

(凡例)

- : 該当しません。

! 注意事項

タグライブラリの使用時には、次の点に注意してください。

- タグライブラリはすべて開始タグおよび終了タグを持ちます。終了タグを省略できません。
- 開始、終了タグおよび属性名の指定をマニュアルの記載どおりに統一します。

ユーザ管理メッセージ表示タグライブラリの詳細を説明します。

PortalAC:AccessDeniedList

機能

アクセス制御の設定で表示が拒否されたポートレットのリストを表示します。

注意事項

このタグライブラリはナビゲーションテンプレートの下部設定 JSP ファイル (bottom.jsp) だけで使用できます。そのほかでは使用できません。

構文

```
<%@ taglib uri="http://soft.hitachi.co.jp/portal/portalac"
  prefix="PortalAC" %>
<PortalAC:AccessDeniedList separator="," />
```

属性

属性	説明	必須 / 任意	JSP スクリプトレット式評価
separator	このタグライブラリが、ポートレットのリストを表示するときに、ポートレット名を区切る文字列です。省略時は半角コンマ記号が区切り文字となります。	任意	

(凡例)

: JSP スクリプトレット式で評価されます。

PortalAC:isAccessDenied

機能

アクセス制御の設定で表示が拒否されたポートレットが一つ以上ある場合だけボディを表示します。

注意事項

このタグライブラリはナビゲーションテンプレートの下部設定 JSP ファイル (bottom.jsp) だけで使用できます。そのほかでは使用できません。

構文

```
<%@ taglib uri="http://soft.hitachi.co.jp/portal/portalac"
prefix="PortalAC" %>
<PortalAC:isAccessDenied>
表示禁止ポートレットがあるときだけ表示する内容
</PortalAC:isAccessDenied>
```

属性

なし

9.3 カスタマイズ Bean

カスタマイズ Bean は、レイアウトカスタマイズ画面 ([レイアウト編集画面] および [レイアウト編集画面] から遷移するほかの画面の総称) を編集するための API です。

カスタマイズ Bean の一覧を次の表に示します。

表 9-2 カスタマイズ Bean の一覧

クラス名	説明
jp.co.hitachi.soft.portal.portal.portlets.beans.DeviceBean	各クライアントのレイアウトカスタマイズ画面を構成します。
jp.co.hitachi.soft.portal.portal.portlets.beans.LayoutBean	一つのレイアウトカスタマイズ画面を構成します。
jp.co.hitachi.soft.portal.portal.portlets.beans.LayoutCustomizeBean	カスタマイズ機能を提供するクラスです。
jp.co.hitachi.soft.portal.portal.portlets.beans.LayoutCustomizeUtil	カスタマイズするときに使用するライブラリです。
jp.co.hitachi.soft.portal.portal.portlets.beans.LayoutEntryBean	レイアウトの一覧を取得するクラスです。レイアウトの一要素を管理します。読み込み専用のクラスです。
jp.co.hitachi.soft.portal.portal.portlets.beans.PortletBean	一つの動的ポートレット情報を保持します。
jp.co.hitachi.soft.portal.portal.portlets.beans.PortletEntryBean	一つの静的ポートレット情報を保持します。ポートレット情報の設定はできません。
jp.co.hitachi.soft.portal.portal.portlets.beans.PortletGroupBean	レイアウトグループ単位を管理します。

カスタマイズ Bean の詳細を説明します。

jp.co.hitachi.soft.portal.portal.portlets.beans.DeviceBean

機能

各クライアントのレイアウトカスタマイズ画面を構成する Bean です。

Bean の項目

宣言

この Bean を単独で宣言できません。

対象スコープ

9. カスタマイズに使用するライブラリ

なし

メソッドの一覧

戻り値のデータ型	メソッド	説明
PortletEntryBean []	getAvailablePortletEntryBeans(java.lang.String pattern, int column)	このクライアントで選択できるポートレットの PortletEntryBean を取得します。
PortletEntryBean []	getAvailablePortletEntryBeansByGroup(java.lang.String group, java.lang.String pattern, int column)	指定したポートレットグループに所属する、このクライアントで選択できるポートレットの PortletEntryBean を取得します。
PortletGroupBean []	getAvailablePortletGroupBeans(java.lang.String pattern, int column)	このクライアントで選択できるポートレットが所属するポートレットグループの PortletGroupBean を取得します。
java.lang.String[]	getAvailablePortletNames()	クライアントで使用できるポートレット名称の一覧を取得します。
java.lang.String[]	getAvailablePortletTitles()	このクライアントで実際に画面に表示して使用できるポートレットタイトル名称の一覧を取得します。
int	getDeviceCode()	クライアント種別を取得します。
LayoutBean	getLayoutBean()	標準画面レイアウトオブジェクトを取得します。
LayoutEntryBean[]	getAvailableLayoutEntryBeans()	このクライアントで選択できるレイアウトの LayoutEntryBean を取得します。
java.lang.String[]	getLayoutGroup()	レイアウトグループの一覧を取得します。
void	setLayoutBean(LayoutBean layout)	標準画面レイアウトオブジェクトを設定します。

メソッドの説明

getAvailablePortletEntryBeans

形式

```
PortletEntryBean [] getAvailablePortletEntryBeans (java.lang.String
```



```
pattern,int column)
```

機能

このクライアントで選択できるポートレットの `PortletEntryBean` を取得します。

パラメタ

`pattern` - レイアウトパターン名 (ユーザ登録形式の場合指定)

`column` - 列番号 (ユーザ登録形式の場合指定)

なお、レイアウトパターンの列ごとに選択できるポートレットが異なるためパラメタには、次の値を指定します。

- `pattern`
ユーザ登録形式の場合：レイアウトパターン名
ユーザ登録形式以外の場合：null
- `column`
ユーザ登録形式の場合：列番号 (1 以上)
ユーザ登録形式以外の場合：0

戻り値

ポートレットが存在する場合は、使用できるポートレットの `PortletEntryBean` オブジェクト一覧を、それ以外は null を返却します。

例外

`IllegalArgumentException` - 不正なパラメタを指定した場合、および `pattern` に null 以外を指定し、`column` に存在しない列番号を指定した場合。

getAvailablePortletEntryBeansByGroup

形式

```
PortletEntryBean[]
getAvailablePortletEntryBeansByGroup (java.lang.String group,
                                       java.lang.String pattern,
                                       int column)
```

機能

指定したポートレットグループに所属し、このクライアントで選択できるポートレットの `PortletEntryBean` を取得します。

パラメタ

`group` - ポートレットグループ名

`pattern` - レイアウトパターン名 (ユーザ登録形式の場合指定)

`column` - 列番号 (ユーザ登録形式の場合指定)

なお、レイアウトパターンの列ごとに選択できるポートレットが異なるためパラメタには、次の値を指定します。

- `group`
ポートレットグループに所属するポートレットを取得する場合：ポートレットグループ名
ポートレットグループに所属しないポートレットを取得する場合：null

9. カスタマイズに使用するライブラリ

- pattern
ユーザ登録形式の場合：レイアウトパターン名
ユーザ登録形式以外の場合：null
column
ユーザ登録形式の場合：列番号（1以上）
ユーザ登録形式以外の場合：0

戻り値

ポートレットが存在する場合は、使用できるポートレットの PortletEntryBean オブジェクト一覧を、それ以外は null を返却します。

例外

IllegalArgumentException - 不正なパラメタを指定した場合、および pattern に null 以外を指定し、column に存在しない列番号を指定した場合。

getAvailablePortletGroupBeans

形式

```
PortletGroupBean[] getAvailablePortletGroupBeans(java.lang.String pattern,int column)
```

機能

このクライアントで選択できるポートレットが所属するポートレットグループの PortletGroupBean を取得します。

パラメタ

pattern - レイアウトパターン名（ユーザ登録形式の場合指定）
column - 列番号（ユーザ登録形式の場合指定）
なお、レイアウトパターンの列ごとに選択できるポートレットが異なるためパラメタには、次の値を指定します。

- pattern
ユーザ登録形式の場合：レイアウトパターン名
ユーザ登録形式以外の場合：null
- column
ユーザ登録形式の場合：列番号（1以上）
ユーザ登録形式以外の場合：0

戻り値

ポートレットが存在する場合は、使用できるポートレットの PortletGroupBean オブジェクト一覧を、それ以外は null を返却します。

例外

IllegalArgumentException - 不正なパラメタを指定した場合、および pattern に null 以外を指定し、column に存在しない列番号を指定した場合。

getAvailablePortletNames

形式

```
public java.lang.String[] getAvailablePortletNames()
```

機能

このクライアントで使用できるポートレット名称の一覧を取得します。ポートレットグループを使用していない場合に使用します。

パラメタ

なし

戻り値

使用できるポートレット名称の一覧

例外

なし

getAvailablePortletTitles**形式**

```
public java.lang.String[] getAvailablePortletTitles()
```

機能

このクライアントで実際に画面上に表示して使用できるポートレットタイトル名称の一覧を取得します。ポートレットグループを使用していない場合に使用します。

パラメタ

なし

戻り値

使用できるポートレットタイトル名称の一覧

例外

なし

getDeviceCode**形式**

```
public int getDeviceCode()
```

機能

クライアント種別を取得します。

パラメタ

なし

戻り値

次のどれかの値が戻されます。

値	内容
LayoutCustomizeBean.HTML	PC ブラウザ用画面
LayoutCustomizeBean.CHTML	i モード用画面
LayoutCustomizeBean.HDML	EZweb 用画面

9. カスタマイズに使用するライブラリ

例外

なし

getLayoutBean

形式

```
public LayoutBean getLayoutBean()
```

機能

標準画面レイアウトオブジェクトを取得します。

パラメタ

なし

戻り値

LayoutBean オブジェクト

例外

なし

getAvailableLayoutEntryBeans

形式

```
LayoutEntryBean[] getAvailableLayoutEntryBeans()
```

機能

このクライアントで選択できるレイアウトの LayoutEntryBean の一覧を取得します。

パラメタ

なし

戻り値

選択できるレイアウトの LayoutEntryBean の一覧を返却します。このレイアウトには、ユーザが定義したレイアウト名称なしのレイアウトも含まれます。選択できるレイアウトが存在しない場合は、空配列を返却します。

例外

なし

getLayoutGroup

形式

```
public java.lang.String[] getLayoutGroup()
```

機能

クライアントのレイアウトグループの一覧を取得します。

パラメタ

なし

戻り値

レイアウトグループの一覧
「デフォルト」のレイアウトグループがある場合は、null を配列に格納して返却

します。

例外

なし

setLayoutBean

形式

```
public void setLayoutBean(LayoutBean layout)
```

機能

標準画面レイアウトオブジェクトを設定します。

パラメタ

layout - 設定する標準画面レイアウトオブジェクト

戻り値

なし

例外

なし

jp.co.hitachi.soft.portal.portal.portlets.beans.LayoutBean

機能

一つのレイアウトカスタマイズ画面を構成する Bean です。

Bean の項目

宣言

この Bean を単独で宣言できません。

対象スコープ

なし

メソッドの一覧

戻り値のデータ型	メソッド	説明
int	getArrangement()	強制ポートレットの配置を取得します。
java.lang.String	getBackgroundColor()	背景色を取得します。
int	getGridMaxColumn()	グリッド形式レイアウトの場合、最大列数を取得します。
int	getGridMaxRow()	グリッド形式レイアウトの場合、最大行数を取得します。
LayoutBean[]	getLayoutBeans()	レイアウトオブジェクトのリストを取得します。

9. カスタマイズに使用するライブラリ

戻り値のデータ型	メソッド	説明
int	getLayoutCode()	レイアウト形式を取得します。
java.lang.String	getLayoutPattern()	ユーザ登録形式の場合、レイアウトパターン名を取得します。
int	getPaddingSize()	パディングのサイズを取得します。
PortletBean	getPortletBeanByPortletID(java.lang.String PortletID)	指定されたポートレット ID を持つ PortletBean を取得します。
PortletBean[]	getPortletBeans()	ポートレット群を取得します。
int	getRowColumnMode()	行列形式のレイアウトの場合、行ベースまたは列ベースのモードを取得します。
int	getRulerSize()	ルーラーのサイズを取得します。
java.lang.String	getSelectedColor()	タブ形式の場合、選択したタブの色を取得します。
java.lang.String	getTitle()	タブ形式の場合、タブ名称を取得します。
java.lang.String	getTitleColor()	タイトル色を取得します。
boolean	isForceTab()	強制編集画面で、強制タブかどうかを判断します。
void	setBackgroundColor(java.lang.String color)	背景色を設定します。
void	setLayoutBeans(LayoutBean[] layoutbeans)	レイアウトオブジェクトのリストを設定します。
void	setLayoutCode(int layoutcode)	レイアウト形式を設定します。
void	setLayoutPattern(java.lang.String pattern)	ユーザ登録形式の場合、レイアウトパターン名を設定します。
void	setPaddingSize(int size)	行列形式、ユーザ登録形式、またはグリッド形式の場合に、パディングのサイズを設定します。
void	setParameter(Object key, Object value)	タブ形式、行列形式、またはグリッド形式の場合、ポートレットを表示する幅の画面分割比率を設定します。
void	setPortletBeans(PortletBean[] beans)	ポートレット群を設定します。
void	setRowColumnMode(int mode)	行列形式のレイアウトの場合、行ベースまたは列ベースのモードを設定します。
void	setRulerSize(int size)	ルーラーのサイズを設定します。
void	setSelectedColor(java.lang.String color)	タブ形式の場合、選択したタブの色を設定します。
void	setTitle(java.lang.String name)	タブ形式の場合、タブ名称を設定します。
void	setTitleColor(java.lang.String color)	タイトル色を設定します。

メソッドの説明

getArrangement

形式

```
public int getArrangement()
```

機能

強制ポートレットの配置を取得します。

パラメタ

なし

戻り値

配置が左上：1

配置が左下：2

配置が右上：3

配置が右下：4

例外

なし

getBackgroundColor

形式

```
public java.lang.String getBackgroundColor()
```

機能

背景色を取得します。

パラメタ

なし

戻り値

背景色を "#rrggbb" 形式で返却します。

例外

なし

getGridMaxColumn

形式

```
public int getGridMaxColumn()
```

機能

グリッド形式レイアウトの場合、最大列数を取得します。

パラメタ

なし

戻り値

グリッド形式レイアウトの最大列数

例外

9. カスタマイズに使用するライブラリ

なし

getGridMaxRow

形式

```
public int getGridMaxRow()
```

機能

グリッド形式レイアウトの場合、最大行数を取得します。

パラメタ

なし

戻り値

グリッド形式レイアウトの最大行数

例外

なし

getLayoutBeans

形式

```
public LayoutBean[] getLayoutBeans()
```

機能

このレイアウト下のレイアウトオブジェクトのリストを取得します。

パラメタ

なし

戻り値

レイアウトオブジェクトのリスト

例外

なし

getLayoutCode

形式

```
public int getLayoutCode()
```

機能

レイアウト形式を取得します。

パラメタ

なし

戻り値

レイアウト形式に対応する値を返却します。
次のどれかの値が戻されます。

値	内容
LayoutCustomizeBean.Tab	タブ形式
LayoutCustomizeBean.RowColumn	行列形式

値	内容
LayoutCustomizeBean.Grid	グリッド形式
LayoutCustomizeBean.Flow	フロー形式
LayoutCustomizeBean.User	ユーザ登録形式
LayoutCustomizeBean.CHTMLCard	CHTML カード形式
LayoutCustomizeBean.HDMLCard	HDML カード形式

例外

なし

getLayoutPattern

形式

```
public java.lang.String getLayoutPattern()
```

機能

ユーザ登録形式の場合、レイアウトパターン名を取得します。

パラメタ

なし

戻り値

ユーザ登録形式のレイアウトの場合、ユーザ登録形式のレイアウトパターン名を取得します。

上記以外のレイアウトの場合、null を返却します。

例外

なし

getPaddingSize

形式

```
public int getPaddingSize()
```

機能

パディングのサイズを取得します。

パラメタ

なし

戻り値

行列形式、ユーザ登録形式、またはグリッド形式のレイアウトの場合、パディングのサイズを取得します。

上記以外のレイアウトの場合、-1 を返却します。

例外

なし

getPortletBeanByPortletID

9. カスタマイズに使用するライブラリ

形式

```
public PortletBean getPortletBeanByPortletID (java.lang.String  
PortletID)
```

機能

指定されたポートレット ID を持つ PortletBean を取得します。

パラメタ

PortletID - ポートレット ID

戻り値

PortletID に該当する PortletBean オブジェクトを返却します。
PortletID が null の場合は、先頭の portletBean オブジェクトを返却します。

例外

なし

getPortletBeans

形式

```
public PortletBean[] getPortletBeans ()
```

機能

ポートレット群を取得します。

パラメタ

なし

戻り値

ポートレット群

例外

なし

getRowColumnMode

形式

```
public int getRowColumnMode ()
```

機能

行列形式のレイアウトの場合、行ベースまたは列ベースのモードを取得します。

パラメタ

なし

戻り値

行列種別を返却します。
次のどちらかの値が戻されます。

値	内容
LayoutCustomizeBean.RowColumnModeRow	行列形式 (列ベース)
LayoutCustomizeBean.RowColumnModeColumn	行列形式 (行ベース)

例外
なし

getRulerSize

形式
`public int getRulerSize()`

機能
ルーラーのサイズを取得します。

パラメタ
なし

戻り値
タブ形式のレイアウトの場合は、ルーラーのサイズを取得します。
上記以外の場合は、-1 を返却します。

例外
なし

getSelectedColor

形式
`public java.lang.String getSelectedColor()`

機能
タブ形式の場合、選択したタブの色を取得します。

パラメタ
なし

戻り値
選択したタブの色を "#rrggbb" 形式で返却します。

例外
なし

getTitle

形式
`public java.lang.String getTitle()`

機能
タブ形式の場合、タブの名称を取得します。

パラメタ
なし

戻り値
タブ名称

例外
なし

getTitleColor

形式

```
public java.lang.String getTitleColor()
```

機能

タイトル色を取得します。

パラメタ

なし

戻り値

タイトル色を "#rrggbb" 形式で返却します。

例外

なし

isForceTab

形式

```
public boolean isForceTab()
```

機能

強制編集画面で、強制タブかどうかを判断します。

パラメタ

なし

戻り値

true : 強制タブの場合

false : 強制タブでない場合

例外

なし

setBackgroundColor

形式

```
public void setBackgroundColor(java.lang.String color)
```

機能

背景色を設定します。

パラメタ

color - 背景色

color は #rrggbb 形式で設定します。#rrggbb 形式以外の場合、指定を無視します。

背景色を標準配色に設定する場合は、null を指定します。

戻り値

なし

例外

なし

setLayoutBeans

形式

```
public void setLayoutBeans (LayoutBean[] layoutbeans)
```

機能

このレイアウト下のレイアウトオブジェクトのリストを設定します。

パラメタ

layoutbeans - レイアウト下のレイアウトオブジェクトのリスト

戻り値

なし

例外

なし

setLayoutCode

形式

```
public void setLayoutCode (int layoutcode)
```

機能

レイアウト形式を設定します。

パラメタ

layoutcode - レイアウト種別

レイアウト種別	内容
LayoutCustomizeBeanTab	タブ形式
LayoutCustomizeBean.RowColumn	行列形式
LayoutCustomizeBean.Grid	グリッド形式
LayoutCustomizeBean.Flow	フロー形式
LayoutCustomizeBean.User	ユーザ登録形式
LayoutCustomizeBean.CHTMLCard	CHTML カード形式
LayoutCustomizeBean.HDMLCard	HDML カード形式

戻り値

なし

例外

なし

setLayoutPattern

形式

```
public void setLayoutPattern (java.lang.String pattern)
```

機能

ユーザ登録形式の場合、レイアウトパターン名を設定します。

9. カスタマイズに使用するライブラリ

パラメタ

pattern - レイアウトパターン名を設定します。

pattern が null 以外で、かつユーザ登録形式以外の場合、レイアウトパターン名を設定しません。

戻り値

なし

例外

IllegalArgumentException - パラメタに存在しないレイアウトパターン名を指定した場合およびユーザ登録形式の場合に、null を指定したとき。

setPaddingSize

形式

```
public void setPaddingSize(int size)
```

機能

行列形式、ユーザ登録形式、またはグリッド形式の場合、パディングのサイズを設定します。

パラメタ

size - パディングのサイズ

size に指定する値を次に示します。

- 指定サイズを設定するとき：0 以上
- デフォルトサイズを設定する場合：-1

なお、size が 0 以上で、かつ行列形式、ユーザ登録形式、またはグリッド形式の場合、もしくは size が -1 の場合は、指定を無視します。

戻り値

なし

例外

なし

setParameter

形式

```
public void setParameter(Object key,  
                          Object value)
```

機能

タブ形式、行列形式、またはグリッド形式の場合、ポートレットを表示する幅の比率を設定します。

パラメタ

key - 設定するパラメタ名称

value - 設定するパラメタ値

パラメタ	値	内容
key	"sizes"	レイアウトが行列形式、またはタブ形式のタブ内が行列形式の場合、各列または各行の画面の分割比率を設定します。
	"columnWidths"	グリッド形式の場合、各行の画面の分割比率を設定します。
value	"xx%,yy%,..."	画面を xx 対 yy の割合で左右に分割します。コンマで区切って複数指定できます。

戻り値

なし

例外

なし

setPortletBeans

形式

```
public void setPortletBeans (PortletBean[] beans)
```

機能

レイアウトに含まれるポートレット群を設定します。

パラメタ

beans - ポートレット群

戻り値

なし

例外

なし

setRowColumnMode

形式

```
public void setRowColumnMode (int mode)
```

機能

行列形式のレイアウトの場合、行ベースまたは列ベースのモードを設定します。

パラメタ

mode - 行列種別

行列種別	内容
LayoutCustomizeBean.RowColumnModeRow	行列形式 (列ベース)
LayoutCustomizeBean.RowColumnModeColumn	行列形式 (行ベース)

戻り値

なし

例外

なし

setRulerSize

形式

```
public void setRulerSize(int size)
```

機能

タブ形式の場合、ルーラーのサイズを設定します。

パラメタ

size - ルーラーのサイズをドットで指定します。

-1 の場合は、ルーラーのサイズを標準値に設定します。

size が 0 以上でタブ形式以外である場合、または -1 未満の場合は、指定を無視します。

戻り値

なし

例外

なし

setSelectedColor

形式

```
public void setSelectedColor(java.lang.String color)
```

機能

タブ形式の場合、選択したタブの色を設定します。

パラメタ

color - 選択したタブの色

color は #rrggbb 形式で設定します。#rrggbb 形式でタブ形式以外の場合、または #rrggbb 形式以外の場合、指定を無視します。

選択したタブの色を標準配色に設定する場合は、null を指定します。

戻り値

なし

例外

なし

setTitle

形式

```
public void setTitle(java.lang.String name)
```

機能

タブ形式の場合、タブの名称を設定します。

パラメタ

name - タブ名称

戻り値

なし

例外

なし

注意事項

IllegalArgumentException - パラメタに次のタブ名称を指定した場合、警告ログ (KDPF11462) を出力します。

- 指定無し (null または "" (文字列なし)) のタブ名
- 数字だけのタブ名
- 65 文字以上のタブ名
- 「-」「#」「'」以外の半角記号を含むタブ名
- 先頭の文字が半角記号のタブ名

setTitleColor

形式

```
public void setTitleColor(java.lang.String color)
```

機能

タイトル色を設定します。

パラメタ

color - タイトル色

color は #rrggbb 形式で設定します。#rrggbb 形式以外の場合、指定を無視します。

タイトルの色を標準配色に設定する場合は、null を指定します。

戻り値

なし

例外

なし

jp.co.hitachi.soft.portal.portal.portlets.beans.LayoutCustomizeBean

機能

カスタマイズ機能を使用する画面の JSP から呼び出される Bean です。

Bean の項目

宣言

```
<jsp:useBean id="databean"
class="jp.co.hitachi.soft.portal.portal.portlets.beans.LayoutCu
stomizeBean"
scope="session"/>
```

9. カスタマイズに使用するライブラリ

対象スコープ

session

フィールド一覧

フィールド形式	フィールドの説明
Tab	レイアウト形式の「タブ形式」を示します。
RowColumn	レイアウト形式の「行列形式」を示します。
Grid	レイアウト形式の「グリッド形式」を示します。
Flow	レイアウト形式の「フロー形式」を示します。
HDMLCard	レイアウト形式の「HDML カード形式」を示します。
CHTMLCard	レイアウト形式の「CHTML カード形式」を示します。
User	レイアウト形式の「ユーザ登録形式」を示します。
RowColumnModeRow	行列種別の「列ベース」を示します。
RowColumnModeColumn	行列種別の「行ベース」を示します。
HTML	デバイス種別の「PC ブラウザ用画面」を示します。
CHTML	デバイス種別の「i モード用画面」を示します。
HDML	デバイス種別の「EZweb 用画面」を示します。
STYLE_TITLE	スタイル種別の「タイトル付き」を示します。
STYLE_FRAME	スタイル種別の「タイトルなし・枠付き」を示します。
STYLE_NONE	スタイル種別の「タイトルなし・枠なし」を示します。
STYLE_COLOR_BACKGROUND	スタイル色の「ポートレット背景色」を示します。
STYLE_COLOR_TITLE	スタイル色の「タイトル背景色」を示します。
STYLE_COLOR_TAB	スタイル色の「選択中の背景色」を示します。
STYLE_COLOR_BORDER	スタイル色の「枠色」を示します。
STYLE_SIZE_RULER	スタイルサイズの「ルーラー」を示します。
STYLE_SIZE_PADDING	スタイルサイズの「ポートレット間隔」を示します。
STYLE_SIZE_BORDER	スタイルサイズの「枠幅」を示します。
MOVE_UP	方向の「上」を示します。
MOVE_DOWN	方向の「下」を示します。
MOVE_LEFT	方向の「左」を示します。
MOVE_RIGHT	方向の「右」を示します。

フィールド形式	フィールドの説明
MODE_ADMIN	ポータルの管理者を示します。
MODE_SECTION	部門管理者を示します。
MODE_USER	利用者を示します。
ARRANGEMENT_LEFTUP	配置の左上を示します。
ARRANGEMENT_LEFTDOWN	配置の左下を示します。
ARRANGEMENT_RIGHTUP	配置の右上を示します。
ARRANGEMENT_RIGHTDOWN	配置の右下を示します。
MODE_FORCE	強制編集モードを示します。
MODE_FORCETAB	強制タブモードを示します。

メソッドの一覧

戻り値のデータ型	メソッド	説明
void	changeForce()	ファイル編集中の場合に、現在編集中のレイアウトを強制表示タブレイアウトに切り替えます。すでに切り替わっている場合は何もしません。
void	changeForce(int iForceMode)	ファイル編集中の場合に、現在編集中のレイアウトを指定された強制レイアウトに切り替えます。すでに切り替わっている場合は何もしません。
void	changeNormal()	ファイル編集中の場合に、現在編集中の強制表示タブレイアウトを通常表示レイアウトに切り替えます。すでに切り替わっている場合は何もしません。
java.lang.String	getApplyURL()	[レイアウト編集画面]でレイアウト情報を更新するときのURLを取得します。
java.lang.String	getCancelURL()	[レイアウト編集画面]でレイアウト情報を更新しないで、通常の画面に戻るときにURLを取得します。
void	getContents()	現在設定しているカスタマイズ情報を取得します。
java.lang.String	getDefaultURL()	[レイアウト編集画面]で現在のレイアウト情報を標準の設定に戻すときのURLを取得します。
DeviceBean[]	getDeviceBeans()	すべてのクライアントの画面構成オブジェクトを取得します。
DeviceBean	getEditDeviceBean()	現在編集中の DeviceBean オブジェクトを取得します。
int	getEditDeviceCode()	現在編集中のクライアント種別を取得します。

9. カスタマイズに使用するライブラリ

戻り値のデータ型	メソッド	説明
java.lang.String	getEditLayoutGroup()	現在編集中のレイアウトグループ名称を取得します。
java.lang.String	getEditPSMLPath()	現在編集中のポートレット配置情報ファイル (PSML ファイル) のパスを取得します。
java.lang.String[]	getErrorMessage()	カスタマイズ操作によるエラーメッセージを取得します。
int	getForceMode()	現在の強制モードを取得します。
java.lang.String	getForceTabName()	管理者が強制表示タブを編集中の場合、強制表示タブを取得します。
java.lang.String	getHomeURL()	[レイアウト編集画面] でレイアウト情報を更新し、通常の画面に戻るときの URL を取得します。
LayoutCustomizeUtil	getLayoutCustomizeUtil()	カスタマイズで使用するライブラリを取得します。
java.lang.String	getLayoutID()	部門管理者のレイアウトグループ ID を取得します。
java.lang.String[][]	getLayoutPatterns()	登録されているレイアウトパターンの名称と表示名称のリストを取得します。
int	getMaxColumn()	表示できる最大列数を取得します。
int	getMaxRow()	表示できる最大行数を取得します。
int	getMode()	現在のモードを取得します。
PortletGroupBean[]	getPortletGroupBeans()	ポートレットグループの一覧を取得します。
PortletGroupBean[]	getRootPortletGroupBean()	最上位のポートレットグループの配列を取得します。
java.lang.String	getSelectedTabName()	各利用者のホーム画面で表示しているタブ名称を取得します。
void	initBean(ServletRequest request, boolean adminmode)	[レイアウト編集画面] 以外で Bean を初期化します。
boolean	isAdminMode()	管理者用レイアウトカスタマイズ画面であるかを判定します。
boolean	isForceLayout()	ファイル編集中の場合に現在編集中のレイアウトが強制表示レイアウトであることを表示します。
void	setChangeLayoutGroup(java.lang.String layoutGroupName)	現在編集中のレイアウトグループ名称を別の名称に変更します。
void	setContents()	現在設定しているカスタマイズ情報を保存します。
void	setDeviceBeans(DeviceBean [] setDeviceBeans)	すべてのクライアント画面構成オブジェクトのリストを設定します。ただし、このメソッドは推奨いたしません。

戻り値のデータ型	メソッド	説明
void	setEditDeviceCode(int deviceCode)	現在編集中のクライアント種別を設定します。
void	setEditLayoutGroup(java.lang.String layout)	現在編集中のレイアウトグループ名称を設定します。
void	setEditPSMLPath(java.lang.String path)	現在編集中のポートレット配置情報ファイル (PSML ファイル) のパスを設定します。
void	setRemoveLayoutGroup(java.lang.String layoutGroupName)	レイアウトグループを削除します。
void	setSelectedLayoutList(java.util.Vector lv)	このデバイス Bean が取得している選択済みのレイアウトの一覧を設定します。
void	setSelectedTabName(java.lang.String selectedTabName)	各利用者のホーム画面で現在選択中のタブ名称を設定します。

メソッドの説明

changeForce

形式

```
public void changeForce()
```

機能

ファイル編集中の場合に、現在編集中のレイアウトを強制表示タブレイアウトに切り替えます。すでに切り替わっている場合は何もしません。

パラメタ

なし

戻り値

なし

例外

IllegalStateException - 部門管理者の場合で、現在設定しているカスタマイズ情報がディスクまたはディレクトリに存在しない場合

changeForce

形式

```
public void changeForce(int iForceMode)
```

機能

ファイル編集中の場合に、現在編集中のレイアウトを指定された強制レイアウトに切り替えます。すでに切り替わっている場合は何もしません。

パラメタ

iForceMode

1 : 強制タブレイアウトに切り替えます。

9. カスタマイズに使用するライブラリ

2: 強制編集レイアウトに切り替えます。

戻り値

なし

例外

IllegalStateException - 部門管理者の場合で、現在設定しているカスタマイズ情報がディスクまたはディレクトリに存在しない場合

changeNormal

形式

```
public void changeNormal()
```

機能

ファイル編集中の場合に、現在編集中の強制表示タブレイアウトを通常表示レイアウトに切り替えます。すでに切り替わっている場合は何もしません。

パラメタ

なし

戻り値

なし

例外

IllegalStateException - 部門管理者の場合で、現在設定しているカスタマイズ情報がディスクまたはディレクトリに存在しない場合

getApplyURL

形式

```
public java.lang.String getApplyURL()
```

機能

[レイアウト編集画面] でレイアウト情報を更新するときの URL を取得します。

パラメタ

なし

戻り値

[設定完了] をクリックしたときの URL
[レイアウト編集画面] 以外では null を返却します。

例外

なし

getCancelURL

形式

```
public java.lang.String getCancelURL()
```

機能

[レイアウト編集画面] でレイアウト情報を更新しないで、通常の画面に戻ると

きの URL を取得します。

パラメタ

なし

戻り値

レイアウト情報を更新しないで、通常の画面に戻るときの URL
[レイアウト編集画面] 以外では null を返却します。

例外

なし

getContents

形式

```
public void getContents()
```

機能

現在設定しているカスタマイズ情報をディスクまたはディレクトリ上から取得します。

isAdminMode() が true の場合

次の設定後このメソッドを呼び出します。

1. 取得対象のクライアントの設定：setEditDeviceCode(int)
2. 取得対象のパスの設定：setEditPSMLPath(java.lang.String)
3. 取得対象のレイアウトコードの設定：
setEditLayoutGroup(java.lang.String)

isAdminMode() が false の場合

取得対象のクライアントの設定を setEditDeviceCode(int) に設定後、このメソッドを呼び出します。

なお、取得したカスタマイズ情報が不正な場合、次の表に示す補正が行われ
ます。

条件	補正方法	ログ
レイアウト形式が [ユーザ登録形式] でレイアウトパターンが無効な場合	レイアウト形式を [行列形式 (列ベース)] にします。	KDPF33001-W
選択済みのポートレットが存在しない場合	ポートレット (PortletBean) は作成しません。	KDPF33001-W
選択済みのポートレットに対してアクセス権がない場合	ポートレット (PortletBean) は作成しません。	KDPF33001-W
レイアウト形式が [ユーザ登録形式] で、選択済みのポートレットのサイズとレイアウトパターンの列幅サイズが異なる場合	ポートレット (PortletBean) は作成しません。	KDPF33001-W
一つの行内にポートレットが存在しない場合	ポートレットが存在しない行 (LayoutBean) は作成しません。	-

9. カスタマイズに使用するライブラリ

パラメタ

なし

戻り値

なし

例外

IllegalStateException - 部門管理者の場合で、現在設定しているカスタマイズ情報がディスクまたはディレクトリに存在しない場合

getDefaultURL

形式

```
public java.lang.String getDefaultURL()
```

機能

[レイアウト編集画面] で現在のレイアウト情報を標準の設定に戻すときの URL を取得します。

パラメタ

なし

戻り値

[標準に戻す] をクリックしたときの URL
[レイアウト編集画面] 以外では null を返却します。

例外

なし

getDeviceBeans

形式

```
public DeviceBean[] getDeviceBeans()
```

機能

すべてのクライアントの画面構成オブジェクトを取得します。

パラメタ

なし

戻り値

DeviceBean クラスのリスト

例外

なし

getEditDeviceBean

形式

```
public DeviceBean getEditDeviceBean()
```

機能

現在編集集中の DeviceBean オブジェクトを取得します。

パラメタ

なし

戻り値

現在編集中の DeviceBean オブジェクト

例外

なし

getEditDeviceCode

形式

```
public int getEditDeviceCode()
```

機能

現在編集中のクライアント種別を取得します。[適用], [戻る], および [標準に戻す] で処理されるクライアント種別は、public int getEditDeviceCode() で得られるクライアント種別のレイアウト情報です。デフォルトでは LayoutCustomizeBean.HTML を設定しています。

パラメタ

なし

戻り値

値	内容
LayoutCustomizeBean.HTML	PC ブラウザ用画面
LayoutCustomizeBean.CHTML	i モード用画面
LayoutCustomizeBean.HDML	EZweb 用画面

例外

なし

getEditLayoutGroup

形式

```
public java.lang.String getEditLayoutGroup()
```

機能

現在編集中のレイアウトグループ名称を取得します。
例えば、次のファイルを編集中の場合、"layout1" を返却します。

```
C:¥portal¥webapp¥psml¥group¥layout1
```

パラメタ

なし

戻り値

レイアウトグループ名称
ファイルの編集でない場合、null を返却します。

例外

なし

getEditPSMLPath

形式

```
public java.lang.String getEditPSMLPath()
```

機能

現在編集集中のポートレット配置情報ファイル (PSML ファイル) のパスを取得します。

例: C:\¥portal¥webapp¥psml

パラメタ

なし

戻り値

管理者用レイアウトカスタマイズ画面の場合: ポートレット配置情報ファイル (PSML ファイル) のパス

最初に呼び出したときは、ポータルプロジェクト上のポートレット配置情報ファイル (PSML ファイル) のパスを返却します。ポートレット配置情報ファイルのパスは void setEditPSMLPath メソッドで変更できます。

利用者用レイアウトカスタマイズ画面の場合: null

例外

なし

getErrorMessages

形式

```
public java.lang.String[] getErrorMessages()
```

機能

カスタマイズ操作によるエラーメッセージを取得します。

パラメタ

なし

戻り値

エラーメッセージ

エラーが発生しなかった場合は null を返却します。

例外

なし

getForceMode

形式

```
public int getForceMode()
```

機能

現在の強制モードを取得します。

パラメタ

なし

戻り値

強制タブモード：0

強制編集モード：1

上記以外：-1

例外

なし

getForceTabName

形式

```
public java.lang.String getForceTabName()
```

機能

管理者が強制表示タブを編集集中の場合、強制表示タブを取得します。

パラメタ

なし

戻り値

強制表示タブが設定されており、管理者が強制表示タブを編集集中の場合：強制表示タブのタブ名称

上記以外の場合：null

例外

なし

getHomeURL

形式

```
public java.lang.String getHomeURL()
```

機能

[レイアウト編集画面] でレイアウト情報を更新し、カスタマイズ画面から通常の画面に戻るときの URL を取得します。

パラメタ

なし

戻り値

[レイアウト編集画面] から通常の画面に戻るときの URL

[レイアウト編集画面] 以外では、null を返却します。

例外

なし

getLayoutCustomizeUtil

形式

```
public LayoutCustomizeUtil getLayoutCustomizeUtil()
```

9. カスタマイズに使用するライブラリ

機能

カスタマイズで使用するライブラリを取得します。

パラメタ

なし

戻り値

カスタマイズのライブラリクラス

例外

なし

getLayoutID

形式

```
public java.lang.String getLayoutID()
```

機能

部門管理者のレイアウトグループ ID を取得します。

パラメタ

なし

戻り値

部門管理者のレイアウトグループ ID

ただし、部門管理者のレイアウトグループの種類が "default" の場合（部門管理者がレイアウトグループに属していない場合）は、null を返却します。

例外

なし

getLayoutPatterns

形式

```
public java.lang.String[][] getLayoutPatterns()
```

機能

登録されているレイアウトパターンの名称と表示名称のリストを取得します。
取得の設定は次のようになっています。

- java.lang.String[][0]：レイアウトパターンの名称
- java.lang.String[][1]：レイアウトパターンの表示名称

パラメタ

なし

戻り値

Controllers.xml ファイルに設定されている場合：レイアウトパターンの名称と
レイアウトパターンの表示名称のリスト

Controllers.xml ファイルを設定していない場合：null

例外

なし

getMaxColumn

形式

```
public int getMaxColumn()
```

機能

表示できる最大列数を取得します。

パラメタ

なし

戻り値

Controllers.xml ファイルに設定されている場合 : 0 以上
上記以外の場合 : -1

例外

なし

getMaxRow

形式

```
public int getMaxRow()
```

機能

表示できる最大行数を取得します。

パラメタ

なし

戻り値

Controllers.xml ファイルに設定されている場合 : 0 以上
上記以外の場合 : -1

例外

なし

getMode

形式

```
public int getMode()
```

機能

現在のモードを取得します。

パラメタ

なし

戻り値

システム管理者 : 0
部門管理者 : 1
利用者 : 2
上記以外 : -1

例外

9. カスタマイズに使用するライブラリ

なし

getPortletGroupBeans

形式

```
public PortletGroupBean[] getPortletGroupBeans()
```

機能

ポートレットグループのリストを取得します。

パラメタ

なし

戻り値

ポートレットグループ一覧

例外

なし

getRootPortletGroupBean

形式

```
public PortletGroupBean[] getRootPortletGroupBean()
```

機能

最上位のポートレットグループの配列を取得します。

パラメタ

なし

戻り値

最上位のポートレットグループの配列を返却します。
ポートレットグループが存在しない場合は、空配列を返却します。

例外

EmPowermentException - リポジトリへの接続に失敗した場合

getSelectedTabName

形式

```
public java.lang.String getSelectedTabName()
```

機能

各ユーザのホーム画面で表示しているタブ名称を取得します。[レイアウト編集画面]で、PCブラウザ用のレイアウト形式に[タブ形式]を使用しており、現在のホーム画面で選択中のタブを取得したい場合に使用します。カスタマイズ Bean によるレイアウトのカスタマイズ実行前に必ず取得してください。[レイアウト編集画面]以外でカスタマイズ Bean を使用する場合は、getContent を実行したあとで呼び出してください。

パラメタ

なし

戻り値

ホーム画面で現在選択しているタブ名称
 タブ形式でない場合、および強制表示タブが選択されている場合は、null を返却します。

例外
 なし

initBean

形式

```
public void initBean(ServletRequest request,
                    boolean adminmode)
```

機能

[レイアウト編集画面] 以外で Bean を初期化します。

パラメタ

request - JSP に渡された ServletRequest オブジェクト
 adminmode - true : システム管理者用, false : ポータル利用者用

戻り値

なし

例外

IllegalArgumentException - パラメタに null を指定した場合

isAdminMode

形式

```
public boolean isAdminMode()
```

機能

管理者用レイアウトカスタマイズ画面であることを判定します。

パラメタ

なし

戻り値

true : 管理者用レイアウトカスタマイズ画面の場合
 false : 利用者用レイアウトカスタマイズ画面の場合

例外

なし

isForceLayout

形式

```
public boolean isForceLayout()
```

機能

ファイル編集集中の場合に現在編集集中のレイアウトが強制表示レイアウトであることを表示します。

パラメタ

9. カスタマイズに使用するライブラリ

なし

戻り値

true : 強制表示レイアウトである

false : 強制表示レイアウトでない, または編集集中である

例外

なし

setChangeLayoutGroup

形式

```
public void setChangeLayoutGroup (java.lang.String  
layoutGroupName)
```

機能

現在編集集中のレイアウトグループ名称を別の名称に変更します。

レイアウトグループ名称は `getEditLayoutGroup()` メソッドで取得できるレイアウトグループ名称です。 `getEditLayoutGroup()` メソッドについては, 「LayoutCustomizeBean クラス」の「`getEditLayoutGroup`」を参照してください。

パラメタ

layoutGroupName - 変更後のレイアウトグループ名称

戻り値

なし

例外

なし

setContentts

形式

```
public void setContentts ()
```

機能

現在設定しているカスタマイズ情報を保存します。

システム管理者が設定している情報は, ディスクに保存します。

また, ポータル利用者が設定している情報は, ディレクトリの情報を更新します。ディレクトリへの書き込みは, ログアウトが行われた時に発生します。

`isAdminMode()` が true の場合

次の設定後, このメソッドを呼び出します。

1. 保存対象のクライアントの設定 : `setEditDeviceCode(int)`
2. 保存対象のパスの設定 : `setEditPSMLPath(java.lang.String)`
3. 保存対象のレイアウトグループの設定 :
`setEditLayoutGroup(java.lang.String)`
4. 保存対象のレイアウトグループ名称を変更する場合, 変更後レイアウトグループの設定 : `setChangeLayoutGroup(java.lang.String)`
5. パラメタの設定 : `LayoutBean.setParameter(Object, Object)`

保存対象のレイアウト情報 (DeviceBean) のレイアウト形式 (LayoutBean.getLayoutCode) が次の場合だけ必要です。

行列形式 : LayoutCustomizeBean.RowColumn

グリッド形式 : LayoutCustomizeBean.Grid

6. 保存対象のレイアウト情報の設定 : setDeviceBean(DeviceBean[])

isAdminMode() が false の場合

次の設定後, このメソッドを呼び出します。

1. 保存対象のクライアントの設定 : setEditDeviceCode(int)

2. パラメタの設定 : LayoutBean.setParameter(Object, Object)

保存対象のレイアウト情報 (DeviceBean) のレイアウト形式 (LayoutBean.getLayoutCode) が次の場合だけ必要です。

行列形式 : LayoutCustomizeBean.RowColumn

グリッド形式 : LayoutCustomizeBean.Grid

3. 保存対象のレイアウト情報の設定 : setDeviceBean(DeviceBean[])

パラメタ

なし

戻り値

なし

例外

なし

setDeviceBeans

形式

```
public void setDeviceBeans (DeviceBean [] setDeviceBeans)
```

機能

すべてのクライアント画面構成オブジェクトのリストを設定します。ただし, このメソッドは推奨いたしません。

パラメタ

setDeviceBeans - すべてのクライアント画面構成オブジェクトのリスト

戻り値

なし

例外

なし

setEditDeviceCode

形式

```
public void setEditDeviceCode (int deviceCode)
```

機能

現在編集集中のクライアント種別を設定します。例えば, クライアント種別のド

9. カスタマイズに使用するライブラリ

ロップダウンリストと [変更] を作成して、ユーザが異なるクライアントの編集を選択した場合に、クライアントを再設定します。クライアント種別は必ず設定します。デフォルトでは、LayoutCustomizeBean.HTML を設定します。

パラメタ

deviceCode - クライアント種別

クライアント種別	説明
LayoutCustomizeBean.HTML	PC ブラウザ用画面
LayoutCustomizeBean.CHTML	i モード用画面
LayoutCustomizeBean.HDML	EZweb 用画面
上記以外	例外が発生します。

戻り値

なし

例外

java.lang.IllegalArgumentException

setEditLayoutGroup

形式

```
public void setEditLayoutGroup (java.lang.String layout)
```

機能

現在編集中のレイアウトグループ名称を設定します。引数の指定によって、編集するコンテンツが異なります。XXXX は HTML などのクライアント種別を示します。

引数が null の場合 : C:¥portal¥webapp¥psml¥homeXXXX.psml

引数が null 以外の場合 ("layout1") :

```
C:¥portal¥webapp¥psml¥group¥layout1¥homeXXXX.psml
```

パラメタ

layout - 読み込むファイルのレイアウトグループ

null の場合、getEditPSMLPath メソッドで取得したディレクトリ直下のポートレット配置情報ファイル (PSML ファイル) を取得します。

getEditPSMLPath メソッドの結果が null でない場合だけ有効です。

戻り値

なし

例外

なし

setEditPSMLPath

形式

```
public void setEditPSMLPath (java.lang.String path)
```

機能

現在編集中のポートレット配置情報ファイル (PSML ファイル) のパスを設定します。

例: C:\¥portal¥webapp¥psml

パラメタ

path - 編集するポートレット配置情報ファイル (PSML ファイル) のパス
null を指定した場合, 現在のポータルプロジェクトのポートレット配置情報ファイル (PSML ファイル) のパスが設定されます。

戻り値

なし

例外

なし

setRemoveLayoutGroup**形式**

```
public void setRemoveLayoutGroup (java.lang.String
layoutGroupName)
```

機能

レイアウトグループを削除します。

パラメタ

layoutGroupName - 削除するレイアウトグループ名称

戻り値

なし

例外

なし

setSelectedLayoutList**形式**

```
public void setSelectedLayoutList (java.util.Vector lv)
```

機能

このデバイス Bean が取得している選択済みのレイアウトの一覧を設定します。

- 追加の場合

追加するレイアウトはポートレット配置情報ファイル (PSML ファイル) から読み込みます。

合成位置は, 管理者が定義したレイアウトの表示順序に従います。ユーザ定義しかない場合は, 常に管理者が定義したレイアウトの方が前に設定されます。行列形式に追加する場合は, タブが付加され合成されます。

- 削除の場合

レイアウトを削除します。

元のレイアウトが 1 個になり, 管理者が定義したレイアウトでタブ形式以外の場合は, タブが取り除かれます。

9. カスタマイズに使用するライブラリ

- 例

layout1 (未選択), layout2 (選択), layout3 (未選択), layout4 (選択)

layout1 (選択), layout2 (選択)

この場合,

layout1 は,(未選択) (選択)のため,ファイルから情報を読み込み,合成します。先頭に追加されます。

layout2 は,(選択) (選択)のため,何もしません(情報を更新しない)。

layout3 は,(未選択) (未選択)のため何もしません。

layout4 は,(選択) (未選択)のため削除します。

上記を合成していきますが,最後に配色を合成します。配色は従来から指定されていたものを優先します。

パラメタ

lv - 選択したレイアウト (null は指定しないでください)

戻り値

なし

例外

なし

setSelectedTabName

形式

```
public void setSelectedTabName(java.lang.String  
selectedTabName)
```

機能

各利用者のホーム画面で現在選択中のタブ名称を設定します。

PC ブラウザ用のレイアウト形式にタブ形式を使用していて,現在ホーム画面で選択中のタブを変更したい場合に使用します。カスタマイズ Bean によるレイアウトのカスタマイズ実行前に必ず取得してください。[レイアウト編集画面]以外でこのメソッドを使用する場合,getContent メソッド実行後に呼び出してください。

パラメタ

selectedTabName - 各利用者のホーム画面で選択中のタブ名称を設定します。

戻り値

なし

例外

なし

注意事項

タブ形式の場合,設定してください。

タブ形式以外の場合は,設定が無効となります。また,タブ名称を null に指定した場合も設定が無効となります。設定が無効となった場合は,前回表示していたタブ名称を表示します。

jp.co.hitachi.soft.portal.portal.portlets.beans.LayoutCustomizeUtil

機能

[レイアウト編集画面] の JSP で使用するライブラリです。

LayoutCustomizeBean.getLayoutCustomizeUtil() メソッドを使用して取得します。

Bean の項目

宣言

この Bean を単独で宣言できません。

対象スコープ

なし

メソッドの一覧

戻り値のデータ型	メソッド	説明
void	addLayoutGroup(java.lang.String layoutgroupname)	指定したレイアウトグループを追加します。
boolean	addPortletForGrid(int columnno, int rowno, java.lang.String portlet, LayoutBean lb)	グリッド形式の場合、指定した位置にポートレットを追加します。
int	addPortletsForColumn(int lineno, java.lang.String[] portlets, LayoutBean lb)	指定した列にポートレットを追加します。
int	addPortletsForRow(int lineno, java.lang.String[] portlets, LayoutBean lb)	指定した行にポートレットを追加します。
int	addTab(java.lang.String tabname, int pos)	タブ形式の場合、指定した位置の後ろにタブを追加します。
void	changeArrangement(int iArrangement, LayoutBean lb)	強制ポートレットの配置を変更します。
void	changeColor(int stylecode, java.lang.String color)	スタイルの色を変更します。
void	changeLayoutCode(int layoutcode)	レイアウト形式を変更します。

9. カスタマイズに使用するライブラリ

戻り値のデータ型	メソッド	説明
void	changeLayoutPattern(java.lang.String pattern, LayoutBean lb)	ユーザ登録形式のレイアウトパターンを変更します。
void	changeRowColumnMode(int mode, LayoutBean lb)	行列形式の行ベースまたは列ベースのモードを変更します。
void	changeSize(int stylecode, int size)	スタイルのサイズを変更します。
void	changeStyle(int stylecode)	スタイル種別を変更します。
java.lang.String	getColor(int stylecode)	スタイルに設定されている色を取得します。
LayoutBean	getEditLayoutBean()	編集中の LayoutBean オブジェクト取得します。
LayoutBean	getEditLayoutBean(LayoutBean lb, java.lang.String title)	指定したタブ内の LayoutBean オブジェクトを取得します。
int	getSize(int stylecode)	スタイルに設定されているサイズを取得します。
int	getStyle()	スタイル種別を取得します。
boolean	isSelectedPortlet(java.lang.String portlet, LayoutBean lb)	指定したポートレットが追加済みであることを示します。
int	movePortlet(java.lang.String portletID, int movecode, LayoutBean lb)	指定したポートレットを移動します。
int	moveTab(java.lang.String tabname, int movecode)	タブ形式の場合、指定したタブを移動します。
void	removeForceTab()	強制タブを編集中の場合、強制タブを削除します。
boolean	removePortlet(java.lang.String portletID, LayoutBean lb)	指定したポートレットを削除します。
boolean	removePortlets(int lineno, LayoutBean lb)	行列形式の場合、指定した行または列に配置されているポートレットをすべて削除します。
boolean	removeTab(java.lang.String tabname)	タブ形式の場合、指定したタブを削除します。

メソッドの説明

addLayoutGroup

形式

```
public void addLayoutGroup(java.lang.String layoutgroupname)
```

機能

指定したレイアウトグループを追加します。

パラメタ

layoutgroupname - 追加するレイアウトグループ名

パラメタ layoutgroupname に存在しないレイアウトグループ名を指定します。レイアウトグループ名称で指定できるレイアウトグループ名は、先頭が英字で、2文字目以降が半角の英数字です。なお、大文字・小文字を区別しません。また、存在するレイアウトグループ名は指定できません。

戻り値

なし

例外

java.lang.IllegalStateException - レイアウトグループを追加できない場合

- パラメタ layoutgroupname に、存在するレイアウトグループを指定した
- パラメタ layoutgroupname に、不正なレイアウトグループ名を指定した
- 管理者モードでない
- ポートレット配置情報ファイル (PSML ファイル) のパスが指定されていない
- ポートレット配置情報ファイル (PSML ファイル) が作成できない

addPortletForGrid

形式

```
public boolean addPortletForGrid(int columnno,
                                 int rowno,
                                 java.lang.String portlet,
                                 LayoutBean lb)
```

機能

グリッド形式の場合、指定した位置にポートレットを追加します。

パラメタ

columnno - 列番号

グリッド形式で 1 から始まる列番号を指定します。

rowno - 行番号

グリッド形式で 1 から始まる行番号を指定します。

portlet - 追加するポートレットのポートレット名

lb - 追加対象の LayoutBean オブジェクト

LayoutBean オブジェクトには、グリッド形式で、編集中の LayoutBean を指定します。

戻り値

true : 追加

false : 未追加

9. カスタマイズに使用するライブラリ

なお、次の場合は、ポートレットを追加しないで false を返却します。

- 存在しない行番号または列番号を指定した場合
- 追加済みのポートレットを指定した場合
- 存在しないポートレット名を指定した場合

例外

java.lang.IllegalArgumentException -

- columnno に、指定できない値を指定した場合
- rowno に、指定できない値を指定した場合
- lb に、グリッド形式以外の不正な LayoutBean オブジェクトを指定した場合

addPortletsForColumn

形式

```
public int addPortletsForColumn(int lineno,
                                java.lang.String[] portlets,
                                LayoutBean lb)
```

機能

指定した列にポートレットを追加します。

パラメタ

lineno - 列番号

lineno に指定する値を次に示します。

- 行列形式 (列ベース): 1 から始まる列番号
- ユーザ登録形式: 1 から始まる列番号
- グリッド形式: 最大列数 +1
- フロー形式: 1
- カード形式 (CHTML): 1
- カード形式 (HDML): 1

なお、存在しない列番号を指定した場合は、新規に列を作成してポートレットを追加します。また、存在しないポートレット名を指定した場合、および追加済みのポートレットを指定した場合は、そのポートレットは追加されません。ユーザ登録形式の場合、指定された列に設定されているサイズと異なるサイズのポートレットを指定すると、そのポートレットは追加しません。

グリッド形式の場合、lineno には

(LayoutCustomizeUtil.getEditLayoutBean().getGridMaxColumn() で取得した値 +1) を指定します。

portlets - 追加するポートレットのポートレット名のリスト

lb - 追加対象の LayoutBean オブジェクト

lb に指定する LayoutBean オブジェクトを次に示します。

- タブ形式以外: 現在編集集中の LayoutBean
- タブ形式: タブ内の LayoutBean

戻り値

追加した列の位置

未追加の場合は -1 を返却します。

例外

java.lang.IllegalArgumentException -

- lineno に、指定できない値を指定した場合
- lb に、不正な LayoutBean オブジェクトを指定した場合

addPortletsForRow**形式**

```
public int addPortletsForRow(int lineno,
                             java.lang.String[] portlets,
                             LayoutBean lb)
```

機能

指定した行にポートレットを追加します。

パラメタ

lineno - 行番号

lineno に指定する値を次に示します。

- 行列形式 (行ベース): 1 から始まる行番号
- グリッド形式: 最大行数 +1

存在しない行番号を指定した場合は、新規に行を作成しポートレットを追加します。存在しないポートレット名を指定した場合、および、追加済みのポートレットを指定した場合は、そのポートレットは追加しません。

グリッド形式の場合は、lineno に

(LayoutCustomizeUtil.getEditLayoutBean().getGridMaxRow()) で取得した値 +1) を指定します。

portlets - 追加するポートレットのポートレット名のリスト

lb - 追加対象の LayoutBean オブジェクト

lb に指定する LayoutBean オブジェクトを次に示します。

- タブ形式以外: 現在編集中の LayoutBean
- タブ形式: タブ内の LayoutBean

戻り値

- 追加した行の位置

未追加の場合は、-1 を返却します。

例外

java.lang.IllegalArgumentException -

- lineno に、指定できない値を指定した場合
- lb に、不正な LayoutBean オブジェクトを指定した場合

addTab

形式

```
public int addTab(java.lang.String tabname,  
                  int pos)
```

機能

タブ形式の場合、指定した位置の後ろにタブを追加します。

パラメタ

tabname - 追加するタブ名

tabname には、存在しないタブ名を指定します

pos - 追加位置

pos には、1 から始まるタブ位置を指定します。新規にタブを追加する場合は、1 を指定します。

戻り値

- 追加したタブの位置

未追加の場合は、-1 を返却します。

なお、存在するタブ名を指定した場合はタブを追加しないで、エラーログ (KDPF11461-E) を出力し、-1 を返却します。

例外

java.lang.IllegalArgumentException - tabname に null または次の不正なタブ名を指定した場合、および pos に指定できない値を指定した場合

- 指定無し (null または "" (文字列なし)) のタブ名
- 65 文字以上のタブ名
- 数字だけのタブ名
- 「-」「#」「'」以外の半角記号を含むタブ名
- 先頭の文字が半角記号のタブ名

java.lang.IllegalStateException - タブ形式以外の場合

注意事項

指定した追加位置にタブが存在しない場合は、最後に追加します。この場合、タブ内のレイアウトは「行列形式 (列ベース)」となります。指定した位置のタブ内のレイアウトと同じレイアウトでタブを作成します。

changeArrangement

形式

```
public void changeArrangement(int iArrangement,  
                               LayoutBean lb)
```

機能

強制ポートレットの配置を指定した配置に変更します。

パラメタ

iArrangement - 強制ポートレットの配置

パラメタ iArrangement には、次の値を指定します。

1. LayoutCustomizeBean.ARRANGEMENT_LEFTUP
2. LayoutCustomizeBean.ARRANGEMENT_LEFTDOWN
3. LayoutCustomizeBean.ARRANGEMENT_RIGHTUP
LayoutCustomizeBean.ARRANGEMENT_RIGHTDOWN

lb - 変更対象の LayoutBean

戻り値

なし

例外

java.lang.IllegalStateException - 配置を設定できない場合
パラメタ iArrangement に、不正な値を指定した場合

changeColor

形式

```
public void changeColor(int stylecode,
                        java.lang.String color)
```

機能

スタイルの色を変更します。

パラメタ

stylecode - スタイル色コード

stylecode に指定する値を次に示します。

- LayoutCustomizeBean.STYLE_COLOR_BACKGROUND : ポートレット背景色
- LayoutCustomizeBean.STYLE_COLOR_TITLE : タイトル背景色
- LayoutCustomizeBean.STYLE_COLOR_TAB : 選択中のタブ背景色
- LayoutCustomizeBean.STYLE_COLOR_BORDER : 枠色

color - 色

color には "#rrggbb" 形式で指定します。

color に指定する値を次に示します。

- 指定色を設定する場合 : #rrggbb 形式
- デフォルトの色を設定する場合 : null

戻り値

なし

color に指定できる値以外を指定した場合は、指定を無視します。

例外

java.lang.IllegalArgumentException - stylecode に、指定できない値を指定した場合

9. カスタマイズに使用するライブラリ

changeLayoutCode

形式

```
public void changeLayoutCode(int layoutcode)
```

機能

レイアウト形式を変更します。

パラメタ

layoutcode - レイアウト形式コード

layoutcode に指定する値を次に示します。なお、指定するレイアウトコードによっては、メソッドを実行する必要があります。

形式	値	実行するメソッド
タブ形式	LayoutCustomizeBean.Tab	LayoutCustomizeUtil.addTab()
行列形式	LayoutCustomizeBean.RowColumn	LayoutCustomizeUtil.changeRowColumnMode()
グリッド形式	LayoutCustomizeBean.Grid	なし
フロー形式	LayoutCustomizeBean.Flow	なし
HDML カード形式	LayoutCustomizeBean.HDMLCard	なし
CHTML カード形式	LayoutCustomizeBean.CHTMLCard	なし
ユーザ登録形式	LayoutCustomizeBean.User	LayoutCustomizeUtil.changeLayoutPattern()

戻り値

なし

例外

java.lang.IllegalArgumentException - layoutcode に、指定できない値を指定した場合

注意事項

レイアウトパターンを変更後は、設定済みのレイアウト情報がすべて削除されます。ただし指定したレイアウトパターンで設定済みの場合は、削除されません。

changeLayoutPattern

形式

```
public void changeLayoutPattern(java.lang.String pattern,
                                LayoutBean lb)
```

機能

ユーザ登録形式のレイアウトパターンを変更します。

パラメタ

pattern - レイアウトパターン名

pattern には存在するレイアウトパターン名を指定します。

lb - 変更対象の LayoutBean オブジェクト

lb に指定する LayoutBean オブジェクトを次に示します。なお、下記以外を指定した場合は変更しません。

- ユーザ登録形式：現在編集中の LayoutBean
- タブ形式：ユーザ登録形式のタブ内の LayoutBean

戻り値

なし

例外

java.lang.IllegalArgumentException -

pattern に、指定できない値を指定した場合

lb に、不正な LayoutBean オブジェクトを指定した場合

注意事項

レイアウト形式を変更後は、設定済みのレイアウト情報がすべて削除されます。ただし指定したレイアウト形式で設定済みの場合は、削除されません。

changeRowColumnMode

形式

```
public void changeRowColumnMode(int mode,
                                LayoutBean lb)
```

機能

行列形式の行ベースまたは列ベースのモードを変更します。

パラメタ

mode - 行ベースまたは列ベースのモード

mode に指定する値を次に示します。

- 列ベース：LayoutCustomizeBean.RowColumnModeRow
- 行ベース：LayoutCustomizeBean.RowColumnModeColumn

lb - 変更対象の LayoutBean オブジェクト

lb に指定する LayoutBean オブジェクトを次に示します。

- 行列形式：現在編集中の LayoutBean
- タブ形式：行列形式のタブ内の LayoutBean

戻り値

なし

例外

java.lang.IllegalArgumentException -

• mode に、指定できない値を指定した場合

• lb に、不正な LayoutBean オブジェクトを指定した場合

注意事項

レイアウト形式が行列形式，またはユーザ登録形式の場合，設定済みのレイアウトの情報は保持されますが，それ以外はすべて削除されます。

changeSize

形式

```
public void changeSize(int stylecode,  
                      int size)
```

機能

スタイルのサイズを変更します。

パラメタ

stylecode - スタイルサイズコード

stylecode に指定する値を次に示します。

- LayoutCustomizeBean.STYLE_SIZE_RULER：ルーラーサイズ
- LayoutCustomizeBean.STYLE_SIZE_PADDING：ポートレット間隔
- LayoutCustomizeBean.STYLE_SIZE_BORDER：枠幅

size - サイズ

size に指定する値を次に示します。

- 指定サイズを設定する場合：0 以上
- デフォルトサイズを設定する場合：-1

戻り値

なし

ただし，size に指定できる値以外を指定した時は，指定を無視します。

例外

java.lang.IllegalArgumentException - stylecode - 指定できない値を指定した場合

changeStyle

形式

```
public void changeStyle(int stylecode)
```

機能

スタイル種別を変更します。

パラメタ

stylecode - スタイル種別コード

stylecode に指定する値を次に示します。

- LayoutCustomizeBean.STYLE_TITLE：タイトル付き
- LayoutCustomizeBean.STYLE_FRAME：タイトルなし・枠付き
- LayoutCustomizeBean.STYLE_NONE：タイトルなし・枠なし

戻り値

なし

例外

java.lang.IllegalArgumentException - stylecode - 指定できない値を指定した場合

getColor

形式

```
public java.lang.String getColor(int stylecode)
```

機能

スタイルに設定されている色を取得します。

パラメタ

stylecode - スタイル色コード

stylecode に指定する値を次に示します。

- LayoutCustomizeBean.STYLE_COLOR_BACKGROUND : ポートレット背景色
- LayoutCustomizeBean.STYLE_COLOR_TITLE : タイトル背景色
- LayoutCustomizeBean.STYLE_COLOR_TAB : 選択中のタブ背景色
- LayoutCustomizeBean.STYLE_COLOR_BORDER : 枠色

戻り値

スタイル色コード : "#rrggbb" 形式

未設定の場合は, null を返却します。

例外

java.lang.IllegalArgumentException - stylecode - 指定できない値を指定した場合

getEditLayoutBean

形式

```
public LayoutBean getEditLayoutBean()
```

機能

編集中の LayoutBean オブジェクトを取得します。

パラメタ

なし

戻り値

編集中の LayoutBean オブジェクト

ただし, 編集中のデバイスの設定

(LayoutCustomizeBean.setEditDeviceCode0) を行っていない場合は, null を返却します。

例外

なし

getEditLayoutBean

形式

```
public LayoutBean getEditLayoutBean(LayoutBean lb,  
                                     java.lang.String title)
```

機能

指定したタブ内の LayoutBean オブジェクトを取得します。

パラメタ

lb - 編集中のタブ形式の LayoutBean オブジェクト

title - 存在するタブ名

戻り値

指定したタブ内の LayoutBean オブジェクト

例外

java.lang.IllegalArgumentException

- lb に、タブ形式以外の LayoutBean オブジェクトを指定した場合
- title に、存在しないタブ名を指定した場合

getSize

形式

```
public int getSize(int stylecode)
```

機能

スタイルに設定されているサイズを取得します。

パラメタ

stylecode - スタイルサイズコード

指定する値を次に示します。

- LayoutCustomizeBean.STYLE_SIZE_RULER : ルーラーサイズ
- LayoutCustomizeBean.STYLE_SIZE_PADDING : ポートレット間隔
- LayoutCustomizeBean.STYLE_SIZE_BORDER : 枠幅

戻り値

スタイルサイズ

未設定の場合は -1 を返却します。

例外

java.lang.IllegalArgumentException - stylecode に指定できない値を指定した場合

getStyle

形式

```
public int getStyle()
```

機能

スタイル種別を取得します。

パラメタ

なし

戻り値

スタイル種別コードを次に示します。

- `LayoutCustomizeBean.STYLE_TITLE` : タイトル付き
- `LayoutCustomizeBean.STYLE_FRAME` : タイトルなし・枠付き
- `LayoutCustomizeBean.STYLE_NONE` : タイトルなし・枠なし

ただし、未設定の場合は、`LayoutCustomizeBean.STYLE_TITLE` を返却します。

例外

なし

isSelectedPortlet

形式

```
public boolean isSelectedPortlet(java.lang.String portlet,
                                LayoutBean lb)
```

機能

指定したポートレットが追加済みであることを示します。

パラメタ

portlet - ポートレット名

lb - 追加対象の `LayoutBean` オブジェクト

lb に指定する `LayoutBean` オブジェクトは、タブ形式以外の場合、現在編集中の `LayoutBean` を、タブ形式の場合は、タブ内の `LayoutBean` を指定します。

戻り値

true : 追加済みの場合

false : 未追加の場合

例外

`java.lang.IllegalArgumentException`

- portlet に、null を指定した場合
- lb に、不正な `LayoutBean` オブジェクトを指定した場合

movePortlet

形式

```
public int movePortlet(java.lang.String portletID,
                       int movecode,
                       LayoutBean lb)
```

機能

指定したポートレットを移動します。

パラメタ

9. カスタマイズに使用するライブラリ

portletID - 移動するポートレットのポートレット ID (識別子)

portletID には, PortletBean オブジェクトの getPortletID() メソッドで取得した値を指定します。

movecode - 移動先コード

movecode に指定する値を次に示します。

形式	値
行列形式 (行ベース)	LayoutCustomizeBean.MOVE_LEFT, または LayoutCustomizeBean.MOVE_RIGHT
行列形式 (列ベース)	LayoutCustomizeBean.MOVE_UP, または LayoutCustomizeBean.MOVE_DOWN
ユーザ登録形式	LayoutCustomizeBean.MOVE_UP, または LayoutCustomizeBean.MOVE_DOWN
フロー形式	LayoutCustomizeBean.MOVE_UP, または LayoutCustomizeBean.MOVE_DOWN
カード形式 (CHTML)	LayoutCustomizeBean.MOVE_UP, または LayoutCustomizeBean.MOVE_DOWN
カード形式 (HDML)	LayoutCustomizeBean.MOVE_UP, または LayoutCustomizeBean.MOVE_DOWN

lb - 移動対象の LayoutBean オブジェクト

lb に指定する LayoutBean オブジェクトを次に示します。

- タブ形式以外: 現在編集中の LayoutBean
- タブ形式: タブ内の LayoutBean

戻り値

移動後のポートレットの位置

例外

java.lang.IllegalArgumentException -

- portletID に, 不正なポートレット ID を指定した場合
- movecode に, 指定できない値を指定した場合
- lb に, 不正な LayoutBean オブジェクトを指定した場合

moveTab

形式

```
public int moveTab(java.lang.String tabname,  
int movecode)
```

機能

タブ形式の場合, 指定したタブを移動します。

パラメタ

tabname - 移動するタブ名。存在するタブ名を指定します。

movecode - 移動先コード。LayoutCustomizeBean.MOVE_LEFT, または LayoutCustomizeBean.MOVE_RIGHT を指定します。

戻り値

移動後のタブの位置

移動できない場合はタブを移動しないで、指定したタブの位置を返却します。

例外

java.lang.IllegalArgumentException -

- tabname および movecode に指定できない値を指定した場合
- java.lang.IllegalStateException - タブ形式以外の場合

removeForceTab

形式

```
public void removeForceTab()
```

機能

強制タブを編集集中の場合、強制タブを削除します。

パラメタ

なし

戻り値

なし

例外

java.lang.IllegalStateException - 強制タブ編集集中以外の場合

LayoutCustomizeBean.isForceLayout() が false の場合

注意事項

forceHomeHTML.psm1 ファイルは、初期化されるだけで削除されません。強制タブ名を [タブ 1], 強制タブ内のレイアウトを [行列形式 (行ベース)] に設定します。

removePortlet

形式

```
public boolean removePortlet(java.lang.String portletID,
                             LayoutBean lb)
```

機能

指定したポートレットを削除します。

パラメタ

portletID - 削除するポートレットのポートレット ID (識別子)

portletID には、PortletBean オブジェクトの getPortletID() メソッドで取得した値を指定します

lb - 削除対象の LayoutBean オブジェクト

lb に指定する LayoutBean オブジェクトを次に示します。

9. カスタマイズに使用するライブラリ

- タブ形式以外：現在編集中の LayoutBean
- タブ形式：タブ内の LayoutBean

戻り値

true：削除

false：未削除

なお、指定したポートレットが存在しない場合は、ポートレットを削除しないで false を返却します。

例外

java.lang.IllegalArgumentException · lb に、不正な LayoutBean オブジェクトを指定した場合

removePortlets

形式

```
public boolean removePortlets(int lineno,
                               LayoutBean lb)
```

機能

行列形式の場合、指定した行または列に配置されているポートレットをすべて削除します。

パラメタ

lineno · 削除する行番号または列番号

lineno に指定する値を次に示します。

- 行列形式（行ベース）：1 から始まる行番号
- 行列形式（列ベース）：1 から始まる列番号

lb · 削除対象の LayoutBean オブジェクト

lb に指定する LayoutBean オブジェクトを次に示します。

- タブ形式以外：現在編集中の LayoutBean
- タブ形式：タブ内の LayoutBean

戻り値

true：削除

false：未削除

なお、存在しない行番号または列番号を指定した場合は、ポートレットを削除しないで false を返却します。

例外

java.lang.IllegalArgumentException ·

lineno に、指定できない値を指定した場合

lb に、行列形式以外の不正な LayoutBean オブジェクトを指定した場合

removeTab

形式

```
public boolean removeTab(java.lang.String tabname)
```

機能

タブ形式の場合、指定したタブを削除します。

パラメタ

tabname - 削除するタブ名。存在するタブ名を指定します。

戻り値

true : 削除

false : 未削除

指定したタブ名が存在しない場合はタブを削除せず、false を返却します。

例外

java.lang.IllegalStateException - タブ形式以外の場合

jp.co.hitachi.soft.portal.portal.portlets.beans.LayoutEntryBean

機能

レイアウトの一覧を取得する Bean です。レイアウトの一要素を管理します。読み込み専用のクラスです。

メソッドの一覧

戻り値のデータ型	メソッド	説明
java.lang.String	getDesc()	レイアウトグループの説明文を取得します。
java.lang.String	getName()	レイアウトグループ名称を取得します。
java.lang.String	getTitle()	レイアウトグループのタイトル名称を取得します。
protected java.lang.String	getTitle(java.lang.String lang)	言語種別を指定して、レイアウトグループのタイトル名称を取得します。
java.lang.String	getTitle(java.util.Locale locale)	ロケールを指定して、レイアウトグループのタイトル名称を取得します。
java.util.HashMap	getAllNamesByLangType()	レイアウトに設定されているすべてのロケールに対応する表示名を取得します。
boolean	isForce()	強制表示のレイアウトであるかどうかを取得します。
boolean	isSelected()	選択済みのレイアウトであるかどうかを取得します。
boolean	isUserDefineLayout()	ユーザ定義または過去のレイアウトであるかどうかを判断します。

9. カスタマイズに使用するライブラリ

戻り値のデータ型	メソッド	説明
boolean	isView()	標準で表示するレイアウトであるかどうかを取得します。

メソッドの説明

getDesc

形式

```
public java.lang.String getDesc()
```

機能

レイアウトグループの説明文を取得します。

パラメタ

なし

戻り値

レイアウトグループの説明文
必ず null 以外を返却します。

例外

なし

getName

形式

```
public java.lang.String getName()
```

機能

レイアウトグループ名称を取得します。
このメソッドはサーバ間での情報のやり取りをする場合に利用します。
ユーザ定義の場合は、null 以外の一意な名称が返却されます。

パラメタ

なし

戻り値

レイアウトグループ名称
必ず null 以外が返却されます。

例外

なし

getTitle [レイアウトグループのタイトル名称を取得]

形式

```
public java.lang.String getTitle()
```

機能

レイアウトグループのタイトル名称を取得します。

パラメタ

なし

戻り値

レイアウトグループのタイトル名称
必ず null 以外が返却されます。

例外

なし

getTitle〔言語種別を指定して、レイアウトグループのタイトル名称を取得〕

形式

```
protected java.lang.String getTitle(java.lang.String lang)
```

機能

言語種別を指定して、レイアウトグループのタイトル名称を取得します。

パラメタ

lang - 言語種別

戻り値

レイアウトグループタイトル名称
指定の言語種別で見つからないときは null が返却されます。
言語種別が日本語 (ja) の場合、null が返却されることはありません。

例外

なし

getTitle〔ロケールを指定して、レイアウトグループのタイトル名称を取得〕

形式

```
public java.lang.String getTitle(java.util.Locale locale)
```

機能

ロケールを指定して、レイアウトグループのタイトル名称を取得します。

パラメタ

locale - ロケール

戻り値

レイアウトグループタイトル名称
指定のロケールで見つからないときは null が返却されます。
言語種別が日本語 (ja) の場合、null が返却されることはありません。

例外

なし

getAllNamesByLangType

形式

```
public java.util.HashMap getAllNamesByLangType()
```

9. カスタマイズに使用するライブラリ

機能

レイアウトに設定されているすべてのロケールに対応する表示名を取得します。

パラメタ

なし

戻り値

レイアウトに設定されているすべてのロケールに対応する表示名が格納された Map を返却します。返却する Map の内容は次のとおりです。

```
key : java.lang.String("{言語コード}[-{国コード}[-{バリエーション}]]")
```

```
value : java.lang.String("{レイアウトの表示名称}")
```

表示名が設定されていない場合は、空の Map を返却します。

例外

なし

isForce

形式

```
public boolean isForce()
```

機能

強制表示のレイアウトであるかどうかを取得します。

パラメタ

なし

戻り値

true : 強制表示のレイアウトである

false : 強制表示のレイアウトでない

例外

なし

isSelected

形式

```
public boolean isSelected()
```

機能

選択済みのレイアウトであるかどうかを取得します。

パラメタ

なし

戻り値

true : 選択済みのレイアウトである

false : 選択済みのレイアウトでない

例外

なし

isUserDefineLayout

形式

```
public boolean isUserDefineLayout()
```

機能

ユーザ定義であるかまたは過去のレイアウトであるかどうかを判断します。

パラメタ

なし

戻り値

true : ユーザ定義または過去のレイアウトである
false : ユーザ定義または過去のレイアウトでない

例外

なし

isView

形式

```
public boolean isView()
```

機能

標準で表示するレイアウトであるかどうかを取得します。

なお、強制表示のレイアウトであっても、管理者が削除した場合はユーザ定義のレイアウトとなるため、false を返却します。

パラメタ

なし

戻り値

true : 標準で表示するレイアウトである
false : 標準で表示するレイアウトでない

例外

なし

jp.co.hitachi.soft.portal.portal.portlets.beans.PortletBean

機能

一つの動的ポートレット情報を持つ Bean です。

Bean の項目

宣言

この Bean を単独で宣言できません。

対象スコープ

なし

メソッドの一覧

戻り値のデータ型	メソッド	説明
java.lang.String	getBorderColor()	ポートレットが枠付きの場合、枠の色を取得します。
int	getBorderSize()	ポートレットが枠付きの場合、枠のサイズを取得します。
PortletEntryBean	getPortletEntryBean()	ポートレットの静的情報を取得します。
java.lang.String	getPortletGroupID()	ポートレットのグループ識別子を取得します。
java.lang.String	getPortletGroupName()	ポートレットのグループ名称を取得します。
java.lang.String	getPortletID()	ポートレットの識別子を取得します。
java.lang.String	getPortletName()	ポートレット名称を取得します。
java.lang.String	getPortletTitle()	ポートレットのタイトル名称を取得します。
boolean	isBorderControl()	ポートレットに枠があるかを判断します。
boolean	isClearControl()	ポートレットにタイトルがあるかを判断します。
boolean	isPortletCompulsionDisplay()	強制ポートレットであるかどうかを判断します。
void	setBorderColor(java.lang.String color)	ポートレットが枠付きの場合、枠の色を設定します。
void	setBorderControl(boolean border)	ポートレットに枠を付けます。
void	setBorderSize(int size)	ポートレットが枠付きの場合、枠のサイズを設定します。
void	setClearControl(boolean clear)	ポートレットにタイトルを付けます。
void	setPortletEntryBean(PortletEntryBean PortletEntryBean)	ポートレットの静的情報を設定します。

メソッドの説明

getBorderColor

形式

```
public java.lang.String getBorderColor()
```

機能

ポートレットが枠付きの場合、枠の色を取得します。

パラメタ

なし

戻り値

ポートレットの枠の色

例外

なし

getBorderSize

形式

```
public int getBorderSize()
```

機能

ポートレットが枠付きの場合、枠のサイズを取得します。

パラメタ

なし

戻り値

`isBorderControl()` が true かつ枠のサイズの指定がある場合：枠のサイズ (0 以上)

上記以外の場合：-1

例外

なし

getPortletEntryBean

形式

```
public PortletEntryBean getPortletEntryBean()
```

機能

ポートレットの静的情報を取得します。

パラメタ

なし

戻り値

ポートレットの静的情報を持つオブジェクト

例外

なし

getPortletGroupID

形式

```
public java.lang.String getPortletGroupID()
```

機能

ポートレットのグループ識別子を取得します。

パラメタ

なし

9. カスタマイズに使用するライブラリ

戻り値

ポートレットグループ識別子

例外

なし

getPortletGroupName

形式

```
public java.lang.String getPortletGroupName()
```

機能

ポートレットのグループ名称を取得します。

パラメタ

なし

戻り値

ポートレットグループ名称

例外

なし

getPortletID

形式

```
public java.lang.String getPortletID()
```

機能

ポートレットの識別子を取得します。

パラメタ

なし

戻り値

ポートレットの識別子

例外

なし

getPortletName

形式

```
public java.lang.String getPortletName()
```

機能

ポートレット名称を取得します。

パラメタ

なし

戻り値

ポートレット名称

例外

なし

getPortletTitle

形式

```
public java.lang.String getPortletTitle()
```

機能

ポートレットのタイトル名称を取得します。

ただし、タイトルを設定していない場合は、ポートレット名称を取得します。

パラメタ

なし

戻り値

ポートレットのタイトル名称

ポートレットのタイトル名称が指定されていない場合、`null` を返却します。

この場合、タイトル名称として画面上にはポートレット名称が表示されます。

例外

なし

isBorderControl

形式

```
public boolean isBorderControl()
```

機能

ポートレットに枠があるかを判断します。

パラメタ

なし

戻り値

`true` : 枠付きのポートレットの場合

`false` : 枠無しのポートレットの場合

例外

なし

isClearControl

形式

```
public boolean isClearControl()
```

機能

ポートレットにタイトルがあるかを判断します。

パラメタ

なし

戻り値

`true` : タイトルがあるポートレットの場合

`false` : タイトルがないポートレットの場合

9. カスタマイズに使用するライブラリ

例外

なし

isPortletCompulsionDisplay

形式

```
public boolean isPortletCompulsionDisplay()
```

機能

強制ポートレットであるかどうかを判断します。

パラメタ

なし

戻り値

true : 強制ポートレットの場合

false : 強制ポートレットでない場合

例外

なし

setBorderColor

形式

```
public void setBorderColor(java.lang.String color)
```

機能

ポートレットが枠付きの場合、枠の色を設定します。

パラメタ

color - 枠の色

color は #rrggbb 形式で設定します。

枠の色を標準配色に設定する場合は、null を指定します。

#rrggbb 形式で isBorderControl() が「false」の場合、および color に #rrggbb 形式以外を指定している場合は、指定を無視します。

戻り値

なし

例外

なし

注意事項

枠無しの場合、処理を無視します。

このメソッドを利用する際、同一クライアントのすべてのポートレットに対して同じ設定をしてください。

setBorderControl

形式

```
public void setBorderControl(boolean border)
```

機能

ポートレットに枠を付けます。

パラメタ

border -

true : ポートレットに枠を付ける場合

false : ポートレットに枠を付けない場合

戻り値

なし

例外

なし

注意事項

このメソッドを利用する際、同一クライアントのすべてのポートレットに対して同じ設定をしてください。

setBorderSize

形式

```
public void setBorderSize(int size)
```

機能

ポートレットが枠付きの場合、枠のサイズを設定します。

パラメタ

size - 枠のサイズ

size が 0 以上の場合、枠のサイズを指定します。

-1 の場合は、枠のサイズを標準値に設定します。

size が 0 以上で isBorderControl() が「false」の場合、および -1 未満の場合は、指定を無視します。

戻り値

なし

例外

なし

注意事項

枠無しの場合、処理を無視します。

このメソッドを利用する際、同一クライアントのすべてのポートレットに対して同じ設定をしてください。

setClearControl

形式

```
public void setClearControl(boolean clear)
```

機能

ポートレットにタイトルを付けます。

パラメタ

9. カスタマイズに使用するライブラリ

clear -

true : ポートレットにタイトルを付ける場合

false : ポートレットにタイトルを付けない場合

戻り値

なし

例外

なし

注意事項

このメソッドを利用する際、同一クライアントのすべてのポートレットに対して同じ設定をしてください。

setPortletEntryBean

形式

```
public void setPortletEntryBean (PortletEntryBean  
PortletEntryBean)
```

機能

ポートレットの静的情報を設定します。

パラメタ

PortletEntryBean - ポートレットの静的情報を持つオブジェクト

戻り値

なし

例外

なし

jp.co.hitachi.soft.portal.portal.portlets.beans.PortletEntryBean

機能

一つの静的ポートレット情報を持つ Bean です。ポートレット情報の設定はできません。

Bean の項目

宣言

この Bean を単独で宣言できません。

対象スコープ

なし

メソッドの一覧

戻り値のデータ型	メソッド	説明
java.lang.String	getPortletDescription()	ポートレットの説明文を取得します。
static PortletEntryBean	getPortletEntryBean(PortletEntryBean entrybeans[], java.lang.String portletName)	指定したポートレット名称の静的情報を取得します。
java.lang.String	getPortletGroupName()	ポートレットのグループ名称を取得します。
java.lang.String[]	getPortletGroupNames()	ポートレットが所属しているポートレットグループ ID の一覧を取得します。
java.lang.String	getPortletName()	ポートレット名称を取得します。
java.lang.String	getPortletTitle()	ポートレットのタイトル名称を取得します。

メソッドの説明

getPortletDescription

形式

```
public java.lang.String getPortletDescription()
```

機能

ポートレットの説明文を取得します。

パラメタ

なし

戻り値

ポートレットの説明文

説明文が設定されていない場合、null を返却します。

例外

なし

getPortletEntryBean

形式

```
public static PortletEntryBean
getPortletEntryBean(PortletEntryBean entrybeans[],
                    java.lang.String
                    portletName)
```

機能

指定したポートレット名称の静的情報を取得します。

パラメタ

entrybeans - ポートレットの静的情報を持つオブジェクトのリスト

9. カスタマイズに使用するライブラリ

portletName - ポートレット名称

戻り値

指定したポートレット名称の静的情報

指定したポートレット名称の静的情報が取得できなかった場合、null を返却します。

例外

なし

getPortletGroupName

形式

```
public java.lang.String getPortletGroupName()
```

機能

ポートレットのグループ名称を取得します。

パラメタ

なし

戻り値

Portlet グループ名

ポートレットがグループに所属しない場合は、null を返却します。

例外

なし

getPortletGroupNames

形式

```
public java.lang.String[] getPortletGroupNames()
```

機能

ポートレットが所属しているポートレットグループ ID の一覧を取得します。

パラメタ

なし

戻り値

ポートレットが所属しているポートレットグループ ID の一覧

どのポートレットグループにも所属していない場合は、空配列を返却します。

例外

なし

getPortletName

形式

```
public java.lang.String getPortletName()
```

機能

ポートレット名称を取得します。

パラメタ
なし

戻り値
ポートレット名称

例外
なし

getPortletTitle

形式
`public java.lang.String getPortletTitle()`

機能
ポートレットのタイトル名称を取得します。
ただし、タイトルを設定していない場合は、ポートレット名称を取得します。

パラメタ
なし

戻り値
ポートレットのタイトル名称
タイトル名称が設定されていない場合、null を返却します。

例外
なし

jp.co.hitachi.soft.portal.portal.portlets.beans.PortletGroupBean**機能**

レイアウトグループ単位を管理する Bean です。

Bean の項目**宣言**

この Bean を単独で宣言できません。

対象スコープ

なし

メソッドの一覧

戻り値のデータ型	メソッド	説明
PortletGroupBean[]	getPortletGroup()	ポートレットグループに所属する下位ポートレットグループ群を取得します。

9. カスタマイズに使用するライブラリ

戻り値のデータ型	メソッド	説明
java.lang.String	getParentPortletGroupName()	ポートレットグループの上位ポートレットグループ ID を取得します。
HashMap	getPortletGroupTitles()	ポートレットグループタイトルを、言語種別とタイトル文字列の HashMap で取得します。
java.lang.String	getGroupValue()	グループ表示名称を取得します。

メソッドの説明

getPortletGroup

形式

```
public PortletGroupBean[] getPortletGroup()
```

機能

ポートレットグループに所属する下位ポートレットグループ群を取得します。

パラメタ

なし

戻り値

ポートレットグループに所属する下位ポートレットグループ群
ポートレットグループツリーに一つもポートレットグループが存在しない場合は、空配列を返します。

例外

EmPowermentException - ポートレットグループの取得に失敗した場合
例外が発生する条件は次のとおりです。

- DB 設定またはファイル設定が誤っている
- 運用管理 DB が起動していない
- ポータルサーバから DB サーバにアクセスできない
- DB サーバにテーブルが登録されていない
- 運用管理ファイルにアクセスできない
- 指定されたポートレットグループが DB またはファイルにない

getParentPortletGroupName

形式

```
public java.lang.String getParentPortletGroupName()
```

機能

ポートレットグループの上位ポートレットグループ ID を取得します。

パラメタ

なし

戻り値

上位ポートレットグループ ID

最上位のポートレットグループである場合は、null を返却します。

例外

なし

getPortletGroupTitles

形式

```
public HashMap getPortletGroupTitles()
```

機能

ポートレットグループタイトルを、言語種別とタイトル文字列の HashMap で取得します。

パラメタ

なし

戻り値

ポートレットグループタイトルの言語種別とタイトル文字列の HashMap

例外

なし

getGroupValue

形式

```
public java.lang.String getGroupValue()
```

機能

グループ表示名称を取得します。

パラメタ

なし

戻り値

グループ表示名称

表示名称が設定されていない場合、null を返却します。また、ポートレットのグループ表示名称が設定されていない場合、ポートレットグループ名称を取得します。

例外

なし

9.4 ポートレットテンプレート Bean

ポートレットテンプレート Bean は、ポートレットの表示方法をカスタマイズするための API です。

ポートレットテンプレート Bean の一覧を次の表に示します。

表 9-3 ポートレットテンプレート Bean の一覧

クラス名	説明
jp.co.hitachi.soft.portal.portal.controls.layoutbeans.NoTitleLayoutBean	コンテンツだけを表示するポートレットテンプレートで使用する Bean です。BorderPortletControl で使用します。
jp.co.hitachi.soft.portal.portal.controls.layoutbeans.PanedLayoutBean	タブを表示するポートレットテンプレートで使用する Bean です。PanedPortletControl で使用します。
jp.co.hitachi.soft.portal.portal.controls.layoutbeans.TitleLayoutBean	ポートレットのタイトルバーを表示するポートレットテンプレートで使用する Bean です。TitlePortletControl, TitleControl, FullScreenControl, EditScreenControl で使用します。

注意事項

initBean() メソッドで Bean を初期化する前に各メソッドを呼び出すと、有効な値が取得できません。0, false, または空文字列を返却します。そのため、initBean() メソッドで Bean を初期化してから各メソッドを使用してください。

ポートレットテンプレート Bean の詳細を説明します。

jp.co.hitachi.soft.portal.portal.controls.layoutbeans.NoTitleLayoutBean

機能

コンテンツだけを表示するポートレットテンプレートで使用するレイアウト情報を取得します。

Bean の項目

宣言

```
<jsp:useBean id="layoutbean"
class="jp.co.hitachi.soft.portal.portal.controls.layoutbeans.NoTitleLayoutBean"
scope="page"/>
```

対象スコープ

page

メソッドの一覧

戻り値のデータ型	メソッド	説明
java.lang.String	getBackgroundColor()	コンテンツ表示領域の背景色を取得します。
java.lang.String	getBorderColor()	枠線の色を取得します。
int	getBorderSize()	枠線の太さを取得します。
void	getPortletContent(JspWriter out)	ポートレットのコンテンツを出力します。
java.lang.String	getPortletParameter(java.lang.String name)	ポートレットのパラメタ値を取得します。
java.lang.String	getProperty(java.lang.String name)	指定されているプロパティを取得します。
void	initBean(ServletRequest req)	Bean を初期化します。
boolean	isNewWindowMode()	ポートレットの別画面表示の可否情報を取得します。

メソッドの説明

getBackgroundColor

形式

```
public java.lang.String getBackgroundColor()
```

機能

コンテンツ表示領域の背景色を取得します。

パラメタ

なし

戻り値

背景色

次の優先度に従い、設定値を取得します。

1. ポートレット配置情報ファイル (PSML ファイル) に設定された background-color の値
2. プロパティ jp.co.hitachi.soft.portal.layout.default.background.color の値
3. システムのデフォルト値 (#FFFFFF)

例外

なし

getBorderColor

形式

```
public java.lang.String getBorderColor()
```

9. カスタマイズに使用するライブラリ

機能

枠線の色を取得します。

パラメタ

なし

戻り値

枠線の色

次の優先度に従い、設定値を取得します。

1. ポートレット配置情報ファイル (PSML ファイル) に設定された border-color の値
2. プロパティ jp.co.hitachi.soft.portal.layout.default.border.color の値
3. システムのデフォルト値 (#DDDDDD)

例外

なし

getBorderSize

形式

```
public int getBorderSize()
```

機能

枠線の太さを取得します。

パラメタ

なし

戻り値

枠線の太さ

次の優先度に従い、設定値を取得します。

1. ポートレット配置情報ファイル (PSML ファイル) に設定された border-size の値
2. プロパティ jp.co.hitachi.soft.portal.layout.default.border.size の値
3. システムのデフォルト値 (1)

例外

なし

getPortletContent

形式

```
public void getPortletContent(JspWriter out)
```

機能

ポートレットのコンテンツを出力します。

パラメタ

out - JSP に渡された JspWriter

戻り値

なし

例外

IllegalArgumentException - 引数 out が null の場合

getPortletParameter

形式

```
public java.lang.String getPortletParameter(java.lang.String name)
```

機能

ポートレットのパラメタ値を取得します。

パラメタ

name - パラメタ設定値のキー

戻り値

パラメタ設定値

例外

IllegalArgumentException - 引数 out が null の場合

getProperty

形式

```
public java.lang.String getProperty(java.lang.String name)
```

機能

ポートレットコントロールに指定されているプロパティを取得します。

パラメタ

name - プロパティのキー

戻り値

キーに対するプロパティ値
プロパティがない場合は空文字列を返却します。

例外

なし

initBean

形式

```
public void initBean(ServletRequest req)
```

機能

この Bean を初期化します。

パラメタ

req - JSP に渡された ServletRequest オブジェクト

戻り値

なし

例外

IllegalArgumentException - 引数 req が null または不正なオブジェクトである場合

isNewWindowMode

形式

```
public boolean isNewWindowMode()
```

機能

ポートレットを別画面表示できるかどうかについての情報を取得します。

パラメタ

なし

戻り値

true :

- ポートレットのパラメタ (ポートレット定義ファイルまたは Portal Manager のポートレット定義で設定) で、次のパラメタを指定している場合。
キー名称 : hptl.NewWindowMode 値 : true
- ポートレットの表示モードが新規ウィンドウモードでない場合。

false : true 以外の条件の場合

例外

なし

jp.co.hitachi.soft.portal.portal.controls.layoutbeans.PanedLayoutBean

機能

タブ付きのポートレットテンプレートで使用するレイアウト情報を取得します。

Bean の項目

宣言

```
<jsp:useBean id="layoutbean"  
class="jp.co.hitachi.soft.portal.portal.controls.layoutbeans.PanedLayoutBean"  
scope="page"/>
```

対象スコープ

page

メソッドの一覧

戻り値のデータ型	メソッド	説明
int	countTab()	タブの個数を数えます。

戻り値のデータ型	メソッド	説明
java.lang.String	getActiveTabColor()	タブの活性色を取得します。
java.lang.String	getBackgroundColor()	コンテンツ表示領域の背景色を取得します。
java.lang.String	getNonActiveTabColor()	タブの非活性色を取得します。
void	getPortletContent(JspWriter out)	ポータルレットのコンテンツを出力します。
java.lang.String	getProperty(java.lang.String name)	ポータルレットコントロールに指定されているプロパティを取得します。
java.lang.String	getRulerColor()	ルーラー色を取得します。
int	getRulerSize()	ルーラー幅を取得します。
java.lang.String	getTabTitle(int n)	n 番目のタブのタイトル文字列を取得します。
java.lang.String	getTabUrl(int n)	n 番目のタブのリンク先 URL を生成します。
void	initBean(ServletRequest req)	Bean を初期化します。
boolean	isActiveTab(int n)	n 番目のタブが現在選択されているかどうかを調べます。

メソッドの説明

countTab

形式

```
public int countTab()
```

機能

タブの個数を数えます。

パラメタ

なし

戻り値

表示するタブの個数

例外

なし

getActiveTabColor

形式

```
public java.lang.String getActiveTabColor()
```

機能

タブの活性色を取得します。

パラメタ

9. カスタマイズに使用するライブラリ

なし

戻り値

タブの活性色

次の優先度で設定値を取得します。

1. ポートレット配置情報ファイル (PSML ファイル) に設定された `active-color` の値
2. プロパティ `jp.co.hitachi.soft.portal.layout.default.active.color` の値
3. システムのデフォルト値 (`#990000`)

例外

なし

getBackgroundColor

形式

```
public java.lang.String getBackgroundColor()
```

機能

コンテンツ表示領域の背景色を取得します。

パラメタ

なし

戻り値

背景色

次の優先度に従い、設定値を取得します。

1. ポートレット配置情報ファイル (PSML ファイル) に設定された `background-color` の値
2. プロパティ `jp.co.hitachi.soft.portal.layout.default.background.color` の値
3. システムのデフォルト値 (`#FFFFFF`)

例外

なし

getNonActiveTabColor

形式

```
public java.lang.String getNonActiveTabColor()
```

機能

タブの非活性色を取得します。

パラメタ

なし

戻り値

タブの非活性色

次の優先度に従い、設定値を取得します。

1. ポートレット配置情報ファイル (PSML ファイル) に設定された `title-color` の値

2. プロパティ `jp.co.hitachi.soft.portal.layout.default.nonactive.color` の値
3. システムのデフォルト値 (`#DDDDDD`)

例外

なし

getPortletContent

形式

```
public void getPortletContent(JspWriter out)
```

機能

ポートレットのコンテンツを出力します。

パラメタ

out - JSP に渡された `JspWriter`

戻り値

なし

例外

`IllegalArgumentException` - 引数 `out` が `null` の場合

getProperty

形式

```
public java.lang.String getProperty(java.lang.String name)
```

機能

ポートレットコントロールに指定されているプロパティを取得します。

パラメタ

name - プロパティのキー

戻り値

キーに対するプロパティ値
プロパティがない場合は空文字列を返却します。

例外

なし

getRulerColor

形式

```
public java.lang.String getRulerColor()
```

機能

ルーラー色を取得します。

パラメタ

なし

戻り値

ルーラー色

9. カスタマイズに使用するライブラリ

次の優先度に従い、設定値を取得します。

1. ポートレット配置情報ファイル (PSML ファイル) に設定された ruler-color の値
2. プロパティ `jp.co.hitachi.soft.portal.layout.default.ruler.color` の値
3. システムのデフォルト値 (#DDDDDD)

例外

なし

getRulerSize

形式

```
public int getRulerSize()
```

機能

ルーラー幅を取得します。

パラメタ

なし

戻り値

ルーラー幅

次の優先度に従い、設定値を取得します。

1. ポートレット配置情報ファイル (PSML ファイル) に設定された ruler-size の値
2. プロパティ `jp.co.hitachi.soft.portal.layout.default.ruler.size` の値
3. システムのデフォルト値 (2)

例外

なし

getTabTitle

形式

```
public java.lang.String getTabTitle(int n)
```

機能

n 番目のタブのタイトル文字列を取得します。

パラメタ

n - タブ番号

戻り値

n 番目のタブのタイトル文字列

例外

`IllegalArgumentException` - タブ番号が -1 以下の場合、またはタブ番号がタブの個数より大きい場合

getTabUrl

形式

```
public java.lang.String getTabUrl(int n)
```

機能

n 番目のタブのリンク先 URL を生成します。

パラメタ

n - タブ番号

戻り値

n 番目のタブのリンク先 URL

例外

IllegalArgumentException - タブ番号が -1 以下の場合、またはタブ番号がタブの個数より大きい場合

initBean

形式

```
public void initBean(ServletRequest req)
```

機能

この Bean を初期化します。

パラメタ

req - JSP に渡された ServletRequest オブジェクト

戻り値

なし

例外

IllegalStateException - 使用できないポートレットテンプレートで呼ばれた場合
 IllegalArgumentException - 引数 req が null または不正なオブジェクトである場合

isActiveTab

形式

```
public boolean isActiveTab(int n)
```

機能

n 番目のタブが現在選択されているかどうかを調べます。

パラメタ

n - タブ番号

戻り値

true : n 番目のタブが選択されている場合
 false : n 番目のタブが選択されていない場合

例外

IllegalArgumentException

jp.co.hitachi.soft.portal.portal.controls.layoutbeans.TitleLayout Bean

機能

タイトルバー付きのポートレットテンプレートで使用するレイアウト情報を取得します。

Bean の項目

宣言

```
<jsp:useBean id="layoutbean"
class="jp.co.hitachi.soft.portal.portal.controls.layoutbeans.TitleLayoutBean"
scope="page"/>
```

対象スコープ

page

メソッドの一覧

戻り値のデータ型	メソッド	説明
java.lang.String	getBackgroundColor()	コンテンツ表示領域の背景色を取得します。
java.lang.String	getButtonImage(int type)	タイトルバーに含まれるボタン画像の URL を取得します。
java.lang.String	getButtonUrl(int type)	タイトルバーに含まれるボタン用のリンク先 URL を取得します。
void	getPortletContent(JspWriter out)	ポートレットのコンテンツを出力します。
java.lang.String	getPortletParameter(java.lang.String name)	ポートレットのパラメタ値を取得します。
java.lang.String	getPortletTitle()	ポートレットのタイトル文字列を取得します。
java.lang.String	getProperty(java.lang.String name)	ポートレットコントロールに指定されているプロパティを取得します。
java.lang.String	getTitleColor()	タイトルバーの背景色を取得します。
void	initBean(ServletRequest req)	Bean を初期化します。
boolean	isCloseMode()	ポートレットを閉じることができるかを取得します。
boolean	isEditMode()	ポートレットの編集モードが有効かを判定します。
boolean	isHelpMode()	ポートレットのヘルプモードが有効かを判定します。

戻り値のデータ型	メソッド	説明
boolean	isMaximizeMode()	ポートレットを最大化表示できるかを取得します。
boolean	isMinimizeMode()	ポートレットを最小化表示ができるかを取得します。

メソッドの説明

getBackgroundColor

形式

```
public java.lang.String getBackgroundColor()
```

機能

コンテンツ表示領域の背景色を取得します。

パラメタ

なし

戻り値

背景色

次の優先度に従い、設定値を取得します。

1. ポートレット配置情報ファイル (PSML ファイル) に設定された background-color の値
2. プロパティ jp.co.hitachi.soft.portal.layout.default.background.color の値
3. システムのデフォルト値 (#FFFFFF)

例外

なし

getButtonImage

形式

```
public java.lang.String getButtonImage(int type)
```

機能

タイトルバーに含まれるボタン画像の URL を取得します。

パラメタ

type - ボタンのタイプ

ボタンのタイプ	内容
TitleLayoutBean TYPE_CLOSE	閉じるボタン
TitleLayoutBean TYPE_EDIT	編集ボタン
TitleLayoutBean TYPE_HELP	ヘルプボタン
TitleLayoutBean TYPE_MAXIMIZE	最大化ボタン
TitleLayoutBean TYPE_MINIMIZE	最小化ボタン

9. カスタマイズに使用するライブラリ

ボタンのタイプ	内容
TitleLayoutBean TYPE_RESTORE	復元ボタン

戻り値

ボタン画像の URL

例外

なし

getButtonUrl

形式

```
public java.lang.String getButtonUrl(int type)
```

機能

タイトルバーに含まれるボタン用のリンク先 URL を取得します。

パラメタ

type - ボタンのタイプ

ボタンのタイプ	内容
TitleLayoutBean TYPE_CLOSE	閉じるボタン
TitleLayoutBean TYPE_EDIT	編集ボタン
TitleLayoutBean TYPE_HELP	ヘルプボタン
TitleLayoutBean TYPE_MAXIMIZE	最大化ボタン
TitleLayoutBean TYPE_MINIMIZE	最小化ボタン
TitleLayoutBean TYPE_RESTORE	復元ボタン

戻り値

ボタンのリンク先 URL

例外

IllegalArgumentException

getPortletContent

形式

```
public void getPortletContent(JspWriter out)
```

機能

ポートレットのコンテンツを出力します。

パラメタ

out - JSP に渡された JspWriter

戻り値

なし

例外

IllegalArgumentException - 引数 out が null の場合

getPortletParameter

形式

```
public java.lang.String getPortletParameter(java.lang.String
name)
```

機能

ポートレットのパラメタ値を取得します。

パラメタ

name - パラメタ設定値のキー

戻り値

パラメタ設定値

例外

IllegalArgumentException - 引数 out が null の場合

getPortletTitle

形式

```
public java.lang.String getPortletTitle()
```

機能

ポートレットのタイトル文字列を取得します。

パラメタ

なし

戻り値

ポートレットのタイトル文字列

例外

なし

getProperty

形式

```
public java.lang.String getProperty(java.lang.String name)
```

機能

ポートレットコントロールに指定されているプロパティを取得します。

パラメタ

name - プロパティのキー

戻り値

キーに対するプロパティ値
プロパティがない場合は空文字列を返却します。

例外

なし

getTitleColor

形式

```
public java.lang.String getTitleColor()
```

機能

タイトルバーの背景色を取得します。

パラメタ

なし

戻り値

タイトルバーの背景色

次の優先度に従い、設定値を取得します。

1. ポートレット配置情報ファイル (PSML ファイル) に設定された title-color の値
2. プロパティ `jp.co.hitachi.soft.portal.layout.default.title.color` の値
3. システムのデフォルト値 (`#DDDDDD`)

例外

なし

initBean

形式

```
public void initBean(ServletRequest req)
```

機能

この Bean を初期化します。

パラメタ

req - JSP に渡された ServletRequest オブジェクト

戻り値

なし

例外

IllegalArgumentException - 引数 req が null または不正なオブジェクトである場合

isCloseMode

形式

```
public boolean isCloseMode()
```

機能

ポートレットを閉じることができるかを取得します。

パラメタ

なし

戻り値

true : ポートレットを閉じることができる

false : ポートレットを閉じることができない

- ポートレットのパラメタに、キー名称を「hptl.CloseMode」、値を「true」に指定している
- 利用者がログインしている
- 画面上に二つ以上のポートレットが存在する
- 強制表示タブの画面でない

例外

なし

isEditMode

形式

```
public boolean isEditMode()
```

機能

ポートレットの編集モードが有効かを判定します。表示されるポートレットが編集画面を持ち、かつユーザがログインしている場合に、編集モードが有効と判定します。

パラメタ

なし

戻り値

true : 編集画面が有効

false : 編集画面が無効

例外

なし

isHelpMode

形式

```
public boolean isHelpMode()
```

機能

ポートレットのヘルプモードが有効かを判定します。表示されるポートレットがヘルプ画面を持つ場合に、ヘルプモードが有効と判定します。

パラメタ

なし

戻り値

true : ヘルプモードが有効

false : ヘルプモードが無効

例外

なし

isMaximizeMode

形式

9. カスタマイズに使用するライブラリ

```
public boolean isMaximizeMode()
```

機能

ポートレットを最大化表示できるかを取得します。

パラメタ

なし

戻り値

true : ポートレットを最大化表示できる

false : ポートレットを最大化表示できない

次の条件にすべて当てはまる場合、ture を返却します。

- ポートレットのパラメタに、キー名称を「hptl.MaximizeMode」、値を「true」または「指定無し」を指定している
- 表示中のポートレットが最大化表示ではない

例外

なし

isMinimizeMode

形式

```
public boolean isMinimizeMode()
```

機能

ポートレットを最小化（タイトルだけ）の表示できるかを取得します。

パラメタ

なし

戻り値

true : ポートレットを最小化（タイトルだけ）の表示にできる

false : ポートレットを最小化（タイトルだけ）の表示できない

次の条件にすべて当てはまる場合、ture を返却します。

- ポートレットのパラメタに、キー名称を「hptl.MinimizeMode」、値を「true」に指定している
- 利用者がログインしている
- 現在のポートレットが最小化の状態でない
- 強制表示タブの画面でない

例外

なし

9.5 ログインログアウト Bean

ログインログアウト Bean は、ログインおよびログアウト処理をカスタマイズするための API です。

ログインログアウト Bean の一覧を次の表に示します。

表 9-4 ログインログアウト Bean の一覧

クラス名	説明
jp.co.hitachi.soft.portal.api.user.LoginActionBean	ログインまたはログアウト処理をする Bean です。

ログインログアウト Bean を使用する場合、ログインまたはログアウト処理をカスタマイズするためのファイル (LoginAction.jsp) を変更します。

LoginAction.jsp の格納ディレクトリを次に示します。

格納ディレクトリ

```
{PROJECT_HOME}¥WEB-INF¥templates¥jsp¥actions
```

ログインログアウト Bean の詳細を説明します。

jp.co.hitachi.soft.portal.api.user.LoginActionBean

機能

ログインまたはログアウト処理をする Bean です。

Bean の項目

宣言

```
<jsp:useBean id="user"
class="jp.co.hitachi.soft.portal.api.user.PortalLoginActionBean"
scope="session" />
```

対象スコープ

```
session
```

メソッドの一覧

戻り値のデータ型	メソッド	説明
void	doAfterLogin(HttpServletRequest req, HttpServletResponse res, Exception e)	ログイン用 jsp による処理が終わったことを uCosminexus Portal Framework に知らせます。ログイン用 jsp でログイン処理する場合、このメソッドを必ず呼び出してください。
CallbackHandler	getCallbackHandler()	Bean に結び付く CallbackHandler を返却します。
LoginContext	getLoginContext()	ログインモジュールを切り替えてログイン認証するログインコンテキストを取得します。
HttpServletRequest	getRequest()	setRequest() メソッドで設定された HttpServletRequest オブジェクトを返却します。
HttpServletResponse	getResponse()	setResponse() メソッドで設定された HttpServletResponse オブジェクトを返却します。
Subject	getSubject()	ログインコンテキストに関連づけられたサブジェクトを返却します。
void	login()	getLoginContext() メソッドで取得されるログインコンテキストに対して認証処理をします。
void	logout()	ログアウト処理をします。
void	makeUser()	getSubject() メソッドで取得したサブジェクトからログインユーザ情報を session に登録します。
void	setCallbackHandler(CallbackHandler cbh)	getCallbackHandler() メソッドで戻される CallbackHandler を設定します。
void	setLoginContext(LoginContext lc)	getLoginContext() メソッドで戻されるログインコンテキストを設定します。
void	setRequest(HttpServletRequest request)	getRequest() メソッドで戻される HttpServletRequest メソッドを設定します。
void	setResponse(HttpServletResponse response)	getResponse() メソッドで戻される HttpServletResponse メソッドを設定します。

メソッドの説明

doAfterLogin

形式

```
public void doAfterLogin(HttpServletRequest req,
```



```
HttpServletResponse res,  
Exception e)
```

機能

ログイン用 jsp による処理が終わったことを uCosminexus Portal Framework に知らせます。ログイン用 jsp でログイン処理する場合、このメソッドを必ず呼び出してください。このメソッドが呼び出されなかった場合、正しくログインできません。

パラメタ

req - HTTP リクエストオブジェクト
res - HTTP レスポンスオブジェクト
e - uCosminexus Portal Framework に通知する例外

戻り値

なし

例外

Exception

getCallbackHandler**形式**

```
public CallbackHandler getCallbackHandler()
```

機能

この Bean に結び付くコールバックハンドラを返却します。通常は Cosminexus 統合ユーザ管理フレームワークが作成するコールバックハンドラを返却します。setCallbackHandler() メソッドを用いてユーザ独自のコールバックハンドラを作成することもできます。setCallbackHandler() メソッドについては、「setCallbackHandler」を参照してください。

パラメタ

なし

戻り値

コールバックハンドラ

例外

DataBackendException - リポジトリ接続エラーが発生した場合

getLoginContext**形式**

```
public LoginContext getLoginContext()
```

機能

ログインモジュールを切り替えてログイン認証するログインコンテキストを取得します。ただし、setLoginContext() メソッドで設定されている場合はそれを返却します。

パラメタ

9. カスタマイズに使用するライブラリ

なし

戻り値

認証するログインコンテキスト

例外

DataBackendException - リポジトリ接続エラーが発生した場合

getRequest

形式

```
public HttpServletRequest getRequest()
```

機能

setRequest() メソッドで設定された HttpServletRequest オブジェクトを返却します。設定されていない場合は null を返却します。

パラメタ

なし

戻り値

リクエストオブジェクト

例外

なし

getResponse

形式

```
public HttpServletResponse getResponse()
```

機能

setResponse() メソッドで設定された HttpServletResponse オブジェクトを返却します。設定されていない場合は null を返却します。

パラメタ

なし

戻り値

レスポンスオブジェクト

例外

なし

getSubject

形式

```
public Subject getSubject()
```

機能

LoginContext に関連づけられたサブジェクトを返却します。

パラメタ

なし

戻り値
認証したサブジェクト

例外
なし

login

形式
`public void login()`

機能
`getContext()` メソッドで取得されるログインコンテキストに対して認証処理をします。

パラメタ
なし

戻り値
なし

例外
`PasswordMismatchException` - パスワード入力の失敗回数が規定回数を超えた場合
`DataBackendException` - リポジトリ接続エラーが発生した場合

logout

形式
`public void logout()`

機能
ログアウト処理をします。

パラメタ
なし

戻り値
なし

例外
`DataBackendException` - リポジトリ接続エラーが発生した場合
`UnknownEntityException`

makeUser

形式
`public void makeUser()`

機能
`getSubject()` メソッドで取得したサブジェクトからログインユーザ情報を `session` に登録します。

9. カスタマイズに使用するライブラリ

パラメタ

なし

戻り値

なし

例外

DataBackendException - リポジトリ接続エラーが発生した場合

setCallbackHandler

形式

```
public void setCallbackHandler(CallbackHandler cbh)
```

機能

getCallbackHandler() メソッドで戻される CallbackHandler を設定します。

パラメタ

cbh - コールバックハンドラ

戻り値

なし

例外

IllegalArgumentException - 入力パラメタが null または不正な場合

setLoginContext

形式

```
public void setLoginContext(LoginContext lc)
```

機能

getLoginContext() メソッドで戻されるログインコンテキストを設定します。

パラメタ

lc - 認証するログインコンテキスト

戻り値

なし

例外

IllegalArgumentException - 入力パラメタが null または不正な場合

setRequest

形式

```
public void setRequest(HttpServletRequest request)
```

機能

getRequest() メソッドで戻される HttpServletRequest メソッドを設定します。

パラメタ

request - HTTP リクエストオブジェクト

戻り値

なし

例外

なし

setResponse

形式

```
public void setResponse (HttpServletResponse response)
```

機能

getResponse() メソッドで戻される HttpServletResponse メソッドを設定します。

パラメタ

response - HTTP レスポンスオブジェクト

戻り値

なし

例外

なし

9.6 スtringリソース取得 API

Stringリソース取得 API の一覧を次の表に示します。

表 9-5 Stringリソース取得 API の一覧

クラス名	説明
jp.co.hitachi.soft.portal.api.util.StringResource	Stringリソースを取得します。

Stringリソース取得 API の詳細を説明します。

jp.co.hitachi.soft.portal.api.util.StringResource

機能

Stringリソースを取得するクラスです。

使用方法

getStringResource メソッドでインスタンスを取得して使用してください。

メソッドの一覧

戻り値のデータ型	メソッド	説明
Enumeration	getKeys()	Stringリソースのキーの一覧を取得します。
java.lang.String	getString(java.lang.String key)	Stringリソースから指定したキーに対する値を取得します。
static final StringResource	getStringResource(HttpServletRequest req, java.lang.String appkey)	ユーザの使用言語に合わせたStringリソース (StringResource クラス) を取得します。
public static final StringResource	getStringResource(java.util.Locale locale, String appkey)	指定した言語に合わせたStringリソース (StringResource クラス) を取得します。

メソッドの説明

getKeys

形式

```
public Enumeration getKeys()
```

機能

ストリングリソースファイルからメッセージキーの一覧を取得します。メッセージキーが存在しない場合、要素数 0 の配列を返却します。このメソッドを呼び出す前に、`getStringResource()` メソッドでインスタンスを取得してください。

パラメタ

なし

戻り値

ストリングリソース内のキー一覧

例外

なし

getString**形式**

```
public java.lang.String getString(java.lang.String key)
```

機能

ストリングリソースファイルからメッセージを取得します。このメソッドを呼び出す前に、`getStringResource()` メソッドでインスタンスを取得してください。ストリングリソースファイルに該当するメッセージキーが存在しない場合、`null` を返却します。

パラメタ

key - メッセージキー (null 以外)

戻り値

ストリングリソースファイルから取得したメッセージ

例外

`IllegalArgumentException` - 入力パラメタが `null` または不正な場合

getStringResource**形式**

```
public static final StringResource
getStringResource(HttpServletRequest req,
java.lang.String appkey)
```

機能

指定したアプリケーションキー、およびユーザの設定言語に対応する `StringResource` クラスのインスタンスを取得します。該当するストリングリソースファイルが存在しない場合、およびデフォルト言語のストリングリソースファイルを検索するが取得できなかった場合、例外 (`MissingResourceException`) が発生します。

9. カスタマイズに使用するライブラリ

パラメタ

req - サブレットリクエスト (null 以外)
appkey - アプリケーションキー (null 以外)

戻り値

ストリングリソースクラス

例外

IllegalArgumentException - 入力パラメタが null または不正な場合
MissingResourceException - ストリングリソースファイルが見つからない場合

getStringResource(java.util.Locale locale, String appkey)

形式

```
public static final StringResource getStringResource(java.util.Locale  
locale,String appkey)
```

機能

指定したアプリケーションキー、およびロケールに対応する StringResource クラスのインスタンスを取得します。該当するストリングリソースファイルが存在しない場合、およびデフォルト言語のストリングリソースファイルを検索するが取得できなかった場合、例外 (MissingResourceException) が発生します。

パラメタ

local - ロケール (null 以外)
appkey - アプリケーションキー (null 以外)

戻り値

ストリングリソースクラス

例外

IllegalArgumentException - 入力パラメタが null または不正な場合
MissingResourceException - ストリングリソースファイルが見つからない場合

10 設定ファイルとコマンド

この章では、uCosminexus Portal Framework の設定ファイルとコマンドについて説明します。

10.1 プロパティファイル

10.2 設定ファイル

10.3 uCosminexus Portal Framework のコマンド

10.1 プロパティファイル

ここでは、uCosminexus Portal Framework のプロパティファイルについて説明します。

uCosminexus Portal Framework の各種設定をするために、ユーザが属性値を変更するプロパティファイルは、次の五つです。

- PortalResources.properties
ポータル動作を設定するためのプロパティファイルです。
- PortalSetup.properties
Portal Manager のプロパティファイルです。
- PortalTools.properties
uCosminexus Portal Framework 全体のログ出力の動作およびコマンドの動作を設定するためのプロパティファイルです。
- PortletApp.properties
ポートレットコンテナで使用する、コンテナ保守ログを設定するためのプロパティファイルです。
- dataload_tool.properties
共通情報用 DB を初期セットアップするときの設定をするプロパティファイルです。

なお、プロパティファイルでは半角英数字だけ使用できます。

10.1.1 PortalResources.properties の詳細

ポータル動作を設定する PortalResources.properties について説明します。

PortalResources.properties は {設定ファイル格納ディレクトリ} に格納されています。デフォルトの格納ディレクトリは次のとおりです。

格納ディレクトリ

```
{uCosminexus Portal Framework インストールディレクトリ}¥conf
```

PortalResources.properties で設定する項目について、次の表に示します。

PortalResources.properties で設定する項目には、Portal Manager を使用して設定できるものがあります。表中の「可否」欄に、Portal Manager で設定できるかどうかを示します。

また、PortalResources.properties には次の表に記述のない項目も記述されていますが、uCosminexus Portal Framework 内部で使用する項目のため編集しないでください。

表 10-1 PortalResources.properties の属性一覧

種類	属性	設定内容	可否
(1) 画面の設定	jp.co.hitachi.soft.portal.modules.screens.PPassword	パスワード変更で表示される JSP ファイル	×
	jp.co.hitachi.soft.portal.modules.screens.Login	ログインで表示される JSP ファイル	×
	jp.co.hitachi.soft.portal.modules.screens.PasswordSuccess	パスワードの変更が成功したときに表示される JSP ファイル	×
	jp.co.hitachi.soft.portal.modules.screens.WelcomeScreen.show	ウェルカム画面の表示 / 非表示を指定	×
	jp.co.hitachi.soft.portal.modules.screens.AfterLogOutScreen.show	ログアウト直後に表示する画面の表示 / 非表示を指定	×
	jp.co.hitachi.soft.portal.modules.screens.AfterLogOutScreen.TemplateFile	ログアウト後画面で使用する JSP ファイルを指定	×
(2) エラー画面の設定	jp.co.hitachi.soft.portal.modules.screens.Error.default	エラーが発生したときに表示される JSP ファイル	×
	jp.co.hitachi.soft.portal.modules.screens.Error.nocont	コンテンツの出力に失敗した場合に表示される JSP ファイル	×
	jp.co.hitachi.soft.portal.modules.screens.Error.nologin	ログインしない場合に表示される JSP ファイル	×
	jp.co.hitachi.soft.portal.modules.screens.Error.timeout	ポートレット並列表示の設定を行っていて、タイムアウトが発生した場合に表示される JSP ファイル	×
	jp.co.hitachi.soft.portal.modules.screens.Error.org.apache.turbine.util.security.PasswordMismatchException	ログインの認証エラー時に表示される JSP ファイル	×
	jp.co.hitachi.soft.portal.modules.screens.Error.jp.co.hitachi.soft.portal.util.security.FormParameterException	[パスワード変更] 画面で入力項目不足時に表示される JSP ファイル	×
	jp.co.hitachi.soft.portal.modules.screens.Error.jp.co.hitachi.soft.portal.util.security.NewPasswordMismatchException	[パスワード変更] 画面で新パスワードと再入力した新パスワードが異なる場合に表示される JSP ファイル	×
	jp.co.hitachi.soft.portal.modules.screens.Error.jp.co.hitachi.soft.portal.util.security.OldPasswordMismatchException	[パスワード変更] 画面で、旧パスワードが現在の設定と異なる場合に表示される JSP ファイル	×
	jp.co.hitachi.soft.portal.modules.screens.Error.newwindow	新規ウィンドウモードでポートレットの表示に失敗した場合に表示される JSP ファイル	×

10. 設定ファイルとコマンド

種類	属性	設定内容	可否
	jp.co.hitachi.soft.portal.modules.screens.Error.direct	ポータル画面の URL を直接指定して複数のポータル画面でログインを行った場合に、表示される JSP ファイル	×
	jp.co.hitachi.soft.portal.modules.screens.Error.layoutmax	レイアウト表示数の上限を超えた場合に表示される JSP ファイル	×
	jp.co.hitachi.soft.portal.portleterror.message	ポータル画面のコンテンツ取得時にエラーが発生した場合に表示される JSP ファイル	×
	jp.co.hitachi.soft.portal.portlettimeout.message	ポータル画面のコンテンツの取得タイムアウト発生時に、各ポータル画面内に表示される JSP ファイル	×
	jp.co.hitachi.soft.portal.modules.screens.Error.jp.co.hitachi.soft.portal.util.servlet.AccessForbiddenException	セキュリティエラーが発生した時に表示される JSP ファイル	×
	jp.co.hitachi.soft.portal.modules.screens.Error.jp.co.hitachi.soft.portal.util.servlet.LogoutWaitException	同一セッションでログアウト中のリクエストが存在する場合に表示される JSP ファイル	×
	jp.co.hitachi.soft.portal.modules.screens.Error.jp.co.hitachi.soft.portal.util.servlet.LoginWaitException	ログイン時にセッションを更新しない場合で、同一セッションでログイン中のリクエストが存在する場合に表示される JSP ファイル	×
	jp.co.hitachi.soft.portal.modules.screens.Error.jp.co.hitachi.soft.portal.util.servlet.DoubleLoginException	ログイン時にセッションを更新する場合で、同一セッションでログイン中のリクエストが存在する場合に表示される JSP ファイル	×
(3) ログイン処理の設定	jp.co.hitachi.soft.portal.modules.actions.LoginAction	ログイン処理のアクション用 JSP ファイル	×
(4) ポータル画面配置情報ファイルディレクトリの設定	jp.co.hitachi.soft.portal.access.psml.dir	ポータル画面配置情報ファイルを格納するディレクトリ	×
(5) リポジトリサービスの設定	jp.co.hitachi.portal.services.repository.filename	リポジトリファイルへのパス	×
(6) ポータル管理グループの設定	jp.co.hitachi.soft.portal.services empowermentment.filename	ポータル管理グループ定義ファイルへのパスを指定	×

種類	属性	設定内容	可否
	jp.co.hitachi.soft.portal.services.empowerment.operator	運用管理者を指定	
(7) コントローラ定義ファイルの設定	jp.co.hitachi.soft.portal.services.controllers.filename	コントローラ定義ファイルへのパス	×
(8) フォーム認証定義ファイルの設定	jp.co.hitachi.soft.portal.webapp.formbase.cfg	フォーム認証定義ファイルのパス	×
(9) ログインの設定	jp.co.hitachi.soft.portal.services.security.PortalUserManager.login.defaultLoginModule	使用するログインモジュール名	
	jp.co.hitachi.soft.portal.services.security.PortalUserManager.login.sessionrenewal	ログイン時のセッション ID 更新設定	×
(10) ディレクトリサーバの設定	jp.co.hitachi.soft.portal.servics.repository.spi.LdapRepositoryModule.TimeOut	ディレクトリサーバアクセス時のタイムアウト時間	×
	jp.co.hitachi.soft.portal.services.repository.spi.LdapRepositoryModule.SocketTimeOut	ディレクトリサーバアクセス時の通信タイムアウト時間	×
	jp.co.hitachi.soft.portal.services.repository.spi.LdapRepositoryModule.ConnectTimeOut	ディレクトリサーバアクセス時の接続タイムアウト時間	×
(11) ディレクトリサーバの接続プールの設定	jp.co.hitachi.soft.portal.services.repository.spi.LdapRepositoryModule.MaxPoolSize	ディレクトリサーバの接続プールの数の設定	×
	jp.co.hitachi.soft.portal.services.repository.spi.LdapRepositoryModule.PoolWaitTime	ディレクトリサーバの接続プールの待機時間の設定	×
	jp.co.hitachi.soft.portal.services.repository.spi.LdapRepositoryModule.PoolIdleTimeout	ディレクトリサーバの接続プールのアイドルタイムの設定	×

10. 設定ファイルとコマンド

種類	属性	設定内容	可否
(12) ユーザ情報リポジトリへのアクセス情報の定義	jp.co.hitachi.soft.portal.services.repository.spi.CosminexusRepositoryModule.write	ユーザ情報リポジトリへのアクセス情報の定義	×
	jp.co.hitachi.soft.portal.services.repository.uservalue	ユーザ情報リポジトリの検索条件の設定	×
(13) 障害監視の設定	jp.co.hitachi.soft.portal.services.ActivityService.interval	活動監視をする間隔	×
	jp.co.hitachi.soft.portal.services.ActivityService.timeout	活動監視時にタイムアウトとみなす時間	×
	jp.co.hitachi.soft.portal.services.ActivityService.log.enable	活動監視ログを出力するかどうかを指定	×
	jp.co.hitachi.soft.portal.service.ActivityService.check.enable	活動監視機能を使用するかどうかを指定	×
(14) Web Page Portlet の設定	jp.co.hitachi.soft.portal.webpage.cache.directory	強制検証フラグファイルおよびディスクキャッシュの格納ディレクトリ	×
	jp.co.hitachi.soft.portal.webpage.cache.memMaxSize	メモリキャッシュに格納する最大コンテンツ数	×
	jp.co.hitachi.soft.portal.webpage.cache.diskMaxSize	ディスクキャッシュに格納する最大コンテンツ数	×
(15) 保守ログの設定	jp.co.hitachi.soft.portal.util.log.TraceFile	保守ログの出力先ディレクトリのフルパスとファイル名のプレフィックス	
	jp.co.hitachi.soft.portal.util.log.TraceLevel	保守ログ出力レベルを設定	
	jp.co.hitachi.soft.portal.util.log.TraceMode	ポートレットデバッグ機能のトレースモード	×
	jp.co.hitachi.soft.portal.util.log.MessageLevel	メッセージ出力レベル	
	jp.co.hitachi.soft.portal.util.log.FileNum	切り替えて使用する保守ログファイルの数	
	jp.co.hitachi.soft.portal.util.log.FileSize	一つの保守ログファイルの最大サイズ	
	jp.co.hitachi.soft.portal.util.log.Ident	ポータルサーバログを出力する際、識別子として指定する文字列	×
	jp.co.hitachi.soft.portal.requestcontroller.log.requestparameter	保守ログに出力するリクエストパラメタの名前の設定	×

種類	属性	設定内容	可否
	jp.co.hitachi.soft.portal.requestcontroller.log.requestheader	保守ログに出力するリクエストヘッダの名前の設定	×
	jp.co.hitachi.soft.portal.requestcontroller.log.requestattribute	保守ログに出力するリクエスト属性の名前の設定	×
	jp.co.hitachi.soft.portal.requestcontroller.log.portletcall	ポートレット呼び出し開始および終了の出力設定	×
(16) ポートレットアクセスログの設定	jp.co.hitachi.soft.portal.util.log.PortletAccessLog	ポートレットアクセスログの出力有無	×
	jp.co.hitachi.soft.portal.util.log.OptionAccess	ポートレットアクセスログの出力オプション	
	jp.co.hitachi.soft.portal.util.log.TraceFileAccess	ポートレットアクセスログの出力先ディレクトリのフルパスとファイル名のプレフィックス	
	jp.co.hitachi.soft.portal.util.log.FileNumAccess	切り替えて使用するポートレットアクセスログファイルの数	
	jp.co.hitachi.soft.portal.util.log.FileSizeAccess	一つのポートレットアクセスログファイルの最大サイズ	
	jp.co.hitachi.soft.portal.util.log.OptionDelimiter	ポートレットアクセスログ出力項目の区切り文字を設定	×
(17) ポートレットログの設定	jp.co.hitachi.soft.portal.api.log.application.FileName	ポートレットログの出力先ディレクトリのフルパスとファイル名のプレフィックス	
	jp.co.hitachi.soft.portal.api.log.application.TraceLevel	ポートレットログ出力レベル	
	jp.co.hitachi.soft.portal.api.log.application.FileSize	一つのポートレットログファイルの最大サイズ	
	jp.co.hitachi.soft.portal.api.log.application.FileNum	切り替えて使用するポートレットログファイルの数	
(18) 監査ログの設定	jp.co.hitachi.soft.portal.util.log.auditlog.enable	監査ログの出力オプション	×
	jp.co.hitachi.soft.portal.util.log.auditlog.filter	監査ログに出力するメッセージの設定	×
	jp.co.hitachi.soft.portal.util.log.auditlog.FileName	監査ログの出力先ディレクトリのフルパスをファイル名のプレフィックス	×
	jp.co.hitachi.soft.portal.util.log.auditlog.message	監査ログに出力するメッセージの重要度	×

10. 設定ファイルとコマンド

種類	属性	設定内容	可否
	jp.co.hitachi.soft.portal.util.log.auditlog.FileSize	一つの監査ログファイルの最大サイズ	×
	jp.co.hitachi.soft.portal.util.log.auditlog.FileNum	切り替えて使用する監査ログファイルの数	×
	jp.co.hitachi.soft.portal.util.log.auditlog.encoding	監査ログのエンコーディング	×
	jp.co.hitachi.soft.portal.util.log.auditlog.clientip.source	監査ログに出力するクライアントの IP アドレスの取得元	×
	jp.co.hitachi.soft.portal.util.log.auditlog.clientip.source.detail	監査ログに出力するクライアントの IP アドレスの取得元の詳細設定	×
(19) デフォルトエンコーディングの設定	document.defaultencoding	デフォルトエンコーディングの設定	
(20) URL 変換規則の切り替え	jp.co.hitachi.soft.portal.transurlflag	URL 変換規則の切り替えフラグ	×
	jp.co.hitachi.soft.portal.url.proxy	SSL アクセラレーター使用有無を指定	×
	jp.co.hitachi.soft.portal.url.httpdomain	HTTP 通信用のホスト名, ポート番号およびパス名を指定	×
	jp.co.hitachi.soft.portal.url.httpsdomain	HTTPS 通信用のホスト名, ポート番号およびパス名を指定	×
	jp.co.hitachi.soft.portal.transcontextflag	ポータルプロジェクト名をパス名に変換するか指定	×
	transinline.compat	jp.co.hitachi.soft.portal.portlet.PortletURI#transInlineURI メソッドの設定	×
(21) レイアウトの設定	jp.co.hitachi.soft.portal.layout.outside.padding.without	ポートレット間隔を同間隔表示にさせるかどうかの設定	×
	jp.co.hitachi.soft.portal.layout.default.padding.size	ポートレット間隔のサイズデフォルト値	×
	jp.co.hitachi.soft.portal.layout.default.border.size	ポートレットを囲む枠線の太さのデフォルト値	×
	jp.co.hitachi.soft.portal.layout.default.border.color	ポートレットを囲む枠線の色のデフォルト値	×
	jp.co.hitachi.soft.portal.layout.default.active.color	タブの活性色のデフォルト値	×

種類	属性	設定内容	可否
	jp.co.hitachi.soft.portal.layout.default.nonactive.color	タブの非活性色のデフォルト値	×
	jp.co.hitachi.soft.portal.layout.default.ruler.size	ルーラー幅のデフォルト値	×
	jp.co.hitachi.soft.portal.layout.default.ruler.color	ルーラー色のデフォルト値	×
	jp.co.hitachi.soft.portal.layout.default.title.color	タイトルバー, タブの非活性色, およびルーラー色のデフォルト値	×
	jp.co.hitachi.soft.portal.layout.default.background.color	背景色のデフォルト値	×
	jp.co.hitachi.soft.portal.layout.default.maxdisplays	レイアウトの表示上限数の設定	×
(22) ポートレット並列表示の設定	jp.co.hitachi.soft.portal.multiportlet.option	ポートレット並列機能の使用有無を指定	
	jp.co.hitachi.soft.portal.multiportlet.timeout	ポートレットコンテンツを取得するまでの監視時間を指定	
	jp.co.hitachi.soft.portal.multiportlet.services.ThreadPool.init.count	スレッドプールで確保するスレッドの初期個数	
	jp.co.hitachi.soft.portal.multiportlet.services.ThreadPool.max.count	スレッドプールで確保するスレッドの最大個数	
	jp.co.hitachi.soft.portal.multiportlet.services.ThreadPool.minspare.count	スレッドプール機能でスレッドを確保する増分個数	
(23) パーソナライズ情報保存方法の設定	jp.co.hitachi.soft.portal.repository.commit.mode	パーソナライズ情報がリポジトリに格納されるタイミングを指定	×
	jp.co.hitachi.soft.portal.repository.customize.commitdata	レイアウト変更画面の設定完了時でのパーソナライズ情報のディレクトリサーバアクセス/DB への書き込みを制御	×
(24) リポジトリの設定	jp.co.hitachi.soft.portal.repository.db.autoadd	ユーザ管理情報用 DB にログインユーザのレコードがない場合に, そのユーザのレコードを自動的に追加するかどうかを指定	×
	jp.co.hitachi.soft.portal.services.repository.log.access	リポジトリへのアクセス情報の出力設定	×

10. 設定ファイルとコマンド

種類	属性	設定内容	可否
(25) ナビゲーションメニューの設定	jp.co.hitachi.soft.portal.portal.controls.NavigationPanedPortletControl.NavigationPortletName	ナビゲーションメニューに表示するポートレットを指定	×
(26) 言語およびタイムゾーンの設定	jp.co.hitachi.soft.portal.i18n.supports	サポートする言語の言語種別を RFC1766 に従って次の形式で指定 {言語コード}[-{国コード}[-{バリエーション}]] 複数指定する場合は、コンマ(,)で区切って指定	×
	jp.co.hitachi.soft.portal.i18n.default	サポートする言語の言語種別を RFC1766 に従って次の形式で指定 {言語コード}[-{国コード}[-{バリエーション}]]	×
	jp.co.hitachi.soft.portal.i18n.timezone.supports	タイムゾーンをサポートするかどうかを設定	×
	jp.co.hitachi.soft.portal.i18n.timezone.default	デフォルトのタイムゾーンを指定	×
	jp.co.hitachi.soft.portal.i18n.stringresource.appkey	起動時に読み込むストリングリソースの設定	×
(27) クライアントサイドデータ通信の設定	jp.co.hitachi.soft.portal.csdc.datatype.userData	クライアントサイドデータ通信機能を使用するための初期定義タグライブラリを設定	×
	jp.co.hitachi.soft.portal.csdc.datasize.threshold	クライアントサイドデータ通信機能でクリップボードウィンドウを使用する場合のバイト数の指定	×
	jp.co.hitachi.soft.portal.csdc.datatype.userData.ext	クライアントサイドデータ通信を行う際のデータ保管領域の拡張設定	×
	jp.co.hitachi.soft.portal.csdc.datatype.userData.errorhandle	クライアントサイドデータ通信を行う際のデータ転送方式で userData を使用する場合、userData または DOM ストレージへのデータ格納（コピー処理）でエラーが発生したときに、クリップボード方式に変更するかどうかを設定	×

種類	属性	設定内容	可否
(28)Collaboration - Online Community Management 連携機能の設定	jp.co.hitachi.soft.portal.collaboration.layout	Collaboration - Online Community Management で作成するレイアウトに表示するポートレットのポートレット名を指定	×
(29) 強制表示の設定	jp.co.hitachi.soft.portal.portlets.forceportlet.supports	強制表示ポートレット, 強制タブおよび強制表示レイアウトの設定	×
(30) シリアルサイズ上限値設定	jp.co.hitachi.soft.portal.directaccess.postdata.size	ダイレクト呼び出し時に引き継ぐ POST データの上限サイズを設定	×
(31) ポートレット表示属性管理ファイルの指定	jp.co.hitachi.soft.portal.services.portletarrange.filename	ポートレット表示属性ファイルへのパスを指定	×
(32) コミュニティ情報キャッシュ数の設定	jp.co.hitachi.soft.portal.common.cache.LRUHashtable.EmPowermentDBModule.MaxCacheCount	コミュニティ情報キャッシュ最大数の設定	×
	jp.co.hitachi.soft.portal.common.cache.LRUHashtable.EmPowermentDBModule.layout.MaxCacheCount	レイアウト情報キャッシュ最大数	×
	jp.co.hitachi.soft.portal.common.cache.LRUHashtable.JetspeedDiskCache.MaxCacheCount	PSML 情報キャッシュ最大数の設定	×
	jp.co.hitachi.soft.portal.common.cache.LoadInfoForCommunity.Enabled	コミュニティ情報起動時キャッシュの設定	×
(33) スマートナビゲーションの設定	jp.co.hitachi.soft.portal.api.webapi.define.file	WebAPI 定義ファイルのパスの設定	×
	jp.co.hitachi.soft.portal.portlets.filter.definition	ポートレットフィルタのパスの設定	×

10. 設定ファイルとコマンド

種類	属性	設定内容	可否
	jp.co.hitachi.soft.portal.portlets.filter.enabled	ポートレットフィルタの使用の設定	×
	jp.co.hitachi.soft.portal.xml.api.datatypedef	データ型定義ファイルのパスの設定	×
(34) レスポンスバッファサイズの指定	jp.co.hitachi.soft.portal.services.JspService.buffer.size	レスポンスのバッファサイズを指定	×
(35) Webコンテンツポートレットパラメータ値保存ファイルの格納場所	jp.co.hitachi.soft.portal.portal.portlets.component.parameterfilename	Web コンテンツポートレットパラメータ値保存ファイルの格納場所	×
(36) 運用管理ポートレットの設定	jp.co.hitachi.soft.portal.services empowerment.removedeleteportlet	運用管理ポートレットのポートレットタブで OK ボタンを押下したときに、削除された標準 API ポートレット (標準 API ポートレットを停止している場合) を管理・利用するポートレットから削除するかどうかを指定	×

(凡例)

: Portal Manager で設定できる項目です。

× : PortalResources.properties の属性値を直接変更して、設定する項目です。

各属性の詳細を次に説明します。

! 注意事項

{設定ファイル格納ディレクトリ} を示す場合は、\${config.dir} と記述します。また、Web アプリケーションディレクトリを示す場合は、\${webapp.dir} と記述します。

(1) 画面の設定

属性名 :

jp.co.hitachi.soft.portal.modules.screens.PPassword

型 : String

説明 : パスワード変更で表示される JSP ファイルです。格納ディレクトリは、次のとおりです。

<PROJECT_HOME>/WEB-INF/templates/jsp/screens/html

デフォルト値：Password.jsp

属性名：

jp.co.hitachi.soft.portal.modules.screens.Login

型：String

説明：ログインで表示される JSP ファイルです。格納ディレクトリは、次のとおりです。

<PROJECT_HOME>/WEB-INF/templates/jsp/screens/html

デフォルト値：Login.jsp

属性名：

jp.co.hitachi.soft.portal.modules.screens.PasswordSuccess

型：String

説明：パスワードの変更が成功したときに表示される JSP ファイルです。格納ディレクトリは、次のとおりです。

<PROJECT_HOME>/WEB-INF/templates/jsp/screens/html

デフォルト値：PasswordSuccess.jsp

属性名：

jp.co.hitachi.soft.portal.modules.screens.WelcomeScreen.show

型：String

説明：ウェルカム画面の表示 / 非表示を指定できます。値の範囲は true または false です。true を指定した場合は、ログイン前にウェルカム画面が表示されます。false を指定した場合は、ウェルカム画面を表示しないで、[ログイン] 画面が表示されます。

デフォルト値：true

属性名：

jp.co.hitachi.soft.portal.modules.screens.AfterLogOutScreen.show

型：String

説明：ログアウト直後に表示する画面（ログアウト後画面）を指定できます。true を指定した場合は、ウェルカム画面を表示しないで、ログアウト後画面が表示されます。使用する画面テンプレートは

jp.co.hitachi.soft.portal.modules.screens.AfterLogOutScreen.TemplateFile の値で指定できます。false を指定した場合は、ウェルカム画面（[ログイン] 画面）が表示されます。

デフォルト値：false

属性名：

10. 設定ファイルとコマンド

jp.co.hitachi.soft.portal.modules.screens.AfterLogOutScreen.TemplateFile

型：String

説明：ログアウト後画面で使用する JSP ファイルを指定できます。

jp.co.hitachi.soft.portal.modules.screens.AfterLogOutScreen.show=true の場合に、
使用されます。格納ディレクトリは、次のとおりです。

<PROJECT_HOME>/WEB-INF/templates/jsp/screens/html

デフォルト値：AfterLogout.jsp

(2) エラー画面の設定

属性名：

jp.co.hitachi.soft.portal.modules.screens.Error.default

型：String

説明：エラーが発生したときに表示される JSP ファイルです。格納ディレクトリ
は、次のとおりです。

<PROJECT_HOME>/WEB-INF/templates/jsp/errors/< デバイス名 >

デフォルト値：default.jsp

属性名：

jp.co.hitachi.soft.portal.modules.screens.Error.nocont

型：String

説明：コンテンツの出力に失敗した場合に表示される JSP ファイルです。格納ディ
レクトリは、次のとおりです。

<PROJECT_HOME>/WEB-INF/templates/jsp/errors/< デバイス名 >

デフォルト値：jp.co.hitachi.soft.portal.modules.screens.Error.default の値

属性名：

jp.co.hitachi.soft.portal.modules.screens.Error.nologin

型：String

説明：ログインしない場合に表示される JSP ファイルです。格納ディレクトリは、
次のとおりです。

<PROJECT_HOME>/WEB-INF/templates/jsp/errors/< デバイス名 >

デフォルト値：jp.co.hitachi.soft.portal.modules.screens.Error.default の値

属性名：

jp.co.hitachi.soft.portal.modules.screens.Error.timeout

型：String

説明：ポートレット並列表示の設定を行っていて、ポートレットの表示でタイムア
ウトが発生した場合に表示される JSP ファイルです。格納ディレクトリは、次のと
おりです。

<PROJECT_HOME>/WEB-INF/templates/jsp/errors/< デバイス名 >

デフォルト値 : `jp.co.hitachi.soft.portal.modules.screens.Error.default` の値

属性名 :

`jp.co.hitachi.soft.portal.modules.screens.Error.org.apache.turbine.util.security.PasswordMismatchException`

型 : String

説明 : ログインの認証エラー時に表示される JSP ファイルです。格納ディレクトリは、次のとおりです。

<PROJECT_HOME>/WEB-INF/templates/jsp/errors/< デバイス名 >

デフォルト値 : `jp.co.hitachi.soft.portal.modules.screens.Error.default` の値

属性名 :

`jp.co.hitachi.soft.portal.modules.screens.Error.jp.co.hitachi.soft.portal.util.security.FormParameterException`

型 : String

説明 : [パスワード変更] 画面で入力項目不足時に表示される JSP ファイルです。格納ディレクトリは、次のとおりです。

<PROJECT_HOME>/WEB-INF/templates/jsp/errors/< デバイス名 >

デフォルト値 : `jp.co.hitachi.soft.portal.modules.screens.Error.default` の値

属性名 :

`jp.co.hitachi.soft.portal.modules.screens.Error.jp.co.hitachi.soft.portal.util.security.NewPasswordMismatchException`

型 : String

説明 : [パスワード変更] 画面で新パスワードと再入力した新パスワードが異なる場合に表示される JSP ファイルです。格納ディレクトリは、次のとおりです。

<PROJECT_HOME>/WEB-INF/templates/jsp/errors/< デバイス名 >

デフォルト値 : `jp.co.hitachi.soft.portal.modules.screens.Error.default` の値

属性名 :

`jp.co.hitachi.soft.portal.modules.screens.Error.jp.co.hitachi.soft.portal.util.security.OldPasswordMismatchException`

型 : String

説明 : [パスワード変更] 画面で、旧パスワードが現在の設定と異なる場合に示される JSP ファイルです。格納ディレクトリは、次のとおりです。

<PROJECT_HOME>/WEB-INF/templates/jsp/errors/< デバイス名 >

デフォルト値 : `jp.co.hitachi.soft.portal.modules.screens.Error.default` の値

属性名 :

`jp.co.hitachi.soft.portal.modules.screens.Error.newwindow`

10. 設定ファイルとコマンド

型：String

説明：新規ウィンドウモードでポートレットの表示に失敗した場合に表示される JSP ファイルです。格納ディレクトリは、次のとおりです。

<PROJECT_HOME>/WEB-INF/templates/jsp/errors/html

デフォルト値：**jp.co.hitachi.soft.portal.modules.screens.Error.default の値**

属性名：

jp.co.hitachi.soft.portal.modules.screens.Error.direct

型：String

説明：ポートレットの URL を直接指定して複数のポータル画面を表示した時に、それぞれの画面でログインを行った場合に表示される JSP ファイルです。格納ディレクトリは、次のとおりです。

<PROJECT_HOME>/WEB-INF/templates/jsp/errors/html

デフォルト値：**jp.co.hitachi.soft.portal.modules.screens.Error.default の値**

属性名：

jp.co.hitachi.soft.portal.modules.screens.Error.layoutmax

型：String

説明：レイアウト表示数の上限を超えた場合に表示される JSP ファイルです。格納ディレクトリは、次のとおりです。

<PROJECT_HOME>/WEB-INF/templates/jsp/errors/html

デフォルト値：**jp.co.hitachi.soft.portal.modules.screens.Error.default の値**

属性名：

jp.co.hitachi.soft.portal.portleterror.message

型：String

説明：ポートレットのコンテンツ取得時にエラーが発生した場合に表示される JSP ファイルです。格納ディレクトリは、次のとおりです。

<PROJECT_HOME>/WEB-INF/templates/jsp/errors/<デバイス名>

デフォルト値：**jp.co.hitachi.soft.portal.modules.screens.Error.default の値**

属性名：

jp.co.hitachi.soft.portal.portlettimeout.message

型：String

説明：ポートレットのコンテンツの取得タイムアウト発生時に表示される JSP ファイルです。格納ディレクトリは、次のとおりです。

<PROJECT_HOME>/WEB-INF/templates/jsp/errors/<デバイス名>

デフォルト値：**jp.co.hitachi.soft.portal.modules.screens.Error.default の値**

属性名：

jp.co.hitachi.soft.portal.modules.screens.Error.jp.co.hitachi.soft.portal.util.servlet.AccessForbiddenException

型：String

説明：セキュリティエラーが発生した場合に表示される JSP ファイルです。格納ディレクトリは、次のとおりです。

<PROJECT_HOME>/WEB-INF/templates/jsp/errors/<デバイス名>

デフォルト値：jp.co.hitachi.soft.portal.modules.screens.Error.default の値

属性名：**jp.co.hitachi.soft.portal.modules.screens.Error.jp.co.hitachi.soft.portal.util.servlet.LogoutWaitException**

型：String

説明：同一セッションでログアウト中のリクエストが存在する場合に表示される JSP ファイルです。格納ディレクトリは、次のとおりです。

<PROJECT_HOME>/WEB-INF/templates/jsp/errors/<デバイス名>

デフォルト値：jp.co.hitachi.soft.portal.modules.screens.Error.default の値

属性名：**jp.co.hitachi.soft.portal.modules.screens.Error.jp.co.hitachi.soft.portal.util.servlet.LoginWaitException**

型：String

説明：同一セッションでログイン中のリクエストが存在する場合に表示される JSP ファイルです。ログイン時にセッションを更新しない場合

(jp.co.hitachi.soft.portal.services.security.PortalUserManager.login.sessionrenewal=true 以外の場合) に本ファイルを使用します。格納ディレクトリは、次のとおりです。

<PROJECT_HOME>/WEB-INF/templates/jsp/errors/<デバイス名>

デフォルト値：jp.co.hitachi.soft.portal.modules.screens.Error.default の値

属性名：**jp.co.hitachi.soft.portal.modules.screens.Error.jp.co.hitachi.soft.portal.util.servlet.DoubleLoginException**

型：String

説明：同一セッションでログイン中のリクエストが存在する場合に表示される JSP ファイルです。ログイン時にセッションを更新する場合

(jp.co.hitachi.soft.portal.services.security.PortalUserManager.login.sessionrenewal=true の場合) に本ファイルを使用します。格納ディレクトリは、次のとおりです。

<PROJECT_HOME>/WEB-INF/templates/jsp/errors/<デバイス名>

デフォルト値：jp.co.hitachi.soft.portal.modules.screens.Error.default の値

(3) ログイン処理の設定

属性名 :

jp.co.hitachi.soft.portal.modules.actions.LoginAction

型 : String

説明 : ログイン処理のアクション用 JSP ファイルです。格納ディレクトリは、次のとおりです。

<PROJECT_HOME>/WEB-INF/templates/jsp/actions

デフォルト値 : LoginAction.jsp

(4) ポートレット配置情報ファイルディレクトリの設定

属性名 :

jp.co.hitachi.soft.portal.access.psml.dir

型 : String

説明 : ポートレット配置情報ファイルを格納するディレクトリを設定します。

デフォルト値 : /WEB-INF/psml/

(5) リポジトリサービスの設定

属性名 :

jp.co.hitachi.portal.services.repository.filename

型 : String

説明 : リポジトリファイルへのパスです。この値は必ず指定してください。

デフォルト値 : なし

(6) ポータル管理グループの設定

属性名 :

jp.co.hitachi.soft.portal.services.empowerment.filename

型 : String

説明 : ポータル管理グループ定義ファイルへのパスを指定します。この値は必ず指定してください。

デフォルト値 : \${webapp.dir}/WEB-INF/conf/EmPowerment.xml

属性名 :

jp.co.hitachi.soft.portal.services.empowerment.operator

型 : String

説明 : 運用管理者を指定します。運用管理者は、ポータル管理グループの作成および削除、ポータル管理グループ内の管理権限の設定ができます。複数の人を指定する場合は、コンマ(,)で区切って指定してください。*を指定した場合は全てのユーザが運用管理者となります。Portal Manager から設定できます。

例：taro と hanako を運用管理者とする場合

```
jp.co.hitachi.soft.portal.services.empowerment.operator=taro,hana  
nako
```

デフォルト値：*

(7) コントローラ定義ファイルの設定

属性名：

jp.co.hitachi.soft.portal.services.controllers.filename

型：String

説明：コントローラ定義ファイルへのパスです。この値は必ず指定してください。

デフォルト値：なし

(8) フォーム認証定義ファイルの設定

属性名：

jp.co.hitachi.soft.portal.webapp.formbase.cfg

型：String

説明：フォーム認証定義ファイルへのパスです。

デフォルト値：\${webapp.dir}/WEB-INF/conf/formbase-auth.cfg

(9) ログインの設定

属性名：

jp.co.hitachi.soft.portal.services.security.PortalUserManager.login.defaultLoginModule

型：String

説明：使用するログインモジュール名です。JAAS コンフィグレーションファイル (jaas.conf) で指定したアプリケーション名です。

デフォルト値：Portal

属性名：

jp.co.hitachi.soft.portal.services.security.PortalUserManager.login.sessionrenewal

型：Boolean

説明：ログイン時のセッション ID 更新有無を設定します。true を指定した場合、ログイン時にセッション ID を更新します。この場合、ログイン前後でセッション属性は引継ぎません。false を指定した場合、ログイン時にセッション ID を更新しません。この場合、ログイン前後でセッション属性を引継ぎます。

デフォルト値：false

(10) ディレクトリサーバの設定

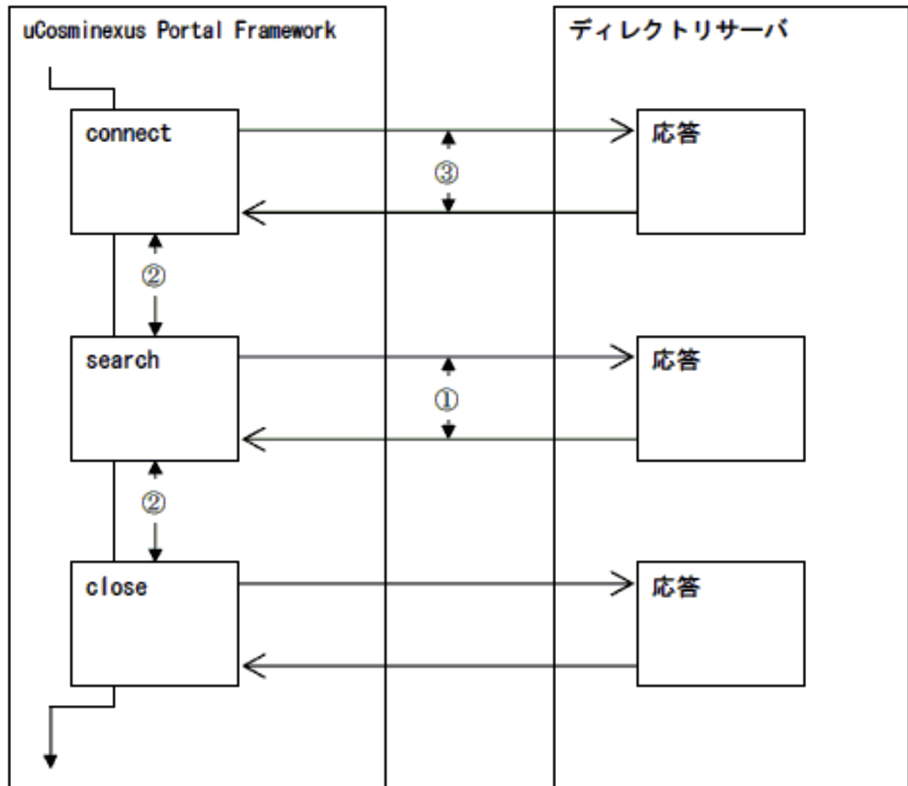
属性名：

jp.co.hitachi.soft.portal.services.repository.spi.LdapRepositoryModule.Timeout

型：int

説明：ディレクトリサーバアクセス時のタイムアウト時間です。単位はミリ秒です。ディレクトリサーバアクセス時のタイムアウト時間の設定には、本設定以外に、jp.co.hitachi.soft.portal.services.repository.spi.LdapRepositoryModule.SocketTimeout および、jp.co.hitachi.soft.portal.services.repository.spi.LdapRepositoryModule.ConnectTimeout があります。それぞれのタイムアウト時間の関係を次の図に示します。

図 10-1 ディレクトリサーバアクセス時のタイムアウト時間



- ① `jp.co.hitachi.soft.portal.servces.repository.spi.LdapRepositoryModule.Timeout`
ディレクトリサーバにアクセスし応答があるまでの時間(タイムアウト時間)
- ② `jp.co.hitachi.soft.portal.servces.repository.spi.LdapRepositoryModule.SocketTimeout`
ディレクトリサーバとのコネクション(ソケット)のタイムアウト時間
- ③ `jp.co.hitachi.soft.portal.servces.repository.spi.LdapRepositoryModule.ConnectTimeout`
ディレクトリサーバとのコネクションを確立するための時間(タイムアウト時間)

デフォルト値：2,000

属性名：

`jp.co.hitachi.soft.portal.servces.repository.spi.LdapRepositoryModule.SocketTimeout`

型：int

説明：ディレクトリサーバアクセス時のコネクション(ソケット)のタイムアウト時間です。単位はミリ秒です。値の範囲は0～7,200,000(2時間)です。製品出荷時には300,000(5分)です。なお、0を指定した場合、無限待ちとなります。

ディレクトリサーバアクセス時のタイムアウト時間の設定には、本設定以外に、`jp.co.hitachi.soft.portal.servces.repository.spi.LdapRepositoryModule.Timeout` お

10. 設定ファイルとコマンド

よび、
jp.co.hitachi.soft.portal.services.repository.spi.LdapRepositoryModule.ConnectTimeOut があります。それぞれのタイムアウト時間の関係については、
jp.co.hitachi.soft.portal.servces.repository.spi.LdapRepositoryModule.TimeOut の説明を参照してください。
デフォルト値：3,600,000 (1時間)

属性名：

jp.co.hitachi.soft.portal.services.repository.spi.LdapRepositoryModule.ConnectTimeOut

型：int

説明：ディレクトリサーバアクセス時のコネクションを確立するまでのタイムアウト時間です。単位はミリ秒です。値の範囲は0～7,200,000(2時間)です。製品出荷時には300,000(5分)です。なお、0を指定した場合、無限待ちとなります。ディレクトリサーバアクセス時のタイムアウト時間の設定には、本設定以外に、jp.co.hitachi.soft.portal.servces.repository.spi.LdapRepositoryModule.TimeOut および、jp.co.hitachi.soft.portal.services.repository.spi.LdapRepositoryModule.SocketTimeOut があります。それぞれのタイムアウト時間の関係については、jp.co.hitachi.soft.portal.servces.repository.spi.LdapRepositoryModule.TimeOut の説明を参照してください。
デフォルト値：3,600,000 (1時間)

(11)ディレクトリサーバのコネクションプールの設定

属性名：

jp.co.hitachi.soft.portal.services.repository.spi.LdapRepositoryModule.MaxPoolSize

型：int

説明：ディレクトリサーバのコネクションをプールする最大数を設定します。0を設定した場合、ディレクトリサーバのコネクションはプールされません。値の範囲は、0～10,000です。ディレクトリサーバのコネクションをプールする場合は、リクエスト同時実行数×2以上の値を設定してください。
デフォルト値：0

属性名：

jp.co.hitachi.soft.portal.services.repository.spi.LdapRepositoryModule.PoolWaitTime

型：int

説明：ディレクトリサーバのコネクションをプールする設定の場合で、全てのコネクションが使用されている場合に、コネクションに空きが発生するまで待機する時間を設定します。0を設定した場合はコネクションに空きが発生するまで待ちます。単位はミリ秒で、値の範囲は、0～7,200,000です。

デフォルト値：1,000

属性名：

jp.co.hitachi.soft.portal.services.repository.spi.LdapRepositoryModule.PoolIdleTimeout

型：int

説明：ディレクトリサーバのコネクションをプールする設定の場合に、コネクションのアイドルタイムを設定します。コネクションがアイドルタイム以上使用されなかった場合、コネクションはクローズされます。0を指定した場合は、コネクションがクローズされることはありません。なお、アイドルタイムはディレクトリサーバの通信タイムアウトの設定

(jp.co.hitachi.soft.portal.services.repository.spi.LdapRepositoryModule.SocketTimeout) およびディレクトリサーバのタイムアウト時間より短い時間を設定する必要があります。単位はミリ秒で、値の範囲は、0 ~ 7,200,000 です。

デフォルト値：0

(12) ユーザ情報リポジトリへのアクセス情報の定義

属性名：

jp.co.hitachi.soft.portal.services.repository.spi.CosminexusRepositoryModule.write

型：String

説明：ユーザ情報リポジトリへのアクセス情報の識別子

(jp.co.hitachi.soft.portal.services.repository.spi.CosminexusRepositoryModule.write) を設定します。製品出荷時にはコメントアウトされていますので、統合ユーザフレームワークを使用したユーザ情報リポジトリへのアクセスを行う場合はコメントアウトを解除してください。また、このプロパティを設定する場合には統合ユーザ管理フレームワークのコンフィグレーションファイル (ua.conf) の設定を変更する必要があります。ua.conf ファイルの設定内容については、「4.3.1(2) 統合ユーザ管理フレームワークのコンフィグレーションファイルの設定」を参照してください。

デフォルト値：なし

属性名：

jp.co.hitachi.soft.portal.services.repository.uservalue

型：String

説明：ユーザ情報リポジトリの検索条件を設定します (大文字, 小文字を区別します)。

loginid：認証に使用したログイン ID でユーザ情報を検索します。

userid：認証時に取得したユーザ ID でユーザ情報を検索します。

ログイン ID は、[ログイン] 画面で入力した ID です。また、ユーザ ID は Portal Manager のマッピング定義のユーザ ID 項目で指定した属性の値です。検索対象はユーザ情報 (ユーザ属性やパーソナライズ情報) およびグループ情報です。

10. 設定ファイルとコマンド

Cosminexus の統合ユーザ管理で WebPasswordJDBCLoginModule またはカスタムログインモジュールを使用する場合は loginid に設定してください。

デフォルト値 : loginid

(13) 障害監視の設定

属性名 :

jp.co.hitachi.soft.portal.service.ActivityService.check.enable

型 : Boolean

説明 : 活動監視機能を使用するかどうかを指定します。true の場合、ActivityService は一定間隔で活動監視し、false の場合は監視しません。なお、true にした場合、jp.co.hitachi.soft.portal.services.ActivityService.log.enable を true にする必要があります。活動監視ログ出力機能が false の場合は監視しません。

デフォルト値 : false

属性名 :

jp.co.hitachi.soft.portal.services.ActivityService.log.enable

型 : Boolean

説明 : 活動監視ログを出力するかどうかを指定します。true の場合は活動監視ログを出力し、false の場合は出力しません。

デフォルト値 : false

属性名 :

jp.co.hitachi.soft.portal.services.ActivityService.interval

型 : int

説明 : 活動監視をする間隔です。単位は秒で、0 の場合は活動監視を行わないことを示します。値の範囲は、0 ~ 86,400 です。製品出荷時には 3,600(1 時間) が設定されています。

デフォルト値 : 0

属性名 :

jp.co.hitachi.soft.portal.services.ActivityService.timeout

型 : int

説明 : 活動監視時にタイムアウトとみなす時間です。単位は秒で 0 の場合はタイムアウトがないものとみなします。値の範囲は、0 ~ 86,400 です。製品出荷時には 3,600(1 時間) が設定されています。

デフォルト値 : なし

(14) Web Page Portlet の設定

属性名 :

jp.co.hitachi.soft.portal.webpage.cache.directory

型：String

説明：強制検証フラグファイルおよびディスクキャッシュの格納ディレクトリです。

デフォルト値：`${webapp.dir}/WEB-INF/cosmi/webpage/cache`**属性名：****jp.co.hitachi.soft.portal.webpage.cache.memMaxSize**

型：int

説明：メモリキャッシュに格納する最大コンテンツ数です。値の範囲は 1 ~ 2,147,483,647 です。

デフォルト値：16

属性名：**jp.co.hitachi.soft.portal.webpage.cache.diskMaxSize**

型：int

説明：ディスクキャッシュに格納する最大コンテンツ数です。値の範囲は 1 ~ 2,147,483,647 です。

デフォルト値：128

(15)保守ログの設定**属性名：****jp.co.hitachi.soft.portal.util.log.TraceFile**

型：String

説明：保守ログの出力先ディレクトリのフルパスおよびファイル名のプレフィックスを指定します。ただし、ほかのログのファイル名（ログ出力先のフルパス+ファイル名のプレフィックス）と同じ値は指定できません。同じ値を指定した場合は、デフォルト値が使用されます。

次の場合と同じ値と判断されます。

- 二つの値が一致している場合（大文字，小文字は区別しません）
- 二つの値のパスが一致していて，プレフィックスの最後に指定した数字だけが異なる場合

不正値（作成できないプレフィックスや相対パス）を指定した場合は，ログ出力されません。

デフォルト値：`${webapp.dir}/WEB-INF/log/portal`**属性名：****jp.co.hitachi.soft.portal.util.log.TraceLevel**

型：String

説明：保守ログ出力レベルを設定します。指定したレベル以下の保守ログが出力されます。値の範囲は -1 および 0 ~ 30 の整数です。範囲外の値または -1 を設定した

10. 設定ファイルとコマンド

場合にはログは出力されません。

デフォルト値：0

属性名：

jp.co.hitachi.soft.portal.util.log.TraceMode

型：String

説明：ポートレットデバッグ機能のトレースモードです。モードを記述します。値の範囲は、normal、compile、debug になります。

デフォルト値：normal

属性名：

jp.co.hitachi.soft.portal.util.log.MessageLevel

型：String

説明：メッセージ出力レベルを設定します。LOG_ERR、LOG_WARNING、またはLOG_INFO を指定します。

デフォルト値：LOG_ERR

属性名：

jp.co.hitachi.soft.portal.util.log.FileNum

型：int

説明：切り替えて使用する保守ログファイルの数を設定します。1 から 16 の整数を一つ指定します。

デフォルト値：1

属性名：

jp.co.hitachi.soft.portal.util.log.FileSize

型：int

説明：一つの保守ログファイルの最大サイズを設定します。単位はバイトで、値の範囲は 4,096 ~ 2,147,483,647 です。2,097,152 (2MB) 以上を推奨します。

デフォルト値：1,048,576 (1MB)

属性名：

jp.co.hitachi.soft.portal.util.log.Ident

型：String

説明：ポータルサーバログを出力する際、イベントログのアプリケーション識別子として指定する文字列です。この設定は変更しないでください。

デフォルト値：Portal Framework

属性名：

jp.co.hitachi.soft.portal.requestcontroller.log.requestparameter

型：String

説明：保守ログに出力するリクエストパラメタの名前を指定します。uCosminexus Portal Framework がリクエストを受け付けた時に、このプロパティで指定したリクエストパラメタと一致するパラメタが存在する場合、保守ログにメッセージ KDPF50011-I を出力します。パラメタの大文字、小文字は区別します。複数指定する場合はコンマ区切りで指定してください。1,024 文字まで指定できます。
デフォルト値：com.cosminexus.admin.auth.name

属性名：

jp.co.hitachi.soft.portal.requestcontroller.log.requestheader

型：String

説明：保守ログに出力するリクエストヘッダの名前を指定します。uCosminexus Portal Framework がリクエストを受け付けた時に、このプロパティで指定したリクエストヘッダと一致するヘッダが存在する場合、保守ログにメッセージ KDPF50012-I を出力します。ヘッダの大文字、小文字は区別しません。複数指定する場合はコンマ区切りで指定してください。1,024 文字まで指定できます。
デフォルト値：なし

属性名：

jp.co.hitachi.soft.portal.requestcontroller.log.requestattribute

型：String

説明：保守ログに出力するリクエスト属性の名前を指定します。uCosminexus Portal Framework がリクエストを受け付けた時に、このプロパティで指定した名前に一致するリクエスト属性が存在する場合、保守ログにメッセージ KDPF50013-I を出力します。リクエスト属性の大文字、小文字は区別します。複数指定する場合はコンマ区切りで指定してください。1,024 文字まで指定できます。
デフォルト値：HINS_SAML_USER_ID

属性名：

jp.co.hitachi.soft.portal.requestcontroller.log.portletcall

型：Boolean

説明：保守ログにポートレットの呼び出し開始および終了を出力するか設定します。true を設定した場合、保守ログにポートレットの呼び出し開始および終了を出力します。true に設定した場合、ポータル画面を表示するたびに画面に配置しているポートレット数の呼び出し開始および終了のログが出力されますので、保守ログファイルの数および一つの保守ログファイルの最大サイズを増やしてください。
デフォルト値：false

(16) ポートレットアクセスログの設定

属性名：

jp.co.hitachi.soft.portal.util.log.PortletAccessLog

型：Boolean

説明：ポートレットアクセスログの出力有無を指定します。true を指定すると、ポートレットアクセスログを出力します。

デフォルト値：false

属性名：

jp.co.hitachi.soft.portal.util.log.OptionAccess

型：String

説明：ポートレットアクセスログの出力オプションを指定します。次のパラメタをコンマ(,)で区切って指定します。

- un：利用者名称
- tm：ポートレット処理経過時間（ミリ秒）
- er：障害コード
- lid：レイアウト名称
- lnm：レイアウトタイトル
- ud：ユーザ定義項目名
- act：ログイン/ログアウト情報

常に「利用者名称」、「ポートレット処理経過時間（ミリ秒）」、「障害コード」の順で出力されます。複数指定した場合は無視されます。指定した値の大文字、小文字は区別しません。

指定例：

```
jp.co.hitachi.soft.portal.util.log.OptionAccess=un
```

上記の場合は、「id= 利用者要求カウンタ pn= ポートレット名称 un= 利用者名称」がポートレットアクセスログファイルに出力されます。「利用者要求カウンタ」および「ポートレット名称」は必ず出力されます。

デフォルト値：tm

属性名：

jp.co.hitachi.soft.portal.util.log.TraceFileAccess

型：String

説明：ポートレットアクセスログの出力先ディレクトリのフルパスおよびファイル名のプレフィックスを指定します。ただし、ほかのログのファイル名（ログ出力先のフルパス+ファイル名のプレフィックス）と同じ値は指定できません。同じ値を指定した場合は、デフォルト値が使用されます。

次の場合と同じ値と判断されます。

- 二つの値が一致している場合（大文字、小文字は区別しません）
- 二つの値のパスが一致していて、プレフィックスの最後に指定した数字だけが異なる場合

不正値（作成できないプレフィックスや相対パス）を指定した場合は、ログ出力さ

れません。

デフォルト値: `${webapp.dir}/WEB-INF/log/access`

属性名:

jp.co.hitachi.soft.portal.util.log.FileNumAccess

型: int

説明: 切り替えて使用するポートレットアクセスログファイルの数を設定します。1 から 16 の整数を一つ指定します。

デフォルト値: 4

属性名:

jp.co.hitachi.soft.portal.util.log.FileSizeAccess

型: int

説明: 一つのポートレットアクセスログファイルの最大サイズを設定します。単位はバイトで、値の範囲は 4,096 ~ 2,147,483,647 です。

デフォルト値: 1,048,576 (1MB)

属性名:

jp.co.hitachi.soft.portal.util.log.OptionDelimiter

型: String

説明: ポートレットアクセスログ出力項目の区切り文字を設定します。

大文字, 小文字を区別した 0 ~ 4 文字の ASCII 文字だけで設定します。プロパティが存在しない場合, または誤った設定値が設定された場合 (全角文字が設定された場合や文字数が設定できる範囲を超えた場合など) は, 保守ログにメッセージ (KDPF60019-E) とプロパティ名を出力して, デフォルト値 (半角空白 1 文字) を適用して処理を続行します。

デフォルト値: 半角空白 1 文字

(17) ポートレットログの設定

属性名:

jp.co.hitachi.soft.portal.api.log.application.FileName

型: String

説明: ポートレットログの出力先ディレクトリのフルパスとファイル名のプレフィックスを指定します。ただし, ほかのログのファイル名 (ログ出力先のフルパス + ファイル名のプレフィックス) と同じ値は指定できません。同じ値を指定した場合は, デフォルト値が使用されます。

次の場合に同じ値と判断されます。

- 二つの値が一致している場合 (大文字, 小文字は区別しません)
- 二つの値のパスが一致していて, プレフィックスの最後に指定した数字だけが異なる場合

10. 設定ファイルとコマンド

不正値（作成できないプレフィックスや相対パス）を指定した場合は、ログ出力されません。

デフォルト値：`${webapp.dir}/WEB-INF/log/application`

属性名：

jp.co.hitachi.soft.portal.api.log.application.TraceLevel

型：String

説明：ポートレットログの出力レベルです。指定したレベル以下のポートレットログが出力されます。値の範囲は - 1 および 0 ~ 30 の整数です。

デフォルト値：10

属性名：

jp.co.hitachi.soft.portal.api.log.application.FileSize

型：int

説明：一つのポートレットログファイルの最大サイズです。単位はバイトで、値の範囲は 4,096 ~ 2,147,483,647 です。

デフォルト値：1,048,576 (1MB)

属性名：

jp.co.hitachi.soft.portal.api.log.application.FileNum

型：int

説明：切り替えて使用するポートレットログファイルの数です。値の範囲は 1 ~ 65,535 です。

デフォルト値：1

(18) 監査ログの設定

属性名：

jp.co.hitachi.soft.portal.util.log.auditlog.enable

型：Boolean

説明：監査ログの出力有無を設定します。

true：監査ログを出力します。

false：監査ログを出力しません。

デフォルト値：false

属性名：

jp.co.hitachi.soft.portal.util.log.auditlog.filter

型：String

説明：監査ログに出力するメッセージを抑止するメッセージ ID を設定します。複数指定する場合はコンマ(,)で区切って設定します。256 個まで指定することができます。

デフォルト値：なし

属性名：

jp.co.hitachi.soft.portal.util.log.auditlog.FileName

型：String

説明：監査ログの出力先ディレクトリのフルパスおよびファイル名のプレフィックスを指定します。プロパティで設定した出力先にログファイルとログファイルを制御するための監査ログコントロールファイル（拡張子が.conf）が出力されます。

ファイルのパスはプレフィックスを含め 250 文字以下を指定してください。

デフォルト値：\${webapp.dir}/WEB-INF/log/audit

属性名：

jp.co.hitachi.soft.portal.util.log.auditlog.message

型：String

説明：監査ログに出力するメッセージの重要度を設定します。複数設定する場合はコンマ(,)で区切って設定します。設定しない重要度のメッセージは監査ログに出力されません。

ERR：Error レベルのメッセージを出力します。

WARN：Warning レベルのメッセージを出力します。

INFO：Information レベルのメッセージを出力します。

デフォルト値：ERR, WARN, INFO

属性名：

jp.co.hitachi.soft.portal.util.log.auditlog.FileSize

型：int

説明：一つの監査ログファイルの最大サイズを指定します。単位はバイトで、値の範囲は、4,096 ~ 2,147,483,647 です。

デフォルト値：10,485,760 (10MB)

属性名：

jp.co.hitachi.soft.portal.util.log.auditlog.FileNum

型：int

説明：切り替えて使用する監査ログファイルの数を指定します。値の範囲は、2 ~ 32 です。

デフォルト値：4

属性名：

jp.co.hitachi.soft.portal.util.log.auditlog.encoding

型：String

説明：監査ログのエンコーディングを設定します。UTF-8 または Windows-31J が

10. 設定ファイルとコマンド

指定できます。なお、Windows-31J を指定した場合、次の項目に Windows-31J に存在しない文字を使用すると、存在しない文字が文字化けします。

- ポータル管理グループタイトル
- 利用者条件

デフォルト値：UTF-8

属性名：

jp.co.hitachi.soft.portal.util.log.auditlog.clientip.source

型：String

説明：監査ログに出力するクライアント IP アドレスの取得元を設定します。ポータルサーバが NAT デバイスの内側に設定されている場合は、NAT の設定により任意のリクエストヘッダ（標準は X-Forwarded-For）にクライアントの IP アドレスを設定することができるため、そのリクエストヘッダを指定します。リクエストヘッダの値がコンマ区切りで指定されている場合、次のプロパティで指定された方法で IP アドレスを取得することができます。

jp.co.hitachi.soft.portal.util.log.auditlog.clientip.source.detail

プロパティを指定しない場合、またはリクエストヘッダから値が取得できない場合は、IP ヘッダー・パケットから IP アドレスを取得します。

デフォルト値：なし

属性名：

jp.co.hitachi.soft.portal.util.log.auditlog.clientip.source.detail

型：Integer

説明：監査ログに出力するクライアント IP アドレスをリクエストヘッダから取得する場合（jp.co.hitachi.soft.portal.util.log.auditlog.clientip.source を指定した場合）に、コンマで複数の IP アドレスが記述されている場合の取得方法を設定します。コンマ区切りで複数の IP アドレスが設定されていない場合は、このプロパティの設定値は無効となります。

0：全ての情報を取得します。

1：先頭の IP アドレスをクライアントの IP アドレスとして抽出します。

なお、コンマ以外の区切り文字には対応していません。

デフォルト値：1

(19) デフォルトエンコーディングの設定

属性名：

document.defaultencoding

型：String

説明：次に示すファイルのデフォルトエンコーディングを指定します。UTF-8、Windows-31J、EUC-JP または JIS を指定できます。この値は必ず指定してください。

- File ポートレット
- ポートレット配置情報ファイル (PSML ファイル)
- ポートレット定義ファイル (jetspeed-config.jcfg)
- リポジトリファイル (Repository.xml)
- マッピング定義ファイル
- クライアント情報定義ファイル (UserAgentType.xml)
- フォーム認証定義ファイル (formbase-auth.cfg)
- コントロール定義ファイル (controllers.xml)

デフォルト値：なし

(20) URL 変換規則の切り替え

属性名：

jp.co.hitachi.soft.portal.transurlflag

型：Boolean

説明：URL 変換規則の切り替えフラグです。指定できる値は true または false です。詳細については、「6.8 SSL アクセラレーターまたはリバースプロキシ使用時の設定」を参照してください。

デフォルト値：false

URL の変換規則を次の表に示します。

表 10-2 URL の変換規則

プロパティ値	変換規則	変換後の URL
false	プロトコルとサーバ名称を含む	{プロトコル}/{サーバ名称}:{ポート番号}/{ポータルプロジェクト名} ~
true	プロトコルとサーバ名称を含まない	{ポータルプロジェクト名} ~

属性名：

jp.co.hitachi.soft.portal.url.proxy

型：String

説明：リバースプロキシとして SSL アクセラレーターを使用するかどうかを設定します。指定できる値は SSL または NONE です。SSL アクセラレーターを使用しないで、リバースプロキシだけ使用する場合は、NONE を指定してください。

SSL：SSL アクセラレーターを使用する。

NONE：SSL アクセラレーターを使用しない。

デフォルト値：NONE

属性名：

jp.co.hitachi.soft.portal.url.httpdomain

型：String

説明：HTTP で通信する際、URL に含まれるホスト名、ポート番号およびパス名を指定します。このプロパティは、プロトコルとサーバ名称を含める URL を生成する場合に使用されます。値は次の形式で指定してください。

ホスト名称:ポート番号/パス名

ポート番号およびパス名は省略できます。ポート番号を省略した場合は、デフォルトのポート番号（80）が使用されます。

なお、リバースプロキシなどの中継機器を使用する場合は、中継機器のホスト名とポート番号を指定してください。

すべてを省略した場合は、ポータルサーバのホスト名とポート番号を使用します。
デフォルト値：なし

属性名：

jp.co.hitachi.soft.portal.url.httpsdomain

型：String

説明：HTTPS で通信する際、URL に含まれるホスト名、ポート番号およびパス名を指定します。このプロパティは、プロトコルとサーバ名称を含める URL を生成する場合に使用されます。値は次の形式で指定してください。

ホスト名称:ポート番号/パス名

ポート番号およびパス名は省略できます。ポート番号を省略した場合は、デフォルトのポート番号（443）が使用されます。

なお、リバースプロキシなどの中継機器を使用する場合は、中継機器のホスト名とポート番号を指定してください。

すべてを省略した場合は、ポータルサーバのホスト名とポート番号を使用します。
デフォルト値：なし

属性名：

jp.co.hitachi.soft.portal.transcontextflag

型：Boolean

説明：URL 変換を行うときに、jp.co.hitachi.soft.portal.url.httpdomain プロパティおよび jp.co.hitachi.soft.portal.url.httpsdomain プロパティで指定したパス名でポータルプロジェクト名を置換する場合は true を設定してください。置換せずパス名を追加する場合は false を設定してください。なお、jp.co.hitachi.soft.portal.url.httpsdomain プロパティでパス名の指定を行っていない場合は true を指定しても変換しません。詳細については、「6.8 SSL アクセラレーターまたはリバースプロキシ使用時の設定」を参照してください。

デフォルト値：false

属性名：**transinline.compat**

型：Boolean

説明：jp.co.hitachi.soft.portal.portlet.PortletURI#transInlineURI メソッドについて、プロトコルとサーバ名称を含まない URL を生成します。プロトコルとサーバ名称を含む URL を生成する場合は false を指定してください。true に設定した場合、または未指定の場合、08-03 以前と同じ動作をします。この場合、jp.co.hitachi.soft.portal.portlet.PortletURI#transInlineURI メソッドには、次のプロパティが適用されません。

- jp.co.hitachi.soft.portal.transurlflag
- jp.co.hitachi.soft.portal.url.proxy
- jp.co.hitachi.soft.portal.url.httpdomain
- jp.co.hitachi.soft.portal.url.httpsdomain
- jp.co.hitachi.soft.portal.transcontextflag

デフォルト値：true

(21) レイアウトの設定**属性名：****jp.co.hitachi.soft.portal.layout.outside.padding.without**

型：String

説明：ポートレット間隔（padding）を二重に設定しないで表示させるプロパティ値です。true を指定した場合は、ポートレット間隔（padding）を二重に設定しないで同間隔で表示します。false を設定した場合は、ポートレット間隔（padding）を二重に設定して表示します。このプロパティは、表示形式がタブ形式で、レイアウト形式が行ベース、列ベース、またはユーザ登録形式のどれかの形式の場合に有効になります。それ以外の形式で配置している場合は、このプロパティに true を指定してもポートレット間隔は二重に設定されます。

デフォルト値：true

属性名：**jp.co.hitachi.soft.portal.layout.default.padding.size**

型：int

説明：ポートレット間隔のサイズデフォルト値です。値の範囲は 0 以上です。

デフォルト値：3

属性名：**jp.co.hitachi.soft.portal.layout.default.border.size**

型：int

説明：ポートレットを囲む枠線の太さのデフォルト値です。値の範囲は 0 以上です。

10. 設定ファイルとコマンド

デフォルト値：1

属性名：

jp.co.hitachi.soft.portal.layout.default.border.color

型：String

説明：ポートレットを囲む枠線の色デフォルト値です。値の範囲は #000000 ~ #FFFFFF または HTML4.01 で定義されている red, yellow などの色名です。値の範囲外のプロパティ値が設定された場合は、デフォルト値で表示し、メッセージ KDPF60019-E をログファイルに出力します。

デフォルト値：#CCCCCC

属性名：

jp.co.hitachi.soft.portal.layout.default.active.color

型：String

説明：タブの活性色のデフォルト値です。値の範囲は #000000 ~ #FFFFFF または HTML4.01 で定義されている red, yellow などの色名です。値の範囲外のプロパティ値が設定された場合は、デフォルト値で表示し、メッセージ KDPF60019-E をログファイルに出力します。

デフォルト値：#990000

属性名：

jp.co.hitachi.soft.portal.layout.default.nonactive.color

型：String

説明：タブの非活性色のデフォルト値です。値の範囲は #000000 ~ #FFFFFF または HTML4.01 で定義されている red, yellow などの色名です。値の範囲外のプロパティ値が設定された場合は、デフォルト値で表示し、メッセージ KDPF60019-E をログファイルに出力します。

デフォルト値：#DDDDDD

属性名：

jp.co.hitachi.soft.portal.layout.default.ruler.size

型：int

説明：ルーラー幅のデフォルト値です。値の範囲は 0 以上です。

デフォルト値：2

属性名：

jp.co.hitachi.soft.portal.layout.default.ruler.color

型：String

説明：ルーラー色のデフォルト値です。値の範囲は #000000 ~ #FFFFFF または HTML4.01 で定義されている red, yellow などの色名です。値の範囲外のプロパ

ティ値が設定された場合は、デフォルト値で表示し、メッセージ KDPF60019-E をログファイルに出力します。

デフォルト値：#990000

属性名：

jp.co.hitachi.soft.portal.layout.default.title.color

型：String

説明：タイトルバー、タブの非活性色、およびルーラー色のデフォルト値です。値の範囲は #000000 ~ #FFFFFF または HTML4.01 で定義されている red, yellow などの色名です。値の範囲外のプロパティ値が設定された場合は、デフォルト値で表示し、メッセージ KDPF60019-E をログファイルに出力します。

デフォルト値：#DDDDDD

属性名：

jp.co.hitachi.soft.portal.layout.default.background.color

型：String

説明：背景色のデフォルト値です。値の範囲は #000000 ~ #FFFFFF または HTML4.01 で定義されている red, yellow などの色名です。値の範囲外のプロパティ値が設定された場合は、デフォルト値で表示し、メッセージ KDPF60019-E をログファイルに出力します。

デフォルト値：#FFFFFF

属性名：

jp.co.hitachi.soft.portal.layout.default.maxdisplays

型：int

説明：レイアウトの表示上限数を設定します。値の範囲は 1 ~ 500 です。プロパティが存在しない場合、または値の範囲外のプロパティ値が設定された場合は、デフォルト値（50）が設定されます。

デフォルト値：50

(22) ポートレット並列表示の設定

属性名：

jp.co.hitachi.soft.portal.multiportlet.option

型：String

説明：ポートレット並列機能の使用有無を指定します。値の範囲は true または false です。小文字で入力してください。また true 以外の文字を指定した場合は、指定は false に設定されます。

デフォルト値：false

属性名：

10. 設定ファイルとコマンド

jp.co.hitachi.soft.portal.multiportlet.timeout

型：int

説明：ポートレットコンテンツを取得するまでの監視時間を指定します。単位は秒です。値の範囲は0（監視しない）、または1～86,400です。

デフォルト値：0（監視しない）

属性名：

jp.co.hitachi.soft.portal.multiportlet.services.ThreadPool.init.count

型：int

説明：スレッドプールで確保するスレッドの初期個数です。値の範囲は1～1,000です。

デフォルト値：10

属性名：

jp.co.hitachi.soft.portal.multiportlet.services.ThreadPool.max.count

型：int

説明：スレッドプールで確保するスレッドの最大個数です。値の範囲は1～1,000です。ただし、次の注意点を考慮して設定してください。

• 最大スレッド数設定の注意点

生成できる最大のスレッド数より表示するポートレット数が上回ると、スレッド生成待ちになってしまいます。設定する最大スレッド数は、次に示す範囲で設定してください。

最大スレッド数 ポートレット数 + Cosminexus のスレッド数

最大スレッド数の算出方法については、「6.9.1（2）ポートレット並列表示使用時のスレッド数」に記載している「最大スレッド数の算出方法」の説明を参照してください。

デフォルト値：100

属性名：

jp.co.hitachi.soft.portal.multiportlet.services.ThreadPool.min spare.count

型：int

説明：スレッドプール機能でスレッドを確保する増分個数です。値の範囲は1～1,000です。スレッドを確保するときに指定個数分のスレッドを増加させます。

• スレッドプール内のスレッドの確保

スレッドプール内の空きスレッド数が増分個数未満の場合、最大個数以下の範囲でスレッドを確保します。

デフォルト値：20

(23) パーソナライズ情報保存方法の設定

属性名：

jp.co.hitachi.soft.portal.repository.commit.mode

型：String

説明：パーソナライズ情報がリポジトリに格納されるタイミングを指定します。指定できる値は normal, session または request です。

normal

パーソナライズ情報をログアウトのタイミングで更新します。

session

パーソナライズ情報をログアウトおよびセッションタイムアウトのタイミングで更新します。

パーソナライズ情報をログアウトのタイミングで更新します。

request

パーソナライズ情報をリクエスト単位に更新します。この指定が有効になるパーソナライズ情報を次に示します。

- ユーザがカスタマイズした標準画面レイアウト情報
カスタマイズ Bean (LayoutCustomizeBean) の setContents メソッドによって格納します。
- ユーザがポートレット単位に設定したカスタマイズ情報 (ブックマーク情報など)
ユーザ情報取得 Bean (PortalUserInfoBean) の setCustomizeInfo メソッドによって格納します。

なお、request を指定する場合は、複数のカスタマイズ情報を関連した情報として管理している (リンク先とリンク先のタイトル名称など) 場合、単一のリクエストごとに設定が完了している必要があります。複数のリクエストにわたって一連の情報を設定する場合、request は指定できません。

(例) setCustomizeInfo を複数使用し、複数のリクエストにわたって関連した情報を設定している場合。

デフォルト値：normal

注意事項：

- normal が推奨値になります。
- normal の場合、セッションタイムアウト時にはパーソナライズ情報は更新しません。
- パーソナライズ情報の更新時に、他アプリケーション情報の DB への登録が保留になっていた場合、各アプリケーションの情報も同時に保存されます。
- request を指定すると、パーソナライズ情報を逐次ディレクトリサーバ / DB に書き込みます。このため、利用頻度およびディレクトリサーバ / DB の排他的方式によっては性能が低下する場合があります。書き込みのデータ量は、各ポータル利用者の全カスタマイズ情報のサイズになります。
- request を指定すると、パーソナライズ情報をリクエスト単位にディレクトリサーバ / DB にへ書き込むため、その時点で書き込みエラーが発生する場合があります。エラー時はログにエラーを出力しますが、例外はスローしません。ディレクトリサーバ / DB の障害が発生した場合 (一時的な要因も含む)、リトライ処理は

10. 設定ファイルとコマンド

しません。再度ポータル利用者がカスタマイズ情報を更新する操作をするか、またはログアウトするまで格納処理が延期されます。

- request を指定すると、パーソナライズ情報をリクエスト単位にディレクトリサーバ / DB に書き込みますが、情報が更新されていなければ書き込みません。ログアウト時には session を指定した場合と同様に、カスタマイズ情報を書き込みます。
- リクエスト処理中に障害が発生した場合、書き込まないことがあります。

属性名：

jp.co.hitachi.soft.portal.repository.customize.commitdata

型：Boolean

説明：レイアウトカスタマイズ機能（レイアウト変更画面）の設定完了時でのパーソナライズ情報のディレクトリサーバ / DB への書き込みを制御します。

true：設定完了時にパーソナライズ情報をディレクトリサーバ / DB に書き込みます。

false：設定完了時にパーソナライズ情報をディレクトリサーバ / DB に書き込みません。

パーソナライズ情報を書き込むタイミングについてはプロパティ

(jp.co.hitachi.soft.portal.repository.commit.mode) を参照します。

デフォルト値：true

(24) リポジトリの設定

属性名：

jp.co.hitachi.soft.portal.repository.db.autoadd

型：Boolean

説明：ユーザのパーソナライズ情報を格納したテーブルに、ログインしたポータル利用者のレコードがない場合に、そのポータル利用者のレコードを自動的に追加するかどうかを指定します。

true：自動的にレコードを追加します。

false：自動的にレコードを追加しません。

このプロパティは、次の条件をすべて満たす場合だけ利用できます。

1. Portal Manager のメニュー部から [リポジトリの設定] - [マッピング情報] - [ユーザ情報] で表示される画面の「パーソナライズ情報を表すキー」の接続先が DB の構成情報を指定している場合
2. 1. で指定した構成情報のテーブルが、ユーザ ID を示す項目以外、NULL を格納できる場合

各イベントで発行する SQL 情報

uCosminexus Portal Framework では、次の場合に、記載した SQL で DB にアクセスします。

- ユーザがログインした際に、ユーザのレコードが、指定した構成情報に対応

するテーブル上に存在しなかった場合

```
insert into HPTLUSER (USERID) values(?)
```

HPTLUSER：指定した構成情報の「テーブル名」です。

USERID：指定した構成情報の「テーブルキーカラム名」です。

追加される値は、ユーザ情報リポジトリの検索条件の設定

(jp.co.hitachi.soft.portal.services.repository.uservalue)で指定した値です。

属性名：

jp.co.hitachi.soft.portal.services.repository.log.access

型：Boolean

説明：保守ログにリポジトリへのアクセス情報（開始，終了およびアクセス内容）を出力するか設定します。trueを設定した場合，保守ログにリポジトリへのアクセス情報を出力します。trueに設定した場合，リポジトリへのアクセスのたびにログが出力されますので，保守ログファイルの数および一つの保守ログファイルの最大サイズを増やしてください。

デフォルト値：false

(25)ナビゲーションメニューの設定

属性名：

jp.co.hitachi.soft.portal.portal.controls.NavigationPanedPortletControl.NavigationPortletName

型：String

説明：ナビゲーションメニューに表示するポートレットを指定します。このプロパティを設定すると，管理者用レイアウトカスタマイズ機能のレイアウト編集画面にナビゲーションメニューの項目が表示されます。ナビゲーションメニューを使用しない場合は，プロパティをコメントアウトするか，または値を設定しないでください。

デフォルト値：なし

(26)言語およびタイムゾーンの設定

属性名：

jp.co.hitachi.soft.portal.i18n.supports

型：String

説明：サポートする言語を RFC1766 に従って次の形式で指定します。

```
{言語コード} [-{国コード}] [-{バリエーション}] ]
```

なお，国コードとバリエーションは省略できます。また，複数指定する場合はコンマ(,)で区切って指定します。

10. 設定ファイルとコマンド

デフォルト値 : ja,en

属性名 :

jp.co.hitachi.soft.portal.i18n.default

型 : String

説明 : デフォルトの言語を RFC1766 に従って次の形式で指定します。

{言語コード} [-{国コード}] [-{バリエント}]]

なお、国コードとバリエントは省略できます。

デフォルト値 : en

属性名 :

jp.co.hitachi.soft.portal.i18n.timezone.supports

型 : Boolean

説明 : タイムゾーンをサポートするかどうかを指定します。指定できる値は true または false です。false を指定した場合、タイムゾーンを取得するユーザロケール情報取得 API では、デフォルト値が返却されます。

デフォルト値 : true

属性名 :

jp.co.hitachi.soft.portal.i18n.timezone.default

型 : String

説明 : デフォルトのタイムゾーンを指定します。指定できる値はカスタムタイムゾーン ID です。

デフォルト値 : GMT+09:00

属性名 :

jp.co.hitachi.soft.portal.i18n.stringresource.appkey

型 : String

説明 : 起動時に読み込むストリングリソースのアプリケーションキー名称を指定します。複数指定する場合はコンマ (,) で区切って指定してください。指定しないストリングリソースは初回使用時に読み込まれます。

デフォルト値 : hptl_customizer,hptl_common

(27) クライアントサイドデータ通信機能を使用するための設定

属性名 :

jp.co.hitachi.soft.portal.csdc.datatype.userData

型 : Boolean

説明 : クライアントサイドデータ通信機能を使用する場合のデータ転送方式を指定

します。クライアントサイドデータ通信機能のデータ格納方式に従って、次の値を設定します。

true : userData および DOM ストレージとポータルクリップボードウィンドウを併用する場合

false : ポータルクリップボードウィンドウだけ使用する場合

デフォルト値 : false

属性名 :

jp.co.hitachi.soft.portal.csdc.datasize.threshold

型 : int

説明 : クライアントサイドデータ通信機能のデータ転送方式で userData とポータルクリップボードウィンドウを併用する設定の場合に、userData からポータルクリップボードウィンドウに切り替えるデータサイズをバイト数で指定します。クライアントサイドデータ通信機能でデータ転送するとき、userData に格納できるデータサイズを超えるデータを転送する場合は、ポータルクリップボードウィンドウを使用して、データ転送を行います。値の範囲は 1 ~ 2,147,483,647 です。値の範囲外のプロパティ値が設定された場合は、デフォルト値が設定されます。

デフォルト値 : 32,000 (バイト)

属性名 :

jp.co.hitachi.soft.portal.csdc.datatype.userData.ext

型 : String

説明 : クライアントサイドデータ通信を行う際のデータ保管領域の拡張設定を行います。

none : userData だけを使用する。

usedomstorage : userData と DOM ストレージを併用する。

クライアントサイドデータ通信を行う際のデータ転送に userData を使用しない場合 (jp.co.hitachi.soft.portal.csdc.datatype.userData=false の場合)、本プロパティの指定は無効となります。

デフォルト値 : none

属性名 :

jp.co.hitachi.soft.portal.csdc.datatype.userData.errorhandle

型 : Boolean

説明 : クライアントサイドデータ通信を行う際のデータ転送方式で userData を使用する場合、userData または DOM ストレージへのデータ格納 (コピー処理) でエラーが発生したときに、クリップボード方式に変更するかどうかを設定します。

false : 変更しない (エラーメッセージを表示し処理を中止します)

true : 変更する (クリップボード方式に切り替え処理を続行します)

クライアントサイドデータ通信を行う際のデータ転送に userData を使用しない場合 (jp.co.hitachi.soft.portal.csdc.datatype.userData=false の場合)、本プロパティの指

10. 設定ファイルとコマンド

定は無効となります。

デフォルト値：false

(28) Collaboration - Online Community Management 連携機能の設定

属性名：

jp.co.hitachi.soft.portal.collaboration.layout

型：String

説明：Collaboration - Online Community Management で作成するレイアウトに表示するポートレットのポートレット名を指定します。複数のポートレット名を指定する場合は、コンマ(,)で区切って指定してください。複数指定されたポートレットを、上から順番に1列に並べて表示します。

デフォルト値：informationview

(29) 強制表示の設定

属性名：

jp.co.hitachi.soft.portal.portlets.forceportlet.supports

型：Boolean

説明：強制表示ポートレット、強制表示タブおよび強制表示レイアウトを使用する場合は、trueを設定します。falseを設定した場合、強制表示ポートレット、強制タブおよび強制表示レイアウトは使用できません。

デフォルト値：false

(30) シリアライズ上限値設定

属性名：

jp.co.hitachi.soft.portal.directaccess.postdata.size

型：int

説明：ポートレットのURLを直接開いた時に引き継ぐPOSTデータの上限サイズを設定します。単位はバイトで、値の範囲は0～2,097,152です。プロパティが存在しない場合、または値の範囲外のプロパティ値が設定された場合は、デフォルト値が設定されます。

デフォルト値：2,097,152 (2MB)

(31) ポートレット表示属性管理ファイルの設定

属性名：

jp.co.hitachi.soft.portal.services.portletarrange.filename

型：String

説明：共通情報用DBを使用しない場合に、ポートレット表示属性管理ファイルへのパスを指定します。

デフォルト値：`${config.dir}/portletarrange.xml`

(32) コミュニティ情報キャッシュ数の設定

属性名：

jp.co.hitachi.soft.portal.common.cache.LRUHashtable.EmPowermentDBModule.MaxCacheCount

型：int

説明：コミュニティ情報のキャッシュの最大数を指定します。値の範囲は 1,000 ~ 100,000 です。リポジトリから取得したコミュニティ情報の数が設定値を超えた場合は、最も長い間、使われていないコミュニティ情報をキャッシュから削除します。プロパティの設定が存在しない場合はデフォルト値が設定されます。なお、本プロパティを有効にするためにはコミュニティ情報に関する情報を起動時にキャッシュしない設定

(`jp.co.hitachi.soft.portal.common.cache.LoadInfoForCommunity.Enabled=false`) を行っておく必要があります。

デフォルト値：10,000

属性名：

jp.co.hitachi.soft.portal.common.cache.LRUHashtable.EmPowermentDBModule.layout.MaxCacheCount

型：int

説明：レイアウト情報のキャッシュの最大数を指定します。値の範囲は 1,000 ~ 100,000 です。リポジトリから取得したレイアウト情報の数が設定値を超えた場合は、最も長い間、使われていないレイアウト情報をキャッシュから削除します。プロパティの設定が存在しない場合はデフォルト値が設定されます。なお、本プロパティを有効にするためにはコミュニティ情報に関する情報を起動時にキャッシュしない設定

(`jp.co.hitachi.soft.portal.common.cache.LoadInfoForCommunity.Enabled=false`) を行っておく必要があります。

デフォルト値：10,000

属性名：

jp.co.hitachi.soft.portal.common.cache.LRUHashtable.JetspeedDiskCache.MaxCacheCount

型：int

説明：ディスクリソース (PSML 情報, ファイル等) のキャッシュの最大数を指定します。値の範囲は 1,000 ~ 100,000 です。ディスクから取得したリソースの数が設定値を超えた場合は、最も長い間、使われていないディスクリソースをキャッシュから削除します。プロパティの設定が存在しない場合はデフォルト値が設定されます。なお、本プロパティを有効にするためにはコミュニティ情報に関する情報を起動時にキャッシュしない設定

10. 設定ファイルとコマンド

(`jp.co.hitachi.soft.portal.common.cache.LoadInfoForCommunity.Enabled=false`)
を行っておく必要があります。
デフォルト値：10,000

属性名：

jp.co.hitachi.soft.portal.common.cache.LoadInfoForCommunity.Enabled

型：int

説明：コミュニティに関する情報をサーバ起動時にキャッシュするか設定します。

true：起動時にキャッシュを行います。

false：起動時にキャッシュしません。

デフォルト値：true

(33) スマートナビゲーションの設定

属性名：

jp.co.hitachi.soft.portal.api.webapi.define.file

型：String

説明：WebAPI 定義ファイルのパスを設定します。

デフォルト値：`${config.dir}/webapi.xml`

属性名：

jp.co.hitachi.soft.portal.portlets.filter.definition

型：String

説明：ポートレットフィルタ定義ファイルのパスを設定します。

デフォルト値：`${config.dir}/portlet_filter.xml`

属性名：

jp.co.hitachi.soft.portal.portlets.filter.enabled

型：Boolean

説明：ポートレットフィルタの使用有無を設定します。スマートナビゲーションを使用する場合は true に設定してください。

true：ポートレットフィルタを有効にします。

false：ポートレットフィルタを無効にします。

デフォルト値：false

属性名：

jp.co.hitachi.soft.portal.xml.api.datatypedef

型：String

説明：データ型定義ファイルのパスを設定します。

デフォルト値：`${config.dir}/data_put_definition.xml`

(34) レスポンスバッファサイズの設定

属性名：

`jp.co.hitachi.soft.portal.services.JspService.buffer.size`

型：int

説明：ポータルがクライアントに対するレスポンスを作成する際の、バッファサイズをバイト数で指定します。値の範囲は 51,200 ~ 2,000,000 です。このバッファサイズはリクエストを実行するスレッドごとに確保され、確保後は解放されない領域であるため、スレッド数とメモリ使用量を考慮してサイズを決める必要があります。デフォルト値：200,000 (バイト)

(35) Web コンテンツポートレットパラメタ値保存ファイルの格納場所

属性名：

`jp.co.hitachi.soft.portal.portal.portlets.component.parameterfilename`

型：String

説明：Web コンテンツポートレットパラメタ値保存ファイルの格納場所を指定します。値はパス形式で指定してください。

デフォルト値：`${config.dir}/componentParameters.xml`

(36) 運用管理ポートレットの設定

属性名：

`jp.co.hitachi.soft.portal.services.empowerment.removedeleteportlet`

型：Boolean

説明：運用管理ポートレットのポートレットタブで OK ボタンを押下したときに、削除された標準 API ポートレット（標準 API ポートレットを停止している場合）を管理・利用するポートレットから削除するかどうかを指定します。

true：削除する。

false：削除しない（削除する場合は、運用管理者が明示的に管理・利用の両方のチェックを外すか、削除するポートレットを取り消します）。

デフォルト値：true

10.1.2 PortalSetup.properties の詳細

Portal Manager をセットアップする PortalSetup.properties について説明します。

PortalSetup.properties の格納ディレクトリを次に示します。

格納ディレクトリ

```
{Cosminexus インストールディレクトリ
}¥CC¥web¥containers¥portaladmin¥webapps¥PortalSetup¥WEB-INF¥con
```

10. 設定ファイルとコマンド

f

PortalSetup.properties で設定する項目について、次の表に示します。

表 10-3 PortalSetup.properties の属性一覧

属性名	設定内容
AD_WKDIR	ポータルに登録した全ポートレットの作業ディレクトリを指定
AD_TRSDIR	ポータルに登録した全ポートレットのトレースファイルの格納先ディレクトリを指定
ADPORTLETS_HOME	ポータルに登録された全ポートレットの格納先ディレクトリを指定
AD_IP	Portal Manager を起動できるユーザ（システム管理者）の IP アドレスを設定
AD_SEP	パスを指定する際の、ディレクトリを区切る記号を指定

各属性の詳細を次に説明します。

属性名：

AD_WKDIR

型：String

説明：ポータルに登録した全ポートレットの作業ディレクトリを指定します。この属性を変更する必要はありません。

デフォルト値：wk_adportlets

属性名：

AD_TRSDIR

型：String

説明：ポータルに登録した全ポートレットのトレースファイルの格納先ディレクトリを指定します。この属性を変更する必要はありません。

デフォルト値：trs_adportlets

属性名：

ADPORTLETS_HOME

型：String

説明：ポータルに登録された全ポートレットの格納先ディレクトリを指定します。この属性を変更する必要はありません。

デフォルト値：adportlets

属性名：

AD_IP

型：String

説明：Portal Manager を起動できるユーザ（システム管理者）の IP アドレスを設

定します。複数の PC から Portal Manager を使用したい場合は、IP アドレスをコンマ(,)で区切って指定してください。

デフォルト値：127.0.0.1

属性名：

AD_SEP

型：String

説明：パスを指定する際の、ディレクトリを区切る記号を指定します。

デフォルト値：/

10.1.3 PortalTools.properties の詳細

uCosminexus Portal Framework が提供するコマンドのログ出力の動作およびコマンドの動作を設定する PortalTools.properties について説明します。

PortalTools.properties は {設定ファイル格納ディレクトリ} に格納されています。デフォルトの格納ディレクトリは次のとおりです。

格納ディレクトリ

{uCosminexus Portal Framework インストールディレクトリ}¥conf

PortalTools.properties で設定する項目について、次の表に示します。

表 10-4 PortalTools.properties の属性一覧

属性名	設定内容
jp.co.hitachi.soft.portal.util.log.Ident	uCosminexus Portal Framework が提供するコマンドがイベントログを出力するときに、識別子となる文字列を指定
jp.co.hitachi.soft.portal.util.log.TraceFile	uCosminexus Portal Framework が提供するコマンドのログ出力先ディレクトリのフルパスおよびファイル名のプレフィックスを指定
jp.co.hitachi.soft.portal.util.log.TraceLevel	uCosminexus Portal Framework が提供するコマンドのログ出力レベルを指定
jp.co.hitachi.soft.portal.util.log.MessageLevel	uCosminexus Portal Framework が提供するコマンドのメッセージ出力レベルを指定
jp.co.hitachi.soft.portal.util.log.FileNum	uCosminexus Portal Framework が提供するコマンドのログファイルの数を指定
jp.co.hitachi.soft.portal.util.log.FileSize	uCosminexus Portal Framework が提供するコマンドが出力するログファイル1個当たりの最大サイズを指定
jp.co.hitachi.soft.portal.tools.commandarguments	uCosminexus Portal Framework が提供するコマンドで、Portal Manager のセットアップおよび起動に関する動作を指定

各属性の詳細を次に説明します。

属性名：

jp.co.hitachi.soft.portal.util.log.Ident

型：String

説明：uCosminexus Portal Framework のログを出力するときに、イベントログのアプリケーション識別子となる文字列を指定します。この設定は変更しないでください。

デフォルト値："Portal Framework"

属性名：

jp.co.hitachi.soft.portal.util.log.TraceFile

型：String

説明：uCosminexus Portal Framework が提供するコマンドのログ出力先ディレクトリのフルパスおよびファイル名のプレフィックスを指定します。ただし、ほかのログのファイル名（ログ出力先のフルパス + ファイル名のプレフィックス）と同じ値は指定できません。同じ値を指定した場合は、デフォルト値を使用します。

次の場合と同じ値と判断されます。

- 二つの値が一致している場合（大文字、小文字は区別しません）
- 二つの値のパスが一致していて、プレフィックスの最後に指定した数字だけが異なる場合

不正値（作成できないプレフィックスや相対パス）を指定した場合は、ログ出力されません。

なお、値に null は指定できません。また、値はパス形式で指定してください。

デフォルト値：\${portal.install.dir}/log/tools

属性名：

jp.co.hitachi.soft.portal.util.log.TraceLevel

型：int

説明：uCosminexus Portal Framework が提供するコマンドのログ出力レベルを指定します。ここで指定したレベル以下のトレースログが出力されます。指定できる値は、-1 または 0 ~ 30 の整数です。

デフォルト値：10

属性名：

jp.co.hitachi.soft.portal.util.log.MessageLevel

型：String

説明：uCosminexus Portal Framework が提供するコマンドのメッセージ出力レベルを指定します。指定できる値は、「LOG_ERR」、「LOG_WARNING」、または「LOG_INFO」です。

デフォルト値 : LOG_ERR

属性名 :

jp.co.hitachi.soft.portal.util.log.FileNum

型 : int

説明 : uCosminexus Portal Framework が提供するコマンドのログファイルの数を指定します。指定できる値は 1 ~ 65,535 です。

デフォルト値 : 4

属性名 :

jp.co.hitachi.soft.portal.util.log.FileSize

型 : int

説明 : uCosminexus Portal Framework が提供するコマンドが出力するログファイル 1 個当たりの最大サイズを指定します。指定できる値は、4,096 ~ 2,147,483,647 バイトです。

デフォルト値 : 1,048,576 (1MB)

属性名 :

jp.co.hitachi.soft.portal.tools.commandarguments

型 : String

説明 : uCosminexus Portal Framework が提供するコマンドで、Portal Manager のセットアップおよび起動で J2EE サーバアプリケーションを操作するコマンドに追加で指定する引数を指定します。ネーミングサーバを指定する場合は「-nameserver *corbaname::localhost:900*」を指定します。

デフォルト値 : なし

10.1.4 PortletApp.properties の詳細

ポートレットコンテナで使用するコンテナ保守ログを設定する PortletApp.properties について説明します。

このプロパティファイルが読み込めない場合は、デフォルト値を設定してログ出力機能を初期化します。また、何からの原因でデフォルト値がシステムから参照できなかった場合は、標準出力にエラー情報を出力してログ機能を停止します。

PortletApp.properties は { 設定ファイル格納ディレクトリ } に格納されています。デフォルトの格納ディレクトリは次のとおりです。

格納ディレクトリ

{uCosminexus Portal Framework インストールディレクトリ }¥conf

PortletApp.properties で設定する項目について、次の表に示します。

表 10-5 PortletApp.properties の属性一覧

種類	属性	設定内容
インストールディレクトリの設定	jp.co.hitachi.soft.portal.installDir	uCosminexus Portal Framework のインストール時に、uCosminexus Portal Framework のインストールディレクトリ情報を設定
コンテナ保守ログの設定	jp.co.hitachi.soft.portal.util.log.container.TraceLevel	コンテナ保守ログのログ出力レベルを指定
	jp.co.hitachi.soft.portal.util.log.container.TraceFile	コンテナ保守ログのログ出力先ディレクトリのフルパスおよびファイル名のプレフィックスを指定
	jp.co.hitachi.soft.portal.util.log.container.FileNum	コンテナ保守ログファイルの数を指定
	jp.co.hitachi.soft.portal.util.log.container.FileSize	一つのコンテナ保守ログファイルの最大サイズを設定
ポータルコンテキストの設定	jp.co.hitachi.soft.portal.supported.portletmode	ポータルがサポートしているモードを設定
	jp.co.hitachi.soft.portal.supported.windowstate	ポータルがサポートしているウィンドウ状態を設定
言語の設定	jp.co.hitachi.soft.portal.i18n.default	標準 API ポートレットのデフォルトの言語を指定

各属性の詳細を次に説明します。

属性名：

jp.co.hitachi.soft.portal.installDir

型：String

説明：uCosminexus Portal Framework のインストール時の、uCosminexus Portal Framework インストールディレクトリ情報です。ポートレットの起動時に参照します。値に null は指定できません。また、値はパス形式で指定してください。

なお、この値は必ず指定してください。

属性名：

jp.co.hitachi.soft.portal.util.log.container.TraceLevel

型：int

説明：コンテナ保守ログのログ出力レベルです。指定したレベル以下でいちばん高いレベルのトレースログが出力されます。値の範囲は -1 および 0 ~ 1,000 の整数です。

int 型以外の値を指定した場合は、デフォルト値を使用します。また、範囲外の値を指定した場合は、-1 が値となりログ出力されません。

デフォルト値：10

属性名：**jp.co.hitachi.soft.portal.util.log.container.TraceFile**

型：int

説明：コンテナ保守ログのログ出力先ディレクトリのフルパスおよびファイル名のプレフィックスを指定します。ただし、ほかのログのファイル名（ログ出力先のフルパス+ファイル名のプレフィックス）と同じ値は指定できません。同じ値を指定した場合は、デフォルト値が使用されます。

次の場合に同じ値と判断されます。

- 二つの値が一致している場合（大文字、小文字は区別しません）
- 二つの値のパスが一致していて、プレフィックスの最後に指定した数字だけが異なる場合

不正値（作成できないプレフィックスや相対パス）を指定した場合は、ログ出力されません。

なお、値に null は指定できません。また、値はパス形式で指定してください。

デフォルト値：\${portal.install.dir}/log/portletContainer

属性名：**jp.co.hitachi.soft.portal.util.log.container.FileNum**

型：int

説明：コンテナ保守ログファイルの数です。値の範囲は 1 ~ 16 です。

int 型以外の値を指定した場合は、デフォルト値が使用されます。

範囲外の値を指定した場合は、ログ出力されません。

デフォルト値：8

属性名：**jp.co.hitachi.soft.portal.util.log.container.FileSize**

型：int

説明：一つのコンテナ保守ログファイルの最大サイズを設定します。単位はバイトで、値の範囲は 4,096 ~ 2,147,483,647 です。

int 型以外の値および範囲外の値を設定した場合は、デフォルト値が使用されます。

デフォルト値：10,485,760 (10MB)

属性名：**jp.co.hitachi.soft.portal.supported.portletmode**

型：String

説明：ポータルがサポートしているモードです。コンマ区切りで複数指定できます。複数指定した場合は、それぞれ別項目として登録します。指定できる値は edit , view または help です（大文字、小文字を区別します）

edit , view または help 以外の値を指定した場合は無視されます。

デフォルト値：edit,view,help

10. 設定ファイルとコマンド

属性名 :

jp.co.hitachi.soft.portal.supported.windowstate

型 : String

説明 : ポータルがサポートしているウィンドウ状態です。コンマ区切りで複数指定できます。指定できる値は maximized , minimized , normal , iframe または newwindow です (大文字, 小文字を区別します)。

mazimized , minimized , normal , iframe または newwindow 以外の値を指定した場合は無視されます。

デフォルト値 : maximized,minimized,normal,iframe,newwindow

属性名 :

jp.co.hitachi.soft.portal.i18n.default

型 : String

説明 : 標準 API ポートレットのデフォルトの言語を RFC1766 に従って次の形式で指定します。

{言語コード} [-{国コード}] [-{バリエーション}]]

なお, 国コードとバリエーションは省略できます。

デフォルト値 : en

10.1.5 dataload_tool.properties の詳細

共通情報用 DB を初期セットアップするときに設定する dataload_tool.properties について説明します。dataload_tool.properties は次のディレクトリに格納されています。

格納ディレクトリ

```
{uCosminexus Portal Framework インストールディレクトリ}
¥samples¥config¥empowermentdb
```

dataload_tool.properties で設定する項目について, 次の表に示します。

表 10-6 dataload_tool.properties の属性一覧

属性名	設定内容
empowermentdb.add.init.tool.driver	JDBC ドライバの完全修飾名
empowermentdb.add.init.tool.jdbcurl	JDBC URL
empowermentdb.add.init.tool.portal_group.filename	ポータル管理グループテーブルに設定する内容を記述した初期データファイルの名称
empowermentdb.add.init.tool.portal_layout.filename	レイアウトテーブルに設定する内容を記述した初期データファイルの名称
empowermentdb.add.init.tool.portal_portlet.filename	ポートレットテーブルに設定する内容を記述した初期データファイルの名称

属性名	設定内容
empowermentdb.add.init.tool.filecontent.filename	PSML 情報テーブルに設定する内容を記述した初期データファイルの名称
empowermentdb.add.init.tool.encoding.file	初期データファイルのエンコード
empowermentdb.add.init.tool.encoding.str	ファイルから読み込んだ文字列をバイト配列化するときのエンコード
empowermentdb.add.init.tool.encoding.db	バイト配列から DB に入力する文字列を作成するときのエンコード
empowermentdb.add.init.tool.portal_group.insert.sql	ポータル管理グループテーブルに、ポータル管理グループを追加するための SQL 文
empowermentdb.add.init.tool.portal_group.datatypes	ポータル管理グループテーブルに、ポータル管理グループを追加する際の型の定義
empowermentdb.add.init.tool.portal_layout.insert.sql	レイアウトテーブルに、レイアウトを追加するための SQL 文
empowermentdb.add.init.tool.portal_layout.datatypes	レイアウトテーブルに、レイアウトを追加する際の型の定義
empowermentdb.add.init.tool.portal_portlet.insert.sql	ポータルレットテーブルに、ポータルレットを追加するための SQL 文
empowermentdb.add.init.tool.portal_portlet.datatypes	ポータルレットテーブルに、ポータルレットを追加する際の型の定義
empowermentdb.add.init.tool.filecontent.insert.sql	PSML 情報テーブルに、標準画面レイアウト情報を追加するための SQL 文
empowermentdb.add.init.tool.filecontent.datatypes	PSML 情報テーブルに、標準画面レイアウト情報を追加する際の型の定義
empowermentdb.add.init.tool.commit.count	自動コミットするレコード数の値

各属性の詳細を次に説明します。

属性名：

empowermentdb.add.init.tool.driver

型：String

説明：JDBC ドライバの完全修飾名です。

属性名：

empowermentdb.add.init.tool.jdbcurl

型：String

説明：JDBC URL です。記述は各ドライバに従ってください。

属性名：

empowermentdb.add.init.tool.portal_group.filename

10. 設定ファイルとコマンド

型：String

説明：ポータル管理グループテーブルに設定する内容を記述した初期データファイルの名称です。

デフォルト値：input_group.csv

属性名：

empowermentdb.add.init.tool.portal_layout.filename

型：String

説明：レイアウトテーブルに設定する内容を記述した初期データファイルの名称です。

デフォルト値：input_layout.csv

属性名：

empowermentdb.add.init.tool.portal_portlet.filename

型：String

説明：ポートレットテーブルに設定する内容を記述した初期データファイルの名称です。

デフォルト値：input_portlet.csv

属性名：

empowermentdb.add.init.tool.filecontent.filename

型：String

説明：PSML 情報テーブルに設定する内容を記述した初期データファイルの名称です。

デフォルト値：filecontent.csv

属性名：

empowermentdb.add.init.tool.encoding.file

型：String

説明：初期データファイルのエンコードです。

デフォルト値：UTF-8

属性名：

empowermentdb.add.init.tool.encoding.str

型：String

説明：ファイルから読み込んだ文字列をバイト配列化するときのエンコードです。

デフォルト値：Windows-31J

属性名：

empowermentdb.add.init.tool.encoding.db

型 : String

説明 : バイト配列から DB に入力する文字列を作成するときのエンコードです。DB の文字コードと一致させてください。

デフォルト値 : Windows-31J

属性名 :

empowermentdb.add.init.tool.portal_group.insert.sql

型 : String

説明 : ポータル管理グループテーブルに , ポータル管理グループを追加するための SQL 文です。

属性名 :

empowermentdb.add.init.tool.portal_group.datatypes

型 : String

説明 : ポータル管理グループテーブルに , ポータル管理グループを追加する際の型の定義です。

デフォルト値 :

string,string,string,string,string,bin_load,bin_load,bin_load,string,string

属性名 :

empowermentdb.add.init.tool.portal_layout.insert.sql

型 : String

説明 : レイアウトテーブルに , レイアウトを追加するための SQL 文です。

属性名 :

empowermentdb.add.init.tool.portal_layout.datatypes

型 : String

説明 : レイアウトテーブルに , レイアウトを追加する際の型の定義です。

デフォルト値 :

string,string,string,string,string,string,string,string,bin_load,bin_load,string,string,string

属性名 :

empowermentdb.add.init.tool.portal_portlet.insert.sql

型 : String

説明 : ポートレットテーブルに , ポートレットを追加するための SQL 文です。

属性名 :

empowermentdb.add.init.tool.portal_portlet.datatypes

型 : String

説明 : ポートレットテーブルに , ポートレットを追加する際の型の定義です。

10. 設定ファイルとコマンド

デフォルト値 :

string,string,string,string,string,string,string,string,bin_load,bin_load,string,string,string

属性名 :

empowermentdb.add.init.tool.filecontent.insert.sql

型 : String

説明 : PSML 情報テーブルに , 標準画面レイアウト情報を追加するための SQL 文です。

属性名 :

empowermentdb.add.init.tool.filecontent.datatypes

型 : String

説明 : PSML 情報テーブルに , 標準画面レイアウト情報を追加する際の型の定義です。

デフォルト値 : string,bin_load,string,string

属性名 :

empowermentdb.add.init.tool.commit.count

型 : int

説明 : 自動コミットするレコード数の値です。更新処理をしたレコード数がこの数に達した場合 , そこまでの更新処理をコミットします。値の範囲は , 1 ~ 100,000,000 です。

デフォルト値 : 1,000

10.2 設定ファイル

設定ファイルのパラメタを説明します。カスタマイズなどでファイルの設定が必要な場合にお読みください。

設定ファイルは {設定ファイル格納ディレクトリ} に格納されています。デフォルトの格納ディレクトリは次のとおりです。

格納ディレクトリ

```
{uCosminexus Portal Framework インストールディレクトリ }¥conf
```

マニュアルで説明する設定ファイルを次に示します。

- ポートレット定義ファイル (jetspeed-config.jcfg)
ポートレットの情報を設定するファイルです。ポートレットの登録の設定、Web ポートレットの設定、Multi Web Portlet のフォーム認証の設定、および運用管理ポートレットの登録ができます。このファイルのほとんどの設定項目には、Portal Manager で設定した内容が書き込まれます。
- リポジトリファイル (Repository.xml)
接続先リポジトリの情報や、ユーザ情報の取得元などを設定するファイルです。このファイルには、Portal Manager で設定した内容が書き込まれます。なお、Portal Manager で設定できない項目は、リポジトリファイル (Repository.xml) を直接編集してください。
- クライアント情報定義ファイル (UserAgentType.xml)
クライアント種別の判定方法を記述します。
- フォーム認証定義ファイル (formbase-auth.cfg)
フォーム認証での認証ページの情報を登録します。この定義ファイルは、Web App Portlet でシングルサインオン機能を利用する場合に設定する必要があります。
- コントローラ定義ファイル (controllers.xml)
レイアウト形式について設定するファイルです。コントローラ定義ファイルには、Portal Manager を使用してレイアウト基本設定およびレイアウトパターンの設定をした際の設定内容が書き込まれます。

各設定ファイルの設定項目を斜体で示します。斜体の部分だけを使用している環境に応じて設定してください。

! 注意事項

設定ファイルの文字コードを UTF-8 にして保存する場合は、「BOM」と呼ばれる制御コードが付かないエディタを使用してください。

10.2.1 ポートレット定義ファイル (jetspeed-config.jcfg)

uCosminexus Portal Framework で使用するポートレットの情報を設定するファイルです。ポートレットの登録の設定と、Web ポートレットの設定、および Multi Web Portlet のフォーム認証が設定できます。また、運用管理ポートレットの登録ができます。

(1) ポートレットの登録の設定

ポートレット定義ファイルに、ポートレットを登録するために必要な設定項目を定義します。Portal Manager を使用してポートレットを登録した際の設定内容が書き込まれるため、ポートレット定義ファイルを直接編集して定義する必要はありません。Portal Manager を使用したポートレットの登録方法については、「7. ポートレットの登録」を参照してください。

ポートレットの登録に関する設定の、ポートレット定義ファイルでの記述形式を次に示します。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8" ?>
<!-- ===== -->
<!-- BEGIN Portlet Entries -->
<!-- ===== -->
<portlet-entry type="ref" parent="adaptor" name="name">
  <url>path</url>
  <meta-info>
    <title lang="lang">title</title>
    <description lang="lang">description</description>
    <windowtitle lang="lang">windowtitle</windowtitle>
  </meta-info>
  <parameter name="user-defined-name" value="user-defined-value" />
  <parameter name="dont_remove_head" value="dont_remove_head" />
  <parameter name="dont_remove_applet" value="dont_remove_applet" />
  >
  <parameter name="dont_remove_object" value="dont_remove_object" />
  >
  <parameter name="dont_remove_script" value="dont_remove_script" />
  >
  <parameter name="dont_remove_onsomething"
value="dont_remove_onsomething" />
  <parameter name="Cache-Enable" value="Cache-Enable" />
  <parameter name="filter_type" value="filter_type" />
  <parameter name="filter_params" value="filter_params" />
  <parameter name="NameSpace-Resolution"
value="NameSpace-Resolution" />
  <parameter name="Inline-Object-Fetching"
value="Inline-Object-Fetching" />
  <parameter name="hptl.short-title" value="hptl.short-title" />
  <parameter name="hptl.keywords" value="hptl.keywords" />
  <parameter name="hptl.help.url" value="hptl.help.url" />
  <parameter name="hptl.EditMode" value="hptl.EditMode" />
  <parameter name="hptl.MinimizeMode" value="hptl.MinimizeMode" />
  <parameter name="hptl.CloseMode" value="hptl.CloseMode" />
  <parameter name="hptl.MaximizeMode" value="hptl.MaximizeMode" />
  <parameter name="hptl.NewWindowMode" value="hptl.NewWindowMode" />
  >
  <parameter name="hptl.Size" value="hptl.Size" />
  <parameter name="hptl.MultiJSP.tags.watch" value="timeout" />
  <parameter name="hptl.portlet.nonresponse.timeout.trytimes"
```

```

value="hptl.portlet.nonresponse.timeout.trytimes" />
  <parameter name="hptl.MultiJSP.tags.iframe0100compat"
value="hptl.MultiJSP.tags.iframe" />
  <parameter name="hptl.module.action" value="hptl.module.action" /
>
  <parameter name="hptl.navigationbar.support"
value="hptl.navigationbar.support" />
  <parameter name="hptl.navigationbar.version"
value="hptl.navigationbar.version" />
  <parameter name="hptl.navigationbar.alltabflag"
value="hptl.navigationbar.alltabflag" />
  <parameter name="hptl.portlet.defaulticon"
value="hptl.portlet.defaulticon" />
  <parameter name="hptl.portlets.layout.hide"
value="hptl.portlets.layout.hide" />
  <parameter name="hptl.portlets.layout.not.modified"
value="hptl.portlets.layout.not.modified" />
</portlet-entry>
<!-- =====
-->
<!--                               END Portlet Entries                               -->
<!-- =====
-->

```

設定項目と内容を次の表に示します。

表 10-7 ポートレット登録の設定内容

設定項目	デフォルト値	設定内容
<i>adaptor</i>	-	ポートレットの種類を指定します。必須です。 <ul style="list-style-type: none"> 日立 API ポートレット: "MultiJSP" File ポートレット: "MultiFile" Multi Web Portlet: "MultiWeb" Web App Portlet: "WebApp" Web Page Portlet: "WebPage" 分散ポートレット: "DistributedWebApp" Web コンテンツポートレット: "hptlComponent"
<i>name</i>	-	ポートレット名を指定します。ポートレットの種類 (adaptor) は使用できません。ほかのポートレットと異なるポートレット名を半角英数字で指定します。必須です。
<i>path</i>	-	必須です。 <ul style="list-style-type: none"> Web ポートレット コンテンツの URL を指定します。外部コンテンツの場合、http:// からの絶対 URL 形式で記述します。ローカルコンテンツは、{PROJECT_HOME} からの絶対パス形式で記述します。 日立 API ポートレットおよび File ポートレット マッピング定義ファイルへのパスを {PROJECT_HOME} からの絶対パス形式で指定します。「%」は使用できません。

10. 設定ファイルとコマンド

設定項目	デフォルト値	設定内容
<i>title</i>	No Title Set	ポータル画面でタイトルバーに表示するタイトルを指定します。日本語も使用できます。日本語を使用するには、xml 宣言文の encoding 属性に文字コードを指定する必要があります。 なお、lang 属性で言語種別を指定する場合は、次の形式で指定します。 {言語コード} [-{国コード}] [-{バリエント}]] 国コードおよびバリエントは省略できます。
<i>description</i>	No description found. Generic Portlet.	ポートレットの説明文です。日本語も使用できます。日本語を使用するには、xml 宣言文の encoding 属性に文字コードを指定する必要があります。 なお、lang 属性で言語種別を指定する場合は、次の形式で指定します。 {言語コード} [-{国コード}] [-{バリエント}]] 国コードおよびバリエントは省略できます。
<i>windowtitle</i>	ポートレット名	新規ウィンドウを表示するときの、ウィンドウのタイトルを指定します。 なお、lang 属性で言語種別を指定する場合は、次の形式で指定します。 {言語コード} [-{国コード}] [-{バリエント}]] 国コードおよびバリエントは省略できます。
<i>user-defined-value</i>	-	日立 API ポートレットで使用します。ユーザ定義のパラメタについてのパラメタ値です。
<i>dont_remove_head</i>	no	head 要素の削除を指定します。Web ポートレットで使用します。 • no : 削除します。 • yes : 削除しません。
<i>dont_remove_applet</i>	no	applet 要素の削除を指定します。Web ポートレットで使用します。 • no : 削除します。 • yes : 削除しません。
<i>dont_remove_object</i>	no	object 要素の削除を指定します。Web ポートレットで使用します。 • no : 削除します。 • yes : 削除しません。
<i>dont_remove_script</i>	no	script 要素の削除を指定します。Web ポートレットで使用します。 • no : 削除します。 • yes : 削除しません。 指定が "no" かつ対応する noscript 要素がある場合、noscript 開始、終了タグを削除します。
<i>dont_remove_onsomething</i>	no	"on" で始まるイベント属性の削除を指定します。Web ポートレット、WebPage ポートレットで使用します。 • no : 削除します。 • yes : 削除しません。

設定項目	デフォルト値	設定内容
<i>Cache-Enable</i>	true	<p>キャッシュについて設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • true : キャッシュを使用します。 • false : キャッシュを使用しません。
<i>filter_type</i>	-	<p>コンテンツのフィルタリング方式およびディレクティブ形式を次の形式で指定します。Web ポートレットで使用します。Web Page Portlet では削除とコメントでのフィルタリングだけ使用できます。</p> <pre><parameter name="filter_type" value="delete, comment" /></pre> <p>次のフィルタリング方式のどちらかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • delete : コンテンツを削除します。 • extract : コンテンツを抽出します。 <p>次のディレクティブ形式のどちらかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • comment : コメントで指定します。 • regexp : 正規表現で指定します。

設定項目	デフォルト値	設定内容
<i>filter_params</i>	-	<p>コンテンツフィルタリングのディレクティブを指定します。Web ポートレットで使用します。Web Page Portlet ではコメントだけ使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> コメントで指定する場合 コメント中に含まれる開始および終了キーワードをコマ(,)で区切って指定します。キーワードとして,「,」,「"」, および「 」は指定できません。 <pre><parameter name="filter_params" value="What's New, Information"/></pre> <p>ディレクティブを複数指定するには、開始キーワードと終了キーワードの組を「 」で区切ります。</p> <pre><parameter name="filter_params" value="What's New, Information start, end"/></pre> <ul style="list-style-type: none"> 正規表現で指定する場合 「<」,「>」,「"」を指定する場合、文字参照で指定します。「<」は「&lt;」,「>」は「&gt;」,「"」は「&quot;」と指定します。また,「/」は「¥/」とエスケープする必要があります。また、ディレクティブを複数指定できません。 <p><BODY> タグの先頭からパターンまで</p> <pre><parameter name="filter_params" value="fromhead= パターン文字列 "/></pre> <p>指定パターンの例 パターン文字列: Information</p> <pre><parameter name="filter_params" value="fromhead=Information&lt;/a&gt;"/></pre> <p>パターンからパターンまで</p> <pre><parameter name="filter_params" value="inbetween= パターン文字列 1, パターン文字列 2"/></pre> <p>パターン文字列 2 に当てはまる文字列は、パターン文字列 1 に当てはまる文字列以降から検索されます。</p> <p>指定パターンの例 パターン文字列 1: <form action=".*¥s">textarea パターン文字列 2: </form></p> <pre><parameter name="filter_params" value="inbetween=&lt;form action=&quot;.*¥s&lt;textarea , &lt;/form&gt;" /></pre> <p>パターンから <BODY> 終了タグまで</p> <pre><parameter name="filter_params" value="untiltail= パターン文字列 "/></pre> <p>指定パターンの例 パターン文字列: <a.*"http://w¥d¥.ins-hitachi¥.co¥.jp.*>/a></p> <pre><parameter name="filter_params" value="untiltail=&lt;a.*&quot;http:¥/¥/w¥d¥.ins-hitachi¥.co¥.jp.*&gt;" /></pre>

設定項目	デフォルト値	設定内容
<i>NameSpace-Resolution</i>	true	ネームスペース自動解決を設定します。Web App Portlet および分散ポートレットで使用します。 <ul style="list-style-type: none"> • true : ネームスペースを自動解決します。 • false : ネームスペースを自動解決しません。
<i>Inline-Object-Fetching</i>	direct	インラインオブジェクトの取得方法を設定します。Web App Portlet で使用します。 <ul style="list-style-type: none"> • portal : uCosminexus Portal Framework 経由で取得します。 • direct : 外部サーバから直接取得します。
<i>hptl.short-title</i>	-	ポートレットタイトルの略称を指定します。
<i>hptl.keywords</i>	-	ポートレットを検索する際のキーワードを指定します。
<i>hptl.help.url</i>	-	ポートレットアクションのヘルプの URL を指定します。
<i>hptl.help.url.ja</i>	-	ポートレットアクションの日本語ヘルプの URL を指定します。
<i>hptl.help.url.en</i>	-	ポートレットアクションの英語ヘルプの URL を指定します。
<i>hptl.help.url.{言語コード} [-{国コード} [-{バリエーション}]]</i>	-	ポートレットアクションの日本語および英語以外の言語に対応するヘルプの URL を指定します。なお、国コードとバリエーションは省略できます。
<i>hptl.EditMode</i>	false	編集モードを設定します。 <ul style="list-style-type: none"> • true : 編集モードを設定します。 • false : 編集モードを設定しません。
<i>hptl.MinimizeMode</i>	false	ポートレットがタイトル表示の場合、ポートレットの最小化ボタンを表示し、最小化できるようにするか指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • true : ポートレットの最小化をサポートします。 • false : ポートレットの最小化をサポートしません。¹
<i>hptl.CloseMode</i>	false	ポートレットがタイトル表示の場合、かつ強制表示ポートレットでない場合、ポートレットの閉じるボタンを表示し、閉じることができるようにするか指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • true : ポートレットのクローズをサポートします。 • false : ポートレットのクローズをサポートしません。¹
<i>hptl.MaximizeMode</i>	true	ポートレットがタイトル表示の場合、ポートレットの最大化ボタンを表示し、最大化できるようにするか指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • true : ポートレットの最大化をサポートします。 • false : ポートレットの最大化をサポートしません。¹

10. 設定ファイルとコマンド

設定項目	デフォルト値	設定内容
<i>hptl.NewWindowMode</i>	false	ポータルレットがタイトル表示の場合、ポータルレットの別画面表示ボタンを表示し、新規ウィンドウに表示できるようにするか指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • true：ポータルレットの新規ウィンドウ表示をサポートします。 • false：ポータルレットの新規ウィンドウ表示をサポートしません。
<i>hptl.Size</i>	-	ポータルレットの大きさを指定します。レイアウトパターンの設定をしている場合に指定できます。指定できる項目を次に示します。なお、次の項目以外を指定した場合、そのポータルレットは表示されません。 <ul style="list-style-type: none"> • large：大きいサイズ • medium：中サイズ • small：小さいサイズ • 指定無し：レイアウトパターンの設定で指定したサイズ
<i>timeout</i>	-	無応答監視時間を指定します。指定する値の単位は秒です。指定できる値の範囲は、0～86,400（整数）です。0を指定した場合、無応答監視は行いません。
<i>hptl.portlet.nonresponse.timeout.trytimes</i>	-	無応答監視がタイムアウトになったときに、uCosminexus Portal Framework が日立 API ポータルレットに interrupt を通知する回数を指定します。指定できる値の範囲は、1～10（整数）です。interrupt を通知する回数の指定がない場合（デフォルト）、1 回だけ interrupt を通知します。
<i>hptl.MultiJSP.tags.iframe</i>	false	<iframe> タグ内のコンテンツの取得先を設定します。 <ul style="list-style-type: none"> • true：ポータルサーバを経由しないで直接 Web サーバから取得します。 • false：ポータルサーバを経由して取得します。
<i>hptl.module.action</i>	-	ポータルレットのイベント処理を記述するためのアクションモジュールのパッケージ名称を含めたクラスのフルパス名称を指定します。
<i>hptl.navigationbar.support</i>	false	ナビゲーションメニューに対応するかどうかを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • true：ナビゲーションメニューに対応します。 • false：ナビゲーションメニューに対応しません。
<i>hptl.navigationbar.version</i>	01-00	対応しているナビゲーションメニューの API のバージョンを指定します。「01-00」を指定してください。
<i>hptl.navigationbar.alltabflag</i>	false	連携ポータルレットをデフォルトメニューに設定するかどうかを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • true：ユーザにメニュー情報がない場合、デフォルトメニューとしてメニュー登録されます。 • false：ユーザにメニュー情報がない場合、デフォルトメニューとしてメニュー登録されません。

設定項目	デフォルト値	設定内容
<i>hptl.portlet.defaulticon</i>	- (デフォルトのアイコン)	ポートレットのデフォルトアイコンの URL を指定します。ポートレットのエントリのディレクトリからの相対パスで指定します。アイコンの画像サイズは 16 × 16 ピクセルとします。 ただし、メニューベースタイトルバーテンプレートを使用している場合は、Multi Web Portlet だけ指定できます。
<i>hptl.portlet.directreq.support</i>	false	uCosminexus Portal Framework にログインしていない状態から、ポートレットのダイレクト呼び出し (Web ブラウザでポートレットの URL を直接指定して表示させる機能) ができるかどうかを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • true: ダイレクト呼び出しができます。ログイン後に指定したポートレットが表示されます。 • false: ダイレクト呼び出しできません。ログイン後にホーム画面が表示されます。
<i>hptl.portlets.layout.hide</i>	false	レイアウトカスタマイズ機能の [ポートレットの選択] 画面のポートレット一覧から選択できないポートレットとして設定するかどうか (レイアウトできないポートレットにするかどうか) を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • true: レイアウトできないポートレットに設定します。 • false: レイアウトできるポートレットに設定します。
<i>hptl.portlets.layout.not.modified</i>	false	拡張レイアウト形式の変更不可エリアでだけ選択できるポートレットにするかどうか指定します。この設定を行ったポートレットは、変更不可エリアのポートレット追加・変更時にだけ [ポートレットの選択] 画面に表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> • true: 変更不可エリアでだけポートレットの追加・変更ができます。 • false: すべてのエリア、およびすべてのレイアウトでポートレットの追加・変更ができます。

(凡例) - : 該当しません。

注 1 ポートレットのタイトルに各ボタンを表示させるには、Portal Manager の各ポートレットの設定で指定する必要があります。

(2) ポートレットの設定

ポートレット定義ファイルに、ポートレットの種類ごとに前提となる項目を定義します。定義項目には、Portal Manager で定義した内容が書き込まれるものと、ポートレット定義ファイルを直接編集して定義するものがあります。Portal Manager を使用したポートレットの定義方法については、「7.8.1 共通定義 (Web ポートレット)」, または「7.9.1 共通定義 (分散ポートレット)」を参照してください。

ポートレットの定義に関する設定の、ポートレット定義ファイルでの記述形式を次に示します。

(a) Multi Web Portlet

記述形式を次に示します。

10. 設定ファイルとコマンド

```
<portlet-entry type="abstract" name="MultiWeb">
<classname>jp.co.hitachi.soft.portal.portal.portlets.MultiWebPortl
et </classname>
  <parameter name="MobileUrlMapSize" value="マップサイズ" />
  <parameter name="CharSetUrlMapSize" value="マップサイズ" />
</portlet-entry>
```

パラメタの設定ができます。そのほかの項目は変更しないでください。

パラメタ名と値を次の表に示します。

表 10-8 Multi Web Portlet のパラメタ名と値

parameter-name	デフォルト値	parameter-value に設定する内容
hptl.MultiWebPortlet.MobileUrlMapSize	100	携帯電話で表示する Web ブラウザの URL マップ個数を指定します。
hptl.MultiWebPortlet.CharSetUrlMapSize	100	文字コードの URL マップ個数を指定します。
hptl.ProxyHost	-	プロキシサーバのホストを指定します。設定しない場合、Web サーバに直接接続します。
hptl.ProxyPort	80	プロキシサーバのポート番号を指定します。設定しない場合、Web サーバに直接接続します。

(凡例) - : 該当しません。

注 このパラメタは、Portal Manager では定義できません。ポートレット定義ファイルを直接編集して定義してください。

(b) Web Page Portlet および Web App Portlet

記述形式を次に示します。

```
<portlet-entry type="abstract" name="WebPage">
<classname>jp.co.hitachi.soft.portal.portal.portlets.WebPagePortle
t</classname>
  <parameter name="parameter-name" value="parameter-value" />
</portlet-entry>

<portlet-entry type="abstract" name="WebApp">
<classname>jp.co.hitachi.soft.portal.portal.portlets.WebAppPortlet
</classname>
  <parameter name="parameter-name" value="parameter-value" />
</portlet-entry>
```

パラメタの設定ができます。そのほかの項目は変更しないでください。

パラメタ名と値を次の表に示します。

表 10-9 Web Page Portlet のパラメタ名と値

parameter-name	デフォルト値	parameter-value に設定する内容
proxyHost	-	プロキシサーバのホストを指定します。設定しない場合、Web サーバに直接接続します。
proxyPort	80	プロキシサーバのポート番号を指定します。設定しない場合、Web サーバに直接接続します。
Cache-Control	max-age=3600	コンテンツのデフォルトの有効期間を指定します。no-cache または max-age=sec を指定します。max-age には 0 以上の値を指定します。単位は秒です。
maxRedirect	2	HTTP リダイレクトの最大回数を指定します。設定できる範囲は 0 ~ 10 です。
hptl.WebApp.SetUserAgent	true	Web ブラウザの User-Agent 情報を Web App Portlet に設定するかを指定します。Web App Portlet だけ対応しています。 <ul style="list-style-type: none"> • true : User-Agent 情報を設定します。 • false : User-Agent 情報を設定しないで、Java のデフォルト値を使用します。

(凡例) - : 該当しません。

(c) 分散ポートレット

記述形式を次に示します。

```
<portlet-entry type="abstract" name="DistributedWebApp">
<classname>jp.co.hitachi.soft.portal.portal.portlets.DistributedWebAppPortlet</classname>
  <parameter name="parameter-name" value="parameter-value" />
  <parameter name="proxyHost" value="proxyhost" />
  <parameter name="proxyPort" value="proxyport" />
</portlet-entry>
```

分散ポートレットのパラメタの設定ができます。そのほかの項目は変更しないでください。

パラメタ名と値を次の表に示します。

表 10-10 分散ポートレットのパラメタ名と値

parameter-name	デフォルト値	parameter-value に設定する内容
proxyHost	-	プロキシサーバのホストを指定します。設定しない場合、Web サーバに直接接続します。
proxyPort	80	プロキシサーバのポート番号を指定します。設定しない場合、Web サーバに直接接続します。

(凡例) - : 該当しません。

(3) Multi Web Portlet の認証の設定

ポータルレット定義ファイルに、Multi.Web Portlet の認証に必要な設定項目を定義します。Portal Manager を使用してポータルレットを登録した際の設定内容が書き込まれるため、ポータルレット定義ファイルを直接編集して定義する必要はありません。Portal Manager を使用したポータルレットの登録方法については、「7. ポータルレットの登録」を参照してください。

Multi.Web Portlet の認証に関する設定の、ポータルレット定義ファイルでの記述形式を示します。

```
<portlet-entry application="false" admin="false" parent=" MultiWeb"
hidden="false" type="ref" name="MultiWebPortlet1">
<url>デバイス定義ファイルへのURL</url>
<parameter value="プロキシサーバアドレス" name="hptl.ProxyHost"/>
<parameter value="プロキシポート番号" name="hptl.ProxyPort"/>
<parameter value="YES" name="hptl.MultiWebPortlet.AppletRemove"/>
<parameter value="YES" name="hptl.MultiWebPortlet.ObjectRemove"/>
<parameter value="YES" name="hptl.MultiWebPortlet.ScriptRemove"/>
<parameter value="Portal"
name="hptl.MultiWebPortlet.BinaryDataFetching"/>
<parameter value=" refURL[コンマ]targetURL[コンマ]method(POST | GET)
[コンマ]filed1[コンマ]filed2, ..."
name="hptl.MultiWebPortlet.FromBaseAuth"/>
<parameter value="TRUE" name="hptl.EditMode"/>
<parameter name="hptl.MultiWebPortlet.filter_type" value="regexp"/>
<parameter name=" hptl.MultiWebPortlet.filter_params"
value=" inbetween=日本語マッチ?, します。"/>
<parameter name="hptl.MultiWebPortlet.DefScreenHeight"
value="400"/>
<parameter name="hptl.MultiWebPortlet.MaxScreenHeight"
value="520"/>
<parameter name="hptl. MultiWebPortlet.AliasInternalPath"
value="http://wwwportal1.hitachi.co.jp/Portal/,
http://wwwportal2.hitachi.co.jp/Portal/,
http://wwwportal3.hitachi.co.jp/Portal/">
<meta-info>
<title>マルチポータルレットタイトル</title>
</meta-info>
</portlet-entry>
```

パラメタの設定ができます。そのほかの項目は変更しないでください。

パラメタ名と値を次の表に示します。

表 10-11 Multi Web Portlet のパラメタ名と値

parameter-name	デフォルト値	parameter-value に設定する内容
hptl.ProxyHost	-	プロキシサーバのホストを指定します。設定しない場合、Web サーバに直接接続します。ホスト名または Port 設定と併用した IP アドレスが必要となります。

parameter-name	デフォルト値	parameter-value に設定する内容
hptl.ProxyPort	-	プロキシサーバのポート番号を指定します。設定しない場合、Web サーバに直接接続します。使用できる値は、Int 型に変換できる数字です。
hptl.MultiWebPortlet.AppletRemove	YES	アプレット要素を削除するか指定します。 YES：削除します。 NO：削除しません。
hptl.MultiWebPortlet.ObjectRemove	YES	オブジェクト要素を削除するか指定します。 YES：削除します。 NO：削除しません。
hptl.MultiWebPortlet.ScriptRemove	YES	スクリプト要素を削除するか指定します。 YES：削除します。 NO：削除しません。
hptl.MultiWebPortlet.BinaryDataFetching	Direct	バイナリデータの取得方法を選択します。Portal または Direct を指定します。
hptl.MultiWebPortlet.FromBaseAuth	なし	フォーム認証について設定します。対象 URL (query 文字などを除く認証画面の URL), アクションターゲット URL (POST, GET 先の URL), メソッド, 認証に必要なフィールドを設定します。それぞれ [コンマ] で区切り、一つのパラメタとして定義します。 設定パターンの例 http://cosmiportal.com/ formbase/index.html [コンマ] http://cosmiportal.com/ actiontarget/auth.html [コンマ] POST [コンマ] j_username [コンマ] j_password
hptl.EditMode	FALSE	編集画面の表示を設定します。TRUE または FALSE を指定します。
hptl.MultiWebPortlet.filter_type	なし	コンテンツのディレクティブ形式を次の形式で指定します。ディレクティブ形式には、" regexp " (正規表現) を指定します。 指定パターンの例 <parameter name=" hptl.MultiWebPortlet.filter_type" value="comment"/> なお、フィルタタイプを指定する場合は、フィルタパラメタの指定を行ってください。

10. 設定ファイルとコマンド

parameter-name	デフォルト値	parameter-value に設定する内容
hptl.MultiWebPortlet.filter_params	なし	<p>コンテンツフィルタリングのディレクトリタイプを指定します。指定できるディレクトリタイプ形式は正規表現を「<」、「>」、「」を指定する場合、文字参照で指定します。「<」は「&lt;」、「>」は「&gt;」、「」は「&quot;」と指定します。また、「/」は「¥/」とエスケープする必要があります。また、ディレクトリタイプを複数指定できません。パターンからパターンまで</p> <pre><parameter name="hptl.MultiWebPortlet.filter_params" value="inbetween= パターン文字列 1, パターン文字列 2"/></pre> <p>指定パターンの例</p> <pre><parameter name=" hptl.MultiWebPortlet.filter_params" value=" inbetween= 日本語 マッチ? , します。" /></pre> <p>パターンからラストまで</p> <pre><parameter name=" hptl.MultiWebPortlet.filter_params" value=" untiltail= ターン文字列 "/></pre> <p>指定パターンの例</p> <pre><parameter name="filter_params" value=" untiltail=&lt;a.*&quot;http:¥/ ¥/w¥d¥.ins-hitachi¥.co¥.jp.* / a&gt;" /></pre>
hptl.MultiWebPortlet.DefScreenHeight	300	標準表示時の縦幅を設定します。設定できる値は 1 ~ 9,999 です。
hptl.MultiWebPortlet.MaxScreenHeight	460	最大表示の縦幅を設定します。設定できる値は 1 ~ 9,999 です。
hptl.MultiWebPortlet.AutoMaxChange	FALSE	自動最大化表示を指定します。TRUE または FALSE を指定します。

(凡例) - : 該当しません。

なお、Multi Web Portlet で使用する URL の要素はマッピング定義ファイルで設定します。URL の要素には、{WebAppPortlet 配下} のパスまたは、URL を指定します。

Multi Web Portlet のマッピング定義ファイルの例を次に示します。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
  <file-mappings xmlns="http://portal.soft.hitachi.co.jp/portal/
MultiDevice">
  <mapping>
    <media>HTML</media>
```



```

        <url>http://www.hitachi.co.jp/cgi/index.cgi</url>
    </mapping>
</mapping>
    <media>CHTML</media>
    <url>/portlets/sample/device/cdevice.html</url>
</mapping>
</mapping>
    <media>HDML</media>
    <url>http://www.ins-hitachi.co.jp/hdml_contents/
index.html</url>
</mapping>
</file-mappings>

```

10.2.2 リポジトリファイル (Repository.xml)

uCosminexus Portal Framework が使用する接続先リポジトリの情報や、ユーザ情報の取得元などを設定するファイルです。このファイルには、Portal Manager で設定した内容が書き込まれます。なお、Portal Manager で設定できない項目は、リポジトリファイル (Repository.xml) を直接編集してください。

記述形式を次に示します。

```

<?xml version="1.0" encoding="Windows-31J" ?>
<repository version="0200">
  <connection-info name="接続先リポジトリの名称" dbms="接続先DBの種類"
ldap="接続先ディレクトリサーバの種類" type="接続先リポジトリの種類">
    接続先情報の設定
  </connection-info>

  <resource name="構成情報の名称" type="接続先リポジトリの種類">
    構成情報の設定
  </resource>

  <portal-mapping>
    マッピング情報の設定
  </portal-mapping>
</repository>

```

(1) 接続情報の設定

使用するリポジトリについて設定します。「接続先情報の設定」の記述形式を次に示します。

形式 (ディレクトリサーバ)

```

<connection-info name="接続先名称" type="ldap" ldap="ldap">
  <url>url</url>
  <username>binddn</username>
  <password>bindpassword</password>
  <maxConnections>maxConnections</maxConnections>
</connection-info>

```

形式 (DB・JNDI あり)

```

<connection-info name="接続先名称" type="DB" dbms="dbms">

```

10. 設定ファイルとコマンド

```
<jndi>jndi</jndi>
</connection-info>
```

形式 (DB・JNDI なし)

```
<connection-info name="接続先名称" type="DB" dbms="dbms">
  <drivename>drivename</drivename>
  <url>url</url>
  <username>username</username>
  <password>password</password>
  <waittime>waittime</waittime>
</connection-info>
```

表 10-12 connection-info タグの設定項目と内容 (接続情報の設定)

設定項目	設定内容	ディレクトリサーバ	DB (JNDI あり)	DB (JNDI なし)
name	接続先名称を指定します。			
type	接続するリポジトリの種類を指定します。 ldap : ディレクトリサーバの場合 DB : DB の場合			
ldap	接続するディレクトリサーバの種類を指定します。 Active Directory : Active Directory の場合 空文字列または指定なし : Active Directory 以外の場合		×	×
dbms	接続する DB の種類を指定します。 HiRDB : HiRDB の場合 Oracle : Oracle の場合 SQLServer : SQL Server の場合	×		

(凡例) : 必要 × : 不要

表 10-13 タグ内の設定項目と内容 (接続情報の設定)

設定項目	設定内容	ディレクトリサーバ	DB (JNDI あり)	DB (JNDI なし)
url	接続するディレクトリサーバまたは DB の URL を指定します。		×	
binddn	バインド DN を指定します。		×	×
bindpassword	バインド DN に対するパスワードを指定します。		×	×
maxConnections	最大コネクション数を指定します。		×	×
jndi	接続に使用する JNDI 名を指定します。	×		×
drivename	JDBC ドライバ名を指定します。	×	×	
username	接続する DB のユーザ名を指定します。	×	×	

設定項目	設定内容	ディレクトリサーバ	DB (JNDI あり)	DB (JNDI なし)
<i>password</i>	接続する DB のパスワードを指定します。	×	×	
<i>waittime</i>	DB との接続が成功するまでの待ち時間を指定します。	×	×	

(凡例) : 必要 × : 不要

(2) 構成情報の設定

使用するリポジトリについて設定します。「構成情報の設定」の記述形式を次に示します。

形式 (ディレクトリサーバ)

```
<resource name="構成情報の名称" type="ldap">
  <connection>connectionname</connection>
  <objectclass name="objectclass" key="key" subtree="subtree" >
    <basedn>basedn</basedn>
  </objectclass>
</resource>
```

形式 (DB)

```
<resource name="構成情報の名称" type="DB">
  <connection>connectionname</connection>
  <table name="user_table" key="key" />
</resource>
```

表 10-14 resource タグの設定項目と内容 (構成情報の設定)

設定項目	設定内容	ディレクトリサーバ	DB
<i>name</i>	構成情報の名称を指定します。		
<i>type</i>	構成情報の種類を指定します。 ldap : ディレクトリサーバの場合 DB : DB の場合		

(凡例) : 必要 × : 不要

表 10-15 タグ内の設定項目と内容 (構成情報の設定)

設定項目	設定内容	ディレクトリサーバ	DB
<i>connectionname</i>	接続情報の設定で指定した接続先名称を指定します。		

10. 設定ファイルとコマンド

設定項目	設定内容	ディレクトリサーバ	DB
<i>type</i>	ディレクトリサーバの読み込みおよび書き込み権限を指定します。 read : 読み込み専用 write : 書き込み専用 all : 読み込みも書き込みもできます。		×
<i>objectclass</i>	ディレクトリサーバでのオブジェクトクラスを指定します。 ユーザ情報では hptlUser ¹ , 組織単位情報では hptlOrganizationalUnit ¹ , グループ情報では groupOfUniqueNames ¹ を指定します。		×
<i>user_table</i>	接続する DB のテーブル名を指定します。	×	
<i>key</i>	ディレクトリサーバオブジェクトクラスでキーとなるディレクトリサーバの属性名を指定します。 ユーザ情報では uid ² , 組織単位情報では cn ² , グループ情報では ou ² を指定します。 テーブルでキーとなる DB カラム名を指定します。		
<i>subtree</i>	検索範囲を指定します。 true : サブツリー検索をします。 false : 1 レベル検索をします。		×
<i>basedn</i>	接続するディレクトリサーバのベース DN を指定します。		×

(凡例) : 必要 × : 不要

注 1 実際に使用するオブジェクトクラスを指定します。複数指定する場合は、コンマ(,)で区切って指定してください。

注 2 実際に使用する属性を指定します。

(3) マッピング情報の設定

uCosminexus Portal Framework が使用する情報のマッピングを設定します。

記述形式を次に示します。

```
<portalUser>
  <Mapping src="src" dest="dest" type="type" options="options">
    resourcename
  </Mapping>
</portalUser>

<portalUserAdmin>
  <Mapping src="src" dest="dest" type="type" options="options">
    resourcename
  </Mapping>
</portalUserAdmin>

<portalGroup>
  <Mapping src="src" dest="dest" type="type" options="options">
    resourcename
```

```

    </Mapping>
</portalGroup>

<portalOrganizationalUnit>
  <Mapping src="src" dest="dest" type="type" options="options">
    resourcename
  </Mapping>
</portalOrganizationalUnit>

<portalCommon>
  <Mapping src="src" dest="dest" type="type" options="options">
    resourcename
  </Mapping>
</portalCommon>

```

マッピング情報の設定項目と内容を次の表に示します。

表 10-16 マッピング情報の設定項目と内容

設定項目	設定内容
<i>src</i>	<p>取得元の属性名を指定します。 <i>src</i> に指定する値は、portalUser タグ、portalUserAdmin タグ、portalGroup タグ、および portalOrganizationalUnit タグのそれぞれの中で、一意になるようにしてください。タグ内で同じ値を複数指定することはできません。 ディレクトリサーバの場合 ディレクトリサーバでの属性名を指定します。 DB の場合 DB のカラム名を指定します。</p>
<i>dest</i>	<p>共通項目名を指定します。該当する共通項目名がない場合、ディレクトリサーバでの属性名を指定します。"hptl_" で始まる名称は、予約されているため使用しないでください。 <i>dest</i> に指定する値は、portalUser タグ、portalUserAdmin タグ、portalGroup タグ、および portalOrganizationalUnit タグのそれぞれの中で、一意になるようにしてください。タグ内で同じ値を複数指定することはできません。</p>
<i>type</i>	<p>値のタイプを指定します。指定できるタイプは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • string : 文字列 • bin : バイナリ • dn : DN 形式 <p>また、共通項目名が PASSWORD の場合に指定できるタイプは、次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • none : 平文 • sha1 : SHA-1 形式 • md5 : MD5 形式
<i>options</i>	<p>値がマルチバリューの時に指定します。 ディレクトリサーバの場合 multivalue DB の場合 multivalue= 値 値には、「DB に格納できる値の数」または「multirecord」を指定してください。</p>
<i>resourcename</i>	<p><resource> タグの name 属性に指定した構成情報の名称を指定します。</p>

10. 設定ファイルとコマンド

マッピング情報は、次の組み合わせで指定します。異なるディレクトリサーバの属性を使用している場合は、使用しているディレクトリサーバの属性名を指定します。

ユーザ用のユーザ情報（portalUser）のマッピング情報の組み合わせについて、ディレクトリサーバの場合を表 10-17 に、DB の場合を表 10-18 に示します。

表 10-17 ユーザ情報（portalUser）のマッピング情報の組み合わせ（ディレクトリサーバ）

取得する情報	ディレクトリサーバの属性	共通項目名	type	options	構成名
ユーザ ID	uid	LOGIN_NAME	string	-	LDAP-1 ²
ユーザ表示名	cn	NAME	string	-	LDAP-1 ²
パーソナライズ情報を表すキー	hptlPersonalizeInfo	PersonalizeKey	string	multivalue	LDAP-1 ²
役職情報	title	TITLE	string	multivalue ¹	LDAP-1 ²
所属情報	hptlDepartmentDN	DEPARTMENT	string/dn	multivalue ¹	LDAP-1 ²
上記以外	ディレクトリサーバの属性名	ディレクトリサーバの属性名	string/bin/dn	multivalue ¹	LDAP-1 ²

（凡例） - : 該当しません。

注 1 ポータルで複数値を使用する場合だけ multivalue を指定します。複数値でない場合は何も指定しないでください。

注 2 構成名は任意の名称となります。

表 10-18 ユーザ情報（portalUser）のマッピング情報の組み合わせ（DB）

取得する情報	カラム名	共通項目名	type	options	構成名
ユーザ ID	uid	LOGIN_NAME	string	-	DB-1 ²
ユーザ表示名	cn	NAME	string	-	DB-1 ²
パーソナライズ情報を表すキー	hptlPersonalizeInfo	PersonalizeKey	string	multivalue=zip	DB-1 ²
役職情報	title	TITLE	string	multivalue= 値 ¹	DB-1 ²
所属情報	hptlDepartmentDN	DEPARTMENT	string	multivalue= 値 ¹	DB-1 ²

取得する情報	カラム名	共通項目名	type	options	構成名
上記以外	DBのカラム名	DBのカラム名	string/ bin	multivalue= 値 1	DB-1 ²

(凡例) - : 該当しません。

注 1 ポータルで複数値を使用する場合だけ multivalue= 値を指定します。複数値でない場合は何も指定しないでください。

注 2 構成名は任意の名称となります。

管理用のユーザ情報 (portalUserAdmin) のマッピング情報の組み合わせについて、ディレクトリサーバの場合を表 10-19 に、DB の場合を表 10-20 に示します。

表 10-19 ユーザ情報 (portalUserAdmin) のマッピング情報の組み合わせ (ディレクトリサーバ)

取得する情報	ディレクトリサーバの属性	共通項目名	type	options	構成名
ユーザ ID	uid	LOGIN_NAME	string	-	LDAP-1 2
ユーザ表示名	cn	NAME	string	-	LDAP-1 2
パスワード	userPassword	PASSWORD	none/ sha1/ md5	-	LDAP-1 2
パーソナライズ情報を表すキー	hptlPersonalizeInfo	PersonalizeKey	string	multivalue	LDAP-1 2
役職情報	title	TITLE	string	multivalue ¹	LDAP-1 2
所属情報	hptlDepartmentDN	DEPARTMENT	string/ dn	multivalue ¹	LDAP-1 2
上記以外	ディレクトリサーバの属性名	ディレクトリサーバの属性名	string/ bin/dn	multivalue ¹	LDAP-1 2

(凡例) - : 該当しません。

注 1 ポータルで複数値を使用する場合だけ multivalue を指定します。複数値でない場合は何も指定しないでください。

注 2 構成名は任意の名称となります。

表 10-20 ユーザ情報 (portalUserAdmin) のマッピング情報の組み合わせ (DB)

取得する情報	カラム名	共通項目名	type	options	構成名
ユーザ ID	uid	LOGIN_NAME	string	-	DB-1 ²

10. 設定ファイルとコマンド

取得する情報	カラム名	共通項目名	type	options	構成名
ユーザ表示名	cn	NAME	string	-	DB-1 ²
パスワード	userPassword	PASSWORD	none/ sha1/ md5	-	LDAP-1 ²
パーソナライズ情報を表すキー	hptlPersonalizeInfo	PersonalizeKey	string	multivalue=zip	DB-1 ²
役職情報	title	TITLE	string	multivalue= 値 1	DB-1 ²
所属情報	hptlDepartmentDN	DEPARTMENT	string	multivalue= 値 1	DB-1 ²
上記以外	DBのカラム名	DBのカラム名	string/ bin	multivalue= 値 1	DB-1 ²

(凡例) - : 該当しません。

注 1 ポータルで複数値を使用する場合だけ multivalue= 値を指定します。複数値でない場合は何も指定しないでください。

注 2 構成名は任意の名称となります。

グループ情報 (portalGroup) のマッピング情報の組み合わせについて、ディレクトリサーバの場合を表 10-21 に、DB の場合を表 10-22 に示します。

表 10-21 グループ情報 (portalGroup) のマッピング情報の組み合わせ (ディレクトリサーバ)

取得する情報	ディレクトリサーバの属性	共通項目名	type	options	構成名
グループ名	cn	NAME	string	-	LDAP-1 ²
所属メンバー	uniquemember	MEMBER	string/ dn	multivalue 1	LDAP-1 ²
上位グループを表すキー	memberof	MEMBEROF	string/ dn	multivalue 1	LDAP-1 ²

(凡例) - : 該当しません。

注 1 ポータルで複数値を使用する場合だけ multivalue を指定します。複数値でない場合は何も指定しないでください。

注 2 構成名は任意の名称となります。

表 10-22 グループ情報 (portalGroup) のマッピング情報の組み合わせ (DB)

取得する情報	カラム名	共通項目名	type	options	構成名
グループ名	cn	NAME	string	-	DB-1 2
所属メンバー	uniquemember	MEMBER	string	multivalued=multirecord/ multivalued=値 ¹	DB-1 2

(凡例) - : 該当しません。

注 1 ポータルで複数値を使用する場合だけ multivalued=multirecord/multivalued=値を指定します。複数値でない場合は何も指定しないでください。

注 2 構成名は任意の名称となります。

組織単位情報のマッピング情報の組み合わせについて、ディレクトリサーバの場合を表 10-23 に、DB の場合を表 10-24 に示します。

表 10-23 組織単位情報 (portalOrganizationalUnit) のマッピング情報の組み合わせ (ディレクトリサーバ)

取得する情報	ディレクトリサーバの属性	共通項目名	type	options	構成名
組織単位 ID	ou	NAME	string	-	LDAP-1
組織表示名	DepartmentName	TITLE	string	-	LDAP-1
上位組織を表すキー	hptlDepartmentDN	DEPARTMENT	string/ dn	-	LDAP-1

(凡例) - : 該当しません。

注 構成名は任意の名称となります。

表 10-24 組織単位情報 (portalOrganizationalUnit) のマッピング情報の組み合わせ (DB)

取得する情報	カラム名	共通項目名	type	options	構成名
組織単位 ID	ou	NAME	string	-	DB-1
組織表示名	DepartmentName	TITLE	string	-	DB-1
上位組織を表すキー	hptlDepartmentDN	DEPARTMENT	string	-	DB-1

(凡例) - : 該当しません。

注 構成名は任意の名称となります。

共通情報のマッピング情報の組み合わせについて、DB の場合を表 10-25 に示します。なお、共通情報が使用できるのは DB の場合だけです。

表 10-25 共通情報 (portalCommon) のマッピング情報の組み合わせ (DB)

取得する情報	カラム名	共通項目名	type	options	構成名
共通情報	FILECONTENT	USER_CONTE NT	bin	-	DB-USE R-1
更新情報	UPDATECODE	hptlSystemSyn c	int	-	DB-USE R-1

(凡例) - : 該当しません。

注 構成名は任意の名称となります。

10.2.3 クライアント情報定義ファイル (UserAgentType.xml)

クライアント情報定義ファイル (UserAgentType.xml) は、クライアント種別判定の設定と、URL Rewriting 抑止機能を開始するための設定を行うファイルです。このファイルの内容を変更すれば、クライアント種別判定を設定できます。また、URL Rewriting 抑止機能を施し、セキュリティを向上できます。クライアント種別判定の詳細は、「6.4 クライアント種別判定の設定」を参照してください。

記述形式を次に示します。

```
<?xml version="1.0" encoding="Windows-31J" ?>
<UserAgent-Definition>
  <default>
    デフォルトの設定
  </default>
  <UserAgentType-Definition>
    UserAgentの設定
  </UserAgentType-Definition>
  <MimeType-Definition >
    MIMEタイプの設定
  </MimeType-Definition>
</UserAgent-Definition>
```

(1) デフォルトの設定

デフォルトの設定は一つだけ指定します。

デフォルトの設定の記述形式を次に示します。

```
<default>
  <devicetype>devicetype</devicetype>
  <xslt>xslt-styleSheet</xslt>
  <matchingpattern>matchingpattern</matchingpattern>
  <URLRewritingDisabled>URLRewritingDisabled</
URLRewritingDisabled>
</default>
```

デフォルトの設定項目と内容を次の表に示します。

表 10-26 デフォルトの設定項目と内容

設定項目	設定内容
<i>devicetype</i>	デフォルトのクライアント種別を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • HTML • CHTML • HDML
<i>xsltstylesheet</i>	XSLT スタイルシート名を指定します。
<i>matchingpattern</i>	クライアント種別に属するための UserAgent (HTTP リクエストの User-Agent ヘッダの内容) の識別条件を正規表現で指定します。
<i>URLRewritingDisabled</i>	URL Rewriting 抑止機能を使用するかどうかを指定します。 使用する場合は, true を指定し, 使用しない場合は false を指定します (デフォルト値は true が指定されています)。

(2) UserAgent の設定

記述形式を次に示します。

```
<useragent-register>
  <devicetype>devicetype</devicetype>
  <useragenttype>useragenttype</useragenttype>
  <xslt>xslt-stylesheet</xslt>
  <matchingpattern>matchingpattern</matchingpattern>
  <URLRewritingDisabled>URLRewritingDisabled</
URLRewritingDisabled>
</useragent-register>
```

UserAgent 設定の項目と内容を次の表に示します。

表 10-27 UserAgent 設定の項目と内容

設定項目	設定内容
<i>Devicetype</i>	UserAgent のクライアント種別を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • HTML • CHTML • HDML
<i>Useragenttype</i>	UserAgent 名 (HTTP リクエストの User-Agent ヘッダの内容) を英数字で指定します。ほかの UserAgent と異なる名称を指定します。
<i>xsltstylesheet</i>	XSLT スタイルシート名を指定します。
<i>matchingpattern</i>	使用する UserAgent に属するための条件を正規表現で指定します。
<i>URLRewritingDisabled</i>	URL Rewriting 抑止機能を使用するかどうかを指定します。 使用する場合は, true を指定し, 使用しない場合は false を指定します (デフォルト値は true が指定されています)。

複数の UserAgent を設定するには, <useragent-register> から </useragent-register>

10. 設定ファイルとコマンド

までを複数指定します。複数指定する場合、マッチングパターンの検索対象が広いクライアントの設定から順に記述します。また、すべてのマッチングパターンに当てはまらなかった場合、デフォルト設定が適用されます。

(3) MIME タイプの設定

クライアント種別と MIME タイプを対応づけます。記述形式を次に示します。

```
<mimetype-register ID="devicetype">
  <mimetype>mimetype-string </mimetype>
  <xslt>xslt-stylesheet</xslt>
</mimetype-register>
```

MIME タイプの設定項目と内容を次の表に示します。

表 10-28 MIME タイプの設定項目と内容

設定項目	設定内容
<i>devicetype</i>	クライアント種別を指定します。 <ul style="list-style-type: none">• HTML• CHTML• HDML
<i>mimetype-string</i>	クライアント種別に対応する MIME タイプ文字列を指定します。
<i>xslt-stylesheet</i>	XSLT スタイルシート名を指定します。

複数のクライアントを指定するには、`<mimetype-register ID="devicetype">` から `</mimetype-register>` までを複数指定します。各クライアントには一つの MIME タイプを指定します。

10.2.4 フォーム認証定義ファイル (formbase-auth.cfg)

フォーム認証での認証ページの情報を登録します。この定義ファイルは、Web App Portlet でシングルサインオン機能を利用する場合に設定する必要があります。

各設定項目の間はタブで区切ります。改行までを一つの設定とします。複数設定するには、次の記述形式を複数指定します。記述形式を次に示します。

```
authpageurlタブactionpage-urlタブmethodタブfieldlist改行
```

フォーム認証定義ファイルの設定項目と内容を次の表に示します。

表 10-29 フォーム認証定義ファイルの設定項目と内容

設定項目	設定内容
<i>authpageurl</i>	認証ページの URL をファイル名称まで指定します。

設定項目	設定内容
<i>actionpage-url</i>	実際にログインするための URL をファイル名称まで指定します。
<i>method</i>	ログイン時に使用するメソッドを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • GET : GET メソッドを用いる場合 • POST : POST メソッドを用いる場合
<i>fieldlist</i>	ログイン時にクエリーとして与えるフィールド、または POST するフィールドを指定します。複数使用する場合には、タブで区切って指定します。

URL には、クエリー文字列などを除いた URL だけを指定できます。また、先頭文字が「#」の行は、コメントとして扱われます。

次にフォーム認証定義ファイルの例を示します。

```
# url    actionURL method(Post|Get)  filed1  filed2  ...
http://cosmiportal.com/formbase/index.html [TAB] http://
cosmiportal.com/actiontarget/
auth.html [TAB] POST [TAB] j_username [TAB] j_password [改行]
http://cosmiportal.com/index.html [TAB] http://cosmiportal.com/
auth.html [TAB] GET [TAB] userID [TAB] password [TAB] language [改行]
```

10.2.5 コントローラ定義ファイル (controllers.xml)

レイアウト形式について設定するファイルです。コントローラ定義ファイルには、Portal Manager を使用してレイアウト基本設定およびレイアウトパターンの設定をした際の設定内容が書き込まれます。レイアウト基本設定およびレイアウトパターンの設定については、「5.3 レイアウト形式のカスタマイズ」を参照してください。

コントローラ定義ファイルの記述形式を次に示します。日本語を使用するには、xml 宣言文の encoding 属性に文字コードを指定する必要があります。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<registry>
  <portlet-controller-entry name="TwoColumns">
    <parameter name="sizes" value="small,large" />
    <parameter name="cols" value="2" />
    <meta-info>
      <title>Two columns (30/70)</title>
    </meta-info>
  </portlet-controller-entry>

  <property>
    <parameter name="maxRow" value="3" />
    <parameter name="maxCol" value="2" />
  </property>

  <size>
    <parameter name="small" value="30%" />
    <parameter name="large" value="70%" />
  </size>
</registry>
```

10. 設定ファイルとコマンド

コントローラの定義ファイルの設定項目と内容を次の表に示します。

表 10-30 コントローラ定義ファイルの設定項目と内容

設定項目	設定内容
<i>registry</i>	コントローラを定義します。parameter name の value で指定する値は、size タグのエレメントを指定してください。
<i>portlet-controller-entry</i>	各コントローラを定義します。
<i>meta-info</i>	コントローラに関する情報を定義します。portlet-controller-entry タグのエレメントとして指定されます。
<i>parameter</i>	コントローラに関する情報を定義します。portlet-controller-entry タグのエレメントとして指定されます。
<i>property</i>	プロパティを定義します。
<i>parameter</i>	プロパティに関する情報を定義します。property タグのエレメントとして指定されます。
<i>size</i>	横幅サイズを定義します。
<i>parameter</i>	横幅サイズに関する情報を定義します。size タグのエレメントとして指定されます。なお、サイズはピクセルまたはパーセントのどちらかで指定します。

10.3 uCosminexus Portal Framework のコマンド

uCosminexus Portal Framework では次のコマンドを提供しています。

コマンド	機能
adportlet.bat	ポータルプロジェクトに日立 API ポートレット (PAR 形式) をデプロイします。
adportletapp.bat	J2EE サーバモードの場合, Web コンテナに標準 API ポートレットをデプロイします。
makeapp.bat	標準 API ポートレットのポートレットアプリケーションファイル (WAR 形式) から, J2EE アプリケーションファイル (EAR 形式) または web アプリケーションファイル (WAR 形式) を生成します。
makepj.bat	ポータルプロジェクトを作成します。
makewar.bat	ポータルプロジェクトの WAR ファイルを作成します。
pmsetup.bat	Portal Manager を Cosminexus Component Container の Web コンテナにデプロイします。
rmportlet.bat	ポータルプロジェクトから日立 API ポートレット (PAR 形式) をアンデプロイします。
rmportletapp.bat	J2EE サーバモードの場合, Web コンテナから標準 API ポートレットをアンデプロイします。

コマンドを使用する前に必要な設定

コマンドを使用する場合, 次の設定をしておく必要があります。

Cosminexus の設定

Cosminexus の環境を構築してください。構築方法の詳細は, マニュアル「Cosminexus アプリケーションサーバ V8 機能解説 基本・開発編 (Web コンテナ)」, またはマニュアル「Cosminexus V9 アプリケーションサーバ 機能解説 基本・開発編 (Web コンテナ)」を参照してください。

環境変数の設定

次の環境変数が設定されていない場合は, 設定してください。環境変数の設定方法については「2.2 環境変数の設定」を参照してください。

- JAVA_HOME
- COSMINEXUS_HOME
- PORTAL_INSTALLDIR
- COSMINEXUS_PORTAL_CLASSPATH

各コマンドの詳細を次に説明します。

adportlet.bat

形式

```
adportlet.bat [-a|-d] [-p <ポータルプロジェクトへのパス>]
               <PARファイル>
```

機能

ポータルプロジェクトに日立 API ポートレットをデプロイします。ポートレットはポートレットアーカイブ (PAR ファイル) を指定します。デプロイ先は直接指定するか、または Portal Manager が管理しているすべてのプロジェクトにするかのどちらかを選択できます。

オプション

-a

同一ポートレット名称が存在した場合、上書きします。

-d

同一ポートレット名称が存在した場合、上書きしません。このオプションがデフォルトです。

-p <ポータルプロジェクトへのパス>

デプロイ先のポータルプロジェクトへのパスをフルパスで指定します。省略した場合、Portal Manager が管理しているすべてのプロジェクトにデプロイされます。

<PAR ファイル>

デプロイするポートレットアーカイブ (PAR ファイル) へのパスをフルパスで指定します。このオプションの指定は必須です。

戻り値

0: 正常終了

1: 異常終了 (デプロイに失敗)

注意事項

このコマンドを使用するには、次の環境変数が設定されている必要があります。

JAVA_HOME, PORTAL_INSTALLDIR, COSMINEXUS_PORTAL_CLASSPATH

また、設定ファイル格納ディレクトリを Java システムプロパティで設定している場合は、このコマンドを使用するときに、次の環境変数に Java システムプロパティの指定を行ってください。

COSMINEXUS_PORTAL_JAVA_OPT

指定例


```
set
COSMINEXUS_PORTAL_JAVA_OPT=-Dhpt1.turbineresources.key.project1="C
:/Program Files/Hitachi/CosmiPortal/conf/
TurbineResources.properties"
```

adportletapp.bat

形式

```
adportletapp.bat [-n <アプリケーションファイル名称>]
                 -c <デプロイ先Webコンテナ名称>
                 [-nameserver <プロバイダURL>]
                 <ポートレットアプリケーションファイル>
```

機能

標準 API ポートレットのポートレットアプリケーションファイル (WAR 形式) から J2EE アプリケーションファイル (EAR 形式ファイル) を生成し, Web コンテナにデプロイします。ポートレットアプリケーションファイルは WAR 形式のファイルを指定し, デプロイ先は直接指定します。作成後, EAR ファイルは削除されます。

オプション

-n <アプリケーションファイル名称>

生成する J2EE アプリケーションファイル (EAR 形式) のアプリケーションファイル名称を指定します。省略した場合は, 入力したポートレットアプリケーションのファイル名 (拡張子は除く) になります。

-c <デプロイ先 Web コンテナ名称>

デプロイ先の Web コンテナ名称を指定します。このオプションの指定は必須です。

-nameserver <プロバイダ URL>

CORBA ネーミングサービスへのアクセスプロトコル, CORBA ネーミングサービスが稼働しているホスト名, および使用しているポート番号を次に示す形式で指定します。

<プロトコル名称>:::<ホスト名称>:<ポート番号>

詳細は, マニュアル「Cosminexus アプリケーションサーバ V8 リファレンス コマンド編」, またはマニュアル「Cosminexus V9 アプリケーションサーバ リファレンス コマンド編」の「J2EE サーバで使用するコマンド」の説明を参照してください。

<ポートレットアプリケーションファイル>

デプロイする WAR ファイルへのパスをフルパスで指定します。このオプションの指定は必須です。

戻り値

0 : 正常終了

1 : 異常終了 (デプロイに失敗)

注意事項

このコマンドを使用するには、次の環境変数が設定されている必要があります。

JAVA_HOME , PORTAL_INSTALLDIR , COSMINEXUS_PORTAL_CLASSPATH ,
COSMINEXUS_HOME

makeapp.bat

形式

```
makeapp.bat [ -n <アプリケーションファイル名称> ]  
            [ -d <EAR/WARファイル出力先ディレクトリ> ]  
            [ -w ]  
            <ポートレットアプリケーションファイル>
```

機能

標準 API ポートレットのポートレットアプリケーションファイル (WAR 形式) から、デプロイ用の J2EE アプリケーションファイル (EAR 形式)、または web アプリケーションファイル (WAR 形式) を生成します。

オプション

-n <アプリケーションファイル名称>

生成する J2EE アプリケーションファイル (EAR 形式) のアプリケーションファイル名称を指定します。省略した場合は、入力したポートレットアプリケーションのファイル名 (拡張子は除く) になります。

-d <EAR/WAR ファイル出力先ディレクトリ>

生成するアプリケーションファイルの出力先ディレクトリを指定します。省略した場合は、コマンドを実行したカレントディレクトリになります。

-w

WAR 形式の web アプリケーションファイルを生成します。

<ポートレットアプリケーションファイル>

デプロイするポートレットアプリケーションファイル (WAR 形式) へのパスをフルパスで指定します。このオプションの指定は必須です。

戻り値

0 : 正常終了

1: 異常終了 (アプリケーションファイルの生成に失敗)

注意事項

このコマンドを使用するには、次の環境変数が設定されている必要があります。

JAVA_HOME, PORTAL_INSTALLDIR, COSMINEXUS_PORTAL_CLASSPATH,
COSMINEXUS_HOME

makepj.bat

形式

```
makepj.bat [-a|-d] [-p <ポータルプロジェクトへのパス>]
           [-w <Webコンテナ名称>] [-n <Webアプリケーション名称>]
```

機能

ポータルプロジェクトを作成します。

オプション

-a

指定されたパスにディレクトリが存在した場合、上書きします。

-d

指定されたパスにディレクトリが存在した場合、処理を中止します。このオプションがデフォルトです。

-p <ポータルプロジェクトへのパス>

プロジェクトを生成するパスをフルパスで指定します。

-w <Web コンテナ名称>

プロジェクトを生成する Cosminexus の Web アプリケーションサーバの Web コンテナ名称です。省略時はホスト名称が使用されます。

-p オプション指定がある場合は無視されます。

-n <Web アプリケーション名称>

プロジェクトを生成する Web アプリケーション名称です。省略時は "portal" が使用されます。

-p オプション指定がある場合は無視されます。

戻り値

0: 正常終了

1: 異常終了 (プロジェクト生成に失敗)

注意事項

このコマンドを使用するには、次の環境変数が設定されている必要があります。

JAVA_HOME, COSMINEXUS_HOME, PORTAL_INSTALLDIR,
COSMINEXUS_PORTAL_CLASSPATH

makewar.bat

形式

makewar.bat <作成するWARファイルへのパス> <ポータルプロジェクトへのパス>

機能

ポータルプロジェクトの WAR ファイルを作成します。

戻り値

なし

注意事項

このコマンドを使用するには、次の環境変数が設定されている必要があります。

JAVA_HOME

pmsetup.bat

形式

pmsetup.bat [-a | -d] [-w <Webコンテナ名称>] [-n <Webアプリケーション名称>]

機能

Portal Manager を Cosminexus の Web アプリケーションサーバの Web コンテナにデプロイします。

オプション

-a

指定されたパスにディレクトリが存在した場合、上書きします。

-d

指定されたパスにディレクトリが存在した場合、処理を中止します。このオプションがデフォルトです。

-w <Web コンテナ名称 >

プロジェクトを生成する Cosminexus の Web アプリケーションサーバの Web コンテナ名称です。省略すると "portaladmin" が使用されます。

-n <Web アプリケーション名称 >

プロジェクトを生成する Web アプリケーション名称です。省略すると "PortalSetup" が使用されます。

戻り値

0 : 正常終了

1 : 異常終了 (プロジェクト生成に失敗)

注意事項

このコマンドを使用するには、次の環境変数が設定されている必要があります。

JAVA_HOME, COSMINEXUS_HOME, PORTAL_INSTALLDIR,
COSMINEXUS_PORTAL_CLASSPATH

rmportlet.bat

形式

```
rmportlet.bat [-p <ポータルプロジェクトへのパス>]
               <ポートレット名称>
```

機能

ポータルプロジェクトから日立 API ポートレットをアンデプロイします。アンデプロイするポートレットはデプロイされたポートレットだけです。Portal Manager のポートレットの設定で登録したポートレットは、アンデプロイできません。

オプション

-p <ポータルプロジェクトへのパス >

ポートレットがデプロイされているポータルプロジェクトへのパスをフルパスで指定します。指定を省略した場合、Portal Manager が管理しているプロジェクトすべてがアンデプロイ対象になります。

<ポートレット名称 >

アンデプロイするポートレットの名称を指定します。このオプションの指定は必須です。

戻り値

0 : 正常終了

1 : 異常終了 (アンデプロイに失敗)

注意事項

このコマンドを使用するには、次の環境変数が設定されている必要があります。

JAVA_HOME, PORTAL_INSTALLDIR, COSMINEXUS_PORTAL_CLASSPATH

また、設定ファイル格納ディレクトリを Java システムプロパティで設定している場合は、このコマンドを使用するときに、次の環境変数に Java システムプロパティの指定を行ってください。

COSMINEXUS_PORTAL_JAVA_OPT

指定例

```
set
COSMINEXUS_PORTAL_JAVA_OPT=-Dhptl.turbineresources.key.project1="C
:/Program Files/Hitachi/CosmiPortal/conf/
TurbineResources.properties"
```

rmportletapp.bat

形式

```
rmportletapp.bat [ -n <アプリケーションファイル名称> ]
                  -c <アンデプロイ対象Webコンテナ名称>
                  [ -nameserver <プロバイダURL> ]
```

機能

Web コンテナから標準 API ポートレットをアンデプロイします。

オプション

-n <アプリケーションファイル名称>

アンデプロイするポートレットの名称を指定します。このオプションの指定は必須です。

-c <アンデプロイ対象 Web コンテナ名称>

ポートレットをアンデプロイする Web コンテナサーバ名称を指定します。このオプションの指定は必須です。

-nameserver <プロバイダ URL>

CORBA ネーミングサービスへのアクセスプロトコル, CORBA ネーミングサービスが稼働しているホスト名, および使用しているポート番号を次に示す形式で指定します。

<プロトコル名称>::<ホスト名称>:<ポート番号>

詳細は、マニュアル「Cosminexus アプリケーションサーバ V8 リファレンス コマンド編」、またはマニュアル「Cosminexus V9 アプリケーションサーバ リ

ファレンス コマンド編」の「J2EE サーバで使用するコマンド」の説明を参照してください。

戻り値

0：正常終了

1：異常終了（アンデプロイに失敗）

注意事項

このコマンドを使用するには、次の環境変数が設定されている必要があります。

JAVA_HOME , PORTAL_INSTALLDIR , COSMINEXUS_PORTAL_CLASSPATH ,
COSMINEXUS_HOME

付録

付録 A 自動デプロイされたポータルレットのセキュリティ向上方法

付録 B uCosminexus Portal Framework のアンインストール

付録 C バージョンアップ手順

付録 D Collaboration - Online Community Management を使用する場合の設定

付録 E メッセージ

付録 F 監査ログメッセージ

付録 G 各バージョンの変更内容

付録 H このマニュアルの参考情報

付録 I 用語解説

付録 A 自動デプロイされたポートレットのセキュリティ向上方法

ポートレットの自動デプロイによって生成されるディレクトリは、HTTP 経由でクライアントから参照できるようになっています。このため、このディレクトリ内に重要な情報を格納している場合、悪意を持ったユーザに情報が取得される危険性があります。

ここでは、Web アプリケーション DD (web.xml) へ設定を追加し、自動デプロイされたポートレットのセキュリティを向上させる方法について説明します。

自動デプロイされたポートレットの関連ファイルが生成されるディレクトリは次のとおりです。

自動デプロイされたポートレットの関連ファイルが生成されるディレクトリ

```
{PROJECT_HOME}¥adportlet¥< ポートレット名称 >
```

このディレクトリの PORTLET-INF ディレクトリに格納されているファイルをクライアントから直接参照されないようにするために、{PROJECT_HOME}¥WEB-INF に格納されている Web アプリケーション DD (web.xml) に次の記述を追加してください。

```
<security-constraint>
  <web-resource-collection>
    <web-resource-name>ポートレット名</web-resource-name>
    <url-pattern>/adportlets/ポートレット名/PORTLET-INF/*</url-pattern>
    <http-method>GET</http-method>
    <http-method>POST</http-method>
  </web-resource-collection>
  <auth-constraint>
    <role-name>dummy</role-name>
  </auth-constraint>
  <user-data-constraint>
    <transport-guarantee>NONE</transport-guarantee>
  </user-data-constraint>
</security-constraint>

<login-config>
  <auth-method>BASIC</auth-method>
</login-config>
```

設定時は、次の点に注意してください。

- 設定は、ポータルをインストールした直後に行ってください。
- 追加する記述は、Web アプリケーション DD (web.xml) 内の次に示すタグのうち、最初に記載されているものの直前に記載してください。
 - <security-role>
 - <env-entry>
 - <ejb-ref>
 - <ejb-local-ref>

- `</web-app>`
- 上記の枠で囲んだ部分を 1 単位として、自動デプロイされたポートレット数分だけ記載してください。また、太字の部分は、実際のポートレット名に置き換えてください。

Web アプリケーション DD (web.xml) の記載例を以下に示します。

自動デプロイされたポートレットが PortletA および PortletB のポートレットとし、各ポートレットは PORTLET-INF を持つ場合の記載例です。

```

</xml version="1.0" encoding="ISO-8859-1"?>
<!DOCTYPE web-app
PUBLIC "-//Sun Microsystems, Inc.//DTD Web Application 2.2//EN"
"http://java.sun.com/j2ee/dtds/web-app_2.2.dtd">

<web-app>
  <servlet>
    <servlet-name>
      jetspeed
    </servlet-name>
    :
    :
  </taglib>
  <security-constraint>
    <web-resource-collection>
      <web-resource-name>portletA/web-resource-name>
      <url-pattern>/adportlets/portletA/PORTLET-INF/*</url-pattern>
      <http-method>GET</http-method>
      <http-method>POST</http-method>
    </web-resource-collection>
    <web-resource-collection>
      <web-resource-name>portletB/web-resource-name>
      <url-pattern>/adportlets/portletB/PORTLET-INF/*</url-pattern>
      <http-method>GET</http-method>
      <http-method>POST</http-method>
    </web-resource-collection>
    <auth-constraint>
      <role-name>dummy</role-name>
    </auth-constraint>
    <user-data-constraint>
      <transport-guarantee>NONE</transport-guarantee>
    </user-data-constraint>
  </security-constraint>

  <login-config>
    <auth-method>BASIC</auth-method>
  </login-config>
</web-app>

```

付録 B uCosminexus Portal Framework のアンインストール

uCosminexus Portal Framework をアンインストールするには、[コントロールパネル] - [アプリケーションの追加と削除] から、uCosminexus Portal Framework を削除します。

アンインストール時には、インストールディレクトリ下のファイルが削除されます。設定ファイルも削除されるため、バージョンアップする場合は、必ず次のディレクトリのコピーを取得してからアンインストールしてください。

- { 設定ファイル格納ディレクトリ } ¹
- { ポートレット配置情報ファイル格納ディレクトリ } ²

注 1

デフォルトでは、次のディレクトリです。

{uCosminexus Portal Framework インストールディレクトリ}¥conf

注 2

デフォルトでは、次のディレクトリです。

{uCosminexus Portal Framework インストールディレクトリ}¥psml

なお、{PROJECT_HOME} 下のファイルや {uCosminexus Portal Framework インストールディレクトリ} 下に作成したファイルは削除されません。削除できなかったファイル名はメッセージで表示されます。

また、バージョンアップする場合など、uCosminexus Portal Framework をアンインストール後に再度インストールする場合、Portal Manager をセットアップし直す必要があります。Portal Manager のセットアップ方法については、「2.3 Portal Manager のセットアップ」を参照してください。また、バージョンアップする場合の手順については、「付録 C バージョンアップ手順」を参照してください。

付録 C バージョンアップ手順

ここでは、バージョンアップ手順について説明します。

次の表に、バージョンアップに必要な作業を示します。現在ご利用中の uCosminexus Portal Framework のバージョンに必要な作業を、項番の順に実施してください。各作業の詳細は、表の参照先欄に示されている章節項を参照してください。

表 C-1 バージョンアップ作業の流れ

項番	作業	現在利用中の uCosminexus Portal Framework のバージョン							参照先
		06-00	06-10	06-11	06-20	06-30	07-00	07-01以降	
1	ポータルサーバの停止								8.1
2	現在のディレクトリのバックアップ								C.1
3	現在利用しているバージョンの uCosminexus Portal Framework のアンインストール							-	付録 B
4	最新バージョンの uCosminexus Portal Framework のインストール								- 1
5	Portal Manager のセットアップ								2.3
6	ポータルプロジェクトディレクトリの更新								C.2
7	設定ファイルやテンプレート、デプロイしたポートレットなどの移行								C.3
8	環境設定の見直し								C.4
9	DB の移行 ²		-	-	-	-	-	-	C.5
10	表示属性を使用するための設定 ²				-	-	-	-	C.6
11	ポートレットグループを使用するための設定 ²						-	-	C.7

項番	作業	現在利用中の uCosminexus Portal Framework のバージョン							参照先
		06-00	06-10	06-11	06-20	06-30	07-00	07-01以降	
1 2	Web コンテンツ ポータルレットを使用するための設定 ²						-	-	C.8
1 3	アクセス権の移行 ³			-	-	-	-	-	C.9
1 4	設定ファイルのエンコーディングの変更					-	-	-	C.10
1 5	ポータルレットグループの移行						-	-	C.11
1 6	設定ファイル格納ディレクトリの見直し			-	-	-	-	-	C.12
1 7	管理者用レイアウトカスタマイズポータルレットの削除							-	C.13
1 8	ポータルサーバの起動								8.1
1 9	製品名称の変更			-	-	-	-	-	C.14

(凡例)

- : 必須の作業
- : 任意の作業
- : 該当しない作業

注 1

uCosminexus Portal Framework のインストール方法については、製品付属のドキュメントを参照してください。

注 2

共通情報を使用している場合だけ、必要な作業です。

注 3

Collaboration - Online Community Management を使用している場合だけ、必要な作業です。

! 注意事項

uCosminexus Portal Framework 06-10 で URL の記述方法が変更されています。このため、uCosminexus Portal Framework 06-00 からバージョンアップする場合で、Cosminexus Portal Framework が提供する API を使用しないでポータルサーバのトップページ以外に直接リンクをしているときは、リンクの URL を見直してください。

付録 C.1 現在のディレクトリのバックアップ

バージョンアップする場合、まず、現在のディレクトリをバックアップします。

現在ご利用中の uCosminexus Portal Framework のバージョンが 06-10 以前か、06-11 以降かによって、バックアップする必要のあるディレクトリは異なります。

それぞれについて説明します。

(1) Cosminexus Portal Framework 06-10 以前のバージョンからバージョンアップする場合

{PROJECT_HOME} をバックアップしてください。

(2) uCosminexus Portal Framework 06-11 以降のバージョンからバージョンアップする場合

次のディレクトリをバックアップしてください。

- {PROJECT_HOME}
- {設定ファイル格納ディレクトリ} ¹
- {ポートレット配置情報ファイルディレクトリ} ²

注 1

デフォルトでは、次のディレクトリです。

{uCosminexus Portal Framework インストールディレクトリ}¥conf

注 2

デフォルトでは、次のディレクトリです。

{uCosminexus Portal Framework インストールディレクトリ}¥psml

付録 C.2 ポータルプロジェクトディレクトリの更新

ポータルプロジェクトディレクトリを、最新バージョンの情報に更新します。また、デザインテンプレートを使用する場合は、このときに設定します。デザインテンプレートの設定方法については、「5.2.3(2)(b) デザインテンプレートの設定方法」を参照してください。

現在ご利用中の uCosminexus Portal Framework のバージョンが 06-10 以前か、06-11

以降かによって、更新するポータルプロジェクトディレクトリは異なります。

それぞれについて説明します。

(1) Cosminexus Portal Framework 06-10 以前のバージョンからバージョンアップする場合

更新するポータルプロジェクトディレクトリを次の表に示します。項番の順に、コピー元ディレクトリの内容を、コピー先ディレクトリに上書きコピーしてください。

表 C-2 更新するポータルプロジェクトディレクトリ (Cosminexus Portal Framework 06-10 以前のバージョンからバージョンアップする場合)

項番	コピー元ディレクトリ	コピー先ディレクトリ
1	{uCosminexus Portal Framework インストールディレクトリ}¥webapp 配下	{PROJECT_HOME}
2	{uCosminexus Portal Framework インストールディレクトリ}¥conf 配下	{PROJECT_HOME}¥WEB-INF¥conf

(2) uCosminexus Portal Framework 06-11 以降のバージョンからバージョンアップする場合

更新するポータルプロジェクトディレクトリを次の表に示します。コピー元ディレクトリの内容を、コピー先ディレクトリに上書きコピーしてください。

表 C-3 更新するポータルプロジェクトディレクトリ (uCosminexus Portal Framework 06-11 以降のバージョンからバージョンアップする場合)

項番	コピー元ディレクトリ	コピー先ディレクトリ
1	{uCosminexus Portal Framework インストールディレクトリ}¥webapp 配下	{PROJECT_HOME}
2	{uCosminexus Portal Framework インストールディレクトリ}¥conf 配下	{設定ファイル格納ディレクトリ}

付録 C.3 設定ファイルなどの移行

これまでに使用していた設定ファイルやテンプレート、デプロイしたポートレットなどを、最新バージョンの情報に更新したポータルプロジェクトディレクトリに移行します。

現在ご利用中の uCosminexus Portal Framework のバージョンが 06-10 以前か、06-11 以降かによって、移行する内容は異なります。

それぞれについて説明します。

(1) Cosminexus Portal Framework 06-10 以前のバージョンからバージョンアップする場合

移行する内容は次のとおりです。

設定ファイルおよびライブラリファイル

これまで使用していた次のファイルおよびディレクトリを、{PROJECT_HOME} 配下の同じディレクトリにコピーしてください。

- {PROJECT_HOME}¥WEB-INF¥conf 配下の次のファイル
 - controllers.xml
 - datasources.properties
 - EmPowerment.xml
 - forbase-auth.cfg
 - jetspeed-config.jcfg
 - JetspeedResources.properties
 - PortalResources.properties
 - PortletGroup.xml
 - Repository.xml
 - UserAgentType.xml
- {PROJECT_HOME}¥WEB-INF¥web.xml
- {PROJECT_HOME}¥WEB-INF¥lib 配下に格納したユーザ定義ライブラリ
- {PROJECT_HOME}¥WEB-INF¥psml 配下のすべてのファイルおよびディレクトリ

レイアウトテンプレート

テンプレートファイルを編集している場合、編集内容を反映する場合は次のファイルに編集内容を反映してください。

- PC 用

```
{PROJECT_HOME}¥WEB-INF¥templates¥jsp¥layouts¥html¥default.jsp
```

- iモード用

```
{PROJECT_HOME}¥WEB-INF¥templates¥jsp¥layouts¥html¥default.jsp
```

- EZweb 用

```
{PROJECT_HOME}¥WEB-INF¥templates¥jsp¥layouts¥html¥default.jsp
```

ナビゲーションテンプレート

テンプレートファイルを編集している場合、編集内容を反映する場合は次のディレクトリ配下のファイルに編集内容を反映してください。

```
{PROJECT_HOME}¥WEB-INF¥templates¥jsp¥navigations
```

ポートレットテンプレート

テンプレートファイルを編集している場合、編集内容を反映する場合は次のディレクトリ配下のファイルに編集内容を反映してください。

{PROJECT_HOME}¥WEB-INF¥templates¥jsp¥controls¥html

上記以外のテンプレート

次のディレクトリのテンプレートを編集している場合も、同様に編集内容を反映してください。

- {PROJECT_HOME}¥WEB-INF¥templates¥jsp¥actions
- {PROJECT_HOME}¥WEB-INF¥templates¥jsp¥controllers
- {PROJECT_HOME}¥WEB-INF¥templates¥jsp¥errors
- {PROJECT_HOME}¥WEB-INF¥templates¥jsp¥login-logout
- {PROJECT_HOME}¥WEB-INF¥templates¥jsp¥screens

デプロイしたポートレット

次のディレクトリにデプロイしているポートレットの定義ファイルおよびディレクトリ構成をコピーします ({PROJECT_HOME}¥portlets 内にすでにあるディレクトリを除く)

- {PROJECT_HOME}¥adportlets
- {PROJECT_HOME}¥portlets

ただし、{PROJECT_HOME}¥portlets 内にある次のディレクトリは除きます。

- {PROJECT_HOME}¥portlets¥navigationmenu
- {PROJECT_HOME}¥portlets¥portaladmin
- {PROJECT_HOME}¥portlets¥portaloperation
- {PROJECT_HOME}¥portlets¥portalsection

また、標準 API ポートレットをデプロイして使用している場合は、makeapp.bat コマンドまたは adportletapp.bat コマンドを使用し標準 API ポートレットを再デプロイしてください。

(2) uCosminexus Portal Framework 06-11 以降のバージョンからバージョンアップする場合

{PROJECT_HOME} 配下に移行するもの、{設定ファイル格納ディレクトリ} 配下に移行するもの、および {ポートレット配置情報ファイル格納ディレクトリ} 配下に移行するものがあります。それぞれについて説明します。

(a) {PROJECT_HOME} 配下に移行するもの

移行する内容は次のとおりです。

設定ファイルおよびライブラリファイル

次のファイルを、{PROJECT_HOME} 配下にコピーしてください。

- {PROJECT_HOME}¥WEB-INF¥web.xml
- {PROJECT_HOME}¥WEB-INF¥lib 配下に格納したユーザ定義ライブラリ

レイアウトテンプレート

テンプレートファイルを編集している場合、編集内容を反映する場合は次のファイルに編集内容を反映してください。

- PC 用

```
{PROJECT_HOME}¥WEB-INF¥templates¥jsp¥layouts¥html¥default.jsp
```

- i モード用

```
{PROJECT_HOME}¥WEB-INF¥templates¥jsp¥layouts¥html¥default.jsp
```

- EZweb 用

```
{PROJECT_HOME}¥WEB-INF¥templates¥jsp¥layouts¥html¥default.jsp
```

ナビゲーションテンプレート

テンプレートファイルを編集している場合、編集内容を反映する場合は次のディレクトリ配下のファイルに編集内容を反映してください。

```
{PROJECT_HOME}¥WEB-INF¥templates¥jsp¥navigations
```

ポートレットテンプレート

テンプレートファイルを編集している場合、編集内容を反映する場合は次のディレクトリ配下のファイルに編集内容を反映してください。

```
{PROJECT_HOME}¥WEB-INF¥templates¥jsp¥controls¥html
```

上記以外のテンプレート

次のディレクトリのテンプレートを編集している場合も、同様に編集内容を反映してください。

- {PROJECT_HOME}¥WEB-INF¥templates¥jsp¥actions
- {PROJECT_HOME}¥WEB-INF¥templates¥jsp¥controllers
- {PROJECT_HOME}¥WEB-INF¥templates¥jsp¥errors
- {PROJECT_HOME}¥WEB-INF¥templates¥jsp¥login-logout
- {PROJECT_HOME}¥WEB-INF¥templates¥jsp¥screens

デプロイしたポートレット

次のディレクトリにデプロイしているポートレットの定義ファイルおよびディレクトリ構成をコピーします。

- {PROJECT_HOME}¥adportlets
- {PROJECT_HOME}¥portlets

ただし、{PROJECT_HOME}¥portlets 内にある次のディレクトリは除きます。

- {PROJECT_HOME}¥portlets¥navigationmenu
- {PROJECT_HOME}¥portlets¥portaladmin
- {PROJECT_HOME}¥portlets¥portaloperation
- {PROJECT_HOME}¥portlets¥portalsection

(b) 設定ファイル格納ディレクトリに移行するもの

次のファイルを、{設定ファイル格納ディレクトリ}配下にコピーしてください。

設定ファイル

{設定ファイル格納ディレクトリ}配下の次のファイル

- controllers.xml
- forbase-auth.cfg
- EmPowerment.xml
- jetspeed-config.jcfg
- JetspeedResources.properties
- PortalResources.properties
- Repository.xml
- UserAgentType.xml
- portletarrange.xml
- componentParameters.xml
- PortletApp.properties

(c) ポートレット配置情報ファイル格納ディレクトリに移行するもの

次のファイルを、{ポートレット配置情報ファイル格納ディレクトリ}配下にコピーしてください。

ポートレット配置情報ファイル (PSML ファイル)

{ポートレット配置情報格納ディレクトリ}配下のすべてのファイルおよびディレクトリ

付録 C.4 環境設定の見直し

環境設定を見直すための作業について説明します。

現在ご利用のバージョンごとに、実施する必要がある作業を示します。

表 C-4 環境設定を見直すための作業

項番	作業	現在利用中の uCosminexus Portal Framework のバージョン				
		06-00 06-10	06-11 06-20 06-30	07-00 07-01 07-10 07-11	07-50	07-60 以降
1	PortalResources.properties の変更					-
2	jetspeed-config.jcfg の変更				-	-
3	web.xml の変更				-	-
4	クラスパスの設定			-	-	-

項番	作業	現在利用中の uCosminexus Portal Framework のバージョン				
		06-00 06-10	06-11 06-20 06-30	07-00 07-01 07-10 07-11	07-50	07-60 以降
5	セキュリティポリシーの変更			-	-	-
6	DB の接続情報の設定		-	-	-	-

(凡例)

: 必須の作業

- : 該当しない作業

注

ユーザ情報 DB に Oracle を使用している場合だけ、必要な作業です。

各作業について説明します。

(1) PortalResources.properties の変更

uCosminexus Portal Framework 06-20 以前のバージョンからバージョンアップする場合は、PortalResource.properties に必要な記述を追加します。

PortalResource.properties の格納ディレクトリは、次のとおりです。

Cosminexus Portal Framework 06-10 以前のバージョンからのバージョンアップの場合

```
{PROJECT_HOME}¥WEB-INF¥conf
```

uCosminexus Portal Framework 06-11 以降のバージョンからのバージョンアップの場合

```
{設定ファイル格納ディレクトリ}
```

追加する記述を次に示します。

表 C-5 PortalResources.properties に追加する記述

項番	追加する記述
1	<code>jp.co.hitachi.soft.portal.layout.outside.padding.without=true</code>
2	<code>jp.co.hitachi.soft.portal.modules.screens.Error.layoutmax=LayoutMaxError.jsp</code> <code>jp.co.hitachi.soft.portal.access.psm1.dir=/WEB-INF/psml/</code> <code>jp.co.hitachi.soft.portal.resources.dir=\${webapp.dir}/WEB-INF/conf</code> <code>jp.co.hitachi.soft.portal.webapp.formbase.cfg=\${config.dir}/formbase-auth.cfg</code> <code>jp.co.hitachi.soft.portal.util.log.OptionDelimiter=" "</code> <code>jp.co.hitachi.soft.portal.csdc.datasize.threshold=32000</code> <code>jp.co.hitachi.soft.portal.csdc.datatype.userData=true</code> <code>jp.co.hitachi.soft.portal.layout.default.maxdisplays=50</code> <code>jp.co.hitachi.doft.portal.directaccess.postdata.size=2097152</code>
3	<code>jp.co.hitachi.soft.portal.services.portletarrange.filename=\${config.dir}/portletarrange.xml</code>

項番	追加する記述
4	<pre>jp.co.hitachi.soft.portal.modules.screens.Error.jp.co.hitachi.soft.portal.util.servlet.LogoutWaitException=WaitLogout.jsp jp.co.hitachi.soft.portal.modules.screens.Error.jp.co.hitachi.soft.portal.util.servlet.LoginWaitException=WaitLogin.jsp</pre>
5	<pre>jp.co.hitachi.soft.portal.api.webapi.define.file=\${config.dir}/webapi.xml jp.co.hitachi.soft.portal.portlets.filter.definition=\${config.dir}/portlet_filter.xml jp.co.hitachi.soft.portal.portlets.filter.enabled=false jp.co.hitachi.soft.portal.xml.api.datatypedef=\${config.dir}/data_put_definition.xml</pre>
6	<pre>jp.co.hitachi.soft.portal.util.log.auditlog.enable=false jp.co.hitachi.soft.portal.util.log.auditlog.filter= jp.co.hitachi.soft.portal.util.log.auditlog.FileName=\${webapp.dir}/WEB-INF/log/audit jp.co.hitachi.soft.portal.util.log.auditlog.ControllFileName=\${webapp.dir}/WEB-INF/log/audit.conf jp.co.hitachi.soft.portal.util.log.auditlog.message=ERR,WARN,INFO jp.co.hitachi.soft.portal.util.log.auditlog.FileSize=10485760 jp.co.hitachi.soft.portal.util.log.auditlog.FileNum=4</pre>

注

「=」の右側の値は、半角ダブルコーテーション、半角スペース、半角ダブルコーテーションです。

現在ご利用のバージョンによって、追加する記述の範囲が異なります。次に、現在ご利用のバージョンごとに、追加する必要がある記述の範囲を示します。

表 C-6 PortalResource.properties に追加する必要がある記述

表 C-5 の項番	現在利用中の uCosminexus Portal Framework のバージョン					
	06-00	06-10	06-11	06-20	06-30 07-00 07-01 07-10 07-11	07-50
1		-	-	-	-	-
2			-	-	-	-
3				-	-	-
4					-	-
5						-
6						

(凡例) : 必須 - : 該当しない

(2) jetspeed-config.jcfg の変更

jetspeed-config.jcfg ファイルの記述を変更します。

jetspeed-config.jcfg ファイルの格納ディレクトリは、次のとおりです。

Cosminexus Portal Framework 06-10 以前のバージョンからのバージョンアップの場合

```
{PROJECT_HOME}¥WEB-INF¥conf
```

uCosminexus Portal Framework 06-11 以降のバージョンからのバージョンアップの場合

```
{ 設定ファイル格納ディレクトリ }
```

(a) 07-00 以前のバージョンから移行する場合

name 属性の値が「MultiJSP」となっている <portlet-entry> 要素の終了タグのあとに、次の記述を追加します。

```
<portlet-entry type="abstract" name="HPTLSTD" hidden="false">
  <classname>
    jp.co.hitachi.soft.portal.portal.portlets.StandardPortlet
  </classname>
</portlet-entry>

<portlet-entry type="abstract" name="hptlComponent" >
  <classname>
    jp.co.hitachi.soft.portal.portal.portlets.ComponentPortlet
  </classname>
</portlet-entry>
<portlet-entry type="ref" parent="hptlComponent"
name="hptlParsedHTML">
  <url></url>
  <parameter name="hptl.ComponentPortlet.ComponentDefFile"
value="\${config.dir}/ComponentDef.xml" />
  <parameter name="hptl.template.portlet" value="true" />
  <meta-info>
    <title>ParsedHTML</title>
    <description>コンテンツのリンクを切り出して一覧表示を行います。動的コンテ
ンツのキャッシュを制御する場合に使用します。</description>
  </meta-info>
</portlet-entry>

<portlet-entry type="ref" parent="hptlComponent"
name="hptlParsedStaticHTML">
  <url></url>
  <parameter name="hptl.ComponentPortlet.ComponentDefFile"
value="\${config.dir}/ComponentDef_SystemCache.xml" />
  <parameter name="hptl.template.portlet" value="true" />
  <meta-info>
    <title>ParsedStaticHTML</title>
    <description>コンテンツのリンクを切り出して一覧表示を行います。静的コンテ
ンツのキャッシュを制御する場合に使用します。</description>
  </meta-info>
</portlet-entry>
```

また、次のとおり記述を変更します。記述中の太字部分を追加してください。

変更前の記述

```
<portlet-entry application="false" admin="false"
parent="MultiJSP" hidden="false" type="ref"
name="PortalOperator">
  <url>/portlets/portaloperation/index.xml</url>
  <meta-info>
    <title>運用管理ポータル</title>
    <description>運用管理を実施するためのポータルです。</
description>
```

```

    </meta-info>
  </portlet-entry>

```

変更後の記述

```

<portlet-entry application="false" admin="false"
parent="MultiJSP" hidden="false" type="ref"
name="PortalOperator">
  <url>/portlets/portaloperation/index.xml</url>
  <parameter name="hptl.module.action"
value="jp.co.hitachi.soft.portal.api.operation.PortalOperationActionModule"/>
  <parameter name="hptl.portlet.defaulticon" value="images/portaloperation.gif"/>
  <meta-info>
    <title>運用管理ポータル</title>
    <description>運用管理を実施するためのポータルです。 </
description>
  </meta-info>
</portlet-entry>

```

(b) 07-00 および 07-01 から移行する場合

name 属性の値が「hptlParsedHTML」となっている <portlet-entry> 要素の終了タグのあとに、次の記述を追加します。

```

<portlet-entry type="ref" parent="hptlComponent"
name="hptlParsedHTML">
  <url></url>
  <parameter name="hptl.ComponentPortlet.ComponentDefFile"
value="{config.dir}/ComponentDef.xml" />
  <parameter name="hptl.template.portlet" value="true" />
  <meta-info>
    <title>ParsedHTML</title>
    <description>コンテンツのリンクを切り出して一覧表示を行います。静的コン
텐츠のキャッシュを制御する場合に使用します。 </description>
  </meta-info>
</portlet-entry>

```

name 属性の値が「hptlParsedHTML」となっている <portlet-entry> 要素を次のとおり記述を変更します。記述中の太字部分を追加してください。

変更前の記述

```

<portlet-entry type="ref" parent="hptlComponent"
name="hptlParsedHTML">
  <url></url>
  <parameter name="hptl.ComponentPortlet.ComponentDefFile"
value="{config.dir}/ComponentDef.xml" />
  <parameter name="hptl.template.portlet" value="true" />
  <meta-info>
    <title>ParsedHTML</title>
    <description>コンテンツのリンクを切り出して一覧表示を行います。 </
description>
  </meta-info>
</portlet-entry>

```

変更後の記述

```

<portlet-entry type="ref" parent="hptlComponent"
name="hptlParsedHTML">
  <url></url>
  <parameter name="hptl.ComponentPortlet.ComponentDefFile"
value="{config.dir}/ComponentDef.xml" />

```



```

<parameter name="hptl.template.portlet" value="true" />
<meta-info>
  <title>ParsedHTML</title>
  <description>コンテンツのリンクを切り出して一覧表示を行います。動的コンテ
  ントのキャッシュを制御する場合に使用します。</description>
</meta-info>
</portlet-entry>

```

(3) web.xml の変更

web.xml ファイルに必要な記述を追加します。

web.xml ファイルの格納ディレクトリは、次のとおりです。

格納ディレクトリ

```
{PROJECT_HOME}¥WEB-INF
```

(a) 07-00 以前のバージョンから移行する場合

<web-app> タグの後ろに次の記述を追加します。また、すでに定義されている jetspeed サブプレットの <load-on-startup> タグの定義が「1」に設定されている場合は、「2」以降に変更してください。

```

<servlet>
  <servlet-name>
    HPTLContainerController
  </servlet-name>
  <servlet-class>
    jp.co.hitachi.soft.portal.container.ContainerController
  </servlet-class>
  <load-on-startup>1</load-on-startup>
</servlet>
<servlet>
  <servlet-name>HPTLPortletFilterAgent</servlet-name>

  <servlet-class>jp.co.hitachi.soft.portal.portlet.filter.FilterAgen
  tForIFrame</servlet-class>
</servlet>

```

また、最後の <servlet> タグの後に次の記述を追加します。

```

<servlet-mapping>
  <servlet-name>HPTLPortletFilterAgent</servlet-name>
  <url-pattern>/WEB-INF/portlet/filter/servlet/
  HPTLPortletFilterAgent</url-pattern>
</servlet-mapping>

```

(b) 07-00,07-01 および 07-11 から移行する場合

<web-app> タグの後ろに次の記述を追加します。

```

<servlet>
  <servlet-name>HPTLPortletFilterAgent</servlet-name>

  <servlet-class>jp.co.hitachi.soft.portal.portlet.filter.FilterAgen
  tForIFrame</servlet-class>

```

```
</servlet>
```

また、最後の <servlet> タグの後に次の記述を追加します。

```
<servlet-mapping>
  <servlet-name>HPTLPortletFilterAgent</servlet-name>
  <url-pattern>/WEB-INF/portlet/filter/servlet/
  HPTLPortletFilterAgent</url-pattern>
</servlet-mapping>
```

(4) クラスパスの設定

usrconf.cfg ファイルに必要な記述を追加します。

usrconf.cfg ファイルの格納ディレクトリは、次のとおりです。

格納ディレクトリ

```
{Cosminexus インストールディレクトリ }%CC%server%usrconf%ejb%{ サーバ
  名称 }
```

追加する記述を次に示します。

```
add.class.path={uCosminexus Portal Frameworkインストールディレクトリ}/
lib/castor.jar
add.class.path={uCosminexus Portal Frameworkインストールディレクトリ}/
lib/ecs.jar
add.class.path={uCosminexus Portal Frameworkインストールディレクトリ}/
lib/hitachiportal.jar
add.class.path={uCosminexus Portal Frameworkインストールディレクトリ}/
lib/jakarta-oro.jar
add.class.path={uCosminexus Portal Frameworkインストールディレクトリ}/
lib/portletwebssolib.jar
add.class.path={uCosminexus Portal Frameworkインストールディレクトリ}/
lib/velocity.jar
add.class.path={uCosminexus Portal Frameworkインストールディレクトリ}/
lib/village.jar
add.class.path={uCosminexus Portal Frameworkインストールディレクトリ}/
lib/portlet.jar
add.class.path={uCosminexus Portal Frameworkインストールディレクトリ}/
conf
add.class.path={uCosminexus Portal Frameworkインストールディレクトリ}/
xsd
```

(5) セキュリティポリシーの設定

セキュリティポリシーの設定を変更します。

server.policy ファイルの記述を変更します。server.policy ファイルの格納ディレクトリは、次のとおりです。

格納ディレクトリ

```
{Cosminexus インストールディレクトリ }%CC%server%usrconf%ejb%{ サーバ
  名称 }
```

変更する記述を次に示します。記述中の太字部分を変更および追加してください。

なお、記述は環境によって異なります。ここでは次の場合の記述例を示します。環境によって異なる部分は斜体で示しています。

- コンテキストルートに使用する文字列：Portal
- uCosminexus Portal Framework で使用するログインモジュール名：Portal
- uCosminexus Portal Framework のインストールディレクトリ：C:/Program Files/Hitachi/CosmiPortal

変更前の記述

```
grant codeBase
"file:${ejbserver.http.root}/web/${ejbserver.serverName}/
Portal/"-"{
  permission java.lang.RuntimePermission
"accessDeclaredMembers";
  permission java.lang.RuntimePermission "modifyThread";
  permission java.lang.RuntimePermission "modifyThreadGroup";
  permission java.lang.RuntimePermission "stopThread";
  permission java.net.SocketPermission "*", "connect,resolve";
  permission java.io.FilePermission "<<ALL FILES>>",
"read,write,delete";
  permission javax.security.auth.AuthPermission
"createLoginContext.Portal";
};

grant codeBase
"file:${ejbserver.http.root}/web/${ejbserver.serverName}/
Portal/WEB-INF/lib/hitachiportal.jar"{
  permission java.lang.RuntimePermission "setFactory";
  permission java.lang.RuntimePermission
"accessClassInPackage.sun.misc";
  permission java.lang.reflect.ReflectPermission
"suppressAccessChecks";
  permission java.util.PropertyPermission "*", "read, write";
};
```

変更後の記述

```
grant codeBase
"file:${ejbserver.http.root}/web/${ejbserver.serverName}/
Portal/"-"{
  permission java.lang.RuntimePermission
"accessDeclaredMembers";
  permission java.lang.RuntimePermission "modifyThread";
  permission java.lang.RuntimePermission "modifyThreadGroup";
  permission java.lang.RuntimePermission "stopThread";
  permission java.net.SocketPermission "*", "connect,resolve";
  permission java.io.FilePermission "<<ALL FILES>>",
"read,write,delete";
  permission java.util.PropertyPermission "*", "read, write";
  permission javax.security.auth.AuthPermission
"createLoginContext.Portal";
};

grant codeBase
"file:C:/Program Files/Hitachi/CosmiPortal/lib/*"{
  permission java.lang.RuntimePermission "setFactory";
  permission java.lang.RuntimePermission
"accessClassInPackage.sun.misc";
  permission java.lang.RuntimePermission "loadLibrary.*";
```

```

permission java.lang.RuntimePermission "queuePrintJob";
permission java.lang.RuntimePermission "accessDeclaredMembers";
permission java.lang.RuntimePermission "modifyThread";
permission java.lang.RuntimePermission "modifyThreadGroup";
permission java.lang.RuntimePermission "stopThread";
permission java.net.SocketPermission "*", "connect";
permission java.io.FilePermission "<<ALL FILES>>", "read,write,delete";
permission java.lang.reflect.ReflectPermission
"suppressAccessChecks";
permission java.util.PropertyPermission "*", "read, write";
permission javax.security.auth.AuthPermission "createLoginContext.Portal";
};

```

環境によって変更が必要なのは、記述例中の次の箇所です。

```
file:${ejbserver.http.root}/web/${ejbserver.serverName}/Portal/
```

「Portal」部分には、コンテキストルートに使用する文字列を指定します。

```
permission javax.security.auth.AuthPermission "createLoginContext.Portal"; (2 か所)
```

「Portal」部分には、uCosminexus Portal Framework で使用するログインモジュールの登録モジュール名を指定します。

なお、ログインモジュールについては「4.3.2 ログイン情報の設定」を参照してください。

```
file:C:/Program Files/Hitachi/CosmiPortal/lib/*
```

「C:/Program Files/Hitachi/CosmiPortal」部分には、uCosminexus Portal Framework のインストールディレクトリを指定します。

(6) DB の接続情報の設定

Cosminexus Portal Framework 06-10 以前のバージョンからのバージョンアップする場合、ユーザ情報 DB に Oracle を使用しているときは、リポジトリの接続情報を設定します。

設定手順を次に示します。なお、操作に使用する画面および設定項目の詳細については、「4.5.3(1) 接続情報の更新」を参照してください。

1. PortalManager のメニュー部から [リポジトリの設定] - [接続情報] - [修正] を選択して、[接続情報の選択] 画面を表示します。
2. Oracle を使用しているデータベースを示す接続情報を選択して、[接続情報の設定] 画面を表示します。
3. [データベース種別] で [Oracle] を選択します。
4. [登録] ボタンをクリックします。
5. Oracle を使用しているデータベースを示す接続情報すべてについて、手順 2. ~ 4. を繰り返します。

付録 C.5 DB の移行

Cosminexus Portal Framework 06-10 以降に DB 構成が変更になったため、Cosminexus Portal Framework 06-00 からバージョンアップする場合、共通情報を使用しているときは、DB を移行する必要があります。ここでは、DB の移行作業について説明します。

DB の移行作業では、次の作業を行います。

- DB の移行
- リポジトリ情報の移行

それぞれの作業について説明します。

(1) DB を移行する前に

ここでは、DB を移行する前に知っておいていただきたい内容を説明します。

(a) 共通情報の扱いについて

Cosminexus Portal Framework 06-10 以降に DB 構成が変更になったため、標準画面レイアウト情報とポータル管理グループ情報を切り離して運用できなくなりました。また、uCosminexus Portal Framework 07-00 では、共通情報として設定できる情報に、ポートレットグループ情報と Web コンテンツポートレットのパラメタ値情報が追加されました。共通情報を設定する場合は、四つの情報すべてを共通情報として扱うこととなりますので、ご注意ください。

(b) 前提条件

DB の移行作業で、前提となるプログラムプロダクトは次のとおりです。

- 対象データベースサーバ：HiRDB Version 7, HiRDB Version 8 または HiRDB Version 9 サーバ
- 対象 Web アプリケーションサーバ：Cosminexus Version 7 または Version 8
- 対象ポータルサーバ：uCosminexus Portal Framework 07-00 以降
- 移行作業の実行端末：HiRDB Version 7 クライアント, HiRDB Version 8 クライアントまたは HiRDB Version 9 クライアントがインストールされている端末

なお、移行前の DB は、Cosminexus Portal Framework 06-00 環境で作成され、ポータル管理グループ情報が設定済みであることを前提とします。

(c) 移行作業で使用するファイル

移行作業で使用するファイルは、次のディレクトリに格納されています。

格納ディレクトリ

```
{uCosminexus Portal Framework インストールディレクトリ
}¥samples¥config¥empowermentdb
```

移行作業で使用するファイルは次のとおりです。

表 C-7 移行作業で使用するファイル

ファイル種別	ファイル名
定義変更用 SQL 文	alterftable_1.sql
初期データセットアップ用 SQL 文	alterftable_2.sql
確認作業用 SQL 文	testftable.sql
移行用リポジトリファイルサンプル 1	Repository.add1.xml
移行用リポジトリファイルサンプル 2	Repository.add2.xml

注 各 SQL 文の内容は、「FILECONTENT テーブル作成時の SQL 文」の内容で作成されていることを前提としています。テーブル名およびカラム名が異なる場合は、各 SQL 文の該当箇所を修正してから使用してください。

(2) DB の移行手順

DB の移行手順を次に示します。

1. 移行の対象となる FILECONTENT テーブルのバックアップを取得します。

2. 移行の対象となる HiRDB の RD エリアのバックアップを取得します。

バックアップ対象となる RD エリア名称は、FILECONTENT テーブル作成時の SQL 文に定義されています。

FILECONTENT テーブル作成時の SQL 文を次に示します。なお、太字部分がバックアップ対象となる RD 名称です。

FILECONTENT テーブル作成時の SQL 文

```

CREAT TABLE FILECONTENT
(
  FILENAME VARCHAR(256) PRIMARY KEY,
  FILECONTENT BLOB(64K) IN (LOBPFC),
  UPDATECODE INTEGER
) IN RDPFC;

```

3. PDSQL を起動します。

4. コマンドを実行し、HiRDB へログインするための環境変数を設定します。

実行するコマンドを次に示します。なお、ユーザ名、パスワードには、それぞれ HiRDB のログインユーザ名、パスワードを指定します。

```
set pduser={ユーザ名}/{パスワード}
```

5. コマンドで、定義変更用 SQL 文と初期データセットアップ用 SQL 文を実行します。コマンドの実行例を次に示します。

```

pdsql < alterftable_1.sql
pdsql < alterftable_2.sql

```

以上で、DBの移行は終了です。移行が正常に終了しなかった場合の対処方法については、「(3) 障害発生時の対処方法」を参照してください。
続いて、正しく移行処理が行われたかどうかを確認します。

6. コマンドで、確認 SQL 文を実行します。
コマンドの実行例を次に示します。

```
pdsq1 < testftable.sql
```

7. コマンドの実行結果を確認します。
手順 5. で移行が正常に終了しても、画面に次のメッセージが出力された場合は、移行処理に失敗しています。

図 C-1 testftable.sql 文実行結果（移行処理に失敗している場合）

```
COMMAND ?      +----2-----3-----4-----5-----6-----7-----+
KFPA12100-I No rows satisfying search condition } 1行もSELECT処理がされていない
                                                    (移行処理に失敗している)場合、
                                                    このメッセージが出力されます。
COMMAND ?      +----2-----3-----4-----5-----6-----7-----+
```

移行処理が失敗した場合の対処方法については、「(3) 障害発生時の対処方法」を参照してください。

(3) 障害発生時の対処方法

SQL 実行中にエラーが発生した場合は、SQL 文中のテーブル名、カラム名に誤りがないかどうか確認してください。

定義に誤りがあった場合は、SQL 文中の誤りを訂正し、「(2) DBの移行手順」を再度実行してください。

定義に誤りがないのに再度エラーが発生する場合や、エラー後に PDSQL が起動しなくなった場合は、バックアップをしておいた DB をリストアし、「(2) DBの移行手順」を再度実行してください。

(4) リポジトリ情報の移行手順

Repository.xml ファイルを直接編集して、リポジトリの構成情報およびマッピング情報を変更します。

Repository.xml ファイルの格納ディレクトリは次のとおりです。

格納ディレクトリ

```
{PROJECT_HOME}¥WEB-INF¥conf
```

リポジトリ情報の移行手順を次に示します。

1. 現在の Repository.xml ファイルから、次の <resource> 要素 (<resource> タグが

ら `</resource>` タグまで) をすべて削除します。削除する際は、次に示す `<resource>` 要素以外の記述を削除しないようご注意ください。

- `<resource name="PORTALFILE" type="DB">`
- `<resource name="PORTALGROUP-R" type="DB">`
- `<resource name="PORTALGROUP-W" type="DB">`
- `<resource name="PORTALLAYOUT-R" type="DB">`
- `<resource name="PORTALLAYOUT-W" type="DB">`
- `<resource name="PORTALPORTLET-R" type="DB">`
- `<resource name="PORTALPORTLET-W" type="DB">`
- `<resource name="PORTALPORTLET-V1" type="DB">`
- `<resource name="PORTALCREATEID" type="DB">`
- `<resource name="PORTALUPDATEID" type="DB">`

2. 現在の Repository.xml ファイルから、`<portalCommon>` 要素 (`<portalCommon>` タグから `</portalCommon>` タグまで) をすべて削除します。
 3. 手順 1 . で削除した部分に Repository.add1.xml ファイルの全内容を挿入します。
 4. 手順 2 . で削除した部分に Repository.add2.xml ファイルの全内容を挿入します。
- 移行前の Repository.xml ファイルと移行後の Repository.xml ファイルを次に示します。

図 C-2 移行前の Repository.xml ファイル

【移行前】

```

: (前略)
  <waittime>0</waittime>
</connection-info>
<resource name="cosmi" type="cosminexus"/>
<resource name="PORTALFILE" type="DB">
  <connection>DB-EM</connection>
  <table name="FILECONTENT" key="filename"/>
</resource>
<resource name="PORTALFILE" type="DB">
  <connection>DB-EM</connection>
  <table name="FILECONTENT" key="filename"/>
</resource>
: (中略)
<portal-mapping>
  <portalUser>
    <Mapping dest="LOGIN_NAME" src="uid">cosmi</Mapping>
    <Mapping options="multivalue" dest="PersonalizeKey" type="string"
src="hptlpersonalizeinfo">KOUSEI-1</Mapping>
: (中略)
  <portalCommon>
    <Mapping dest="USER_CONTENT" src="filecontent" type="bin">PORTALFILE</Mapping>
    <Mapping dest="hptlSystemSync" src="updatecode" type="int">PORTALFILE</Mapping>
    <Mapping dest="GROUPID_R" src="portalgroupname"
options="multivalue=multirecord">PORTALGROUP-R</Mapping>
    <Mapping dest="GROUPORDER_R" src="location"
options="multivalue=multirecord">PORTALGROUP-R</Mapping>
: (中略)
    <Mapping dest="CREATEID" src="createid">PORTALCREATEID</Mapping>
    <Mapping dest="UPDATEID" src="updateid">PORTALUPDATEID</Mapping>
  </portalCommon>
</portal-mapping>
</repository>

```

手順 1.
 <resource>タグで囲まれる部分
 すべてを削除します。
 「<resource>」と「</resource>」の
 タグ自身も含まれます。

手順 2.
 <portalCommon>タグで囲まれる部分すべてを削除します。
 「<portalCommon>」と「</portalCommon>」のタグ自身も
 含まれます。

図 C-3 移行後の Repository.xml ファイル

【移行後】

```

      : (前略)
      <waittime>0</waittime>
    </connection-info>
    <resource name="cosmi" type="cosminexus"/>
    <resource name="PORTALFILE" type="DB">
      <connection>DB-EM</connection>
      <table name="FILECONTENT" key="filename"/>
    </resource>
      : (中略)

    <resource name="PORTALUPDATEID" type="DB">
      <connection>DB-EM</connection>
      <table name="PORTAL_UPDATEID" key="updateid"/>
    </resource>

    <portal-mapping>
      <portalUser>
        <Mapping dest="LOGIN_NAME" src="uid">cosmi</Mapping>
        <Mapping options="multivalue" dest="PersonalizeKey" type="string"
src="hptlpersonalizeinfo">KOUSEI-1</Mapping>
      </portalUser>
      : (中略)

      <portalCommon>
        <Mapping dest="FILENAME" src="filename">PORTALFILE</Mapping>
        <Mapping dest="FILECONTENT" src="filecontent" type="bin">PORTALFILE</Mapping>
        <Mapping dest="FILEUPDATECD" src="fileupdatecd">PORTALFILE</Mapping>
        <Mapping dest="FILEDELETEFLG" src="deleteflg">PORTALFILE</Mapping>
      </portalCommon>
      : (中略)

      <Mapping dest="CREATEID" src="createid">PORTALCREATEID</Mapping>
      <Mapping dest="UPDATEID" src="updateid">PORTALUPDATEID</Mapping>
    </portalCommon>
  </portal-mapping>
</repository>

```

手順 3.
手順 1. で削除した部分に、
提供ファイル「Repository.add1.xml」
の内容を上書き追加します。

手順 4.
手順 2. で削除した部分に、
提供ファイル「Repository.add2.xml」
の内容を上書き追加します。

付録 C.6 表示属性を使用するための設定

uCosminexus Portal Framework 06-11 以前のバージョンからバージョンアップする場合、共通情報を使用しているときは、表示属性を使用するための設定をします。

表示属性を使用するための設定手順を次に示します。なお、DB に HiRDB を使用している場合は、この手順を実施する前に、RD エリア (RDARRANGE) を追加しておいてください。

1. SQL 文を実行して、ポートレット表示属性管理テーブル (PORTLET_ARRANGE) を追加します。

DBの種類別に、実行する SQL 文を示します。

HiRDB の場合

```
CREATE TABLE PORTLET_ARRANGE
(
    LAYOUTID MVARCHAR(64) NOT NULL,
    AREAID MVARCHAR(64) NOT NULL,
    PORTLETNAME MVARCHAR(64) NOT NULL,
    PARAMNAME MVARCHAR(255) NOT NULL,
    PARAMVALUE MVARCHAR(255) NOT NULL,
    UPDATECD MVARCHAR(20),
    DELETEFLG MVARCHAR(1)
) IN RDARRANGE;

CREATE INDEX PORTLET_ARRANGE_INDX1 ON PORTLET_ARRANGE(LAYOUTID)
IN RDARRANGE;
CREATE INDEX PORTLET_ARRANGE_INDX2 ON PORTLET_ARRANGE(AREAID) IN
RDARRANGE;
CREATE INDEX PORTLET_ARRANGE_INDX3 ON
PORTLET_ARRANGE(PORTLETNAME) IN RDARRANGE;
CREATE INDEX PORTLET_ARRANGE_INDX4 ON PORTLET_ARRANGE(UPDATECD)
IN RDARRANGE;
CREATE INDEX PORTLET_ARRANGE_INDX5 ON PORTLET_ARRANGE(DELETEFLG)
IN RDARRANGE;
```

Oracle の場合

```
CREATE TABLE PORTLET_ARRANGE
(
    LAYOUTID VARCHAR2(64) NOT NULL,
    AREAID VARCHAR2(64) NOT NULL,
    PORTLETNAME VARCHAR2(64) NOT NULL,
    PARAMNAME VARCHAR2(255) NOT NULL,
    PARAMVALUE VARCHAR2(255) NOT NULL,
    UPDATECD VARCHAR2(20),
    DELETEFLG VARCHAR2(1)
) ;

CREATE INDEX PORTLET_ARRANGE_INDX1 ON PORTLET_ARRANGE(LAYOUTID);
CREATE INDEX PORTLET_ARRANGE_INDX2 ON PORTLET_ARRANGE(AREAID);
CREATE INDEX PORTLET_ARRANGE_INDX3 ON
PORTLET_ARRANGE(PORTLETNAME);
CREATE INDEX PORTLET_ARRANGE_INDX4 ON PORTLET_ARRANGE(UPDATECD);
CREATE INDEX PORTLET_ARRANGE_INDX5 ON PORTLET_ARRANGE(DELETEFLG);
```

- Repository.xml ファイルに表示属性の構成情報を設定します。

Repository.xml ファイルの格納ディレクトリは次のとおりです。

Cosminexus Portal Framework 06-10 以前のバージョンからのバージョンアップの場合

```
{PROJECT_HOME}¥WEB-INF¥conf
```

uCosminexus Portal Framework 06-11 からのバージョンアップの場合

```
{PROJECT_HOME}¥conf
```

Repository.xml ファイルに次の記述を追加します。

```
<resource name="PORTLETARRANGE-R" type="DB">
    <connection>DB-EM</connection>
    <table name="PORTLET_ARRANGE" key="layoutid"/>
```

```

</resource>
<resource name="PORTLETARRANGE-W" type="DB">
  <connection>DB-EM</connection>
  <table name="PORTLET_ARRANGE" key="layoutid"/>
</resource>

```

なお、「DB-EM」には共通情報を格納する DB の接続先名称を指定してください。

3. Repository.xml ファイルに表示属性のマッピング情報を設定します。

Repository.xml ファイルの <portalCommon> 要素内に、次の記述を追加します。

```

  <Mapping dest="ARRANGELAYOUTID_R" src="layoutid"
options="multivalued=multirecord">PORTLETARRANGE-R</Mapping>
  <Mapping dest="ARRANGEAREAID_R" src="areaid"
options="multivalued=multirecord">PORTLETARRANGE-R</Mapping>
  <Mapping dest="ARRANGEPORTLET_R" src="portletname"
options="multivalued=multirecord">PORTLETARRANGE-R</Mapping>
  <Mapping dest="ARRANGEPARAMNAME_R" src="paramname"
options="multivalued=multirecord">PORTLETARRANGE-R</Mapping>
  <Mapping dest="ARRANGEPARAMVALUE_R" src="paramvalue"
options="multivalued=multirecord">PORTLETARRANGE-R</Mapping>
  <Mapping dest="ARRANGEUPDATECD_R" src="updatecd"
options="multivalued=multirecord">PORTLETARRANGE-R</Mapping>
  <Mapping dest="ARRANGEDELETEFLG_R" src="deleteflg"
options="multivalued=multirecord">PORTLETARRANGE-R</Mapping>

  <Mapping dest="ARRANGELAYOUTID_W" src="layoutid"
options="multivalued=multirecord">PORTLETARRANGE-W</Mapping>
  <Mapping dest="ARRANGEAREAID_W" src="areaid"
options="multivalued=multirecord">PORTLETARRANGE-W</Mapping>
  <Mapping dest="ARRANGEPORTLET_W" src="portletname"
options="multivalued=multirecord">PORTLETARRANGE-W</Mapping>
  <Mapping dest="ARRANGEPARAMNAME_W" src="paramname"
options="multivalued=multirecord">PORTLETARRANGE-W</Mapping>
  <Mapping dest="ARRANGEPARAMVALUE_W" src="paramvalue"
options="multivalued=multirecord">PORTLETARRANGE-W</Mapping>
  <Mapping dest="ARRANGEUPDATECD_W" src="updatecd"
options="multivalued=multirecord">PORTLETARRANGE-W</Mapping>
  <Mapping dest="ARRANGEDELETEFLG_W" src="deleteflg"
options="multivalued=multirecord">PORTLETARRANGE-W</Mapping>

```

付録 C.7 ポートレットグループを使用するための設定

共通情報を使用している場合は、ポートレットグループを使用するための設定をします。

ポートレットグループを使用するための設定手順を次にします。なお、DB に HiRDB を使用している場合は、この手順を実施する前に、RD エリア (RDPORTLETGROUP, RDLOBPG1, および RDLOBPG2) を追加しておいてください。

1. SQL 文を実行し、ポートレットグループ管理テーブル (PORTLET_GROUP および PORTLET_ENTRY) を追加します。

DB の種類別に、実行する SQL 文を示します。

HiRDB の場合

```

CREATE TABLE PORTLET_GROUP
(
  PORTLETGROUPNAME VARCHAR(20) PRIMARY KEY,
  LOCATION VARCHAR(20),

```

```

        PORTLETGROUPTITLES BLOB(12000) IN RDLOBPG1,
        PORTLETGROUPDESCS BLOB(12000) IN RDLOBPG2,
        PARENTPORTLETGROUP VARCHAR(20),
        GROUPUPDATECD VARCHAR(20),
        DELETEDFLG VARCHAR(1)
    ) IN RDPORTLETGROUP;

CREATE TABLE PORTLET_ENTRY
(
    ENTRYID VARCHAR(20) PRIMARY KEY,
    ENTRYNAME VARCHAR(80) NOT NULL,
    PORTLETGROUPNAME VARCHAR(20) NOT NULL,
    ENTRYUPDATECD VARCHAR(20),
    DELETEDFLG VARCHAR(1)
) IN RDPORTLETGROUP;

CREATE INDEX PORTLET_GROUP_INDX1 ON PORTLET_GROUP (LOCATION) IN
RDPORTLETGROUP;
CREATE INDEX PORTLET_GROUP_INDX2 ON
PORTLET_GROUP (PARENTPORTLETGROUP) IN RDPORTLETGROUP;
CREATE INDEX PORTLET_GROUP_INDX3 ON PORTLET_GROUP (GROUPUPDATECD)
IN RDPORTLETGROUP;
CREATE INDEX PORTLET_GROUP_INDX4 ON PORTLET_GROUP (DELETEDFLG) IN
RDPORTLETGROUP;
CREATE INDEX PORTLET_ENTRY_INDX1 ON
PORTLET_ENTRY (PORTLETGROUPNAME) IN RDPORTLETGROUP;
CREATE INDEX PORTLET_ENTRY_INDX2 ON PORTLET_ENTRY (ENTRYUPDATECD)
IN RDPORTLETGROUP;
CREATE INDEX PORTLET_ENTRY_INDX3 ON PORTLET_ENTRY (DELETEDFLG) IN
RDPORTLETGROUP;

```

Oracle の場合

```

CREATE TABLE PORTLET_GROUP
(
    PORTLETGROUPNAME VARCHAR(20) PRIMARY KEY,
    LOCATION VARCHAR(20),
    PORTLETGROUPTITLES BLOB,
    PORTLETGROUPDESCS BLOB,
    PARENTPORTLETGROUP VARCHAR(20),
    GROUPUPDATECD VARCHAR(20),
    DELETEDFLG VARCHAR(1)
);

CREATE TABLE PORTLET_ENTRY
(
    ENTRYID VARCHAR(20) PRIMARY KEY,
    ENTRYNAME VARCHAR(80) NOT NULL,
    PORTLETGROUPNAME VARCHAR(20) NOT NULL,
    ENTRYUPDATECD VARCHAR(20),
    DELETEDFLG VARCHAR(1)
);

CREATE INDEX PORTLET_GROUP_INDX1 ON PORTLET_GROUP (LOCATION);
CREATE INDEX PORTLET_GROUP_INDX2 ON
PORTLET_GROUP (PARENTPORTLETGROUP);
CREATE INDEX PORTLET_GROUP_INDX3 ON PORTLET_GROUP (GROUPUPDATECD);
CREATE INDEX PORTLET_GROUP_INDX4 ON PORTLET_GROUP (DELETEDFLG);
CREATE INDEX PORTLET_ENTRY_INDX1 ON
PORTLET_ENTRY (PORTLETGROUPNAME);
CREATE INDEX PORTLET_ENTRY_INDX2 ON PORTLET_ENTRY (ENTRYUPDATECD);
CREATE INDEX PORTLET_ENTRY_INDX3 ON PORTLET_ENTRY (DELETEDFLG);

```

2. Repository.xml ファイルに表示属性の構成情報を設定します。

Repository.xml ファイルの格納ディレクトリは次のとおりです。

Cosminexus Portal Framework 06-10 以前のバージョンからのバージョンアップの場合

```
{PROJECT_HOME}¥WEB-INF¥conf
```

uCosminexus Portal Framework 06-11 以降のバージョンからのバージョンアップの場合

```
{PROJECT_HOME}¥conf
```

Repository.xml ファイルに次の記述を追加します。

```
<resource name="PORTLETGROUP-R" type="DB">
  <connection>DB-EM</connection>
  <table name="PORTLET_GROUP" key="portletgroupname"/>
</resource>
<resource name="PORTLETGROUP-W" type="DB">
  <connection>DB-EM</connection>
  <table name="PORTLET_GROUP" key="portletgroupname"/>
</resource>
<resource name="PORTLETENTRY-R" type="DB">
  <connection>DB-EM</connection>
  <table name="PORTLET_ENTRY" key="entryid"/>
</resource>
<resource name="PORTLETENTRY-W" type="DB">
  <connection>DB-EM</connection>
  <table name="PORTLET_ENTRY" key="entryid"/>
</resource>
```

なお、「DB-EM」には共通情報を格納する DB の接続先名称を指定してください。

3. Repository.xml ファイルに表示属性のマッピング情報を設定します。

Repository.xml ファイルの <portalCommon> 要素内に、次の記述を追加します。

```
<Mapping dest="PGPORTLETGROUPNAME_R" src="portletgroupname"
options="multivalued=multirecord">PORTLETGROUP-R</Mapping>
<Mapping dest="PGLOCATION_R" src="location"
options="multivalued=multirecord">PORTLETGROUP-R</Mapping>
<Mapping dest="PGPORTLETGROUPTITLES_R"
src="portletgrouptitles" type="bin"
options="multivalued=multirecord">PORTLETGROUP-R</Mapping>
<Mapping dest="PGPORTLETGROUPDESCS_R" src="portletgroupdescs"
type="bin" options="multivalued=multirecord">PORTLETGROUP-R</
Mapping>
<Mapping dest="PGPARENTPORTLETGROUP_R"
src="parentportletgroup"
options="multivalued=multirecord">PORTLETGROUP-R</Mapping>
<Mapping dest="PGGROUPUPDATECD_R" src="groupupdatecd"
options="multivalued=multirecord">PORTLETGROUP-R</Mapping>
<Mapping dest="PGDELETEFLG_R" src="deleteflg"
options="multivalued=multirecord">PORTLETGROUP-R</Mapping>

<Mapping dest="PGPORTLETGROUPNAME_W" src="portletgroupname"
options="multivalued=multirecord">PORTLETGROUP-W</Mapping>
<Mapping dest="PGLOCATION_W" src="location"
options="multivalued=multirecord">PORTLETGROUP-W</Mapping>
<Mapping dest="PGPORTLETGROUPTITLES_W"
src="portletgrouptitles" type="bin"
```

```

options="multivalued=multirecord">PORTLETGROUP-W</Mapping>
  <Mapping dest="PGPORTLETGROUPDESCS_W" src="portletgroupdescs"
type="bin" options="multivalued=multirecord">PORTLETGROUP-W</
Mapping>
  <Mapping dest="PGPARENTPORTLETGROUP_W"
src="parentportletgroup"
options="multivalued=multirecord">PORTLETGROUP-W</Mapping>
  <Mapping dest="PGGROUPUPDATECD_W" src="groupupdatecd"
options="multivalued=multirecord">PORTLETGROUP-W</Mapping>
  <Mapping dest="PGDELETEFLG_W" src="deleteflg"
options="multivalued=multirecord">PORTLETGROUP-W</Mapping>

  <Mapping dest="PEENTRYID_R" src="entryid"
options="multivalued=multirecord">PORTLETENTRY-R</Mapping>
  <Mapping dest="PEENTRYNAME_R" src="entryname"
options="multivalued=multirecord">PORTLETENTRY-R</Mapping>
  <Mapping dest="PEPORTLETGROUPNAME_R" src="portletgroupname"
options="multivalued=multirecord">PORTLETENTRY-R</Mapping>
  <Mapping dest="PEENTRYUPDATECD_R" src="entryupdatecd"
options="multivalued=multirecord">PORTLETENTRY-R</Mapping>
  <Mapping dest="PEDELETEFLG_R" src="deleteflg"
options="multivalued=multirecord">PORTLETENTRY-R</Mapping>

  <Mapping dest="PEENTRYID_W" src="entryid"
options="multivalued=multirecord">PORTLETENTRY-W</Mapping>
  <Mapping dest="PEENTRYNAME_W" src="entryname"
options="multivalued=multirecord">PORTLETENTRY-W</Mapping>
  <Mapping dest="PEPORTLETGROUPNAME_W" src="portletgroupname"
options="multivalued=multirecord">PORTLETENTRY-W</Mapping>
  <Mapping dest="PEENTRYUPDATECD_W" src="entryupdatecd"
options="multivalued=multirecord">PORTLETENTRY-W</Mapping>
  <Mapping dest="PEDELETEFLG_W" src="deleteflg"
options="multivalued=multirecord">PORTLETENTRY-W</Mapping>

```

付録 C.8 Web コンテンツポートレットを使用するための設定

共通情報を使用している場合は、Web コンテンツポートレットを使用するための設定をします。

Web コンテンツポートレットを使用するための設定手順を次にします。なお、DB に HiRDB を使用している場合は、この手順を実施する前に、RD エリア (RDCOMPONENTPORTLET) を追加しておいてください。

1. SQL 文を実行し、Web コンテンツポートレット管理テーブル (COMPONENT_PORTLET) を追加します。

DB の種類別に、実行する SQL 文を示します。

HiRDB の場合

```

CREATE TABLE COMPONENT_PORTLET
(
  PORTLETNAME VARCHAR(32) NOT NULL,
  ID VARCHAR(128) NOT NULL,
  PARAMVALUE VARCHAR(4000),
  UPDATECD VARCHAR(32) NOT NULL
) IN RDCOMPONENTPORTLET;

CREATE INDEX COMPONENT_PORTLET_INDX1 ON

```

```
COMPONENT_PORTLET(PORTLETNAME) IN RDCOMPONENTPORTLET;
CREATE INDEX COMPONENT_PORTLET_INDX2 ON COMPONENT_PORTLET(ID) IN
RDCOMPONENTPORTLET;
CREATE INDEX COMPONENT_PORTLET_INDX3 ON
COMPONENT_PORTLET(UPDATECD) IN RDCOMPONENTPORTLET;
```

Oracle の場合

```
CREATE TABLE COMPONENT_PORTLET
(
    PORTLETNAME VARCHAR2(32) NOT NULL,
    ID VARCHAR2(128) NOT NULL,
    PARAMVALUE VARCHAR2(4000),
    UPDATECD VARCHAR2(32) NOT NULL
);

CREATE INDEX COMPONENT_PORTLET_INDX1 ON
COMPONENT_PORTLET(PORTLETNAME);
CREATE INDEX COMPONENT_PORTLET_INDX2 ON COMPONENT_PORTLET(ID);
CREATE INDEX COMPONENT_PORTLET_INDX3 ON
COMPONENT_PORTLET(UPDATECD);
```

2. Repository.xml ファイルに表示属性の構成情報を設定します。

Repository.xml ファイルの格納ディレクトリは次のとおりです。

Cosminexus Portal Framework 06-10 以前のバージョンからのバージョンアップの場合

```
{PROJECT_HOME}¥WEB-INF¥conf
```

uCosminexus Portal Framework 06-11 以降のバージョンからのバージョンアップの場合

```
{PROJECT_HOME}¥conf
```

Repository.xml ファイルに次の記述を追加します。

```
<resource name="COMPONENTPORTLET-R" type="DB">
    <connection>DB-EM</connection>
    <table name="COMPONENT_PORTLET" key="portletname"/>
</resource>
<resource name="COMPONENTPORTLET-W" type="DB">
    <connection>DB-EM</connection>
    <table name="COMPONENT_PORTLET" key="portletname"/>
</resource>
```

なお、「DB-EM」には共通情報を格納する DB の接続先名称を指定してください。

3. Repository.xml ファイルに表示属性のマッピング情報を設定します。

Repository.xml ファイルの <portalCommon> 要素内に、次の記述を追加します。

```
<Mapping dest="COMPONENTPORTLETNAME_R" src="portletname"
options="multivalue=multirecord">COMPONENTPORTLET-R</Mapping>
<Mapping dest="COMPID_R" src="id"
options="multivalue=multirecord">COMPONENTPORTLET-R</Mapping>
<Mapping dest="COMPVALUE_R" src="paramvalue"
options="multivalue=multirecord">COMPONENTPORTLET-R</Mapping>
<Mapping dest="COMPUPDATECD_R" src="updatecd"
options="multivalue=multirecord">COMPONENTPORTLET-R</Mapping>
```



```

    <Mapping dest="COMPORLETNAME_W" src="portletname"
options="multivalued=true">COMPONENTPORTLET-W</Mapping>
    <Mapping dest="COMPID_W" src="id"
options="multivalued=true">COMPONENTPORTLET-W</Mapping>
    <Mapping dest="COMPVALUE_W" src="paramvalue"
options="multivalued=true">COMPONENTPORTLET-W</Mapping>
    <Mapping dest="COMPUPDATECD_W" src="updatecd"
options="multivalued=true">COMPONENTPORTLET-W</Mapping>

```

付録 C.9 アクセス権の移行

uCosminexus Portal Framework 06-11 以降、従来のバージョンとアクセス権の考え方が変更されています。このため、Cosminexus Portal Framework 06-10 以前のバージョンからバージョンアップする場合で、Collaboration・Online Community Management 連携を使用するときは、アクセス権を移行する必要があります。ここでは、アクセス権の移行手順について説明します。

なお、変更後のアクセス権の考え方については、「付録 D Collaboration・Online Community Management を使用する場合の設定」を参照してください。

(1) 前提条件

アクセス権の移行作業で、前提となるプログラムプロダクトは次のとおりです。

- 対象データベースサーバ：HiRDB Version 7 または HiRDB Version 8 サーバ
- 対象 Web アプリケーションサーバ：Cosminexus Version 7 または Version 8
- 対象ポータルサーバ：uCosminexus Portal Framework 07-00 以降
- 移行作業の実行端末：HiRDB Version 7 クライアントまたは HiRDB Version 8 クライアントがインストールされている端末

なお、移行前の DB は、Cosminexus Portal Framework 06-00 または Cosminexus Portal Framework 06-10 環境で作成され、ポータル管理グループ情報が設定済みであることを前提とします。

(2) アクセス権の移行手順

手順を次に示します。

1. 移行の対象となるテーブルのバックアップを取得します。
移行の対象となるテーブルは次のとおりです。
 - PORTAL_GROUP
 - PORTAL_PORTLET
2. 移行の対象となる HiRDB の RD エリアのバックアップを取得します。
バックアップ対象となる RD エリア名称は、create.sql に定義されています。
create.sql の格納ディレクトリを次に示します。

格納ディレクトリ

```
{uCosminexus Portal Framework インストールディレクトリ
```

```
}¥samples¥config¥empowermentdb
```

なお、{uCosminexus Portal Framework インストールディレクトリ}は uCosminexus Portal Framework 07-00 以降のインストールディレクトリを表します。

create.sql の内容を次に示します。なお、太字部分がバックアップ対象となる RD 名称です。

```
CREATE TABLE PORTAL_GROUP
(
    PORTALGROUPNAME VARCHAR (20) PRIMARY KEY,
    LOCATION VARCHAR(20),
    COMMUNITYID VARCHAR(40),
    PORTALGROUPTITLE MVARCHAR(256) NOT NULL,
    PORTALGROUPDESC MVARCHAR(600),
    PORTALGROUPTITLES BLOB(12000) IN LOBPORTAL1,
    ALLOWLISTCONTROL BLOB(64000) IN LOBPORTAL2,
    ALLOWLISTUSE BLOB(64000) IN LOBPORTAL3,
    GROUPUPDATECD VARCHAR(20),
    DELETEFLG VARCHAR(1)
) IN RDPORTAL;
```

```
CREATE TABLE PORTAL_LAYOUT
(
    PORTALGROUPNAME VARCHAR(20) NOT NULL,
    ENTRYID VARCHAR(20) PRIMARY KEY,
    LOCATION VARCHAR(20) NOT NULL,
    ENTRYTYPE VARCHAR(20),
    ENTRYNAME VARCHAR(80) NOT NULL,
    ENTRYTITLE MVARCHAR(256),
    ENTRYPARENT VARCHAR(80),
    ENTRYDESC MVARCHAR(600),
    ENTRYPARAMETER BLOB(64000) IN LOBPORTAL4,
    ENTRYTITLES BLOB(12000) IN LOBPORTAL5,
    ENTRYUPDATECD VARCHAR(20),
    INSTANCETYPE VARCHAR(20),
    DELETEFLG VARCHAR(1)
) IN RDPORTAL;
```

```
CREATE TABLE PORTAL_PORTLET
(
    PORTALGROUPNAME VARCHAR(20) NOT NULL,
    ENTRYID VARCHAR(20) PRIMARY KEY,
    LOCATION VARCHAR(20) NOT NULL,
    ENTRYTYPE VARCHAR(20),
    ENTRYNAME VARCHAR(80) NOT NULL,
    ENTRYTITLE MVARCHAR(256),
    ENTRYPARENT VARCHAR(80),
    ENTRYDESC MVARCHAR(600),
    ENTRYPARAMETER BLOB(64000) IN LOBPORTAL6,
    ENTRYTITLES BLOB(12000) IN LOBPORTAL7,
    ENTRYUPDATECD VARCHAR(20),
    INSTANCETYPE VARCHAR(20),
    DELETEFLG VARCHAR(1)
) IN RDPORTAL;
```

:

3. アクセス権を移行するための実行定義ファイルを変更します。

アクセス権を移行する前に、各環境に合わせて実行定義ファイル (dbconvfrom0610.properties) を変更します。
dbconvfrom0610.properties ファイルは次のディレクトリに格納されています。

格納ディレクトリ

```
{uCosminexus Portal Framework インストールディレクトリ}
¥samples¥config¥empowermentdb
```

dbconvfrom0610.properties ファイルの定義例を次に示します。なお、太字の部分は編集が必要な個所です。

dbconvfrom0610.properties ファイルの定義例

```
empowermentdb.add.portlet.tool.driver=JP.co.Hitachi.soft.DBPSV_Driver.JdbcDbpsvDriver
empowermentdb.add.portlet.tool.jdbcurl=jdbc:hitachi:dbplib://DB=HIRDB,DBID=222001,DBHOST=localhost2,ENCODELANG=UTF-8
empowermentdb.add.portlet.tool.groupname=CollaborationHome3
empowermentdb.add.portlet.tool.commit.count=10004

empowermentdb.add.portlet.tool.portal_group.select_community.sql
=SELECT PORTALGROUPNAME FROM PORTAL_GROUP WHERE DELETEFLG <> '1'
AND COMMUNITYID IS NOT NULL WITHOUT LOCK NOWAIT
:
:
```

注 1 DBID の部分に DB のポート番号を指定します。

注 2 DBHOST の部分に DB の IP アドレスを指定します。

注 3 新規追加する全ユーザ所属グループのグループ名称を指定します。省略した場合は「CollaborationHome」となります。

注 4 一度のトランザクションで追加する最大レコード数 (1 ~ 2,147,483,647) を指定します。この指定は省略できます。

4. アクセス権移行ツールの実行環境を定義します。
アクセス権移行ツールを実行する前に、実行環境を設定します。
次の環境変数に正しい値を定義してください。

- JAVA_HOME

JDK のインストールディレクトリです。JAVA_HOME には "" を付与しないでください。

次のとおり定義します。

```
{uCosminexusインストールディレクトリ}¥jdk
```

- COSMINEXUS_PORTAL_CLASSPATH

ツール起動時のクラスパスです。uCosminexus Portal Framework をインストールしたときに、自動的に環境変数へ登録されます。

{uCosminexus Portal Framework インストールディレクトリ}¥lib 配下の各種 jar ファイルにパスが設定されている事を確認してください。ただし、

portletwebsso.jar, および portletwebssolib.jar は設定されません。なお, 値には "" を付与しないでください。

- CLASSPATH

JDBC ドライバのクラスパスを追加します。クラスパスには "" を付与しないでください。

定義例を次に示します。

```
{uCosminexusインストールディレクトリ}¥DABJ¥JdbcDbpsv.jar
```

5. アクセス権移行ツールを実行します。

AP サーバでアクセス権移行ツール (DBConvertFrom0610.bat) を実行し, Cosminexus Portal Framework 06-00 または Cosminexus Portal Framework 06-10 の DB 構成から, uCosminexus Portal Framework 07-00 以降の DB 構成に移行します。

DBConvertFrom0610.bat ファイルは次のディレクトリに格納されています。なお, 実行する際はこのディレクトリをカレントディレクトリとして実行してください。

格納ディレクトリ

```
{uCosminexus Portal Framework インストールディレクトリ  
}¥samples¥config¥empowermentdb
```

アクセス権移行ツールの実行例を次に示します。

```
DBConvertFrom0610.bat ¥" root¥" ¥" root¥"
```

DBConvertFrom0610.bat の引数には次の値を指定します。

第 1 引数

移行処理を行なう DB のユーザ名。「"」や「'」がある場合は「¥"」「¥'」に置き換えてください。

第 2 引数

第 1 引数に指定したユーザ名に対応するパスワード。「"」や「'」がある場合は「¥"」「¥'」に置き換えてください。

実行結果はログファイル (dbconvfrom0610.log) としてカレントディレクトリに出力されます。

なお, 同名ファイルがある場合は上書きされます。アクセス権移行ツールを複数回実行する場合は, 必ず dbconvfrom0610.log ファイルのバックアップを取得してください。

以上で, アクセス権の移行は終了です。続いて, 移行結果を確認します。

6. コマンドを実行し, HiRDB へログインするための環境変数を設定します。

実行するコマンドを次に示します。なお, ユーザ名, パスワードには, それぞれ HiRDB のログインユーザ名, パスワードを指定します。

```
set pduser={ユーザ名}/{パスワード}
```

7. 確認作業用 SQL を実行します。SQL 文は 2 種類実行されます。

確認作業用 SQL (dbconvfrom0610check.sql) は次のディレクトリに格納されています。

格納ディレクトリ

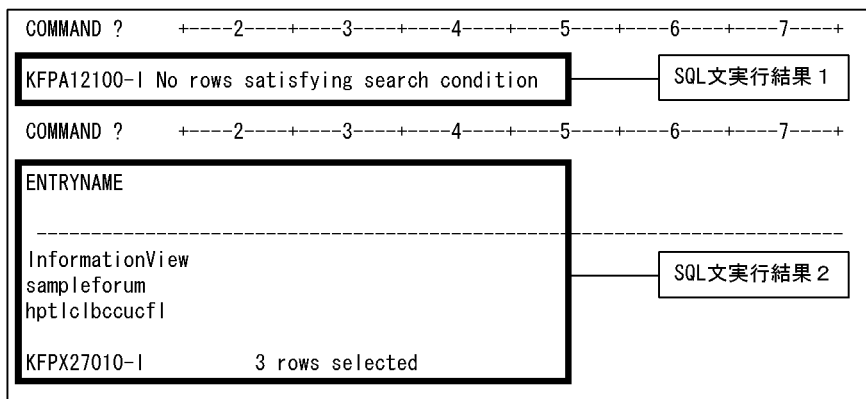
```
{uCosminexus Portal Framework インストールディレクトリ
}¥samples¥config¥empowermentdb
```

実行するコマンドを次に示します。

```
pdsq1 -h DBのホスト名またはIPアドレス -n ポート番号 <
dbconvfrom0610check.sql
```

画面上に出力された SQL 実行結果と、手順 5. で出力された dbconvfrom0610.log ファイルの内容を確認します。最初に実行された SQL 文の実行結果を「SQL 文実行結果 1」として、2 番目に実行された SQL 文の実行結果を「SQL 文実行結果 2」とします。

図 C-4 SQL 文実行結果例



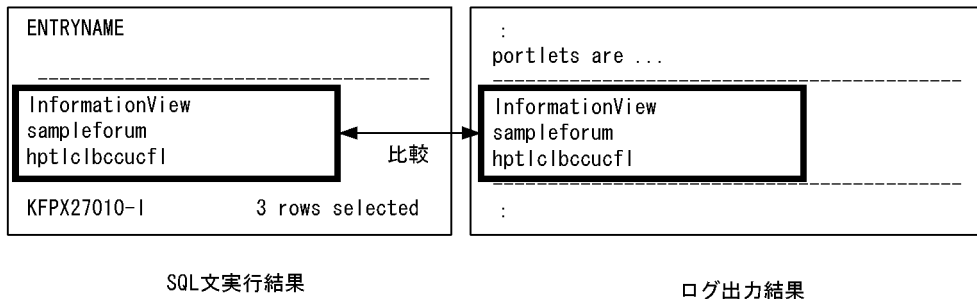
次の 2 点を確認します。

- Collaboration - Online Community Management 連携で作成したグループのポートレット利用権限が削除されていること
SQL 文実行結果 1 で、「KFPA12100-I No rows satisfying search condition」が出力されていることを確認します。1 レコードも検索されていなければ成功です。1 レコード以上検索された場合には、ログファイルのバックアップを取得し、再度アクセス権移行ツールを実行してください。
- 新規グループ "CollaborationHome" にポートレットが追加されていること
ログファイルをテキストエディタなどで開き、内容を確認します。アクセス権移行ツールの初回実行時にエラーが発生し、再度実行した場合には、初回実行時のログ

ファイルを確認してください。

「portlets are ...」と記述されている行の下のリストと SQL 文実行結果 2 を比較し、含まれるポートレット名が同じであれば成功です。なお、ポートレット名の記述順は関係ありません。

図 C-5 移行の確認内容



なお、ポートレット名が一致しない場合は、次のように対処してください。

SQL 文の実行結果に含まれないポートレットがログに出力されたポートレット名のリストに含まれている場合
 ログファイルのバックアップを取得し、再度アクセス権移行ツールを実行してください。

上記以外の場合

今回のアクセス権移行ツールの実行以前に、アクセス権移行ツールが実行されている可能性があります。バックアップデータをリストアした後、すでに「CollaborationHome」、または対応するグループが存在するかどうかを、運用管理ポートレットで確認してください。なお、「CollaborationHome」は、実行定義ファイル (dbconvfrom0610.properties) で、名称が変更されていることがあります。実行定義ファイルの「empowermentdb.add.portlet.tool.groupname」に指定されている名称のグループが存在するかどうかも確認してください。

存在する場合：すでに移行後のデータ構成になっています。

存在しない場合：バックアップデータをリストア後、再度移行ツールを実行してください。

(3) 障害発生時の対応

アクセス権移行ツールの実行中にエラーが発生した場合、次の 2 点を確認してください。

- 実行定義ファイル (dbconvfrom0610.properties) に誤りがないか。
- 「(2) アクセス権の移行手順」の手順 4. で設定した環境変数に誤りがないか。

誤りがあった場合、誤りを訂正したあと、アクセス権移行ツールを再実行してください。

また、一度のトランザクションで追加するポートレットの最大レコード数

(empowermentdb.add.portlet.tool.commit.count) が多過ぎる場合があります。この場合は実行定義ファイル (dbconvfrom0610.properties) で最大レコード数を小さい値に変更してください。

設定値を修正したあと、アクセス権移行ツールを再実行してください。

定義に誤りがないのに再度エラーが起きる場合や、エラー後にアクセス権移行ツールが起動しなくなった場合は、事前にバックアップした DB をリストアしたあと、もう一度「(2) アクセス権の移行手順」に従って、アクセス権の移行を実施してください。

付録 C.10 設定ファイルのエンコーディングの変更

uCosminexus Portal Framework 06-20 以前のバージョンからバージョンアップする場合は、設定ファイルのエンコーディングを変更します。

設定ファイルは次のディレクトリに格納されています。

Cosminexus Portal Framework 06-10 以前のバージョンからのバージョンアップの場合

```
{ PROJECT_HOME }¥WEB-INF¥conf
```

uCosminexus Portal Framework 06-11 以降のバージョンからのバージョンアップの場合

```
{ 設定ファイル格納ディレクトリ }
```

エンコーディングを変更する設定ファイルは次のとおりです。

- jetspeed-config.jcfg
- controllers.xml

これらの設定ファイルはすべて XML で記述されています。1 行目に記載されている XML 宣言の encoding を UTF-8 に変更して、UTF-8 形式で保存してください。

注意事項

uCosminexus Portal Framework は、UTF-8 に付加された「BOM」には対応していません。このため、設定ファイルを変更する際は、「BOM」が付加されないテキストエディタを使用してください。

付録 C.11 ポートレットグループの移行

uCosminexus Portal Framework 07-00 では、従来のバージョンとポートレットグループの管理方法が変更になりました。このため、ポートレットグループを設定している場合は、ポートレットグループを移行する必要があります。ここでは、ポートレットグループの移行手順について説明します。

(1) ポートレットグループの管理方法の変更点（ポートレットグループの移行）

uCosminexus Portal Framework 07-00 では、従来システム管理者が Portal Manager を使用して管理していたポートレットグループを、運用管理者または部門管理者が、運用管理ポートレットを使用して管理することになりました。これに伴って、ポートレットグループの設定情報の格納ファイルも変更されています。

uCosminexus Portal Framework 06-30 以前、および uCosminexus Portal Framework 07-00 以降でのポートレットグループの管理方法の差異を次の表に示します。

表 C-8 ポートレットグループの管理方法の差異

項番	項目	uCosminexus Portal Framework 06-30 以前	uCosminexus Portal Framework 07-00 以降
1	ポートレットグループを管理するユーザ	システム管理者	運用管理者または部門管理者
2	ポートレットグループを管理するためのツール	Portal Manager	運用管理ポートレット
3	共通情報	共通情報として扱えない	共通情報として扱える
4	ポートレットグループ情報を格納する場所	<ul style="list-style-type: none"> ポートレットグループ定義ファイル (PortletGroup.xml) ポートレット定義ファイル (jetspeed-config.jcfg) 	共通情報として扱う場合 DB 共通情報として扱わない場合 ポータル管理グループ定義ファイル (EmPowerment.xml)
5	ポートレット管理グループの階層化	できない	できる

ポートレットグループの移行では、新しい管理方法に対応するために、DB またはポータル管理グループ定義ファイル (EmPowerment.xml) へ情報を追加します。ポートレットグループの移行を実施して作成されたポートレットグループの情報は、次のように設定されます。

表 C-9 移行後のポートレットグループの設定

項番	項目	設定内容
1	ポートレットグループ ID (半角英数字)	自動採番
2	ポートレットグループタイトル	移行前のポートレットグループの、ポートレットグループ表示名称 (PortletGroup.xml の <portlet-group> タグの value 属性)
3	ポートレットグループタイトル (日本語以外)	設定されない
4	ポートレットグループの説明文	設定されない
5	ポートレットグループの階層	ルートポートレットグループの下位

項番	項目	設定内容
6	下位のポートレットグループ	設定されない
7	ポートレットグループに所属するポートレット	移行前のポートレットグループに所属していたポートレット

(2) ポートレットグループの移行手順

ポートレットグループの移行手順を次に示します。なお、リポジトリにDBを使用している場合は、ポートレットグループを移行する前に、DBのバックアップを取得してください。

1. ポートレットグループ移行用定義ファイル (portletgroupconv.properties) を設定します。
portletgroupconv.properties の格納ディレクトリ、および設定するプロパティについては、「(3) portletgroupconv.properties の詳細」を参照してください。
2. ポートレットグループ移行ツール (portletgroupconv.bat) を実行します。
ポートレットグループ移行ツール (portletgroupconv.bat) は次のディレクトリで実行してください。

実行ディレクトリ

```
{uCosminexus Portal Framework インストールディレクトリ}
¥samples¥config¥empowermentdb
```

実行するコマンドは、共通情報を使用している場合と使用していない場合で異なります。それぞれの場合のコマンドを示します。

共通情報を使用している場合

```
portletgroupconv.bat {DBのユーザ名} {DBのパスワード}
```

共通情報を使用していない場合

```
portletgroupconv.bat
```

処理の実行中にエラーが発生した場合は、エラーメッセージの内容に従って対処してください。

なお、ポートレットグループ移行ツール実行時に出力されるログファイルは、portletgroupconv.properties の jp.co.hitachi.soft.portal.util.log.TraceFile に設定したディレクトリに出力されます。デフォルトの出力ディレクトリおよびファイル名は次のとおりです。なお、Xは1から始まる連番です。同名のファイルが存在する場合は、ファイルに追加出力します。

ポートレットグループ移行ツール実行時に出力されるログのファイル名

```
{uCosminexus Portal Framework インストールディレクトリ}
¥samples¥config¥empowermentdb¥portletgroupconvX.log
```

(3) portletgroupconv.properties の詳細

ポータルグループ移行ツールの動作を設定する portletgroupconv.properties について説明します。

portletgroupconv.properties の格納ディレクトリを次に示します。

格納ディレクトリ

```
{uCosminexus Portal Framework インストールディレクトリ
}¥samples¥config¥empowermentdb
```

portletgroupconv.properties で設定する項目について、次の表に示します。

表 C-10 portletgroupconv.properties の属性一覧

属性名	設定内容	必須
empowerment.portletgroup.conv.tool.portal.common.isdbused	ポータルグループ情報を共通情報として扱うかどうか	
empowerment.portletgroup.conv.tool.input.property.directory	ポータルグループ移行ツールの入力情報となる設定ファイルが格納されているディレクトリ	
empowerment.portletgroup.conv.tool.output.property.directory	ポータル移行ツールの内容チェックに使用する設定ファイル、および出力先となる設定ファイルが格納されているディレクトリ	
empowerment.portletgroup.conv.tool.driver	JDBC ドライバの完全修飾名	
empowerment.portletgroup.conv.tool.jdbcurl	JDBC URL	
empowerment.portletgroup.conv.tool.commit.count	レコードの追加・削除処理でのコミット処理のしきい値	
jp.co.hitachi.soft.portal.util.log.TraceFile	ポータルグループ移行ツール実行時に出力されるログファイルの出力先	×
jp.co.hitachi.soft.portal.util.log.TraceLevel	ポータルグループ移行ツール実行時に出力されるログファイルの出力レベル	×
jp.co.hitachi.soft.portal.util.log.FileNum	ポータルグループ移行ツール実行時に出力されるログファイルの面数	×
jp.co.hitachi.soft.portal.util.log.FileSize	ポータルグループ移行ツール実行時に出力されるログファイル 1 個当たりの最大サイズ	×

(凡例) : 必須 × : 任意

注 ポータルグループ情報を共通情報として扱う場合だけ、必須の項目です。

各属性の詳細を次に説明します。

属性名 :

empowerment.portletgroup.conv.tool.portalcommon.isdbused

型：String

説明：ポートレットグループ情報を共通情報として扱うかどうかを設定します。値の範囲は true または false です。範囲外の値を設定した場合には、デフォルト値が使用されます。

- true：ポートレットグループ情報を共通情報として扱う
- false：ポートレットグループ情報を共通情報として扱わない

共通情報を使用している場合は、true を設定してください。

デフォルト値：false

属性名：**empowerment.portletgroup.conv.tool.inputproperty.directory**

型：String

説明：ポートレットグループ移行ツールの入力情報となる、次の設定ファイルが格納されているディレクトリです。

- PortletGroup.xml
- jetspeed-config.jcfg

指定する値は次のとおりです。

Cosminexus Portal Framework 06-10 以前のバージョンからバージョンアップする場合

```
{PROJECT_HOME}/WEB-INF/conf
```

uCosminexus Portal Framework 06-11 以降のバージョンからバージョンアップする場合

```
{ 設定ファイル格納ディレクトリ }
```

属性名：**empowerment.portletgroup.conv.tool.outputproperty.directory**

型：String

説明：ポートレットグループ情報を DB またはファイルに書き込む際に、内容チェックに使用する jetspeed-config.jcfg ファイルが格納されているディレクトリです。また、ポートレットグループ情報を共通情報として扱わない場合は、このディレクトリに格納されている EmPowerment.xml ファイルに情報を書き込みます。

指定する値は次のとおりです。

Cosminexus Portal Framework 06-10 以前のバージョンからバージョンアップする場合

```
{PROJECT_HOME}/WEB-INF/conf
```

uCosminexus Portal Framework 06-11 以降のバージョンからバージョンアップする場合

```
{ 設定ファイル格納ディレクトリ }
```

属性名：

empowerment.portletgroup.conv.tool.driver

型：String

説明：JDBC ドライバの完全修飾名です。ポートレットグループ情報を共通情報として扱う場合は、必ず指定してください。

なお、empowerment.portletgroup.conv.tool.portalcommon.isdbusedp プロパティで「false」を設定している場合、このプロパティは無視されます。

属性名：

empowerment.portletgroup.conv.tool.jdbcurl

型：String

説明：JDBC URL です。記述は各ドライバに従ってください。ポートレットグループ情報を共通情報として扱う場合は、必ず指定してください。

なお、empowerment.portletgroup.conv.tool.portalcommon.isdbusedp プロパティで「false」を設定している場合、このプロパティは無視されます。

属性名：

empowerment.portletgroup.conv.tool.commit.count

型：int

説明：レコードの追加・削除処理を実行する際のコミット処理のしきい値です。追加・削除レコード数がこの値以上の場合に、コミット処理を行いません。値の範囲は 1 ~ 100,000,000 の整数です。範囲外の値を設定した場合には、デフォルト値が使用されます。

ポートレットグループ情報を共通情報として扱う場合は、必ず指定してください。

なお、empowerment.portletgroup.conv.tool.portalcommon.isdbusedp プロパティで「false」を設定している場合、このプロパティは無視されます。

デフォルト値：1,000

属性名：

jp.co.hitachi.soft.portal.util.log.TraceFile

型：String

説明：ポートレットグループ移行ツール実行時に出力されるログファイルの出力先です。出力先のフルパスとログファイルのプレフィックスを記述します。

なお、製品出荷時には次の値が指定されています。

```
${portal.install.dir}/samples/config/empowermentdb/portletgroupconv
```

デフォルト値：C:/tmp/portal

属性名：

jp.co.hitachi.soft.portal.util.log.TraceLevel

型：int

説明：ポートレットグループ移行ツール実行時に出力されるログファイルの出力レベルです。値の範囲は、-1 または 0 ~ 1,000 の整数です。範囲外の値を設定した場合には、デフォルト値が使用されます。

なお、製品出荷時には、「10」が設定されています。

デフォルト値：0

属性名：**jp.co.hitachi.soft.portal.util.log.FileNum**

型：int

説明：ポートレットグループ移行ツール実行時に出力されるログファイルの面数です。値の範囲は 1 ~ 16 の整数です。範囲外の値を設定した場合には、ログが出力されません。

デフォルト値：1

属性名：**jp.co.hitachi.soft.portal.util.log.FileSize**

型：int

説明：ポートレットグループ移行ツール実行時に出力されるログファイル 1 個当たりの最大サイズです。単位はバイトで、値の範囲は 4,096 ~ 2,147,483,647 の整数です。4,095 以下の値を設定した場合には、ログが出力されません。また、2,147,483,648 以上の値を設定した場合には、デフォルト値が使用されます。

デフォルト値：1,048,576

付録 C.12 設定ファイル格納ディレクトリの見直し

Cosminexus Portal Framework 06-10 以前のバージョンからバージョンアップする場合は、設定ファイルおよびポートレット配置情報ファイルの格納ディレクトリを見直します。

J2EE サーバモードの場合、設定ファイルおよびポートレット配置情報ファイルの格納ディレクトリを変更すると、ポータルサーバを再起動するだけで、設定ファイルおよびポートレット配置情報ファイルでの設定変更を反映できるようになります。設定ファイルおよびポートレット配置情報ファイルの格納ディレクトリを変更しない場合は、設定ファイルおよびポートレット配置情報ファイルを変更したあとで、ポータルプロジェクトの Web アプリケーションファイルを再作成する必要があります。

設定ファイルおよびポートレット配置情報ファイルの格納ディレクトリの移行手順を次に示します。

1. 設定ファイルを任意のディレクトリに移動します。
対象となるファイルは {PROJECT_HOME}¥WEB-INF¥conf ディレクトリ配下の次

のファイルです。

- controllers.xml
- EmPowerment.xml
- formbase-auth.cfg
- jetspeed-config.jcfg
- JetspeedResources.properties
- PortalResources.properties
- PortletGroup.xml
- Repository.xml
- TurbineResources.properties
- UserAgentType.xml

2. web.xml を編集します。

web.xml で定義している jetspeed サブプレットのプロパティ値の TurbineResources.properties ファイルを指定しているパスを、移動したパスに変更します。ここでは、C:\portal\conf ディレクトリに移動した場合とします。

<変更前>

```

<servlet>
  <servlet-name>
    jetspeed
  </servlet-name>
  <servlet-class>
    org.apache.turbine.Turbine
  </servlet-class>
  <init-param>
    <param-name>properties</param-name>
    <param-value>
      WEB-INF/conf/TurbineResources.properties
    </param-value>
  </init-param>
  <init-param>
    <param-name>classname</param-name>
    <param-value>
      org.apache.jetspeed.services.resources.VariableResourcesService
    </param-value>
  </init-param>
  <load-on-startup>1</load-on-startup>
</servlet>

```

<変更後>

```

<servlet>
  <servlet-name>
    jetspeed
  </servlet-name>
  <servlet-class>
    org.apache.turbine.Turbine
  </servlet-class>
  <init-param>
    <param-name>properties</param-name>
    <param-value>
      G:/portal/conf/TurbineResources.properties ← 変更箇所
    </param-value>
  </init-param>
  <init-param>
    <param-name>classname</param-name>
    <param-value>
      org.apache.jetspeed.services.resources.VariableResourcesService
    </param-value>
  </init-param>
  <load-on-startup>1</load-on-startup>
</servlet>

```

3. PortalResources.properties ファイルのプロパティを修正します。

修正前および修正後のプロパティ内容を次の表に示します。なお、修正後の太字部分は、修正が必要な箇所です。

表 C-11 PortalResources.properties ファイルの修正内容

項番	修正前 / 修正後	プロパティ内容
1	修正前	jp.co.hitachi.soft.portal.services.controllers.filename=\${webapp.dir}/WEB-INF/conf/controllers.xml
	修正後	jp.co.hitachi.soft.portal.services.controllers.filename= \$(config.dir) /controllers.xml
2	修正前	jp.co.hitachi.soft.portal.services.empowerment.filename=\${webapp.dir}/WEB-INF/conf/EmPowerment.xml
	修正後	jp.co.hitachi.soft.portal.services.empowerment.filename= \$(config.dir) /EmPowerment.xml
3	修正前	jp.co.hitachi.soft.portal.services.portletgroup.filename=\${webapp.dir}/WEB-INF/conf/PortletGroup.xml
	修正後	jp.co.hitachi.soft.portal.services.portletgroup.filename= \$(config.dir) /PortletGroup.xml
4	修正前	jp.co.hitachi.portal.services.repository.filename=\${webapp.dir}/WEB-INF/conf/Repository.xml
	修正後	jp.co.hitachi.portal.services.repository.filename= \$(config.dir) /Repository.xml

追加するプロパティ内容を次の表に示します。

表 C-12 PortalResources.properties ファイルへの追加内容

項番	プロパティ内容
1	jp.co.hitachi.soft.portal.webapp.formbase.cfg=\${config.dir}/formbase-auth.cfg

- JetspeedResources.properties ファイルのプロパティを修正します。
修正前および修正後のプロパティ内容を次の表に示します。なお、修正後の太字部分は、修正が必要な個所です。

表 C-13 JetspeedResources.properties ファイルの修正内容

項番	修正前 / 修正後	プロパティ内容
1	修正前	services.RegistryManager.url=/WEB-INF/conf/jetspeed-config.jcfg
	修正後	services.RegistryManager.url=\${config.dir}/jetspeed-config.jcfg
2	修正前	UserAgentType.xml.url=\${webapp.dir}/WEB-INF/conf/UserAgentType.xml
	修正後	UserAgentType.xml.url=\${config.dir}/UserAgentType.xml
3	修正前	customization.psml=/WEB-INF/psml/customize.psml
	修正後	customization.psml=\${psml.dir}/customize.psml
4	修正前	customization.admin.psml=/WEB-INF/psml/portaladmin.psml
	修正後	customization.admin.psml=\${psml.dir}/portaladmin.psml
5	修正前	customization.section.psml=/WEB-INF/psml/portalsection.psml
	修正後	customization.section.psml=\${psml.dir}/portalsection.psml

- ポートレット配置情報ファイル (PSML ファイル) を移動します。
 {PROJECT_HOME}¥WEB-INF¥psml 配下のすべてのファイル (サブディレクトリを含みます) を任意のディレクトリに移動します。ここでは、C:¥portal¥psml に設定する場合とします。
- psml ファイルディレクトリを設定します。
 PortalResources.properties ファイルの jp.co.hitachi.soft.portal.access.psml.dir プロパティに 5. で移動したディレクトリを設定します。
 <設定例>
 jp.co.hitachi.soft.portal.access.psml.dir=C:/portal/psml/

付録 C.13 管理者用レイアウトカスタマイズポートレットの削除

uCosminexus Portal Framework 07-01 では、管理者用レイアウトカスタマイズポートレットが削除され、標準画面レイアウトを編集するための [レイアウト編集画面] は運用管理ポートレットからだけ表示するようになりました。このため、uCosminexus Portal Framework 07-00 以前のバージョンからバージョンアップする場合は、管理者用レイアウトカスタマイズポートレットを削除してください。

ここでは、管理者用レイアウトカスタマイズポートレットの削除手順について説明します。この作業は省略しても問題ありません。

管理者用レイアウトカスタマイズポートレットの削除手順を次に示します。なお、Portal Manager の起動方法については、「2.4.1 Portal Manager の起動方法」を参照してください。

- Portal Manager のメニュー部から [ポートレットの設定] - [ポートレットの追加・

変更・削除]を選択します。

2. [ポートレットの追加・変更・削除]画面の[削除]ボタンをクリックします。
3. 管理者用レイアウトカスタマイズポートレットのチェックボックスにチェックを入れ,[OK]ボタンをクリックします。
削除するかどうかを確認する画面が表示されます。
なお,管理者用レイアウトカスタマイズポートレットのポートレット名は次のとおりです。
 - portaladmin
 - portalsection
4. [OK]ボタンをクリックします。
管理者用レイアウトカスタマイズポートレットが削除されます。

付録 C.14 製品名称の変更

uCosminexus Portal Framework 06-11 では,製品名称が変更されました。このため,Cosminexus Portal Framework 06-10 以前のバージョンからバージョンアップする場合,製品名称を変更しないと,画面に古い製品名称が表示されてしまいます。

ここでは,運用管理グループ,部門管理グループ,サンプルグループ,ホームグループのポータル管理グループ説明文,およびレイアウト説明文中に記載されている製品名称を変更する手順について説明します。この作業は省略しても問題ありません。

製品名称の変更手順を次に示します。この操作は,運用管理者の権限を持ったユーザが行ってください。なお,手順 5. ~ 7. で行うレイアウト説明文の変更は,リポジトリとして DB を使用している場合だけ,必要な手順です。

1. ポータルサーバを起動し,ログインします。
2. 運用管理ポートレットで,[グループ管理] - [運用管理グループ]を選択します。
3. [タイトル]タブをクリックします。
4. [ポータル管理グループ説明文]テキストボックスの製品名称を次のように変更し,[OK]ボタンをクリックします。
変更前: Cosminexus Portal Framework
変更後: uCosminexus Portal Framework
5. [レイアウト]タブをクリックします。
6. ポータル運用管理レイアウトの編集ボタンをクリックします。
7. [レイアウト説明文]テキストボックスの製品名称を手順 4. と同様に変更し,[OK]ボタンをクリックします。
8. 部門管理グループ(ポータル部門管理レイアウト),サンプルグループ(ウェルカム画面),およびホームグループ(ホーム画面)について,手順 2. ~ 7. の操作を行います。

付録 D Collaboration - Online Community Management を使用する場合の設定

Collaboration - Online Community Management でコミュニティを作成すると、コミュニティに対応するポータル管理グループが uCosminexus Portal Framework に作成されます。このポータル管理グループは、運用管理ポータルで作成した通常のポータル管理グループとは異なって、運用管理ポータルから操作できません（運用管理ポータルに表示されません）。

このため、Collaboration - Online Community Management を使用する場合は、ポータルのアクセス権や標準画面レイアウトについて、あらかじめシステム管理者が設定しておく必要があります。

ポータルのアクセス権

Collaboration - Online Community Management 連携で作成されたグループに対してはポータルの利用権限は付加しません。

標準画面レイアウト

コミュニティに対応するポータル管理グループ単位では、標準画面レイアウト（コミュニティワークスペースに表示されるポータルとその配置）を設定できません。標準画面レイアウトはシステムで一つだけ定義できて、すべてのコミュニティワークスペースに適用されます。

標準画面レイアウトを定義するには、システム管理者が PortalResources.properties ファイルの `jp.co.hitachi.soft.portal.collaboration.layout` 項目で、表示するポータルを指定します。指定されたポータルは、コミュニティワークスペースに指定された順に上から 1 列で並べられます。PortalResources.properties ファイルの詳細は、「10.1.1 PortalResources.properties の詳細」を参照してください。

！ 注意事項

コミュニティに対応するポータル管理グループに所属するユーザは、コミュニティメンバになります。運用管理ポータルからは、ポータル管理グループに所属するユーザを追加、削除できません。ユーザを追加、削除したい場合は、Collaboration - Online Community Management でコミュニティメンバを追加、削除してください。

付録 E メッセージ

uCosminexus Portal Framework が出力するメッセージについて説明します。

付録 E.1 メッセージの形式

メッセージの形式を次に示します。

KDPFnnnnn-i : メッセージ ID です。

英語メッセージテキスト

日本語メッセージテキスト

メッセージの説明文

(S) : メッセージを出力したあとにシステムがする主な処理を示します。

(O) : メッセージを確認したあとにユーザがする処理を説明します。この説明に従って対処してください。

付録 E.2 Windows イベントログ

uCosminexus Portal Framework が出力する Windows イベントログの一覧を次に示します。

Windows イベントログ一覧

メッセージ ID	メッセージ出力レベル ¹
KDPF11001-I	LOG_INFO
KDPF11002-I	LOG_INFO
KDPF11008-E	LOG_ERR
KDPF11011-I	LOG_INFO
KDPF11012-I	LOG_INFO
KDPF11018-E	LOG_ERR
KDPF11022-I	LOG_INFO
KDPF11023-I	LOG_INFO
KDPF11024-I	LOG_INFO
KDPF11025-I	LOG_INFO
KDPF11026-I	LOG_INFO
KDPF11027-W	LOG_WARNING
KDPF11028-I	LOG_INFO
KDPF11029-E	LOG_ERR

メッセージ ID	メッセージ出力レベル ¹
KDPF11040-I	LOG_INFO
KDPF11041-W	LOG_WARNING
KDPF11042-I	LOG_INFO
KDPF11043-I	LOG_INFO
KDPF11052-I	LOG_INFO
KDPF11053-I	LOG_INFO
KDPF11054-I	LOG_INFO
KDPF11055-E	LOG_ERR
KDPF11056-E	LOG_ERR
KDPF11057-E	LOG_ERR
KDPF11058-E	LOG_ERR
KDPF11059-E	LOG_ERR
KDPF11061-E	LOG_ERR
KDPF11062-E	LOG_ERR
KDPF11121-E	LOG_ERR
KDPF11122-W	LOG_WARNING
KDPF11126-E	LOG_ERR
KDPF11127-E	LOG_ERR
KDPF11201-E	LOG_ERR
KDPF11202-E	LOG_ERR
KDPF11203-E	LOG_ERR
KDPF11204-E	LOG_ERR
KDPF11205-E	LOG_ERR
KDPF11206-E	LOG_ERR
KDPF11460-E	LOG_ERR
KDPF11464-E	LOG_ERR
KDPF11600-E	LOG_ERR
KDPF11601-E	LOG_ERR
KDPF11602-W	LOG_WARNING
KDPF11603-E	LOG_ERR
KDPF11800-W	LOG_WARNING
KDPF11801-E	LOG_ERR
KDPF11802-E	LOG_ERR
KDPF11803-E	LOG_ERR
KDPF11804-I	LOG_INFO

メッセージ ID	メッセージ出力レベル ¹
KDPF11805-W	LOG_WARNING
KDPF11806-I	LOG_INFO
KDPF11807-W	LOG_WARNING
KDPF11808-E	LOG_ERR
KDPF11809-W	LOG_WARNING
KDPF11810-W	LOG_WARNING
KDPF11811-W	LOG_WARNING
KDPF13001-W	LOG_ERR
KDPF13002-E	LOG_WARNING
KDPF19000-I	LOG_INFO
KDPF19000-I	LOG_INFO
KDPF19002-I	LOG_INFO
KDPF19004-E	LOG_ERR
KDPF19005-E	LOG_ERR
KDPF19006-E	LOG_ERR
KDPF19009-W	LOG_WARNING
KDPF19010-W	LOG_WARNING
KDPF19011-W	LOG_WARNING
KDPF19012-W	LOG_WARNING
KDPF19013-W	LOG_WARNING
KDPF19015-E	LOG_ERR
KDPF19016-W	LOG_WARNING
KDPF19017-W	LOG_WARNING
KDPF19019-W	LOG_WARNING
KDPF19020-W	LOG_WARNING
KDPF19021-W	LOG_WARNING
KDPF19022-W	LOG_WARNING
KDPF19023-W	LOG_WARNING
KDPF19024-W	LOG_WARNING
KDPF19025-W	LOG_WARNING
KDPF19026-W	LOG_WARNING
KDPF19027-W	LOG_WARNING
KDPF19028-W	LOG_WARNING
KDPF19029-W	LOG_WARNING
KDPF19031-W	LOG_WARNING

メッセージ ID	メッセージ出力レベル ¹
KDPF19032-W	LOG_WARNING
KDPF19034-E	LOG_ERR
KDPF19035-E	LOG_ERR
KDPF19036-E	LOG_ERR
KDPF19037-E	LOG_ERR
KDPF19038-E	LOG_ERR
KDPF19039-W	LOG_WARNING
KDPF19040-W	LOG_WARNING
KDPF19041-W	LOG_WARNING
KDPF21007-I	LOG_INFO
KDPF21029-E	LOG_ERR
KDPF21030-E	LOG_ERR
KDPF31002-W	LOG_WARNING
KDPF31003-W	LOG_WARNING
KDPF31010-W	LOG_WARNING
KDPF31011-W	LOG_WARNING
KDPF31012-W	LOG_WARNING
KDPF31013-W	LOG_WARNING
KDPF31015-W	LOG_WARNING
KDPF31016-W	LOG_WARNING
KDPF31017-W	LOG_WARNING
KDPF31018-W	LOG_WARNING
KDPF31020-W	LOG_WARNING
KDPF31021-W	LOG_WARNING
KDPF31022-W	LOG_WARNING
KDPF31023-W	LOG_WARNING
KDPF31024-W	LOG_WARNING
KDPF31025-W	LOG_WARNING
KDPF31026-W	LOG_WARNING
KDPF31027-W	LOG_WARNING
KDPF31028-W	LOG_WARNING
KDPF31029-W	LOG_WARNING
KDPF31031-W	LOG_WARNING
KDPF31032-W	LOG_WARNING
KDPF31033-W	LOG_WARNING

メッセージ ID	メッセージ出力レベル ¹
KDPF33001-W	LOG_WARNING
KDPF41009-E	LOG_ERR
KDPF41015-E	LOG_ERR
KDPF41016-E	LOG_ERR
KDPF41017-E	LOG_ERR
KDPF41018-E	LOG_ERR
KDPF41019-E	LOG_ERR
KDPF41020-E	LOG_ERR
KDPF41021-E	LOG_ERR
KDPF41022-E	LOG_ERR
KDPF41023-E	LOG_ERR
KDPF41059-E	LOG_ERR
KDPF41060-E	LOG_ERR
KDPF41062-E	LOG_ERR
KDPF43001-E	LOG_ERR
KDPF47101-E	LOG_ERR
KDPF47102-E	LOG_ERR
KDPF47103-E	LOG_ERR
KDPF47104-E	LOG_ERR
KDPF60002-E	LOG_ERR
KDPF61100-I	LOG_INFO
KDPF61102-E	LOG_ERR
KDPF61103-E	LOG_ERR
KDPF61104-E	LOG_ERR
KDPF61400-E	LOG_ERR
KDPF61401-E	LOG_ERR
KDPF61612-E	LOG_ERR

注 1 メッセージ出力レベルは、イベントログを出力するレベルで、プロパティファイル (PortalResources.propertis) のプロパティ (jp.co.hitachi.soft.portal.util.log.MessageLevel) で指定します。

付録 E.3 メッセージテキスト

KDPF11001-I

The user manager has started.

ユーザマネージャを開始しました。

(S) 処理を続行します。

(O) 特にありません。

KDPF11002-I

The user manager has ended.

ユーザマネージャを終了しました。

(S) 処理を続行します。

(O) 特にありません。

KDPF11008-E

The user manager setting is invalid or no such setting.

ユーザマネージャが設定されていないか、またはユーザマネージャが見つかりません。

(S) ユーザマネージャがないものとして処理を続行します。

(O) ポータルサーバを停止して、TurbineResource.properties ファイルに次のプロパティが設定されているかどうかを確認してください。

```
services.TurbineSecurityService.user.manager=jp.co.hitachi.soft  
.portal.services.security.PortalUserManager
```

TurbineResource.properties ファイルの格納場所を次に示します。

```
{uCosminexus Portal Frameworkインストールディレクトリ}¥webapp¥conf
```

KDPF11009-E

Unrecoverable obstacle occurred in the user manager.

ユーザマネージャで回復できない障害が発生しました。

(S) ユーザマネージャの処理を中止します。

(O) ポータルサーバを再起動してください。ポータルサーバ停止時に本エラーが発生する場合は、全てのユーザがログアウトしたことを確認してからポータルサーバを停止してください。

KDPF11011-I

The security service has started.

セキュリティサービスを開始しました。

(S) 処理を続行します。

(O) 特にありません。

KDPF11012-I

The security service has ended.

セキュリティサービスを終了しました。

(S) 処理を続行します。

(O) 特にありません。

KDPF11018-E

The security service was not set or the setting is invalid.

セキュリティサービスが設定されていないか、またはセキュリティサービスが見つかりません。

(S) セキュリティサービスがないものとして処理を続行します。

(O) ポータルサーバを停止して、プロパティファイル (PortalResources.properties) が壊れていないかを確認してください。

KDPF11019-E

The obstacle that cannot be recovered occurred in the security service.

セキュリティサービスで回復できない障害が発生しました。

(S) セキュリティサービスがないものとして処理を続行します。

(O) ポータルサーバを再起動してください。

KDPF11023-I

The login process has started.

ポータルサーバ内でログイン処理が開始されました。

(S) 処理を続行します。

(O) 特にありません。

KDPF11024-I

The login process has ended.

ポータルサーバ内でログイン処理を終了しました。

(S) 処理を続行します。

(O) 特にありません。

KDPF11025-I

The logout process has started.

ポータルサーバ内でログアウト処理が開始されました。

(S) 処理を続行します。

(O) 特にありません。

KDPF11026-I

The logout process has ended.

ポータルサーバ内でログアウト処理を終了しました。

(S) 処理を続行します。

(O) 特にありません。

KDPF11027-W

The user failed in login successively. (user: aa...aa , Connection from:bb...bb)

ユーザが規定回数以上ログインに失敗しました。または統合ユーザ管理フレームワークの設定が不十分なため、ログイン処理が続行できません。

aa...aa : ユーザ項目名

bb...bb : 接続元ホスト

(S) 処理を続行します。

(O) 通常は特にありません。

ただし、このメッセージが短時間に頻繁に表示される場合は、不正なアクセスのおそれがあります。その場合は次の対処のどちらかをしてください。

- ユーザのパスワードを変更する。
- アカウントの使用を一時的に停止する。

アカウントの停止については、マニュアル「Cosminexus システム運用ガイド」を参照してください。

また、このメッセージが異なるユーザや異なる接続元で頻繁に表示される場合は、統合ユーザ管理フレームワークの設定を確認してください。次を確認してください。

- 統合ユーザ管理フレームワークが起動しているか。
- ディレクトリサーバが起動しているか。
- ディレクトリサーバとの通信が正常にできるか。
- ディレクトリサーバ上にリポジトリファイル (Repository.xml) で記述した属性があるか。

KDPF11028-I

The session was timeout. (user:aa...aa)

セッションのタイムアウトのためログアウトしました。

aa...aa : ユーザ ID

(S) 処理を続行します。

(O) 特にありません。

KDPF11029-E

The login processing has ended abnormally.

統合ユーザ管理フレームワークの異常のため、ログイン処理が異常終了しました。

(S) ユーザのログインをキャンセルし、内部異常画面を表示します。

(O) 次を確認してください。

- 統合ユーザ管理フレームワークが起動しているか。
- ディレクトリサーバが起動しているか。
- ディレクトリサーバとの通信が正常にできるか。
- ディレクトリサーバ上にリポジトリファイル (Repository.xml) で記述した属性があるか。
- JAAS のコンフィグレーションファイルの設定内容が正しいか。

KDPF11040-I

The password has been changed. (user:aa...aa , [Connection from: bb...bb])

ユーザがパスワードを変更しました。

注 [] で囲まれた内容は表示しない場合があります。

aa...aa : ユーザ ID

bb...bb : 接続元 IP アドレス

(S) 処理を続行します。

(O) 特にありません。

KDPF11041-W

The process of changing password has ended abnormally. (user:aa...aa , Connection from: bb...bb)

旧パスワードの認証に失敗したため、パスワードの変更に失敗しました。または、統合ユーザ管理フレームワークの設定が不十分なため、パスワードの変更ができません。

aa...aa : ユーザ ID

bb...bb : 接続元 IP アドレス

(S) 処理を続行します。

(O) 通常は特にありません。

ただし、このメッセージが短時間に頻繁に表示される場合は、不正なアクセスのおそれがあります。その場合は次の対処のどちらかをしてください。

- ユーザのパスワードを変更する。
- アカウントの使用を一時的に停止する。

アカウントの停止については、マニュアル「Cosminexus システム運用ガイド」を参照してください。

また、このメッセージが異なるユーザや異なる接続元で頻繁に表示される場合は、統合ユーザ管理フレームワークの設定を確認してください。次を確認してください。

- 統合ユーザ管理フレームワークが起動しているか。
- ディレクトリサーバが起動しているか。
- ディレクトリサーバとの通信が正常にできるか。
- ディレクトリサーバ上にリポジトリファイル (Repository.xml) で記述した属性があるか。

KDPF11042-I

The changing password has started.

ポータル内部でパスワード変更処理を開始しました。

(S) 処理を続行します。

(O) 特にありません。

KDPF11043-I

The changing password has ended.

ポータル内部でパスワードの変更処理を終了しました。

(S) 処理を続行します。

(O) 特にありません。

KDPF11049-E

The changing password did not succeed.

パスワードの変更処理中に内部で異常が発生しました。

(S) ユーザに異常を示す画面を表示して、パスワード変更処理をキャンセルします。

(O) 次を確認してください。

- 統合ユーザ管理フレームワークが起動しているか。
- ディレクトリサーバが起動しているか。
- ディレクトリサーバとの通信が正常にできるか。
- ディレクトリサーバ上にリポジトリファイル (Repository.xml) で記述した属性があるか。

KDPF11051-I

The repository service has started.

リポジトリサービスを開始しました。

(S) 処理を続行します。

(O) 特にありません。

KDPF11052-I

The repository service has ended.

リポジトリサービスを終了しました。

(S) 処理を続行します。

(O) 特にありません。

KDPF11053-I

Initialization of the repository service has started.

ポータル内部でリポジトリサービスの初期化処理を開始しました。

(S) 処理を続行します。

(O) 特にありません。

KDPF11054-I

Initialization of the repository service has ended.

ポータル内部でリポジトリサービスの初期化を終了しました。

(S) 処理を続行します。

(O) 特にありません。

KDPF11055-E

Required parameters of the repository file are not set.

リポジトリファイル (Repository.xml) 内に必要な項目が不足しています。

(S) リポジトリサービスがないものとして処理を続行します。

(O) リポジトリファイル (Repository.xml) の内容を確認して、必要な項目を追加してください。

KDPF11056-E

The location of the repository file is not set.

プロパティファイル (PortalResources.properties) にリポジトリファイル (Repository.xml) の場所の設定がありません。

(S) リポジトリサービスがないものとして処理を続行します。

(O) プロパティファイル (PortalResources.properties) の内容を確認して、リポジトリファイル (Repository.xml) の設定を追加してください。

KDPF11057-E

No repository file is found.

リポジトリファイル (Repository.xml) がないか、リポジトリファイル (Repository.xml) のアクセス権がありません。

(S) リポジトリサービスがないものとして、処理を続行します。

(O) リポジトリファイル (Repository.xml) があるかを確認してください。また、リポ

ジトリファイル (Repository.xml) にポータルサーバからアクセスできるかを確認してください。

KDPF11058-E

The contents of the repository file are incorrect. (aa...aa)

リポジトリファイル (Repository.xml) の記述形式が誤っています。

aa...aa : XML パーサのメッセージ

- (S) リポジトリサービスがないものとして、処理を続行します。
- (O) リポジトリファイル (Repository.xml) の次の内容を確認してください。
 - リポジトリファイル (Repository.xml) の内容が XML 形式であるか。
 - リポジトリファイル (Repository.xml) の各属性は正しいか。また、項目数は正しいか。

KDPF11059-E

The obstacle that cannot be recovered occurred in the repository service.

リポジトリサービス内部で、回復できない障害が発生しました。

- (S) リポジトリサービスがないものとして処理を続行します。
- (O) ポータルサーバを再起動してください。

KDPF11060-E

No JSP template is found.

画面を表示しようとしたが、画面テンプレートの JSP ファイルが見つかりませんでした。

- (S) 画面にエラーを表示して処理を中止します。
- (O) 画面テンプレートの JSP ファイルがあるかを確認してください。ない場合は JSP ファイルを追加してください。

KDPF11061-E

A template directory is not specified.

JSP テンプレートのベースディレクトリが指定されていません。

- (S) ユーザ画面に内部異常画面を表示して、処理を中止します。
- (O) プロパティファイル (PortalResources.properties) に JSP テンプレートディレクトリの指定があるか、または正しく指定されているかを確認してください。

KDPF11062-E

No repository service is found.

リポジトリサービスが起動されていません。このため、ディレクトリサーバなどから情

報が一切取得できません。

(S) ユーザ画面に内部異常画面を表示して、処理を中止します。

(O) KDPF11055-E ~ KDPF11059-E の内容を参考にして、リポジトリサービスを起動できる環境を整えてください。

KDPF11101-I

The Access control service has started.

アクセス制御サービスを開始しました。

(S) 処理を続行します。

(O) 特にありません。

KDPF11102-I

The Access control service has ended.

アクセス制御サービスを終了しました。

(S) 処理を続行します。

(O) 特にありません。

KDPF11103-E

Initialization of the access control service did not succeed.

アクセス制御サービスの初期化に失敗しました。

(S) アクセス制御がなかったものとして、すべてのポートレットアクセス拒否で動作します。

(O) アクセス制御関連の設定を確認してください。

KDPF11106-E

The location of the access control file is not set.

プロパティファイル (PortalResources.properties) にアクセス権設定ファイルの設定がありません。

(S) アクセス制御サービスがないものとして処理を続行します。

(O) プロパティファイル (PortalResources.properties) にアクセス権設定ファイルのパスを設定したことを確認してください。確認後、ポータルサーバを再起動してください。

KDPF11107-E

No access control file is found.

アクセス権設定ファイルが見つからないか、アクセス権がありません。

(S) アクセス制御サービスがないものとして処理を続行します。

(O) アクセス権設定ファイルがあることを確認してください。また、アクセス権設定ファイルへのアクセス権があることを確認してください。確認後、ポータルサーバを再起動してください。

KDPF11108-E

The access control file setting is invalid. The following are errors:aa...aa

アクセス権設定ファイルの設定が誤っています。

aa...aa：ファイルパーサのメッセージ

(S) アクセス制御サービスがないものとして処理を続行します。

(O) アクセス権設定ファイルを確認してください。確認後、ポータルサーバを再起動してください。

KDPF11109-E

Unrecoverable obstacle occurred in the access control service.

アクセス制御サービスで修復できないエラーが発生しました。アクセス制御サービスを終了し、すべてのアクセス制御の問い合わせに対してアクセス権がない場合の応答を返します。

(S) アクセス制御サービスがないものとして処理を続行します。

(O) ポータルサーバを再起動してください。

KDPF11121-E

Errors are in the database. The following are errors:aa...aa

属性取得・属性書き込み時に、接続先リポジトリで異常が発生しました。

aa...aa：エラー内容

(S) 処理を中止します。

(O) エラー内容に対処してください。エラー内容はリポジトリによって異なります。

KDPF11122-W

The contradiction is found in the data. The following are errors and actions:aa...aa

統合ユーザ管理フレームワークとリポジトリファイル (Repository.xml) の接続情報および構成情報の設定で矛盾を検知しました。

aa...aa：エラー内容

(S) エラー部分を無視して処理を続行します。ただし、処理を中止する場合はそのエラー内容を表示します。

(O) 統合ユーザ管理フレームワークの設定、リポジトリファイル (Repository.xml) およびディレクトリサーバの内容を確認してください。

KDPF11125-E

Some attributes of key have been specified in the following map. Only one attribute of key can be specified in a map. The Map name=aa...aa

リポジトリファイル (Repository.xml) で、キー項目が複数登録されているものがあります。

aa...aa : キーが重複登録されているマッピング項目の PortalUser か PortalOrganizationalUnit のどちらか。

(S) アクセス制御サービスがないものとして処理を続行します。

(O) リポジトリファイル (Repository.xml) の内容を確認してください。

KDPF11126-E

The contents of the map in the repository file are incorrect. The following are the incorrect map information. aa...aa

リポジトリファイル (Repository.xml) で、キー項目が複数登録されているものがあります。

aa...aa : キーが重複登録されているマップの PortalUser か PortalOrganizationalUnit のどちらか。

(S) リポジトリサービスがないものとして処理を続行します。

(O) リポジトリファイル (Repository.xml) の内容を確認してください。

KDPF11127-E

The required acquisition parameters in the repository file are not specified. The following are the incorrect map information. aa...aa

リポジトリファイル (Repository.xml) で、定義する必要のある項目が定義されていません。

aa...aa : キーが重複登録されているマップの PortalUser か PortalOrganizationalUnit のどちらか。

(S) リポジトリサービスがないものとして処理を続行します。

(O) リポジトリファイル (Repository.xml) の次の内容を確認してください。

- 該当する <Mapping> 項目が cosminexus="false" となっているか。または cosminexus 指定なしとなっているか。
- 該当する <Mapping> 項目が key="false" となっているか。または key 指定なしとなっているか。
- <Mapping> 項目が hptlPersonalizeInfo の場合、type="string" および options="multivalue" となっているか。

KDPF11128-E

The format is different from that of Repository.xml. aa...aa

リポジトリファイル (Repository.xml) で指定された形式と異なる形式で書き込みが行われました。

aa...aa : キーが重複登録されているマップの PortalUser か PortalOrganizationalUnit のどちらか。

(S) 書き込みがないものとして処理を続行します。

(O) リポジトリファイル (Repository.xml) の次の内容を確認してください。

- 該当する <Mapping> 項目が cosminexus="false" となっているか。または cosminexus 指定なしとなっているか。
- 該当する <Mapping> 項目が key="false" となっているか。または key 指定なしとなっているか。
- <Mapping> 項目が hptlPersonalizeInfo の場合、type="string" および options="multivalue" となっているか。

KDPF11200-W

Devicetype was not decided. The process continues HTML.

クライアント種別が判定できませんでした。HTML として処理します。

(S) 処理を続行します。

(O) 特にありません。

KDPF11201-E

No file is found at the specified URL. Portlet Name:aa...aa

指定された URL にファイルがありません。

aa...aa : ポートレット名

(S) 処理を続行します。

(O) マッピング定義ファイルの URL を修正してください。

KDPF11202-E

The URL was not set or the setting is invalid.

File ポートレットまたは日立 API ポートレットのマッピング定義ファイルに URL が指定されていません。

(S) 処理を続行します。

(O) マッピング定義ファイルに URL を追加してください。

KDPF11203-E

No XML definition file is found. aa..aa

マッピング定義ファイルまたはクライアント情報定義ファイル (UserAgentType.xml) がありません。

aa..aa : ファイル情報

(S) 定義ファイルがないものとして処理を続行します。

(O) 定義ファイルがあるかを確認してください。

KDPF11204-E

The XML definition file is invalid.

マッピング定義ファイル、クライアント情報定義ファイル (UserAgentType.xml)、またはポートレット定義ファイル (jetspeed-config.jcfg) の記述形式が誤っています。

(S) 定義ファイルがないものとして処理を続行します。

(O) 定義ファイルの次の内容を確認してください。

- 定義ファイルの内容が XML 形式であるか。
- 定義ファイルの各属性は正しいか。または、項目は正しいか。

KDPF11205-E

The obstacle that cannot be recovered occurred in the portlet.

マッピング定義ファイルの読み込みで、回復できない障害が発生しました。

(S) マッピング定義ファイルがないものとして処理を続行します。

(O) ポータルサーバを再起動してください。

KDPF11206-E

Portlet name was not set or the setting is invalid.

ポートレット定義ファイル (jetspeed-config.jcfg) のポートレット名が指定されていません。

(S) ポートレットがないものとして処理を続行します。

(O) ポートレット定義ファイル (jetspeed-config.jcfg) のポートレット名を指定してください。

KDPF11207-E

The mediatype is not supported.

マッピング定義ファイルの media に対応していないメディアタイプが指定されています。

(S) ポートレットがないものとして処理を続行します。

(O) マッピング定義ファイルの media に正しいメディアタイプを指定してください。

KDPF11404-E

An error occurred during processing of directory or database reference.[aa..aa]

ディレクトリへの接続または検索処理中にエラーが発生しました。

aa...aa : エラー情報

(S) 処理を中止します。

(O) エラー情報を基に障害を取り除いてから再度実行してください。

- ディレクトリが停止中でないことを確認してください。
- リポジトリの接続先など、情報の設定が正しいか確認してください。

KDPF11460-E

The problem occurred on the customize screen. aa...aa [command:b] [parameter:c]
[position:d]

カスタマイズ画面で問題が発生しました。

[] で囲まれた内容は表示しない場合があります。

aa...aa : 問題が発生した詳細内容

問題が発生した詳細内容を示します。次の表を参照してください。

b : 要求コマンド名称

レイアウトカスタマイズ機能のメソッド名称を示します。次の表を参照してください。

c : 問題が発生した要求パラメタ名称

問題が発生したメソッドの引数の内容を示します。

d : 問題が発生したパラメタ位置

引数の位置を示します。

表 E-1 KDPF11460-E の詳細内容

aa...aa : 問題が発生した詳細内容	(S)	(O)
There are items other than Controller.	Controller 以外の項目を指定しています。処理を中止します。	カスタマイズ用の JSP ファイルを見直してください。
Portlet is not specified.	画面構成情報が収集できませんでした。処理を中止します。	<ul style="list-style-type: none"> • [標準に戻す] ボタンをクリックしても問題が発生する場合は、リポジトリの情報（接続情報、構成情報、およびマッピング情報）を見直してください。 • エラーが発生するユーザのパーソナライズ情報を取得して、システム管理者に連絡してください。

aa...aa : 問題が発生した詳細内容	(S)	(O)
An error occurred during processing of generating an entry. Error information:y	ポートレットのエントリ処理でエラーが発生しました。処理を中止します。y : 内部情報	<ul style="list-style-type: none"> • [標準に戻す] ボタンをクリックしても問題が発生する場合は、リポジトリの情報（接続情報、構成情報、およびマッピング情報）を見直してください。 • エラーが発生するユーザのパーソナライズ情報を取得して、システム管理者に連絡してください。
An error occurred during processing of generating a Portlet group. Error information:y	ポートレット群の生成処理でエラーが発生しました。処理を中止します。y : エラーが発生した内部情報	<ul style="list-style-type: none"> • [標準に戻す] ボタンをクリックしても問題が発生する場合は、リポジトリの情報（接続情報、構成情報、およびマッピング情報）を見直してください。 • エラーが発生するユーザのパーソナライズ情報を取得して、システム管理者に連絡してください。
The arrangement number is specified incorrectly. Arrangement number: "y"	配列番号に数値以外の値を指定しました。処理を中止します。y : エラーが発生した配列番号	カスタマイズ用の JSP ファイルを確認してください。
The base class is not specified. Evaluated name:y	基底クラスが指定されていません。処理を中止します。y : ポートレット配置情報ファイル (PSML ファイル) 内に記載されている controller 名称	カスタマイズ用の JSP ファイルを確認してください。また、ポートレット配置情報ファイル (PSML ファイル) の内容が正しく定義されているかを確認してください。
No portlet exists or portlet divides into more than two <portlets>. <portlets>:y	エントリがないか、エントリが複数の <portlets> に分かれています。処理を中止します。y : 内部情報	カスタマイズ用の JSP ファイルを確認してください。また、ポートレット配置情報ファイル (PSML ファイル) の内容が正しく定義されているかを確認してください。
The number of arguments is invalid. number:y	引数の個数に誤りがあります。処理を中止します。y : 指定した引数の数	カスタマイズ用の JSP ファイルを確認してください。
The data of setting contains an error.	引数に設定されているデータに誤りがあります。処理を中止します。	カスタマイズ用の JSP ファイルを確認してください。
The deletion sentence of Portlets is incorrect. incorrect deletion sentence:y	ポートレットの削除文が誤っています。処理を中止します。y : 誤った削除文	カスタマイズ用の JSP ファイルを確認してください。
Specification of the deletion position of Portlet is incorrect. incorrect deletion position:y	ポートレットの削除位置に誤りがあります。処理を中止します。y : 誤った削除位置	カスタマイズ用の JSP ファイルを確認してください。

aa...aa : 問題が発生した詳細内容	(S)	(O)
Parsing failure(1)	リポジトリ情報アクセス中に障害が発生しました。	<ul style="list-style-type: none"> • [標準に戻す] ボタンをクリックしても問題が発生する場合は、リポジトリの情報（接続情報、構成情報、およびマッピング情報）を見直してください。 • エラーが発生するユーザのパーソナライズ情報を取得して、システム管理者に連絡してください。
Parsing failure(2)	リポジトリ情報アクセス中に障害が発生しました。	<ul style="list-style-type: none"> • [標準に戻す] ボタンをクリックしても問題が発生する場合は、リポジトリの情報（接続情報、構成情報、およびマッピング情報）を見直してください。 • エラーが発生するユーザのパーソナライズ情報を取得して、システム管理者に連絡してください。
Database access information are invalid. user:x Device ID:y	リポジトリ情報に誤りがあります。x : ユーザ名称 y : 内部情報	<ul style="list-style-type: none"> • [標準に戻す] ボタンをクリックしても問題が発生する場合は、リポジトリの情報（接続情報、構成情報、およびマッピング情報）を見直してください。 • エラーが発生するユーザのパーソナライズ情報を取得して、システム管理者に連絡してください。
The database is unusable. user:x	リポジトリが利用できません。 x : ユーザ名称	<ul style="list-style-type: none"> • [標準に戻す] ボタンをクリックしても問題が発生する場合は、リポジトリの情報（接続情報、構成情報、およびマッピング情報）を見直してください。 • エラーが発生するユーザのパーソナライズ情報を取得して、システム管理者に連絡してください。 • uCosminexus Portal Framework またはディレクトリの環境設定を確認してから、システム管理者に連絡してください。

KDPF11461-E

A tab name is duplicated.

指定したタブ名称はすでにあります。

(S) 処理を中止します。

(O) 重複しないタブ名称を指定してください。

KDPF11462-W

The contents that must not be specified are specified. aa...aa

uCosminexus Portal Framework で設定できない内容を指定しました。

aa...aa : 問題が発生した詳細内容

問題が発生した詳細内容を次の表に示します。

表 E-2 KDPF11462-W の詳細内容

aa...aa : 問題が発生した詳細内容	(S)	(O)
Contents which are incorrect:a	「%」および表 E-3 に示す半角文字は設定できません。処理を中止します。 なお、画面レイアウトの更新要求情報はすべて無効となります。	設定内容を変更してください。
Character which cannot be set:a	表 E-3 に示す半角文字は設定できません。処理を中止します。 なお、画面レイアウトの更新要求情報はすべて無効となります。	設定内容を変更してください。
The title name is duplicated. Title name:a	タイトル名称が重複しています。処理を中止します。 なお、画面レイアウトの更新要求情報はすべて無効となります。	重複しないタイトル名称を指定してください。
The title that consists of only numbers cannot be set.	タブ名称に半角数字だけのタイトルは指定できません。処理を中止します。 なお、画面レイアウトの更新要求情報はすべて無効となります。	数字以外の文字を含むタイトル名称を指定してください。
The title ' s length is invalid.	0 文字以下、または 65 文字以上のタブ名称を指定できません。処理を中止します。なお、画面レイアウトの更新要求情報はすべて無効となります。	1 文字以上かつ 64 文字以下のタイトル名称を指定してください。
The first character is invalid:a	タブ名称の先頭の文字に半角記号は指定できません。処理を中止します。なお、画面レイアウトの更新要求情報はすべて無効となります。	先頭文字が半角記号（「-」「#」「'」）以外の文字を指定してください。

表 E-3 カスタマイズで使用できない半角文字

文 字	ASCII コード (16 進)	文 字	ASCII コード (16 進)	文 字	ASCII コード (16 進)
!	0x21	.	0x2e	¥	0x5c
"	0x22	/	0x2f]	0x5d
\$	0x24	:	0x3a	^	0x5e
%	0x25	;	0x3b	_	0x5f
&	0x26	<	0x3c	~	0x60
(0x28	=	0x3d	{	0x7b
)	0x29	>	0x3e		0x7c
*	0x2a	?	0x3f	}	0x7d
+	0x2b	@	0x40	~	0x7e
,	0x2c	[0x5b	-	-

(凡例) - : 該当しません。

注 半角記号として「#」、「-」、「!」は指定できます。

KDPF11463-E

Not all portlets can be deleted.

すべてのポートレットを削除できません。

(S) 処理を中止します (画面レイアウトの更新要求情報はすべて無効となります)。

(O) ポートレットを一つは残して、再度カスタマイズしてください。

KDPF11464-E

The problem occurred during processing of renewing the customize information. aa...aa

カスタマイズ情報更新中に問題が発生しました。

aa...aa : 問題が発生した詳細内容

問題が発生した詳細内容を次の表に示します。

表 E-4 KDPF11464-E の詳細内容

aa...aa	(S)	(O)
Parsing is impossible. (1)	構文が解析できません (1)。 画面レイアウトの更新要求情報はすべて無効となります。	再度カスタマイズしてください。 システム管理者に連絡してください。
Parsing is impossible. (2)	構文が解析できません (2)。 画面レイアウトの更新要求情報はすべて無効となります。	再度カスタマイズしてください。 システム管理者に連絡してください。

aa...aa	(S)	(O)
Database access information are invalid. user: aa...aa<->bb...bb Device ID:xx...xx<->yy...yy	リポジトリ情報に誤りがあります。ユーザ名称 aa...aa と bb...bb が異なっている, またはデバイス識別子 xx...xx と yy...yy が異なっています。画面レイアウトの更新要求情報はすべて無効となります。	再度カスタマイズしてください。
The database is unusable. user:aa...aa	リポジトリが利用できません。ユーザは aa...aa です。画面レイアウトの更新要求情報はすべて無効となります。	システム管理者に連絡してください。
Infomational writing went wrong.	情報の書き込みに失敗しました。画面レイアウトの更新要求情報はすべて無効となります。	再度カスタマイズしてください。 システム管理者に連絡してください。

KDPF11465-E

Please relog in. [user:x]

再度ログインしてください。[ユーザ:x]

(S) ユーザ x で問題が発生しました。処理を中止します。

(O) 再度ログインしてください。

KDPF11600-E

The JSP/HTML file or Servlet class could not be found.

ポートレットで障害が発生しました。

(S) イベントログを出力します。

(O) 次のことを確認してください。

- URL が正しいか。
- 設定した JSP/HTML ファイルまたは Servlet クラスがあるか。

KDPF11601-E

An error occurred at the portlet. [Portlet: {aa...aa}, Operation:{bb...bb}]

ポートレットまたはテンプレートで障害が発生しました。

[] で囲まれた内容は表示しない場合があります。

aa...aa : エラーが発生したポートレット名

bb...bb : エラーが発生した操作

(S) イベントログを出力します。

(O) 次のことを確認してください。

- URL が正しいか。

- 作成したポートレットに使用できない HTML 要素やタグが含まれていないか。
- ポートレットの業務に問題がないか。

KDPF11602-W

The attribute of the Cache Tag is invalid. :aa...aa

属性値として不正な値が設定されているか、または属性値が設定されていません。

aa...aa：属性名

(S) デフォルト値を使用します。

デフォルト値がない属性の場合は、キャッシュを使用しません。

(O) ポートレットユーティリティタグライブラリの uu:cache タグの属性値を確認してください。

KDPF11603-E

The access is invalid. Portlet:aa...aa URL:bb...bb

不正なアクセスがありました。

aa...aa：ポートレット名

bb...bb：アクセスされた不正な URL

(S) イベントログを出力します。

(O) 不正なアクセスが頻繁にある場合には、該当する事象について調査してください。

KDPF11800-W

A HTTP Response Error was found during processing of acquiring the Web Page.

Web ページ取得処理中に HTTP レスポンスエラーを検出しました。

(S) イベントログを出力します。

(O) 次のことを確認してください。

- URL が正しいか。
- フィルタリングで要素を [削除する] に指定していないか。
- ポートレットの Web に問題がないか。

KDPF11801-E

An I/O Error occurred during processing of acquiring the Web Page.

Web ページ取得処理中に入出力エラーが発生しました。

(S) イベントログを出力します。

(O) 次のことを確認してください。

- URL が正しいか。
- フィルタリングで要素を [削除する] に指定していないか。
- ポートレットの Web に問題がないか。

KDPF11802-E

An invalid URL was specified.

不正な URL が指定されました。

(S) イベントログを出力します。

(O) URL が正しいかどうかを確認してください。

KDPF11803-E

An error occurred at the portlet.

ポートレットで障害が発生しました。

(S) イベントログを出力します。

(O) 次を確認してください。

- URL が正しいか。
- フィルタリングで要素を [削除する] に指定していないか。
- ポートレットの Web に問題がないか。

KDPF11804-I

The encoding that is not supported was found. Continue with the default encoding.

対応していない文字エンコーディングを検出しました。

(S) 文字エンコーディングを自動判定して、処理を続行します。

(O) エンコーディングの設定を確認してください。

KDPF11805-W

Original parameter is invalid. Continue with the default value.

初期パラメタが不正です。

(S) デフォルト値を用いて処理を続行します。

(O) パラメタの設定を確認してください。

KDPF11806-I

The Cache-Control that is not supported was found. Continue with the default Cache-Control value.

対応していない Cache-Control 識別子を検出しました。

(S) デフォルトの Cache-Control 値を用いて処理を続行します。

(O) Cache-Control の設定が正しいかどうかを確認してください。

KDPF11807-W

An exception was found during processing of finding Cache compulsory validation command.

Continue the process assuming there is no Cache compulsory validation indication.

キャッシュ強制検証コマンド検出処理中に例外を検出しました。

(S) 強制検証指示がないと仮定して処理を続行します。

(O) 強制検証コマンドを再度実行してください。

KDPF11808-E

Unreported exception was found during processing of analyzing HTML.

HTML 解析中に未知の例外を検出しました。

(S) イベントログを出力します。

(O) コンテンツの内容が正しいかどうかを確認してください。

KDPF11809-W

The Base Tag contains an invalid URL. Continue the process disregarding the Base Tag.

BASE 要素を検出しましたが不正な URL でした。

(S) BASE 要素を無視して、処理を続行します。

(O) URL が正しいかどうかを確認してください。

KDPF11810-W

An exception was found during processing of translating URL. Continue with no translation.

URL 変換中に例外を検出しました。

(S) URL 変換をしないで処理を続行します。

(O) URL が正しいかどうかを確認してください。

KDPF11811-W

The specification of the parameter is invalid. :aa...aa

パラメタ指定が不正です。

aa...aa : パラメタ名

(S) パラメタを無視して、処理を続行します。

(O) パラメタの設定を確認してください。

KDPF19000-I

Turbine started.

Turbine を起動しました。

(S) 処理を続行します。

(O) 特にありません。

KDPF19001-I

Turbine ended.

Turbine を終了しました。

(S) 特にありません。

(O) 特にありません。

KDPF19002-I

aa...aa was initialized.

Turbine の各サービスの初期化を完了しました。

aa...aa : サービス名

(S) 特にありません。

(O) 特にありません。

KDPF19003-I

aa...aa ended.

Turbine の各サービスを終了しました。

aa...aa : サービス名

(S) 特にありません。

(O) 特にありません。

KDPF19004-E

aa...aa could not be initialized.

Turbine の各サービスの初期化に失敗しました。

aa...aa : サービス名

(S) 特にありません。

(O) ポータルサーバを再起動してください。

KDPF19005-E

An internal error occurred.

内部エラーが発生しました。

(S) 異常を示す画面を表示します。

(O) ポータルサーバを再起動してください。

KDPF19006-E

The MIME-Type that is not supported was specified.

対応していない MIME-Type が指定されました。

(S) 異常を示す画面を表示します。

(O) 対応している MIME-Type を使用してポータルサーバにアクセスしてください。

KDPF19007-E

Unreported registry name was specified.

未知のレジストリ名が指定されました。

(S) 異常を示す画面を表示します。

(O) ポートレット定義ファイル (jetspeed-config.jcfg) の内容を修正してポータルサーバを再起動してください。

KDPF19008-W

The default setting is being used because the file or the class is not found.

ファイルまたはクラスが見つからないためデフォルトの設定を使用します。

(S) デフォルトの設定値を使用し、処理を続行します。

(O) プロパティファイル (PortalResources.properties) または JAR ファイルを確認してください。

KDPF19009-W

No portlet was found.

ポートレットが見つかりません。

(S) 特にありません。

(O) ポートレット定義ファイル (jetspeed-config.jcfg) の内容を確認してください。

KDPF19010-W

The url could not be downloaded. :aa...aa

URL をダウンロードできませんでした。

aa...aa : ダウンロードに失敗した URL

(S) 特にありません。

(O) 特にありません。

KDPF19011-W

The cache directory could not be found.

キャッシュディレクトリが見つかりません。

(S) キャッシュディレクトリを作成し、処理を続行します。

(O) 特にありません。

KDPF19012-W

A Portlet could not be created.

ポータルレットの生成に失敗しました。

(S) URLManager に不良 URL として登録します。

(O) 設定ファイルの内容を確認してください。

KDPF19013-W

The RegistryManager could not be initialized.

レジストリマネージャの初期化に失敗しました。

(S) 特にありません。

(O) 特にありません。

KDPF19014-W

The following files do not exist. :aa...aa

ファイルが見つかりません。

aa...aa : ファイル名

(S) 処理を続行します。

(O) 指定されたファイルを用意してください。

KDPF19015-W

The FeedDaemon could not start.

FeedDaemon が起動できません。

(S) FeedDaemon の処理をしないで、次の処理へ進みます。

(O) 特にありません。

KDPF19016-W

The URL cannot be accessed.

URL にアクセスできません。

(S) 特にありません。

(O) 特にありません。

KDPF19017-W

The file could not be uploaded.

ファイルのアップロードに失敗しました。

(S) 特にありません。

(O) 特にありません。

KDPF19019-W

The object of the class is not supported. Class:aa...aa

クラスのオブジェクトがサポートされていません。

aa...aa : クラス名

(S) 特にありません。

(O) 特にありません。

KDPF19020-W

aa...aa was not found in the registry.

aa...aa は registry の中に見つかりません。

aa...aa : ポートレットエントリ名

(S) 特にありません。

(O) ポートレット定義ファイル (jetspeed-config.jcfg) の内容を確認してください。

KDPF19021-W

The parent of the entry has not been registered. Entry: aa...aa parent:bb...bb

aa...aa の parent:bb...bb が登録されていません。

aa...aa : ポートレットエントリ名

bb...bb : 親ポートレットエントリ名

(S) 特にありません。

(O) ポートレット定義ファイル (jetspeed-config.jcfg) の内容を確認してください。

KDPF19022-W

The form of XML is invalid. / The document does not accord the XML schema.

ポートレット配置情報ファイルの書式がスキーマ定義ファイルの内容と一致していません。

(S) 特にありません。

(O) ポートレット配置情報ファイルのスキーマ内容を確認して修正してください。

KDPF19023-W

It takes mm minute(s) to download the following URL.

次の URL はダウンロードに mm 分かかります。

mm : ダウンロードに掛かる時間 (分)

(S) 特にありません。

(O) 特にありません。

KDPF19024-W

The daemon file could not be processed.

処理できない daemon ファイルです。

(S) 特にありません。

(O) 特にありません。

KDPF19025-W

The resource in <aa...aa> could not be found.

ユーザのプロファイルリソースが見つかりませんでした。

aa...aa : リソースファイル名

(S) 異常を示す画面を表示します。

(O) 特にありません。

KDPF19026-W

The File Watcher class stopped on the monitor.

FileWatcher クラスがモニタで停止しています。

(S) 特にありません。

(O) 特にありません。

KDPF19027-W

A problem occurred while the thread is running.

スレッドの実行中に問題が発生しました。

(S) 特にありません。

(O) 特にありません。

KDPF19028-W

The URLManager could not restore (return) the state.

URLManager は状態を返せません。

(S) 特にありません。

(O) 特にありません。

KDPF19029-W

The URLManager could not save the state.

URLManager の状態を保存できません。

(S) 特にありません。

(O) 特にありません。

KDPF19031-W

The registration of the URL could not be deleted.

URL の登録削除に失敗しました。

(S) 特にありません。

(O) 特にありません。

KDPF19032-W

The Bad URL is added to the URLManager.

URLManager に不良 URL を追加します。

(S) 特にありません。

(O) 特にありません。

KDPF19034-E

An error occurred during processing of template. aa...aa

aa...aa : エラーが発生したテンプレート
テンプレートの処理中にエラーが発生しました。

(S) 異常を示す画面を表示します。

(O) テンプレートファイル (JSP など) を修正してください。

KDPF19035-E

The following screens could not be found. Check if the setting is correct. :aa...aa

スクリーンが見つかりません。

aa...aa : スクリーン名

(S) 異常を示す画面を表示します。

(O) JAR ファイルの中に該当するクラスがあるか確認してください。

KDPF19036-E

The following services did not exist. Check if the setting is correct. :aa...aa

サービスが見つかりません。

aa...aa : サービス名

(S) 特にありません。

(O) JAR ファイルの中に該当するクラスがあるかを確認してください。

KDPF19037-E

The specified service cannot be used (as the service). Check if the setting is correct. :aa...aa

指定したサービスはサービスとして使用できません。

aa...aa : サービス名

(S) 特にありません。

(O) プロパティファイル (PortalResources.properties) の内容を確認して修正してください。そのあとポータルサーバを再起動してください。

KDPF19038-E

The specified service could not start. Check if the setting is correct. :aa...aa

指定されたサービスを起動できません。

aa...aa : サービス名

(S) 特にありません。

(O) プロパティファイル (PortalResources.properties) の内容を確認して修正してください。そのあとポータルサーバを再起動してください。

KDPF19039-W

The setting of the property is duplicated. Check if the setting is correct. :aa...aa

プロパティの設定が重複しています。

aa...aa : プロパティの属性

(S) 先頭の設定値を使用します。

(O) プロパティファイル (PortalResources.properties) の内容を確認して修正してください。そのあとポータルサーバを再起動してください。

KDPF19040-W

The property could not be acquired. :aa...aa

プロパティが取得できません。

aa...aa : プロパティの属性

(S) 処理を続行します。

(O) プロパティファイル (PortalResources.properties) の内容を確認して修正してください。そのあとポータルサーバを再起動してください。

KDPF19041-W

The specification of the parameter is invalid. Portlet name:aa...aa parameter name:bb...bb

不正なパラメタが指定されています。

aa...aa : ポートレット名

bb...bb : パラメタ名

(S) 特にありません。

(O): ポートレット定義ファイル (jetspeed-config.jcfg) の内容を確認してください。

KDPF19043-E

Failed to access file. (file: aa...aa)

ファイルへのアクセスに失敗しました。

aa...aa : ファイル名

(S) 処理を続行します。

(O) ファイルが読み書きできる状態か確認してください。

KDPF19045-E

Not found. (detail: kind = aa...aa, key=bb...bb)

必要な情報が検索できませんでした。

aa...aa : 検索対象とした情報

bb...bb : 検索キー

(S) 処理を中止します。

(O) 検索対象が存在するか確認してください。

KDPF19046-E

Failed to access file.(file:aa..aa, operation:bb...bb)

ファイルへのアクセスに失敗しました。

aa...aa : ファイル名

bb...bb : READ : ファイル読み込み

WRITE : ファイル書き込み

COPY : ファイルコピー

XML ACCESS : XML ファイル読み書き

XML : XML ファイルエンコード指定読み込み

(S) 処理を中止します。

(O) 失敗した原因を取り除いてください。

KDPF19099-E

Unexpected error: [aa..aa]

予期しないエラーが発生しました。

aa...aa : 詳細情報

(S) 処理を中止します。

(O) 詳細情報をシステム管理者に連絡してください。

KDPF21004-I

User Manager API (JavaBeans) is started.

ユーザ管理 API (JavaBeans) を開始しました。

(S) 処理を続行します。

(O) 特にありません。

KDPF21005-I

User Manager API (JavaBeans) is ended.

ユーザ管理 API (JavaBeans) を終了しました。

(S) 処理を続行します。

(O) 特にありません。

KDPF21007-I

Unsupported character encoding was detected. Auto-detection is performed and processing is continued.

対応していない文字エンコーディングを検出しました。

(S) 文字エンコーディングを自動判定し、処理を続行します。

(O) エンコーディングの設定を確認してください。

KDPF21029-E

Interval must be a positive number.

障害監視の設定プロパティに誤りがあります。

(S) 起動処理を中止します。

(O) 障害監視の設定プロパティで、活動を監視する間隔の設定を見直してください。

KDPF21030-E

Timeout must be a positive number.

障害監視の設定プロパティに誤りがあります。

(S) 起動処理を中止します。

(O) 障害監視の設定プロパティで、活動監視時にタイムアウトとみなす時間の設定を見直してください。

KDPF25002-I

エンコードの設定が完了しました。

エンコードの設定が完了しました。

(S) 処理を続行します。

(O) 特にありません。

KDPF25003-I

ログインモジュールの登録が完了しました。

ログインモジュールの登録が完了しました。

(S) [ログインモジュールの登録] 画面を表示します。

(O) 特にありません。

KDPF25004-I

接続情報の登録が完了しました。

接続情報の登録が完了しました。

(S) 処理を続行します。

(O) 特にありません。

KDPF25005-I

構成情報の登録が完了しました。

構成情報の登録が完了しました。

(S) 処理を続行します。

(O) 特にありません。

KDPF25006-I

マッピング情報 (ユーザ) の登録が完了しました。

マッピング情報 (ユーザ) の登録が完了しました。

(S) 処理を続行します。

(O) 特にありません。

KDPF25007-I

マッピング情報 (グループ) の登録が完了しました。

マッピング情報 (グループ) の登録が完了しました。

(S) 処理を続行します。

(O) 特にありません。

KDPF25008-I

マッピング情報 (組織単位) の登録が完了しました。

マッピング情報 (組織単位) の登録が完了しました。

(S) 処理を続行します。

(O) 特にありません。

KDPF25010-I

ポートレットの登録が完了しました。

ポートレットの登録が完了しました。

(S) 処理を続行します。

(O) 特にありません。

KDPF25011-I

PAR 形式ポートレットの追加が完了しました。

PAR 形式のポートレットの追加が完了しました。

(S) 処理を続行します。

(O) 特にありません。

KDPF25012-I

PAR 形式ポートレットの削除が完了しました。

PAR 形式のポートレットの削除が完了しました。

(S) 処理を続行します。

(O) 特にありません。

KDPF25013-I

レイアウト選択が完了しました。

レイアウト選択が完了しました。

(S) 処理を続行します。

(O) 特にありません。

KDPF25014-I

キャッシュクリアが完了しました。

キャッシュクリアが完了しました。

(S) 処理を続行します。

(O) 特にありません。

KDPF25015-I

PAR 形式ポートレットの削除をキャンセルしました。

PAR 形式のポートレットの削除をキャンセルしました。

(S) 処理を中止し、再度 [PAR 形式のポートレットの削除] 画面を表示します。

(O) 特にありません。

KDPF25016-I

PAR 形式ポートレットの追加をキャンセルしました。

PAR 形式のポートレットの追加をキャンセルしました。

(S) 処理を中止し、再度 [PAR 形式のポートレットの追加] 画面を表示します。

(O) 特にありません。

KDPF25017-I

接続情報を削除しました。

接続情報を削除しました。

(S) 処理を続行します。

(O) 特にありません。

KDPF25018-I

構成情報を削除しました。

構成情報を削除しました。

(S) 処理を続行します。

(O) 特にありません。

KDPF25019-I

ユーザ定義項目を追加しました。

ユーザ定義項目を追加しました。

(S) 処理を続行します。

(O) 特にありません。

KDPF25020-I

ユーザ定義項目を削除しました。

ユーザ定義項目を削除しました。

(S) 処理を続行します。

(O) 特にありません。

KDPF25021-I

マッピング情報を削除しました。

マッピング情報を削除しました。

(S) 処理を続行します。

(O) 特にありません。

KDPF25023-I

ポートレットを削除しました。

ポートレットを削除しました。

(S) 処理を続行します。

(O) 特にありません。

KDPF25025-I

ポートレットの削除をキャンセルしました。

ポートレットの削除をキャンセルしました。

(S) 処理を中止し、再度 [ポートレットの追加・変更・削除] 画面を表示します。

(O) 特にありません。

KDPF25027-I

接続情報の削除をキャンセルしました。

接続情報の削除をキャンセルしました。

(S) 処理を中止し、再度接続情報の設定画面を表示します。

(O) 特にありません。

KDPF25028-I

構成情報の削除をキャンセルしました。

構成情報の削除をキャンセルしました。

(S) 処理を中止し、再度 [構成情報の設定] 画面を表示します。

(O) 特にありません。

KDPF25029-I

ポートレット定義を設定しました。

ポートレット定義を設定しました。

(S) 処理を続行します。

(O) 特にありません。

KDPF25030-I

ポートレットが登録されていません。

ポートレットが登録されていません。

(S) 処理を続行します。

(O) ポートレットを登録してください。

KDPF25031-I

プロジェクトホームを選択してください。

次の原因が考えられます。

- プロジェクトホームを未選択のまま「ポータルプロジェクトの選択」以外のメニューを選択した。
- セッションタイムアウトが発生した。

(S) 処理を続行します。

(O) プロジェクトホームを選択してください。

KDPF25032-I

レイアウトパターンの設定が完了しました。

レイアウトパターンの設定が完了しました。

(S) 処理を続行します。

(O) 特にありません。

KDPF25033-I

レイアウトパターンを削除しました。

指定したレイアウトパターンを削除しました。

(S) 処理を続行します。

(O) 特にありません。

KDPF25034-I

レイアウトパターンの削除をキャンセルしました。

レイアウトパターンの削除をキャンセルしました。

(S) 処理を続行します。

(O) 特にありません。

KDPF25035-I

ポートレット並列実行の設定が完了しました。

ポートレット並列実行の設定が完了しました。

(S) 処理を続行します。

(O) 特にありません。

KDPF25036-I

ログ・トレースの設定が完了しました。
ログ・トレースの設定が完了しました。
(S) 処理を続行します。
(O) 特にありません。

KDPF25037-I

レイアウトの基本設定が完了しました。
レイアウトの基本設定が完了しました。
(S) 処理を続行します。
(O) 特にありません。

KDPF25038-I

ポートレット定義をキャンセルしました。
ポートレット定義をキャンセルしました。
(S) 処理を続行します。
(O) 特にありません。

KDPF25039-I

サーバの設定が完了しました。
サーバの設定が完了しました。
(S) 処理を続行します。
(O) 特にありません。

KDPF31002-W

URL translator flag is not found. Continue with default value.
URL 変換規則の切り替えが設定されていません。
(S) デフォルト値 (false) を使用して、処理を続行します。
(O) URL 変換規則の切り替えを設定してください。

KDPF31003-W

URL translator flag is illegal value.
URL 変換規則の切り替えの設定が不正です。
(S) デフォルト値 (false) を使用して、処理を続行します。
(O) URL 変換規則の切り替えのプロパティには、true または false を設定してください。

KDPF31004-W

Mimetype service was not set or the setting is invalid. The process continues using default value.

クライアント情報定義機能の mimetype 属性に値が設定されていません。

(S) デフォルト値 (text/html) と判定して処理を続行します。

(O) クライアント情報定義ファイル (UserAgentType.xml) の mimetype 属性を設定してください。

KDPF31005-W

Devicetype service was not set or the setting is invalid. The process continues using default value.

クライアント情報定義機能の devicetype 属性に値が設定されていません。

(S) デフォルト値 (HTML) と判定して処理を続行します。

(O) クライアント情報定義ファイル (UserAgentType.xml) の devicetype 属性を設定してください。

KDPF31006-W

UserAgenttype service was not set or the setting is invalid.

クライアント情報定義機能の useragenttype 属性に値が設定されていません。

(S) デフォルト値 (null) と判定して処理を続行します。

(O) クライアント情報定義ファイル (UserAgentType.xml) の useragenttype 属性を設定してください。

KDPF31007-W

Matchingpattern service was not set or the setting is invalid.

クライアント情報定義機能の matchingpattern 属性に値が設定されていません。

(S) デフォルト値 (PORTAL) と判定して処理を続行します。

(O) クライアント情報定義ファイル (UserAgentType.xml) の matchingpattern 属性を設定してください。

KDPF31008-W

Invalid parameter was put in the method of JavaBeans.

JavaBeans のメソッドに渡されたパラメータが不正です。

(S) 処理を中止します。

(O) パラメータの値を確認してください。

KDPF31009-W

Customize information of portlet could not be found.

指定されたキーでポートレットのカスタマイズ情報が取得できません。

(S) ポートレットのカスタマイズ情報がないものとして、処理を続行します。

(O) アプリケーションキーの値が正しいかを確認してください。

KDPF31010-W

The specified loginmodule could not be used.

指定されたログインモジュールを使用できません。

(S) デフォルト値を使用して、処理を続行します。

(O) ログインモジュールがあるか、およびログインモジュール名が正しいかを確認してください。

KDPF31011-W

aa...aa is illegal value. aa...aa

レイアウト設定のデフォルト設定値が不正です。

aa...aa : プロパティ名

(S) デフォルト値を使用して処理を続行します。

(O) プロパティ値を修正してください。

KDPF31012-W

aa...aa is illegal argument. aa...aa

LayoutBean に渡されたパラメタが不正です。

aa...aa : パラメタ名

(S) false または空文字列を戻して、処理を続行します。

(O) JSP ファイルのメソッドの引数を修正してください。

KDPF31013-W

LayoutBean is not initialized.

LayoutBean が初期化されていません。

(S) false または空文字列を戻して、処理を続行します。

(O) ポートレットテンプレート Bean の `initBean()` メソッドを呼び出す前にほかのメソッドを使用していないかを JSP ファイルで確認してください。

KDPF31014-W

Specified parameter aa...aa is not found.

指定されたパラメタが設定されていません。

aa...aa : パラメタ名

(S) null を戻します。

(O) JSP ファイルで、ポートレット情報取得 Bean の `getParameter()` メソッドの引数 `name` と同一名称のパラメタがあるかを確認してください。

KDPF31015-W

PortletInfoBean is not initialized.

ポートレット情報取得 Bean が初期化されていません。

(S) null を戻して処理を続行します。

(O) JSP ファイルで、ポートレット情報取得 Bean の `initBean()` メソッドを呼び出す前にほかのメソッドを使用していないかを確認してください。

KDPF31016-W

Daemon process failed. (Daemon name:{2} Code:{1})

デーモン操作に失敗しました。

(S) デーモン操作を中止します。

(O) 書き換え禁止のファイルが壊れていないかを確認してください。また、`uCosminexus Portal Framework` が正常に起動し、終了しているかを確認してください。

KDPF31017-W

Connection failed. URL:{1}

接続に失敗しました。

(S) データなしとして処理します。

(O) 設定ファイルの URL 項目で、表示された URL があるかを確認してください。

URL がある場合は、URL を修正してください。また、ポータルサーバ停止時に本警告が発生する場合は、全てのユーザがログアウトしたことを確認してからポータルサーバを停止してください。

KDPF31018-W

Tag failed. (Tag:{1} Code:{2})

タグライブラリの使用に失敗しました。

(S) タグライブラリの呼び出し元に対してエラーを出力します。

(O) タグライブラリの使用方法が正しいかを確認してください。また、`uCosminexus Portal Framework` が正常に起動し、終了しているかを確認してください。

KDPF31019-W

HTTP response error returned while trying to fetch a web page.

Web ページ取得中に HTTP レスポンスエラーを検出しました。

- (S) イベントログを出力します。
- (O) 次の点を確認してください。
 - URL が正しいか。
 - フィルタリングで要素を [削除する] に指定していないか。
 - ポートレットの Web に問題がないか。

KDPF31020-W

Initial parameter is invalid. Default value is used.

初期パラメタが不正です。

- (S) デフォルト値を使用して処理を続行します。
- (O) パラメタの設定を確認してください。

KDPF31021-W

Unsupported Cache-Control directive was detected. Default value is used.

対応していない Cache-Control 識別子を判定しました。

- (S) デフォルトの Cache-Control 識別子を使用して処理を続行します。
- (O) Cache-Control の設定が正しいかを確認してください。

KDPF31022-W

Cache validation detecting function throws exception. Processing is continued assuming no force cache validation flag.

キャッシュ強制検証コマンド検出中に例外を検出しました。

- (S) 強制検証指示がないものとして処理を続行します。
- (O) 強制検証コマンドを再度実行してください。

KDPF31023-W

BASE element was detected but invalid URL was specified. Ignore this URL and processing is continued.

BASE 要素を検出しましたが、不正な URL でした。

- (S) BASE 要素を無視して処理を続行します。
- (O) URL が正しいかを確認してください。

KDPF31024-W

Exception was detected while trying to convert a URL. Conversion cannot be performed and processing is continued.

URL 変換中に例外を検出しました。

- (S) URL を変換しないで処理を続行します。

(O) URL が正しいかを確認してください。

KDPF31025-W

Invalid parameter. : <aa...aa>

パラメタの指定が不正です。

aa...aa : パラメタ名

(S) 不正なパラメタを無視して処理を続行します。

(O) パラメタの設定を確認してください。

KDPF31026-W

Specified filtering pattern(s) does not matched. Regex filtering was not performed. <aa...aa>

指定されたフィルタリングパターンがマッチしませんでした。正規表現フィルタリングは行われませんでした。

aa...aa : パラメタ名

(S) フィルタリングしないで、コンテンツを戻します。

(O) 正しい文字列パターンを指定してください。

KDPF31027-W

Exception was detected while trying to filtering the html content. Regex filtering cannot be performed and processing is continued.

コンテンツフィルタリング中に例外が発生しました。フィルタリングを中止して処理を続行します。

(S) フィルタリングしないで、処理を続行します。

(O) 正しい文字列パターンを指定してください。

KDPF31028-W

Coressponding authorization info could not be found. Single Sign On could not be performed.

コンテンツに対する認証情報が得られません。シングルサインオンできませんでした。

(S) フォームを出力して、ユーザに入力画面を表示します。

(O) ディレクトリサーバに認証情報を設定してください。

KDPF31029-W

Invalid 01-00 compatible setting. portlet:aa...aa

iframe タグの URL 変換設定に誤りがあります。

aa...aa : ポートレット名

(S) 通常モードで動作します。

(O) iframe タグの URL 変換設定では、true または false のどちらかで設定する必要が

あります。jetspeed-config.jcfg ファイルの設定を修正してください。

KDPF31030-W

Invalid portlet timeout setting. Portlet:aa...aa

タイムアウトの設定に誤りがあります。

aa...aa : ポートレット名

(S) ポートレットの処理を中止します。

(O) ポートレットのタイムアウトの設定に正しい値を設定してください。

KDPF31031-W

The problem occurred during controller definition file reading.xxx

コントローラ定義ファイル読み込み中に問題が発生しました。

xxx : 詳細メッセージ

(S) uCosminexus Portal Framework を続行します。

(O) xxx によってコントローラ定義ファイルを見直してください。

The setting value of maxRow is a value besides the setting range.

1 ~ 10 までの値を設定してください。

The setting value of maxCol is a value besides the setting range.

1 ~ 10 までの値を設定してください。

A file does not exist.

正しくファイルを配置してください。

KDPF31032-W

The empty threads in a thread pool are insufficient.

スレッドプール内の空きスレッドが不足しています。

このメッセージは、uCosminexus Portal Framework 起動後 1 回出力します。

(S) 処理を続行します。

ポートレット並列化機能使用時、空きスレッドが発生するまでポートレットのコンテンツの取得処理をキューイングします。

(O) 以下を実施してください。

ポートレットコンテンツ取得監視時間を見直す

特定のポートレットの処理時間が長い場合 (例えば日立 API ポートレットで実行している業務処理に負荷が掛かっている場合など)、または無応答となっている場合、スレッドプールのスレッドをそのポートレットのコンテンツ取得処理が占有するため、ほかのポートレットの処理が待たされるおそれがあります。この場合、そのポートレットのポートレットコンテンツ取得監視時間を短く設定し、ほかのポートレット取得処理が動作できるようにします。

スレッドプールのスレッド数を増加させる

ポートレットコンテンツ取得監視時間を見直しても、そのポートレットのポートレットコンテンツ取得監視時間を短く設定できない場合、スレッドプールのスレッド数を増加させて、ほかのポートレット取得処理が動作できるようにします。

KDPF31033-W

The problem occurred during processing of reading the PSML. aa...aa

ポートレット配置情報ファイル (PSML ファイル) のデータを読み込み中に問題が発生しました。

aa...aa : 詳細メッセージ

問題が発生した詳細内容を次の表に示します。

表 E-5 KDPF31033-W の詳細内容

aa...aa : 問題が発生した詳細内容	(S)	(O)
LayoutPattern does not exist.	uCosminexus Portal Framework を続行します。	システム管理者に連絡してください。システム管理者はポートレット配置情報ファイル (PSML ファイル) のデータを見直してください。“ sizes ” パラメタに設定されているレイアウトパターンは無効です。コントローラ定義ファイルに存在する正しいレイアウトパターン名を設定してください。
“ sizes ” parameter ’ s value is invalid.	uCosminexus Portal Framework を続行します。	システム管理者に連絡してください。システム管理者はポートレット配置情報ファイル (PSML ファイル) のデータを見直してください。“ sizes ” パラメタの値が不正です。 <ul style="list-style-type: none"> • “ sizes ” パラメタにレイアウトパターンを設定されている場合 コントローラ定義ファイルに設定されている列数と、設定されている数 (<portlets> タグの数) が異なりますので、統一してください。 • 上記以外 “ sizes ” パラメタの列数と、設定されている列数 (<portlets> タグの数) が異なりますので、統一してください。

aa...aa : 問題が発生した詳細内容	(S)	(O)
Portlet ' s size is invalid	uCosminexus Portal Framework を続行します。	システム管理者に連絡してください。 システム管理者はポートレット配置情報ファイル (PSML ファイル) のデータを見直してください。 表示できないポートレットが設定されています。コントローラ定義ファイルに設定されているレイアウトパターンの列サイズと、指定されているポートレットのサイズが異なりますので、統一してください。

KDPF33001-W

The problem occurred during processing of acquiring the layout information. aa...aa

レイアウト情報を取得中に問題が発生しました。

aa...aa : 詳細メッセージ

問題が発生した詳細内容を次の表に示します。

表 E-6 KDPF33001-W の詳細内容

aa...aa : 問題が発生した詳細内容	(S)	(O)
LayoutPattern is invalid.	レイアウトを「行列形式」として処理を続行します。「ユーザ登録形式」のレイアウトは無効となります。	ポートレット配置情報ファイル (PSML ファイル) のデータに設定されているレイアウトパターンが無効です。「行列形式」としてカスタマイズを続行するか、別のレイアウトで再度カスタマイズしてください。システム管理者に連絡してください。
Some portlets can not display.	処理を続行します。	表示できないポートレットが存在します。必要なポートレットを選択して、カスタマイズを行ってください。

KDPF37001-W

Distributed Portlet tried a connection but it was refused.

分散ポートレットで通信障害が発生しました。

(S) 処理を中止します。

(O) エラー内容についてはログで確認してください。

KDPF37002-W

Portlet is not found or it is a communication obstacle.

このポートレットは現在調整中、または通信障害が発生しました。

- (S) 処理を中止します。
- (O) エラー内容についてはログで確認してください。

KDPF37003-W

Portlet contents is invalid. Maybe it occurred communication obstacle.

コンテンツの形式が不正、または通信障害が発生しました。

- (S) 処理を中止します。
- (O) エラー内容についてはログで確認してください。

KDPF41005-E

media&url service was not set or the setting is invalid.

マッピング定義ファイルの media 属性と url 属性に値が設定されていません。

- (S) 処理を続行します。
- (O) マッピング定義ファイルの media 属性と url 属性を設定してください。

KDPF41009-E

Illegal parameter : aa...aa was passed to PortletInfoBean.

ポートレット情報取得 Bean に渡されたパラメタが不正です。

aa...aa : パラメタ名

- (S) IllegalArgumentException を返します。
- (O) JSP ファイルを修正してください。

KDPF41010-E

Interval must be a positive integer.

プロパティの設定が誤っています。

- (S) 処理を中止します。
- (O) プロパティファイル (PortalResources.properties) で
jp.co.hitachi.soft.portal.services.ActivityService.interval プロパティが正の整数であることを確認してください。

KDPF41011-E

Timeout must be a positive integer.

プロパティの設定が誤っています。

(S) 処理を中止します。

(O) プロパティファイル (PortalResources.properties) で
jp.co.hitachi.soft.portal.services.ActivityService.timeout プロパティが正の整数である
ことを確認してください。

KDPF41014-E

Cosminexus Portal Framework hasn't be initialized.

uCosminexus Portal Framework の起動に失敗した状態で使用しています。

(S) 処理を中止します。

(O) uCosminexus Portal Framework の起動に失敗した要因を調査して、uCosminexus
Portal Framework を再起動してください。

KDPF41015-E

Failed to get the content.

コンテンツの取得に失敗しました。

(S) イベントログを出力します。

(O) 次の点を確認してください。

- URL が正しいか。
- フィルタリングで要素を [削除する] に指定していないか。
- ポートレットの Web に問題がないか。

KDPF41016-E

Invalid URL was specified.

不正な URL が指定されました。

(S) イベントログを出力します。

(O) URL が正しいかを確認してください。

KDPF41017-E

Obstacle occurred in the portlet.

ポートレットで障害が発生しました。

(S) イベントログを出力します。

(O) 次の点を確認してください。

- URL が正しいか。
- フィルタリングで要素を [削除する] に指定していないか。
- ポートレットの Web に問題がないか。

KDPF41018-E

Failed to parse a html file.

HTML ファイルが解析できませんでした。

(S) イベントログを出力します。

(O) コンテンツの内容が正しいかを確認してください。

KDPF41019-E

An error is in the specification of a file.

フォーム認証定義ファイル (formbase-auth.cfg) の記述に誤りがあります。

(S) フォーム認証定義ファイルの設定を無視して処理を続行します。

(O) フォーム認証定義ファイル (formbase-auth.cfg) の内容を確認してください。

KDPF41020-E

File does not exist. aa...aa

ファイルが見つかりません。

aa...aa : ファイル名

(S) ファイルがないものとして処理を続行します。

(O) ファイルがあるかを確認してください。

KDPF41021-E

The XSLT file is invalid. File:aa...aa

XSLT ファイルの文法に誤りがあります。

aa...aa : XSLT ファイルの URL

(S) JSPException を出力します。

(O) XSLT ファイルを修正してください。

KDPF41022-E

Scenario file for Web Contents Parser is not found.

Web コンテンツ書き換えのためのパーサが使用する動作設定ファイルが見つかりません。

(S) エラー画面を出力します。

(O) 動作設定ファイルの所在を確認します。

KDPF41023-E

There is wrong Data Schema in {file}.

Web コンテンツ書き換えのためのパーサが使用する動作設定ファイルが不正な文法を使用しています。

- (S) エラー画面を出力します。
- (O) 動作設定ファイルを確認します。

KDPF41041-E

Failed to get {PROJECT_HOME}.

{PROJECT_HOME} の取得に失敗しました。

- (S) 処理を中止します。
- (O) Portal Manager のディレクトリ構成が正しいか確認してください。

KDPF41042-E

Failed to open the file. aa...aa

各種設定ファイルが開けませんでした。

aa...aa : エラーが発生したファイル名

- (S) 処理を中止します。
- (O) 次のことを確認してください。
 - メモリが不足していないか。
 - 各種設定ファイルの格納場所は正しいか。
 - ポータルプロジェクト以外のパスを指定していないか。

KDPF41043-E

Failed to read the file.aa...aa

各種設定ファイルの読み込みに失敗しました。

aa...aa : エラーが発生したファイル名

- (S) 処理を中止します。
- (O) 次のことを確認してください。
 - ファイルの属性が読み込み専用になっていないか。
 - セキュリティポリシーは正しく設定されているか。
 - ファイルが存在しているか。

KDPF41044-E

Failed to read the file. The format of the file was invalid. aa...aa

ファイルフォーマットが正しくないため、ファイルの読み込みに失敗しました。ファイルを確認してください。

aa...aa : エラーが発生したファイル名

- (S) 処理を中止します。
- (O) 次のことを確認してください。
 - メモリが不足していないか。

- Portal Manager のディレクトリ構成が正しいか。
- 各種設定ファイルの格納場所は正しいか。
- セキュリティポリシーが正しく設定されているか。

KDPF41045-E

Failed to get the data. The format of the file was invalid.

ファイルフォーマットが正しくないため、ファイルの読み込みに失敗しました。ファイルを確認してください。

aa...aa：エラーが発生したファイル名

(S) 処理を中止します。

(O) 読み込みしようとしたファイルのフォーマットが正しいか確認してください。

KDPF41046-E

Failed to get the data. Required item did not set. aa...aa

読み込みをしたファイルに必須項目が設定されていないため、データが取得できません。

aa...aa：エラーが発生したファイル名

(S) 処理を中止します。

(O) 読み込みしようとしたファイルに、正しくデータが設定されているか確認してください。

KDPF41047-E

Failed to get the data. The value of the setting was invalid. aa...aa

データの取得に失敗しました。設定値が正しくありません。ファイルを確認してください。取得しようとしたデータの、設定値が誤っています。

aa...aa：エラーが発生したファイル名

(S) 処理を中止します。

(O) 読み込みしようとしたファイルに、正しくデータが設定されているか確認してください。

KDPF41048-E

Failed to write the file. aa...aa

各種設定ファイルの書き込みに失敗しました。

aa...aa：エラーが発生したファイル名

(S) 処理を中止します。

(O) 次のことを確認してください。

- ファイルの属性が読み込み専用になっていないか。
- ファイル名に使用できない文字が含まれていないか。
- セキュリティポリシーは正しく設定されているか。

- メモリが不足していないか。
- ハードディスクの空き容量があるか。

KDPF41049-E

Failed to write the file because the format of the file was invalid. aa...aa

ファイルフォーマットが正しく定義されていないため、ファイルの書き込みに失敗しました。

aa...aa : エラーが発生したファイル名

(S) 処理を中止します。

(O) ファイルフォーマットが正しく定義されているか確認してください。

KDPF41050-E

Failed to upload the file.

ファイルのアップロードに失敗しました。

(S) 処理を中止します。

(O) 正しいファイルを設定してください。

KDPF41052-E

The value that was input was invalid.

各設定画面での入力値が不正です。

(S) 処理を中止します。

(O) 入力内容が正しいか確認してください。

KDPF41059-E

The problem occurred during controller definition file reading. xxx

コントローラ定義ファイル読み込み中に問題が発生しました。

xxx : 詳細メッセージ

(S) uCosminexus Portal Framework を終了します。

(O) xxx によってコントローラ定義ファイルを見直してください。

The controller name is except an alphanumeric character.

コントローラ名を英数字だけにしてください。

The controller name overlaps.

重複しないコントローラ名に変更してください。

A breadth size name is except an alphanumeric character.

横幅サイズ名を英数字だけにしてください。

The size name overlaps.

重複しない横幅サイズ名に変更してください。

Value of the parameter of a controller does not exist in a breadth size name.

横幅サイズ名に存在する value を設定してください。

Pixel value specification and % specification are intermingled in value of breadth size.

指定を統一して vvalue を設定してください。

An error is in grammar castor.

文法を正しく書き直してください。

A file reads and it is in a prohibition state.

読み込みできる状態にしてください。

KDPF41060-E

An error is in specification of a parameter. name=xxx value=yyy condition=zzz {default=aaa}

パラメタの指定に誤りがあります。

xxx : パラメタ名称

yyy : 指定した値

zzz : 設定できる範囲、値のリスト、データ型などの条件を記述します。

- 設定できる範囲の例 : 0-100 と記述している場合、0 から 100 まで設定できます。
- 値のリストの例 : value1,value2 と記述している場合、value1 または value2 が設定できます。
- データ型の例 : integer と記述している場合、整数値だけ設定できます。
- 条件の例 : MultiJSPPortlet と記述している場合、日立 API ポートレットだけ指定できます。

aaa : 適用したデフォルト値

(S) デフォルト値が記述している場合、それを適用して処理を続行します。デフォルト値が記述していない場合、処理を中止します。

(O) 設定内容を確認してください。

KDPF41061-E

All portlet cannot be deleted.

ポートレットをすべて削除することはできません。

(S) uCosminexus Portal Framework の現在表示されているレイアウトの、ポートレットをすべて削除することはできません。なお、このメッセージは、利用者がホーム画面または [レイアウト編集画面] でポートレットの閉じるボタンを押したときに表示されます。

(O) なし。

KDPF41062-E

A portlet parallel-ized service cannot be used.

ポートレット並列化機能を使用できません。

(S) ポートレット並列化機能を抑止します。

(O) ポートレットのタイムアウト監視ができません。スレッドプールの初期個数を見直してください。

KDPF43001-E

The problem occurred during processing of acquiring the PSML data. aa...aa

ポートレット配置情報ファイル (PSML ファイル) のデータを取得中に問題が発生しました。

aa...aa : 詳細メッセージ

問題が発生した詳細内容を以下に示します。

aa...aa : Controller ' s name is invalid (path:a layoutgroup:b device:c
controllername:d) .

(S) ポートレット配置情報ファイル (PSML ファイル) のデータに設定されているコントローラ名が不正なため、ポートレット配置情報ファイル (PSML ファイル) のデータの取得処理を中止します。

a : ポートレット配置情報ファイル (PSML ファイル) のパス

b : レイアウトグループ名

c : デバイス名

d : コントローラ名

(O) ポートレット配置情報ファイル (PSML ファイル) のデータに、正しいコントローラ名を設定してください。

aa...aa : Controller ' s name is invalid (user:a device:b controllername:c) .

(S) ポートレット配置情報ファイル (PSML ファイル) のデータに設定されているコントローラ名が不正なため、処理を中止します。

a : ユーザ ID

b : デバイス名

c : コントローラ名

(O) システム管理者に連絡してください。システム管理者はポートレット配置情報ファイル (PSML ファイル) のデータに、正しいコントローラ名を設定してください。

aa...aa : Control ' s name is invalid (path:a layoutgroup:b device:c controlname:d) .

(S) ポートレット配置情報ファイル (PSML ファイル) のデータに設定されているコントロール名が不正なため、ポートレット配置情報ファイル (PSML ファイル) のデータの取得処理を中止します。

- a : ポートレット配置情報ファイル (PSML ファイル) のパス
- b : レイアウトグループ名
- c : デバイス名
- d : コントロール名

(O) ポートレット配置情報ファイル (PSML ファイル) のデータに、正しいコントロール名を設定してください。

aa...aa : Control ' s name is invalid (user:a device:b controlname:c).

(S) ポートレット配置情報ファイル (PSML ファイル) のデータに設定されているコントロール名が不正なため、処理を中止します。

- a : ユーザ ID
- b : デバイス名
- c : コントロール名

(O) システム管理者に連絡してください。システム管理者はポートレット配置情報ファイル (PSML ファイル) のデータに、正しいコントロール名を設定してください。

aa...aa : The default PSML(homeCHTML.psml,homeHDML.psml) is not found

デフォルトのポートレット配置情報ファイル (PSML ファイル) が見つかりませんでした。

(S) ポートレット配置情報ファイル (PSML ファイル) のデータが取得できないので、処理を中止します。

(O) 設定ファイル格納場所、設定ファイルの内容、デフォルトのポートレット配置情報ファイル (PSML ファイル) が格納されているパスが 255 文字以内であることを確認してください。

KDPF45001-E

Portal Manager を起動できません。起動ユーザの IP アドレスが未設定です。

起動ユーザの IP アドレスが未設定です。

(S) Portal Manager を終了します。

(O) PortalSetup.properties ファイルに IP アドレスが正しく設定されているか確認してください。

KDPF45003-E

Portal Manager を起動できません。設定ファイルの読み込みに失敗しました。

各種設定ファイルの読み込みに失敗しました。

(S) Portal Manager を終了します。

(O) 次のことを確認してください。

- 設定ファイルがあるか。

- パラメタが正しく設定されているか。
- セキュリティポリシーが正しく設定されているか。

KDPF45007-E

接続情報が登録されていません。構成情報を実行するには、接続情報を登録する必要があります。接続情報を登録してから実行してください。

接続情報が、登録されていません。

(S) 処理を中止します。

(O) 接続情報を登録してください。

KDPF45008-E

構成情報が登録されていません。マッピング情報を実行するには、構成情報を登録する必要があります。構成情報を登録してから実行してください。

構成情報が、登録されていません。

(S) 処理を中止します。

(O) 構成情報を登録してください。

KDPF45010-E

削除する項目が選択されていません。削除する項目を選択してください。

削除画面で削除する項目が選択されていません。

(S) 処理を中止します。

(O) 削除画面で削除する項目を選択してください。

KDPF45011-E

ファイルが選択されていません。ファイルを選択してください。

ファイルが選択されていません。

(S) 処理を中止して、再度 [PAR 形式のポートレットの追加] 画面を表示します。

(O) [PAR 形式のポートレットの追加] 画面でファイルを選択してください。

KDPF45012-E

選択されたファイルは対象外のファイルです。PAR 形式のファイルを選択してください。

追加する PAR 形式のファイルが選択されていません。

(S) 処理を中止して、再度 [PAR 形式のポートレットの追加] 画面を表示します。

(O) [PAR 形式のポートレットの追加] 画面で PAR 形式のファイルを選択してください。

KDPF45013-E

指定されたポートレットはすでにあります（自動展開されたポートレットではありません）。PAR 形式ポートレットの追加を終了します。

Portal Manager を使用しないで追加されたポートレット内に、指定されたポートレットがあります。

(S) 処理を中止します。

(O) [OK] ボタンをクリックしてください。[PAR 形式のポートレットの追加] 画面に戻ります。

KDPF45014-E

ファイルがありません。

指定された場所に PAR 形式のファイルがありません。

(S) 処理を中止します。

(O) 次のことを確認してください。

- 指定したパス（ディレクト名およびファイル名）が正しいか。
- 指定したパスに PAR 形式のファイルがあるか。

KDPF45015-E

ディレクトリの作成に失敗しました。

ディレクトリの作成に失敗しました。次の原因が考えられます。

- PAR 形式ファイルの展開先ディレクトリの作成に失敗した。
- アンデプロイ対象の Portlet ディレクトリを格納する移動先ディレクトリの作成に失敗した。

(S) 処理を中止します。

(O) 次のことを確認してください。

- メモリが不足していないか。
- ハードディスクの空き容量があるか。
- デプロイ定義ファイル（hportlet.xml）にポートレット名が正しく設定されているか。
- セキュリティポリシーが正しく設定されているか。
- 指定したディレクトリパスがあるか。

KDPF45016-E

par 形式ファイルの展開に失敗しました。

PAR 形式ファイルの展開に失敗しました。

(S) 処理を中止します。

(O) 次のことを確認してください。

- メモリが不足していないか。
- ハードディスクの空き容量があるか。

KDPF45018-E

ファイルまたはディレクトリの移動に失敗しました。
削除対象の Portlet ディレクトリの移動に失敗しました。

(S) 処理を中止します。

(O) 次のことを確認してください。

- メモリが不足していないか。
- ハードディスクの空き容量があるか。
- デプロイ定義ファイル (hportlet.xml) にポートレット名が正しく設定されているか。
- セキュリティポリシーが正しく設定されているか。

KDPF45019-E

ファイルまたはディレクトリの削除に失敗しました。
移動ディレクトリの一括削除に失敗しました。

(S) 処理を中止します。

(O) 次のことを確認してください。

- メモリが不足していないか。

KDPF45020-E

選択された接続情報は参照されているため削除できません。
選択された接続情報は参照されているため削除できません。

(S) 処理を中止して、再度 [接続情報の設定] 画面を表示します。

(O) 選択された接続情報が参照されていないか確認してください。

KDPF45021-E

選択された構成情報は参照されているため削除できません。
選択された構成情報は参照されているため削除できません。

(S) 処理を中止して、再度 [構成情報の設定] 画面を表示します。

(O) 選択された構成情報が参照されていないか確認してください。

KDPF45022-E

指定された項目はすでにあります。
指定された項目はすでにあります。

(S) 処理を中止して、操作する前の画面を表示します。

(O) 指定する項目名の値を変更してください。

KDPF45025-E

必須項目が入力されていません。必須項目を入力してください。

必須項目が入力されていません

(S) 処理を中止します。

(O) 必須項目を入力してください。

KDPF45031-E

指定されたポートレットはすでにあります。

指定されたポートレットはすでにあります。

(S) 処理を中止します。

(O) すでに存在するポートレットを削除するか、別のポートレット名を指定してください。

KDPF45033-E

プロジェクトホームの指定が誤っているか、指定された場所にありません。

プロジェクトホームの指定が誤っているか、指定された場所にありません。

(S) 処理を中止します。

(O) プロジェクトホームの指定が正しいか確認してください。

KDPF45034-E

接続情報が登録されていません。

接続情報が登録されていません。

(S) 処理を中止します。

(O) 接続情報を登録してください。

KDPF45035-E

構成情報が登録されていません。

構成情報が登録されていません。

(S) 処理を中止します。

(O) 構成情報を登録してください。

KDPF45037-E

PAR 形式ポートレットの追加処理中にエラーが発生しました。作業内容は完全に削除できました。

PAR 形式のポートレットの追加処理中にエラーが発生しました。

(S) 処理を中止します。

(O) エラー内容についてはログで確認してください。

KDPF45038-E

PAR 形式ポートレットの追加処理中にエラーが発生しました。作業内容を完全に削除できませんでした。

PAR 形式のポートレットの追加処理中にエラーが発生しました。

(S) 処理を中止します。

(O) エラー内容についてはログで確認してください。

KDPF45039-E

キャッシュクリアに失敗しました。

キャッシュクリアに失敗しました。

(S) 処理を中止します。

(O) ディスクキャッシュの格納ディレクトリがあるか確認してください。

KDPF45040-E

マッピング定義ファイルの出力先ディレクトリがありません。

マッピング定義ファイルの出力先ディレクトリがありません。

(S) 処理を中止します。

(O) マッピング定義ファイルの出力先ディレクトリを作成してください。

KDPF45041-E

ポートレットの定義がありません。

ポートレットの定義がありません。

(S) 処理を中止します。

(O) ポートレットの定義をしてください。

KDPF45042-E

指定できない値が選択されています。

指定できない値が選択されています。

(S) 処理を中止します。

(O) 指定できる値を選択してください。

KDPF47101-E

Failed to connect with Domino server (server=xxx,Info=yyyy)

サーバに接続できませんでした。

Domino サーバに接続できませんでした。

xxx : 接続先 Domino サーバ

yyyy : NotesBean から返却されたエラーコード

(S) 処理を中止します。

(O) ユーザの権限に応じて、次のとおり対処してください。

ポータル利用者

Notes Portlet 利用中にパスワードを変更している場合、一度ポータルからログアウトし、再度ログインしてください。

システム管理者

- ポータルサーバ上で前提ライブラリが正しくセットアップされているか確認してください。
- Domino サーバの設定が正しく行われているか、確認してください (HTTP, DIIOP サーバなど)。
- ポータルサーバと Domino サーバ間のネットワークが正しく動作していることを確認してください。
- Domino サーバのユーザの設定で、ログインするユーザ名が「(共通名) / (サーバ名)」の形式で登録されていることを確認してください。
- 利用者が使用しているメール DB が前提 DB であることを確認してください。

KDPF47102-E

Failed to get Single-Signon information

Cosminexus Manager からシングルサインオン情報が取得できませんでした。

(S) 処理を中止します。

(O) ユーザの権限に応じて、次のとおり対処してください。

ポータル利用者

Cosminexus Manager のシングルサインオン設定を確認してください。

システム管理者

jaas.conf に NotesLoginModule が定義されていることを確認してください。

KDPF47103-E

Received an invalid response from Domino server

Domino サーバへの要求に対して、Domino サーバが不正な応答を返しました。

(S) 処理を中止します。

(O) システム管理者が次のとおり対処してください。

- ポータルサーバ上で前提ライブラリが正しくセットアップされているか確認してください。
- Domino サーバの設定が正しく行われているか、確認してください (HTTP,DIOP サーバなど)。
- ポータルサーバと Domino サーバ間のネットワークが正しく作動していることを確認してください。
- Domino サーバのユーザの設定で、ログインするユーザ名が「(共通名) / (サーバ名)」の形式で登録されていることを確認してください。
- 接続ユーザのメール DB が破損していないか確認してください。
- Notes サーバ上でエラーが発生していないか確認してください。エラーが発生している場合、エラーに対処してください。

KDPF47104-E

Occurred an unexpected error

予期しない、修復できないエラーが発生しました。

(S) 処理を中止します。

(O) システム管理者が次のとおり対処してください。

- /WEB-INF/log/application??.log をサポートセンターに送付して調査を依頼してください。

KDPF50001-I

Starting Cosminexus Portal Framework.

uCosminexus Portal Framework を起動します。

(S) uCosminexus Portal Framework を起動中です。

(O) 特にありません。

KDPF50002-I

Cosminexus Portal Framework has come up.

uCosminexus Portal Framework を起動しました。

(S) uCosminexus Portal Framework を起動しました。

(O) 特にありません。

KDPF50003-E

Initialization failed. Cosminexus Portal Framework stopped.

uCosminexus Portal Framework の起動に失敗しました。

(S) uCosminexus Portal Framework の起動中にエラーが発生しました。

(O) 障害対応機能によって出力されたエラーメッセージやトレース情報を参照して、その内容を基に原因を特定してください。

エラーの原因と見直し項目を次に示します。

- uCosminexus Portal Framework のバージョンアップをした際、移行方法に問題がなかったか見直してください。
- 構築手順が正しかったか見直してください。
- uCosminexus Portal Framework のファイルやプロパティの設定をした場合、設定内容に問題がないか見直してください。

KDPF50005-I

Stopping Cosminexus Portal Framework.

uCosminexus Portal Framework を停止します。

(S) uCosminexus Portal Framework を停止中です。

(O) 特にありません。

KDPF50006-I

Cosminexus Portal Framework has stopped.

uCosminexus Portal Framework を停止しました。

(S) uCosminexus Portal Framework を停止しました。

(O) 特にありません。

KDPF50010-I

Request Information (username: {aa...aa}, sessionId:{bb...bb}, URL:{cc...cc}, remoteaddr:{dd...dd})

リクエスト情報です。

aa...aa : ユーザ名

bb...bb : セッション ID

cc...cc : URL

dd...dd : IP アドレス

(S) 処理を続行します。

(O) 特にありません。

KDPF50011-I

Request Parameter ({aa...aa})

リクエストパラメタ情報です。

aa...aa : リクエストパラメタ

(S) 処理を続行します。

(O) 特にありません。

KDPF50012-I

Request Header ({aa...aa})

リクエストヘッダ情報です。

aa...aa：リクエストヘッダ

(S) 処理を続行します。

(O) 特にありません。

KDPF50013-I

Request Attribute ({aa...aa})

リクエスト属性情報です。

aa...aa：リクエスト属性

(S) 処理を続行します。

(O) 特にありません。

KDPF60001-E

Crypt functions failed because of the systematic reason.

分散ポートレットの認証で暗号化・複合化の処理に失敗しました。

(S) 処理を中止します。

(O) Cosminexus 暗号処理ライブラリへのパスが正しく設定されているか見直してください。

KDPF60002-E

An attempt to load the portlet config information has failed.

ポートレット設定情報 (jetspeed-config.jcfg ファイル) の読み込みまたは書き込みに失敗しました。

- 読み込み処理：ファイルが読み込めない。
- 書き込み処理：ファイル書き込みでタイムアウトが発生した、または書き込みに失敗した。

(S) 処理を中止します。

(O) ポートレット設定情報ファイルが読み書きできる状態にあるか確認してください。

KDPF60004-E

ActionModule not found. (classname: {aa...aa})

アクションモジュールがありません。

aa...aa：指定されたアクションモジュールクラス

(S) ポータルサーバの起動処理を中止します。

(O) 正しいアクションモジュールを指定しているか確認してください。

KDPF60005-E

Illegal Action Module. (classname: aa...aa, reason:bb...bb)

アクションモジュールの指定が無効です。指定したアクションモジュールが
jp.co.hitachi.soft.portal.portlet.api.DefaultActionModule を継承していないか存在して
いません。

aa...aa：指定されたアクションモジュールクラス

bb...bb：エラーが発生した理由

(S) ポータルサーバの起動処理を中止します。

(O) 正しいアクションモジュールを指定しているか確認してください。

KDPF60006-E

ERROR MESSAGE WAS SENT TO THE USER SCREEN.(message : aa...aa)

ポートレットのコンテンツ出力に失敗しました。

aa...aa：ポートレットのコンテンツパス，またはエラーメッセージ

(S) エラーテンプレートを表示し処理を続行します。

(O) 直前に出力されているエラーメッセージを確認してください。

KDPF60007-E

PortalConfigRegistryManagerService is not active.

ポートレットグループサービスが起動していません。

(S) ポートレット取得不可の状態では処理を続行します。

(O) ポートレットグループサービスの設定を確認したあと，ポータルサーバを再起動し
てください。

KDPF60008-E

Bean error.aa...aa

Bean の処理でエラーが発生しました。

aa...aa：エラー内容

エラーの詳細内容を次の表に示します。

表 E-7 KDPF60008-E の詳細内容

aa...aa：エラー内容 (エラー内容の説明)	(S)	(O)
Sequence Error: initialize layout bean first. (ポートレットテンプレート Bean の initBean メソッドが呼ばれて いないか，initBean メソッドでエ ラーが発生しています。)	デフォルト値を返却します。	InitBean メソッドを呼び出し ポートレットテンプレート Bean を初期化してください。

aa...aa : エラー内容 (エラー内容の説明)	(S)	(O)
Illegal use: NavigationPanedLayoutBean can use with NavigationPanedPortletControl ONLY. (NavigationPanedLayoutBean がナビゲーションテンプレート以外 で呼ばれています。)	IllegalStateException をスロー します。	NavigationPanedLayoutBean の呼び出し場所を変更してく ださい。
Illegal use: This PortletControl should be used with PanedPortletControl ONLY. (PanedLayoutBean がタブ付きの ポートレットテンプレート以外で 呼ばれています。)	IllegalStateException をスロー します。	タブ付きポートレットテンプレ ートで使用してください。
Illegal use: NoTitleLayoutBean should be used with NoTitleLayoutControl ONLY. (NoTitleLayoutBean がタブなし のポートレットテンプレート以外 で呼ばれています。)	IllegalStateException をスロー します。	タブなしのポートレットテン プレートで使用してください。
Illegal use: This bean should be used with TitleLayoutControl. (TitleLayoutBean がタイトル バー付きのポートレットテンプレ ート以外で呼ばれています。)	IllegalStateException をスロー します。	タイトルバー付きのポート レットテンプレートで使用し てください。
Internal: Received the illegal portlet. (TitleLayoutBean に不正なポー トレットが渡されました。)	IllegalArgumentException また は UnsupportedOperationException をスローします。	TitleLayoutBean に不正な引 数を渡していないか確認して ください。
Illegal Argument. (PortletBean に不正な値が渡され ました。)	IllegalArgumentException をス ローします。	PortletBean に不正な値を渡 していないか確認してくださ い。

KDPF60009-E

Failed to retrieve portlet configuration. (name: aa...aa, reason: bb...bb)

ポートレットのパラメタ取得に失敗しました。

aa...aa : パラメタ取得に失敗したポートレット名称

bb...bb : 取得に失敗した理由

(S) エラーテンプレートを表示し処理を続行します。

(O) ポートレット設定情報の内容を確認してください。

KDPF60010-E

Illegal portlet setting. (name:aa...aa, reason:bb...bb)

ポートレット定義に誤りがあります。

aa...aa : 定義に誤りのあるポートレット名称

bb...bb : エラー内容

(S) デフォルト値を用いて続行します。

(O) ポートレット定義に誤りがないか確認してください。

KDPF60011-E

API error: (aa...aa)

API の使用方法に誤りがあります。

aa...aa : エラー内容

(S) エラーの発生した API によって異なります。

タグライブラリの場合 : `JspException` をスローします。

その他 : 処理を中止します。

(O) 呼び出した API のパラメータを見直してください。

KDPF60012-E

Service unavailable. (service: aa...aa, reason:bb...bb)

サービスの初期化に失敗しました。

aa...aa : 起動に失敗したサービス名

bb...bb : 起動に失敗した理由

(S) 処理を中止します。

(O) 直前にエラーメッセージが出力されている場合はエラー内容を確認して対処してください。

KDPF60013-E

Definition or environment of the portlet is invalid. portlet name : aa...aa

ポートレットの定義または環境が不正です。

aa...aa : 読み込みに失敗したポートレット名称

(S) `IllegalStateException` をスローします。

(O) ポートレット定義ファイル (`jetspeed-config.jcfg`) が正しいかまたは読み込みできるか見直してください。

KDPF60014-E

Communication error. (aa...aa)

通信障害が発生しました。

aa...aa : エラー内容

- プロキシを使用していないのに、応答コード 407 を受信しました。

- `Max-Forwards` が限界値を超えました。無限ループを防ぐために転送することはでき

ません。

- Response 設定中にエラーが発生しました。
- Web サーバ (もしくはプロキシ) との接続に失敗しました。
- ソケットレベルで例外が発生しました。
- 応答コードが取得できません。
- URLConnection から有益な情報を引き出せませんでした。
- Post データの文字列変換に失敗しました。
- Get データの文字列変換に失敗しました。

(S) 処理を中止します。

(O) エラー内容を確認し対処してください。

KDPF60015-E

Process was stopped by the other thread.

ポートレットコンテンツ取得処理中にスレッド割り込みが発生し、ポートレットアクションイベント処理を異常終了しました。

(S) ポートレットアクションイベントの処理を中止します。

(O) ポータルサーバへのリクエストがすべて終了してからポータルサーバを停止するようにしてください。

KDPF60016-E

The screen cannot be displayed.{aa...aa}

画面が表示できません。

aa...aa : エラー内容

(S) エラーメッセージを画面に表示します。

(O) エラー内容を確認し原因を取り除いてください。

KDPF60017-E

Failed to parse contents. (Error occurred at: {aa....aa})

コンテンツ取得処理に失敗しました。

aa...aa : エラー内容

(S) コンテンツ取得処理を中止します。

(O) 正しいコンテンツを返しているか確認してください。また、エラー内容を確認し原因を取り除いてください。

KDPF60018-E

An error occurred during processing request.

リクエスト処理でエラーが発生しました。

(S) エラー画面を表示します。

(O) 直前に出力されているエラーメッセージを確認し原因を取り除いてください。

KDPF60019-E

Invalid configuration property settings. {aa...aa}

プロパティの設定が不正です。

aa...aa : 不正なプロパティ

(S) 処理を中止します。

(O) 正しいプロパティを設定してください。

KDPF60020-E

PortalPageInfoBean is not initialized.

PortalPageInfoBean が初期化されていません。

(S) IllegalStateException を発生します。

(O) JSP ファイルを修正してください。

KDPF60021-W

The set User definition item was not found. ({aa...aa})

設定されたユーザ定義項目は見つかりませんでした。

aa...aa : 見つからなかったユーザ定義項目

(S) 見つからなかったユーザ定義項目を出力せずに処理を続行します。

(O) ポートレットアクセスログ出力オプションに正しいユーザ定義項目を設定してください。

KDPF60022-W

The data size exceeded the maximum value.

データサイズが上限設定値を超えています。

(S) POST データを引き継ぎません。

(O) 上限設定値を大きくするか、送信情報を小さくしてください。

KDPF60023-W

The HTTP header is not included. ({aa...aa})

HTTP ヘッダーが含まれていません。

aa...aa : HTTP ヘッダー名

(S) POST データを引き継ぎません。

(O) JSP ファイルで HTTP ヘッダーを引継ぐ HIDDEN パラメタ "hptl.DirectHeader"

が記述されていることを確認してください。

KDPF60024-W

The specification of the parameter is invalid. parameter name : {aa...aa}

不正なパラメタが指定されています。

aa...aa : パラメタ名

(S) デフォルト値を適用して、処理を続行します。

(O) パラメタに正しい値を指定してください。

KDPF60025-W

The specification of the support LanguageCode is invalid.(aa...aa)

不正な言語種別が設定されています。

aa...aa : 不正な言語種別

(S) 不正な言語種別を適用しないで処理を続行します。

(O) 正しい言語種別を設定してください。

KDPF60026-W

Invalid configuration property settings. aa...aa

不正なパラメタが設定されています。

aa...aa : パラメタ名

(S) デフォルト値を適用して処理を続行します。

(O) パラメタに正しい値を指定してください。

KDPF60027-E

Invalid configuration system property settings.(aa...aa)

Java システムプロパティの値が不正です。

aa...aa : 不正な Java システムプロパティ名

(S) 処理を中止します。

(O) web.xml の system.properties で指定した Java システムプロパティの値が正しく設定されているか確認してください。

KDPF60101-W

URLRewritingDisabled service was not set or the setting is invalid.

クライアント情報定義機能の URLRewritingDisabled 属性に値が設定されていません。

(S) デフォルト値 (true) として処理を続行します。

(O) クライアント情報定義ファイル (UserAgentType.xml) の URLRewritingDisabled

属性に値を設定してください。

KDPF61100-I

The community manager service has started.

Collaboration - Online Community Management と連携しました。

(S) 処理を続行します。

(O) 特にありません。

KDPF61101-E

An error occurred during creating the Portal Administration Group.

ポータル管理グループの作成中にエラーが発生しました。

(S) 処理を中止します。

(O) 次の点を確認してください。

- Collaboration - Online Community Management から必要なコミュニティ情報 , ワークスペース情報が連携されているか。
- 作成しようとしているポータル管理グループの情報を不正に編集していないか。
- ディスク障害が起きていないか。

KDPF61102-E

An error occurred during modifying the Portal Administration Group.

ポータル管理グループの変更中にエラーが発生しました。

(S) 処理を中止します。

(O) 次の点を確認してください。

- Collaboration - Online Community Management から必要なコミュニティ情報 , およびワークスペース情報が連携されているか。
- 更新しようとしているポータル管理グループの情報を不正に編集していないか。
- ディスク障害が起きていないか。

KDPF61103-E

An error occurred during deleting the Portal Administration Group.

ポータル管理グループの削除中にエラーが発生しました。

(S) 処理を中止します。

(O) 次の点を確認してください。

- Collaboration - Online Community Management から必要なコミュニティ情報 , ワークスペース情報が連携されているか。
- 削除しようとしているポータル管理グループの情報を不正に編集していないか。
- ディスク障害が起きていないか。

KDPF61104-E

An error occurred during adding the members of the Portal Administration Group.

ポータル管理グループのメンバ追加中にエラーが発生しました。

(S) 処理を中止します。

(O) 次の点を確認してください。

- Collaboration - Online Community Management から必要なコミュニティ情報 , およびワークスペース情報が連携されているか。
- 追加しようとしているポータル管理グループの情報を不正に編集していないか。
- ディスク障害が起きていないか。

KDPF61106-E

An error occurred during deleting the members of the Portal Administration Group.

ポータル管理グループのメンバ削除中にエラーが発生しました。

(S) 処理を中止します。

(O) 次の点を確認してください。

- Collaboration - Online Community Management から必要なコミュニティ情報 , およびワークスペース情報が連携されているか。
- 削除しようとしているポータル管理グループの情報を不正に編集していないか。
- ディスク障害が起きていないか。

KDPF61108-E

An error occurred during access to a portal empowerment information.[aa...aa]

運用管理情報へのアクセス時にエラーが発生しました。

aa...aa : エラー内容

注 次の行以降に例外情報が出力される場合があります。

(S) 処理を中止します。

(O) エラー内容を確認し原因を取り除いてください。

KDPF61109-E

The error occurred during access to the database for portal empowerment.aa...aa

運用管理データベースへのアクセス時にエラーが発生しました。

aa...aa : エラー内容

(S) 処理を中止します。

(O) エラー内容を確認し原因を取り除いてください。HiRDB のエラーメッセージが出力されている場合は、HiRDB のマニュアルを参照しエラー原因を取り除いてください。

KDPF61110-E

Unjust portal empowerment information was set up.aa...aa

運用管理情報に不正な値が設定されました。

aa...aa：エラー内容

(S) 処理を中止します。

(O) エラー内容を確認し原因を取り除いてください。

KDPF61111-E

An error occurred during the setup of a portal employment management service.aa...aa

運用管理サービスの設定に失敗しました。

aa...aa：エラー内容

(S) 処理を中止します。

(O) エラー内容を確認し原因を取り除いてください。

KDPF61112-E

An error occurred during execution of a portal employment management service.aa...aa

運用管理機能の実行中にエラーが発生しました。

aa...aa：エラー内容

(S) 処理を中止します。

(O) エラー内容を確認し原因を取り除いてください。

KDPF61113-E

File does not exist.file:aa...aa

ファイルが存在しません。

aa...aa：存在しないファイル名

(S) 処理を中止します。

(O) ファイルを作成し、uCosminexus Portal Framework を再起動してください。

KDPF61114-E

The error occurred in the writing of a file.file:aa...aa

ファイル書き込み時にエラーが発生しました。

aa...aa：ファイル書き込みに失敗したファイル名

(S) 処理を中止します。

(O) ファイルへの書き込みに失敗した原因を調査し、uCosminexus Portal Framework を再起動してください。

KDPF61115-E

The error occurred in the reading of a file.file:aa...aa

ファイル読み込み時にエラーが発生しました。

aa...aa : ファイル読み込みに失敗したファイル名

(S) 処理を中止します。

(O) ファイルの読み込みに失敗した原因を調査し、uCosminexus Portal Framework を再起動してください。

KDPF61116-E

An error occurred during processing of directory or database reference. detail:aa...aa

ディレクトリサーバまたはデータベース参照時にエラーが発生しました。

aa...aa : エラーの詳細情報

@ open() : 接続に失敗

@ < テーブル名称 > : テーブルの参照に失敗

(S) 処理を中止します。

(O) detail の内容によってそれぞれの対応を行い、uCosminexus Portal Framework を再起動してください。

aa...aa が " @ open() " の場合

接続に失敗した情報がログの直前に出力されているので、原因を調査してください。

aa...aa が " @ < テーブル名称 > " の場合

必要なテーブルを作成してください。

KDPF61117-E

Failed to transfer the file or directory.(file:aa...aa)

ファイルまたはディレクトリの変更に失敗しました。

aa...aa : 失敗したファイル名またはディレクトリ名

(S) 処理を中止します。

(O) ファイルまたはディレクトリの変更に失敗した原因を調査し、uCosminexus Portal Framework を再起動してください。

KDPF61118-E

Unjust resource data information was set up. aa...aa bb...bb

リソースファイルに不正な情報を設定しました。aa...aa bb...bb

不正な ResourceData オブジェクトを作成しました。

aa...aa : 発生個所

bb...bb : エラー内容

(S) 処理を中止します。

(O) エラー内容を確認して、原因を取り除いてください。

KDPF61200-E

LogFile read error.

ログファイルの定義が読み込めません。

(S) 処理を中止します。

(O) ポータルをインストールした環境を確認してください。

KDPF61201-E

Portlet deploy error.

デプロイ処理中にエラーが発生しました。

(S) 処理を中止します。

(O) エラー内容についてはログで確認してください。

KDPF61202-E

ポートレットの上書可否は同時に指定できません。

ポートレットを上書きするかどうかは同時に指定できません。

(S) 処理を中止します。

(O) ポートレットの上書き指定を 1 種類 (上書き実行 (-a) または上書き不可 (-d)) にしてください。

KDPF61203-E

パラメータの指定が不正です。

パラメータの指定が不正です。

(S) 処理を中止します。

(O) 正しい形式でパラメータを指定してください。

KDPF61204-E

par ファイルを指定してください。

PAR ファイルを指定してください。

(S) 処理を中止します。

(O) パラメータに PAR ファイルへのパスを指定してください。

KDPF61205-E

Portlet undeploy error.

アンデプロイ処理中にエラーが発生しました。

(S) 処理を中止します。

(O) エラー内容についてはログで確認してください。

KDPF61206-E

ポートレット名を指定してください。

ポートレット名を指定してください。

(S) 処理を中止します。

(O) パラメタにアンデプロイするポートレット名を指定してください。

KDPF61207-E

ポートレットが存在しません。

ポートレットが存在しません。

(S) 処理を中止します。

(O) 正常にデプロイされたポートレットで実行してください。

KDPF61210-I

The project was generated.

プロジェクトを生成しました。

(S) 処理を終了します。

(O) 特にありません。

KDPF61211-E

The error occurred during project generation.

プロジェクト生成中にエラーが発生しました。

(S) 処理を中止します。

(O) 直前に出力されているメッセージを確認して対処したあと、再度実行してください。

KDPF61212-E

Creation of temporarily went wrong.

作業ディレクトリの作成に失敗しました。

(S) 処理を中止します。

(O) 作成しようとしたプロジェクトが存在し、使用中のおそれがあります。停止してから再度実行してください。

KDPF61213-E

It cannot access.

プロジェクトを生成するディレクトリにアクセスできません。

(S) 処理を中止します。

(O) 作成しようとしたプロジェクトパスにアクセス権がないか、書き込み権限のないファイルまたはディレクトリが存在しています。削除するか、書き込み権限を与えてから再度実行してください。

KDPF61214-E

A project path or a container is not empty.

プロジェクトパスまたはコンテナにファイルまたはディレクトリが存在します。

(S) 処理を中止します。

(O) 作成しようとしたプロジェクトパスにファイルまたはディレクトリが存在していたため処理を中止しました。指定したプロジェクトパス内のファイルおよびディレクトリをすべて消すか、または上書き指定で再度実行してください。

KDPF61215-I

PortletApplication:aa...aa deploying will now start.

ポートレットアプリケーション : aa...aa のデプロイを開始します。

標準 API ポートレットのデプロイを開始しました。

aa...aa : ポートレット名

(S) 処理を続行します。

(O) 特にありません。

KDPF61216-I

PortletApplication:aa...aa deployed successfully.

ポートレットアプリケーション : aa...aa のデプロイに成功しました。

標準 API ポートレットのデプロイに成功しました。

aa...aa : ポートレット名

(S) 処理を終了します。

(O) 特にありません。

KDPF61217-E

PortletApplication:aa...aa could not be deployed.(reason=bb...bb)

ポートレットアプリケーション : aa...aa のデプロイに失敗しました。(reason : bb...bb)

標準 API ポートレットのデプロイに失敗しました。

aa...aa : ポートレット名 (ポートレット名が取得できなかった場合は「-」を表示)
 bb...bb : エラーが発生した原因
 エラーが発生した原因を次に示します。

表 E-8 エラーが発生した原因 (標準 API ポートレットのデプロイ)

bb...bb : エラーが発生した原因	説明
Creation of temporarily went wrong.(not authorized to write) {ディレクトリパス}	書き込み権限がありません。
Creation of temporarily went wrong.(same path){ディレクトリパス}	同名のパスがあります。
Creation of temporarily went wrong.(other)	そのほかの原因が発生しました。
The specification of the portlet application is illegal.(Illegal File)	指定したファイルがないか、WAR 形式ではありません。
The specification of the portlet application is illegal.(Illegal portlet.xml)	ポートレットアプリケーション DD (portlet.xml) がないか、形式が不正です。
The specification of the portlet application is illegal.(No portlet)	ポートレット定義が一つもありません。
The specification of the portlet application is illegal.(No Portlet-Class)	ポートレットクラス定義がありません。
The specification of the portlet application is illegal.(Servlet)	web.xml のサーブレット定義、またはサーブレットマッピング定義に、ポートレット名称と同じサーブレット名称が定義されています。
The specified portlet application file already exists.	出力先にすでに生成するファイルがあります。
Portlet application deploy error.	デプロイ処理中に予期しないエラーが発生しました。
An error occurred during the portlet application file creation.	ファイル生成時に予期しないエラーが発生しました。

(S) 処理を中止します。

(O) bb...bb の内容を参照して、エラーが発生した原因を取り除いてください。

KDPF61218-I

PortletApplication:aa...aa making will now start.

ポートレットアプリケーション : aa...aa の生成を開始します。

標準 API ポートレットの生成を開始しました。

aa...aa : ポートレット名

(S) 処理を続行します。

(O) 特にありません。

KDPF61219-I

PortletApplication:aa...aa made successfully.

ポートレットアプリケーション：aa...aa の生成に成功しました。

標準 API ポートレットの生成に成功しました。

aa...aa：ポートレット名

(S) 処理を終了します。

(O) 特にありません。

KDPF61220-E

PortletApplication:aa...aa could not be made.(reason=bb...bb)

ポートレットアプリケーション：aa...aa の生成に失敗しました。(reason：bb...bb)

標準 API ポートレットの生成に失敗しました。

aa...aa：ポートレット名（ポートレット名が取得できなかった場合は「-」を表示）

bb...bb：エラーが発生した原因

エラーが発生した原因を次に示します。

表 E-9 エラーが発生した原因（標準 API ポートレットの生成）

bb...bb : エラーが発生した原因	説明
Creation of temporarily went wrong.(not authorized to write) {ディレクトリパス}	書き込み権限がありません。
Creation of temporarily went wrong.(same path){ディレクトリパス}	同名のパスがあります。
Creation of temporarily went wrong.(other)	その他の原因が発生しました。
The specification of the portlet application is illegal.(Illegal File)	指定したファイルがないか、WAR 形式ではありません。
The specification of the portlet application is illegal.(Illegal portlet.xml)	ポートレットアプリケーション DD (portlet.xml) がないか、形式が不正です。
The specification of the portlet application is illegal.(No portlet)	ポートレット定義が一つもありません。
The specification of the portlet application is illegal.(No Portlet-Class)	ポートレットクラス定義がありません。
The specification of the portlet application is illegal.(Servlet)	web.xml のサーブレット定義、またはサーブレットマッピング定義に、ポートレット名称と同じサーブレット名称が定義されています。
The specified portlet application file already exists.	出力先にすでに生成するファイルがあります。
An error occurred during the portlet application file creation.	ファイル生成時に予期しないエラーが発生しました。

(S) 処理を中止します。

(O) bb...bb の内容を参照して、エラーが発生した原因を取り除いてください。

KDPF61221-I

PortletApplication:aa...aa undeploying will now start.

ポートレットアプリケーション：aa...aa のアンデプロイを開始します。

標準 API ポートレットのアンデプロイを開始しました。

aa...aa：ポートレット名

(S) 処理を続行します。

(O) 特にありません。

KDPF61222-I

PortletApplication:aa...aa undeployed successfully.

ポートレットアプリケーション：aa...aa のアンデプロイに成功しました。

標準 API ポートレットのアンデプロイに成功しました。

aa...aa：ポートレット名

(S) 処理を終了します。

(O) 特にありません。

KDPF61223-E

PortletApplication:aa...aa could not be undeployed.

ポートレットアプリケーション：aa...aa のアンデプロイに失敗しました。

標準 API ポートレットのアンデプロイに失敗しました。

aa...aa：ポートレット名

(S) 処理を中止します。

(O) 出力されているメッセージを確認して対処したあと、再度実行してください。

KDPF61300-W

A resource of String is missing.appkey=aaaa,language=bbbb

ストリングリソースが読み込めませんでした。

aaaa：アプリケーションキー

bbbb：言語コード

(S) 言語指定なしのストリングリソースファイルを取得します。

(O) 特にありません。

KDPF61301-E

A resource of String is missing.appkey:aaaa

ストリングリソースが読み込めませんでした。

aaaa : アプリケーションキー

(S) 処理を中止します。

(O) アプリケーションキーが hptl から始まるキーの場合 , uCosminexus Portal Framework のファイルが壊れているおそれがあります。

KDPF61302-E

Initialization of InternationalizationService has failed.

ストリングリソースファイルの読み込みに失敗しました。

(S) 起動処理を中止します。

(O) 指定したストリングリソースファイルが存在するか確認してください。

KDPF61400-E

Initialization of the layout condition service did not succeed.

レイアウト適用条件サービス機能の初期化中にエラーが発生しました。

(S) 処理を続行します。

(O) 定義ファイルに誤りがないか見直してください。

KDPF61401-E

An attempt to get the character string of the layout group has failed.

レイアウトグループ文字列の取得に失敗しました。

(S) 処理を続行します。

(O) 特にありません。

KDPF61402-E

Initialization of portlet group service has failed.

ポートレットグループサービスの初期化に失敗しました。

(S) 処理を続行します。

(O) 定義ファイルに誤りがないか見直してください。

KDPF61403-E

Some layouts in layout definition file are not supported.

指定したレイアウト形式はサポートされていません。

(S) 処理を中止します。

(O) ポートレット配置情報ファイル (PSML ファイル) の内容を見直してください。

KDPF61500-E

Permission Denied. (user:{aa...aa}, resource:{bb...bb})

ポートレットの利用権限がありません。

aa...aa : ポートレットを表示しようとしたユーザ ID (ログインしていない場合は, "<anonymous>" と表示されます)

bb...bb : 表示しようとしたポートレット名称

(S) 処理を中止し, エラーメッセージを画面に表示します。

(O) 不正アクセスが行われているおそれがありますので, ユーザ ID およびポートレット名称の確認を行ってください。

KDPF61601-I

Reload of repository information has started.

リポジトリ情報の更新処理を開始しました。

(S) 処理を続行します。

(O) 特にありません。

KDPF61602-I

Reload of repository information has ended.

リポジトリ情報の更新処理を終了しました。

(S) 処理を続行します。

(O) 特にありません。

KDPF61603-E

Reload of repository information went wrong. reason:aa...aa

リポジトリ情報の更新に失敗しました。

aa...aa : エラーが発生した原因

エラーが発生した原因を次に示します。

表 E-10 エラーが発生した原因 (リポジトリ情報の更新)

aa...aa : エラーが発生した原因	説明
The repository file (name) is not specified.	リポジトリ情報定義ファイルの定義がありません。

(S) 更新前のリポジトリ情報に戻して, 更新処理を終了します。

(O) エラーが発生した原因を取り除いてください。

KDPF61604-I

Re-acquisition of user information has started. user:aa...aa

リポジトリ情報が更新されたため、ユーザ情報を再取得します。

aa...aa : ユーザ ID

(S) 処理を続行します。

(O) 特にありません。

KDPF61605-I

Re-acquisition of user information has ended. user:aa...aa

ユーザ情報の再取得を終了しました。

aa...aa : ユーザ ID

(S) 処理を続行します。

(O) 特にありません。

KDPF61606-E

Re-acquisition of user information went wrong. user:aa...aa , reason:bb...bb

ユーザ情報の再取得に失敗しました。特定のポートレットを使用できなくなるおそれがあります。

aa...aa : ユーザ ID

bb...bb : エラーが発生した原因 (name=< キー名 >,dcArg=< コネクション情報 >,resource name=< リソース名 >)

(S) 再取得処理を終了します。

(O) エラーが発生した原因を取り除いてください。

KDPF61607-E

An attempt to get data to repository has failed. kind:aa...aa id:bb...bb resource name:cc...cc mapping name:dd...dd

リポジトリからのデータ取得に失敗しました。

aa...aa : 情報種別 (ユーザの場合は "user", 組織の場合は "OU" と表示)

bb...bb : 指定された ID

cc...cc : エラーが発生したリソース名

dd...dd : エラーが発生したマッピング名

(S) 処理を中止します。

(O) リポジトリへの接続を正しく設定してください。

KDPF61608-E

An attempt to set data to repository has failed. resource kind:aa...aa id:bb...bb resource name:cc...cc mapping name:dd...dd

リポジトリへのデータ登録に失敗しました。

aa...aa : 情報種別 (ユーザの場合は "user", 組織の場合は "OU" と表示されます)

bb...bb : 指定された ID

cc...cc : エラーが発生したリソース名称

dd...dd : エラーが発生したマッピングの名称

(S) 処理を中止します。

(O) リポジトリへの接続を正しく設定してください。

KDPF61609-E

An attempt to get data to repository has failed. kind:aa...aa resource name:bb...bb mapping name:cc...cc

リポジトリからのデータ取得に失敗しました。

aa...aa : 情報種別 (ユーザの場合は "user", 組織の場合は "OU" と表示)

bb...bb : エラーが発生したリソース名称

cc...cc : エラーが発生したマッピングの名称

(S) 処理を中止します。

(O) リポジトリへの接続を正しく設定してください。

KDPF61610-E

The specified data is already registered in the repository. kind:aa...aa id:bb...bb, resource name:cc...cc mapping name:dd...dd

すでに同一 ID のユーザ・組織がリポジトリに登録されています。

aa...aa : 情報種別 (ユーザの場合は "user", 組織の場合は "OU" と表示)

bb...bb : 指定された ID

cc...cc : エラーが発生したリソース名称

dd...dd : エラーが発生したマッピングの名称

(S) 処理を中止します。

(O) 別のユーザ・組織 ID を設定し再度操作するか、または一度削除してから再度作り直してください。

KDPF61611-E

The specified data is not registered in the repository. kind:aa...aa id:bb...bb, resource name:cc...cc mapping name:dd...dd

指定されたユーザ・組織がリポジトリに登録されていません。

aa...aa : 情報種別 (ユーザの場合は "user", 組織の場合は "OU" と表示されます)

bb...bb : 指定された ID
cc...cc : エラーが発生したリソース名称
dd...dd : エラーが発生したマッピングの名称

(S) 処理を中止します。

(O) ユーザ・組織情報を登録してから再度操作してください。

KDPF61620-I

Repository Access has started.query:{aa...aa}

リポジトリへのアクセスを開始しました。

aa...aa : クエリー情報

(S) 処理を続行します。

(O) 特にありません。

KDPF61621-I

Repository Access has ended.

リポジトリへのアクセスが正常に終了しました。

(S) 処理を続行します。

(O) 特にありません。

KDPF61700-E

An error occurred in Notes portlet {aa...aa}

Notes ポートレットでエラーが発生しました。

aa...aa : エラー内容

(S) 処理を中止します。

(O) Notes サーバと接続状態にあるか確認し、前後に出力されているエラーメッセージを確認してください。

KDPF61701-E

The logout process failed. (login module:{aa...aa})

Notes サーバへのログアウト処理に失敗しました。

aa...aa : ログインモジュール名

(S) 処理を続行します。

(O) Notes サーバと接続状態にあるか確認し、前後に出力されているエラーメッセージを確認してください。

KDPF61800-I

Migration process started.

PSML 移行ツールを開始しました。

(S) 処理を続行します。

(O) 特にありません。

KDPF61801-I

Migration process end.

PSML 移行ツールが完了しました。

(S) 処理を続行します。

(O) 特にありません。

KDPF61802-I

The connection test was successful.

テストモードが正常に終了しました。

(S) 処理を続行します。

(O) 特にありません。

KDPF61821-W

No record is found.

移行対象データが1件も見つかりませんでした。

(S) 処理を終了します。

(O) 設定ファイル名、プロパティ名、を確認してください。

KDPF61841-W

Translation of personalize file failed.

カスタマイズ情報の変換に失敗しました。

(S) 処理を終了します。

(O) 処理中ユーザを確認してください。

KDPF61861-E

Invalid settings.

設定ファイルの記述に誤りがあります。

(S) 処理を終了します。

(O) 設定ファイル名、プロパティ名、を確認してください。

KDPF61862-E

Invalid XSLT file.

XSLT ファイルの解析に失敗しました。

(S) 処理を終了します。

(O) 詳細原因を確認してください。

KDPF61863-E

File is not found. {aa...aa}

指定されたファイルが存在しません。

aa...aa : 設定ファイル名

(S) 処理を中止します。

(O) エラー内容を確認し対処してください。

KDPF61864-E

File processing error. {aa...aa}

指定されたファイルの処理中にエラーが発生しました。

aa...aa : 設定ファイル名

(S) 処理を中止します。

(O) エラー内容を確認し対処してください。

KDPF61865-E

Invalid Property file. {aa...aa}

プロパティファイル (psml.properties) の解析に失敗しました。

aa...aa : 設定ファイル名

(S) 処理を中止します。

(O) エラー内容を確認し対処してください。

KDPF61866-E

Invalid Multivalued. {aa...aa}

マルチバリュー識別子に誤りがあります。

aa...aa : 処理中ユーザ

(S) 処理を中止します。

(O) エラー内容を確認し対処してください。

KDPF61881-E

DB connection failed. {aa...aa} {bb...bb}

データベースのアクセスに失敗しました。

aa...aa : 詳細原因

bb...bb : 接続情報

(S) 処理を中止します。

(O) エラー内容を確認し対処してください。

KDPF61882-E

LDAP connection failed. {aa...aa}

LDAP アクセスに失敗しました。

aa...aa : 詳細原因

(S) 処理を中止します。

(O) エラー内容を確認し対処してください。

KDPF61883-E

Invalid command line option. {aa...aa}

コマンドラインオプションに誤りがあります。

aa...aa : 詳細原因

(S) 処理を中止します。

(O) エラー内容を確認し対処してください。

KDPF61884-E

DB select failed. {aa...aa}

データベースの検索に失敗しました。

aa...aa : 接続先情報

(S) 処理を中止します。

(O) エラー内容を確認し対処してください。

KDPF61885-E

DB update failed. {aa...aa}

データベースの更新に失敗しました。

aa...aa : 接続先情報

(S) 処理を中止します。

(O) エラー内容を確認し対処してください。

KDPF61886-E

DB commit failed. {aa...aa}

トランザクションのコミットに失敗しました。

aa...aa：接続先情報

(S) 処理を中止します。

(O) エラー内容を確認し対処してください。

KDPF61887-E

DB disconnect failed. {aa...aa}

データベースの切断に失敗しました。

aa...aa：接続先情報

(S) 処理を中止します。

(O) エラー内容を確認し対処してください。

KDPF61888-E

Class of JDBC cannot load. {aa...aa}

JDBC ドライバのロードに失敗しました。

aa...aa：ドライバ名

(S) 処理を中止します。

(O) エラー内容を確認し対処してください。

KDPF61897-E

Messageid is not found. {aa...aa}

メッセージが見つかりませんでした。

aa...aa：詳細原因

(S) 処理を中止します。

(O) エラー内容を確認し対処してください。

KDPF61898-E

Out of memory.

処理実行中にメモリ不足が発生しました。

(S) 処理を中止します。

(O) エラー内容を確認し対処してください。

KDPF61899-E

Occurred unexpected error. {aa...aa}

予期しないエラーが発生しました。

aa...aa：詳細原因

(S) 処理を中止します。

(O) エラー内容を確認し対処してください。

KDPF61900-E

Access Forbidden.(username:aa...aa , sessionid:bb...bb , URL:cc...cc , portlet:dd...dd , fieldname:ee...ee , description:ff...ff)

セキュリティ上問題のあるデータが含まれていたためアクセスを拒否しました。

aa...aa : 対象となったユーザ ID。ログインしていない場合は、Anonymous

bb...bb : 対象となったリクエストのセッション ID。セッション ID を取得できない場合は、空文字列

cc...cc : 対象となった URL

dd...dd : 対象となったリクエストが表示しようとしたポートレット名称。ポートレット以外の場合は空文字列

ee...ee : 対象となったフィールド名

ff...ff : チェック内容を説明する説明文を出力する。説明文は WAS の動作定義ファイルの description 属性に指定した値、設定していない場合は、空文字列

(S) 処理を中止し、エラー画面を表示します。

(O) 問題のあるデータを送信したユーザおよび操作を特定し対処してください。

KDPF62200-W

Contents not protected by security are included.

セキュリティで保護されていない項目が含まれています。

https 環境で、セキュア属性に false を指定している項目があります。

(S) 処理を続行します。

(O) 特にありません。

KDPF62301-I

The portlet container has come up. (PortletName=aa...aa)

標準ポートレットコンテナを起動しました。

aa...aa : ポートレット名

(S) 対象のポートレットコンテナにリクエストを振り分けます。

(O) 特にありません。

KDPF62302-I

The portlet container has stopped. (PortletName=aa...aa)

標準ポートレットコンテナを停止しました。

aa...aa : ポートレット名

- (S) 対象のポートレットコンテナにリクエストを振り分けません。
- (O) 特にありません。

KDPF62311-I

The portlet container processing will now start. (PortletName=aa...aa)

標準ポートレットコンテナのリクエスト処理を開始しました。
aa...aa : ポートレット名

- (S) Servlet リクエスト, Servlet レスポンスを基にした Portlet リクエスト, および Portlet レスポンスを生成します。
- (O) 特にありません。

KDPF62312-I

The portlet container processing has ended. (PortletName=aa...aa)

標準ポートレットコンテナのリクエスト処理を終了しました。
aa...aa : ポートレット名

- (S) Portlet リクエスト, Portlet レスポンスを破棄しました。
- (O) 特にありません。

KDPF62313-E

The error occurred reading the Log property file.

プロパティファイル (PortletApp.properties) の読み込みに失敗しました。

- (S) ログを出力しません。
- (O) ログプロパティを見直してください。

KDPF62321-I

processAction() method will now start. (PortletName=aa...aa)

標準 API ポートレット processAction() の処理を開始しました。
aa...aa : ポートレット名

- (S) 標準 API ポートレットの processAction() を呼び出します。
- (O) 特にありません。

KDPF62322-I

processAction() method has ended. (PortletName=aa...aa)

標準 API ポートレット processAction() の処理を終了しました。
aa...aa : ポートレット名

- (S) 標準 API ポートレットの processAction() を呼び出しました。

(O) 特にありません。

KDPF62323-I

render() method will now start. (PortletName=aa...aa)

標準 API ポートレット render() の処理を開始しました。

aa...aa : ポートレット名

(S) 標準 API ポートレットの render() を呼び出します。

(O) 特にありません。

KDPF62324-I

render() method has ended. (PortletName=aa...aa)

標準 API ポートレット render() の処理を終了しました。

aa...aa : ポートレット名

(S) 標準 API ポートレットの render() を呼び出しました。

(O) 特にありません。

KDPF62350-W

The specified message-ID does not exist. (message-ID=aa...aa)

監査ログのプロパティ (jp.co.hitachi.soft.portal.util.log.auditlog.filter) に監査ログに出力することのないメッセージ ID が設定されました。

aa...aa : 監査ログに出力することのないメッセージ ID

(S) 設定値を無視し処理を続行します。

(O) 存在しないメッセージ ID を削除するか、正しいメッセージ ID を指定する。

KDPF62351-W

The number of parameters exceeds the maximum.

監査ログのプロパティ (jp.co.hitachi.soft.portal.util.log.auditlog.filter) に設定可能なメッセージ ID の最大数を越えた。

(S) 最大数以降の設定を無視し処理を続行します。

(O) 最大個数以内で設定してください。

KDPF62352-W

An invalid value is specified. (key=aa...aa, value=bb...bb)

監査ログのプロパティに不正な値が設定された。

aa...aa : 属性名

bb...bb : 設定された不正な値

- (S) 設定値を無視し処理を続行します。
- (O) 不正な値を削除するか、正しい値を指定してください。

KDPF62353-E

The specified file path is invalid. (path=aa...aa)

監査ログを出力することができません。指定したファイルパスの親ディレクトリを作成することができないか、ディレクトリではありません。

aa...aa：監査ログファイルのパス

- (S) 処理を続行します。
- (O) 監査ログのファイル名に設定されているパスを以下の観点で見直し監査ログファイルを出力可能な状態にしてください。
- 監査ログパスに書き込み権限あるか。
 - 監査ログパスにディレクトリ名と同名のファイルが存在しないか。
 - 監査ログパスとして使用できない文字を使用していないか。
 - 監査ログパスを相対パスで指定していないか。

KDPF62354-E

An exception was generated while writing the audit log.

監査ログ出力中に例外が発生しました。

- (S) 処理を続行します。
- (O) 保守ログに出力されている例外情報を参照し、エラー原因を取り除いてください。

KDPF62355-E

The audit logger could not be initialized.

監査ログの初期化処理中にエラーが発生しました。

- (S) 処理を続行します。
- (O) 監査ログの設定を見直してください。

KDPF62356-E

An error occurred during rotation of the audit log.

監査ログファイルのローテーション中にエラーが発生しました。

- (S) 処理を続行します。
- (O) 以下の観点で見直し監査ログファイルを出力可能な状態にしてください。
- ディスクに空き容量が十分にあるか。
 - 監査ログファイルに書き込み権限があるか。
 - 監査ログファイルと同一名のディレクトリが存在しないか。

KDPF62357-E

Failed to open the audit log file or the audit control file.

監査ログファイルまたは監査ログコントロールファイルのオープン処理に失敗しました。

(S) 処理を続行します。

(O) 以下の観点で見直し監査ログファイルを出力可能な状態にしてください。

- 指定したファイルに書き込み権限があるか。
- 指定したファイルと同名のディレクトリが存在しないか。

KDPF62504-E

The error screen was displayed by the secure communication judgment.

セキュア通信判定でエラー画面を表示しました。

ポートレットアプリケーション DD (portlet.xml) で、セキュリティ保護の対象に指定されているポートレットを、HTTP リクエストで表示しています。

(S) 対象のポートレットを処理しません。

(O) 画面遷移元の URL を見直してください。

KDPF62505-E

The error screen was displayed by the contents type judgment.

コンテンツタイプ判定でエラー画面を表示しました。

ポートレットが、表示対象のコンテンツタイプをサポートしていません。

(S) 対象のポートレットを処理しません。

(O) UserAgentType.xml の内容を見直してください。

KDPF62506-E

Because the context cannot be used, the processAction() method cannot be executed.

コンテキストパスが使用できないため、processAction() メソッドを実行できません。

ポートレットアプリケーションが起動していません。

(S) 対象のポートレットを処理しません。

(O) ポートレットアプリケーションを起動してください。

KDPF62507-E

The exception was generated while executing the processAction() method.

processAction() メソッドの実行中に例外が発生しました。

ポートレットが不正な動作をしました。

(S) 対象ポートレットの処理を中止します。

(O) ポートレットのログを参照し、問題を取り除いてください。

KDPF62508-E

The specified portlet mode is invalid. (PortletName=aa...aa)

不正なポートレットモードが指定されました。(PortletName=aa...aa)

ポートレットアプリケーション DD (portlet.xml) で許可されていないモードが指定されています。

aa...aa : 処理対象のポートレット名

(S) 対象のポートレットを処理しません。

(O) 画面遷移元の URL を見直してください。

KDPF62509-E

The portlet mode not changed was specified for portlet of non-display. (PortletName=aa...aa)

表示対象外ポートレットのポートレットモードを変更できません。(PortletName=aa...aa)

非表示のポートレットに対して、ポートレットアプリケーション DD (portlet.xml) で許可されていないモードが指定されています。

aa...aa : 処理対象のポートレット名

(S) 対象のポートレットを処理しません。

(O) 画面遷移元の URL を見直してください。

KDPF62510-E

The window state cannot change.

ポートレットウィンドウを変更できません。

不正なウィンドウステートが指定されています。

(S) 対象のポートレットを処理しません。

(O) 画面遷移元の URL を見直してください。

KDPF62511-E

The illegal mode is specified for the standard portlet.

標準ポートレットに対して不正なモードが指定されています。

標準 API ポートレットを IFRAME モードや NEWWINDOW モードで表示しようとした。

(S) 対象のポートレットを処理しません。

(O) 画面遷移元の URL を見直してください。

KDPF62512-E

The standard portlet is not specified for target ID of URL.

URL のターゲット ID に標準ポートレットが指定されていません。

標準 API ポートレットの URL が不正です。

(S) 対象のポートレットを処理しません。

(O) 画面遷移元の URL を見直してください。

KDPF62513-E

The error occurred getting the user attribute. (key=aa...aa)

ユーザ属性値取得時にエラーが発生しました。(key=aa...aa)

ユーザ属性値取得に失敗しました。

aa...aa : 取得に失敗したユーザ属性

(S) 対象のユーザ属性を取得しません。

(O) Repository.xml の内容を参照し問題を取り除いてください。

KDPF62514-E

The error occurred processing the redirect.

リダイレクト実行時にエラーが発生しました。

リダイレクト先の URL が不正です。

(S) リダイレクトしません。

(O) ポートレットのログを参照し、問題を取り除いてください。

KDPF62515-E

The specified parameter is invalid. (class name=aa...aa,method name:bb...bb)

指定された引数に誤りがあります。(class name=aa...aa,method name:bb...bb)

予期しないエラーが発生しました。

aa...aa : 引数を設定したクラス名称

bb...bb : 引数を設定したメソッド名称

(S) 保守ログにエラーログ，スタックトレースを出力して，エラー画面を表示します。

(O) システム管理者に連絡してください。

KDPF62600-I

The portlet rendering has started.(username: {aa...aa} sessionid:{bb...bb}, portletname:{cc...cc})

ポートレットの呼び出しを開始しました。

aa...aa : ユーザ ID

bb...bb : セッション ID

cc...cc : ポートレット名称

(S) 処理を続行します。

(O) 特にありません。

KDPF62601-I

The portlet rendering has ended.(username: {aa...aa} sessionid:{bb...bb}, portletname:{cc...cc})

ポートレットの呼び出しが終了しました。

aa...aa : ユーザ ID

bb...bb : セッション ID

cc...cc : ポートレット名称

(S) 処理を続行します。

(O) 特にありません。

KDPF62702-W

Get Portlet definition is failed. name:aa...aa default:bb...bb

ポートレット情報の取得に失敗しました。ポートレットアプリケーション DD (portlet.xml) に記述する内容に誤りがあります。

aa...aa : 誤っている項目名

bb...bb : 項目に設定するデフォルト値

(S) 該当項目を無視する, またはデフォルト値を設定し処理を続行します。

(O) ポートレット定義ファイル (jetspeed-config.jcfg) の内容を確認してください。

KDPF62703-I

Refresh Registry started.

レジストリ更新処理を開始しました。

(S) 処理を続行します。

(O) 特にありません。

KDPF62704-I

Refresh Registry ended.

レジストリ更新処理を終了しました。

(S) 処理を続行します。

(O) 特にありません。

KDPF62705-E

Refresh Registry went wrong.

レジストリ更新に失敗しました。

(S) 更新処理を終了します。

(O) 次のことをしてください。

- web.xml のサーブレット定義、および初期化パラメタに定義されているポートレット GUID が正しいかどうか確認してください。
- デプロイコマンド、アンデプロイコマンドを使用して、再度ポートレットをデプロイしてください。

上記で問題がなく、再度エラーが発生した場合は、システム管理者に連絡してください。

KDPF62706-E

Put Standard Portlet in Deploy information area went wrong.

デプロイ情報領域への、標準 API ポートレット情報の格納に失敗しました。

(S) 処理を終了します。標準 API ポートレット情報は格納されません。

(O) システム管理者に連絡してください。

KDPF62707-E

Remove Standard Portlet from Deploy information area went wrong.

デプロイ情報領域からの、標準 API ポートレット情報の削除に失敗しました。

(S) 処理を終了します。標準 API ポートレット情報は削除されません。

(O) システム管理者に連絡してください。

KDPF62708-E

Reading the portlet definition is failed.

ポートレットアプリケーション DD (portlet.xml) の読み込みに失敗しました。

(S) 処理を中止します。

(O) 直前に出力されたメッセージを確認し、エラー原因を取り除いてください。

KDPF62709-E

The Portlet definition file is invalid. name:aa...aa

ポートレットアプリケーション DD (portlet.xml) に記述する内容に誤りがあります。

aa...aa : 誤っている項目のタグ名

(S) 処理を中止します。該当ポートレットは使用できません。

(O) ポートレット定義ファイル (jetspeed-config.jcfg) の該当タグの内容を確認してください。

KDPF62710-E

The specified context path is invalid. contextPath:aa...aa

コンテキストパスが不正です。

aa...aa : 誤っているコンテキストパス名

(S) 処理を中止します。該当ポートレットは使用できません。

(O) コンテキストパスを半角英数字 32 文字以内に修正してください。

KDPF62801-E

An attempt to connect to process the portlet has failed. (PortletName=aa...aa, MethodId=bb...bb)

標準 API ポートレットでエラーが発生しました。

aa...aa : 呼び出し先のポートレット名 (ポートレット GUID)

bb...bb : 処理 ID

(S) ポートレットに次のメッセージを表示します。

日本語メッセージ :

このポートレットは調整中です。

このエラーが異常だと思われる場合、管理者に連絡してください。

英語メッセージ :

This portlet is currently unavailable.

If it appears abnormal, contact the administrator.

(O) 標準 API ポートレットで発生したエラーの原因を取り除いてください。

KDPF62802-E

The error occurred during processing the portlet. (PortletName=aa...aa, MethodId=bb...bb): cc...cc

標準 API ポートレット呼び出し時にエラーが発生しました。

aa...aa : 呼び出し先のポートレット名 (ポートレット GUID)

bb...bb : 処理 ID

cc...cc : 発生したエラー情報

(S) ポートレットに次のメッセージを表示します。

日本語メッセージ :

このポートレットは調整中です。

このエラーが異常だと思われる場合、システム管理者に連絡してください。

英語メッセージ :

This portlet is currently unavailable.

If it appears abnormal, contact the administrator.

(O) 保守ログおよびコンテナ保守ログを取得して、システム管理者に連絡してください。

KDPF63301-W

An attempt to connect to process the portlet has failed. (PortletName=aa...aa)

標準 API ポートレットの呼び出しに失敗しました。

aa...aa : 呼び出し先のポートレット名

(S) 保守ログにエラーログを出力して、エラー画面を表示します。

(O) 標準 API ポートレットが起動しているかどうか確認してください。

KDPF63302-E

The error occurred during processing the portlet. (PortletName=aa...aa): bb...bb

標準 API ポートレットの処理でエラーが発生しました。

aa...aa : 呼び出し先のポートレット名

bb...bb : 発生したエラー情報

(S) 保守ログにエラーログを出力して、エラー画面を表示します。

(O) コンテナ保守ログに出力されている、標準 API ポートレットで発生したエラーの原因を取り除いてください。

KDPF63304-E

The unexpected error occurred. (PortletName=aa...aa): bb...bb

予期しないエラーが発生しました。

aa...aa : 呼び出し先のポートレット名

bb...bb : 発生したエラー情報

(S) 保守ログにエラーログ、スタックトレースを出力して、エラー画面を表示します。

(O) システム管理者に連絡してください。

KDPF63400-W

The input value from screen is invalid. key:aa...aa value:bb...bb

画面からの入力値が不正です。キー : aa...aa 値 : bb...bb

画面からの入力値が不正です。

aa...aa : 画面の項目名

bb...bb : 入力値

(S) 保守ログにエラーログを出力して、エラー画面を表示します。

(O) 保守ログを参照し、原因を調査してください。

KDPF63401-E

An error occurred during importing file . File name:aa...aa

ファイルのインポートに失敗しました。ファイル名 : aa...aa

ファイルのインポートに失敗しました。次の原因が考えられます。

- インポートするファイルがない。
- インポートするデータがない。

- 読み込み時にエラーが発生した。

aa...aa : ファイル名

(S) 保守ログにエラーログを出力して、エラー画面を表示します。

(O) 保守ログを参照し、原因を調査してください。

KDPF63402-E

An error occurred during exporting file.

ファイルのエクスポートに失敗しました。

ファイルの書き込み時にエラーが発生しました。

(S) 保守ログにエラーログを出力して、エラー画面を表示します。

(O) 保守ログを参照し、原因を調査してください。

KDPF63403-I

It succeeded in the importing file. File name:aa...aa

ファイルのインポートに成功しました。ファイル名 : aa...aa

ファイルのインポート処理が正常に終了しました。

aa...aa : ファイル名

(S) 処理を続行します。

(O) 特にありません。

KDPF63404-I

It succeeded in the exporting file.

ファイルのエクスポートに成功しました。

ファイルのエクスポート処理が正常に終了しました。

(S) 処理を続行します。

(O) 特にありません。

KDPF63410-E

It failed in the initialization of the component portlet. PortletName:aa...aa

コンポーネントポートレットの初期化処理に失敗しました。ポートレット名 :aa...aa

初期化処理に失敗しました。

aa...aa : ポートレット名

(S) 保守ログにエラーログを出力して、処理を続行します。

(O) 設定ファイルを見直してください。

KDPF63411-E

The component definition file doesn't exist. PortletName:aa...aa

コンポーネント定義ファイルが存在しません。ポートレット名 :aa...aa

コンポーネント定義ファイルの読み込みに失敗しました。

aa...aa : ポートレット名

(S) 保守ログにエラーログを出力して、処理を続行します。

(O) jetspeed-config.jcfg のコンポーネント定義ファイルの指定を見直してください。

KDPF63412-E

The format of the component definition file is illegal. PortletName:aa...aa

コンポーネント定義ファイルのフォーマットが不正です。ポートレット名 :aa...aa

コンポーネント定義ファイルのフォーマットが不正です。

aa...aa : ポートレット名

(S) 保守ログにエラーログを出力して、処理を続行します。

(O) コンポーネント定義ファイルのフォーマットを見直してください。

KDPF63413-E

An indispensable item of the component definition file is not specified. PortletName:aa...aa

コンポーネント定義ファイルの必須項目の指定がありません。ポートレット名 :aa...aa

コンポーネント定義ファイルの必須項目が指定されていません。

aa...aa : ポートレット名

(S) 保守ログにエラーログを出力して、処理を続行します。

(O) コンポーネント定義ファイルのフォーマットを見直してください。

KDPF63414-E

It failed in the generation of the instance of the component. PortletName:aa...aa

コンポーネントのインスタンスの生成に失敗しました。ポートレット名 :aa...aa

コンポーネント定義ファイルで、コンポーネントのインスタンスのクラス名が間違っています。または、コンポーネントのインスタンスクラスの初期化に失敗しました。

aa...aa : ポートレット名

(S) 保守ログにエラーログを出力して、処理を続行します。

(O) コンポーネント定義ファイルの設定を見直してください。

KDPF63415-I

It succeeded in the import of component definition information. PortletName:aa...aa

コンポーネント定義情報のインポートに成功しました。ポートレット名 :aa...aa

コンポーネント定義情報のインポートに成功しました。

aa...aa : ポートレット名

(S) 処理を続行します。

(O) 特にありません。

KDPF63416-E

It failed in the import of component definition information. PortletName:aa...aa

コンポーネント定義情報のインポートに失敗しました。ポートレット名 :aa...aa

次の原因が考えられます。

- インポートデータのフォーマットが不正。
- インポート情報を書き込む際の環境が不正。

aa...aa : ポートレット名

(S) 保守ログにエラーログを出力して、処理を中止します。

(O) 保守ログを参照して、原因を取り除いてください。

KDPF63417-I

It succeeded in the export of component definition information. PortletName:aa...aa

コンポーネント定義情報のエクスポートに成功しました。ポートレット名 :aa...aa

コンポーネント定義情報のエクスポートに成功しました。

aa...aa : ポートレット名

(S) 処理を続行します。

(O) 特にありません。

KDPF63418-E

It failed in the export of component definition information. PortletName:aa...aa

コンポーネント定義情報のエクスポートに失敗しました。ポートレット名 :aa...aa

次の原因が考えられます。

- パラメタの取得に失敗した。
- エクスポートデータの生成に失敗した。

aa...aa : ポートレット名

(S) 保守ログにエラーログを出力して、処理を中止します。

(O) 保守ログを参照して、原因を取り除いてください。

KDPF63419-I

It succeeded in the preservation of definition information on the component portlet.

PortletName:aa...aa

コンポーネントポートレットの定義情報保存に成功しました。ポートレット名 :aa...aa

コンポーネントポートレットの定義情報保存に成功しました。

aa...aa : ポートレット名

(S) 処理を続行します。

(O) 特にありません。

KDPF63420-E

It failed in the preservation of definition information on the component portlet. PortletName:aa...aa

コンポーネントポートレットの定義情報保存に失敗しました。ポートレット名 :aa...aa

コンポーネントポートレットの定義情報保存に失敗しました。

aa...aa : ポートレット名

(S) 保守ログにエラーログを出力して、エラーメッセージを画面に表示します。

(O) ログを参照して、原因を取り除いてください。

KDPF63421-E

Failed in the deletion of the component portlet parameter.

コンポーネントポートレットパラメタの削除に失敗しました。

コンポーネントポートレットのパラメタ情報の削除に失敗しました。

(S) 保守ログにエラーログを出力して、処理を中断します。

(O) ログを参照して、原因を取り除いてください。

KDPF63422-E

Failed in registration and the update of the component portlet parameter.

コンポーネントポートレットパラメタの登録・更新に失敗しました。

コンポーネントポートレットのパラメタ情報の更新に失敗しました。

(S) 保守ログにエラーログを出力して、処理を中断します。

(O) ログを参照して、原因を取り除いてください。

KDPF63423-E

Failed in the acquisition of the component portlet parameter.

コンポーネントポートレットパラメタの取得に失敗しました。

コンポーネントポートレットのパラメタ情報の取得に失敗しました。

(S) 保守ログにエラーログを出力して、処理を中断します。

(O) ログを参照して、原因を取り除いてください。

KDPF63424-E

Failed in the access to the component portlet parameter.

コンポーネントポートレットパラメタへのアクセスに失敗しました。

コンポーネントポートレットのパラメタ情報を格納する DB または XML ファイル (componentParameters.xml) にアクセスできませんでした。

(S) 保守ログにエラーログを出力して、処理を中断します。

(O) ログを参照して、原因を取り除いてください。

KDPF63425-E

There is no necessary parameter information.

必要なパラメタ情報がありません。

コンポーネントポートレットのパラメタ情報を操作するために必要なパラメタ情報がありません。

(S) 保守ログにエラーログを出力して、処理を中断します。

(O) ログを参照して、原因を取り除いてください。

KDPF63426-E

It failed in the acquisition of the instance.

インスタンスの取得に失敗しました。

コンポーネントポートレットのパラメタ情報を操作するために必要なインスタンスがありません。

(S) 保守ログにエラーログを出力して、処理を中断します。

(O) ログを参照して、原因を取り除いてください。

KDPF63430-E

An error occurred during deleting cache.

キャッシュのクリアに失敗しました。

キャッシュのクリアに失敗しました。

(S) 処理を中止します。

(O) 設定を見直してください。

KDPF63440-E

The specified url is invalid. URL:aa...aa

指定されたプロトコルが不正です。URL:aa...aa

URL が不正です。

aa...aa : URL

(S) ポートレットにこのメッセージを表示します。

(O) 保守ログを参照して、原因を調査してください。

KDPF63441-E

Connection to URL is failed.URL:aa...aa

URL への接続が失敗しました。URL:aa...aa

指定した URL への接続に失敗しました。

aa...aa : URL

(S) ポートレットにこのメッセージを表示します。

(O) 保守ログを参照して、原因を調査してください。

KDPF63442-E

The error occurred in the writing of a post data. URL:aa...aa

POST データ書き込み時にエラーが発生しました。URL:aa...aa

POST データ書き込み時にエラーが発生しました。

aa...aa : URL

(S) ポートレットにこのメッセージを表示します。

(O) 保守ログを参照して、原因を調査してください。

KDPF63443-E

The error occurred getting the contents. URL:aa...aa

コンテンツ取得時にエラーが発生しました。URL:aa...aa

コンテンツの取得中にエラーが発生しました。

aa...aa : URL

(S) ポートレットにこのメッセージを表示します。

(O) 保守ログを参照して、原因を調査してください。

KDPF63444-E

Character-code of contents is invalid. URL:aa...aa

コンテンツの文字コードが不正です。URL:aa...aa

コンテンツの文字コードを変換する際にエラーが発生しました。

aa...aa : URL

- (S) ポートレットにこのメッセージを表示します。
- (O) 保守ログを参照して、原因を調査してください。

KDPF63445-W

The authentication is not done. URL:aa...aa

該当 URL への認証がされていません。URL:aa...aa

未認証のままコンテンツを取得しようとしてしました。

aa...aa : URL

- (S) ポートレットにこのメッセージを表示します。
- (O) 保守ログを参照して、原因を調査してください。

KDPF63446-E

An error occurred during analysis of contents.URL:aa...aa

コンテンツの解析中にエラーが発生しました。URL:aa...aa

コンテンツで使用している文字コードを取得しようとした際、エラーが発生しました。

aa...aa : URL

- (S) ポートレットにこのメッセージを表示します。
- (O) 保守ログを参照して、原因を調査してください。

KDPF63449-W

The authentication is failed. URL:aa...aa

該当 URL への認証が失敗しました。URL:aa...aa

認証処理に失敗しました。

aa...aa : URL

- (S) ポートレットにこのメッセージを表示します。
- (O) 保守ログを参照して、原因を調査してください。

KDPF63460-W

The specification of the regular expression is invalid.Process:aa...aa

正規表現が不正です。処理 : aa...aa

正規表現が不正です。

aa...aa : 「切り出し」、「項目切り出し」、または「抽出 (出力 1 ~ 10)」

- (S) 保守ログにエラーログを出力して、処理を続行します。正規表現による加工処理はしません。
- (O) 設定項目を見直してください。

KDPF63461-E

The data type to be sorted is invalid.

ソート対象データのデータ型が不正です。

ソート対象データが、抽出コンポーネントの出力結果ではありません。

(S) 保守ログにエラーログを出力して、エラー画面を表示します。

(O) 対象データキーには、正規表現抽出コンポーネントの出力結果を指定してください。

KDPF63462-E

It is not possible to sort it by a numeric type. Key:aa...aa

数値タイプでソートできません。キー：aa...aa

比較タイプに数値が指定されましたが、比較対象データを数値に変換できませんでした。

aa...aa：出力 1 ~ 10

(S) 保守ログにエラーログを出力して、エラー画面を表示します。

(O) 比較タイプを文字列にしてください。または、比較対象データを数値にしてください。

KDPF63463-E

Application of XSLT is failed.

XSLT の適用に失敗しました。

XSLT の適用に失敗しました。

(S) 保守ログにエラーログを出力して、エラー画面を表示します。

(O) 保守ログを参照し、原因を調査してください。

KDPF63470-E

Application of template is failed.

テンプレート適用に失敗しました。

テンプレートの適用に失敗しました。

(S) 保守ログにエラーログを出力して、エラー画面を表示します。

(O) 保守ログを参照し、原因を調査してください。

KDPF63471-W

The pageno is invalid.

pageno(現在のページ番号)が不正です。

pageno が不正です。

(S) 保守ログにエラーログを出力して、処理を続行します。pageno には適当な値を再設

定します。

(O) pageno を見直してください。

KDPF63472-W

The import file exceeded the maximum value.

インポートできるファイル数を超えています。最大：aa...aa

インポートできるファイル数を超えました。

aa...aa：インポートできる最大ファイル数

(S) ポートレットにこのメッセージを表示します。

(O) インポートされているファイルを削除したあと、再度実行してください。

KDPF64201-I

The JSF application has come up. (PortletName=aa...aa)

JSF アプリケーションの起動処理が完了しました。

aa...aa：ポートレット名

(S) 処理を続行します。

(O) 特にありません。

KDPF64202-I

The JSF application has stopped. (PortletName=aa...aa)

JSF アプリケーションの停止処理が完了しました。

aa...aa：ポートレット名

(S) 処理を続行します。

(O) 特にありません。

KDPF64203-I

The JSF application processing will now start. (PortletName=aa...aa)

JSF アプリケーションのリクエスト処理を開始しました。

aa...aa：ポートレット名

(S) 処理を続行します。

(O) 特にありません。

KDPF64204-I

The JSF application processing has ended. (PortletName=aa...aa)

JSF アプリケーションのリクエスト処理を終了しました。

aa...aa：ポートレット名

(S) 処理を続行します。

(O) 特にありません。

KDPF65000-I

新規ポートレット作成をキャンセルしました。

ポートレットの新規作成をキャンセルしました。

(S) ポートレットの新規作成をキャンセルして、[ポートレットの追加・設定・削除] 画面に戻ります。

(O) 特にありません。

KDPF65001-I

ポートレットの設定をキャンセルしました。

ポートレットの設定をキャンセルしました。

(S) ポートレットの設定をキャンセルして、[ポートレットの追加・設定・削除] 画面に戻ります。

(O) 特にありません。

KDPF65300-E

An attempt to load the PortletFilter definition file has failed. (file : aa...aa)

ポートレットフィルタ定義の読み込みに失敗しました。

aa...aa 読み込みに失敗したポートレットフィルタ定義ファイル

(S) ポートレットフィルタ処理をスキップします。

(O) ポートレットフィルタ定義ファイルを正しく作成してください。

KDPF65301-E

An attempt to load the filter class has failed. (filter-class : aa...aa)

ポートレットフィルタクラスの読み込みに失敗しました。

aa...aa 読み込みに失敗したポートレットフィルタクラス名

(S) ポートレットフィルタ処理をスキップします。

(O) ポートレットフィルタクラス名を正しく定義してください。

KDPF65302-E

The specified filter doesn't exist. (filter-name : aa...aa)

ポートレットで使用するポートレットフィルタ定義が見つかりませんでした。

aa...aa 見つからなかったポートレットフィルタ定義名

(S) ポートレットフィルタ処理をスキップします。

(O) ポートレットフィルタ定義ファイルを正しく作成してください。

KDPF65303-E

The filter is not defined. (portlet-name : aa...aa)

ポートレットで使用するポートレットフィルタ定義が見つかりませんでした。

aa...aa フィルタ定義が見つからなかったポートレット ID

(S) ポートレットフィルタ処理をスキップします。

(O) ポートレットフィルタ定義ファイルを正しく作成してください。

KDPF65400-E

An error occurred during processing of reading the definition file. (file : aa...aa , detail : bb...bb)

データ埋め込み定義ファイルまたはデータ型定義ファイルの読み込みに失敗しました。

aa...aa 読み込みに失敗した定義ファイル

bb...bb 読み込みに失敗した詳細メッセージ

(S) データ埋め込み処理を中止します。

(O) 詳細メッセージを確認し、正しいファイルを指定してください。

KDPF65401-E

Definition file does not exist. (file : aa...aa)

データ埋め込み定義ファイルまたはデータ型定義ファイルが読み込めませんでした。

aa...aa 読み込みに失敗した定義ファイル

(S) データ埋め込み処理を中止します。

(O) aa...aa に出力されているファイルが存在するか確認してください。存在しない場合は、ファイルを作成するか正しいファイルへのパスを指定してください。

KDPF65402-E

Portlet Information is illegal. (portlet : aa...aa)

データ埋め込み処理でポートレット情報が取得できませんでした。

aa...aa 取得できなかったポートレット ID

(S) データ埋め込み処理を中止します。

(O) 保守ログを参照し、原因を調査してください。

KDPF65403-E

Failed in the acquisition of the portlet contents. (portlet : aa...aa)

データ埋め込み処理でポートレットのコンテンツを取得できませんでした。

aa...aa 取得できなかったポートレット ID

(S) データ埋め込み処理を中止します。

(O) 保守ログを参照し、原因を調査してください。

KDPF65404-E

Failed to write response. (detail : aa...aa)

データ埋め込み処理でコンテンツの出力に失敗しました。

aa...aa 出力に失敗した詳細メッセージ

(S) データ埋め込み処理を中止します。

(O) 詳細メッセージおよび保守ログを参照し、原因を調査してください。

KDPF65407-W

The specified class does not extend java.text.Format. (class name : aa...aa)

データ型定義ファイルで指定したユーザ編集クラスが java.text.Format クラスを継承していません。

aa...aa データ型定義ファイルで指定したユーザ編集クラス

(S) データの正規化を行いません。

(O) java.text.Format クラスを継承したクラスを指定して再度実行してください。

KDPF65408-W

An exception occurred during processing of creating format. (detail : aa...aa)

データ型定義ファイルで指定したユーザ編集クラスの生成に失敗しました。

aa...aa データ型定義ファイルで指定したユーザ編集クラス

(S) データの正規化を行いません。

(O) 保守ログを参照し、原因を調査してください。

KDPF65409-W

The specified class is not found. (class name : aa...aa)

データ型定義ファイルで指定したユーザ編集クラスが見つかりませんでした。

aa...aa データ型定義ファイルで指定したユーザ編集クラス

(S) データの正規化を行いません。

(O) データ型定義ファイルで指定したユーザ編集クラスにクラスパスがとおるように設定するか、正しいクラス名を指定してください。

KDPF65410-W

The data is not formatted, because the data parsing operation was failed. (type : aa...aa , data : bb...bb)

データ埋め込み処理で抽出したデータの解析に失敗しました。

aa...aa データの解析に失敗したデータ型

bb...bb 解析に失敗したデータ

(S) データの正規化を行いません。

(O) データの解析パターンを見直してください。

KDPF65411-W

The value set to the file is illegal. (portlet : aa...aa , file : bb...bb , tag : cc...cc , attribute : dd...dd , defined value : ee...ee , detail : ff...ff)

データ埋め込み定義ファイルの設定が不正です。

aa...aa データ埋め込みを実行したポートレット ID

bb...bb データ埋め込み定義ファイルのパス

cc...cc 不正なタグ名

dd...dd 不正な属性名

ee...ee 設定値

ff...ff 詳細メッセージ

(S) 設定を無視し処理を続行します。

(O) データ埋め込み定義ファイルを見直してください。

KDPF65412-W

The specified data type cannot be used. (portlet : aa...aa , file : bb...bb , value : cc...cc)

データ埋め込み定義ファイルで指定したデータ型が不正です。

aa...aa データ埋め込みを実行したポートレット ID

bb...bb データ埋め込み定義ファイルのパス

cc...cc 不正なデータ型

(S) 設定を無視し処理を続行します。

(O) データ埋め込み定義ファイルを見直してください。

KDPF65413-W

The specified data type cannot be used. (file : aa...aa , value : bb...bb)

データ型定義ファイルで定義したデータ型が不正です。

aa...aa データ型定義ファイルのパス

bb...bb 不正なデータ型

(S) 設定を無視し処理を続行します。

(O) データ型定義ファイルを見直してください。

KDPF65414-E

An exception occurred during processing of reading the contents.

データ埋め込み処理でポートレットのコンテンツ読み込み処理でエラーが発生しました。

(S) 処理を中止します。

(O) 保守ログを参照し、原因を調査してください。

KDPF65415-E

The file path of the dataput definition file is not defined at the PortletFilter definition file.

データ埋め込み定義ファイルが指定されていません。

(S) 処理を続行します。

(O) ポートレットフィルタ定義にデータ埋め込み定義ファイルの正しいパスを指定してください。

KDPF65416-W

The specified data type is not defined in dataput definition file. (portlet : aa...aa , file : bb...bb , value : cc...cc)

データ埋め込み定義で指定したデータ型がデータ型定義ファイルに定義されていません。

aa...aa データ埋め込みを実行したポートレット ID

bb...bb データ埋め込み定義ファイルのパス

cc...cc 不正なデータ型

(S) 設定を無視し処理を続行します。

(O) データ埋め込み定義ファイルおよびデータ型定義ファイルのデータ型を見直してください。

KDPF65425-E

WebAPI definition file doesn't exist, or it has fatal format error. (file path : aa...aa , detailMessage : bb...bb)

WebAPI 定義ファイルに致命的なエラーがあります。

aa...aa WebAPI 定義ファイルのパス

bb...bb 詳細メッセージ

(S) 処理を中止します。

(O) 詳細メッセージおよび保守ログを参照し、原因を調査してください。

KDPF65426-W

The file "PortalResources.properties" has no file path definition of WebAPI definition file, applied to default value. (PropertyID : aa...aa , default value : bb...bb)

PortalResources.properties ファイルに WebAPI 定義ファイルのパスが指定されていないためデフォルト値を適用して動作します。

aa...aa プロパティ名

bb...bb デフォルト値

(S) デフォルト値を適用して、処理を続行します。

(O) デフォルト値を変更する場合は、PortalResources.properties ファイルに値を設定してください。

KDPF65429-W

WebAPI definition file has illegal value, applied to default value instead of illegal value. (file path : aa...aa , item name : bb...bb , defined value : cc...cc , default value : dd...dd)

WebAPI 定義ファイルの設定値が不正です。

aa...aa WebAPI 定義ファイルのパス

bb...bb 項目名

cc...cc 定義値

dd...dd デフォルト値

(S) デフォルト値を適用して、処理を続行します。

(O) WebAPI 定義ファイルを見直してください。

KDPF65430-W

WebAPI debug mode definition on the file "PortalResources.properties" is illegal, applied to default value "false" instead of illegal value. (PropertyID : aa...aa)

PortalResources.properties ファイルの WebAPI 定義に関する設定値が不正です。

aa...aa プロパティ名

(S) デフォルト値を適用して、処理を続行します。

(O) PortalResources.properties ファイルを見直してください。

KDPF65451-E

A fatal error occurred by executing webapi. (Request Parameter aa...aa : bb...bb)

リクエストパラメータが不正です。

aa...aa パラメータ名

bb...bb パラメータ値

(S) 処理を中止します。

(O) 保守ログを参照し、原因を調査してください。

KDPF65452-E

The UOC class is not found. (class name : aa...aa)

WebAPI 定義で指定したユーザ編集クラスが見つかりません。

aa...aa クラス名

(S) 処理を中止します。

(O) ユーザ編集クラスにクラスパスをとおすか、正しいユーザ編集クラス名を指定して

ください。

KDPF65453-E

The UOC class is not able to be accessed. (class name : aa...aa)

WebAPI 定義で指定したユーザ編集クラスが見つかりましたが実行する権限がありません。

aa...aa クラス名

(S) 処理を中止します。

(O) ユーザ編集クラスの修飾子を見直してください。

KDPF65454-E

The instance of the UOC class was not generable. (class name : aa...aa)

WebAPI 定義で指定したユーザ編集クラスの生成に失敗しました。

aa...aa クラス名

(S) 処理を中止します。

(O) 保守ログを参照し、原因を調査してください。

KDPF65455-E

The method of the UOC class was not found. (class name : aa...aa , method name : bb...bb)

WebAPI 定義で指定したユーザ編集クラスのメソッドが見つかりません。

aa...aa ユーザ編集クラス名

bb...bb メソッド名

(S) 処理を中止します。

(O) ユーザ編集クラスおよび WebAPI 定義を見直して、正しいメソッド名を指定してください。

KDPF65456-E

InvocationTargetException was generated in the UOC class. (class name : aa...aa , method name : bb...bb)

WebAPI 定義で指定したユーザ編集クラスのメソッドが例外を返しました。

aa...aa ユーザ編集クラス名

bb...bb メソッド名

(S) 処理を中止します。

(O) ユーザ編集クラスおよび WebAPI 定義を見直して、正しいメソッド名を指定してください。

KDPF65457-E

It failed in the acquisition of information on portal. (exception : aa...aa)

WebAPI 実行時に uCosminexus Portal Framework の情報の取得に失敗しました。

aa...aa 発生したエラー

(S) 処理を続行します。

(O) 保守ログを参照し，原因を調査してください。

KDPF65458-W

Title of language used is not defined. (lang : aa...aa , senarioID : bb...bb)

WebAPI 定義にユーザが使用している言語のタイトルが設定されていません。

aa...aa ユーザが使用している言語

bb...bb タイトルが設定されていないシナリオ ID

(S) 先頭で定義されたタイトルを使用して，処理を続行します。

(O) ユーザが使用する言語のタイトルを設定してください。

KDPF65475-E

The specified class is invalid. (class name : aa...aa)

WebAPI 定義ファイルで指定したユーザ編集クラス (メニューの表示制御を行うクラス) に誤りがあります。

aa...aa クラス名

(S) 該当メニューを非表示として，処理を続行します。

(O) メニューの表示制御を行うクラスの設定を見直してください。

KDPF65476-E

The exception was generated while executing the UOC class. (class name : aa...aa)

WebAPI 定義ファイルで指定したユーザ編集クラス (メニューの表示制御を行うクラス) でエラーが発生しました。

aa...aa エラーが発生したユーザ編集クラス名

(S) 該当メニューを非表示として，処理を続行します。

(O) メニューの表示制御を行うクラスを見直してください。

KDPF65477-W

The WebAPI definition file is invalid. (senarioID : aa...aa , TagName : bb...bb , Attribute : cc...cc)

WebAPI 定義が不正です。

aa...aa 不正な定義のあるシナリオ ID

bb...bb 不正なタグ名

cc...cc 不正な属性名

(S) 該当メニューを非表示として、処理を続行します。

(O) WebAPI 定義を見直してください。

KDPF65478-W

MenuTitle of language used is not defined. (lang : aa...aa , senarioID : bb...bb)

WebAPI 定義にユーザが使用している言語のメニュー表示タイトルが設定されていません。

aa...aa ユーザが使用している言語

bb...bb シナリオ ID

(S) 先頭で定義されたタイトルを使用して、処理を続行します。

(O) ユーザが使用する言語のメニュー表示タイトルを設定してください。

KDPF65479-W

SettingMenuTitle of language used is not defined. (lang : aa...aa)

WebAPI 定義にユーザが使用している言語の入力情報設定メニュー表示名が設定されていません。

aa...aa ユーザが使用している言語

(S) 先頭で定義されたタイトルを使用して、処理を続行します。

(O) ユーザが使用する言語の入力情報設定メニュー表示名を設定してください。

KDPF65480-W

A CSS file of a language to use is not found. (lang : aa...aa)

WebAPI 定義にユーザが使用している言語の入力情報設定メニュー表示名が設定されていません。

aa...aa ユーザが使用している言語

(S) 先頭で定義されたタイトルを使用して、処理を続行します。

(O) ユーザが使用する言語の入力情報設定メニュー表示名を設定してください。

KDPF65800-I

Migration process is started.

処理を開始しました。

移行コマンドの処理を開始しました。

(S) 処理を続行します。

(O) 特にありません。

KDPF65801-I

Migration process is completed.

処理を完了しました。

移行コマンドの処理が正常に終了しました。

(S) 処理を続行します。

(O) 特にありません。

KDPF65810-E

Mandatory file is missed. (File: aa...aa, Directory: bb...bb)

処理に必要なファイルが見つかりません。(ファイル名: aa...aa, 指定ディレクトリ: bb...bb)

処理に必要なファイルが見つかりませんでした。

aa...aa: 見つからなかったファイル

bb...bb: 検索したディレクトリ

(S) 処理を中止します。

(O) 次のことを確認してください。

- 処理に必要なファイルがあるか。
- 処理に必要なファイルにアクセスできる状態か。

KDPF65811-E

Invalid file format.(File: aa...aa, Directory: bb...bb, Detail1: cc...cc, Detail2: dd...dd)

ファイルのフォーマットが不正です。(ファイル名: aa...aa, ディレクトリ: bb...bb, 付加情報 1: cc...cc, 付加情報 2: dd...dd)

ファイルのフォーマットが不正なため, 処理を続行できませんでした。

aa...aa: フォーマットが不正なファイル

bb...bb: ファイルが格納されているディレクトリ

cc...cc: 詳細コード

dd...dd: 詳細コード

(S) 処理を中止します。

(O) 次のことを確認してください。

cc...cc が 1 の場合

ファイルが正しい XML 形式か。

cc...cc が 2 の場合

ファイルが正しいプロパティ形式か。

cc...cc が 11 の場合

dd...dd に表示されたポートレットについて, ポートレット定義ファイル (jetspeed-config.jcfg) の内容が仕様と合っているか。

cc...cc が 12 の場合

dd...dd に表示されたポートレットグループについて、ポートレットグループ定義ファイルの内容が仕様と合っているか。

cc...cc が 21 の場合

dd...dd に表示されたプロパティが設定されているか。

KDPF65812-E

Command arguments are missed.

必要なコマンド引数がありません。

コマンドの引数が不正なため、処理が続行できません。

(S) 処理を中止します。

(O) コマンドの引数を確認してください。

KDPF65813-E

Database access failed.

データベースのアクセスに失敗しました。

データベースのアクセスに失敗しました。

(S) 処理を中止します。

(O) 次のことを確認してください。

- データベースが起動しているか。
- 実行中のサーバからデータベースにアクセスできるか。
- データベースに必要なテーブルが登録されているか。

KDPF66000-E

Currently unavailable.

調整中です。

レイアウトを表示できません。

(S) 画面にエラーメッセージを表示します。

(O) 保守ログを取得して、システム管理者に連絡してください。

KDPF66002-E

An attempt to connect to process the portlet has failed.

このポートレットは一時的に使用できません。

対象のポートレットのコンテンツが起動していません。

(S) ポートレットにエラーメッセージを表示します。

(O) ポートレットの入れ替え中の場合は、ポートレットの入れ替えが完了してから再度

実行してください。入れ替え中でない場合は、保守ログを取得して、システム管理者に連絡してください。

KDPF99997-I

un={aa...aa} act={bb...bb} {cc...cc}

ユーザがログインまたはログアウトしました。

aa...aa : ログインユーザ名

bb...bb : Login/Logout

cc...cc : その他出力情報

(S) 処理を続行します。

(O) 特にありません。

付録 F 監査ログメッセージ

uCosminexus Portal Framework が出力する監査ログのメッセージについて説明します。

付録 F.1 監査ログメッセージの記述形式

監査ログメッセージの記述形式を次に示します。

KDPFnnnnn-i :

メッセージの内容

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
メッセージの出力項目名	メッセージの出力項目の意味	メッセージの出力内容

説明

メッセージの説明：メッセージの内容を補完して説明します。

付録 F.2 監査ログメッセージテキスト

KDPF80201-I :

メッセージの内容

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
ctgry	監査事象の種別	Authentication
result	監査事象の結果	Success
subj:uid	サブジェクト識別情報	ログインを実行したユーザ ID
op	動作情報	Login
msg	自由記述	The login process has succeeded.

説明

ログインに成功しました。

KDPF80202-W :

メッセージの内容

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
ctgry	監査事象の種別	Authentication

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
result	監査事象の結果	Failure
subj:uid	サブジェクト識別情報	ログインを実行したユーザ ID
op	動作情報	Login
msg	自由記述	The login process has failed.

説明

ログインに失敗しました。

KDPF80203-I :**メッセージの内容**

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
ctgry	監査事象の種別	Authentication
result	監査事象の結果	Success
subj:uid	サブジェクト識別情報	ログアウトを実行したユーザ ID
op	動作情報	Logout
msg	自由記述	The logout process has succeeded.

説明

ログアウトが正常に終了しました。

KDPF80204-W :**メッセージの内容**

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
ctgry	監査事象の種別	Authentication
result	監査事象の結果	Failure
subj:uid	サブジェクト識別情報	ログアウトを実行したユーザ ID
op	動作情報	Logout
msg	自由記述	The logout process has failed.

説明

ログアウト処理中にエラーが発生しました。

KDPF80401-I :**メッセージの内容**

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
ctgry	監査事象の種類	ConfigurationAccess
result	監査事象の結果	Success
subj:uid	サブジェクト識別情報	新規ユーザ作成を実行したユーザ ID
op	動作情報	Add
msg	自由記述	A new account was added. (uid=aa..aa) aa..aa : 作成したユーザ ID

説明

新規ユーザ作成に成功しました。

KDPF80402-W :**メッセージの内容**

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
ctgry	監査事象の種類	ConfigurationAccess
result	監査事象の結果	Failure
subj:uid	サブジェクト識別情報	新規ユーザ作成を実行したユーザ ID
op	動作情報	Add
msg	自由記述	A new account was not added. (uid=aa..aa) aa..aa : 作成に失敗したユーザ ID

説明

新規ユーザ作成に失敗しました。

KDPF80403-I :**メッセージの内容**

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
ctgry	監査事象の種類	ConfigurationAccess
result	監査事象の結果	Success
subj:uid	サブジェクト識別情報	ユーザ情報変更を実行したユーザ ID
op	動作情報	Update
msg	自由記述	An account information was changed. (uid=aa..aa) aa..aa : 変更したユーザ ID

説明

ユーザ情報変更に成功しました。

KDPF80404-W :

メッセージの内容

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
ctgry	監査事象の種別	ConfigurationAccess
result	監査事象の結果	Failure
subj:uid	サブジェクト識別情報	ユーザ情報変更を実行したユーザ ID
op	動作情報	Update
msg	自由記述	An account information was not changed. (uid=aa..aa) aa..aa : 変更失敗したユーザ ID

説明

ユーザ情報変更失敗しました。

KDPF80405-I :

メッセージの内容

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
ctgry	監査事象の種別	ConfigurationAccess
result	監査事象の結果	Success
subj:uid	サブジェクト識別情報	ユーザの削除を実行したユーザ ID
op	動作情報	Delete
msg	自由記述	An account was deleted. (uid=aa..aa) aa..aa : 削除したユーザ ID

説明

ユーザの削除に成功しました。

KDPF80406-W :

メッセージの内容

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
ctgry	監査事象の種別	ConfigurationAccess
result	監査事象の結果	Failure
subj:uid	サブジェクト識別情報	ユーザの削除を実行したユーザ ID
op	動作情報	Delete

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
msg	自由記述	An account was not deleted. (uid=aa..aa) aa..aa : 削除したユーザ ID

説明

ユーザの削除に失敗しました。

KDPF80407-I :**メッセージの内容**

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
ctgry	監査事象の種類	ConfigurationAccess
result	監査事象の結果	Success
subj:uid	サブジェクト識別情報	管理者条件編集を実行したユーザ ID
op	動作情報	Update
msg	自由記述	Operator condition was changed. (group=aa..aa, condition=bb..bb) aa..aa : 更新対象のポータル管理グループ bb..bb : 更新された管理者条件情報

説明

管理者条件の編集に成功しました。管理者条件情報は設定画面に表示されている条件全てが出力されます。

KDPF80408-W :**メッセージの内容**

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
ctgry	監査事象の種類	ConfigurationAccess
result	監査事象の結果	Failure
subj:uid	サブジェクト識別情報	管理者条件編集を実行したユーザ ID
op	動作情報	Update
msg	自由記述	Operator condition was not changed. (group=aa..aa, condition=bb..bb) aa..aa : 更新対象のポータル管理グループ bb..bb : 設定した管理者条件情報

説明

管理者条件の編集に失敗しました。管理者条件情報は設定画面に表示されている条件全てが出力されます。

KDPF80409-I :**メッセージの内容**

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
ctgry	監査事象の種別	ConfigurationAccess
result	監査事象の結果	Success
subj:uid	サブジェクト識別情報	利用者条件編集を実行したユーザ ID
op	動作情報	Update
msg	自由記述	User condition was changed. (group=aa..aa, condition=bb..bb) aa..aa : 更新対象のポータル管理グループ bb..bb: 更新された利用者条件情報

説明

利用者条件の編集に成功しました。利用者条件情報は設定画面に表示されている条件全てが出力されます。

KDPF80410-W :**メッセージの内容**

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
ctgry	監査事象の種別	ConfigurationAccess
result	監査事象の結果	Failure
subj:uid	サブジェクト識別情報	利用者条件編集を実行したユーザ ID
op	動作情報	Update
msg	自由記述	User condition was not changed. (group=aa..aa, condition=bb..bb) aa..aa : 更新対象のポータル管理グループ bb..bb: 設定した利用者条件情報

説明

利用者条件の編集に失敗しました。利用者条件情報は設定画面に表示されている条件全てが出力されます。

KDPF80801-I :**メッセージの内容**

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
ctgry	監査事象の種別	ContentAccess
result	監査事象の結果	Success

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
subj:uid	サブジェクト識別情報	パスワード変更操作を実行したユーザ ID
op	動作情報	Update
msg	自由記述	User password was changed. (uid=aa..aa) aa..aa : 変更したユーザ ID

説明

パスワード変更成功しました。

KDPF80802-W :**メッセージの内容**

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
ctgry	監査事象の種別	ContentAccess
result	監査事象の結果	Failure
subj:uid	サブジェクト識別情報	パスワード変更操作を実行したユーザ ID
op	動作情報	Update
msg	自由記述	User password was not changed. (uid=aa..aa) aa..aa : 変更失敗したユーザ ID

説明

パスワード変更失敗しました。

付録 G 各バージョンの変更内容

変更内容 (3020-3-H71-40) uCosminexus Portal Framework 08-70 , および
uCosminexus Portal Framework - Light 08-70

追加・変更内容

uCosminexus Secure Unify - SSO 連携の設定を追加しました。

監査ログの出力情報を追加しました。

ホスト名または IP アドレスを変更した時の影響範囲を追加しました。

メッセージを追加しました。
KDPF60027-E , KDPF50013-I

監査ログメッセージを追加しました。
KDPF80801-I , KDPF80802-W

変更内容 (3020-3-H71-30) uCosminexus Portal Framework 08-03 , および
uCosminexus Portal Framework - Light 08-03

追加・変更内容

uCosminexus Portal Framework の動作環境を変更しました。

環境変数の設定方法を変更しました。

SSL アクセラレーターまたはリバースプロキシ使用時の設定を変更しました。

プロトコルとサーバ名を含む URL を生成する変換規則の設定にプロパティ「transinline.compat」を追加しました。

ポートレットの登録の説明を変更しました。

変更内容 (3020-3-H71-20) uCosminexus Portal Framework 08-02 , および
uCosminexus Portal Framework - Light 08-02

追加・変更内容

概要について説明を変更しました。

インストール手順について説明を変更しました。

リポジトリサーバの構築の説明を変更しました。

ポータルサーバの構築について説明を変更しました。

ポータル画面のカスタマイズについて説明を変更しました。

ポータル機能のカスタマイズについて説明を変更しました。

保守ログファイルに出力する内容を指定するプロパティを追加しました。

メッセージを変更しました。
KDPF50010-I

追加・変更内容

メッセージを追加しました。

KDPF50011-I, KDPF50012-I, KDPF61620-I, KDPF61621-I, KDPF62600-I, KDPF62601-I

付録 H このマニュアルの参考情報

このマニュアルを読むに当たっての参考情報を示します。

付録 H.1 関連マニュアル

関連マニュアルを次に示します。必要に応じてお読みください。

< uCosminexus Portal Framework のマニュアル >

uCosminexus Portal Framework についての、他マニュアルを次に示します。

uCosminexus Portal Framework 運用管理者ガイド (3020-3-H72)

ポータルを運用する管理者 (運用管理者および部門管理者) が実施する作業 (ポータルの運用管理および標準画面レイアウトの作成) について説明しています。

uCosminexus Portal Framework ポートレット開発ガイド (3020-3-H73)

ポートレットの開発方法, および開発時に使用する API について説明しています。

uCosminexus Portal Framework ユーザーズガイド (3020-3-H74)

エンドユーザがポータルを使用するときの操作方法 (ポータルへのログイン方法, ポータル画面のカスタマイズ方法, およびナビゲーションメニューの操作方法) について説明しています。

< 他製品のマニュアル >

このマニュアルで参照している他製品のマニュアルを次に示します。

Cosminexus アプリケーションサーバ V8 機能解説 基本・開発編 (Web コンテナ)
(3020-3-U05)

Cosminexus Version 8 のアプリケーションサーバの機能の詳細について, アプリケーションの実装方法や実行環境で必要な設定などを含めて解説しています。

Cosminexus アプリケーションサーバ V8 機能解説 基本・開発編 (コンテナ共通機能)
(3020-3-U07)

Cosminexus Version 8 のアプリケーションサーバの機能の詳細について, アプリケーションの実装方法や実行環境で必要な設定などを含めて解説しています。

Cosminexus アプリケーションサーバ V8 機能解説 拡張編 (3020-3-U08)

Cosminexus Version 8 のアプリケーションサーバの機能の詳細について, アプリケーションの実装方法や実行環境で必要な設定などを含めて解説しています。

Cosminexus アプリケーションサーバ V8 機能解説 保守 / 移行 / 互換編
(3020-3-U10)

Cosminexus Version 8 の構築・運用するとき, またはアプリケーション開発するとき使用するコマンドについて説明しています。

Cosminexus アプリケーションサーバ V8 アプリケーション設定操作ガイド
(3020-3-U12)

Cosminexus Version 8 のサーバ管理コマンドおよび Server Plug-in を使用した J2EE アプリケーションおよびリソースの操作について説明しています。

Cosminexus アプリケーションサーバ V8 リファレンス コマンド編 (3020-3-U14)

Cosminexus Version 8 の構築・運用するとき、またはアプリケーション開発するときに使用するコマンドについて説明しています。

Cosminexus アプリケーションサーバ V8 リファレンス 定義編 (サーバ定義)
(3020-3-U15)

Cosminexus Version 8 の構築・運用するとき、またはアプリケーションを開発するときに使用するファイルの定義方法について説明しています。

Cosminexus V9 アプリケーションサーバ 機能解説 基本・開発編 (Web コンテナ)
(3020-3-Y05)

Cosminexus Version 9 のアプリケーションサーバの機能の詳細について、アプリケーションの実装方法や実行環境に必要な設定などを含めて解説しています。

Cosminexus V9 アプリケーションサーバ 機能解説 基本・開発編 (コンテナ共通機能)
(3020-3-Y07)

Cosminexus Version 9 のアプリケーションサーバの機能の詳細について、アプリケーションの実装方法や実行環境に必要な設定などを含めて解説しています。

Cosminexus V9 アプリケーションサーバ 機能解説 拡張編 (3020-3-Y08)

Cosminexus Version 9 のアプリケーションサーバの機能の詳細について、アプリケーションの実装方法や実行環境に必要な設定などを含めて解説しています。

Cosminexus V9 アプリケーションサーバ 機能解説 保守/移行編 (3020-3-Y11)

Cosminexus Version 9 の構築・運用するとき、またはアプリケーション開発するときに使用するコマンドについて説明しています。

Cosminexus V9 アプリケーションサーバ アプリケーション設定操作ガイド
(3020-3-Y13)

Cosminexus Version 9 のサーバ管理コマンドおよび Server Plug-in を使用した J2EE アプリケーションおよびリソースの操作について説明しています。

Cosminexus V9 アプリケーションサーバ リファレンス コマンド編 (3020-3-Y15)

Cosminexus Version 9 の構築・運用するとき、またはアプリケーション開発するときに使用するコマンドについて説明しています。

Cosminexus V9 アプリケーションサーバ リファレンス 定義編 (サーバ定義)
(3020-3-Y16)

Cosminexus Version 9 の構築・運用するとき、またはアプリケーションを開発する

ときに使用するファイルの定義方法について説明しています。

Collaboration 導入ガイド (3020-3-H01)

Collaboration 製品を導入するための、システム構築、環境設定、および運用方法について説明しています。

スケーラブルデータベースサーバ HiRDB Version 8 システム導入・設計ガイド (Windows(R) 用) (3020-6-352)

HiRDB Version 8 を使ってリレーショナルデータベースシステムの構築、および運用方法について説明しています。

スケーラブルデータベースサーバ HiRDB Version 8 UAP 開発ガイド (3020-6-356)

HiRDB Version 8 のデータベース言語である SQL を使用してユーザアプリケーションプログラムを開発するための基礎技術、および HiRDB クライアントの環境設定について説明しています。

HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R) 用) (3020-6-452)

HiRDB Version 9 を使ってリレーショナルデータベースシステムの構築、および運用方法について説明しています。

HiRDB Version 9 UAP 開発ガイド (3020-6-456)

HiRDB Version 9 のデータベース言語である SQL を使用してユーザアプリケーションプログラムを開発するための基礎技術、および HiRDB クライアントの環境設定について説明しています。

付録 H.2 このマニュアルでの表記

このマニュアルでは、製品名称を次に示す略称で表記しています。

正式名称	略称
HiRDB Version 8	HiRDB
HiRDB Version 9	
Java(TM)	Java
Java(TM) 2 Platform, Enterprise Edition	J2EE
Java(TM) 2 Platform, Standard Edition	J2SE
Java(TM) Authentication and Authorization Service	JAAS
Java(TM) Servlet	Servlet またはサーブレット
Java(TM) Virtual Machines	VM
JavaServer Pages(TM)	JSP
Lotus Domino	Domino
Lotus Notes	Notes

正式名称	略称
Oracle9i	Oracle
Oracle 10g	
Oracle Database 11g	
Sun Java(TM) System Directory Server	Sun Java System Directory Server

付録 H.3 このマニュアルで使用する英略語

このマニュアルで使用する主な英略語を次に示します。

英略語	説明
AP	Application Program
API	Application Programming Interface
ASCII	American Standard Code for Information Interchange
BLOB	Binary Large Object
CGI	Common Gateway Interface
CHTML	Compact Hypertext Markup Language
CIS	Case Ignore String
CLOB	Character Large Object
cn	Common Name
CRC	Cyclic Redundancy Check
DB	Database
DD	Deployment Descriptor
DES	Data Encryption Standard
DIOP	Domino Internet Inter-Object Protocol
DN	Distinguished Name
EAR	Enterprise Archive
EUC	Extended Unix Code
FQDN	Fully Qualified Domain Name
GMT	Greenwich Mean Time
GUI	Graphical User Interface
HDML	Handheld Device Markup Language
HTML	Hypertext Markup Language
HTTP	Hypertext Transfer Protocol
IP	Internet Protocol
ISO	International Organization for Standardization

英略語	説明
JAAS	Java Authentication and Authorization Service
JAR	Java Archive
JDBC	Java Database Connectivity
JIS	Japan Industrial Standard
JNDI	Java Naming and Directory Interface
JSP	JavaServer Pages(TM)
LDAP	Lightweight Directory Access Protocol
LDIF	LDAP Data Interchange Format
LOB	Large Object
MD	Message Digest Algorithm
MIME	Multipurpose Internet Mail Extensions
OCI	Oracle Call Interface
OID	Object Identifier
OS	Operating System
ou	Organizational Unit
PAR	Portlet Application Archive
PC	Personal Computer
PSML	Portal Structure Markup Language
RD	Relational Database
RDB	Relational Database
RDF	Resource Description Framework
RDN	Relative Distinguished Name
RFC	Request for Comments
RSS	RDF Site Summary
SDK	Software Development Kit
SHA	Secure Hash Algorithm
SQL	Structured Query Language
SSHA	Salted Secure Hash Algorithm
SSL	Secure Sockets Layer
UAP	User Application Program
UCS	Universal multi-octet coded Character Set
URI	Uniform Resource Identifier
URL	Uniform Resource Locator
UTF	UCS Transformation Format
VM	Virtual Machine

英略語	説明
WAR	Web Archive
XML	Extensible Markup Language
XSLT	Extensible Stylesheet Language Transformations

付録 H.4 KB (キロバイト) などの単位表記について

1KB (キロバイト), 1MB (メガバイト), 1GB (ギガバイト), 1TB (テラバイト) はそれぞれ $1,024$ バイト, $1,024^2$ バイト, $1,024^3$ バイト, $1,024^4$ バイトです。

付録 I 用語解説

(英字)

File ポートレット

HTML, CHTML, HDML のどれかで記述されたコンテンツを, ポータル画面に表示するためのポートレットです。

LDAP (Lightweight Directory Access Protocol)

ディレクトリサーバにアクセスするための通信プロトコルです。

RD エリア

HiRDB で, リレーショナルデータベースのテーブル, およびインデックスを格納するデータ領域です。RD エリアの詳細は, HiRDB のマニュアルを参照してください。

RSS (RDF Site Summary)

RSS は RDF 形式で記述した Web サイトのコンテンツを要約したファイルです。XML で記述されています。なお, RDF は Web ページでコンテンツの構成を記述するためのメタデータの規格です。

SiteMinder

Web アクセス制御とシングルサインオンを実現する製品です。uCosminexus Portal Framework は, SiteMinder と連携してログイン時のユーザ認証ができます。

URL Rewriting 抑止機能

セキュリティ向上のために提供している機能です。アプリケーションサーバと Web ブラウザ間で送受信しているセッション ID を第三者によって入手されるのを回避します。

UserAgent

アクセス端末ごとの識別情報です。

Web コンテナ

Web アプリケーションサーバの Web コンテナ機能を指します。Web コンテナは JSP およびサーブレットを実行します。

Web コンテンツポートレット

外部の Web サーバからコンテンツを取得して, ポータル画面に表示するためのポートレットです。取得したデータは, あらかじめ設定した抽出方法やソート方法などに従って, 加工して表示されます。取得できるコンテンツは, HTML, RSS, または XML で記述されたページです。

Web ポートレット

HTML で記述された Web ページをポータルに取り込み, ポータル画面に表示するためのポートレットです。ポータルプロジェクト内のローカルコンテンツ, および外部の Web サーバのコンテンツをポータルに統合できます。

(ア行)

アプリケーションキー

ストリングリソースを区別するためのキーのことです。

インラインオブジェクト

HTML ファイルなどのコンテンツ中に含まれる画像などのことです。

ウェルカム画面

ポータルに最初にアクセスしたときに表示される画面（ログイン前の画面）です。ポータルユーザ全員に知らせたい情報などを表示します。

運用管理者

ポータルの運用を管理する権限を持つユーザです。システム管理者によって任命されます。運用管理ポートレットを使用して、ポータルの運用管理に必要なすべての情報（ポータル管理グループ、ポートレット、および画面レイアウト）を設定できます。また、ほかのユーザを「部門管理者」に任命して、運用管理権限の一部を委譲できます。

運用管理ポートレット

運用管理者がポータルを運用管理するためのポートレットです。日立 API ポートレットによって作成されます。

(カ行)

拡張レイアウト形式

行列形式を組み合わせてポートレットを表示できるレイアウト形式です。拡張レイアウト形式では、例えば、行の中に列を入れ子にするなど、より複雑にポートレットを配置できます。また、ユーザがポートレットの配置を変更できるかどうかを、ポートレットを配置する一つの行または列（エリア）ごとに設定できます。

カスタマイズ

ログインしたあとに表示される標準のポータル画面のコンテンツやレイアウトを、ユーザごとに変更する総称です。特に、画面のレイアウト機能については、レイアウトカスタマイズ機能と呼びます。レイアウトカスタマイズ機能については、〔用語解説〕の「レイアウトカスタマイズ機能」を参照してください。

カスタムポートレット

JSP やサーブレットの技術を用いて独自に作成したコンテンツを、ポータル画面に表示するためのポートレットです。動的なページを作成したり、企業独自の業務システムをポータルに統合したり、既存のアプリケーションと連携したりできます。

カスタムポートレットには、標準 API ポートレット、および日立 API ポートレットがあります。

管理者用レイアウトカスタマイズ画面

運用管理ポートレットから表示される画面です。この画面で、運用管理者または部門管理者が、同じポータル管理グループに属するユーザのポータル画面に表示される共通のレイアウト（標準画面レイアウト）をカスタマイズします。

基本テンプレート

uCosminexus Portal Framework で標準テンプレートとして実装しているテンプレートです。デフォルトでは、このテンプレートが設定されています。

共通情報

運用中の全ポータルサーバ（ポータルプロジェクト）で共通の情報のことです。複数のポータルサーバが存在する場合に共通情報を定義すると、全ポータルサーバでその情報を利用できるようになります。

共通情報として定義できるのは、次の情報です。

- 標準画面レイアウト情報
- ポータル管理グループ情報
- ポートレットグループ情報
- Web コンテンツポートレットのパラメタ値情報

なお、共通情報を設定する場合は、四つすべてを共通情報として扱います。

クライアントサイドデータ通信

「ドラッグ & ドロップ」および「データフォーム転送」の総称です。

コミュニティ

Collaboration - Online Community Management の管理情報で、コミュニティメンバとコミュニティワークスペースをまとめた集合体のことです。

コミュニティメンバ

Collaboration - Online Community Management の管理情報で、コミュニティに参加中または脱退依頼中の人のことです。

コミュニティワークスペース（省略時はワークスペース）

Collaboration - Online Community Management の管理情報で、同じコミュニティに参加しているコミュニティメンバ間で共有するコンテンツを管理するものです。

コンテンツ表示領域

ポートレットが出力するコンテンツ領域のことです。

コンテンツフィルタリング

Web ポートレットが表示するコンテンツを一定の条件で部分的に削除または抽出することです。

コントロール名

拡張レイアウトで使用するタイトルコントロールの名称です。

（サ行）

システム管理者

ポータル全体を管理する権限を持つユーザです。ポータルの構築、ポートレットの登録、および Portal Manager でポータル全体に関する情報を設定します。また、ほかのユーザを運用管理者に任命できます。

自動追加ポートレット

拡張レイアウト形式使用時に、利用者画面に強制的に表示するポートレットのことです。ただし、強制表示ポートレットと異なり、利用者はこのポートレットを削除できます。拡張レイアウトの変更可能エリアに配置できます。

シナリオ

スマートナビゲーションメニューをクリックしたときに連携先サイトにデータを送信する方法のことです。

シンプルカスタマイザテンプレート

利用者レイアウトカスタマイザ画面をカスタマイズするために提供しているテンプレートです。シンプルカスタマイザを使用することで、画面デザインを直感的にわかりやすくし、表示をグラフィカルなデザインにします。

ストリングリソース

ポータル画面に表示する文字列を言語別にまとめたリソースのことです。

設定ファイル格納ディレクトリ

uCosminexus Portal Framework の設定ファイルが格納されているディレクトリです。ポータルプロジェクトの Web アプリケーション DD (web.xml ファイル) を編集することで、任意のディレクトリを指定できます。デフォルトでは、次のディレクトリです。

```
{uCosminexus Portal Framework インストールディレクトリ }¥conf
```

(夕行)

タイトルコントロール

拡張レイアウト形式で配置する各ポートレットの画面のデザインです。

タイトルバー

uCosminexus Portal Framework が合成するタイトルバーのことです。

ディレクティブ

コンテンツフィルタリング機能でフィルタリングする位置を指定する指示子です。HTML ファイルのコメント、および正規表現で検索した文字列をディレクティブとして使用します。

ディレクトリサーバ

情報を階層構造で一元管理するサーバです。uCosminexus Portal Framework では、LDAP を使用したディレクトリサーバで、ユーザ情報を管理します。

デザインテンプレート

基本テンプレートのオプションとして提供しているテンプレートです。ポータル全体の画面を変更できるテンプレートです。

統合画面

ポータルサーバが提供する View (ナビゲーション領域とタイトルバー) とポートレットとして開発されたコンテンツの組み合わせによって表示される画面です。標準画面 (DEFAULT モード) , 最大化画面 (MAXIMIZE モード) , 編集画面 (EDIT モード) , および新規ウィンドウ画面

(NEWWINDOW モード)の4種類があります。

統合ユーザ管理フレームワーク

Cosminexus で、JAAS を用いてユーザを管理するフレームワークです。uCosminexus Portal Framework は、統合ユーザ管理フレームワークを使用してディレクトリサーバまたは DB と連携してユーザを管理します。

(八行)

パーソナライズ

パーソナライズとは、ポータル画面の表示形式および表示するコンテンツを、ユーザごとまたはグループごとに変更することです。パーソナライズには、運用管理者または部門管理者によるポータルの標準画面の設定と、各ユーザによるポータルの標準画面のカスタマイズがあります。

日立 API ポートレット

カスタムポートレットの一つで、uCosminexus Portal Framework の API を用いて作成するポートレットです。

標準 API ポートレット

カスタムポートレットの一つで、Java Portlet Specification 1.0 に従って作成するポートレットです。

標準画面レイアウト

同じポータル管理グループに所属するユーザのポータル画面に表示される画面のレイアウトです。表示されるポートレットやポートレットの配置、画面の配色などが設定されています。運用管理者または部門管理者が作成して、ポータル管理グループに設定します。

表領域

Oracle で、リレーショナルデータベースのテーブル、およびインデクスを格納するデータ領域です。詳細は、Oracle のマニュアルを参照してください。

部門管理者

ポータルの運用を管理する権限を持つユーザです。運用管理者によって、ポータル管理グループごとに設定されます。運用管理ポートレットを使用して、ポータル管理グループ内のリソース（ポートレットおよび画面レイアウト）についての情報を設定できます。ただし、リソースの管理権限は設定できません。

プロジェクトホーム

ポータルプロジェクトのディレクトリとして作成したディレクトリのフルパスを指します。このマニュアルでは、{PROJECT_HOME} と記載します。

分散ポートレット

ほかのポータル上に配置されたポートレットを自ポータルに取り込み、ポータル画面に表示するためのポートレットです。

ポータル

幾つかのポートレットで構成された Web サイトです。さまざまな情報を統合したインターネットや

イントラネットの入り口になります。

ポータル管理グループ

リソース（ポートレットおよび画面レイアウト）のアクセス権を管理するためのグループです。リソースの管理者および利用者を定義します。リソースの管理者は、リソースの内容を編集したり、アクセス権を変更したりできます。リソースの利用者は、ポータル画面にリソースが表示されて、リソースを参照したり使用したりできます。

ポータルサーバ

uCosminexus Portal Framework を実行して動作しているサブレットのことです。

ポータルプロジェクト

ポータルサイトを管理する単位です。一つのポータルサイトをポータルプロジェクトとして運用します。各ポータルのファイルを格納するディレクトリ名が、ポータルプロジェクト名になります。

ポートレット

ポータル上で動作するアプリケーションコンポーネントです。

ポートレットグループ

ポートレットを分類するためのグループです。運用管理者が運用管理ポートレットで任意に作成できます。

ポートレットコンテンツ

ポートレットとして定義されているコンテンツのことです。

ポートレットタイトル

ポートレットのタイトルのことです。

ポートレット配置情報ファイル

ポータルの標準画面レイアウトを定義するファイルです。PSML で記述します。
なお、拡張レイアウト形式の場合は、HTML で記述することもできます。

ポートレット配置情報ファイル格納ディレクトリ

ポートレット配置情報ファイルが格納されているディレクトリです。PortalResources.properties ファイルを編集することで、任意のディレクトリを指定できます。デフォルトでは、次のディレクトリです。

```
{uCosminexus Portal Framework インストールディレクトリ }¥psml
```

ホーム画面

ウェルカム画面からログインしたときに表示されるユーザごとの画面のことです。
uCosminexus Portal Framework では、運用管理者または部門管理者によって、標準のホーム画面を設定することもできます。標準のホーム画面を設定すると、ユーザが所属している組織や役職ごとに異なるホーム画面を表示できます。

(マ行)

マッピング定義ファイル

アクセスしてきたクライアント種別を判定して、クライアントに合ったポートレットを選択するファイルです。このファイルには、Portal Manager を使用してポートレットを登録する際に設定した内容が書き込まれます。

メッセージキー

ストリングリソース内のメッセージを識別するためのキーのことです。

メニューベースタイトルバーテンプレート

ポータル画面のタイトルバーをカスタマイズするために提供しているテンプレートです。このテンプレートを使用すると、タイトルバーに設定される各機能をボタンではなくメニューから操作できるようになります。

(ヤ行)

ユーザ

ポータルを使用する人のことです。

要素フィルタリング

Web ページをポータル画面に取り込む際に、開始タグ、終了タグ、要素などを削除することです。

(ラ行)

リダイレクト

ある URL からほかの URL に転送させることです。Web ページの URL が変更されたことを知らせる機能です。

リポジトリ

ユーザ情報、組織単位情報などが格納されているデータストアです。ディレクトリサーバ、DB などの総称です。

レイアウト

利用者に表示する画面のことです。レイアウトは、複数のポートレットを集約して構成されます。レイアウトは、パーソナライズ機能で示した行列形式だけではなく、タブ形式など複数のレイアウトを持つ形式も含まれます。

レイアウトカスタマイズ機能

ポータル画面のレイアウトをカスタマイズする機能です。ポータル画面に表示するポートレットやポートレットの配置などを設定できます。レイアウトカスタマイズ機能の画面（レイアウトカスタマイズ画面）には、管理者用と利用者用の 2 種類があります。管理者用カスタマイズ画面は、運用管理ポートレットから表示されます。この画面では、運用管理者または部門管理者が、同じポータル管理グループに属するユーザのポータル画面に表示される共通のレイアウト（標準画面レイアウト）をカスタマイズします。利用者用レイアウトカスタマイズ画面は、各ユーザのポータル画面の

[レイアウト変更] アンカーまたはボタンから表示されます。この画面では、各ユーザが自分のポータル画面を利用しやすいようにカスタマイズします。

レイアウトグループ

レイアウトグループとは、一つの標準画面レイアウトに対してデバイスごとに作成されたポートレット配置情報ファイル (PSML ファイル) の集まりです。ポートレット配置情報ファイルは、一つの標準画面レイアウトに対して、PC 用 (homeHTML.psm1)、i モード用 (homeCHTML.psm1)、EZweb 用 (homeHDML.psm1) の三種類のファイルを作成できます。作成したポートレット配置情報ファイルは、レイアウトグループ名のディレクトリ下に格納します。レイアウトグループ名は、標準画面レイアウト名になります。例えば、事業所 A 配下のユーザのための標準画面レイアウト (lauoutA) に対して PC 用、i モード用、EZweb 用のポートレット配置情報ファイルを作成する場合、「layoutA」というディレクトリを作成して三つのポートレット配置情報ファイルを格納します。これら三つのポートレット配置情報ファイルは、「layoutA」という名称のレイアウトグループに属することになります。

索引

A

AccessDeniedList タグライブラリ 413
addLayoutGroup 454
addPortletForGrid 455
addPortletsForColumn 456
addPortletsForRow 457
addTab 458
adportlet.bat 600
adportletapp.bat 601

B

BorderPortletControl 225

C

changeArrangement 458
changeColor 459
changeForce() 437
changeForce(int) 437
changeLayoutCode 460
changeLayoutPattern 460
changeNormal 438
changeRowColumnMode 461
changeSize 462
changeStyle 462
checkPermission 273
Collaboration - Online Community
 Management 連携機能の設定
 [PortalResources.properties の詳細] 556
Collaboration - Online Community
 Management を使用する場合の設定 659
controllers.xml 597
countTab 491

D

DB からの情報の取得方法 170
DB のセットアップ 98
DB の容量計算 93
DB への接続方法 158

DeviceBean クラス 415
doAfterLogin 504
dynamicUri タグ 222
dynamicUri タグの使用例 223

E

EditScreenControl 228
EZweb 用レイアウトテンプレート例 221

F

File ポートレット 21
File ポートレット [用語解説] 799
formbase-auth.cfg 596
FullScreenControl 227

G

getActiveTabColor 491
getAllNamesByLangType 471
getApplyURL 438
getArrangement 423
getAvailableLayoutEntryBeans 420
getAvailablePortletEntryBeans 416
getAvailablePortletEntryBeansByGroup
 417
getAvailablePortletGroupBeans 418
getAvailablePortletNames 418
getAvailablePortletTitles 419
getBackgroundColor() [LayoutBean] 423
getBackgroundColor()
 [NoTitleLayoutBean] 487
getBackgroundColor() [PanedLayoutBean]
 492
getBackgroundColor() [TitleLayoutBean]
 497
getBorderColor() [NoTitleLayoutBean]
 487
getBorderColor() [PortletBean] 474
getBorderSize() [NoTitleLayoutBean] 488
getBorderSize() [PortletBean] 475

getButtonImage 497
getButtonUrl 498
getCallbackHandler 505
getCancelURL 438
getColor 463
getContents 439
getDefaultURL 440
getDesc 470
getDeviceBeans 440
getDeviceCode 419
getEditDeviceBean 440
getEditDeviceCode 441
getEditLayoutBean() 463
getEditLayoutBean(LayoutBean,java.lang.
String) 464
getEditLayoutGroup 441
getEditPSMLPath 442
getErrorMessage 442
getForceMode 442
getForceTabName 443
getGridMaxColumn 423
getGridMaxRow 424
getGroupValue 485
getHomeURL 443
getKeys 510
getLayoutBean 420
getLayoutBeans 424
getLayoutCode 424
getLayoutCustomizeUtil 443
getLayoutGroup 420
getLayoutID 444
getLayoutPattern 425
getLayoutPatterns 444
getLoginContext 505
getMaxColumn 445
getMaxRow 445
getMode 445
getName 470
getNonActiveTabColor 492
getPaddingSize 425
getParentPortletGroupName 484
getPortletBeanByPortletID 425
getPortletBeans 426
getPortletContent() [NoTitleLayoutBean]
488
getPortletContent(JspWriter)
[PanedLayoutBean] 493
getPortletContent(JspWriter)
[TitleLayoutBean] 498
getPortletDescription 481
getPortletEntryBean() [PortletBean] 475
getPortletEntryBean() [PortletEntryBean]
481
getPortletGroup 484
getPortletGroupBeans 446
getPortletGroupID 475
getPortletGroupName() [PortletBean] 476
getPortletGroupName()
[PortletEntryBean] 482
getPortletGroupNames 482
getPortletGroupTitles 485
getPortletID 476
getPortletName() [PortletBean] 476
getPortletName() [PortletEntryBean] 482
getPortletParameter()
[NoTitleLayoutBean] 489
getPortletParameter() [TitleLayoutBean]
499
getPortletTitle() [PortletBean] 477
getPortletTitle() [PortletEntryBean] 483
getPortletTitle() [TitleLayoutBean] 499
getProperty() [NoTitleLayoutBean] 489
getProperty(java.lang.String)
[PanedLayoutBean] 493
getProperty(java.lang.String)
[TitleLayoutBean] 499
getRequest 506
getResponse 506
getRootPortletGroupBean 446
getRowColumnMode 426
getRulerColor 493
getRulerSize() [LayoutBean] 427
getRulerSize() [PanedLayoutBean] 494
getSelectedColor 427
getSelectedTabName 446
getSize 464

getString 511
 getStringResource 511, 512
 getStyle 464
 getSubject 506
 getTabTitle 494
 getTabUrl 494
 getTitle() [LayoutBean] 427
 getTitle() [LayoutEntryBean] 470
 getTitle(java.lang.String)
 [LayoutEntryBean] 471
 getTitle(java.util.Locale)
 [LayoutEntryBean] 471
 getTitleColor() [LayoutBean] 428
 getTitleColor() [TitleLayoutBean] 500

H

HTTPS 通信時に使用する証明書の登録 353
 HTTPS 通信時のプロキシの設定 353

I

iframe ポートレット 19
 Information View ポートレット 18
 initBean(ServletRequest)
 [NoTitleLayoutBean] 489
 initBean(ServletRequest)
 [PanedLayoutBean] 495
 initBean(ServletRequest)
 [TitleLayoutBean] 500
 initBean(ServletRequest,boolean)
 [LayoutCustomizeBean] 447
 isAccessDenied タグライブラリ 414
 isActiveTab 495
 isAdminMode 447
 isBorderControl 477
 isClearControl 477
 isCloseMode 500
 isEditMode 501
 isForce 472
 isForceLayout 447
 isForceTab 428
 isHelpMode 501
 isMaximizeMode 501

isMinimizeMode 502
 isNewWindowMode ()
 [NoTitleLayoutBean] 490
 isPortletCompulsionDisplay 478
 isSelected 472
 isSelectedPortlet 465
 isUserDefineLayout 472
 isView 473
 i モード用レイアウトテンプレート例 221

J

jaas.conf 142
 JAAS コンフィグレーションファイルの設定
 142
 jetspeed-config.jcfg 572

L

LayoutBean クラス 421
 LayoutCustomizeBean クラス 433
 LayoutCustomizeUtil ライブラリ 453
 LayoutEntryBean クラス 469
 LDAP [用語解説] 799
 login 507
 LoginActionBean クラス 503
 logout 507

M

makeapp.bat 602
 makepj.bat 603
 makeUser 507
 makewar.bat 604
 MenuPermission クラス 273
 movePortlet 465
 moveTab 466

N

NavigationPanedPortletControl 226
 NoTitleLayoutBean クラス 486

P

PanedLayoutBean クラス 490

PanedPortletControl 226
 PC用レイアウトテンプレート例 219
 pmsetup.bat 604
 Portal Manager 44, 45
 Portal Manager で設定できる内容 45
 Portal Manager の画面構成 45
 Portal Manager の起動と終了 62
 Portal Manager の起動方法 62
 Portal Manager の使用 64
 Portal Manager のセットアップ 59
 [Portal Manager のセットアップ] 別の PC
 から Portal Manager を使用したい場合
 60
 PortalResources.properties の詳細 514
 PortalSetup.properties の詳細 559
 PortalTools.properties の詳細 561
 PortletBean クラス 473
 PortletEntryBean クラス 480
 PortletGroupBean クラス 483
 portletgroupconv.properties の詳細 650

R

RD エリア [用語解説] 799
 removeForceTab 467
 removePortlet 467
 removePortlets 468
 removeTab 468
 Repository.xml 585
 rmportlet.bat 605
 rmportletapp.bat 606
 RSS [用語解説] 799

S

SecureUnify 連携時の機能差異 292
 SecureUnify 連携時の処理概要 289
 SecureUnify 連携時のログアウト処理 291
 SecureUnify 連携時のログイン処理 289
 Secure Unify 連携の設定 289
 SecureUnify連携のために提供するファイル
 294
 SecureUnify 連携のための設定 294
 setBackgroundColor 428

setBorderColor 478
 setBorderControl 478
 setBorderSize 479
 setCallbackHandler 508
 setChangeLayoutGroup 448
 setClearControl 479
 setContents 448
 setDeviceBeans 449
 setEditDeviceCode 449
 setEditLayoutGroup 450
 setEditPSMLPath 450
 setLayoutBean 421
 setLayoutBeans 429
 setLayoutCode 429
 setLayoutPattern 429
 setLoginContext 508
 setPaddingSize 430
 setParameter 430
 setPortletBeans 431
 setPortletEntryBean 480
 setRemoveLayoutGroup 451
 setRequest 508
 setResponse 509
 setRowColumnMode 431
 setRulerSize 432
 setSelectedColor 432
 setSelectedLayoutList 451
 setSelectedTabName 452
 setTitle 432
 setTitleColor 433
 SiteMinder [用語解説] 799
 SiteMinder 連携時の機能差異 305
 SiteMinder 連携時のログアウト処理 304
 SiteMinder 連携時のログイン処理 302
 SiteMinder 連携のために提供するファイル
 308
 SiteMinder 連携のための設定 309
 SSL アクセラレーターまたはリバースプロキ
 シ使用時の設定 314
 StringResource クラス 510

T

TitleControl 227

TitleControl の構成 233
 TitleLayoutBean クラス 496
 TitlePortletControl 224

U

ua.conf 143
 uCosminexus Portal Framework が提供する
 コマンドの使用 64
 uCosminexus Portal Framework が提供する
 定義ファイルの更新 64
 uCosminexus Portal Framework が予約する
 アプリケーションキー 280
 uCosminexus Portal Framework で使用でき
 るポートレット 20
 uCosminexus Portal Framework のアンイン
 ストール 612
 uCosminexus Portal Framework のインス
 トール 55
 uCosminexus Portal Framework の構成 26
 uCosminexus Portal Framework の構築 42
 uCosminexus Portal Framework のコマンド
 599
 uCosminexus Portal Framework のセット
 アップ 132
 uCosminexus Portal Framework の動作環境
 26
 uCosminexus Portal Framework の特長 5
 uCosminexus Portal Framework のユーザ種
 別 24
 uriLookup タグ 222
 uriLookup タグの使用例 222
 URL Rewriting 抑止機能〔用語解説〕799
 URL 変換規則の切り替え
 〔PortalResources.properties の詳細〕545
 UserAgent 〔用語解説〕799
 UserAgentType.xml 594
 usrconf.properties ファイル 146

W

WebAPI 定義 267
 Web Page Portlet の設定
 〔PortalResources.properties の詳細〕536

Web コンテナ〔用語解説〕799
 Web コンテナの動作設定 322
 Web コンテンツポートレット 21
 Web コンテンツポートレット〔用語解説〕
 799
 Web コンテンツポートレットの設定 353
 Web サーバとの連携の設定 136
 Web サブレットログ 383
 Web ポートレット 21
 Web ポートレット〔用語解説〕799
 Web ポートレットの設定 355
 Windows イベントログ 660

あ

アクセサリポートレット 18
 アクセス制御したポートレット 14
 アクセス制御やパーソナライズに使用する情
 報の検討 70
 アプリケーションキー 280
 アプリケーションキー〔用語解説〕800
 アプリケーションサーバ 54

い

インストール 54
 インラインオブジェクト〔用語解説〕800

う

ウェルカム画面 8
 ウェルカム画面〔用語解説〕800
 ウェルカム画面の表示設定 247
 運用管理者〔用語解説〕800
 運用管理者の設定 196
 運用管理者の登録 196
 運用管理者の変更 197
 運用管理ポートレット 10, 49
 運用管理ポートレット〔用語解説〕800
 運用管理ポートレットで設定できる内容 50
 運用管理ポートレットの画面構成 49

え

〔エンコーディングの設定〕画面 278

お

オブジェクトクラスの追加 84

か

拡張レイアウト形式〔用語解説〕 800
 カスタマイズ 8
 カスタマイズ〔用語解説〕 800
 カスタマイズ Bean 415
 カスタマイズ機能 433
 カスタマイズで使用できない半角文字 681
 カスタマイズに使用するライブラリ 411
 カスタムポートレット 20
 カスタムポートレット〔用語解説〕 800
 カスタムログインモジュールの設定 287
 稼動状態の監視 401
 画面遷移の変更 247
 画面テンプレート 205
 画面テンプレートの種類 207
 環境変数 57
 環境変数の設定 57
 環境変数の設定方法 57
 監査ログの概要 383
 監査ログの収集と調査 396
 監査ログの出カタイミング 398
 監査ログメッセージテキスト 784
 監査ログメッセージの記述形式 784
 管理者用レイアウトカスタマイズ画面〔用語解説〕 800

き

企業ポータル 2
 基本テンプレート〔用語解説〕 801
 キャッシュクリアの実行 364
 共通情報 78
 共通情報〔用語解説〕 801
 共通情報のグローバルバッファ面数の計算方法 106
 共通情報の削除 403
 共通情報の設定 185
 共通情報の容量計算 101
 共通情報用 DB の設定 101
 共通情報を設定する前に 185

共通定義 (Web ポートレット) 355
 共通定義 (分散ポートレット) 366
 行列形式 238

く

クライアントサイドデータ通信 16
 クライアントサイドデータ通信〔用語解説〕 801
 クライアント情報定義ファイル 594
 クライアント情報定義ファイルの設定 285
 グリッド形式 240
 グループ識別子 70
 グループ情報 72
 グループ情報の作成 85
 グローバルバッファ面数の計算方法 97

け

言語およびタイムゾーンの設定
 〔PortalPesources.properties の詳細〕 553
 言語の優先順位 282

こ

コミュニティ〔用語解説〕 801
 コミュニティメンバ〔用語解説〕 801
 コミュニティワークスペース〔用語解説〕 801
 コンテナ保守ログの形式と出力内容 395
 コンテンツ表示領域〔用語解説〕 801
 コンテンツフィルタリング〔用語解説〕 801
 コンテンツへのアクセス制御 14
 コントローラ定義ファイル 597
 コントロール名 237
 コントロール名〔用語解説〕 801

さ

最大スレッド数の算出方法 320

し

システム管理者〔用語解説〕 801
 自動追加ポートレット〔用語解説〕 802
 シナリオ 253

シナリオ〔用語解説〕 802
 障害対策 380
 障害の監視 322
 情報の統合 6
 新規ウィンドウ表示機能 213
 シングルサインオン 12
 シングルサインオンの概要 12
 シンプルカスタマイザテンプレート 215
 シンプルカスタマイザテンプレート〔用語解説〕 802

す

スキーマの拡張 83
 スタイルシートの種類 206
 スタイルシートの設定 206
 スtringリソース〔用語解説〕 802
 スtringリソース取得 API 510
 スtringリソースのカスタマイズ 280
 スマートナビゲーション 15
 スマートナビゲーションの設定 250, 558
 スマートナビゲーションの設定方法 259
 スマートナビゲーションのその他の設定 258
 スマートナビゲーションメニューおよびシナリオの定義 253
 スマートナビゲーションを使用するための設定 258
 スマートナビゲーションを設定する前に 256
 スレッド数(ポートレット並列表示) 320

せ

静的コンテンツ取得時のエイリアス設定 320
 性能チューニング 319
 性能チューニングと障害監視 319
 性能チューニングと障害監視の設定方法 324
 セキュリティ向上(自動デプロイされたポートレットのセキュリティ向上方法) 610
 接続プール機能の概要 158
 設定ファイルおよびポートレット配置情報
 ファイルを任意のディレクトリに配置する
 手順 138
 設定ファイル格納ディレクトリ〔用語解説〕
 802

設定ファイルとコマンド 513
 前提条件 256
 前提プログラムのインストール 54

そ

組織単位識別子 71
 組織単位情報 75
 組織単位情報の作成 85

た

タイトルコントロール 205
 タイトルコントロール〔用語解説〕 802
 タイトルバー〔用語解説〕 802
 タブ形式 238

て

ディレクティブ〔用語解説〕 802
 ディレクトリ構成 55
 ディレクトリサーバ〔用語解説〕 802
 ディレクトリサーバでの設定 82
 ディレクトリサーバの設定
 〔PortalResources.properties の詳細〕 532
 データの埋め込み 250
 デザインテンプレート 210
 デザインテンプレート〔用語解説〕 802
 デバッグおよび運用の流れ 380
 デフォルトエンコーディングの設定 277
 デフォルトエンコーディングの設定方法 278
 デフォルトメニュー 249

と

統合画面〔用語解説〕 802
 統合ユーザ管理フレームワーク〔用語解説〕
 803
 統合ユーザ管理フレームワークの実行環境の
 設定 142
 登録(Webポートレット) 356
 登録(日立APIポートレット・Fileポート
 レット) 344
 登録(分散ポートレット) 366
 登録内容の変更(Webポートレット) 362

登録内容の変更（日立 API ポートレット・
File ポートレット） 348
登録内容の変更（分散ポートレット） 370

な

ナビゲーションテンプレート 221
ナビゲーションメニュー対応ポートレットの
登録 375
ナビゲーションメニューの設定 249
ナビゲーションメニューの設定
〔PortalPesources.properties の詳細〕 553

は

バージョンアップ手順 613
パーソナライズ 7
パーソナライズ〔ポータル構築手順〕 69
パーソナライズ〔用語解説〕 803
パーソナライズ情報 7
パスワードの暗号化 86
パスワードを変更できない設定にしたい場合
223

ひ

日立 API ポートレット 20
日立 API ポートレット（PAR 形式）のアン
デプロイ 342
日立 API ポートレット（PAR 形式）のデプ
ロイ 340
日立 API ポートレット（PAR 形式以外）お
よび File ポートレットの設定 344
日立 API ポートレット〔用語解説〕 803
日立 API ポートレットの障害監視 322
〔日立 API ポートレットの登録〕〔その他の
項目〕に設定できる内容 351
標準 API ポートレット 20
標準 API ポートレット〔用語解説〕 803
標準 API ポートレットでセキュア属性を使
用する場合 317
標準 API ポートレットのアンデプロイ 339
標準 API ポートレットのデプロイ 334
標準画面の表示内容変更 8
標準画面レイアウト〔用語解説〕 803

標準のホーム画面 8
表領域〔用語解説〕 803

ふ

フォーム認証定義ファイル 596
負荷分散機使用時の構成 29
複数のポータルプロジェクトを作成する場合
の注意事項 138
部門管理者〔用語解説〕 803
フロー形式 240
プロジェクトホーム〔用語解説〕 803
プロパティファイル 514
分散クライアント 9
分散サーバ 9
分散ポータル 8
分散ポートレット 21
分散ポートレット〔用語解説〕 803
分散ポートレット使用時の構成 28
分散ポートレットの設定 366

へ

並列表示 319
ページテンプレート 235
ページテンプレートの設定
〔PortalResources.properties の詳細〕 524
ヘルスチェック URL 401

ほ

ポータル 2
ポータル〔用語解説〕 803
ポータル画面 6
ポータル画面の HTML 205
ポータル画面の構成 31
ポータル画面の遷移 32
ポータル管理グループ〔用語解説〕 804
ポータルサーバ〔用語解説〕 804
ポータルサーバの構築手順 130
ポータルで取得する HTTP ヘッダー情報
306
ポータルで取得するリクエスト属性 293
ポータルにアクセスできるデバイス 17
ポータルの起動と終了 378

- [ポータル構築手順]ポータルでユーザ認証だけする場合 68
- [ポータル構築手順]ユーザごとにアクセス制御をしたり,ポータル画面をカスタマイズしたりする場合 69
- ポータルの標準画面の作成 7
- ポータルプロジェクト 44, 131, 132
- ポータルプロジェクト〔用語解説〕804
- ポータルプロジェクトの作成 132
- ポータルプロジェクトの選択 136
- ポータルユーザ管理 303
- ポート番号の変更 140
- ポートレット〔用語解説〕804
- ポートレットアクセスログの形式と出力内容 392
- ポートレットアクセスログの出力項目の検討 384
- ポートレット間通信 15
- [ポートレット共通定義]画面(Distributed Web App Portlet) 366
- ポートレットグループ〔用語解説〕804
- ポートレットコンテンツ〔用語解説〕804
- ポートレット全体の障害監視 322
- ポートレットタイトル〔用語解説〕804
- ポートレット定義ファイル 572
- ポートレットテンプレート 223
- ポートレットテンプレート Bean 486
- ポートレットテンプレートのカスタマイズ 228
- ポートレット登録の概要 332
- ポートレットの画面構成(標準 API ポートレット) 35
- ポートレットの画面構成(標準 API ポートレット以外のポートレット) 38
- ポートレットの画面遷移(標準 API ポートレット) 37
- ポートレットの画面遷移(標準 API ポートレット以外のポートレット) 40
- [ポートレットの共通定義]画面(Web App Portlet) 355
- ポートレットの削除 373
- [ポートレットの新規作成]画面(Web ポートレット) 357
- [ポートレットの新規作成]画面(日立 API ポートレット) 345
- [ポートレットの新規作成]画面(分散ポートレット) 367
- [ポートレットの設定]画面(Multi Web Portlet・登録) 359
- [ポートレットの設定]画面(Multi Web Portlet・変更) 363
- [ポートレットの設定]画面(日立 API ポートレット)〔登録〕347
- [ポートレットの設定]画面(日立 API ポートレット)〔登録内容の変更〕350
- [ポートレットの設定]画面(分散ポートレット・登録) 369
- [ポートレットの設定]画面(分散ポートレット・変更) 371
- [ポートレットの追加・変更・削除]画面(Web ポートレット・登録) 356
- [ポートレットの追加・変更・削除]画面(Web ポートレット・変更) 362
- [ポートレットの追加・変更・削除]画面(日立 API ポートレット・登録) 344
- [ポートレットの追加・変更・削除]画面(日立 API ポートレット・変更) 349
- [ポートレットの追加・変更・削除]画面(分散ポートレット・登録) 367
- [ポートレットの追加・変更・削除]画面(分散ポートレット・変更) 371
- [ポートレットの追加・変更・削除]画面(ポートレットの削除) 373
- ポートレットの登録 331
- ポートレット配置情報ファイル〔用語解説〕804
- ポートレット配置情報ファイル格納ディレクトリ〔用語解説〕804
- ポートレットフィルタの定義 264
- [ポートレット並列実行の設定]画面 324
- ポートレット並列表示 319
- ポートレット並列表示の設定
 - [PortalResources.properties の詳細] 549
- ポートレットログの形式と出力内容 391
- ポートレットログの設定
 - [PortalResources.properties の詳細] 541

ホーム画面〔用語解説〕 804
保守ログの設定
〔PortalResources.properties の詳細〕 537
ホスト名または IP アドレスの変更 408

ま

マッピング情報の一括削除 183
マッピング情報の設定手順 172
マッピング定義ファイル〔用語解説〕 805

め

メールポートレット 19
メッセージキー〔用語解説〕 805
メッセージテキスト 664
メッセージの形式 660
メニューベースタイトルバーテンプレート
211
メニューベースタイトルバーテンプレート
〔用語解説〕 805

も

モバイルでの利用 17

や

役職識別子 71

ゆ

ユーザ〔用語解説〕 805
ユーザ管理情報 70
ユーザ管理情報の検討 70
ユーザ管理情報の接続設定 (DB) 158
ユーザ管理情報の接続設定 (ディレクトリ
サーバ) 149
ユーザ管理情報の設定 (マッピング情報)
171
ユーザ管理情報用リポジトリに DB を使用す
る場合の設定 93
ユーザ管理情報用リポジトリにディレクトリ
サーバを使用する場合の設定 82
ユーザ管理メッセージ表示タグライブラリ
413

ユーザ識別子 70
ユーザ情報 72
ユーザ情報の作成 85
ユーザ情報を設定する前に 158
ユーザ定義項目 72
ユーザ登録形式 239
ユーザ登録形式の設定 243
ユーザ認証の例 287
ユーザ編集クラスで使用するライブラリ 273
ユーザ編集クラスのインスタンス生成タイミ
ング 274
ユーザ編集クラスの格納 273
ユーザ編集クラスの作成方法 272
ユーザ編集クラスの種類 272

よ

要素フィルタリング〔用語解説〕 805

り

リダイレクト〔用語解説〕 805
リポジトリ〔用語解説〕 805
リポジトリ項目の検討 72
リポジトリサーバ 54
リポジトリサーバの構築手順 68
リポジトリサービスの設定
〔PortalResources.properties の詳細〕 530
リポジトリの検討 80
リポジトリの設定 (DB) 160
リポジトリの設定 (共通情報) 185
リポジトリの設定 (ディレクトリサーバ)
149
リポジトリファイル 585
リンクポートレット 19

る

ルーラー 226

れ

レイアウト〔用語解説〕 805
レイアウトカスタマイズ機能 (領域の算出)
95

レイアウトカスタマイズ機能（領域の算出例） 96
レイアウトカスタマイズ機能〔用語解説〕 805
〔レイアウト基本設定〕画面 242
レイアウトグループ〔用語解説〕 806
レイアウト形式の種類 238
レイアウトテンプレート 217
レイアウトの設定
〔PortalResources.properties の詳細〕 547
レイアウトのプロパティ値およびデフォルト値 233
連携するデータの埋め込み定義 261
連携するデータの型定義 260

ろ

〔ログ・トレースの設定〕画面 386
ログアウト後画面の表示設定 248
ログイン処理の設定
〔PortalResources.properties の詳細〕 530
ログインするための設定 142
ログインページの画面構成 209
ログインモジュール 147
ログインモジュールの設定
〔PortalResources.properties の詳細〕 531
ログインログアウト Bean 503
ログ出力の設定方法 385
ログの種類 382

わ

ワークスペース〔用語解説〕 801